

講義内容2010

専門教育科目

法学部

経営学部

医療健康科学部

グローバル・メディア・スタディーズ学部

講 義 内 容

目次案内

専門教育科目

1 法学部

(1)法律学科フレックスA(2)

(2)政治学科(5)

(3)法律学科フレックスB(8)

2 経営学部

(1)経営学科・経営学科フレックスA・市場戦略学科(10)

(2)経営学科フレックスB(15)

3 医療健康科学部(18)

4 グローバル・メディア・スタディーズ学部(22)

※全学共通科目、他学部履修科目、「日本語」・「日本事情」科目、随意科目、教職課程・資格講座科目は、別冊になっています。

法	法A
	政
	法B
経 営	営・営A・ 市
	営B
医療	
GMS	

1. 法 学 部

(1) 法律学科フレックスA

科目名	担当者名	履修コード	ページ
法学概論・法学概論A	高橋 洋城	114411・114412・ 114421・114422	3
公法入門 法学概論B	塩入 みほも 田中 優企	114511・114512	4
私法入門 法学概論B	中田 英幸	114531・114532	5
憲法	奥村 公輔	114601	6
憲法	西 修	114701	7
民法総則	向田 正巳	114801	7
民法総則	熊谷 芝青	114901	8
刑法総論	松村 格	115001	9
刑法総論	佐藤 多美夫	115101	10
会社法	荒木 正孝	115301	11
行政法 行政法総論	金子 昇平	115401・115402	12
物権法	山田 創一	115601	12
債権総論	中田 英幸	115701	13
会社法	井上 健一	134411	13
行政救済法 行政法各論	金子 昇平	116501・116502	14
家族法 相続法	竹中 智香	117001・117002	15
新入生演習	藤本 茂 奥村 公輔 井上 健一 松村 格 原田 啓一郎 吉田 純平 大宮 隆 高橋 洋城 竹中 智香 中濱 義章	121611・121631・ 121641・121651・ 121661	16
新入生演習	田中 優企 荒木 正孝	121621	17
政治学原論	大塚 桂	117301	18
政治史	福永 文夫	117401	19
経済原論	松前 龍宜	117501	20
比較憲法	西 修	117701	20
日本法制史	茂野 隆晴	117801	21
西洋法制史	小室 輝久	117901	22
法律時事英語	井上 健一	118101	23
行政学	田丸 大	127001	23
国際法	王 志安	115501	24
刑法各論	原口 伸夫	115801	24
裁判法	間瀬 清史	116001	25
商法総則・商行為法	水島 治	117101	26
法思想史	高橋 洋城	117601	27
刑事政策	覚正 豊和	118001	28
英米法	西山 敏夫	118401	29

科目名	担当者名	履修コード	ページ
仏法	上井 長久	118601	30
債権各論	青野 博之	118701	31
基礎演習	富井 幸雄	121701	32
基礎演習	池田 実	121801	32
基礎演習	奥村 公輔	121901	33
基礎演習	向田 正巳	122001	33
基礎演習	和知 恵一	122101	34
基礎演習	今尾 真	122201・122301	34
基礎演習	村木 保久	122401・122501	35
基礎演習	覚正 豊和	122601	35
外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）	王 志安	120401・120402	36
外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）	松村 格	120701・120702	36
外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）	荒木 正孝	120801・120802	36
外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）	岩崎 皇	120901・120902	37
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中田 英幸	122701・122702	37
演習Ⅰ 演習Ⅱ	井上 健一	123401・123402	37
演習Ⅰ 演習Ⅱ	原田 啓一郎	123501・123502	38
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	123601・123602	38
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松本 英俊	123701・123702	39
演習Ⅰ 演習Ⅱ	金子 昇平	123901・123902	39
演習Ⅰ 演習Ⅱ	向田 正巳	124001・124002	40
演習Ⅰ 演習Ⅱ	竹中 智香	124101・124102	40
演習Ⅰ 演習Ⅱ	青野 博之	124201・124202	40
演習Ⅰ 演習Ⅱ	間瀬 清史	124301・124302	41
演習Ⅰ	中濱 義章	124401	41
演習Ⅰ 演習Ⅱ	高橋 洋城	124501・124502	42
演習Ⅰ 演習Ⅱ	荒木 正孝	124701・124702	42
演習Ⅰ 演習Ⅱ	王 志安	124801・124802	43
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大宮 隆	124901・124902	43
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 多美夫	125001・125002	43
演習Ⅰ 演習Ⅱ	松村 格	125031・125032	44
演習Ⅰ 演習Ⅱ	西 修	125701・125702	44
演習Ⅰ 演習Ⅱ	田中 優企	125711・125712	45
演習Ⅰ	奥村 公輔	125721	45
演習Ⅰ	吉田 純平	125731	45
演習Ⅰ	赤松 晃	125741	46
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	47
演習Ⅰ	田丸 大	132001	48
演習Ⅰ 演習Ⅱ	小堀 訓男	132101・132102	48
演習Ⅰ 演習Ⅱ	相田 敏彦	132201・132202	49
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	49
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	50
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 孔子	132801・132802	50
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	50
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	51
現代企業論	江夏 あかね	101202	51
有価証券法	中濱 義章	115901	52
民事訴訟法	間瀬 清史	116101	52
刑事訴訟法	田中 優企	116201	53
社会保障法	原田 啓一郎	116301	53

法律学科フレックスA

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国際私法	佐々木 彩	116401	54
国際紛争解決法	王 志安	116601	55
担保物権法	山田 創一	116701	55
労働法	藤本 茂	116801	56
登記法	田沼 浩	118801	57
税法	赤松 晃	118901	58
財政学	塚本 正文	119001	58
経済政策	森岡 仁	119101	59
社会政策	原田 啓一郎	119201	59
民事執行・保全法	吉田 純平	119301	59
法哲学	高橋 洋城	119401	60
倒産処理法	鈴木 貴博	119501	61
知的財産権法	角田 政芳	119601	62
経済法	若林 亜理砂	119701	63
消費者法	向田 正巳	120101	63
法律学特殊講義〔金融商品取引法〕	萬澤 陽子	120211	64
環境法	仲田 孝仁	120301	64
実務演習Ⅰ	中野 辰久	121411	65
実務演習Ⅱ	中田 英幸 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一	121511	65
実務演習Ⅲ	木村 美隆	121521	66
地方自治法	富井 幸雄	127501	66
国際関係論	三船 恵美	128101	67
演習Ⅱ	川口 幸美	123311	67
演習Ⅱ	中濱 義章	124451	67
演習Ⅱ	田丸 大	132011	68
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	68
法社会学	休講	118201	
独法	休講	118501	
保険・海商法	休講	116901	

(2) 政治学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
政治学概論	浦田 早苗 早川 純貴	125901	71
政治学概論	早川 純貴 浦田 早苗	126001	71
政治学概論	中野 裕二 三竹 直哉	126011	72
憲法	柳瀬 昇	126101	73
政治学原論	大塚 桂	126201	74
日本政治論	大山 礼子	126301	75
現代政治理論	山崎 望	126401	75
政治制度論	大山 礼子	126501	76
国際政治学	小堀 訓男	126601	76
ヨーロッパ政治史	浦田 早苗	126701	77
政治過程論	早川 純貴	126801	77
日本政治史	福永 文夫	126901	78
行政学	田丸 大	127001	78
政治思想史	清滝 仁志	127101	79
国際経済学	徳永 俊明	091202	80
労働法	藤本 茂	116801	81
刑事政策	覚正 豊和	118001	82
社会政策	原田 啓一郎	119201	83
行政法総論	塩入 みほも	127201	83
環境政策	横田 匡紀	127301	84
行政法各論	塩入 みほも	127401	85
地方自治法	富井 幸雄	127501	85
地方行政	野口 暢子	127601	86
政策決定論	井上 拓也	127701	86
民法（総則・物権法）	須賀 昭徳	127801	87
刑法総論	佐藤 多美夫	127901	88
国際法	橋本 靖明	128001	89
国際関係論	三船 恵美	128101	89
比較政治学	三竹 直哉	128201	90
比較都市論	村上 暁信	128401	91
北米政治論（1）	小堀 訓男	128501	91
北米政治論（2）	小堀 訓男	128601	92
東南アジア政治論（1）	深尾 康夫	128701	92
東南アジア政治論（2）	深尾 康夫	128801	93
中国政治論（1）	三船 恵美	128901	93
中国政治論（2）	三船 恵美	129001	94
ヨーロッパ政治論（1）	中野 裕二	129101	95
ヨーロッパ政治論（2）	中野 裕二	129201	96
ヨーロッパ政治論（3）	浅見 政江	129301	97
ヨーロッパ政治論（4）	浅見 政江	129401	97
アラブ・イスラム政治論	中島 勇	129501	98
中南米政治論	箕輪 茂	129601	98
政治社会学	中野 裕二	129701	99
マス・コミュニケーション論	相田 敏彦	129801	100
政治心理学	富崎 隆	129901	101

政治学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
メディア社会論	相田 敏彦	130001	101
数量政治学	富崎 隆	130101	102
比較メディア論	島中 誠 岩崎 宇雄	130201	102
政治経済学	白鳥 浩	130301	103
基礎演習	早川 純貴	130801	103
基礎演習	三竹 直哉	130901	104
基礎演習	塩入 みほも	131001	104
基礎演習	小堀 訓男	131201	105
基礎演習	中野 裕二	131301	105
基礎演習	相田 敏彦	131401	106
基礎演習	富崎 隆	131501	106
基礎演習	山崎 望	131601	107
基礎演習	浦田 早苗	131611	107
基礎演習	大山 礼子	131621	107
基礎演習	田丸 大	131631	108
基礎演習	清滝 仁志	131641	108
基礎演習	三船 恵美	131651	109
地域計画論	原 昭夫	038701	110
商業政策	番場 博之	091701	111
農業政策	溝手 芳計	093501	111
工業政策	奥山 雅之	093601	112
地方財政論	篠原 章	094101	113
刑法各論	原口 伸夫	115801	114
社会保障法	原田 啓一郎	116301	114
国際紛争解決法	王 志安	116601	115
経済原論	松前 龍直	117501	116
日本法制史	茂野 隆晴	117801	117
西洋法制史	小室 輝久	117901	118
英米法	西山 敏夫	118401	119
財政学	塚本 正文	119001	119
経済政策	森岡 仁	119101	120
経済法	若林 亜理砂	119701	120
外交史	小宮 一夫	133601	121
時事英語講座	横山 滋	133651	121
実務者講座	田丸 大	133681	122
国家安全保障論	小堀 訓男	133701	122
現代国家論	大塚 桂	133801	123
社会学原理	呉 炳三	133901	123
比較憲法	柳瀬 昇	134001	124
政治学特殊講義(1)	浦田 早苗	134101	124
政治学特殊講義(2)	山崎 望	134201	125
政治学特殊講義(3)	早川 純貴	134301	125
政治学特殊講義(4)	大山 礼子	134401	126
会社法	井上 健一	134411	126
民法(債権)	上井 長久	143802	127
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	三竹 直哉	130501・130502	128
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	清滝 仁志	130601・130602	128
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	相田 敏彦	130701・130702	129
外書講読Ⅰ(独書) 外書講読Ⅱ(独書)	松村 格	120701・120702	129

科目名	担当者名	履修コード	ページ
外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）	荒木 正孝	120801・120802	129
外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）	岩崎 皇	120901・120902	129
現代企業論	江夏 あかね	101202	140
演習Ⅰ 演習Ⅱ	藤本 茂	123601・123602	130
演習Ⅰ 演習Ⅱ	高橋 洋城	124501・124502	130
演習Ⅰ 演習Ⅱ	王 志安	124801・124802	131
演習Ⅰ 演習Ⅱ	佐藤 多美夫	125001・125002	131
演習Ⅰ 演習Ⅱ	西 修	125701・125702	131
演習Ⅰ	浦田 早苗	131701	132
演習Ⅰ 演習Ⅱ	柳瀬 昇	131901・131902	132
演習Ⅰ	田丸 大	132001	133
演習Ⅰ 演習Ⅱ	小堀 訓男	132101・132102	133
演習Ⅰ 演習Ⅱ	相田 敏彦	132201・132202	134
演習Ⅰ 演習Ⅱ	山崎 望	132211・132212	134
演習Ⅰ 演習Ⅱ	中野 裕二	132301・132302	135
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三竹 直哉	132401・132402	135
演習Ⅰ	富崎 隆	132501	136
演習Ⅰ	早川 純貴	132701	136
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大山 礼子	132801・132802	137
演習Ⅰ 演習Ⅱ	塩入 みほも	133101・133102	137
演習Ⅰ	清滝 仁志	133301	138
演習Ⅰ 演習Ⅱ	三船 恵美	133401・133402	139
演習Ⅰ 演習Ⅱ	大塚 桂	133501・133502	139
演習Ⅱ	田丸 大	132011	140
演習Ⅱ	浦田 早苗	132511	141
演習Ⅱ	早川 純貴	133001	141
演習Ⅱ	富崎 隆	133051	142
演習Ⅱ	清滝 仁志	133511	143
交通論	休講	096401	

(3) 法律学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
公法入門 法学概論 B	金子 昇平 奥村 公輔	323011・323012	147
私法入門 法学概論 B	竹中 智香	323021・323022	147
法学概論 法学概論 A	高橋 洋城	323031・323032	148
憲法	奥村 公輔	323101	149
民法総則	大宮 隆	323201	150
刑法総論	松村 格	323301	150
会社法	荒木 正孝	323501	151
行政法 行政法総論	塩入 みほも	323601・323602	152
物権法	今尾 真	324601	152
債権総論	中田 英幸	325001	153
新入生演習	向田 正巳 西 修 佐藤 多美夫 赤松 晃	327011・327021	154
新入生演習	間瀬 清史 中田 英幸	327031	155
日本法制史	茂野 隆晴	117801・324001	156
政治学原論	大塚 桂	324301	157
経済原論	藤原 碩宣	324401	158
行政学	田丸 大	324501	158
国際法	王 志安	323401	159
裁判法	吉田 純平	323701	159
刑事政策	覚正 豊和	118001・323901	160
法思想史	高橋 洋城	117601・324201	161
刑法各論	原口 伸夫	324701	162
債権各論	須賀 昭徳	324801	162
商法総則・商行為法	水島 治	325501	163
演習 I 演習 II	中田 英幸	326901・326902	164
演習 I 演習 II	藤本 茂	327101・327102	164
演習 I 演習 II	金子 昇平	327201・327202	165
演習 I 演習 II	西 修	327301・327302	165
演習 I 演習 II	佐藤 多美夫	327501・327502	166
演習 I 演習 II	荒木 正孝	327601・327602	166
演習 I 演習 II	田中 優企	327701・327702	167
演習 I 演習 II	原田 啓一郎	327801・327802	167
演習 I 演習 II	大宮 隆	327901・327902	167
演習 I 演習 II	向田 正巳	327911・327912	168
有価証券法	中濱 義章	324901	168
労働法	藤本 茂	325101	169
経済法	東出 浩一	325201	170
社会保障法	原田 啓一郎	325301	170
国際関係論	三船 恵美	325401	171
環境法	仲田 孝仁	325601	171
知的財産権法	角田 政芳	119601・325701	172
税法	赤松 晃	118901・325801	173
国際私法	佐々木 彩	325901	174
地方自治法	富井 幸雄	127501・326001	175

法律学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
担保物権法	熊谷 芝青	326301	175
家族法	竹中 智香	326411	176
保険・海商法	井上 健一	326501	176
民事訴訟法	間瀬 清史	326601	177
民事執行・保全法	吉田 純平	119301・326701	177
倒産処理法	鈴木 貴博	119501・326801	178
行政救済法	赤松 晃	326911	178
刑事訴訟法	田中 優企	327001	179
財政学	速水 昇	333301	180
政治学原論	大塚 桂	117301	181
政治史	福永 文夫	117401	182
経済原論	松前 龍宜	117501	183
比較憲法	西 修	117701	183
西洋法制史	小室 輝久	117901	184
法律時事英語	井上 健一	118101	185
行政学	田丸 大	127001	185
英米法	西山 敏夫	118401	186
仏法	上井 長久	118601	187
債権各論	青野 博之	118701	188
外書講読Ⅰ(英書) 外書講読Ⅱ(英書)	王 志安	120401・120402	188
外書講読Ⅰ(独書) 外書講読Ⅱ(独書)	松村 格	120701・120702	189
外書講読Ⅰ(仏書) 外書講読Ⅱ(仏書)	荒木 正孝	120801・120802	189
外書講読Ⅰ(中国書) 外書講読Ⅱ(中国書)	岩崎 皇	120901・120902	189
現代企業論	江夏 あかね	101202	190
国際紛争解決法	王 志安	116601	190
登記法	田沼 浩	118801	191
財政学	塚本 正文	119001	191
経済政策	森岡 仁	119101	192
社会政策	原田 啓一郎	119201	192
法哲学	高橋 洋城	119401	193
経済法	若林 亜理砂	119701	193
消費者法	向田 正巳	120101	194
法律学特殊講義[金融商品取引法]	萬澤 陽子	120211	194
環境法	仲田 孝仁	120301	195
実務演習Ⅰ	中野 辰久	121411	196
実務演習Ⅱ	中田 英幸 上野 雅祥 小林 覚 杉山 真一	121511	196
実務演習Ⅲ	木村 美隆	121521	197
国際関係論	三船 恵美	128101	197
会計学総論	休講	307101	
経営学総論	休講	307601	
簿記論	休講	307901	
法社会学	休講	118201	
独法	休講	118501	

2. 経営学部

(1) 経営学科

経営学科フレックスA

市場戦略学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
経済学概説	明石 博行	134901・135011	201
経済学概説	高畑 純一郎	135001	202
簿記学	大野 満奈	135101	202
簿記学	高田 光明	135201	203
簿記学	大野 満奈	135301	203
簿記学	水野 恵子	135401・135601・ 135801	204
簿記学	矢島 正	135501	205
簿記学	小田 幹雄	135701	206
簿記学	猿山 義広	135811	214
経営学	中村 公一	135901・136001	207
経営学	兼村 栄哲	136011	208
会計学	山田 純平	136101・136211	208
会計学	岩瀬 昭子	136201	209
市場戦略概説	菅野 佐織	136251	210
情報処理基礎A	小沢 利久	137601	211
情報処理基礎A	長 国強	137611	211
情報処理基礎A	若山 大樹	137621	211
情報処理基礎A	中野 秀洋	137631	212
情報処理基礎B	小沢 利久	138601	212
情報処理基礎B	長 国強	138611	213
情報処理基礎B	若山 大樹	138621	213
情報処理基礎B	中野 秀洋	138631	213
経営数学A	飯田 哲夫	136611	214
経営数学B	飯田 哲夫	136621	215
確率・統計入門A	小沢 利久	136631	215
確率・統計入門B	小沢 利久	136641	216
現代企業論	中川 功一	139411・139421	216
経済原論	明石 博行	136301	217
産業組織論 近代経済学	滝田 公一	136401・136402	218
経営科学概論	西村 和夫	136501	219
経営科学概論	高井 徹雄	136511	220
経営管理論	渡辺 伊津子	139701	221
原価計算論	岸田 隆行	139801	221
経営組織論	日野 健太	140201	222
経営統計A	長 国強	140711	222
経営統計B	長 国強	140721	223
経営情報システムA	高井 徹雄	141011	223
経営情報システムB	高井 徹雄	140121	224

経営学科 経営学科フレックスA 市場戦略学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
マネジメント・サイエンスA	小沢 利久	141111	224
マネジメント・サイエンスB	小沢 利久	141121	225
財務会計論	山田 純平	142201	225
情報セキュリティA	西村 和夫	142511	226
情報セキュリティB	西村 和夫	142521	227
マーケティング論	兼村 栄哲	143201	228
流通システム論	青木 茂樹	143211	229
ベンチャー企業論	許 伸江 崔 銀順	143401	229
ゲーム理論 A	上條 良夫	143721	230
ゲーム理論 B	上條 良夫	143731	230
演習Ⅱ	阿部 一人	147201	231
演習Ⅱ	小沢 利久	147301	231
演習Ⅱ	鹿嶋 秀晃	147401	231
演習Ⅱ	山田 純平	147501	232
演習Ⅱ	日野 健太	147701	232
演習Ⅱ	石名坂 邦昭	147901	232
演習Ⅱ	前田 和利	148101	233
演習Ⅱ	山田 勝	148201	233
演習Ⅱ	高田 光明	148301	233
演習Ⅱ	渡辺 伊津子	148351	234
演習Ⅱ	宮城 徹	148401	234
演習Ⅱ	滝田 公一	148501	234
演習Ⅱ	片桐 伸夫	148601	235
演習Ⅱ	羽鳥 茂	148701	235
演習Ⅱ	高木 克己	148801	236
演習Ⅱ	飯田 哲夫	148901	236
演習Ⅱ	西村 和夫	149101	237
演習Ⅱ	明石 博行	149201	237
演習Ⅱ	羽田 尚子	149301	238
演習Ⅱ	長 国強	149401	238
演習Ⅱ	中川 淳平	149501	238
演習Ⅱ	猿山 義広	149601	239
演習Ⅱ	藤原 篤志	149801	239
演習Ⅱ	兼村 栄哲	149901	240
演習Ⅱ	青木 茂樹	149911	241
演習Ⅱ	高井 徹雄	149921	241
演習Ⅱ	菅野 佐織	149931	242
演習Ⅱ	中川 功一	149941	242
演習Ⅱ	中野 香織	149951	243
演習Ⅱ	若山 大樹	149961	243
演習Ⅱ	中村 公一	150001	244
演習Ⅱ	岸田 隆行	150011	244
演習Ⅱ	河合 由佳理	150041	245
外書講読(英書Ⅰ)	宮城 徹	144101	245
外書講読(英書Ⅰ)	中川 淳平	144111	245
外書講読(英書Ⅰ)	羽田 尚子	144121	246
外書講読(英書Ⅰ)	中野 香織	144201	246
演習Ⅲ	高田 光明	150101	247
演習Ⅲ	中川 淳平	150201	247

経営学科 経営学科フレックスA 市場戦略学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅲ	兼村 栄哲	150301	248
演習Ⅲ	藤原 篤志	150401	248
演習Ⅲ	羽田 尚子	150501	249
演習Ⅲ	岸田 隆行	150601	249
演習Ⅲ	前田 和利	150701	249
演習Ⅲ	明石 博行	150801	250
演習Ⅲ	小沢 利久	150901	250
演習Ⅲ	片桐 伸夫	151001	251
演習Ⅲ	山田 純平	151101	251
演習Ⅲ	飯田 哲夫	151201	251
演習Ⅲ	永田 智則	151301	252
演習Ⅲ	中村 公一	151401	252
演習Ⅲ	山田 勝	151501	252
演習Ⅲ	日野 健太	151601	253
演習Ⅲ	宮城 徹	151701	253
演習Ⅲ	石名坂 邦昭	151801	253
演習Ⅲ	羽鳥 茂	151901	253
演習Ⅲ	滝田 公一	152001	254
演習Ⅲ	高木 克己	152101	254
演習Ⅲ	西村 和夫	152201	254
演習Ⅲ	鹿嶋 秀晃	152301	255
演習Ⅲ	長 国強	152401	255
演習Ⅲ	青木 茂樹	152411	256
演習Ⅲ	菅野 佐織	152421	256
演習Ⅲ	中川 功一	152431	256
演習Ⅲ	中野 香織	152441	257
演習Ⅲ	若山 大樹	152451	257
演習Ⅲ	阿部 一人	152501	257
演習Ⅲ	渡辺 伊津子	152551	258
演習Ⅲ	猿山 義広	152601	258
演習Ⅲ	高井 徹雄	152611	259
情報処理基礎 A	河内谷 幸子	136701・137101	259
情報処理基礎 A	地引 昌弘	136801・136901	260
情報処理基礎 A	加藤 武信	137001	260
情報処理基礎 A	村上 友佳子	137201	261
情報処理基礎 A	依田 聖	137301	262
情報処理基礎 A	桃塚 薫	137401	262
情報処理基礎 B	桃塚 薫	137701	263
情報処理基礎 B	河内谷 幸子	137901・138001	263
情報処理基礎 B	地引 昌弘	138101・138201	264
情報処理基礎 B	加藤 武信	138301	265
情報処理基礎 B	村上 友佳子	138401	266
情報処理基礎 B	依田 聖	138501	266
労働法	藤本 茂	098801	267
経済法	若林 亜理砂	119701	268
民法 I (総則・物権法)	須賀 昭徳	127802	268
商法 I (総則・会社法)	重田 麻紀子	138701	269
情報処理応用 A	小沢 利久	138801	269
情報処理応用 A	宇谷 明秀	138901	270
情報処理応用 B	小沢 利久	139001	270

経営学科 経営学科フレックスA 市場戦略学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
情報処理応用B	宇谷 明秀	139101	271
経営財務論	高田 光明	139901	271
管理会計論	猿山 義広	140101	272
上級簿記	矢島 正	140901	273
商業史	山田 勝	142301	274
生産管理論	藤原 篤志	142601	274
税法	奥村 正郎	143101	275
経営戦略論	中村 公一	143301	276
環境経営論	川村 雅彦	143501	276
イノベーション論	羽田 尚子	143601	277
計量経済学	呉 逸良	143701	277
ファイナンス理論	江頭 隆治	143711	278
演習 I	高木 克己	145101	278
演習 I	滝田 公一	145401	279
演習 I	羽鳥 茂	145501	279
演習 I	岸田 隆行	145801	279
演習 I	山田 純平	146101	280
演習 I	飯田 哲夫	146201	280
演習 I	片桐 伸夫	146301	280
演習 I	高井 徹雄	146501	281
演習 I	藤原 篤志	146601	281
演習 I	兼村 栄哲	146701	282
演習 I	西村 和夫	146801	283
演習 I	青木 茂樹	146811	283
演習 I	石名坂 邦昭	146821	284
演習 I	中川 功一	146841	284
演習 I	中野 香織	146851	284
演習 I	若山 大樹	146861	285
演習 I	長 国強	146871	285
演習 I	阿部 一人	146901	285
演習 I	鹿嶋 秀晃	147001	286
演習 I	中村 公一	147101	286
演習 I	日野 健太	147111	287
演習 I	羽田 尚子	147121	287
演習 I	山田 勝	147131	288
演習 I	渡辺 伊津子	147141	288
演習 I	中川 淳平	147151	288
演習 I	河合 由佳理	147161	289
日本経済史	渡辺 新	139301	289
経営学史	中川 淳平	139501	290
経営史	前田 和利	139601	290
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001	291
経営心理学	下村 英雄	140051	291
商業経営論	石川 和男	140301	292
保険経営論	岡田 太	140401	292
金融論	渡部 訓	140601	293
公益企業論	枝松 正行	140801	294
アメリカ経営学	宮城 徹	141201	295
経営分析論	片桐 伸夫	141301	296
日本経済論	羽鳥 茂	141401	296

経営学科 経営学科フレックスA 市場戦略学科

科目名	担当者名	履修コード	ページ
銀行経営論	服部 昌久	141501	297
財政学	速水 昇	141601	298
国際経済論	永田 智則	141701	299
会計監査論	阿部 一人	141801	300
税務会計論	高木 克己	141901	301
証券市場論	勝田 佳裕	142001	301
日本経営史	大島 久幸	142101	302
国際経営論	臼井 哲也	142401	303
ドイツ経営学	高橋 成夫	142701	304
国際会計論	河合 由佳理	142801	304
システム論	宇谷 明秀	143001	305
サービス経営論	高畑 泰	140351	305
e-ビジネス	安岡 寛道	140851	306
マーケティング・リサーチA	菅野 佐織	141131	307
マーケティング・リサーチB	菅野 佐織	141141	307
マーケティング・サイエンスA	若山 大樹	141151	308
マーケティング・サイエンスB	若山 大樹	141161	308
サプライチェーン・マネジメントA	飯田 哲夫	141181	309
サプライチェーン・マネジメントB	飯田 哲夫	141191	309
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	142351	309
製品開発論	宮下 雄治	143221	310
消費者行動論	菅野 佐織	143231	310
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	311
マーケティング・チャンネル論	青木 茂樹	143251	311
グローバル・マーケティング論	臼井 哲也	143271	312
マーケティング史	石川 和男	143281	313
民法Ⅱ（債権法）	上井 長久	143801	314
商法Ⅱ（商行為、手形・小切手法）	中濱 義章	145001	315
外書講読（英書Ⅱ）	前田 和利	144211	315
外書講読（独書）	藪下 紘一	144301	316
外書講読（仏書）	桑田 禮彰	144401	316
外書講読（中国書）	佐藤 普美子	144501	316
外書講読（スペイン書）	上野 勝広	144601	317
外書講読（ロシア書）	杉山 秀子	144701	317
特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕	猿山 義広	144801	317
特殊講義Ⅱ〔現代の資本主義と証券市場〕	江夏 あかね	101203	318
ビジネス英語	秋葉 滋	144901	318
経済政策	休講	119111	
統計原論	休講	139201	

(2) 経営学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
経営学	鹿嶋 秀晃	328001	321
簿記学	猿山 義広	328301	321
会計学	岩渕 昭子	328601	322
情報処理基礎A	依田 聖	328901	322
情報処理基礎B	依田 聖	329301	323
民法	織田 晃子	307802	323
商法	井上 健一	308802	324
労働法	藤本 茂	325101	325
情報処理応用A	桃塚 薫	329401	325
情報処理応用B	桃塚 薫	329501	326
ベンチャー企業論	崔 銀順	329601	326
環境経営論	白鳥 和彦	329701	327
イノベーション論	羽田 尚子	143601・329801	327
計量経済学	呉 逸良	329901	328
経営管理論	渡辺 伊津子	139701・330101	329
経営学史	中川 淳平	330301	329
経営史	前田 和利	139601・330601	330
原価計算論	岸田 隆行	139801・330701	331
日本経済史	渡辺 新	139301・330801	332
近代経済学	滝田 公一	330901	332
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001・331001	333
ファイナンス理論	江頭 隆治	143711・331011	333
経営財務論	高田 光明	331101	334
経営組織論	日野 健太	331301	334
公益企業論	枝松 正行	140801・331401	335
商業史	山田 勝	14230・331501	336
商業経営論	石川 和男	331601	337
会計監査論	阿部 一人	141801・331801	338
銀行経営論	服部 昌久	141501・331901	339
経営統計A	長 国強	140711・332011	339
経営統計B	長 国強	140721・332021	340
国際経済論	永田 智則	332101	340
税務会計論	高木 克己	141901・332301	341
証券市場論	勝田 佳裕	142001・332401	341
経営情報システムA	高井 徹雄	332511	342
経営情報システムB	高井 徹雄	332521	342
保険経営論	岡田 太	140401・332601	343
アメリカ経営学	宮城 徹	141201・332701	344
経営分析論	片桐 伸夫	141301・332801	345
日本経済論	羽鳥 茂	141401・332901	345
日本経営史	大島 久幸	142101・333001	346
金融論	渡部 訓	140601・333101	347
上級簿記	矢島 正	140901・333201	348
財政学	速水 昇	141601・333301	349
情報セキュリティA	西村 和夫	14251・333611	350
情報セキュリティB	西村 和夫	142521・333621	351
生産管理論	藤原 篤志	142601・333801	352
ドイツ経営学	高橋 成夫	333901	352

経営学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国際会計論	河合 由佳理	142801・334001	353
税法	奥村 正郎	143101・334301	353
マーケティング論	兼村 栄哲	143201・334401	354
演習Ⅰ	岸田 隆行	335001	354
演習Ⅰ	日野 健太	335301	355
リスクマネジメント論	石名坂 邦昭	142351・331551	355
ビジネス英語	秋葉 滋	144901・334501	356
外書講読(英書)	河合 由佳理	334801	356
演習Ⅱ	小田 幹雄	335721	357
演習Ⅱ	片桐 伸夫	335901	357
演習Ⅱ	飯田 哲夫	336001	357
演習Ⅱ	藤原 篤志	336101	358
演習Ⅱ	明石 博行	336201	358
演習Ⅱ	園田 哲男	336301	359
演習Ⅱ	大野 満奈	336401	359
演習Ⅱ	加藤 武信	336501	359
演習Ⅱ	渡辺新	336601	360
経営数学A	飯田 哲夫	136611	360
経営数学B	飯田 哲夫	136621	360
労働法	藤本 茂	098801	361
現代企業論	中川 功一	139411	362
経営学史	中川 淳平	139501	362
経営財務論	高田 光明	139901	363
経営心理学	下村 英雄	140051	363
管理会計論	猿山 義広	140101	364
経営組織論	日野 健太	140201	364
商業経営論	石川 和男	140301	365
経営情報システムA	高井 徹雄	141011	366
経営情報システムB	高井 徹雄	140121	366
マネジメント・サイエンスA	小沢 利久	141111	367
マネジメント・サイエンスB	小沢 利久	141121	367
国際経済論	永田 智則	141701	368
財務会計論	山田 純平	142201	368
国際経営論	臼井 哲也	142401	369
ドイツ経営学	高橋 成夫	142701	370
システム論	宇谷 明秀	143001	370
流通システム論	青木 茂樹	143211	371
経営戦略論	中村 公一	143301	372
ベンチャー企業論	許 伸江 崔 銀順	143401	372
環境経営論	川村 雅彦	143501	373
計量経済学	呉 逸良	143701	373
ゲーム理論A	上條 良夫	143721	374
ゲーム理論B	上條 良夫	143731	374
特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕	猿山 義広	144801	375
特殊講義Ⅱ〔現代の資本主義と証券市場〕	江夏 あかね	101203	375
e-ビジネス	安岡 寛道	140851	376
マーケティング・リサーチA	菅野 佐織	141131	377
マーケティング・リサーチB	菅野 佐織	141141	377
マーケティング・サイエンスA	若山 大樹	141151	378

経営学科フレックスB

科目名	担当者名	履修コード	ページ
マーケティング・サイエンスB	若山 大樹	141161	378
製品開発論	宮下 雄治	143221	379
消費者行動論	菅野 佐織	143231	379
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	380
マーケティング・チャネル論	青木 茂樹	143251	380
グローバル・マーケティング論	臼井 哲也	143271	381
マーケティング史	石川 和男	143281	382
外書講読 (独書)	藪下 紘一	144301	382
外書講読 (仏書)	桑田 禮彰	144401	383
外書講読 (中国書)	佐藤 普美子	144501	383
外書講読 (スペイン書)	上野 勝広	144601	383
外書講読 (ロシア書)	杉山 秀子	144701	384
経済学概説	休講	328501	
経営科学概論	休講	330401	
経済原論	休講	330501	
統計原論	休講	333701	
経済政策	休講	334811	

3. 医療健康科学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
放射線物理学	小川 雅生	152701	387
電気工学	佐藤 昌憲	152801	387
放射線機器概論	名古 安伸	152901	388
画像工学概論Ⅰ 放射線写真学	古川 克治	153001・153002	389
解剖学	嶋田 守男	153101	390
環境保健医学	黒子 幸一	153201	390
診療画像技術学概論	西尾 誠示	153301	391
保健理論	黒子 幸一	202401	391
医用物理学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 小川 雅生 鳥山 保 羽生 毅 藤森 成	153501・153601	392
医用化学実験〔実験〕	原田 和正 秋山 稔 本多 貴之 山岸 賢司 山本 裕右	153701・153801	392
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 飯田 幸雄 熊坂 さつき 古川 克治	153901	393
診療画像技術学実験〔実験〕	西尾 誠示 飯田 幸雄 熊坂 さつき 古川 克治	154001	394
応用数学	野口 勝	153401	395
医学概論	古川 宏起	154901	395
臨床医学概論	嶋田 守男	155001	396
放射線生物学	熊坂 さつき	155101	396
病理学	古川 宏起	155201	397
生理学	樋口 雄三	155301	397
生化学	原田 和正	155401	397
画像数学	志村 一男	155501	398
原子核物理学	永井 喜則	155601	398
放射化学	山本 裕右	155701	398
電子工学	金子 順一	155801	399
放射線機器工学	奥山 康男	155901	399
画像工学概論 画像工学概論Ⅱ	野口 勝	156001・156002	400
診療画像技術学	西尾 誠示	156101	401
放射線計測学	青木 清	156201	402
医用画像工学	熊坂 さつき	156301	402
電気電子工学実験〔実験〕	青木 清 金子 順一 川副 護 吉田 正廣	156401・156501	402

科目名	担当者名	履修コード	ページ
放射線機器工学実験〔実験〕	奥山 康男 瀬尾 育弉 羽生 毅	156601・156701	403
画像検査技術学基礎実習〔実験〕	西尾 誠示 谷口 貴久 名古 安伸 長谷川 武 吉川 達生	156801・156901	404
放射線関係法規	青木 清	158101	404
画像解剖学	嶋田 守男	158301	405
放射線医学概論	嶋田 守男	158401	405
画像診断機器工学	瀬尾 育弉	158501	405
応用機器工学	名古 安伸	158601	406
応用計測学	小川 雅生	158701	406
診療画像情報学Ⅰ	西尾 誠示	158801	407
核医学	奥山 康男	158901	407
放射線腫瘍学	高山 誠	159001	408
放射線管理学	青木 清	159101	408
医学英語	吉川 宏起	159201	408
画像処理言語論	近藤 啓介	159301	409
画像診断技術学Ⅰ	嶋田 守男	159401	409
医用検査学	名古 安伸	159501	410
救急医療学	奥山 康男	159601	410
臨床医療人間学Ⅰ	名古 安伸	159701	410
画像工学Ⅰ	瀬尾 育弉	159801	411
画像工学Ⅱ	瀬尾 育弉	159901	411
技術英語	高橋 優身	160001	411
放射線治療技術学実験〔実験〕	佐藤 昌憲 飯田 幸雄 五十嵐 太郎 小川 雅生 高城 保 羽生 毅	160101・160201	412
画像工学実験〔実験〕	瀬尾 育弉 飯田 幸雄 近藤 啓介 野口 勝 古川 克治 俣野 公志	160301	413
画像工学実験〔実験〕	瀬尾 育弉 飯田 幸雄 近藤 啓介 野口 勝 古川 克治 俣野 公志	160401	414
放射線管理学実験〔実験〕	青木 清 大西 孝明 金子 順一 高橋 忍 永井 喜則	160501・160601	414

医療健康科学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
核医学検査技術学基礎実習〔実験〕	山本 裕右 奥山 康男 金子 順一 外山 真理 原田 和正	160701・160801	415
画像検査技術学実習〔病院実習〕	嶋田 守男 飯田 幸雄 名古屋 安伸 西尾 誠示	160901	415
放射線学総合演習	金子 順一	162001	416
画像処理論	近藤 啓介	162101	416
線量計測工学	小川 雅生	162201	417
医療放射線科学総合研究	西尾 誠示 青木 清 小川 雅生 奥山 康男 金子 順一 佐藤 昌憲 嶋田 守男 名古屋 安伸 原田 和正 山本 裕右 吉川 宏起	162301	417
医療画像科学総合研究	野口 勝 飯田 幸雄 熊坂 さつき 近藤 啓介 瀬尾 育哉	162401	418
放射線治療技術学	高山 誠	163401	418
画像構築論Ⅰ	近藤 啓介	163501	418
画像伝送論	廣田 尊宣	163601	419
画像診断技術学Ⅱ	吉川 宏起	163701	419
診療画像情報学Ⅱ	西尾 誠示	163801	419
臨床医療人間学Ⅱ	奥山 康男	163901	420
画像と放射線治療	吉川 宏起	164001	420
医療放射線科学論文講読	吉川 宏起	164101	420
医療画像科学論文講読	熊坂 さつき	164201	421
核医学検査技術学実習〔病院実習〕	吉川 宏起 飯田 幸雄 奥山 康男	163001	421
放射線治療技術学実習〔病院実習〕	吉川 宏起 飯田 幸雄 佐藤 昌憲	163101	421
医療統計学	近藤 啓介	164301	422
計算機言語論	近藤 啓介	164401	422
量子論	金子 順一	164501	422
医療宗教学	吉津 宜英	164601	423
医療経済学	松元 和敏	164701	423
医学特論	山口 晶	164801	424
放射線検出器工学	鳥山 保	164901	424

科目名	担当者名	履修コード	ページ
放射線感光化学	山本 裕右	165001	424
放射線化学特論	原田 和正	165101	425
最新医療技術	吉川 宏起	165301	425
放射化学特論	原田 和正	165401	425
放射線学特論	熊坂 さつき	165501	426
診療機器システム学	近藤 啓介	165601	426
放射線被曝管理論	羽生 毅	165901	426
医療生物工学	休講	165201	
医用材料工学	休講	165701	
画像構築論Ⅱ	休講	165801	

4. グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Oral Communication I	オーラ、 B. スミス、 G. A. ドイル、 S. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. マクマスター、 P. G. W. モエ、 R. A. ローズ、 S.	400101・400201・ 400301・400401・ 400501・400601・ 400701・400801・ 400901・401001・ 401101・401201・ 401211・401221・ 401231・401241	429
Oral Communication II	オーラ、 B. スミス、 G. A. ドイル、 S. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. マクマスター、 P. G. W. モエ、 R. A. ローズ、 S.	401301・401401・ 401501・401601・ 401701・401801・ 401901・402001・ 402101・402201・ 402301・402401・ 402411・402421・ 402431・402441	429
Written Communication I Critical Reading	アシュウェル、 T. オーラ、 B. ギャリソン、 E. タセロン、 M. R. パイプ、 J. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. ブラック、 A. ボシュエ、 E. マクマスター、 P. G. W. レオーネ、 J. V. ローズ、 S. 町田 尚子 杉森 建太郎	402501・402502・ 402601・402602・ 402801・402802・ 402901・402902・ 403001・403002・ 403101・403102・ 403201・403202・ 403301・403302・ 403401・403402・ 403501・403502・ 403601・403602・ 403611・403612・ 403631・403632・ 403641・403642・ 403651・403652・ 403661・403662・ 405011・405012・ 405021・405022	430
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、 E.	403701	431
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、 E.	403801	432
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、 J. G. スミス、 G. A. ドイル、 S. バーンハート、 J. L. ブラック、 A. レオーネ、 J. V.	403901・404001・ 404201・404301・ 404401・404601・ 404701・404801・ 404821・404831・ 404841・404851	433
Listening Skills & Strategies	スミス、 G. A. 杉森 建太郎	404101・404501	434

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Written Communication II Introduction to Writing	アシュウェル、 T. オーラ、 B. タセロン、 M. R. パイプ、 J. フアーロー、 D. ブーハー、 U. J. ブラック、 A. ボシュー、 E. マクマスター、 P. G. W. レオーネ、 J. V. ローズ、 S. 町田 尚子 杉森 建太郎	404901・404902・ 405001・405002・ 405101・405102・ 405201・405202・ 405301・405302・ 405401・405402・ 405501・405502・ 405601・405602・ 405701・405702・ 405801・405802・ 405901・405902・ 406001・406002・ 406011・406012・ 406031・406032・ 406041・406042・ 406051・406052・ 406081・406082・ 406091・406092	435
グローバルメディアスタディーズ概論	福家 秀紀 石川 憲洋 石橋 直樹 各務 洋子 川崎 賢一 絹川 真哉 クボタ、 L. 高 媛 芝崎 厚士 白水 繁彦 杉森 建太郎 テヅカ ヨシハル 西岡 洋子 リンスキー、 M	406101	436
グローバルメディア概論	川崎 賢一	406501	437
メディアリテラシー	金山 智子	406701・406801	437
グローバルマネジメント グローバル経営論 I	各務 洋子	406901・406902	438
情報リテラシー	斎藤 信男 石橋 直樹 石川 憲洋 鷹野 孝典 南 政樹 廣瀬 毅士 明田 守正	407101・407201・ 407301・407401・ 407501・407601・ 407701・407801	439
情報リテラシー実習	斎藤 信男 石橋 直樹 石川 憲洋 鷹野 孝典 南 政樹 廣瀬 毅士 明田 守正	407901・408001・ 408101・408201・ 408301・408401・ 408501・408601	440

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Public Speaking	グレコ、M. A. ゴールド、F. スミス、G. A. スメザム、M. ダーリン、M. ダイヤー、M. W. A. バーンハート、J. L. モハメッド、G.	408701・408801・ 408901・409001・ 409101・409201・ 409301・409401・ 409501・409601・ 409701・409801・ 409811・409821・ 409831・409841	441
Academic Writing	アシュウェル、T. グレコ、M. A. ゴールド、F. ダーリン、M. ダイヤー、M. W. A. ブラック、A. モハメッド、G. クオック、R、Y、 F.	409901・410001・ 410101・410201・ 410301・410401・ 410501・410601・ 410701・410801・ 410901・411001・ 411011・411021・ 411031・411041・ 411051・411061	442
Strategic Presentation	グレコ、M. A. ゴールド、F. スミス、G. A. スメザム、M. ダーリン、M. ダイヤー、M. W. A. バーンハート、J. L. モハメッド、G.	411101・411201・ 411301・411401・ 411501・411601・ 411611・411701・ 411801・411901・ 412001・412101・ 412201・412211・ 412221・412231	444
コンテンツビジネス論	境 真良	416101	444
コンテンツビジネス論	クボタ、L.	416201	445
メディアと企業	小林 雅一	416301	445
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	446
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	447
インターネットとメディア	吉田 尚史	417001	448
メディアと情報	斎藤 信男	417201	449
クリエイティブビジネス論	クボタ、L.	415901	450
クリエイティブビジネス論	クボタ、L.	416001	451
グローバル企業行動論	リンスキー、M	416501	451
知的財産権と経済	絹川 真哉	417301	452
知的財産権と統計	絹川 真哉	417401	452
グローバル文化論	川崎 賢一	417501	453
メディア文化論	高 媛	417601	453
メディア・コミュニケーション概論	西岡 洋子	427501	454
コンピュータワークショップ	明田 守正	428001	455
コンピュータワークショップ	石川 憲洋	428101	456
コンピュータワークショップ	南 政樹	428101	457
コンピュータワークショップ	石橋 直樹	428301	458
社会調査法入門	廣瀬 毅士	434811	458

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
演習Ⅰ a	クボタ、 L.	417701	459
演習Ⅰ a	川崎 賢一	417801	459
演習Ⅰ a	斎藤 信男	417901	460
演習Ⅰ a	白水 繁彦	418001	460
演習Ⅰ a	石川 憲洋	418101	461
演習Ⅰ a	福家 秀紀	418201	461
演習Ⅰ a	各務 洋子	418301	462
演習Ⅰ a	金山 智子	418401	462
演習Ⅰ a	テヅカ ヨシハル	418501	463
演習Ⅰ a	西岡 洋子	418601	463
演習Ⅰ a	石橋 直樹	418801	464
演習Ⅰ a	絹川 真哉	418901	464
演習Ⅰ a	高 媛	419001	464
演習Ⅰ a	芝崎 厚士	419101	465
演習Ⅰ a	リンスキー、 M	419201	466
演習Ⅰ a	石橋 直樹	419301	467
演習Ⅰ b	クボタ、 L.	419501	468
演習Ⅰ b	川崎 賢一	419601	468
演習Ⅰ b	斎藤 信男	419701	469
演習Ⅰ b	白水 繁彦	419801	469
演習Ⅰ b	石川 憲洋	419901	470
演習Ⅰ b	福家 秀紀	420001	470
演習Ⅰ b	各務 洋子	420101	471
演習Ⅰ b	金山 智子	420201	471
演習Ⅰ b	テヅカ ヨシハル	420301	472
演習Ⅰ b	西岡 洋子	420401	472
演習Ⅰ b	石橋 直樹	420601	473
演習Ⅰ b	絹川 真哉	420701	473
演習Ⅰ b	高 媛	420801	473
演習Ⅰ b	芝崎 厚士	420901	474
演習Ⅰ b	リンスキー、 M	421001	475
演習Ⅰ b	吉田 尚史	421101	476
メディア制度論	西岡 洋子	427811	477
グローバル経営論	各務 洋子	427911	478
情報社会論	高 媛	430801	478
イノベーション普及論	白水 繁彦	430911	479
コミュニケーション社会史	白水 繁彦	431011	480
グローバル戦略論	各務 洋子	431111	481
知識経営論	リンスキー、 M	431201	481
異文化経営論	リンスキー、 M	431301	481
マルチメディアビジネス論	クボタ、 L.	431401	482
デジタルコンテンツビジネス論	クボタ、 L.	431511	483
グローバルビジネス人材マネジメント	リンスキー、 M	431601	483
企業会計の実務	伊藤 克容	431701	484
情報メディア産業論Ⅰ	福家 秀紀	432001	484
情報メディア産業論Ⅱ	福家 秀紀	432101	485
ネットワークコミュニケーション論	菅谷 実	432201	486
グローバルアート政策論	川崎 賢一	432601	487
グローバル創造都市論	川崎 賢一	432701	488
グローバル交流論	芝崎 厚士	432801	489

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
グローバルシティズンシップ	金山 智子	433001	490
グローバル英語概論	町田 尚子	433101	491
英語圏文学概論	佐藤 アヤ子	433201	492
NPO/NGOとメディア	金山 智子	433301	493
グローバル市民社会論	芝崎 厚士	433401	494
映像コミュニケーション実習	金山 智子	433611	495
コンテンツデザイン各論	高橋 克三	433711	496
コンテンツデザイン演習	高橋 克三	433811	496
メディアとデータベース	石橋 直樹	434101	497
コンテンツデザイン概論	岡田 智博	434201	497
情報保護と社会	石川 憲洋	434301	498
E-コマース論	今村 誠	434401	498
複合ドキュメント概論	吉田 尚史	434501	499
教育環境とメディア	斎藤 信男	434601	500
Webコンテンツ	斎藤 信男	434701	501
イスラムと文化	奥田 敦	434711	501
キリスト教文化	豊川 慎	434721	502
韓国の文化と社会Ⅰ	渡辺 吉銘	434731	502
韓国の文化と社会Ⅱ	渡辺 吉銘	434741	503
国際法	山村 恒雄	434751	503
国際協手法	山村 恒雄	434761	503
表象メディア論	テゾカ ヨシハル	434911	504
映像産業論	テゾカ ヨシハル	435011	504
放送メディア論	増淵 敏之	435101	505
音楽メディア論	増淵 敏之	435201	505
知的財産法/個人情報保護法	新保 史生	436201	505
メディア法	新保 史生	436301	506
マルチメディアコンテンツデザイン各論	石橋 直樹	436611	506
Webコンテンツデザイン各論	吉田 尚史	436761	507
マルチメディアコンテンツデザイン演習	石橋 直樹	436771	508
Webコンテンツデザイン演習	吉田 尚史	436781	509
実践メディアビジネス講座Ⅲ	斎藤 信男 石川 憲洋 石橋 直樹	436801	510
実践メディアビジネス講座Ⅳ	福家 秀紀 西岡 洋子	436901	511
海外演習実践講座Ⅰ	杉森 建太郎 アッシュウエル、T. 町田 尚子 モエ、R. A.	437501	511
海外演習実践講座Ⅱ	杉森 建太郎 金山 智子 川崎 賢一	437601	512
海外演習実践講座Ⅲ	杉森 建太郎 各務 洋子	437701	512
Integrated English I	ダーリン、M.	441001・441051	513
Integrated English II	ゴールド、F.	441101・441151	514
Integrated English III	ギャリソン、E. オーラ、B.	441201・441251	515
Integrated English IV	ギャリソン、J. G.	441301	517

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Integrated English V	スメザム、 M.	441401	518
Integrated English VI	モハメッド、 G.	441501	519
Integrated English VII	スメザム、 M.	441601	520
Integrated English VIII	モハメッド、 G.	441701	521
Honors English Seminar I	アシュウェル、 T.	442201	522
Honors English Seminar II	アシュウェル、 T.	442301	523
TOEFL(R) prep	杉森 建太郎	442801	524
TOEIC(R) prep	杉森 建太郎	442901	526
Journalism I	スローン、 D.	443001	527
Journalism II	スローン、 D.	443101	528
演習Ⅱ a	クボタ、 L.	421201	529
演習Ⅱ a	川崎 賢一	421301	529
演習Ⅱ a	斎藤 信男	421401	530
演習Ⅱ a	白水 繁彦	421501	530
演習Ⅱ a	石川 憲洋	421601	531
演習Ⅱ a	福家 秀紀	421701	531
演習Ⅱ a	各務 洋子	421801	532
演習Ⅱ a	金山 智子	421901	532
演習Ⅱ a	テヅカ ヨシハル	422001	533
演習Ⅱ a	西岡 洋子	422101	533
演習Ⅱ a	各務 洋子	422201	534
演習Ⅱ a	石橋 直樹	422301	534
演習Ⅱ a	絹川 真哉	422401	535
演習Ⅱ a	高 媛	422501	535
演習Ⅱ a	芝崎 厚士	422601	536
演習Ⅱ a	リンスキー、 M	422701	537
演習Ⅱ a	石橋 直樹	422801	538
演習Ⅱ b	クボタ、 L.	422901	539
演習Ⅱ b	川崎 賢一	423001	539
演習Ⅱ b	斎藤 信男	423101	540
演習Ⅱ b	白水 繁彦	423201	540
演習Ⅱ b	石川 憲洋	423301	541
演習Ⅱ b	福家 秀紀	423401	541
演習Ⅱ b	各務 洋子	423501	542
演習Ⅱ b	金山 智子	423601	542
演習Ⅱ b	テヅカ ヨシハル	423701	543
演習Ⅱ b	西岡 洋子	423801	543
演習Ⅱ b	各務 洋子	423901	544
演習Ⅱ b	石橋 直樹	424001	544
演習Ⅱ b	絹川 真哉	424101	545
演習Ⅱ b	高 媛	424201	545
演習Ⅱ b	芝崎 厚士	424301	546
演習Ⅱ b	リンスキー、 M	424401	547
演習Ⅱ b	吉田 尚史	424501	548
グローバルメディアガバナンス論	西岡 洋子	432301	548
比較メディア制度論	西岡 洋子	432401	549
都市とメディア	高 媛	432501	549
異文化間コミュニケーション論	高 媛	432901	549
広告文化論	高 媛	435311	550
メディアイベント論	高 媛	435401	550

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国際移動とメディア	白水 繁彦	435511	551
エスニシティの文化心理学	白水 繁彦	435611	552
ネットワーク経済論	福家 秀紀	435801	552
グローバルネットワーク論	福家 秀紀	435901	553
著作権の経済分析	絹川 真哉	436001	553
特許権の経済分析	絹川 真哉	436101	554
ドキュメンタリーの視線と実践	テヅカ ヨシハル	436411	554
ドキュメンタリー制作演習	テヅカ ヨシハル	436511	555
テクノロジーマネジメント	石橋 直樹	437001	555
メディアと知識論	斎藤 信男	437101	556
ネットワーク進化論	南 政樹	437201	557
メディアとセキュリティ	石川 憲洋	437301	558
国際標準化論	石川 憲洋	437401	559
演習Ⅲ a	各務 洋子	412301	560
演習Ⅲ a	川崎 賢一	412401	560
演習Ⅲ a	斎藤 信男	412501	561
演習Ⅲ a	石川 憲洋	412601	561
演習Ⅲ a	石橋 直樹	412701	561
演習Ⅲ a	高 媛	412801	562
演習Ⅲ a	リンスキー、 M	412901	562
演習Ⅲ a	クボタ、 L.	413001	563
演習Ⅲ a	西岡 洋子	413101	563
演習Ⅲ a	テヅカ ヨシハル	413201	563
演習Ⅲ a	各務 洋子	413301	564
演習Ⅲ a	石橋 直樹	413401	565
演習Ⅲ a	芝崎 厚士	413501	566
演習Ⅲ a	福家 秀紀	413601	566
演習Ⅲ a	絹川 真哉	413701	567
演習Ⅲ a	白水 繁彦	413801	567
演習Ⅲ a	金山 智子	413901	567
演習Ⅲ b	各務 洋子	414001	568
演習Ⅲ b	川崎 賢一	414101	568
演習Ⅲ b	斎藤 信男	414201	568
演習Ⅲ b	石川 憲洋	414301	569
演習Ⅲ b	石橋 直樹	414401	569
演習Ⅲ b	高 媛	414501	569
演習Ⅲ b	リンスキー、 M	414601	570
演習Ⅲ b	クボタ、 L.	414701	570
演習Ⅲ b	西岡 洋子	414801	571
演習Ⅲ b	テヅカ ヨシハル	414901	571
演習Ⅲ b	各務 洋子	415001	571
演習Ⅲ b	吉田 尚史	415101	572
演習Ⅲ b	芝崎 厚士	415201	573
演習Ⅲ b	福家 秀紀	415301	573
演習Ⅲ b	絹川 真哉	415401	574
演習Ⅲ b	白水 繁彦	415501	574
演習Ⅲ b	金山 智子	415601	574
ファイナンスと経営学Ⅰ	休講	431811	
ファイナンスと経営学Ⅱ	休講	431911	
オルタナティブ・メディア論	休講	433511	

グローバル・メディア・スタディーズ学部

科目名	担当者名	履修コード	ページ
実践メディアビジネス講座Ⅰ	休講	433901	/
実践メディアビジネス講座Ⅱ	休講	434001	/
Integrated English IX	休講	441801	/
Integrated English X	休講	441901	/
Integrated English XI	休講	442001	/
Integrated English XII	休講	442101	/
Honors English Seminar III	休講	442401	/
Honors English Seminar IV	休講	442501	/
Honors English Seminar V	休講	442601	/
Honors English Seminar VI	休講	442701	/
統合リスクマネジメント論	休講	435701	/

専 門 教 育 科 目

1. 法 学 部

(1) 法律学科フレックスA

履修コード	114411・114412・114421・114422
科目名	法学概論・法学概論A
担当者名	^{たかはし} 高橋 ^{ひろさ} 洋城

講義の到達目標(ねらい)

法学部に入っではじめて法学を学ぶひとに、法学科履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことばかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。

講義の内容／授業スケジュール

1. 法のイメージと法学部の講義科目
 - (1) 法とは何か
 - (2) 法学部ではどう学ぶか
2. 法の一般的分類
 - (1) 法の分類
 - (2) 法令の種類
3. 近代日本法とその社会
 - (1) 国家と社会
 - (2) 近代日本が受け継いだ法
 - (3) 近代法の変容
4. 立法の角度からの法
 - (1) 制定法主義とその法源
 - (2) 法の体系性
5. 司法の角度からの法
 - (1) 紛争解決の仕組みと機構
 - (2) 紛争の種類と解決の種類
6. 法令の解釈
 - (1) 事実の法的再構成
 - (2) 事実への法令のあてはめ

履修上の留意点

半期科目で集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施することもありますので、休まないようにしてください。

成績評価の方法

主に前期授業最終時間の試験（進度によっては定期試験）によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。

教科書／テキスト
参 考 書

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書52）有斐閣

竹下・福井編『はじめての法学』成文堂

その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などでの追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。

法 A

履修コード	114511・114512
科目名	公法入門 法学概論 B
担当者名	塩入 <small>しおいり みほも</small> ・田中 <small>たなか ゆうき</small> 優企

講義の到達目標(ねらい) かつての通年科目であった「法学概論」を、平成16年度から「法学概論」「公法入門」「私法入門」の3つの半期科目に分割していたが、これを再び「法学概論」に統合したことに伴い、本講義は、「公法入門」の単位を未だ取得していない学生（再履修）のみを対象として開講する科目である。

講義の内容／授業スケジュール 前半は「刑法」を専門とする教員、後半は「行政法」を専門とする教員が担当する。それぞれ講義を5回行い、第6回目にテストを実施する。

前半：刑法（田中）

1. 基本的人権の保障
2. 権力分立
3. 犯罪成立要件と犯罪のカタログ
4. 刑事手続のしくみ
5. 犯罪の原因と犯罪者の処遇
6. 試験

後半：行政法（塩入）

1. 行政法とは何か
2. 行政法の法源
3. 行政法の領域
4. 法治行政
5. 行政作用と法
6. 試験

履修上の留意点 前半と後半で担当者も講義内容も異なり、それぞれ講義は5回（テストを含め全6回）しかない。いずれかのテストを未受験であるか、または双方のテストの合計点が120点未満（200点満点中）であると、単位取得は不可能となるので、注意すること。

成績評価の方法 既に廃講が決定している科目であるため、今年度を以て本科目の履修を終えることを原則とする。成績は、前半と後半の各試験を合計して評価する。したがって、いずれか一方のテストを受験しなかった場合、必然的に単位を取得できなくなるので、必ず2回とも受験すること。試験は、それぞれの担当者の最終講義時間（第6回目）とする。

教科書／テキスト 前半・後半ともに教科書は使用しない。
参 考 書 参考書は、必要に応じてその都度紹介する。

履修コード	114531・114532
科目名	私法入門 法学概論B
担当者名	中田 英幸 <small>なかつた ひでゆき</small>

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、法律学科の新入生がこれから私法分野の科目を学んでいく上で、必要な基礎的な知識を身につけていくために設けられているものです。

本来、「私法」は個人の日常生活に密接に関連した問題を扱い、身近な分野であるはずですが、「公法（憲法や刑法）」に比べると近寄りにくい。その理由は、登記簿・契約書・手形・小切手など一般の学生にとって必ずしも親しみのわかないものが次々に出てくるし、少なくとも、学生の日常生活からかけ離れ、具体的問題としてイメージすることができないことにあります。そこで、現実の社会生活における身近な問題や具体的事案を多く取り上げ、興味を持てるように講義を進めます。

学習の順番や方法は、それぞれの先生が工夫して、講義を進めていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 法の分類と私法の意義
 - (1) 公法と私法 (2) 私法 (3) 公私混合法 (4) 新たな法領域
2. 私法の基本原理
 - (1) 序説 (2) 近代私法の基本原理 (3) 現代における近代私法原理の修正
3. 私法の法源
 - (1) 序説 (2) 制定法 (3) 慣習法 (4) 判例 (5) 条理
4. 私法の効力
 - (1) 序説 (2) 時に関する効力 (3) 人に関する効力 (4) 場所に関する効力
5. 私法の適用と解釈
 - (1) 序説 (2) 裁判外の紛争解決 (3) 裁判による紛争解決 (4) 私法の適用と解釈
6. 私法上の権利
 - (1) 権利とは何か (2) 私権の種類 (3) 私権の社会性
7. 財産法と家族法

成績評価の方法

半期科目であるため、前期末・授業時間内に行う試験による評価が中心になる。しかし、先生によっては、出席点や質疑と応答による平常点を加味することもあります。

教科書／テキスト
参 考 書

担当の先生から指示があった場合には、それに従ってください。
講義の際に紹介するので、積極的に読書するようにしてください。

法A

履修コード	114601
科目名	憲法
担当者名	奥村 公輔 <small>おくむら こうすけ</small>

講義の到達目標(ねらい) 憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 憲法とは何か
2. 日本国憲法の制定
3. 国民主権
4. 平和主義
5. 人権享有主体
6. 人権保障の限界
7. 私人間効力
8. 幸福追求権
9. 平等権
10. 精神的自由 (1) —思想・良心の自由—
11. 精神的自由 (2) —信教の自由—
12. 精神的自由 (3) —学問の自由—
13. 精神的自由 (4) —表現の自由①—
14. 精神的自由 (5) —表現の自由②—
15. 精神的自由 (6) —集会・結社の自由—
16. 経済的自由 (1) —職業選択の自由—
17. 経済的自由 (2) —財産権—
18. 人身の自由
19. 社会権
20. 参政権
21. 権力分立
22. 議院内閣制
23. 選挙制度
24. 国会と立法
25. 内閣と行政
26. 裁判所と司法
27. 司法権の限界
28. 違憲審査制
29. 財政民主主義
30. 地方自治

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

次週の講義内容を告知するので、教科書の該当部分を読んで予習していただくことが望ましい。
毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照するので必ず購入すること。
学年末試験による。
大石真・大沢秀介編『判例憲法』有斐閣、2,700円＋税、ISBN:978-4-641-13049-4

履修コード	114701
科目名	憲法
担当者名	にし <small>おさむ</small> 西 修

講義の到達目標(ねらい)	憲法はいうまでもなく国の最高法規であり、かつ基本法である。憲法に関する基礎的知識を養い、さらに理解を深めるよう、ビデオ、書画カメラ、コピーの配布など、さまざまな工夫をこらして講義を進めていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	取り扱う主な項目は、以下のとおり。 (1) 日本国憲法の制定過程 (9) 社会権 (2) 憲法の改正と限界 (10) 身体的自由 (3) 民主主義と象徴天皇制 (11) 国会の組織と機能 (4) 基本的人権の歴史と意義 (12) 内閣の機能、議院内閣制 (5) 日本国憲法と平和主義 (13) 司法の構造と権限 (6) 法の下での平等 (14) 憲法の保障 (7) 精神的自由権 (15) 財政・地方自治 (8) 経済的自由権
履修上の留意点	履修上の留意点 あらかじめ次週の講義内容を告知するので、予習をしておくように。また講義中に配布した資料についてじっくり復習すること。
成績評価の方法	試験結果にもとづき評価する。授業中試験をする可能性があるので注意すること。とくに授業中試験は追試験を実施しないので要注意。
教科書／テキスト 参 考 書	西 修編著『エレメンタリ憲法(新訂版)』(成文堂)2008年(2,940円税込) (1) 西 修著『日本国憲法成立過程の研究』(成文堂)2004年 6,000円+税 (2) 各種六法全書など最新の法令集。
そ の 他	私語、途中からの入退室は厳禁。

履修コード	114801
科目名	民法総則
担当者名	<small>むかいだ まさみ</small> 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)	本講義では民法典第1編総則編についての解説を行います。民法とはいかなる法律か、その概要を述べた後、総則に関わる制定法と判例について具体的に検討を行います。
講義の内容／ 授業スケジュール	本講義ではまず私法の体系のなかで、民法の占める位置について検討します。次に民法の体系について検討し、近代市民社会における商品交換法としての民法の性質について考えます。これらの基礎的作業を経た後、総則の各条文と関連する制定法、判例について検討するということにします。検討の中心となるのは第5章の法律行為の規定と、第2章、第3章の人、法人についての規定です。
履修上の留意点	民法総則は必修科目とされており、法学部で開設されている科目のなかでも特に重要な科目です。授業の無断欠席や私語などは厳に慎み、これからの4年間の法律学習の基礎を作ってください。
成績評価の方法	小テスト、期末テストにより評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	我妻栄ほか『民法1 総則・物権法(第2版)』勁草書房 『民法判例百選I 総則・物権 第5版新法対応補正版』有斐閣

履修コード	114901
科目名	民法総則
担当者名	熊谷 芝青

講義の到達目標(ねらい) 市民生活と密接な民法全体の総論的講義を行う。民法の基本的な原理や原則を基礎にした体系的知識が得られることを目的とする。民法典の条文を中心とした規範が実際の事案に適用されることを念頭に置きながら講義を進めていく。学修後、判例でどのように実際の法条文が適用されているかを理解し、発展的学習のための基礎固めができるようにしたい。併せて民法総則を学ぶことで、法律学の考え方を習得することを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1: 民法学の基礎
法的三段論法と民法の適用・法律解釈の種類
- 2: 私的自治の原則
私的自治の原則・意思能力・無効
- 3: 行為能力制度
制限行為能力者・制限能力者の行為・取消
- 4: 法律行為
成立要件・有効要件（公序良俗違反・強行法規違反）
- 5: 意思の不存在
心裡留保・虚偽表示・錯誤
- 6: 意思の瑕疵
詐欺・強迫・消費者契約法
- 7: 代理と代理権濫用
- 8: 表見代理
110条の表見代理・109条の表見代理・112条の表見代理・表見代理の重畳適用
- 9: 無権代理
無権代理と相続・利益相反行為
- 10: 時効総則
時効の援用・時効の利益の放棄・時効の中断
- 11: 取得時効
- 12: 消滅時効

履修上の留意点

教科書と六法は必ず持参すること。出席を毎回とることはしないが、数回不定期にとるので注意されたい。また当然のことであるが、受講中の飲食・携帯電話の使用は禁止であり、それに違反した場合、その時点で落第とする場合がある。

成績評価の方法

また板書を多用するので、ノートと筆記道具は必携である。
期末試験の成績を中心にして行う。出席点を加味する。
また飲食・携帯電話使用の場合にはその時点で落第とする場合がある

教科書／テキスト
参 考 書

近江幸治『民法講義I総則(第6版)』(成文堂、2008)
尾崎哲夫『はじめの民法総則』(自由国民社)
柴田孝之『S式択一条文問題集 民法』(自由国民社)
我妻榮・有泉亨『民法1』(勁草書房)

履修コード	115001
科目名	刑法総論
担当者名	松村 格

講義の到達目標(ねらい)

基本的には、刑法の意義と使命および目的を理解することにある。刑法総論は、犯罪論・刑罰論・罪数論から成るが、講義では犯罪論を中心に勉強する。犯罪論では、犯罪の成立要件を学習するが、常に刑法の使命と目的を念頭において考えていく。犯罪論は抽象的概念を多用するので、刑法各論の具体的な犯罪類型を事例に活用しながら講義を進める。犯罪論を通じて、最終的には、刑法の厳しさと優しさを知ってほしい。

講義の内容／授業スケジュール

(1) 前期の前半で、刑法総論と刑法各論を含む刑法学全般を概観し、その全体像を理解する。したがって、①刑法の使命・目的・意義、②刑法を支える原理・原則、③犯罪論・刑罰論・罪数論、④刑法各論の意義、⑤犯罪学の意義を理解する。

(2) 前期の後半から、犯罪論を詳細に検討する。犯罪論というシステムは、①構成要件論、②違法性論、③有責性(責任)論、④未遂犯論、⑤共犯論という部分システムから成るので、これらを順次学習する。そして、各部分システムは、更にそれを構成する細かい論点に分化するので、それらを厳密に学習する。

準備学習

教科書の講義予定に該当する箇所を毎週必ず読んで予習しておくこと。参考書は未だ必要ではない。教科書を自分の基本書として、徹底的に読みこなす努力が必要である。

履修上の留意点

(1) ①教科書、②六法全書、③ノート、④判例解説書を必ず持参すること。

(2) 刑法は、人の生命・自由などを剥奪する厳しい制裁を伴っているので、その点で、刑法学は、人間学・哲学でもあるし、納得できる筋道の論証を必要とする論理学でもある。したがって、自分なりの人間観・生命観・倫理観の確立を目指しながら学習を進めてほしい。

(3) 各種の問題点ごとに、刑法の使命・原理・原則を念頭に置きながら学習してほしい。

成績評価の方法

①授業中に実施する小テスト、②定期試験の両方の平均点で評価する。出席はとらない。

教科書／テキスト

①松村格著『刑法学への誘い』(八千代出版)(前期前半用教科書)

②松村格著『日本刑法総論教科書』(八千代出版)(前期後半以降用教科書)

参考書

(1) 1年生の間は必要ない。2年生以降、司法試験を目指す学生には、松村/都築/神田/野崎共著『刑法総論』(ミネルヴァ書房)を推薦する。

(2) 判例解説書として、①曾根/日高編『基本判例5・刑法総論』第二版(法学書院)を授業で使用するので購入してほしい。なお司法試験志望者には、②別冊ジュリスト『刑法判例百選I』総論[第6版]を推薦する。

履修コード	115101
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)

本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- I 序説
 - 1 はじめに
 - 2 犯罪論の基礎
 - 3 罪刑法定主義と刑法の解釈
- II 構成要件
 - 1 総説
 - 2 結果
 - 3 実行行為
 - 4 因果関係
- III 違法性
 - 1 総説
 - 2 正当業務行為
 - 3 正当防衛
 - 4 緊急避難
- IV 責任
 - 1 総説
 - 2 責任能力
 - 3 故意
 - 4 過失
 - 5 期待可能性
- V 共犯
 - 1 総説
 - 2 共同正犯、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯
 - 3 教唆犯
 - 4 幫助犯
- VI 共犯の諸問題
 - 1 共犯と身分
 - 2 不作為と共犯
 - 3 共犯と錯誤
 - 4 共犯の中止、離脱

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

予習及び復習は必要です。
筆記試験が中心であるがその他を考慮する場合もある。
学内指定書店の指示を受けて下さい。

履修コード	115301
科目名	会社法
担当者名	荒木 正孝

講義の到達目標(わらい) 【注意】 この講義を選択できるのは、法律学科の2年生で学生番号 LK9001番から LK9200番までの学生と法律学科の3年生以上のすべての学生です。

講義の内容/
授業スケジュール

この講義では、会社法(株式会社、持分会社(合名会社、合資会社、合同会社))の重要かつ基礎的な事項について解説することを目的とするが、なかでも、現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割いて説明するつもりである。

大企業から零細企業まで多くの企業が株式会社の形態をとり、株式会社が現代の経済活動の主たる担い手として多数の人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的な機能を通して国民の日常生活に大きな影響を与えている。

この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などに関する私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこにおける基本的かつ重要な問題を取り上げて解説し、また判例や実務の対応なども検討し、「会社法」の基本的な考え方を理解してもらうことを目的とする。

平成18年5月1日に「会社法」が施行された。この会社法は、従来片仮名文語体で表記されていた商法第二編、有限会社法、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律について平仮名口語体化して一つの法典にまとめたものであり、かつ近年、毎年のように行われていた法改正を体系的に調整し、社会情勢の変化に対応するために各種制度の見直しを行うものである。

今年、この新会社法について、株式会社の設立の概要、設立の手続き、発起人の意義、設立中の法律関係、設立の無効、設立の登記、設立関与者の責任などについて説明し、株式制度については、株式の意義、株式の内容・種類、株式の流通、株主の権利、自己株式、株式の併合・分割・無償割当、単元株制度などに触れ、会社の管理・運営については、機関の意義、株主総会、会社役員を選任・解任、取締役、取締役会、代表取締役、監査役・監査役会、委員会設置会社、役員損害賠償責任などについて、時間の許す限り解説する。

準備学習

授業の終了時に次の授業で取り扱う箇所を言いますので、その部分をあらかじめ読んでおくと授業がよく理解できるでしょう。

履修上の留意点

会社法で使われる概念は、民法の財産法を前提としているから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると比較的理解が容易である。ただ、これらの知識が不十分でも、講義の内容を理解するために必要な民法の知識や基本概念については、その都度説明するつもりなので、民法=財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。ただし、教場には、必ず最新の六法を持参して常に参照する必要がある。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。

教科書は、授業の初めに指示します。

江頭・岩原・神作・藤田編『会社法判例百選(別冊ジュリスト NO.180)』(有斐閣)

履修コード	115401・115402
科目名	行政法 行政法総論
担当者名	金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

現代の行政法は、従来、対象とされていない新たな法分野が続出しているといえる。例えば、行政手続法の制定をはじめ、情報公開法、個人情報保護法、環境アセスメント法等を挙げることが出来るが、これらの法領域に対応すべく行政法の理論を考えていかなければならない。

そこで講義においては、行政法総論での、基本的な原理や原則に対する、よりアップ・ツー・デートな課題を積極的に掲示し、諸君とともに、問題発見と問題解決のための法的手法を考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

1) 行政法の基礎 (1~5)

①行政と法の一般的关系(行政の概念と分類、行政法の成立、行政法の特性) ②日本行政法の基本構造(公法・私法二元論とその有用性、行政法学のあり方) ③行政法の法源(成文法源、不文法源、行政法の効力) ④日本行政法の基本原理(法律による行政の原理、法治主義、行政のコントロール・システムの充実、法の一般原理)

2) 行政過程論 (6~15)

①行政の行為形成論(行政立法・法規命令と行政規則) ②行政行為(行政行為の意義、行政行為と法の拘束、行政行為の種類、行政行為と裁量、行政行為の効力、行政行為の瑕疵、行政行為と法律関係、行政行為の附款) ③行政上の契約(問題の所在、行政上の契約の問題点) ④行政指導(意義、行政指導と法の拘束、行政指導と救済制度) ⑤行政計画(意義、計画と法の拘束、計画と救済制度)

3) 行政上の一般的制度 (16~25)

①行政上の義務履行確保(行政上の強制執行、行政代執行、直接強制、執行罰) ②即時強制 ③行政調査(行政調査の意義及び問題点) ④行政手続(行政手続の意義と機能、適正手続の基本的内容、行政手続法の法源、行政手続法、命令・計画策定手続、手続の瑕疵と処分) ⑤行政情報管理(情報公開、情報公開の理念・意義・展開、情報公開法、行政機関個人情報保護、行政スタイルの変革)

4) 行政過程における私人 (26~30)

①行政過程における私人の地位 ②行政過程における私人の行為
行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。
期末試験の成績により評価する。
塩野宏『行政法 I』(行政法総論)〔第四版〕有斐閣
塩野宏他編『行政判例百選 I、II』(第五版)(有斐閣)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

履修コード	115601
科目名	物権法
担当者名	山田 創一

講義の到達目標(ねらい)

受講生は、売買契約を日常行っているであろうし、下宿をしている人は賃貸借契約を結んでいるであろう。さらに、将来結婚をしたり、相続の問題に直面することになるであろう。こうした例からもわかるように、財産法と家族法で構成される民法は、受講生の生活と密接に関わっているといえる。

ところで、財産法は総則編・物権編・債権編よりなるが、物権編のうち物権法でとりあげるのは、総則・占有権・所有権・地上権・永小作権・地役権の6章である。こうした物を直接排他的に支配する権利である物権の基礎を理解させることを講義の目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

物権の意義、物権法定主義、物権の効力、物権的請求権、公示の原則と公信の原則、物権変動を生ずる法律行為(1~5回)。不動産物権変動の対抗要件、177条の「第三者」の範囲、取消し・解除・時効・相続と登記、動産物権変動の対抗要件(6~10回)。動産の即時取得、明認方法(11~15回)。占有権(16~20回)。所有権(21~25回)。地上権、永小作権、地役権、入会権(26~30回)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

授業は、テキストを用いて講義を進めていくので、テキストと六法は持参して下さい。
中間試験および学年末試験の成績による。
白羽祐三・山田創一『物権法講義 第二版』 駿河台出版社、2800円
『民法判例百選 第六版』 有斐閣
民法の勉強を通じて、リーガルマインドを養成し、紛争解決能力を培ってもらいたい。

履修コード	115701
科目名	債権総論
担当者名	中田 英幸

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則（およびその特別法）を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易くする。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 序論 (1)
 - ①債権総論とは何か②債権とは何か
- (2) 債権の「目的」(2-3)
 - ①債権の「目的」の意味②債権の種類
- (3) 債権の効力(4-13)
 - ①履行の強制②債務不履行③責任財産の保全④第三者による債権侵害⑤債権者遅滞
- (4) 債権債務の移転(14-18)
 - ①債権譲渡②債務引受
- (5) 債権の消滅(19-24)
 - ①弁済②供託③代物弁済④相殺⑤更改・免除・混同
- (6) 多数当事者の債権関係(25-30)
 - ①債権者が多数である関係②分割債務③不可分債務④連帯債務⑤保証債務

準備学習
履修上の留意点

指定された教科書を事前に読んでおくこと。
債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。
期末試験により評価する。
野村豊弘ほか著『民法 III - 債権総論 (第3版)』(有斐閣、2005年)
中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 II 債権 (第6版)』(有斐閣、2009年)
他の文献は講義中に指示する。

履修コード	134411
科目名	会社法
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい) 【注意】この講義を選択できるのは、法律学科2年生で学生番号 LK9201番以降の学生、法律学科3年生以上の学生、政治学科2年生以上の学生である。

講義の内容／
授業スケジュール

企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整（いわゆる形式的な意味での会社法）について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。

- 前期
- 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義
 - 2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整（株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等）
- 後期
- 3 会社の資金調達と法規整（設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等）
 - 4 会社の組織再編（M&A等）
 - 5 企業会計

履修上の留意点

少なくとも民法（総則・債権各論）を履修済みか、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。

成績評価の方法

原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書／テキスト

平出・山本・田澤編『商法概論Ⅱ』（青林書院）の予定であるが、発売が4月までに間に合わなければ代替措置を考える。

参考書

江頭憲治郎『株式会社法』（有斐閣）、神田秀樹『会社法』（弘文堂）。その他、適宜授業内で紹介する。

関連リンク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	116501・116502
科目名	行政救済法 行政法各論
担当者名	<small>かねこ しよるへい</small> 金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

現代の行政法は、従来、対象とされていなかった、新たな法分野が続出している。例えば、行政手続法、情報公開法等の制定をはじめ、各行政分野ごとの基本法が整備されようとしている。

また現実の行政需要も変化、発達し、その適正化が求められている。

講義は、行政紛争解決の手段として、行政救済法を、主な内容として行う。そこで具体的に、どのような行政上の不服申立て、行政事件、国家賠償事件が存在し、何が法律上の問題となっているのか、また、どのように法的解釈を、すべきかについて説明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

1) 行政救済法の観念 (1)

2) 行政争訟法 (2~16)

①行政過程における行政争訟 (行政上の不服申立て、行政不服審査法、行政審判・苦情処理、オンブズマン)

②行政事件訴訟法 (行政事件訴訟法の特徴、抗告訴訟、取消訴訟、取消訴訟の審理、取消訴訟の終了、取消訴訟における仮の救済、無効確認訴訟、争点訴訟、当事者訴訟、不作為の違法確認訴訟、義務付け訴訟、差止訴訟、法定外抗告訴訟、民衆訴訟、機関訴訟、司法審査権の限界)

3) 国家賠償法 (17~25)

国家賠償 (国家賠償法の位置づけと概要、公権力の行使にかかる賠償責任――国家賠償法一条、営造物の設置管理にかかる賠償責任――国家賠償法二条、賠償責任者、民法の適用)

4) 損失補償 (26~30)

①意義 (損失補償の要否)

②憲法上の補償請求権の要否 (補償の内容、財産に対する補償、その他の補償項目)

③国家補償の谷間 (違法、無過失の場合、設置・管理無瑕疵の場合、正当行為の結果に関する責任、危険状態にかかる責任)

行政法は、きわめて数多くの法律が登場してくるので、六法全書を必ず持参すること。

期末試験の成績により評価する。

塩野宏『行政法II』(行政救済法)〔第四版〕有斐閣

塩野宏他編『行政判例百選I・II』第五版 (有斐閣)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
そ の 他

履修コード	117001・117002
科目名	家族法 相続法
担当者名	竹中 智香

講義の到達目標(ねらい)

民法典第五編「相続法」は第4編「親族法」と深く関連していることから、前期に親族法を概説したうえで、後期で相続法の説明に入ります。親族法は、われわれにとって最も身近な家族生活を規制する法律であり、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的変化、さらには少子化・超高齢化、女性の社会進出といったさまざまな社会の動向に影響を受けています。社会の変化に伴って生じてきた問題に対して、親族法がどのように対応しているかを、具体的な裁判例の紹介も交えながら、検討していきます。一方、後期に取り上げる相続法も、第二次大戦の敗戦後、戦前の家督相続が庶子均分共同相続へと変遷し、さらに近年、遺言制度の利用も増加するなど、著しく変化している分野です。本講義では、こうした変遷の内容とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

〔前期〕

- (1) 家族法と財産法の相違と家族法の特徴、欧米家族法との比較とわが国の家族法の特徴
- (2) 氏と戸籍、親族
- (3・4) 婚姻：婚約、婚姻成立の要件
- (5・6) 婚姻：婚姻の効果、夫婦財産制
- (7) 婚姻解消
- (8・9) 親子：実親子関係
- (10・11) 親子：養親子関係
- (12) 後見・保佐・補助、扶養

〔後期〕

- (1) わが国の相続法の変遷とその背景
- (2) 相続人
- (3～5) 相続の効力：相続財産の範囲
- (6) 相続の効力：相続分
- (7) 相続の効力：遺産の共有
- (8・9) 相続の効力：遺産分割、相続回復請求権
- (10) 相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在
- (11・12) 遺言と遺留分

履修上の留意点

身近な問題を取り上げる分野とはいえ、難解なテクニカルタームが多用されています。講義を受ける際には、教科書の該当部分を読んだうえで、分からない文言を調べておくことが望まれます。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

学年末の筆記試験の他、出席状況などの平常点も加味します。

川井健『民法概論5 親族・相続』有斐閣 2,800円

六法

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣)

『法律学小辞典 [第4版]』(有斐閣)

履修コード	121611・121631・121641・121651・121661
科目名	新入生演習
担当者名	藤本 茂・奥村 公輔・井上 健一・松村 格・原田 啓一郎・吉田 純平・大宮 隆・高橋 洋城・ 竹中 智香・中濱 義章

講義の到達目標(わらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけていくために設けるものです。選択科目ですが、できる限り多くの学生が積極的に履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を習得することを期待します。

授業は、一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も適切な勉学方法を探し当て、開発していくって欲しいと願っています。

講義の内容/
授業スケジュール

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。数字の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身につけていくものとして、考えられています。

1. 基本的な学習施設
 - ・図書館や情報センターの利用方法と文献の探し方・調べ方
 - ・教室での講義の受け方とノートの取り方
2. 基本的な書籍の利用方法
 - ・六法全書の読み方と使い方
 - ・法学用語集や辞書の活用方法
 - ・法律学的な文章の読み方とまとめ方
3. 発展的な書籍の活用
 - ・法学文献以外の書籍から法についての感覚を学ぶ
 - ・注のある文献の読み方と注の使い方
4. 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
 - ・レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
 - ・ゼミなどでの発表の仕方
5. 将来設計と学修
 - ・卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか

履修上の留意点

一週おきの教室での一斉授業への出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当の先生の指示に従って学習してください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

出席点および課題提出評価点を総合して成績評価します。

指定教科書はありません。

参考書、課題図書は、各クラス担当の先生がその都度指示します。

履修コード	121621
科目名	新入生演習
担当者名	田中 優企・荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要とされる基礎的な勉学の方法を身につけていくために設けられたものです。選択科目ですが、できる限り多くの学生が積極的に履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を習得することを期待します。

講義の内容/
授業スケジュール

授業は、一週おきに、教室での授業と研究室での指導を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら発展させて、自分なりに最も適切な勉学方法を探し当て、開発して欲しいと願っています。

学習の順番や指導の方法は、各クラス担当の先生がそれぞれ工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。数字の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身につけていくものとして考えられています。

1. 基本的な学習施設
 - ・図書館や情報センターの利用方法と文献の探し方・調べ方
 - ・教室での講義の受け方とノートの取り方
2. 基本的な書籍の利用方法
 - ・六法全書の読み方と使い方
 - ・法学用語集や辞書の活用方法
 - ・法律学的な文章の読み方とまとめ方
3. 発展的な書籍の活用
 - ・法学文献以外の書籍から法についての感覚を学ぶ
 - ・注のある文献の読み方と注の使い方
4. 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
 - ・レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
 - ・ゼミなどでの発表の仕方
5. 将来設計と学修
 - ・卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか

準備学習
履修上の留意点

第1回目の授業の時に、各クラス担当の先生がそれぞれ説明します。

第1回目の授業の時に、クラス分けと授業スケジュールの説明をしますので、履修を希望する者は必ず出席してください。

また、一週おきの教室での一斉授業への出席は当然ですが、研究室での指導で課題を課されたり面接があったりする場合には、その都度、担当の先生の指示に従って学習してください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

出席点および課題提出評価点を総合して成績評価します。

指定教科書はありません。

参考書や課題図書は、その都度、各クラス担当の先生がそれぞれ指示します。

履修コード	117301
科目名	政治学原論
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(わらい)

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならずひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容/
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法(1)

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15)

C 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22)

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。

なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房) 3,296円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社) 2,900円

参 考 書
そ の 他

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」「政治学へのいぎない」(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。

履修コード	117401
科目名	政治史
担当者名	福永 文夫 <small>ふくなが ぶんぷ</small>

講義の到達目標(ねらい)

政治は広く私達の生活に関係しており、また私達は主に選挙を通じて政治を形作っていく立場にもあります。したがって政治を知ることは社会人の大事なたしなみといえます。本講義は、法律学科の1・2年生を対象としていますので、社会人の素養としての活きた政治史を心がけ、政治史上の基本的な知識を修めるとともに、歴史的な分析を通じて現在への政治的理解を深めることを目的としています。

本年度の「政治史」では、戦後日本の政治と外交を論じることで、この国の来し方を考え、21世紀日本政治の課題について考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに－戦後日本と国際環境 (2～3) 日米戦争への道 (4～6) 米国の日本占領政策 (7～8) 敗戦と占領の開始 (9) 政党の復活 (10～11) 日本国憲法の制定・占領改革 (12) 政党政治の再生 (13～14) 中道政権の形成と崩壊 (15) まとめ

後期：(16～17) 占領政策の転換と吉田茂の再登場 (18) 講和への胎動 (19～20) 講和をめぐる国内政治・国際政治 (21) サンフランシスコ講和会議と日米安保条約 (22) 保守勢力の混迷 (23～24) 55年体制の成立－保守合同と社会党の統一 (25) 岸・鳩山内閣 (26) 安保騒動 (27～29) 高度経済成長と日本政治 (30) おわりに

履修上の留意点
成績評価の方法

履修する学生には、出席と積極的な授業参加を求めます。

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の授業で詳しい説明を受けてください。

教科書／テキスト
参 考 書

福永文夫『戦後日本の再生』丸善、2001年、税別2300円、ISBN:9784621074626。

参考図書は、講義のなかで随時紹介していきます。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	松前 龍宜

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、前期にミクロ経済学、後期にマクロ経済学の基礎理論を学び、ミクロ・マクロの経済政策が、どのように私たちの生活に影響を及ぼしているのかを理解してもらうことを目的とする。講義方針として、表とグラフの直観的理解に加え、簡単な数式モデルを使って論理的にも理解してもらうこととする。

講義の内容／
授業スケジュール

- (前期)
1. ガイダンス、テキストと成績評価。
 2. 需給分析・余剰分析Ⅰ (第1章)
 3. 需給分析・余剰分析Ⅱ (第1章)
 4. 需給分析・余剰分析Ⅲ (第1章)
 5. 市場への政府介入Ⅰ (第2章)
 6. 市場への政府介入Ⅱ (第2章)
 7. 公共事業と競争政策Ⅰ (第3章)
 8. 公共事業と競争政策Ⅱ (第3章)
 9. 公共事業と競争政策Ⅲ (第3章)
 10. 外部性Ⅰ (第4章)
 11. 外部性Ⅱ (第4章)
 12. 外部性Ⅲ (第4章)
 13. 公共財 (第4章)

(後期)

1. マクロ経済指標と国民経済計算 (第1章)
2. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅰ (第7章)
3. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅱ (第7章)
4. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅲ (第7章)
5. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅳ (第7章)
6. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅴ (第7章)
7. インフレ・デフレと失業Ⅰ (第8章)
8. インフレ・デフレと失業Ⅱ (第8章)
9. インフレ・デフレと失業Ⅲ (第8章)
10. インフレ・デフレと失業Ⅳ (第8章)
11. 成長理論Ⅰ (第6章)
12. 成長理論Ⅱ (第6章)
13. 成長理論Ⅲ (第6章)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

数学の知識は特に必要としない。

試験60%、レポート40%で評価する。

岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』(2006)、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6

参 考 書

ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社

マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学Ⅰ入門編』、東洋経済新報社

そ の 他

板書による講義形式である。

履修コード	117701
科目名	比較憲法
担当者名	西 修

講義の到達目標(ねらい)

比較憲法は、世界の憲法動向を知り、日本国憲法を広い視野から眺めるといって非常に大きな効用をもっている。本講義は、主要諸国のみならず、アジアや発展途上国の憲法をも対象にして、立体的に組み立てる。

講義の内容／
授業スケジュール

おおむね以下の内容になる。(1) 比較憲法とは(研究の意義、比較の対象、方法、限界など)
(2) 欧米主要諸国の憲法(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなど)の概要、(3) アジア諸国の憲法(中国、韓国、北朝鮮など)の概要、(4) 項目別の比較(平和主義、家族条項など)。

毎回配布するであろう資料を熟読すること。

試験結果にもとづき評価する。

『世界地図でわかる日本国憲法』(講談社、1500円+税)

参 考 書

(1) 西修著『憲法体系の類型的研究』(成文堂)1997年

(2) 取り扱う内容に応じて指定する。

そ の 他

私語、途中からの入退室は厳禁。

履修コード	117801
科目名	日本法制史
担当者名	しげの たかはる 茂野 隆晴

講義の到達目標(ねらい)

全ての学問には史学がある。法を学ぶものにとって、もっとも身近にある史学が法制史である。われわれは来し方を回想するときのみならず、未来に進もうとするとき、何らかの形で過去の知識(歴史)を知ろうとしよう。

現代の社会知識を知ろうとするとき、その手がかりを過去の社会生活に求めるのは自然であるといつてよい。そうした意味からも、日本法の歴史の本質的なものを身につけてほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 日本法制史とその時代区分
2. 上古(氏族法時代) I
3. 上古(氏族法時代) II
4. 中古(律令法時代) I
5. 中古(律令法時代) II
6. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) I
7. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) II
8. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 I
9. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 II
10. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 III
11. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 I
12. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 II
13. 近代(含む幕末) I
14. 近代(含む幕末) II
15. 婚姻関係(ことわざと川柳等による)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

上記は1. と15. を除き、それぞれの項目ごとに2週を割当てることを目安としています。学期末試験と平常点としての出席状況を総合して評価す。

大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 - 史資料へのいぎない - 』1998年刊(芦書房)
2,300円

法A

履修コード	117901
科目名	西洋法制史
担当者名	小室 輝久

講義の到達目標(わらい) イングランド法及びヨーロッパ大陸法のそれぞれの基本的な考え方を法の歴史を通して理解し、かつヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を、現代日本の法及び裁判制度と比較しながら認識できるようになること。

講義の内容／
授業スケジュール 第1～9回 第1章 イングランド・フランス・ドイツ法制史の概観、第10～15回 第2章 中世ヨーロッパの法および現代のヨーロッパ法、第16～23回 第3章 コモン・ローとシヴィル・ローの諸特徴、第24～25回 第4章 原意主義と積義学派、第26～28回 第5章 ヨーロッパ古来の裁判手続、皇帝権・王権とローマ法、12世紀ルネサンス、第29～30回 第6章 ドイツ民法典の編纂と政治文化

準備学習 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。
高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分を復習しておいて下さい。また、講義を受講した後で、テキストの該当箇所をよく読んで下さい。

履修上の留意点 講義を通してヨーロッパの法と裁判制度の歴史に関する一通りの知識を習得することがまず必要ですが、それだけでなく、ヨーロッパの歴史的な法と裁判制度が現在の日本のそれとどう違うのかに気づき、またなぜ違っているのかを考えることが、より重要です。

成績評価の方法 講義に対する質問は、講義終了後次回の講義までの間に、講義担当者あてに電子メールで提出して下さい(質問の内容により平常点として試験点数に加えます)。

原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解した上で、ヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を現代日本の法及び裁判制度と比較しながら指摘できているかどうかを基準に行います。試験点数に平常点(「履修上の留意点」参照)を加えて最終の成績評価を行います。

教科書/テキスト R. C. van Caenegem, European Law in the Past and the Future: Unity and Diversity over Two Millennia, Cambridge University Press, US \$39.99 ISBN:978-0521006484

参 考 書 J・ベイカー(小山貞夫訳)『イングランド法制史概説』創文社、9975円 ISBN:978-4423740286
F・W・メイトランド(小山貞夫訳)『イングランド憲法史』創文社、12600円 ISBN:978-4423492130
R・C・ヴァン・カネヘム(小山貞夫訳)『裁判官・立法者・大学教授』ミネルヴァ書房、3780円 ISBN:978-4623020447

田中英夫『英米法総論(上)』東京大学出版会、3675円 ISBN:978-4130350518
勝田有恒・山内進・森征一編『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、3360円 ISBN:978-4623040643
そ の 他 講義担当者連絡先(講義に対する質問等のあて先) tkomuro@kisc.meiji.ac.jp

(メールを送信する場合は、「講義の曜日・時限、科目名、学科、学年、学生番号、氏名」をメールの「題名(件名)」に必ず記載して下さい。)

講義担当者ホームページ {<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~tkomuro>}

履修コード	118101
科目名	法律時事英語
担当者名	いのうえ けんいち 井上 健一

講義の到達目標(ねらい)

法律英語と言った場合、大別して2つの形態のものに習熟する必要があるように思われる。一つは、法律について書かれた論文や記事であり、もう一つは法律そのものや契約書の規定である。日本法を勉強していても実感できると思うが、「議論されること」を前提にして説明しようとする動機に基づいて書かれる前者と、さまざまな事実を大きなくくりで抽象化しようとする後者とは相当異なる。本講義は、基本的に前者を素材として扱いつつ、後者についても必要な限り触れようと思う。

講義の内容／授業スケジュール

簡単なオリエンテーションの後、配布文献の輪読。まず英文を音読してもらい、その後、翻訳をしてもら。前後期通じて、特に発表者は指定せず、ランダムに授業内で指名した者にその都度、音読・翻訳をしてもらう。よって、参加者は常に準備が必要である。

準備学習

英語の習熟レベルは英検2級以上あることが望ましいが、ただ、熱意でカバーは十分可能である。法的な知識は前提としないが、あるに越したことはない。英語のトレーニングである以上に、「法」を理解することが最大の目的であることをお互い(履修者も私も)忘れないようにしたい。

履修上の留意点

配布教材の翻訳。単語をつなげるのではなく、きちんと文章として理解すること。履修前に高校レベルの英文法の復習をしておくこと。

様々な文化のありかたに触れ、深く物事を考えたいという意欲を持つこと。単位合わせのための履修というスタンスでの参加はご遠慮願いたい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席と授業での翻訳・議論への貢献による。レポート等は課さない。テストも実施しない。英字新聞からのコピーを配布する。辞書は英和中辞典レベル以上のものを使用すること。さしあたり、小学館のプログレッシブ英和中辞典を推奨しておく。

参考書

適宜紹介する。

関連リンク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	たまる だい 田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。

講義の内容／授業スケジュール

行政学とは(1～4)行政・政策を見る視点(5～10)国家観の変遷(11～14)行政国家、福祉国家(15～18)行政改革(19～24)民営化と規制緩和(25～28)地方自治と地方分権改革(29～30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。

準備学習

新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。

履修上の留意点

現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。

成績評価の方法

学年末試験1回と、授業内の複数回の小テスト(小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。)による。

教科書／テキスト

森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846
半分程度しか使用しない予定である。適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見て構わないと思います。

参考書

早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352

その他

履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学を履修してもらうこともあります。

履修コード	115501
科目名	国際法
担当者名	王 志安 <small>おう しらん</small>

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。
国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

準備学習

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規則、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。

履修上の留意点

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

成績評価の方法

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのばすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意思をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

教科書/テキスト
参考書

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。具体的に出欠席20%、前期テスト35%、後期定期試験45%

その他

王志安・飯田順三『国際法への誘い』(八千代出版)2006年
大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(上)(東信堂)2002年 2,800円
市販されている国際条約集

授業はすべて講義方式で行い、適宜に参考資料を配付し、power point を利用した講義を行ないます。簡潔な聴講ノートの、Yestudy から入手できる。

履修コード	115801
科目名	刑法各論
担当者名	原口 伸夫 <small>はらぐち のぶお</small>

講義の到達目標(ねらい)

問題となる犯罪類型がどのような利益を保護しているのか、罪刑法定主義という刑法の基本的な考え方から(とくに法文の文理解釈の点から)無理のない解釈なのか、現在の社会の中で問題を解決するためにその犯罪類型は十分に機能しているのか等々の観点を十分に考慮に入れた上で、各犯罪類型・成立要件について理解すること。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回:刑法典各側の全体像、第2~4回:生命・身体に対する罪、第5~7回:自由・名誉に対する罪、第8~16回:財産に対する罪(窃盗罪・強盗罪[8~11回]、詐欺罪・恐喝罪[12~13回]、横領罪・背任罪[14~15回]、盗品関与罪・毀棄隠匿罪[16回])、第17~19回:放火罪、第20~23回:偽造罪、第24回:その他の社会的法的に対する罪、第25~26回:公務執行妨害罪、第27~28回:贈収賄罪、第29~30回:その他の国家的法益に対する罪。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

扱うテーマについてあらかじめ教科書の関連部分を読んでおくこと。
この科目で扱う問題に興味をもって、意欲的に学習することを望む。授業に出席すること。
定期試験の成績、および、出席状況を含む平常点(レポートなど、平常点の評価の仕方は履修者の人数による)を総合して評価する(定期試験の成績が約60%、平常点が約40%と考えている)。

教科書/テキスト
参考書

西田典之、『刑法各論(第4版補正版)』、弘文堂、3,850円+税、ISBN 978-4-335-30249-7

その他

西田・山口・佐伯編『刑法判例百選Ⅱ各論(第6版)』、有斐閣

特になし。

履修コード	116001
科目名	裁判法
担当者名	間瀬 <small>まがせ</small> 清史

講義の到達目標(ねらい)

学生諸君は、民事手続法については3年次以降に本格的に学習することとなりますが、裁判制度ないし司法制度一般に対する基本的理解を欠いたまま、いきなり高度な手続法理論を教授されるならば、手続法アレルギーという宿病を引き起こすこととなります。そのような仕儀にならないようにするためには、民事手続法本論を学ぶ前にその周辺領域を中心とした基礎的学習をしておく必要があります。そのため、この講義では、民事手続制度全般を概観しかつその周辺領域について講ずることとします。その意味で民事手続法の入門編を担う科目です。

講義の内容／
授業スケジュール

(1)～(2) 裁判所概観、(3) 法律相談、(4) 調停手続・仲裁手続、(5) 少額訴訟・支払督促・非訟事件、(6)～(7) 民事保全制度、(8) 弁護士への委任、(9) 訴えの提起、(10) 管轄・移送、(11) 攻撃防御の準備、(12) 文書提出命令、(13) 訴えの併合、(14) 共同訴訟、(15) 訴訟参加、(16) 訴訟承継、(17) 争点整理、(18) 司法試験制度・司法修習制度、(19) 弁護士業務、(20) 和解、(21)～(22) 証拠調べ、(23) 裁判官、(24)～(25) 判決、(26) 上訴、(27)～(28) 強制執行、(29) 再審、(30) 試験

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

その都度指示します。

民事実体法、とりわけ民法を少なくとも同時並行的に履修すること。

基本的に論述式試験の結果により評価します。ただし、出席者に有利になるよう配慮する予定です。

教科書／テキスト

『よくわかる民事裁判〔第二版補訂〕』 — 平凡吉訴訟日記〈有斐閣選書〉 2008年
1700円+税

履修コード	117101
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	みずしま おきむ 水島 治

講義の到達目標(ねらい)

1, 本講義の目的
本講義の目的は、商法総則(商法1~31条)及び商行為(商法501~683条)に関する基本的な制度概要と解釈論的問題を解説することにあります。

2, 本講義の到達目標

本講義の到達目標は、(1) 商法の基本的な制度の趣旨や内容を理解してもらうこと、(2) 簡単な事例について商法総則又は商行為法の規定を適用して法律関係を説明できるようになること、(3) 基本的な判例や学説を具体的に適用することで法令の適用に必要な解釈論的な処理ができるようになること、の3点にあります。

講義の内容/
授業スケジュール

講義で扱う内容は、商法総則の範囲として①から⑥、商取引法の範囲として⑦から⑬となります(講義の進行上、順序は若干入れ替わる可能性があります)。扱う内容や履修者の理解度等にもよりますが、原則として、各テーマに関して数回に分けて講義を行ない、前期に商法総則の領域、後期に商行為法の領域を主として扱うこととします。

- | | |
|---------|--------------|
| ①商法総則総論 | ②商人・商行為 |
| ③商業登記 | ④商号 |
| ⑤商業帳簿 | ⑥商業使用人・代理商 |
| ⑦商事契約総論 | ⑧交互計算 |
| ⑨匿名組合 | ⑩仲立営業 |
| ⑪問屋営業 | ⑫運送取扱営業・運送営業 |
| ⑬寄託 | |

準備学習

- 1, 講義の対象となる条文は、事前に六法等で確認してきて下さい。
- 2, 余力があれば、テキスト等で該当する部分を読んできて下さい。
- 3, 民法(財産法)の知識を多用しますので、民法に不安のある人は、あらかじめ復習しておくことを勧めます。

履修上の留意点

- 1, 履修を必要とする科目
民法の財産法分野(総則、物権、債権)は、必ずすべて履修しておくことが必要です。当該科目を履修していない場合には、本講義の単位取得は相当難しくなると考えられますので、くれぐれも注意して下さい。

2, 講義は、基本的には商法本法の解説が中心となります。

このため、不正競争防止法、商業登記法、国際海上物品運送法のような商法以外の付屬法令や関連法令に関しては、本講義では最小限度で扱うものとします。また、保険法、海商法、金融商品取引法に関しては、本講義の対象外となりますので、これらの講義の履修が必要な学生は該当する科目を履修して下さい。

3, 会社法の取扱い

会社法総則(会社法1~24条)は本講義の範囲と重複する限りにおいて、講義で併せて説明しますが、それ以外の会社法の規定は本講義では扱いません。別途、会社法の講義を履修して下さい。

成績評価の方法

- 1, 期末試験の成績
- 2, 出席は取りません。また、レポートや中間試験等についても実施しない予定です。

本講義は、期末試験一本での成績評価ですから、単位認定に関する救済措置はありません。履修に際してはくれぐれも注意して下さい。

教科書/テキスト

1, 六法

小型のものでかまいませんが、必ず最新版(平成22年版)を用意して下さい。また、判例付きの六法は、期末試験等に持ち込むことを禁止しますので、その点を考慮して六法を選択して下さい。

2, レジュメ

本講義は基本的にレジュメで進行しますので、必ず持参して下さい。

3, 教科書

レジュメで講義しますので、教科書を購入して頂く必要はありません。

4, 参考書

参考書に関しては、第1回講義時に文献リストを配布して説明します。

参 考 書
そ の 他

第1回講義時に配布する参考文献リストで説明します。

- 1, 期末試験だけの成績評価ですから、無理に講義に来てもらう必要はありません。
- 2, 講義中に私語や携帯電話をすること等は、他の学生の履修の妨げになることは厳に謹んで下さい。
- 3, 担当者は非常勤講師ですから、質問等に関しては講義終了時に受けることになりますので、その点はあらかじめ了解して履修判断をして下さい。

履修コード	117601
科目名	法思想史
担当者名	高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

法に関する概念や用語が生まれてきた歴史的、哲学的背景や世界観に遡って検討するのが法思想史の役割である。これには二つの側面がある。一つは、中核的な概念の由来や変遷を知ることにより現代法を形成する要素の理解を深めることである。しかし同時に、様々な思考様式に触れることによって近代的思考を相対化し、実はそれが或る特殊な一様式なのだということを自覚する、ということも重要である。

なお題材はヨーロッパの法思想史にほぼ限定される（東洋および日本固有の法思想を扱うことはできない）。講義の理解のためには、最低限の世界史的知識が必要だが、講義時間内においてはそこに時間をさくことはではないので、そうした点について不安のある受講者は自学自習して講義に臨んでもらわねばならない。また20世紀以降の法理論史については本講義ではとりあげず、むしろ法哲学講義の方で扱うことになるのでそちらを参照されたい。

以下に掲げる時系列に沿った講義を柱とし、その過程でいくつかの重要な法概念については、時代横断的な考察をも交えていく。

第I部 古典的自然法論とその背景的世界像

[1] 講義のねらい、対象、重点、注意事項などについて / プラトンの法思想：『国家』を中心に考察する

[2] アリストテレスの法思想：アリストテレス哲学の基礎理論を考察する

[3] アリストテレスの法思想（続）：正義論、政治体制論を中心に考察する

[4] キリスト教とローマ法：ヨーロッパの法律学・法思想を規定してきたキリスト教およびローマ法に由来する諸概念・思想について概説的な紹介を行なう。

[5] 中世自然法論：トマス・アクィナスの自然法論を中心に論ずる。題材は主として『神学大全』に拠る。

第II部 近代自然法論の思想

[6] 近代的世界像と社会契約説総説

[7] ホブズの法思想：『リヴァイアサン』を中心に考察する

[8] ロックの法思想：『統治論』を中心に考察する。また特に、所有権論史におけるロック所有権論の意義に着目する

[9] ルソーの法思想：『社会契約論』『不平等起源論』を題材に考察する / 近代自然法論まとめ

[10] カントの哲学と法思想 批判哲学の意義とその法理論への展開を考察する。特にカントに於ける「公論」の意義を検討する

第III部 19世紀以降の法思想・法律学の潮流

[11] 近代市民社会の思想：18世紀～19世紀の自然法論の果たした役割、およびヘーゲル法哲学について論ずる

[12] 19世紀の法律学の動向：歴史法学・概念法学についてとりあげる。

[13] 概念法学批判

[14] 法実証主義の諸形態

[15] 現代法理論の動向

履修上の留意点

とりあげる著作の原文抜粋を中心としたプリントに説明を加える形式で講義を進める。受講者はプリントを駒澤大学 e-ラーニングページ YeStudy からダウンロードして持参すること、さらに毎回の該当箇所を事前に読んで上で講義に臨むことが要求される。YeStudy については、下記「関連リンク」を参照のこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験と平常点によって評価する。平常点には小テスト、課題レポート等が含まれるが、これらは加算点にのみ用いる（定期試験のみを受験するのでもかまわないということ）。

教科書/テキスト

教科書としては特定の書籍を指定しないが、講義の理解を深めるため、法思想史全般の概観ができる図書を手に置き、予・復習に役立てることを推奨する。次項の参考図書参照。

参 考 書

法思想史に関する概説書の例として

・三島淑臣『新版・法思想史』（青林書院）4,854円：講義内容をさらに深く掘り下げて勉強したい場合に有益であろう。

・深田三徳、濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房 2,730円）；田中成明他編『法思想史』（有斐閣 S シリーズ 1,800円）：法思想史の流れを大まかにつかみ整理するのに役立つだろう。

上記の他、講義でとり上げる思想家の著作原著については、そのつど指示する。

関 連 リ ン ク

<https://yesstudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	118001
科目名	刑事政策
担当者名	かくしろう 豊和

講義の到達目標(ねらい)

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 受講のガイダンス

刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。

第2回 犯罪学の歴史と展開

その起源から近代学説までを学ぶ。

第3回 現代犯罪学の課題

ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。

第4回 犯罪の理念

犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。

第5回 刑事政策と暗数

犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。

第6回 犯罪の原因(1)

身体的・生理的要因について学ぶ。

第7回 犯罪の原因(2)

個人環境的要因について学ぶ。

第8回 犯罪の原因(3)

社会環境的要因について学ぶ。

第9回 刑罰の意義・機能・沿革

意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。

第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。

第11回 自由刑

意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。

第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。

第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。

第14回 少年保護手続

家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。

第15回 定期試験(予定)

第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。

第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察

微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。

第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。

第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判

量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。

第20回 矯正の意義・目的

矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。

第21回 受刑者の処遇

法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。

第22回 犯罪の予防

意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。

第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。

第24回 恩赦・資格制度

恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。

第25回 被害者補償

意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。

第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。

第27回 各種犯罪と対策

組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。

第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。

第29回 まとめ 討論及び質疑

第30回 定期試験

初回の授業において指示する。

定期試験および平常点

斉藤・覚正「刑事政策論(2007年)」(八千代出版) 3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3

授業において指示する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	<small>にしやま としお</small> 西山 敏夫

講義の到達目標(ねらい)

大陸法を学んだ我々にとり理解しにくい英米法の側面に重点を置き、主要な実体法概念の発展過程を探求することを目的とする。

前期は、英米公法成立の過程を概観したのち、米国憲法のリーディング・ケースについて検討する。また、後半では、企業買収に関する英文契約書を材料にして、英文契約書の読み方を練習する。

後期は、英米私法について考察するが、特にその基礎であるコモンロー、エクイティの発展、その応用である信託・フィデュシャリーに焦点を当て、英米私法の特徴を考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 前期

- ①英米公法の成立と特徴 (4回)
- ②米国憲法の原則とリーディング・ケース (4回)
- ③英文契約書の読み方と演習 (5回)

2. 後期

- ①コモンローの成立と発展 (3回)
- ②中世不動産法と発展 (3回)
- ③近代契約法 (2回)
- ④信託とユース (3回)
- ⑤フィデュシャリーとコーポレート・ガバナンス (2回)

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

英米判例百選第三版 (有斐閣)

英米法総論 上 (田中英夫, 東大出版会)、英米法の歴史家たち (ハウルズワース, 創文社)

試験準備には講義ノートが最も有効である。各自注意して出席し、ノートをとること。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

履修コード	118601
科目名	仏法
担当者名	上井 長久

講義の到達目標(ねらい)

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論と、それらの理解に必要な社会的背景および歴史を講義する。フランス法は、我が国の母法の一つとして重要であるばかりではなく、近代国家として、いち早く成文の憲法、諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫としても重要である。

本講義は、フランス法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法・公法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法・公法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の法をも本講義の課題としている。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として、或いは統一・整備され、或いは断絶・改良たものである。フランスの近現代の法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法・公法の序論と歴史と称する領域を原典資料(法文、判例、学説、一般論述等)により理解しようとするものである。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義は、まず、近現代のフランス私法・公法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化について、近現代の私法・公法上の個別的問題と関係づけながら考究し、次いで、法典編纂および判例の役割という、伝統敵かつ現代においてもなお重要な私法・公法の基本的問題について、それまでの歴史的経緯を踏まえて、現代的意義を検討する。

第1回：フランス法の概要、近年の法的諸問題、第2回：フランス人権宣言の法的効力、第3回：フランス現行憲法前文の法的効力、結社の自由に関する憲法院判決、憲法院の役割、第4回：革命期の諸人権宣言および諸憲法、第5回：1789年人権宣言の着想の背景・精神、第6回：法の支配、法治国家、第7回：ナシオン主権とプーブル主権、第8回～9回：身体の自由、第10回：個人的所有権の確立、第11回：権力分立、国会優越から大統領優越へ、第12回：1946年憲法前文の社会権―労働の権利義務、第13回：企業の国有化と私有化、第14回：生存権、福祉国家、第15回：第三世代の人権―国際的連帯権ないし協調権、第16回：法の下の平等―男女平等、子の平等、第17回：夫の優越から夫婦平等へ、第18回：法典編纂とその後の私法実定法の変遷、法典化・再法典化・非法典化、第19回：法典編纂の意義・目的、啓蒙期思想家による古き良き法、ナポレオンの5法典と王令・中間法、第20回：フランク王国の法―ゲルマン法とローマ法、世俗法と教会法、属人法、第21回：高期中世(制限王政期)の法、属地法、第22回：絶対君主制(旧体制)の法、第23回：革命期における民法典の制定経緯、第24回：委員会草案とポルタリス起草の序論、第25回：護民院との非公式交渉、第26回：判例の効力―判決の構造と判例、判例観の変遷(古法、中間法)、第27回：判決の既判力、判例の拘束力と創造力、第28回：判例の非拘束性の原則とその修正、司法裁判所・行政裁判所・権限裁判所、第29回：権利濫用論、第30回：法律の解釈と法学の法律学化(注釈学派、科学学派)

準備学習

予定された授業のテーマについて、教科書および参考書を中心にして概要を把握し、質問事項を用意して授業に臨まれると、授業内容をより深く理解してもらえます。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえます。

成績評価は、学年末の定期試験で行う。

上井長久著プリント版「Introduction au droit privé」、「Introduction au droit public」及び「Histoire du droit privé」(最初の講義の時に配付する予定)

参考書

ジャン・アンペール著三井哲夫=菅野一彦訳『フランス法制史』(白水社文庫クセジュ)、山口俊夫『概説フランス法 上』(東大出版会)、滝沢正『フランス法』(三省堂)

履修コード	118701
科目名	債権各論
担当者名	あおの ひろゆき 青野 博之

講義の到達目標(ねらい)

債権各論とは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」および第5章「不法行為」をいう。

たとえば、Aが自己所有の土地をBに売却する契約をBとの間で締結した場合には、Aは、Bに対して代金を払うように請求することができる。つまり、代金債権が発生する。また、Cの家にDの運転する車がぶつかって、家が壊れた場合には、Cは、Dに対して賠償金を払うように請求することができる。つまり、損害賠償債権が発生する。このように、債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生する。このような債権発生原因について考察するのが、債権各論である。具体的には、たとえば不法行為では、どんな場合に損害の賠償を求めることができるか、どのような損害の賠償を求めることができるかが問題となる。

なお、債権の発生原因のうち、債権各論で学ぶのは、契約、事務管理、不当利得および不法行為だけであるが、これらが債権発生原因の主要なものである。

講義の内容／授業スケジュール

第1～2回：契約の成立（申込、承諾）

第3～4回：契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担）

第5～6回：契約の解除

第7～10回：所有権移転型の契約（贈与、売買、交換）

第11～14回：貸借型の契約（消費貸借、使用貸借、質貸借）

第15回：これまでのまとめ

第16～20回：役務提供型の契約（雇傭、請負、委任、寄託）及びその他の契約

第21回：事務管理

第22～23回：不当利得

第24～29回：不法行為

第30回これまでのまとめ

準備学習

指定教科書の該当頁及びどの本でも掲載されている概念・制度などを事前に知らせるので、これを予習しておく、授業の際に学習することができることが多く、深くなるはずである。

履修上の留意点

できるだけ債権総論も受講してほしい。債権各論を理解するために重要な科目だからである。また、これ以外の民法の科目も受講すると、民法全体の理解につながる。

質問は大歓迎である。講義の中では、私からも質問するので、答えてほしい。双方向の講義を目指している。

成績評価の方法

質問した回数および私からの質問に対する解答の回数を重視する。解答が正しいかどうかではなく、考えて解答することに意味がある。安心して答えてほしい。

受講者がそれほど多くなければ、質問と応答による平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。試験を行う際には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教科書／テキスト

大島俊之ほか著『プリメール民法4・債権各論（第3版）』（法律文化社）2005年 2,700円（税別）、ISBN4-589-02876-X

教科書は上記のものを使うが、自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

参考書その他

講義に際して紹介する。

出席し、質問し、私からの質問に答える、積極的な学生であってほしい。

YeStudyを活用する。

履修コード	121701
科目名	基礎演習
担当者名	富井 幸雄 <small>とみい ゆきお</small>

講義の到達目標(ねらい)	憲法の基本事項を習得するとともに、憲法判例の読み方を会得する。教科書の熟読、判例の熟読、報告と討論を通じて、難解な憲法の理論を自分の肉とするとともに、公務員試験等の憲法の問題を解けるまでの実力を養成することをめざす。
講義の内容／授業スケジュール	教科書等のあらかじめ指定した箇所と判例を熟読した上で、受講生間で順番に報告し、それをもとに討論する。受講生主体で授業は運営され、教員は時々質問をしてさきやかに演習に参加する。教科書の理論を受講生同士の討論で確認し、関連する判例を検討して、憲法の理解を深めていく。前期は、憲法の基本原則と統治機構(国会、内閣、裁判所)について勉強する。後期は人権(自由権、社会権、平等権、国務請求権、新しい人権)をカバーする。前後期それぞれ最終授業時に試験を行う。
履修上の留意点	演習なので出席しなければ意味がない。通年で5回欠席すれば、その時点で単位認定の資格を失うものとする。遅刻の扱いについては開講時に決める。十分な事前の準備と予習をし、演習には積極的に参加する。演習での発言の内容は問わないので臆することなく議論に参加してほしい。ただし、明らかに予習してこなかったと認められるときは減点の対象となる。
成績評価の方法	平常点(出席と演習での Academic Performance (演習での積極性))と、前期と後期のテストで評価する。割合は平常点が50%、前期テストが20%、後期テストが30%とする。
教科書/テキスト	教科書として、芦部信喜・高橋和之補訂『憲法』(岩波書店)と、憲法判例百選I・II(第5版)を使用する。
その他	公務員や法科大学院進学希望者を主な対象とするが、そうでなくても憲法に関心がある者も歓迎する。1年間ゼミに参加しつづける強固な意志を持ち続けること。

履修コード	121801
科目名	基礎演習
担当者名	池田 実 <small>いけだみのる</small>

講義の到達目標(ねらい)	3年次からのゼミに備え、演習形式での研究発表や討論の方法を習得することを目的としています。憲法に関するさまざまな学説・判例に広く接し、基礎的知識を確認するとともに、担当教員の与える課題や学生から提起された問題について、全員が調べ、まとめ、報告し、討論することを通じて、憲法に対する多角的な視点と広い問題関心を育てていきます。
講義の内容／授業スケジュール	[前期](1)～(2)授業案内・入門的講義、(3)～(13)日本国憲法に関する演習(研究発表および討論) [後期](14)～(26)日本国憲法に関する演習(研究発表および討論)
履修上の留意点	演習は、教員と学生が一体となってつくりあげる授業ですから、遅刻や無断欠席は厳に慎んでください。
成績評価の方法	出席、研究報告、発言を総合的に評価します。(定期試験は実施しません)
教科書/テキスト	野畑健太郎・池田実編著『テキストブック日本国憲法(第2版)』(嵯峨野書院)2,700円+税 ISBN978-4-7823-0424-2 *教科書は毎回の授業に必ず持参すること。
参考書	授業時に適宜指示します。
その他	法令や判例を緻密にフォローする生真面目さと、若者らしい柔軟かつ大胆な発想で憲法を科学する遊び心とを兼ね備えた、バイタリティあふれる学生諸君の履修を期待します。

履修コード	121901
科目名	基礎演習
担当者名	おくむら こうすけ 奥村 公輔

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、最高裁判決の検討を通じて、憲法の基礎的知識を習得し、具体的事例を分析する能力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール 準備学習	初回の授業において、扱う最高裁判決とその報告者を決定する。2回目以降の授業では、報告者がレジュメを作成し、報告を行う。その報告をもとに、受講者全員で質疑応答・討論を行う。報告者は、報告の1週間前にレジュメを提出する。報告者以外の受講者も、その回に扱う最高裁判決を必ず読んでくること。各自疑問点を用意してくることが望ましい。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	通年で5回以上無断欠席すれば単位を認定しない。 平常点による。 大石眞・大沢秀介編『判例憲法』有斐閣、2,700円＋税、ISBN:978-4-641-13049-4 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選Ⅰ(第5版)』有斐閣、2,095円＋税、ISBN:978-4-641-11486-9 高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『憲法判例百選Ⅱ(第5版)』有斐閣、2,095円＋税、ISBN:978-4-641-11487-6

履修コード	122001
科目名	基礎演習
担当者名	むかいだ まさる 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)	この基礎演習では、3年次以降に民法や憲法などの専門演習に参加することを希望する学生を念頭において、私の専門である民法を中心に、民法、憲法などの近代法の基礎を学び、さらに近代法成立の基礎となった近代市民社会がいかに成立したかを検討していきます。民法、憲法などの近代法の基礎を学んで3年次以降の専門演習に備えること、さらにそれらの法律が生まれる基礎となった近代市民社会の政治的、経済的、思想的な特質を理解することが目標です。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず演習参加者全員で民法の基礎について書かれた文献などをあらかじめ読み、報告者を決めてその内容について発表をしてもらい、それをもとに全員で議論をします。これらの課程を通じて文献の探し方、レポートの作り方、発表や議論の仕方を学びます。これが基本となりますが、さらに演習中には高校時代に学んだ日本史、世界史などの社会科学の知識を確認したり、大学に入ってから学ぶ経済学や政治学などの法律学以外の社会科学にも言及したりして、法と歴史、法と経済、法と政治などの関係について基礎的な理解を深めたいと思います。これにより大学の法学部における学習の体系化を図り、より実り豊かなものにしていければと思います。
履修上の留意点	民法など法律学の基礎をしっかりと学び、法律学の学習を将来の自己の進路希望に役立てることを真剣に考えている学生の演習参加を希望します。
成績評価の方法 教科書／テキスト その他	出席、発表、議論参加などから総合的に評価します。無断欠席は厳に慎んでください。 演習の始めに指示します。 コンパ、合宿を予定しています。

履修コード	122101
科目名	基礎演習
担当者名	和知 恵一

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、三年度以降における民法の専門演習に参加するために必要な基礎知識を整理・確認し、より高度な研究に対する準備を行うことを目的とします。判例や関連文献の収集方法および利用の仕方、レポート・論文の作成方法、報告（プレゼンテーション）・討論の仕方などを修得することに努めてもらいます。コンピュータリテラシーの向上も目的としております。

講義の内容／授業スケジュール

前期は、最初に民法総則に関する基本的なテーマで、レポートを作成してもらいます。その後数回は、民法の基礎知識の確認を行ないながら、必要な範囲でレクチャーします。確認がすんだ時点で、事例問題を出题します。全員に夏期休暇を利用してレポートを作成してもらい、後期開始時に提出してもらいます。その際、全員をいくつかのグループに割り当てますので、数名のグループごとに報告を行っていただきます。その報告を基に、全員で議論をし、理解を深めます。

履修上の留意点

その後はパソコン室に移動します。毎回各人に課題を与えますので、コンピュータを利用して報告してもらいます。さらに各自が興味・関心を持った具体的問題について、それぞれがレポートし、全員で議論する場を持ちます。最終的には、ゼミ論を提出してもらいます。

成績評価の方法

全員がレポート作成・発表・討論に参加することが義務付けられます。したがって、自主性・積極性・責任感を持った、意欲有る学生の参加を期待します。又コンピュータを利用して、インターネットにアクセスし、判例や文献の検索を行ないますので、多少コンピュータの知識があることを希望します。受講前に必ず学内コンピュータ使用のIDを取得し、パスワードを確認しておいてください。コンピュータが得意でない人も丁寧に指導いたします。

教科書／テキスト
その他

受講態度、提出レポート、報告内容（プレゼンテーションの出来）、ゼミ論などを総合的に評価します。出席することは当たり前のことであり欠席や遅刻は減点とします。適切な理由があるときは、届け出ることで、減点はしません。

法令集（六法）を必ず持参すること。その他については、授業中に適宜指示します。

理由のない欠席があった場合は退ゼミしていただきます。年に数回のコンパを行う予定です。

履修コード	122201・122301
科目名	基礎演習
担当者名	今尾 真

講義の到達目標(ねらい)

具体的事例（判例・教室説例）を素材として、民法の知識および経験則を総動員して、紛争を解決する際の法的なものの考え方（法的思考法）を身につけ、その考え方を実際に紛争に当てはめ妥当な結論を導く（法解釈学の技術的訓練）という能力を養成する。

講義の内容／授業スケジュール

本演習は、民法の考え方、文献の読み方、討論の仕方、文章の書き方の訓練を行う。参加者は、教科書の指定されたテーマに関する諸文献を検索・熟読すること（読む）、法的争点を抽出してこれをめぐる判例・学説の解決策の可否を自分の頭で考えること（考える）、自分の考えを明快に展開して他人と討論できること（論ずる）、レポートにまとめること（書く）等が要求される。前期は、(1回) イントロダクション、(2～8回) 民法総則の重要判例、(9～14回) 物権法の重要判例 (part 1)、後期は、(1回～7回) 物権法の重要判例 (Part 2)、(8～14回) 債権総論の重要判例を素材として演習を行う。なお、授業スケジュールについては4月に詳細情報を確認のこと。

履修上の留意点

①ゼミはわたくし今尾とゼミ員との高度な信頼関係のもとに運営されるので、ゼミに休まず出席すること。②サブゼミ（事前学習会）は自覚と責任感をもって行うこと。これができない者は単位認定が困難である。③毎回のゼミで必ず発言することを心がける。④高い理想をもって、日々精進すること。

成績評価の方法

出席点・演習での発言内容等を総合評価。特に、判例報告における質の高いプレゼンや予習や普段の勉強に裏打ちされたレベルの高い発言を重視する。なお、レポート課題を課すかどうかについては、初回演習時に話し合いで決める。

教科書／テキスト

中田康裕・潮見義男・道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ〔第6版〕』有斐閣（2009年）を基本テキストとして、適宜重要判例を補足する。

参 考 書

(1) 星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選Ⅰ総則・物権〔第五版〕』(有斐閣) 別冊ジュリスト159号2001年。(2) 内田貴、大村敦志／編『民法の争点Ⅰ(総則・物権・親族・相続)』(有斐閣) ジュリスト増刊2007年。(3) 川井健・鎌田薫・平野裕之編『新判例マニュアル民法Ⅰ〔総則〕』(三省堂) 2000年。

そ の 他

各種国家試験・資格試験等を受験する者には、任意提出によるレポート・答案添削も行う。また、前期・後期の最終授業では、4時限と5時限の合同ゼミ発表会（対抗ゼミ）を行う予定である。とにかく、積極的・主体的にゼミに臨みたいと思う学生は参加されたし。

履修コード	122401・122501
科目名	基礎演習
担当者名	<small>むらき やすひさ</small> 村木 保久

講義の到達目標(ねらい)

教えてもらう勉強でなく、自分で学ぶ勉強することを目的とします。

刑法総論を中心に法律一般についての基本的な知識を確認し、専門ゼミに備え、基本的な研究方法(文献や判例の調べ方・読み方、レジュメの作成方法)および法的・論理的な思考方法を、研究テーマの報告と議論を通じて学びます。

さらに、適宜、時事問題を法的な視点から分析することも試みます。

刑法総論の基本的な論点について、担当したグループがレジュメを作成し報告します。そのうち、その報告についてそのほかのゼミ員全員で質疑を行います。

第1回授業にあたっての注意を述べ、課題の分配などを予定しています。

第2回学派の争い(レジュメおよび報告の例を示しゼミの進め方を学ぶ)

第3回以降のテーマ(予定):因果関係、行為と不作為犯、正当防衛の要件、

緊急避難の法的性格、被害者の承諾、安楽死、結果的加重犯、責任能力、原因において自由な行為、故意の内容、過失の構造、事実の錯誤と法律の錯誤、未遂と中止、共犯の概要、共謀共同正犯

なお、報告内容・質疑の状況によっては複数回にまたがってそのテーマを研究することもあります。また、テーマとは別に時事問題を取り上げ説明することもあります。

履修上の留意点

演習なので報告者以外の者も積極的に参加することを期待します。

報告者は報告1週間前にレジュメを作成し提出すること。前期と後期でそれぞれ一回、年間2回報告を担当します(予定)。

成績評価の方法

平常点で評価します。

出席および演習への参加の態度-レジュメ、報告内容および講義時間における質疑-などにより評価します。

教科書/テキスト

とくに指定しません。

参 考 書

講義時間内に必要に応じて指示します。

そ の 他

ゼミ形式で報告担当者が作成したレジュメを配付します。

4限・5限でゼミ員があまりにも偏在する場合には人数調整をする場合があります。

履修コード	122601
科目名	基礎演習
担当者名	<small>かくしやう とよかず</small> 覚正 豊和

講義の到達目標(ねらい)

この演習は刑事法における基礎的な問題の考察を通じて、法的知識を修得するとともに法的思考を形成することを目的とする。

犯罪の成立要件である構成要件該当性、違法性、責任についての基本的な問題は勿論、死刑、保安処分、児童虐待、家庭内暴力、ストーカー、少年犯罪や各種犯罪および犯罪被害者補償などについて扱っていきたいと思っている。おおむね以下のような進行予定である。

(1) ガイダンス

(2) 演習の運営について

(3) 刑事法学の研究方法、文献、判例の調べ方

(4) ~ (10) 各自発表テーマの設定と準備の仕方(レジュメの書き方)

・テーマ設定の理由、・テーマの関する争点や問題点、・テーマの関する学説の検討、・テーマの関する判例の検討、・テーマの関する諸外国の実態、・テーマの関する自分の意見

(11) ~ (25) 個別報告

(26) 総括

履修上の留意点

演習は講義科目と異なり、ゼミナリス滕の主体的、積極的な参加により成り立つものであることを心がけて欲しい。

成績評価の方法

出席状況と平常点で総合評価する。

教科書/テキスト

齋藤・覚正「刑法への招待(総論)2007年」(創成社)800円 ISBN978-4-7944-5015-9

齋藤・覚正「刑法への招待(各論)2007年」(創成社)800円 ISBN978-4-7944-5016-6

参 考 書

参考書は授業時に適宜指示する

そ の 他

時間の許す限りにおいて、刑事裁判の傍聴や刑事施設の見学等を行いたい。

履修コード	120401・120402
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	主 志安 <small>おう しあん</small>

講義の到達目標(ねらい)	英語で書かれた、国際法教科書を使って、英語の読解力の向上をはかると同時に、国際法についての理解を深める。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習形式で行う。履修生は、あらかじめ指定された箇所を全員が読んで訳文案を作成し、毎回あらかじめ指定する担当者の訳を素材に、全員がその内容を検討する。進行度は履修生の英語読解力によって異なるので、年間の細かいスケジュールを立てることはせず、読解力と理解力の深化に応じて、一回ごとに読み進む分量を増やすようにする。
履修上の留意点 成績評価の方法	十分な準備が必要になる。毎回、自分が報告担当者になるつもりで、十分な準備をすること。毎回の出席および討論参加をもとにした平常点と、11月末に課する共通課題英文の翻訳レポート成績をあわせて判定する。
教科書／テキスト	あらかじめ指定することはせず、年度当初に複数呈示する入門書のなかから、履修生の希望によって、用いるテキストおよびその該当箇所を決定する。決定したテキストはコピーで配布するので、履修生が購入する必要はない。
参 考 書	随時指定する。

履修コード	120701・120702
科目名	外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）
担当者名	松村 格 <small>まつむら いさる</small>

講義の到達目標(ねらい)	ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ることが目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することになります。そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。
準備学習 履修上の留意点	必ず授業の進捗予定分の翻訳予習をすること。毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書を参考にしながら、講読すると理解しやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。
成績評価の方法 教科書／テキスト	普段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。
参 考 書	未定。第1回目の授業に配布します。

履修コード	120801・120802
科目名	外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）
担当者名	荒木 正孝 <small>あらかさ まさたか</small>

講義の到達目標(ねらい)	わが国が近代国家として出発するとき、フランスをはじめヨーロッパ諸国の法制度や政治制度に多くを学んだ。そして、その諸制度は現在もわが国を支える基本的な法的・政治的枠組みとなっている。これらの諸制度が、本来どのような考え方を基礎として生まれ、どのような社会的、経済的、政治的背景のもとに発展してきたのかについて、フランス語の原書の講読を通して母国法の思考や事情を学び、わが国の制度をより広い観点から深く理解する力をつけてもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	教材は、受講生のフランス語の学力に合わせ、公法や私法の基本的な考えや政治の仕組みなどを易しく解説した原書の文献を選ぶつもりである。
準備学習 履修上の留意点	授業の中で必要に応じて指示する。 履修にあたっては、基礎的なフランス語の学力が必要である。また、根気よく文献の解読に取り組む熱意のあることが求められる。
成績評価の方法 教科書／テキスト	成績は、出席の回数と平常の努力を評価して行う。ペーパーテストは行わない。
参 考 書	教材については、必要に応じてプリントを配布する。 参考書は、授業の内容に応じてその都度紹介する。

履修コード	120901・120902
科目名	外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）
担当者名	<small>いわさき ひろし</small> 岩崎 皇

講義の到達目標(ねらい)	社会問題や犯罪等のニュースを通して、中国の今を知ること。 文章の訳読を中心に授業を進めます。
講義の内容／ 授業スケジュール	
履修上の留意点	授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由（急病、急用、忌引、部活動等）により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。 また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。
成績評価の方法	4分の3以上の出席を前提に、前期後期それぞれ1回行う試験によって評価します。
教科書／テキスト	インターネット上で見られる新聞記事を元に教材を作成します。

履修コード	122701・122702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>なかつ ひでゆき</small> 中田 英幸

講義の到達目標(ねらい)	本演習の目的は、財産法（民法総則・物権・債権）に関する判例を素材として、民法の解釈を学習することにある。紛争が発生した経緯を理解し、望ましい結論（法的判断）を考えることにより、法の運用を学び、法的思考を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	（3年生）前期は、財産法に関する基本判例を演習の素材とする。演習参加者は、初回に報告する判例を選び、報告前にレジユメの配布・参考文献の指定をすること。後期は、最近の判例を演習の素材として前期と同じく報告をする。演習の進め方は前期と同様である。なお、報告者は、演習での質疑応答を踏まええたレポートを作成する。 前期・後期ともに、適宜基礎知識の確認を行う。 （4年生）
履修上の留意点	卒業レポートの作成を目標とする。自ら法的課題を見出し、検討を加え、結論を導く。演習において卒業レポートの中間報告を行う。 以上の内容は、演習参加者の希望や参加人数によって変更することがある。
成績評価の方法	民法に興味を持ち、勉強する意欲があることが大前提である。 必ず毎回出席し、積極的に発言すること。 報告内容、演習での発言、レポートにより評価する。発言は、結論よりも、結論に至るまでの理由づけや思考過程を重視する。
参 考 書	演習にて適時指示する。

履修コード	123401・123402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>いのうえ けんいち</small> 井上 健一

講義の到達目標(ねらい)	条文や判例あるいは学説の理解のみならず、紛争解決のために具体的な事実をどのように法律の議論にあてはめるかという観点から、商法判例のうち、特に実際の取引実態が判決・決定の結論に影響を及ぼしている——言い換えれば事実から離れた法律論だけでは勝負がつかない——ものを選んで報告・議論する。会社法・商行為法・保険法・証券取引法を主として取り上げる。いわゆるビジネスローに興味がある学生諸君の参加を希望する。
講義の内容／ 授業スケジュール	配布文献の輪読を行う。基本的には事例・判例を中心に1回1文献を読んでいくことになるが、メンバーの興味に従ってさまざまな変更はあり得る。
履修上の留意点	会社法、商法総則・商行為法、保険・海商法を履修済か、履修中であることが望ましい。最低限、会社法だけは履修済であること。
成績評価の方法	出席、報告、議論への参加・貢献によって評価する。出席点は基本的に減点法（欠席・遅刻の都度、点数をマイナスしていく）による。
教科書／テキスト	必要に応じてコピーを配布する。
参 考 書	適宜紹介する。
そ の 他	アフターゼミは必要に応じて行う。合宿等は予定していない。
関 連 リ ン ク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/

履修コード	123501・123502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい) 社会保障法の体系的理解を深めるとともに、ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 本演習では、施設見学やインタビュー調査などを通じて社会保障の実態を体感しながら、社会保障法の各部門の基本的な体系と現状、法解釈上の論点及び立法論上の課題を法律学の視点から検討する。

演習Ⅰ（3年次）では、社会保障法の体系的理解を深めるとともに、1年を通じて検討する社会保障に関する法的問題を設定し、ゼミ全体で取り組む。検討の成果は、ゼミ論文集としてまとめる。次いで、演習Ⅱ（4年次）では、受講生各自の問題関心に沿ってゼミ論文を執筆し、ゼミ論文報告会を行うとともに、ゼミ論文集としてまとめる。

履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他 「社会保障法」及び「社会政策」を必ず受講すること。

平常点による。

労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2010』（労働調査会、2010年）

適宜紹介する。

ゼミ合宿（夏期・冬期）やコンパ、OB・OG会への参加を通じてゼミ生間の交流を深め、社会保障に大切な支えあいの絆を築いてもらうことも大切にしている。

履修コード	123601・123602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わりつつあります。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行など多くみられるのもその表われです。演習は、この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今までの労働法理の基礎を自ら学びとる場です。到達目標は、自らの関心事を自ら調べ読み学び理解を深め理解したところを発表するそしてまた理解してもらえなかったところ理解不足だったところなどを自ら体得することです。

講義の内容／授業スケジュール 本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深めたところで発表し、議論をする方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。夏季には研究合宿を行ないます。

準備学習 4月授業開始前に、3回ほど課題を提出してもらいます。通常授業時の準備学習は、予めどのようなテーマの報告がなされるかはみんな知っていることなので、ここに書くまでもないことですが、報告者以外の者は、当該テーマの予習を判例百選や教科書を読んで、質問事項を用意しておくことです。報告者が準備をしていくことは言うまでもありません。

履修上の留意点 演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。

ゼミ運営や懇親会にも積極的に関わることが大切だと考えています。

成績評価の方法 講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

教科書／テキスト 出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法』（エイデル研究所 2009）。

菅野和夫著『労働法』（弘文堂）

労働判例百選

労働法の争点

参 考 書 必要に応じて、(調べ方)を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自分で探すことが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	123701・123702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まつもと ひでとし 松本 英俊

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅰ・Ⅱでは、刑事手続全体を概観した上で、捜査および公判段階における問題を扱う。判例を中心に具体的事例に則して、捜査・公判段階の主要な論点について、問題の所在や学説などを検討し、解決の展望を探る。

講義の内容／授業スケジュール履修上の留意点

テキストや基本書の輪読を中心に行い、刑事訴訟法の基礎的な知識を身につける。判例百選や判例集掲載の主要判例や比較的最近の判例を素材に、事例を作成し、討論形式で事例研究を行う。

刑事訴訟法、刑法、刑事法関連科目を履修していることが望ましい。

グループ分けをして、全員で議論するので、自分の見解を持った上で参加し、議論に際しては積極的に発言すること。

成績評価の方法

授業での報告および発言などにより、総合的に評価する。適宜、レポートを課し、その結果も参考とする。

教科書／テキスト

未定

参考書

松尾浩也・井上正仁編『刑事訴訟法判例百選（第七版）』（有斐閣）2,100円

その他

授業では、報告者の報告に基づいて、全員で討論を行う。

履修コード	123901・123902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	かねこ しゅうへい 金子 昇平

講義の到達目標(ねらい)

本演習においては、行政上の諸制度、行政法規の仕組及び複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代のあるべき行政法理論について理解を深めていきたい。

講義の内容／授業スケジュール

ゼミ生の関心のあるテーマについて、判例研究及び、学術論文の書評を行い、参加者全員と共に、議論をつくりたいと思っている。演習の内容については、例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題、高齢者の問題、福祉の問題等である。

①環境の問題

東京大気汚染事件、熊本水俣病事件、田子の浦ヘドロ事件、大阪空港事件、名古屋新幹線事件、横田基地・厚木基地事件、国道43号線事件、武蔵野マンション事件、国立マンション事件

②教育の問題

学問の自由と学生の自活、ポポロ事件、教育を受ける権利と教育権、私立大学における学生の思想、表現の自由、校則の問題、いじめ事件、学生処分と教育的裁量権、学校事件

③公務員の問題

公務員関係の法的性質、公務員における不利益処分と救済、職員の措置要求権、職員の財産上の権利、安全配慮義務、公務傷病等に対する補償を受ける権利、服務・職務命令と服従義務、職務上の秘密の意義、公務員の労働基本権

④地方自治の問題

地方公共団体の情報公開・直接請求、住民投票、青少年保護育成条例、公安条例、要綱による開発負担金、公営住宅の使用関係、議会と政務調査費、議員の研修旅行、教育委員会の公開原則、住民監査請求、住民訴訟、国民健康保険

⑤租税の問題

租税法律主義の意義、サラリーマン税金訴訟、租税回避行為の否認、所得控除の意義、固定資産税訴訟、消費税、輸入禁止措置と検閲、租税訴訟における文書の提出の申立て

⑥医療の問題

診療記録閲覧請求、予防接種事件、ハンセン病事件、健康食品と医薬品の意義

⑦高齢者の問題

高齢者虐待防止法、高齢者の在宅介護、特別養護老人ホーム、老人保健施設

⑧福祉の問題

生存権と生活保護基準、福祉法にかかる問題

年二回、七月、二月にゼミ合宿を行い、研究の成果を発表し、討論を行う。

年二回、公的施設の見学会を行う。

履修上の留意点

ゼミ生は、あらかじめ該当する判例、法令等を読みこなして欲しい。六法を持参すること。

判例、論文、法律を知ることだけではなく、現実の社会の実態についても、調査し、国・地方公共団体に出向いて、担当者と面会し、取材してもらいたい。

成績評価の方法

出席（ゼミ、見学会、合宿等）により評価する。

教科書／テキスト

適宜指示する。

その他

発表者は、レジュメを作成し、論点及び、自分の意見を発表する。全員が、議論に参加出来ることを望む。

履修コード	124001・124002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>むかいた まさみ</small> 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、判例研究を通じて、民法を基礎から学びます。民法の基本判例を読みながら民法における基本的なものの考え方、法的思考の基本を学び、演習参加者が裁判実務、ビジネス法務実務、行政実務等それぞれの進路においてその知識を活かす術を学ぶことが目標です。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず判例百選等でとりあげられるような基本判例を読みながら民法の基礎的な論点を学習し、それを通して判例の読み方、教科書のまとめ方、本文などの資料調査と研究報告の方法について学びます。次に10月くらいからになるとと思いますが、最高裁判所民事判例集等から最新の判例をゼミのグループ単位で選び、判例のなかから民法解釈論上の論点を抽出し、従来の学説、判例に照らし合わせながら検討するという作業を行います。最後に時間があれば参加者が各自、関心のあるテーマにつき個別に報告、レポートを提出してもらいます。
履修上の留意点	民法の基礎をしっかりと学び、民法の学習を将来の自己の進路希望に役立てることを真剣に考えている学生の演習参加を希望します。
成績評価の方法 教科書／テキスト その他	出席、発表、議論参加などから総合的に評価します。無断欠席は厳に慎んでください。 演習の始めに指示します。 コンパ、合宿を予定しています。

履修コード	124101・124102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>たけなか あか</small> 竹中 智香

講義の到達目標(ねらい)	民法第4編の「親族」と第5編の「相続」は私たちの生活に最も身近な家族生活を規制する法律です。私たちの家庭生活を取り巻く環境は、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的变化、少子化・超高齢化、女性の社会進出、戦前の家督相続から庶子均分共同相続への変遷、近年増加してきた遺言制度の利用等々に対して、日々刻々と変化しつつあります。このような変化に対して親族法、相続法がどのように対応しているか、どのような限界があり、どのように改善を図るべきなのかについて、判例を題材にして、毎回学生諸君に報告をしてもらい、その報告をもとに参加者全員で検討・考察します。こうした作業を通して報告の仕方、議論の仕方、法的考察力等の取得を目指します。
講義の内容／ 授業スケジュール	[前期] 親族法における問題点 [後期] 相続法における問題点
履修上の留意点	講義とは違い、少人数で行う演習は、ゼミ生同士あるいはゼミ生と教員との議論が可能です。こうした議論をするためには、十分な準備とともに、毎回の出席することが大変重要となります。
成績評価の方法	報告の内容の評価以外に、毎回の出席と、出席時の参加の様子等を考慮して、総合的に評価します。
教科書／テキスト	『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣) 大村敦志『もうひとつの基本民法I』(有斐閣)
参 考 書	内田 貴『民法IV 親族・相続』(東京大学出版会)

履修コード	124201・124202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>あおの ひろゆき</small> 青野 博之

講義の到達目標(ねらい)	民法に関する判例や事例を用いて、具体的な判断能力を養うことを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	演習受講者をグループに分けて、そのグループ毎に、テーマを自由に選択する。テーマは民法に関するものであれば、分野は問わない。テーマは、判例から取り上げられることが多いが、マス・メディアで報道されたばかりのものでもよい。
準備学習	テーマに関する資料の要旨(レジュメ)が1週間前に配布されるので、そのレジュメに掲載されているテーマについて、自分の持っている本を読み、図書館で調べておくこと。
履修上の留意点	担当グループは、テーマに関する資料の要旨(レジュメ)を少なくとも1週間前に配布すること。 演習をどのように進めていくかは、それぞれの担当グループにゆだねる。担当者が報告し、(指名しながら?)質疑応答する場合、担当者が裁判官の役割を果たし、他の者を原告・被告に分けて議論する場合などが考えられる。
成績評価の方法	出席して、しっかり発言をしたか、担当者として十分な準備をしたかなど総合して判断する。ゼミは、発言することがポイントである。そのことを基準として、成績を評価する。
教科書／テキスト	指定しない。
参 考 書	判例を扱うときは、民集(最高裁判所民事判例集)などの判例集を丁寧に読んでくること。
そ の 他	議論に積極的に参加し、たくさん発言する学生であってほしい。

履修コード	124301・124302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	間瀬 清史

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、参加者が民事訴訟法の講義で修得した基礎的知識の幅を広げ且つその理解度をより一層深めることを目的とします。民事訴訟理論の緻密さとダイナミックさを体得してもらいたいと考えています。

講義の内容／授業スケジュール

民事訴訟法に関する重要判例の中から毎回1～2を選んで、報告者による報告と参加者全員での討論を行うことを予定しています。検討の対象とされる判例は各報告者の希望を尊重したうえで決定されることとなります。例えば、(1)当事者能力、(2)法律上の争訟、(3～4)当事者適格、(5)土地管轄と移送、(6)国際裁判管轄、(7)外国判決の承認・執行、(8)重複訴訟の禁止、(9)国際的重複訴訟、(10～11)訴えの利益、(12)処分権主義、(13～14)弁論主義、(15～17)裁判上の自白、(18～19)証明責任、(20～21)既判力の時的限界、(22～23)既判力の客観的範囲および争点効、(24～25)既判力の主観的範囲、(26～27)共同訴訟、(28～30)参加および訴訟告知等が考えられます。

履修上の留意点

また、実際の法廷見学にも行きたいと考えています。
演習参加者には、毎回予習のうえ出席すること、主体的に演習に参加すること、および積極的に発言することを期待します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

演習参加度(出席態度、報告内容、主体性、積極性等)に基づいて行います。

小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第二版)』(悠々社)2010年予定。

名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』(法学書院)2007年、3200円(税別)。

参 考 書

『民事訴訟法の争点』(有斐閣)2009年、2400円+税。

『民事訴訟法判例百選 [第3版]』(有斐閣)2003年、2800円+税。

『法学講義 民事訴訟法』(悠々社)2006年、4000円+税。

そ の 他

この演習を履修しようとする者は、少なくとも民事訴訟法の講義を同時並行的に履修する者であることが望ましいです。

また、民事実体法、とりわけ民法についてある程度の理解に達していることが履修の前提となります。

履修コード	124401
科目名	演習Ⅰ
担当者名	中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)

商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法的问题を抽出し、法的に分析し論理展開するための基礎的な力を身につけることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール

商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。

参加者の希望によっては、前期に基礎的理解のための簡単な問題演習を行います。

履修上の留意点

夏のゼミ合宿やゼミ対抗の討論会など、毎週の授業時間以外を利用した行事も予定しています。
参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。

必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。

履修コード	124501・124502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	高橋 ^{たかはし} 洋城 ^{ひろぎ}

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、法律の解釈論や政策論の基礎となる原理的な議論に関心を持つ学生のために「法哲学演習」として開講するものである。「法学の学習の中で培った知見を応用する」と同時に、それを「哲学や社会科学その他を含む広い文脈のなかで捉えなおすこと」、この両方が本演習の目標であるが、さらに社会科学的文章の扱い方に慣れることや、報告や討論の中で問題を掘り下げる能力の養成も本演習の中で心がけたい。

講義の内容／授業スケジュール

<基本方針> 1年間を通じて扱う統一テーマを設定して演習を進めていく。とりあげる内容は、現代の法的问题のいくつかをえらんで検討していく場合と、古典的文献精読を中心に進める場合と、年度ごとに重点の置き方を変えていく。

本年度の具体的なテーマは演習開始時に相談の上決定するので未定であるが、参考までに過去にとりあげた題材やテーマを紹介しておく。

テーマの一例：配分的正義と福祉国家、公正の概念、平等論、格差社会、所有権論、民主主義、私法の意義、自由論

購読文献の一例：ミル『自由論』、ロック『統治論』、ドゥオーキン『権利論』、ルソー『社会契約論』、ロールズ『万民の法』

履修上の留意点

<年間スケジュール> 前期は、選定した文献についての報告を軸にし、テーマに関する議論を参加者全員が共有することを目指す。後半は、そこから発展したテーマやさらに議論を深めるための文献を割り当て、より各参加者の関心に引きつけた報告を行なってもらう予定。

<運営方法> 毎回の演習は、報告・質疑・討論の形式で運営する。報告者の他、あらかじめコメントーターを指定する。

常に積極的に発言すること、おそれずに聞くこと、調べる手間を厭わないことを、演習参加者の姿勢として求める。

成績評価の方法

平常点（出席、報告および討論における発言を勘案して評価）と全日程終了後提出のレポートにより総合評価する。

教科書／テキスト

特に指定しない。

履修コード	124701・124702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	荒木 ^{あらか} 正孝 ^{まさたか}

講義の到達目標(ねらい)

会社法や手形・小切手法の講義、またはこれらを理解するのに必要な民法総則、物権法および債権法など各種の講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組み、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かにかかっている。この演習では、講義で修得した個別の知識を関連付け、総合し、それをより深く理解し、十分に活用できる力をつけることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール

この演習では、基礎的知識を確認する作業を常に心掛けながら、具体的には、会社法に関する裁判例の中から参加者が希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進めます。

準備学習

参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に質問したり、問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習をしておく必要がある。

履修上の留意点

この演習では、出席の状況と発表の内容や回数などを重視します。夏季と冬季（学年末試験終了後）に合宿を予定しています。必ず参加し、教室においては望めない参加者間の全人格的な触れ合いを実現したいと思っています。

成績評価の方法

出席の状況と平常の発言やゼミの中での活動の積極性を考慮して評価します。

参考書

神作・藤田・江頭・岩原編『会社法判例百選』（有斐閣）などを予定していますが、その他の文献や資料については必要に応じて指示します。

履修コード	124801・124802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おう しあん 王 志安

講義の到達目標(ねらい)

国際裁判および国内裁判の判例の分析を通して、現代国際法の適用過程を検証する。具体的に、慣習国際法が裁判においてどのように確認され、適用されるか、また条約がどのように適用されるかを実際の判例において分析する。そして演習を通して国際法に関する知識だけでなく、判例分析や報告書又は小論文の作成に関する知識および能力をも養っていただきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

テーマとして国家の領域紛争、国際法における承認および人権問題にかかわる判例を選定し、判例の読解および関連の参考資料の学習を通して国際法の適用における実情および問題点を明らかにしていく。前期において特定の中心テーマを基準に選定された事例の勉強となるが、後半において参加者の関心を尊重して個別の判例の分析を中心に演習を行っていきたい。また、夏休みでは、原文(英文)の国際判例を読み解くための合宿を行う。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
その他の

出席および配布された資料を事前に読むことを要求する。

演習への参加状況および報告に望む態度や積極性を考慮して評価する。

『判例百選国際法』(有斐閣)2001年

ゼミに関する情報などは、Yestudyから入手できる。

履修コード	124901・124902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おおみや たかし 大宮 隆

講義の到達目標(ねらい)

家族法の研究上、知っておいてほしいと思われる裁判例を取り上げます。

講義の内容／
授業スケジュール

教科書に掲載されている判例と、近年、特に平成になってから、相続法分野で重要な判例が出されていますので、それらを中心に行います。

準備学習

判決文全文を読んで出席して下さい。

履修上の留意点

予習が必要です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

課題への取り組みや出席状況を総合して評価を行います。

泉久雄他編『家族法基本判例32選』(信山社)2,500円

ISBN4-88261-422-7

履修コード	125001・125002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	さとう たみお 佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)

刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実に当てはめてみるのが有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。

講義の内容／
授業スケジュール

本演習の目標は結局のところ、具体的な事実に刑法を適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができることが必要である。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。

成績評価の方法

判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。

教科書／テキスト

レポート、発言、出席等を総合評価

刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。

履修コード	125031・125032
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	まつむら いたる 松村 格

講義の到達目標(ねらい) 刑法総論の講義で学習したことを基礎にして、具体的な事例をどのように解決すれば、刑法の基本原理に反することなく刑法の使命(法益保護・人権保障・秩序維持)に適うかを考えることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 前期の前半に、刑法総論の基本的事項について総復習します。毎回全員に質問することによって、刑法総論の理解度を確認します。前期の後半以降は、各人が最も関心のある問題点ないし争点を選び、それについて研究したことを発表し、各人の質疑応答によって研究を深めていきます。

準備学習 研究発表者のテーマについて判例・学説を下調べして発表者に対する質問・批判点を考えてくること。

履修上の留意点 刑法総論の単位を取得していなければ履修することはできません。毎週、基本書・参考書・判例解説書・六法全書・ノートを携帯して出席してください。参加することが不可欠ですから、理由なき欠席は許しません。毎回必ず何らかの意見を(その是非・妥当性は別として)主張することを義務とします。

成績評価の方法 普段の授業における予習・復習の内容、質疑応答回数と内容、研究発表の内容によって評価します。試験はしません。

教科書／テキスト 別冊ジュリスト『刑法判例百選Ⅰ総論【第五版】』有斐閣
参 考 書 松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』ミネルヴァ書房(3800円)

履修コード	125701・125702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	にし おさむ 西 修

講義の到達目標(ねらい) 私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切に、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずから磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉強ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけてあげたいと思っています。

(1) ゼミのモットーは「出会い、学び合い、そして人間愛」です。
(2) とくに少人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。
(3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

講義の内容／授業スケジュール 前記と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。共通に読む本は開講時に指定。またディスカッションの内容としては、(1) 日本国憲法の成立過程とその法的问题点、(2) 憲法第9条をめぐる諸問題、(3) 世界の憲法トレンド、(4) 人権の現代的意味などを考えています。その他、年に1回は合宿を行います。

履修上の留意点 「講義のねらい」で記述した方針でのぞみますので毎回出席すること。

成績評価の方法 出席、発言、課題論文などを総合的に判断する。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参 考 書 適宜紹介する。

そ の 他 合宿中に私の落語を聴かされることがあります。

履修コード	125711・125712
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	田中 優企 <small>たなか ゆうき</small>

講義の到達目標(ねらい)	演習テーマ：「刑事訴訟法基本判例研究」 実際に裁判で争われた具体的なケースの研究を通じて、抽象的な理解になりがちな刑事訴訟法をより深く掘り下げた形で理解してもらうこと及び判例の分析と授業での報告を通じて「問題解決のプロセス」の一つを学んでもらうことがこの演習のねらいです。
講義の内容／授業スケジュール	授業では、私が指定した判例について、それぞれ、前期は3名1組で、後期は1名で担当して、1つの判例を2回に分けて報告してもらいます。1回目は担当判例の報告を、2回目は、授業での討論を通じて明らかになった問題点や私が指摘した問題点等についてさらに分析した上で、これを報告してもらうスタイルを予定しています。 その他、具体的な報告方法など授業全般については、第1回目の時にもお話しします。 また、フレックスA・B合同で、裁判傍聴及び夏合宿を行いません。
準備学習	憲法その他、1年次及び2年次配当の刑事法科目（刑法総論、刑法各論、刑事政策）を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解もより一層、深まります。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	受講者各自の時間割の都合が許す限り、私の「刑事訴訟法」を同時履修して下さい。 出席状況、報告内容及び討論内容を総合的に考慮して評価します。 指定しません。 中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）3150円 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選（第八版）』（有斐閣、2005年）2200円 笠井治・前田雅英編『ケースブック刑事訴訟法（第二版）』（弘文堂、2008年）4410円 井上正仁他『ケースブック刑事訴訟法（第三版）』（有斐閣、2009年）6300円 各年度に出版される『ジュリスト臨時増刊・重要判例解説』（有斐閣）、『最高裁判所判例解説』（法曹会）
その他	素朴な疑問が実は重要な問題であったということはよくあることです。また、この演習は、みなさんの意見と疑問があって初めて成立します。みなさんの主体的な参加を期待しています。

履修コード	125721
科目名	演習Ⅰ
担当者名	奥村 公輔 <small>おくむら こうすけ</small>

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、憲法学上の論点についての検討を通じて、憲法学への理解を深めつつ、憲法学上の問題点を発見する能力を身につけることを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	初回の授業において、扱うテーマとその報告者を決定する。2回目以降の授業では、報告者がレジュメを作成し、報告を行う。その報告をもとに、受講者全員で質疑応答・討論を行う。
準備学習	報告者は、報告の1週間前にレジュメを提出する。報告者以外の受講者は、事前にレジュメに目を通し、各自疑問点を留意してくること。
履修上の留意点 成績評価の方法	通年で5回以上無断欠席すれば単位を認定しない。 平常点による。

履修コード	125731
科目名	演習Ⅰ
担当者名	吉田 純平 <small>よしだ じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい)	本演習は、民事訴訟法の重要論点について議論することを通じて、同法への理解を深めるとともに、調査、報告（プレゼンテーション）、討論の能力を高めることを目的とする。
講義の内容／授業スケジュール	演習の内容は、受講者の関心に従う。 形式は、重要判例・最新判例に関する報告及びそれについての討論を行うものや、原告、被告側に分かれて行うディベート方式を予定している。
履修上の留意点 成績評価の方法 参考書	民法・民事訴訟法関連授業の履修が望ましい。 議論への参加態度による。 適宜指示する。

履修コード	125741
科目名	演習Ⅰ
担当者名	あかまつ あきら 赤松 晃

講義の到達目標(ねらい)	現実のビジネスでは、コストとしての租税負担を考慮して、投資や事業展開に関する経営判断がなされ、契約交渉や会社の設立等を進める。ゼミでは、国際取引に関する租税法の適用である国際課税について勉強する。租税法についての専門的知識が無くとも興味をもって積極的にゼミに参加できるように判決例や新聞等で報道された具体的事例を多く取り上げる。ゼミ生は、事例に関する論点の整理、報告書の作成、討議を通じて、プレゼンテーション技術も学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	指定のテキストの購読とともに、随時、関連する新聞記事、論文、判例評釈等を配布する。ゼミの進展に応じて、判決例や新聞報道などの具体的事例を報告課題として割り当てる。課題報告のゼミ日では、担当ゼミ生による報告と全員による意見交換を行う。
準備学習 履修上の留意点	予習項目を指定するので、テキストの該当箇所を読み込んだ上でゼミに参加すること。 ・租税法についての専門的知識が無くとも国際ビジネスに興味のある学生の履修を歓迎する。 ・税法が掲載されている小六法又は六法全書などを持参すること（租税に関する法令・通達等 { http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 } を参照）。
成績評価の方法	ゼミへの積極的参加度、プレゼンテーション及びゼミ論の内容、課題レポートの充実度により総合判断する。
教科書／テキスト	赤松晃『国際課税の実務と理論 - グローバルエコノミーと租税法』(税務研究会、第2版、2009年) 3400円＋税 ISBN：978-4-7931-1790-9 C2033
参 考 書	参考書は、図書館の蔵書等を利用 ・三木義一・前田謙二『よくわかる国際税務入門』(有斐閣、2008年) 2000円＋税 ・増井良啓・宮崎裕子『国際租税法』(東京大学出版会、2008年) 3000円＋税 ・赤松晃「国際課税の基本的な仕組み」金子宏編『租税法の基本問題』(有斐閣、平成19年) 593頁～628頁 ・水野忠恒編著『国際課税の理論と課題』(税務経理協会、2訂版、2005年) 3000円＋税 ・Michael McIntyre, “International Tax Primer” Springer (2002/10/8)
そ の 他	次の関連リンクを参照のこと ・国税庁 HP { http://www.nta.go.jp/ } ・財務省税制 HP 財務省税制 HP : { http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/siryou/kokusai.htm } ・租税に関する法令・通達等 { http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 }
関連リンク	http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1

履修コード	131901・131902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	柳瀬昇 <small>やなせ のぼる</small>

講義の到達目標(ねらい)

この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。

憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。

憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のペースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。

3年次の前期には、憲法解釈論上の基本概念について、ソクラティック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。授業時間中は、担当者の司会の下、全員で議論を行う。

夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う(全員参加、9月第1週を予定している)。

3年次の後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。

なお、4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。

講義の内容／
授業スケジュール

準備学習

3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。

履修上の留意点

演習Ⅰと演習Ⅱは継続して履修することを原則とする。

基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動(合宿等も含む)を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。

特に指定しない。

どの出版社のものでもかまわないので、六法(法令集)は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回目の演習で説明する。

参 考 書

担当者が執筆した憲法学に関する概説書として、佐々木幸寿・柳瀬昇『憲法と教育〔第2版〕』(学文社、2009年)などがある。

担当者は、憲法学及び立法政策論を専攻している。公法学及び政治学の領域で昨今きわめて注目されている討議民主主義(deliberative democracy)理論の精緻化と、その実践モデルの諸相について、これまで研究を進めてきた。授業担当者の代表的著作として、柳瀬昇『裁判員制度の立法学—討議民主主義理論に基づく国民の司法参加の意義の再構成』(日本評論社、2009年)がある。関心があれば、参照されたい。

そ の 他

その他、適宜、演習の中で紹介する。

このゼミは、今年度初めて募集する。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ第1期生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。

この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。

履修コード	132001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前の放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。

秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日も自主的に集まり準備を行ってまいります。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦するとなると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気を必要とします。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください(法律学科の学生には強く勧めます)

教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。

したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。

講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。

コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします(出席点として考慮します。)

OB会の準備などをお願いする予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト

平常点による。
特に使用しない。

履修コード	132101・132102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)

国家は国際社会にあって、外部から受けるインパクトに対し、さまざまなリアクションを引起す。これを国家の行動と呼ぶならば、国家は国際社会のなかで行動するための何らかの基準があるのではないかと、という素朴な疑問をもって、戦争・紛争・国家間の経済問題・国家の統合などを研究の素材としてとりあげ、それらの事象を分析する。つまり、この演習では、国家には何らかの行動基準があるのではないかという問題意識をもって、諸種の国際事象を分析、考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回から第4回までの演習では、「国際政治とは、いかなるものか」をテーマに討論し全員が国際政治について共通の認識をもてるようにする。

第5回から第8回までの演習では、国家についての基礎的知識を得るために、国家論の諸説を整理する。殊に、国家・民族・階級について、各自研究し討論する。

第9回からの演習では、戦争・紛争・国家間の経済問題・国家の統合などの具体的な事象について、興味あるテーマを各自が選び、その現象を分析しながら、国家の内部に包含されている民族や階級が、その国家の行動にどのように作用しているかを考察し、国家の行動基準の法則性の有無を検討する。

履修上の留意点

問題意識を明確にもった学生の受講を希望する。殊に国家の政策決定について興味をもっている学生の受講をのぞむ。

成績評価の方法
参 考 書
そ の 他

講義中の発言、研究発表の内容で評価する。

授業中に適宜紹介する。

ゼミ生は、テーマ別の研究班に分かれて研究会をおこないます。(例)アメリカ研究班、中東研究班、東南アジア研究班、EU研究班、理論研究班等。よって、積極的に参加する者の応募を望みます。

履修コード	132201・132202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>あいが としひこ</small> 相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

一言でいえば、マスコミ、広告・広報、情報化がゼミのテーマである。マスコミは興味深いだけでなく、政治学の根底にかかわる領域である。テレビCMを含め、広告・広報はどんな企業・組織体にとっても重要な問題であり、実社会とつながりの深い実践のテーマである。パソコン・ケータイ・インターネットに象徴される情報化の急速な進行も、身近な生活から企業内にまでおよんでいる。

メディア・広告・情報化の3領域のなかから、各自に、またグループ単位に好きなテーマを選択し、資料調べ・発表・討論などを行ないながらまとめてゆく。

合宿やふだんの授業で友人との親しさが増すだけでなく、人前での発言・発表能力、ものを書きまとめる能力を2年次より一層高め(ゆったり・楽しく・着実に)進展・燃焼する場としてのゼミにしたい。

講義の内容／授業スケジュール

当ゼミの特徴を一言でいえば、おもしろさプラス実践性の高い役に立つ知識の習得プラスコミュニケーション能力の向上である。

<基礎演習>に記載の内容を参照。それをいっそう高度化したい。

前期：レポートを書く力、口頭発表力を2年次以上のレベルにまで高める(3年生)。ゼミ論文のテーマを決める(4年生)。後期：ロール・プレイングにもウェイト(3年生)。ゼミ論文の書き方を学び、執筆・完成して1冊のゼミ論文集を作る(4年生)。

成績評価の方法

平常点。

履修コード	132401・132402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>みたけ なおや</small> 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)

比較政治学的な研究を自らやってみる演習です。せっかく大学に来たのだから、中学校や高校の自由研究レベルのものではなく、自分の問題意識で本格的に卒業研究をやりたいという人向けです。小学校以来受けてきた教育の集大成であり、自分の〈作品〉となる卒業論文を作成します。たくさん書き、本や論文にたくさん接し、いろいろな人に会い、図書館にたくさん行ってもらいます。そういうことが「楽しい」と思う人向けの演習です。

講義の内容／授業スケジュール

お互いに助け合いながら個人研究を行います。やり方や内容は年によって参加者によってかなり異なります。卒業してからどんな分野に進んでも役に立つよう、知的な仕事をする上での基本的な訓練、練習は3年次に必ず行います。簡潔で論理的な文章の書き方のトレーニング、ノートの取り方、自己分析、プレゼンテーションのしかた、スケジュール管理のしかた等々を、かなり細かくやります。原則として、研究テーマは、比較政治学やその他三竹担当の授業内容に関連したものを自分で設定することになります。

履修上の留意点

今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。

応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。

4年次にもしっかり勉強し、まい卒業研究をしたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。

成績評価の方法
教科書／テキスト
その他

詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話しを聞き取れば、紹介します。見学も歓迎します。

学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。

たくさんあります。その都度、指示します。(買わなければいけないものは多くありません。)

mitake@komazawa-u.ac.jp

最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	132701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	早川 純貴

講義の到達目標(わらい) 当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／授業スケジュール 当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成22年度の前期・統一テーマは「事件はいかにして政治的対応がなされたか」である。ある政治的、経済的、社会的事件が生じた後、政策立案者たちがそれらの事件に注目し、どのような政治的対応を取っていったのか。そのプロセスを解明し、当事者がどのような選択肢からある政策案をなぜ選択したのか。そうして取られた政策はどのような結果と影響を残したのか。こうした点を解明することにより日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点 当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法 個人々の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書／テキスト 教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	132801・132802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大山 礼子

講義の到達目標(わらい) 演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。

講義の内容／授業スケジュール (1～15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。
(16～30) 各自のテーマを研究し、演習Ⅰでは3000～5000字程度のレポート、演習Ⅱでは1万～2万字程度の卒業論文を執筆します。

履修上の留意点 なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。
演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。

成績評価の方法 平常点によります。
教科書／テキスト 全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
参 考 書 その都度紹介します。

履修コード	133101・133102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	塩入 みほも

講義の到達目標(わらい) 行政法上の諸問題を取り上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っただけで決めていきます。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、情報公開法などの各分野からの選択になります。

履修上の留意点 公務員、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でも無論履修可能です。

成績評価の方法 平常点(出席・報告・発言等)により成績評価を行います。
教科書／テキスト 未定
参 考 書 初回授業の際に紹介します。

履修コード	133501・133502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)	政治学における基礎的・原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典的文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。
講義の内容／ 授業スケジュール	I 政治学の基本文献を輪読する。 II 共通テーマを設定し、共同研究をおこなう（例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜）。 III ゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。
履修上の留意点	一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論か現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしやい！
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	平常点 教員が準備し提供します。 参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通しておいてください。大塚『フランスの社会連帯主義』（成文堂）、同『ラスキとホップハウス』（勁草書房）、同『多元的国家論の展開』（法律文化社）、同『多元的国家論の周辺』（信山社）、同『近代日本の政治学者群像』（勁草書房）、同『明治国家と岩倉具視』（信山社）、同『明治維新の思想』（成文堂）、同『ヨーロッパ政治理念の展開』（信山社）、『大東亜戦争期の政治学』（成文堂）。
そ の 他	4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担（OB会・合宿等）、規則、束縛は一切ありません。年1～2回のお食事会を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。

履修コード	101202
科目名	現代企業論
担当者名	えなつ あかね 江夏 あかね

講義の到達目標(ねらい)	本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。 第1回 ガイダンス 第2回 金融・経済関連情報の捉え方 第3回 証券投資のリスク・リターン概念 第4回 証券市場の概要と市場参加者 第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識 第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎 第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（1） 第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（2） 第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（地方債-1） 第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（地方債-2） 第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（財投機関債-1） 第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎（財投機関債-2） 第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き 第14回 レポートの講評 第15回 まとめ
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	定期試験とレポートで評価する。 毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。 江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725、978-4785716172。 代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100、978-4419048792。
そ の 他	金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	115901
科目名	有価証券法
担当者名	なかほら 中濱 よしあき 義章

講義の到達目標(ねらい) 手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。

- 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同)
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期(手形理論)
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係

- 9 手形の振出
- 10 白地手形
- 11 手形の裏書
- 12 善意取得の制度
- 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度
- 14 支払、支払拒絶など
- 15 為替手形・小切手に特有の法制度
- 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題

履修上の留意点 六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。

成績評価の方法 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。

教科書/テキスト 大塚龍児ほか『商法Ⅲ－手形・小切手(第3版)』(有斐閣Sシリーズ)
落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣)

参 考 書 詳細については、開講時に指示します。
山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第3版)』(有斐閣)

履修コード	116101
科目名	民事訴訟法
担当者名	まがら 間瀬 きよし 清史

講義の到達目標(ねらい) この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続のことをいいます。判決手続のみならず、和解、調停および仲裁などの訴訟以外の民事紛争解決手続についても講ずる予定です。受講者に民訴手続の全体像と民訴理論の基本を体得してもらうのがこの講義の目標です。

講義の内容／授業スケジュール (1～2) 民事紛争の解決制度、(3) 民事訴訟制度の現代的課題、(4) 訴え、(5) 裁判所、(6) 当事者、(7) 第三者による訴訟追行、(8～9) 本案と訴訟要件、(10～11) 当事者と裁判所の役割、(12) 口頭弁論の諸原則、(13) 口頭弁論の準備、(14) 証明と証拠、(15) 証明責任、(16) 当事者の行為による訴訟の終了、(17～19) 終局判決とその効力、(20～21) 複数請求、(22～24) 共同訴訟、(25～26) 訴訟参加、(27) 当事者の変動、(28～29) 上訴・再審・簡略な手続、(30) 試験

履修上の留意点 民事実体法の基本事項について一応の理解を有することが履修の前提となります。

成績評価の方法 日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して行うつもりです。問題作成および成績評価にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮する予定です。

教科書/テキスト 名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』(法学書院)2007年、3200円(税別)。

参 考 書 小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第二版)』(悠々社)2010年予定。

小林秀之編『法学講義 民事訴訟法』(悠々社)2006年、4000円+税。

『民事訴訟法の争点』(有斐閣)2009年、2400円+税。

『民事訴訟法判例百選[第3版]』(有斐閣)2003年、2800円+税。

履修コード	116201
科目名	刑事訴訟法
担当者名	たなか ゆうき 田中 優企

講義の到達目標(ねらい)

昨年5月に開始した裁判員制度は、国民が裁判員として刑事裁判に参加する制度ですが、裁判員に刑事手続に関する知識は求められていません。ですが、法制度を学ぶ法学部生としては、その一角をなす刑事訴訟法の基本原理、その法運用と問題点を学ぶことは不可欠でしょう。

そこで、この講義では、現行刑事訴訟法施行60年を迎えた我が国の刑事手続を規律する基本原理、これに基づく法運用の実際を理解してもらい、そこで生じている問題点の解決方法について、みなさんと共に考えていきます。

第1回目は、今年度の講義全般及び我が国の犯罪情勢・犯罪防止対策について、第2回目以降は、次の各項目を1回または複数回に分けて順番にお話します。

- ①刑事手続の概要、刑事裁判のかたち
- ②刑事手続に關与する機関・人とその役割
- ③強制捜査と任意捜査
- ④職務質問、所持品検査、自動車検問
- ⑤逮捕・勾留
- ⑥捜索・押収
- ⑦取調べ、接見交通権
- ⑧公訴、起訴状一本主義
- ⑨公判手続、裁判員制度
- ⑩訴因制度
- ⑪自白法則、補強法則
- ⑫排除法則
- ⑬伝聞法則
- ⑭裁判の効力
- ⑮上訴、再審

講義の内容／授業スケジュール

準備学習

憲法の他、1年次及び2年次配当の刑事法科目(刑法総論、刑法各論、刑事政策)を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解もより一層、深まります。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

教科書及び六法を必ず持参してください。

学年末試験の成績により評価します。

椎橋隆幸編『ブリッジブック刑事裁判法』(信山社出版、2007年)2000円

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選(第八版)』(有斐閣、2005年)2200円

澁美東洋『全訂刑事訴訟法(第二版)』(有斐閣、2009年)5300円

椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法(第二版)』(不磨書房、2008年)2900円

椎橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法』(ミネルヴァ書房、2009年)2600円

参 考 書

そ の 他

授業に関する質問は遠慮なくどうぞ。

履修コード	116301
科目名	社会保障法
担当者名	ほらだ けいちろう 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)

社会保障法の各分野について、基本的な体系と現状、法主体間の権利義務関係、法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題が残されており、どのような解決が望ましいかを規範的に考察する力を養うことを目標とする。

第1～2回：社会保障(法)とは何か、第3～7回：医療保障法、第8～11回：介護保障法、第12～13回：福祉サービス法、第14～18回：年金法、第19～21回：労災保険法 第22～23回：雇用保障法 第24～25回：社会的補償法、第26～28回：公的扶助法、第29～30回：社会保障財政の法理論

履修上の留意点

社会保障に関する立法論上の課題については、同担当者の担当科目「社会政策」にて取り扱うので、並行履修が望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。

社会保障に関する法的紛争は行政事件が多いため、「行政法」及び「行政救済法」を履修済みまたは並行履修中であることが必要である。

成績評価の方法
教科書／テキスト

学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。

教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。

- ・労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2010』(労働調査会、2010年)
 - ・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』(有斐閣、2008年)
- その他の文献は適宜指示する。

参 考 書

そ の 他

YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	116401
科目名	国際私法
担当者名	佐々木 彩

講義の到達目標(ねらい)

法律関係の構成要素に外国に関連する要素が一つでも含まれる場合を、一般に渉外的法律関係と呼ぶ。そして、渉外的法律関係に適用すべき法律を指定する規定を定めているのが国際私法である。国際私法は、渉外的法律関係によって生じる紛争を円滑に解決に導く手段のみならず、予めどの国の法律を適用することとなるのか等の予測可能性を高めてくれることにも役立つ。わが国では「法の適用に関する通則法」という法律を中心に国際私法が形成されている。国際私法は、民法や商法のような実質法のように私法問題の半断基準となる法律とは規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範等と呼ばれることがある。このような他の分野と異なる国際私法的センスを習得できるように講義を進めたいと考えている。国際私法は時として難解な科目であると捉えられがちであるが、国際結婚・離婚、国際養子縁組等に関する身近な問題を具体例として取り上げ、できる限り分かり易いものとなるように工夫を試みたい。

講義の内容／授業スケジュール

講義の内容及びスケジュールについては、以下のように予定している。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際家族法総説
- 第3回 国際私法の構造 (1) 法性決定
- 第4回 国際私法の構造 (2) 連結の態様
- 第5回 国際私法の構造 (3) 連結概念の決定 (国籍)
- 第6回 国際私法の構造 (4) 連結概念の決定 (住所、常居所)
- 第7回 準拠法の指定 (1) 場所的不統一・法国法の指定
- 第8回 準拠法の指定 (2) 人的不統一・法国法の指定
- 第10回 準拠法の適用 (1) 外国法
- 第11回 準拠法の適用 (2) 公序
- 第12回 準拠法の適用 (3) 先決問題
- 第13回 婚姻の成立 (1)
- 第14回 婚姻の成立 (2)
- 第15回 中間テスト
- 第16回 婚姻の効力 (1)
- 第17回 婚姻の効力 (2)
- 第18回 離婚 (1)
- 第19回 離婚 (2)
- 第20回 親子関係 (1)
- 第21回 親子関係 (2)
- 第22回 親子関係 (3)
- 第23回 後見・保佐・補助
- 第24回 扶養
- 第25回 氏名
- 第26回 相続
- 第27回 遺言
- 第28回 不法行為
- 第29回 国際裁判管轄権
- 第30回 1年間のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

基礎となる他の科目(特に家族法)について基礎知識を有することが望ましい。

原則として学年末の筆記試験による。場合によっては、中間試験及び平常点も加味する。

笠原俊宏著『国際家族法新論』文真堂

いずれかの六法を常に携帯すること。

授業は講義によって進行するが、随時事例問題を設定し、皆で一緒に考えることを予定している。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	王 ^{おう} 志安 ^{しあん}

講義の到達目標(ねらい)	国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。
講義の内容／授業スケジュール	国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。
準備学習	授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること
履修上の留意点	参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかりとり取ってもらいたい。
成績評価の方法	power pointで講義を進める。簡潔な聴講ノートは、Yestudyから入手できる。 学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。
教科書／テキスト 参 考 書	家正治など 共著 『国際紛争と国際法』(嵯峨野書院、2008年) 大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(下)(東信堂)2002年 2,000円 市販されている国際条約集および国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。
そ の 他	授業はPower Pointを使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のもまとめ報告を求めることもある。

履修コード	116701
科目名	担保物権法
担当者名	山田 ^{やまだ} 創一 ^{そういち}

講義の到達目標(ねらい)	受講生は、売買契約を日常行っているであろうし、下宿をしている人は賃貸借契約を結んでいるであろう。さらに、将来結婚をしたり、相続の問題に直面することになるであろう。こうした例からもわかるように、財産法と家族法で構成される民法は、受講生の生活と密接に関わっているといえる。
講義の内容／授業スケジュール	ところで、財産法は総則編・物権編・債権編よりなるが、物権編のうち担保物権法でとりあげるののは、留置権・先取特権・質権・抵当権の4章である。債権の履行を確保するために認められるこれらの担保物権の基礎を理解させることを講義の目的とする。 担保物権の意義、担保物権の種類、担保物権の性質・効力、抵当権の意義、抵当権の法的性質、抵当権の設定、抵当権侵害の損害賠償、抵当権に基づく妨害排除請求(1～5回)。物上代位、法定地上権(6～12回)。一括競売、抵当権に後れる賃貸借の処遇、抵当権の実行(13～15回)。代価弁済、抵当権消滅請求、共同抵当(16～20回)。抵当権の処分、抵当権の消滅、根抵当権(21～25回)。質権、留置権、先取特権(26～28回)。仮登記担保権、譲渡担保、所有権留保(29～30回)。
履修上の留意点	授業は、テキストを用いて講義を進めていくので、テキストと六法は持参して下さい。 中間試験および学年末試験の成績による。
成績評価の方法	山野日章夫 『物権法 第四版』 日本評論社
教科書／テキスト 参 考 書	『民法判例百選 第六版』 有斐閣
そ の 他	民法の勉強を通じて、リーガルマインドを養成し、紛争解決能力を培ってもらいたい。

履修コード	116801
科目名	労働法
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(わらい)

今日、労働法の対象である雇用社会は、リストラ、解雇や能力主義人事管理の導入などが行われ、日本型雇用システムの見直しがなされています。

労働法は、雇用社会において生じる紛争を法的に解決する領域です。雇用社会の変化に無関係ではられません。

この変化は労働法の法制定・改正に大きく関わってきます。特に、労働時間法、労働契約法、雇用平等法などです。

講義では、雇用関係法領域を中心に、雇用社会の変化を頭の隅に置きつつ、これまで形成定着した労働法理の基礎を学びます。また、変化する法制度をまなびます。こうして、主に雇用関係法領域を概観し現代的課題に対して自ら考える視座を身につけてもらうことをわらいとしています。

講義の内容／
授業スケジュール

授業では、下記事項について、基礎的知識をまなぶとともに、現代的課題に触れます。

以下に、アウトラインを示します。

- (1) 労働法の基礎的考え方
- (2) 日本の雇用システムの変容と労働法
- (3) 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- (7) 労働条件の変更
- (8) 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- (9) 人事異動－配転、出向、転籍
- (10) 雇用の終了－退職、解雇、整理解雇
- (11) 賃金、賞与、退職金
- (12) 労働時間、時間外労働
- (13) 休憩、休日、休暇
- (14) 労働災害など

準備学習
履修上の留意点

教科書を読むこと。新聞を読むこと。雇用問題に関する新書などを読むこと。

出席は当然のことと考えています。そして、授業のマナーは守ること。途中での退席は認めません。非常の場合は申し出ること。

授業は、教科書はもとより配布するレジユメと資料を使って行います。レジユメには取り上げる項目が挙げられているだけです。内容は授業で埋められていきます。ノートをとることが必要ですし、教科書は予習復習には欠かせません。

成績評価の方法

また、憲法、民法総則、債権総論、債権各論、社会保障法、社会政策といった近接した専門科目や労働経済なども履修すること（あるいは履修済みであること）が望ましいと考えています。

学年末試験（論述式）がメインで、受験をしていないと評価は出しません。気をつけてください。また、レポート、中間試験や出席も評価対象です。これらを総合的に評価して、成績を決めます。

教科書／テキスト

追試験は実施します。

指定教科書は、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ〔第2版〕』（エイデル研究所 2010予定）。物足りなさを感じる受講生は、労働法（菅野和夫著・弘文堂）がいいでしょう。もちろんこれら以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参 考 書

労働判例百選第8版（別冊ジュリスト）、六法は用意してください。六法は、法改正がありますから、最新のものを用意すること。また、労基法施行規則の載っているものが必要です。詳しくは、第1回目の授業であらためて紹介します。

そ の 他

各項目についてイメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	118801
科目名	登記法
担当者名	たぬま ひろし 田沼 浩

講義の到達目標(ねらい)	初めて登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・会社法・商法の手続法としての「不動産登記法・商業登記法」が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、両法のより深い理解を図ります。また、登記簿等のオンライン閲覧や今後予想されるオンライン登記申請に伴う情報リテラシー（活用）能力を養います。
講義の内容／授業スケジュール	（前期）（1・2）登記法概論（3～5）不動産登記法総則・商業登記法総則（6～15）会社法第四章登記、商法第三章商業登記及び会社法にかかる商業登記、（後期）（16～18）会社法にかかる商業登記つづき（19～21）民法典物権編総則にかかる不動産登記（22）所有権にかかる不動産登記（23～26）民法典相続編にかかる不動産登記（27～29）担保物権にかかる不動産登記（30）まとめ
準備学習履修上の留意点	民法及び会社法の日頃から関心をもって、書籍や新聞を読みましよう。不動産に関する取引全体の流れに対して、情報として重要な役割を果たす不動産登記を理解することを旨とし、会社法と関連させることによって会社の起業や取引先の情報収集に役立つ商業登記法の知識を最低限習得できるように努めます。受講者は民法典第二編物権、第三編債権、第五編相続、会社法の履修を望みます。また、この講義を受講することが望ましい者として、将来、企業の法務部・総務部に配属されることを考えている者、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者など、広く対象とします。
成績評価の方法	学年末試験の結果と提出物（前期レポート）の内容に依拠して行います。問題作成及び成績評価にあたっては、教科書等から問題を作成し、講義に積極的に参加した人が有利になるように成績評価を配慮します。
教科書／テキスト	『定款の実務』日本司法書士会連合会の推奨図書（オンブック 田沼浩著）3600円。オンブックサイトから直接購入してください。『定款の実務』か、『田沼浩』で検索するか、次をクリック。 { http://www.onbook.jp/bookd.html?bid=0099 }
参 考 書	『窓口の相談事例にみる事項別不動産登記のQ&A200選』（日本法令 不動産登記研究会編）2,310円 『有斐閣判例六法 Professional』（有斐閣）5,460円 法務省民事局編『不動産登記実務「五訂版」』（法曹会）
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	118901
科目名	税法
担当者名	あかまつ 赤松 晃

講義の到達目標(ねらい)	所得税法、法人税法、相続税法(相続・贈与)及び消費税法を中心に、租税法に関する日本経済新聞等の記事を読み解くことができる水準とする。公務員試験や資格試験に資する。
講義の内容／ 授業スケジュール	・講義は、原則として、下記の講義予定に係る各テキストの目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度は、詳細は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事や論文等を配布する。 ・1～4『税法入門』(4回)、5～11『所得税法』(7回)、12～15『相続税法(相続税・贈与税)』(4回)、16～22『法人税法』(7回)、23～25『消費税法』(4回)、26～28『国税通則法』(3回)、29～30まとめ(2回)。
準備学習	・初回講義には、下記の税務大学校講本のうちから『税法入門』(全92頁)を各自が印刷して持参すること。 ・初回講義はイントロダクションとして『税法入門』の第6章「税務行政の大要」及び第7章「税務行政の組織と権限」を対象とする。 ・講義に先立ち予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること
履修上の留意点	・税法が登載されている小六法又は六法全書などを持参すること(租税に関する法令・通達等{ http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 }を参照)。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席状況及び随時行う小テスト並びに課題レポート又は定期試験の成績を総合勘案して行う。国税庁税務大学校が、普通科及び専門官基礎研修で初めて税法に触れる研修生に税法の基礎的知識を学ばせるために、毎年アップデートしている税務大学校講本のうち、次を各自が{ http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm }からダウンロードして持参すること(頁数は平成21年度版による)。
参 考 書	『税法入門』(全92頁)、『所得税法』(全165頁)、『法人税法』(全150頁)、『相続税法(相続税・贈与税)』(全97頁)、『消費税法』(全95頁)、『国税通則法』(全100頁)。 参考書は、図書館の蔵書等を利用。
そ の 他	・水野忠恒『租税法』(有斐閣、4版、2009年)6200円+税 ・金子宏『租税法』(弘文堂、14版、2009年)5500円+税 ・岡村=渡辺=高橋『ベーシック税法』(有斐閣アルマ(有斐閣、4版、2009年)2100円+税 ・金子=清永=宮谷=畠山『税法入門』(有斐閣選書(有斐閣、6版、2007年)1000円+税
関 連 リ ン ク	次の関連リンクを参照のこと ・国税庁税務大学校講本{ http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm } ・国税庁 HP { http://www.nta.go.jp/ } ・財務省税制 HP { http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/syuzei.htm } ・租税に関する法令・通達等{ http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1 } http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	つかもと 塚本 正文

講義の到達目標(ねらい)	私たちは、様々なサービスなどを国や地方自治体から受け、反対に租税を納めている。これだけ身近な問題でありながら、その仕組みは複雑で専門用語だらけのように見える。そこで、私たちはなぜ租税を納めなければならないのか、納めた租税はどのように用途が決定されるのか、どのような租税や公共サービスが存在するのかなど生活に密着した話題をテーマに、財政の仕組みや問題点を学び、税や政府について理解を深めることを目的として講義を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(第1～2回目) 財政の枠組みとはどういうものなのか、(第3～4回目) 政府のお金の使い道はどの様に決まるのか～予算について～、(第5～7回目) 政府が集めたお金は何に使っているのか～政府支出について～、(第8～11回目) 政府はどの様にお金を集めているのか～租税について～、(第12～14回目) 政府の借金とは何か～公債について～、(第15回目) 前期の総括、(第16～18回目) まちと財政問題～地方財政について～、(第19回目) 財政のもつ機能について、(第20～22回目) 資源配分～財政の機能Ⅰ～、(第23～25回目) 所得再分配～財政の機能Ⅱ～、(第26～28回目) 景気政策～財政の機能Ⅲ～、(第29回目) 地球環境と財政、(第30回目) 後期の総括
履修上の留意点	できるだけ指定した教科書に沿ってすすめるので、当日の講義内容を予め読んでおくこと。また、日頃から新聞の政治および経済欄を読んでおくこと。
成績評価の方法	学期末試験の結果をもとに成績を決定する。ただし、授業時に指示する提出物(レポート)の提出状況も考慮に入れる。
教科書／テキスト	里中恒志・八巻節夫編著『新財政学』文真堂 ¥3,300・ISBN:4-8309-4546-X

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	もりおか じん 森岡 仁

講義の到達目標(ねらい)

市場を中心とした自由主義経済の中に、国が運営する経済政策を導入するようになってかなりの時間が経過したが、今や国民は経済政策を抜きに安定した経済生活を送ることはできない。本講義では経済政策の基礎を構成する諸概念の理解を深めることによって、日々展開される実践的経済政策を的確に判断する力を高めることを目的としている。

講義の内容／授業スケジュール

(1～4) 経済政策の概念、経済政策の目標、経済政策の手段、経済政策学、(5～8) 重商主義の経済政策思想、自由主義の経済政策思想、価値判断論争と経済政策学、現代経済政策学の方向、(9～12) 政策課題としての福祉問題、政策課題としての秩序問題、政策課題としての社会問題、現代政策課題の総括、(13～16) 経済成長の意義、古典派の経済成長論、完全雇用と現代の成長政策、経済成長と資本・労働、(17～20) 安定と成長の問題、経済変動とその安定政策、物価変動のメカニズム、現代インフレーションの対策、(21～24) 経済均衡と市場機構、独占と寡占、寡占の本質と作用、産業組織政策の展開、(25～28) 社会的公正と社会均衡化政策、国民所得の分配と再分配、公害問題の発生、福祉国家への道、(28～30) 現代の人口問題、人口政策の課題、経済政策と人口政策。

履修上の留意点

経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。

成績評価の方法

学年末の定期試験。追試験も実施する。

教科書／テキスト

森岡他著『現代経済政策』(千倉書房) 1975年 2,520円。4-8051-0842-8

参考書

特に指定せず。

その他

授業方法は講義。

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	はらだ けいいちろう 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)

社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みることにより、巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に惑わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール

第1～2回：社会政策の意義と範囲、第3～4回：社会政策と理念、第5～6回：資源の供給と福祉の社会的分業、第7～9回：子育て政策、第10～12回：保健医療政策、第13～15回：障害者・高齢者介護政策、第16回：障害者の社会的参入政策 第17～21回：最低所得保障と就労政策、第22～23回：労働市場政策、第24回：労働安全衛生政策、第25～28回：年金政策、第29～30回：住宅政策

履修上の留意点

社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。

成績評価の方法

学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。

教科書／テキスト

教科書は開講時に指定する。

参考書

適宜紹介する。

その他

YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	119301
科目名	民事執行・保全法
担当者名	よしだ じゆんぺい 吉田 純平

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、民事執行法・民事保全法の基礎的知識を取得するとともに、重要な論点について考察することによって、同法への理解を深めることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール

後期前半までに、民事執行法を以下の順序で説明する。

民事執行法総論として、①民事執行・保全法序論、②執行機関、当事者、③民事執行における不服申立て。強制執行総論として、①債務名義、②執行文、③請求異議の訴え、④責任財産(第三者異議の訴え)、⑤強制執行手続。強制執行各論として、①不動産執行、②船舶執行、③動産執行、④権利行、⑤物の引渡請求権についての強制執行、作為・不作為についての強制執行。最後に、担保権実行と形式的競売、財産開示制度。

後期後半に民事保全法について講義を行う。

履修上の留意点

民法や民事訴訟法の内容と関連する。

成績評価の方法

定期試験および小テストによる。

教科書／テキスト

上原敏夫ほか『民事執行法・保全法(有斐閣アルマ)(第2版補訂)』1800円+税 ISBN 978-4-641-12323-6

履修コード	119401
科目名	法哲学
担当者名	たかはし ひろき 高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、近現代法の仕組・思考方法の基礎について検討するために必要な様々な分析枠組、原理や概念等々を学び、批判的思考のツールとして、他の法律学の学習や日常的な法との関わりの中で使えるものにしていくことを第一の目標とする。その過程では、しばしば「当然だと思っていたことがかえってわからなくなる」こともある。しかし「あらためて考え直してみる」という過程で、様々な思想や思考法に触れ理解を深めることは、将来、自らの力であらためて根本的な問題を考えてゆくための手がかり・突破口を得ることにもつながるであろう。

講義の内容／
授業スケジュール

法理論史において繰り返し論じられてきた諸トピックの中からいくつかの論点をとりあげ、それぞれの項目ごとに、理論的分析、思想史的背景、さらに現代の具体的諸問題を念頭に置いた検討を加えていく。項目によって扱いは異なるが、できるだけ具体的な諸問題と法哲学的問題の関連が理解できるように授業の進行を心がけるつもりである。

授業で扱う具体的なテーマは、おおむね以下を予定しているが、受講者の反応・理解に応じて修正する可能性もある。

1 自然法論と法実証主義

- ・古典的自然法論を中心とした自然法論の基礎的理解
- ・近代自然法論、および18世紀以降の自然法論の展開についての概観
- ・法実証主義の基礎的理解、およびその現代における展開の概観
- ・法と道徳の問題等、自然法論と法実証主義にかかわる諸問題の批判的検討

2 正義論

- ・アリストテレスの正義論を軸に、法と正義の問題の基礎的理解
- ・平等と自由の問題
- ・正義論の現代的展開および、現代の諸問題との関連

3 法解釈と法の客観性

- ・法解釈の性質について
- ・概念法学とそれに対する批判的諸潮流の検討
- ・日本における戦後法解釈学論争の意義
- ・法解釈に関する諸理論の現代的展開

履修上の留意点

講義に際しては、受講者において、少なくとも本講義履修対象年次までの必修科目についてその基本的・原理的部分の理解があることを前提に進める。その点に不安がある場合には、受講にあたって十分な自助努力が必要となることを了解しておいてほしい。

成績評価の方法

年度末の定期試験を主たる評価基準とするが、夏期休暇を利用したレポートないしは夏期休暇後の小テストを副次的に参照する。さらに、受講者の人数によっては出席点を加味する場合もある。以上についての詳細やその他の評価基準・方針は第1回の講義において伝えるので、必ず出席すること。

教科書／テキスト

深田三徳・濱真一郎(編)『よくわかる法哲学・法思想』(ミネルヴァ書房)、¥2,730 講義の資料としても、また自習・予習の指示のためにも用いるので、必ず授業に持参すること。

参 考 書

開講時に紹介する。

履修コード	119501
科目名	倒産処理法
担当者名	すずき たかひろ 鈴木 貴博

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

破産法を中心に倒産処理法制の概要とその基本事項に関する理解を深める。
倒産処理手続は、債務者・債権者・担保権者など多数の利害関係人の利益が錯綜し、債権者の平等な取扱いや、破産者の再起更生、社会経済上の不利益の回避といった要請に応え、実体法の規定に配慮しつつ、手続の基準として多数の利害関係人を納得させるように機能することが期待される。このような様々な実体的法律関係の修正・処理のための法制度の特徴と概要を学んでいく。

1. 倒産法制の概観
2. 破産原因・破産能力
3. 破産手続開始申立てとその効果
4. 別除権・相殺権
5. 破産財団をめぐる法律関係
6. 破産管財人の法的地位
7. 財団債権・取戻権
8. 否認権・配当
9. 免責・破産犯罪
10. 消費者倒産

履修上の留意点

民事法関連科目(民法・商法・民事訴訟法など)を履修済みか履修中であることが望ましい。その他、受講にあたって必要なことは開講時に指示する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

簡単なレポートと学期末試験により評価される。

- 徳田和幸『ブレップ破産法』(弘文堂、第4版、2008年) ¥1,260 ISBN978-4-335-31309-7
- ①伊藤眞『破産法・民事再生法』(有斐閣、第2版、2009年) ¥6,615 978-4-641-13544-4
- ②山本和彦・中西正・笠井正俊・沖野眞巳・水元宏典『倒産法概説』(弘文堂、2006年) ¥4,725
978-4-335-35373-4 C3032
- ③山本和彦『倒産処理法入門』(有斐閣、第3版、2008年) ¥2,205 978-4-641-13534-5
- ④青山善充・伊藤眞・松下淳一『倒産判例百選』(有斐閣、第4版、2006) ¥2,520
978-4-641-11484-6

履修コード	119601
科目名	知的財産権法
担当者名	角田 政芳

講義の到達目標(ねらい)

現代社会は、もはや有体物ではなく科学技術や芸術のような無体物により構築される社会です。そのような無体物は知的財産と呼ばれており、例えば、テクノロジー、デザイン、ブランド、ノウ・ハウ、ミュージックや映画、アニメーション、ゲームソフトなどのアートという人類の知恵から生み出された広い意味での財産が含まれます。これらは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、商標権、著作権などにより他人の無断利用を禁止することのできる権利によって保護されています。この授業では、このうち、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不競法上の権利、そして著作権や著作隣接権について、保護法制度の基本をなるべく多くの実例を見ながら解説します。

講義の内容／授業スケジュール

- 【第1回】知的財産法総論(知的財産権の種類、法的性質)
 - 【第2回】特許法の目的、発明の意義・種類
 - 【第3回】特許要件(産業上利用性・新規性喪失事由・進歩性・先願範囲の拡大・公序良俗)
 - 【第4回】特許権の主体(発明者・共同発明・職務発明)
 - 【第5回】特許権取得手続(願書・明細書・特許請求の範囲・図面・要旨、審査手続、出願公開)
 - 【第6回】特許権の効力と制限(試験・研究、医薬の調査等、用尽理論、属地主義)
 - 【第7回】特許権の利用(ライセンス・専用実施権と通常実施権、担保権、信託など)
 - 【第8回】特許権の侵害と救済(直接侵害・クレーム解釈・均等論、間接侵害、民事救済、刑罰)
 - 【第9回】実用新案権
 - 【第10回】意匠権(権利の客体・意匠、主体、登録要件、権利取得手続、権利侵害、特殊制度)
 - 【第11回】商標権(1)(権利の客体・商標、主体、登録要件)
 - 【第12回】商標権(2)(権利取得手続、権利の効力と制限、権利侵害、取消審判)
 - 【第13回】不正競争防止法(1)(有名ブランド・ドメインネーム・トレードシークレット)
 - 【第14回】不正競争防止法(2)(不正競争行為への救済・刑罰)
 - 【第15回】国際的側面(属地主義、並行輸入、国際技術移転、強制ライセンス、パリ条約・PCT・マドプロ等)
 - 【第16回】著作権法総論、著作権法の目的、沿革、産業財産権と著作権の相違点、著作権法の現代的課題
 - 【第17回】著作権の客体(1)(著作物の要件)
 - 【第18回】著作権の客体(2)(著作物の種類、二次的著作物)
 - 【第19回】著作人格権とその制限
 - 【第20回】著作権の効力(複製権、上演・演奏権、上映権、公衆送信権、展示権、口述権、頒布権、譲渡権・貸与権等)
 - 【第21回】著作権の制限(1)(私的複製、図書館の複製、引用・転載)
 - 【第22回】著作権の制限(2)(教育目的の複製、非営利目的の上演・演奏等、)
 - 【第23回】著作権の制限(3)(報道目的の複製、一時的固定、プログラムのインストール等)
 - 【第24回】著作権の利用(権利移転、ライセンス・出版権設定契約・出版契約、担保権、JASRACの信託的譲渡等)
 - 【第25回】著作権の侵害(直接侵害と擬制侵害、間接侵害と代位責任等、Winny事件等)
 - 【第26回】著作隣接権(実演家人格権、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の著作隣接権)
 - 【第27回】著作権侵害の救済(差止請求・損害賠償請求・不当利得返還)
 - 【第28回】著作権侵害罪(罰則・コピープロテクション回避禁止等)
 - 【第29回】著作権の国際的側面(複製物の並行輸入、インターネット上の著作権侵害等)
 - 【第30回】著作権関係条約の概要(TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、WCT,WPPTなど)
- 総合評価(平常点:原則10%;定期試験:原則90%)
- 角田政芳他著「アルマ知的財産法<第5版>」有斐閣、2010年
- 角田政芳編「知的財産権六法2010」三省堂2010

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	<small>わかばやし</small> ありさ 若林 亜理砂

講義の到達目標(ねらい)

経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をなうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

期末試験により評価を行う。

丹宗・厚谷編『新現代経済法入門（第3版）』（法律文化社）

別冊ジュリスト『独禁法審決・判例百選（第六版）』（有斐閣）

履修コード	120101
科目名	消費者法
担当者名	<small>むかいだ</small> まさる 向田 正巳

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、民法の特別法としての消費者法についての概説を行います。消費者法という法典があるわけではありませんが、消費者を保護し、その権利を守るための法としてはさまざまなものがあります。私たちは消費者として生活に必要な商品を消費しながら暮らしていく中で、さまざまな法的トラブルに直面します。消費者を保護する法として、どのようなものがあるかを知ることが、健全な社会生活をおくる上で、とても大切なことです。本講義では民法についての基本的な知識を確認しながら、商品を買うときにだまされたとき、欠陥商品を買ってしまったときなど、消費生活上のさまざまな法的トラブルにいかに対処すべきか、事例を用いながら学んでいくことにします。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義では前期に主に製造物責任法を、後期に主に消費者契約法を検討します。基本的な授業の進め方は以下の通りです。

前期：製造物責任法について

- 1 民法と製造物責任法
- 2 民法における不法行為責任についての確認
- 3 製造物責任法についての各論点の検討

後期：消費者契約法について

- 1 民法と消費者契約法
- 2 民法における契約責任についての確認
- 3 消費者契約法についての各論点の検討

履修上の留意点

消費者法は民法の特別法ですから、本講義の履修者には当然のことながら民法の基礎知識が必要となります。履修者は消費者法の各論点を検討する際には、必ず民法の体系を念頭においた考察をするように心がけてください。

成績評価の方法
教科書／テキスト

期末試験と小テストによって評価します。

未定。授業の始めに指示します。

履修コード	120211
科目名	法学特殊講義〔金融商品取引法〕
担当者名	萬澤 陽子

講義の到達目標(ねらい) 有価証券の取引やデリバティブ取引に適用される金融商品取引法（金商法）という、あまり馴染みのない法律を、i) 法の背景・歴史、ii) 規制対象、iii) 取引内容、iv) エンフォースメントの視点から考えることによって、身近に感じられるようにすること。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 オリエンテーション 第2～4回 イントロダクション——資本市場の機能およびそこでの金商法の役割—— 第5～7回 法の背景・歴史の視点から金商法を考える——旧証券取引法の歴史、証券取引法から金商法へ、金商法の基本的考え・目的・概要—— 第8～14回 規制対象の視点から金商法を考える——適用対象としての「金融商品」（範囲とその背景的事情）、金融商品取引業者等（業規制・行為規制）、発行者（発行開示・継続開示制度）、ゲートキーパー（公認会計士・監査法人等に課される責任）—— 第15～22回 取引内容の視点から金商法を考える——不正取引（インサイダー取引、風説の流布・偽計、相場操縦、損失補てん）、公開買付制度、大量保有報告制度—— 第23～30回 エンフォースメントの視点から金商法を考える——刑罰によるエンフォースメント、行政によるエンフォースメント（行政処分、課徴金、金融庁・証券取引等監視委員会の関係）、民事（金商法、民法）によるエンフォースメント、自主規制機関（金融商品取引所、金融商品取引業協会）によるエンフォースメント——

履修上の留意点 学期末試験の結果のみならず、平常点も重視することから、講義に主体的に参加しようとする学生の受講を歓迎する。

成績評価の方法 学期末試験50%、平常点（授業における発言・質問に対する応答、授業で行う小テスト）50%で、総合的に判断する。

教科書／テキスト 黒沼悦郎「金融商品取引法入門（第3版）」（日経文庫、2009）

参 考 書 追って指定する。

履修コード	120301
科目名	環境法
担当者名	仲田 孝仁

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、受講者に広く環境問題に関心を持たせることは言うまでもなく、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」という道具を用いることで、各人が環境問題への具体的解決策を導くための糸口を与えることにある。履修者諸君には、本講義の履修後に、環境問題を一步踏み込んで解釈・分析する視点を持つことが期待される。

講義の内容／授業スケジュール 環境法に係る共通的な法理論・原則を概説した後に、個別的な実定環境法へと講義内容を展開する。1. 開講の辞（オリエンテーション）、2～3. 環境法の歴史（四大公害訴訟について。）、4. 環境法の諸原則（持続可能な開発、環境権、拡大生産者責任、汚染者負担原則、予防原則について。）、5～6. 公害対策基本法から環境基本法へ（環境基本法の諸原則、環境基本計画、規制的手法、経済的手法、情報的手法等の環境政策の枠組みについて。）、7～12. 廃棄物・リサイクルと法（(1)～(4)）（循環型社会形成推進基本法、廃棄物処理法、家電リサイクル法、容り法等の個別リサイクル法）、13. 化学物質管理と法（化審法、PRTR法、環境リスク、リスクコミュニケーション）、14～19. 大気・水・土壤環境保全と法（(1)～(3)）（大気汚染防止法、水質汚濁防止法、土壤汚染対策法）、20～22. 自然環境保全と法（生物多様性基本法、外来生物法、種の保存法、自然公園法）、23. 環境影響評価と法（環境アセスメントについて）、24. 環境紛争と私法的・行政的解決（環境民事訴訟・行政訴訟の動向・課題について。）、25. 道路公害訴訟の現状と課題（東京大気汚染訴訟、ディーゼル車規制について。）、26. 環境行政組織／公害紛争処理と環境ADR、27～28. 地球温暖化対策と法（京都議定書、地球温暖化対策推進法、排出枠取引、最新のCOPの動向）、29. 環境法における市民の役割（住民参加）、30. 最終講—環境法の未来（まとめ）

履修上の留意点 履修者数にかかわらず、学生諸君との対話を重視し、頻繁に発言やメモの提出を求める。講義内容は基礎的な事項にとどまらず、応用・発展的な内容とする。常に日常的・具体的な事例を取り上げ、それらの問題の所存や解決策を諸君とともに模索していく。築地市場の豊洲への移転問題（土壤汚染）、産廃の不法投棄事案、工場排水による水質汚濁事案等を具体例として諸君と検討することとなる。さらに、応用的学習の一環として、昨年度は新司法試験の問題を授業中に検討したり、コペンハーゲン合意を原文で読む機会等をもった。向学心旺盛で、一方的な講義形式に飽きつつある諸君の履修を望む。

成績評価の方法 期末試験の成績に平常点（授業時の課題およびレポートの提出）を加点し、総合的に評価する（期末試験を100点満点として、それに平常点を上限30点として加算する。130点満点で計算する予定。）。特に夏期レポートについては、諸君からの提出後、担当者からの内容に関する個別質問への回答や推敲後の再提出等を必ずお願いする。

教科書／テキスト 使用しない。

参 考 書 別冊ジュリスト『環境法判例百選』（有斐閣）2004年等。

そ の 他 その他は授業時に指示する。

講義においては、レジュメおよび環境法令を配布する。

履修コード	121411
科目名	実務演習Ⅰ
担当者名	中野 辰久

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、従前応用憲法演習として実施されていた経過を踏まえ、憲法を中心に演習を行います。特徴としては、弁護士が担当することで実務における法の適用のされ方を踏まえた、憲法の諸論点の理解並びに法解釈能力を養うことを目的としています。また、法律実務に関する諸問題についても適宜ご紹介していきたいと考えています。

講義の内容／授業スケジュール

憲法の中でも基本的人権論を中心に取り上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。基本的には近年問題となった実際の事件・判決を題材にしていきたいと思ひます。

検討テーマは、下記のとおりです。

第1回 基本的人権総論

第2回～第3回 基本的人権の限界－公共の福祉論（死刑の合憲性をめぐる問題）

第4回～第5回 表現の自由・報道の自由（「あるある大事典」事件）

第6回～第8回 表現の自由・検閲の禁止・事前抑制の原則的禁止の法理とプライバシー権（週刊文春事件）

第9回～第11回 表現の自由・明確性の基準（青少年保護育成条例事件）

第12回～第13回 集会の自由・集団行動の自由（ホテル使用拒否事件）

第14回～第16回 職業選択の自由・営業の自由（プロ野球のドラフト制度の是非）

第17回～第19回 法の下での平等（議員定数不均衡事件、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決）

第20回～第21回 生存権（生活保護費貯蓄容認判決）

第22回～第24回 教育を受ける権利・特別権力関係論・部分社会の法理（校則）

第25回～第27回 政教分離原則・信教の自由（内閣総理大臣靖国神社公式参拝事件）

第28回～ 外国人の人権（外国人の公務就任の可否）

その他、新しい事件・問題が生じた時は、適宜追加していきたいと思ひます。

準備学習

講義の際に次回の予定をお話ししますので、それに該当する箇所について、教科書、レジュメを検討しておかれると良いと思ひます。

履修上の留意点

出席を成績評価の1要素としますので、出席を取ります。また、本演習を受講した後の復習をしていただきたいと思ひます。

成績評価の方法

レポートと出席で評価する予定です。レポートは講義中に課題をお知らせし、後期最終講義終了時に提出してもらう予定です。

教科書／テキスト

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第四版』（岩波書店）

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）』（有斐閣）

参考書

演習の都度、レジュメを配布する予定です。

その他、参考となる書籍として下記の書籍を掲記します。

『立憲主義と日本国憲法』高橋和之著（有斐閣）

『憲法Ⅰ第4版』『憲法Ⅱ第4版』野中俊彦他共著（有斐閣）

その他

前記のとおり、弁護士の業務内容その他の法律実務の話や日々生起する憲法問題についての紹介等も適宜行っていきたいと思ひます。

履修コード	121511
科目名	実務演習Ⅱ
担当者名	中田 英幸・上野 雅祥・小林 寛・杉山 真一

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、民法の領域を中心に行います。その特徴は、①法科大学院への準備段階として、専門領域について精通している経験豊かな弁護士を中心に、双方向授業を行うこと、②法曹になるための前提として、大学院試験等を念頭に入れ、単なる知識をつめこむという演習ではなく、柔軟なものの方をすることができる頭の訓練をすること、の2点である。

演習内容は、3人の弁護士と相談して決定するが、基礎民法演習で学んできたことを前提として、ケース・スタディーなど実践的な内容の比重が大きくなると思われる。具体的事案の解決にあたって、今まで学んできた民法の基本原則をどのように活用し、法律的に構成して妥当な結論を導くかという、理論的思考を重視した演習になる。そのため、積極的に議論に参加できることを希望する。

検討するテーマは、受講者決定後にプリントにより連絡する予定である。

履修上の留意点

本演習の性質上、民法総則・物権・債権等を履修していることが必要である。なお、受講者が多数の場合には、最初の演習の時間に選択を行う予定であるので、最初の講義時に必ず成績証明書を持参すること。

成績評価の方法

出席状況と平常点によって総合的に評価する。

参考書

演習の都度、適宜指示する。

法 A

履修コード	121521
科目名	実務演習Ⅲ
担当者名	<small>きむら ましたか</small> 木村 美隆

講義の到達目標(ねらい) 刑法の基本的な論点を含む判例を、事実関係から分析検討することを通じ、実務の現場における法適用の一端にふれることを、目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 判例を毎回1件ずつテーマに取り上げます。分野別に分類すると、おおむね次のとおりの予定です。

①総論分野 a 構成要件該当性(4件)、b違法性(3件)、c責任(2件)、d未遂(1件)、e共犯(6件)

②各論分野 a財産犯(3件)、bその他(2件)

履修上の留意点 判旨の結論をそのまま記憶しようというのではなく、常に批判的な視点で検討する姿勢を期待したいと思います。

成績評価の方法 学期末に提出するレポートの内容により、評価します。

教科書／テキスト 教科書は特に指定しません。判例を学習するのにふさわしい学生向けの判例集を、学期はじめに紹介します。ただし、一度は判例の原典を読み込んでほしいと考えています。

履修コード	127501
科目名	地方自治法
担当者名	<small>とみい ひさお</small> 富井 幸雄

講義の到達目標(ねらい) 日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容／授業スケジュール 講義は大旨以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。

履修上の留意点 憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修もしくは既修であることがのぞましい。

成績評価の方法 前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。

教科書／テキスト 富井幸雄『地方自治法読本 改訂版』2008年4月(内外出版)

参 考 書 『地方自治判例百選(第3版)』(別冊ジュリスト)。

そ の 他 講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)	国際関係論の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	【前期】第1～2回：国際関係を学ぶ視座、第3回：多様化するアクター、第4回：国益とパワー、第5回：日本の領域と国際関係、第6回：安全保障（1）安全保障の概念と類型、第7回：勢力均衡とバンドワゴン、第8回：覇権安定論、第9回：リベラリズムの考え方、第10回：ネオ・リベラリズムの考え方、第11回：ゲーム理論と国際関係、第12回：コンストラクティヴィズム、第13回：南北問題と構造的暴力、第14回：平和学の誕生と展開、第15回：中間試験 【後期】第1回：安全保障（2）人道的介入、第2回：安全保障（3）大量破壊兵器の拡散、第3回：安全保障（4）テロリズム、第4回：東アジア共同体の構想とその課題、第5回：「人間の安全保障」と人権、第6回：難民保護とUNHCR、第7回：地球環境レジームの形成、第8回：米中関係と日本、第9回：インドの台頭と米印中関係、第10回：ASEANと日本外交、第11回：日本のエネルギー戦略と中国・インド・米国との関係、第12～13回：総括北朝鮮をめぐる六者協議、第14～15回：総括
履修上の留意点	テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。
成績評価の方法 教科書／テキスト	試験（前期30％＋後期70％）。 前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。 後期：天見慧・三船恵美編『強大国化する中国の外交戦略』（仮題）2010年刊行。 （書籍名が未確定なので、教科書販売所で確認して下さい）
参考文献	授業中に紹介します。

履修コード	123311
科目名	演習Ⅱ
担当者名	川口 幸美

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅰと基本的に同じ。ただし、ゼミ論を作成してもらい、それを通じて演習Ⅰで培った会社法の知識をさらに深めることを目的としています。
講義の内容／ 授業スケジュール	夏休みにゼミ論のテーマを決めてもらい、後期はその中間報告が主となります。1月中旬に完成原稿を提出してもらいます。
成績評価の方法	ゼミ論で評価します。提出できなければ単位は認定しません。

履修コード	124451
科目名	演習Ⅱ
担当者名	中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)	商法の重要問題を検討することを通じて、法制度の理解を深めると同時に、社会的事実から法的问题を抽出し、法的に分析し論理展開するための力を身につけることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	商法、会社法、手形法・小切手法など広義の商法に関する重要判例研究または事例研究として毎回一つのテーマを取り上げ、報告者による報告の後、全員で討議します。 最新の裁判例や時事問題など、まだまだ議論されていないような事柄についても、みんなで考える機会を設けたいと思っています。
履修上の留意点	参加者は、自分が発表を担当しないときでも、積極的に発言するようにして下さい。演習では出席を重視します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席と議論への参加態度、報告の内容で評価します。 必要に応じて資料を配付するほか、適宜指示します。

履修コード	132011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	田丸 <small>たまる だい</small> 大

講義の到達目標(わらい) 行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会も持ちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込め詐欺などバラエティに富む。
前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えばと考えている。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点 大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなぐりの友人も作ってほしいというのが、担当教官の願いです。
OB会の準備、2年生や3年生の指導などをお願いする予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト 平常点による。就職活動期間中については、考慮します。
特に使用しない。

履修コード	133001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	早川 <small>はやかわ よしき</small> 純貴

講義の到達目標(わらい) 当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容／
授業スケジュール 当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成22年度の前期・統一テーマは「事件はいかにして政治的対応がなされたか」である。ある政治的、経済的、社会的事件が生じた後、政策立案者たちがそれらの事件に注目し、どのような政治的対応を取っていったのか。そのプロセスを解明し、当事者がどのような選択肢からある政策案をなぜ選択したのか。そうして取られた政策はどのような結果と影響を残したのか。こうした点を解明することにより日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点 当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法
教科書／テキスト 個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

專 門 教 育 科 目

(2) 政 治 学 科

履修コード	125901
科目名	政治学概論
担当者名	浦田 早苗・早川 純貴

講義の到達目標(ねらい) 本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい

講義の内容/
授業スケジュール

- 【前期】(早川)
 ①行動論政治学とDNモデル(2回)
 ②権力と影響力(4回)
 ③権力多元論とエリート論(4回)
 ④福祉国家論(4回)
- 【後期】(浦田)
 ①日本の政治システム(3回)
 ②政治と経済(3回)
 ③日本社会の特異性(2回)
 ④自由・権利・公共(2回)
 ⑤第二次大戦後の国際政治(2回)
 ⑥西欧の政治制度(2回)

履修上の留意点

政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。

成績評価の方法
教科書/テキスト

前後期に試験(各50点)を実施する。その合計点で成績評価を行う。
 前期は、早川、他『政策過程論』2004年(学陽書房)、2,600円。
 後期は使用しない。

参 考 書

参考文献については講義の中で随時紹介する。

履修コード	126001
科目名	政治学概論
担当者名	早川 純貴・浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい) 本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

- 【前期】(浦田)
 ①日本の政治システム(3回)
 ②政治と経済(3回)
 ③日本社会の特異性(2回)
 ④自由・権利・公共(2回)
 ⑤第二次大戦後の国際政治(2回)
 ⑥西欧の政治制度(2回)
- 【後期】(早川)
 ①行動論政治学とDNモデル(2回)
 ②権力と影響力(3回)
 ③権力多元論とエリート論(3回)
 ④福祉国家論(6回)

準 備 学 習

少なくとも毎日頃新聞(政治・経済面)を読んでおくこと。授業の後は必ず自分がとったノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。

履修上の留意点

政治学は権力の形成・行使・監視にかかわる事象を扱う科学であり、権力は悪魔的魅力を有する存在でもある。権力への評価は常に価値の対立を内在する。つまり政治学とはさまざまな価値が交錯する学問であり、薄っぺらな理想論者ではなく、冷徹な現実主義者が学ぶ学問でもある。

成績評価の方法
教科書/テキスト

前後期に試験(各50点)を実施する。その合計点で成績評価を行う。
 前期は使用しない。
 後期は、早川、他『政策過程論』2004年(学陽書房)、2,600円。

参 考 書

参考文献については講義の中で随時紹介する。

履修コード	126011
科目名	政治学概論
担当者名	中野 裕二・三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)

本講義は3コース(=専門課程)に向けて最初のステップとして、各コースの基本的知識を習得し、各自の政治に対する問題関心を養っていくために設けられている。専門用語や理論の講義に際しては、できるだけ具体的事例に即して説明していきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

【前期】

YeStudyの利用を前提とする(使い方は総合情報センターに問い合わせること)。

政治学科での勉強に興味や問題意識をもつきっかけを作ることを目的としています。新聞を読む習慣を作ります。コミュニケーション能力を高めるため、グループ活動等を多く行います。映像教材を多く使用する予定です。ただし、教場の条件、参加者の人数や「やる気」などによって、授業のやり方は変わってきます。また、取りあげるトピックは、日本の政治状況や世界情勢の変化にあわせて決めるので、下記はあくまで参考です。

- 1 政治とは何か
- 2 政治現象を観察する練習
- 3 価値観を考え集会的決定の難しさを実感する練習
- 4 日本の政治の対立軸を知り自分と仲間の政策選好について議論
- 5 日本の政党を知り自分が支持・投票する政党を考える
- 6~8 国家について考える
- 9 世界に目を向ける その1 経済格差を縮める方法
- 10 世界に目を向ける その2: アジアン・スマイル
- 11 社会的起業の世界としくみを知る
- 12 人間の選択は合理的か: 投票のパラドックスと囚人のジレンマ
- 13 期末試験対策
- 14 日本と日本人について考える
- 15 境界線の政治学 開かれていることと境界線で区切られていること

【後期】

指定したテキストの内容にそって、政治学の全体を概観する。

序 政治学を勉強してみませんか——政治学の視点

- 1 えっ!! 投票するの? 誰に投票するの?——選挙を科学する、投票行動の研究
- 2 テレビが政治をつくる?——マスメディアと政治意識
- 3 政治家ってどんな人?——野心と理念
- 4 思想と理念の絡み合い——政党、自民党長期政権の終わり
- 5 官僚ってどんな人?——官僚制
- 6 変わる「コネ」社会 日本——ネットワーク社会の政治と利益団体
- 7 政策のつくり方——政策過程
- 8 目立たない最高権力者——孤独な首相
- 9 自立の気概——日本に地方自治はあるの?
- 10 世界はどこへ行く?——国際政治
- 11 役に立つ(?)内政干渉——相互依存下の国際関係
- 12 21世紀の試練——政治改革と構造改革

準備学習

【後期】

教科書を事前に熟読しておくこと。参考図書を随時紹介するので自主的に読むこと。

履修上の留意点

- ・前後期を通じてきちんと出席すること。
- ・出された課題は必ずやること。
- ・新聞を読むこと。

前期は、課題をやらずに教室に来た場合、グループ活動に参加できません。また、平常点も取ることができません。必ずやったうえで教室に来ること。また、YeStudyを必ず使う必要があります。授業の最新情報はYeStudyで確認してください。

成績評価の方法

前期と後期の得点を、前期50%後期50%の割合で合計して素点とする。

【前期】

原則として前期末に授業時間内に行う期末テストのみによります。課題をやりグループ活動にきちんとした態度で臨んでいる場合にのみ、限定的に平常点がつく可能性があります。

【後期】

後期についての学生に期待される到達レベルは以下の通り。
 ①政治学の主要な概念や理論を教科書の説明に即して説明できること。
 ②政治に対する自分なりの意見を説得的に述べるができること。
 以上の到達レベルに達しているかどうかを、定期試験期間中の試験、授業時間中に実施するミニテストなどを通して判断する。授業時間中の発言、意見質問用紙の提出も評価する。レポートを課す場合もある。

教科書/テキスト

【前期】

中学校の社会科教科書（公民、歴史、地理）、および、新聞。中学校教科書はどこのものでもよい。中学校教科書は期末テストまでに自ら復習しておくこと。新聞はいわゆる五大紙と東京新聞のいずれかひとつの朝刊を毎回必ず持参。

【後期】

教科書を使用する。伊藤光利編『ポリティカル・サイエンス事始め（第3版）』（有斐閣）2009年。

履修コード	126101
科目名	憲法
担当者名	柳瀬 昇

講義の到達目標(ねらい)

この講義は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。

憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この講義では、日本国憲法の標準的な解釈論の基礎を、概括的に、かつ、平明に講述する。

日本国憲法に定める人権保障と国家統治の仕組みについて、この講義において、しっかりと理解してほしい。

講義の内容/授業スケジュール

憲法総論、人権論、統治機構論の順に講義を行う。

第1回：憲法を学ぶ意義、第2回：立憲主義の基本原則（1）、第3-4回：憲法と人権の限界、第5回：幸福追求権、第6回：法の下での平等、第7回：内心の自由、第8-9回：表現の自由、第10-11回：経済の自由、第12回：身体の自由、第13回：国家による自由、第14回：国家への自由、第15回：前期の総括、第16回：立憲主義の基本原則（2）、第17-18回：国会と立法権、第19回：内閣と行政権、第20-22回：裁判所と司法権・違憲審査権、第23-24回：財政・地方からみる民主主義、第25回：天皇、第26回：安全保障、第27-29回：日本国憲法の生成と展開、第30回：後期の総括

準備学習

基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、人権論を扱う前半のうち数回は、教科書の指定されたページを読んだうえで講義に臨むことを求める。

履修上の留意点
成績評価の方法

講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれたい。
 期末に行う筆記試験や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する。
 90点以上の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。

教科書/テキスト

教科書として、佐々木幸寿・柳瀬昇『憲法と教育〔第2版〕』（学文社、2009年）を使用する。そのほかに、毎回、授業担当者の作成したレジュメや資料を配布する。
 どの出版社のものでもかまわないので、六法（法令集）は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回の講義で説明する。

参考書
その他

第1回の講義で説明する。
 講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前後またはオフィスアワーにおいて、対応する。確実に時間を確保したい場合には、eメールで事前に連絡をとることをすすめる。

履修コード	126201
科目名	政治学原論
担当者名	おわづま かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

講義の内容/
授業スケジュール

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法(1)

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15)

C 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22)

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は、

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。

なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房) 3,296円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社) 2,900円

参 考 書

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

そ の 他

学習にあたっては、大塚編「補章オリエンテーション政治学」「政治学へのいざない」(成文堂)、大塚編『日本の政治学』(法律文化社)等を参考にしてください。

履修コード	126301
科目名	日本政治論
担当者名	おおくやま れいこ 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	政権交代が実現して日本の政治への関心が高まっている現在、改めて日本政治の何が問題であり、どのように変えていけばよいのかを考えることがこの講義の目的です。日本の政治はどのような歴史的経緯を経て現在の姿になったのか、他国と比較したときにどのような特徴があるのかといった観点から、より客観的に日本政治を分析していきます。
講義の内容／授業スケジュール	(1) 日本政治の特質、(2～8) 日本政治史概観(明治維新から敗戦まで)、(9～12) 日本国憲法と戦後政治、(13～15) 政党史(自民党の盛衰)、(16～17) 政策過程概観(55年体制下の政策過程)、(18～19) 国会のしくみ、(20～21) 選挙制度、(22～23) 政治主導と官僚制、(24～26) 地方政治、(27～28) 公共事業、(29～30) 日本政治の将来 ただし、時事問題の解説などを適宜取り入れるため、予定を変更する場合があります。
準備学習	日本の政治を論じる講義なので、今、どのようなことが起こり、何が問題になっているのか、社会常識程度の心得がないと話についていけないし、興味ももてないままに終わってしまいます。まずは新聞の政治面に目を通す習慣をつけましょう。
履修上の留意点	YeStudyに毎回、その週の講義の概要、参考資料、関連リンクなどを掲載するほか、課題の提出にも利用するので、必ずアクセスしてください。私語などで周りの学生に迷惑をかける者には退場を求めることがあります。
成績評価の方法	授業中に実施する小テスト、夏休みの課題等の評点を持ち点とし、学年末定期試験の評点に加算して評価します。
教科書／テキスト	教科書は指定しません。
参考書	その都度紹介します。
その他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。

履修コード	126401
科目名	現代政治理論
担当者名	やまざき のぶと 山崎 望

講義の到達目標(ねらい)	わたしたちが生きている現代社会がはらむ様々な問題について、現代政治理論の観点から把握し、どのようにそれらの問題に対峙していくのか、それを考える習慣を身につけることが目的です。
講義の内容／授業スケジュール	概ね、以下の論点について順次、講義をしていきます (1～6回) 現代世界の変容1・2、政治、権力、フェミニズム1・2 (7～10回) 格差社会論、グローバル経済と世界恐慌、自由論1・2(福祉国家の変容) (11～12回) マルクス主義の再検討 (13～15回) 国民国家、同化主義、ナショナリズム (16～17回) 多文化主義、移民 (18～25回) グローバル政治論、対米同時多発テロ以後のアメリカ 世界秩序の多極化、「イスラーム原理主義」 人道的介入、グローバル・テロリズム 地域主義1・2(EUとアジア共同体) (26～30回) 自由民主主義の揺らぎ、新しい民主主義論1・2、市民社会論 国境を越える民主主義論
履修上の留意点	自分が生きてく上で直面せざるを得ないであろう問題について、考える習慣を身につけることが目的なので、毎回出席して下さい。新聞や本を読み、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席して下さい。
成績評価の方法	学年末の試験(ただし、病欠や公欠席などの正当な理由なくしてレスポンスカードの提出率が5割を切る場合、試験を受けても単位の取得は認めない)
教科書／テキスト	杉田敦・川崎修編2006『現代政治理論』有斐閣アルマ ISBN 4-641-12269-5
参考書	有賀誠・伊藤恭彦・松井暁編2007『ポストリベラリズムの対抗軸』ナカニシヤ出版 ISBN978-4-7795-0195-1
その他	講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定。 講義の後半10分にレスポンスカードを配るので、質問や感想を書いてください。 翌週の冒頭に簡易な応答を行います。

履修コード	126501
科目名	政治制度論
担当者名	おおよま れいこ 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	民主主義国家において、政治制度の究極の目的は、どうやって国民の民意を正確に反映する政治を実現するかにあるとよいでしょう。この講義では、さまざまな制度がもつ現代的な意義を検討し、新しい角度から政治を考えていきます。
講義の内容／授業スケジュール	(1) 政治制度とは、(2～3) デモクラシーとは何か、(4) 議院内閣制と大統領制、(5～7) 議院内閣制の成立：イギリス、(8～9) 政党、(10～11) 大統領制の誕生：アメリカ、(12～13) 議院内閣制の発展：フランス、(14～15) 議院内閣制の受容：ドイツ・日本、(16) 制度をどう見るか、(17～22) 選挙制度、(23) 政治資金、(24～25) 議会と政策決定過程、(26) 二院制、(27～28) 中央地方関係、(29) 司法審査制、(30) 総括 ただし、時事問題の解説などを適宜取り入れるため、予定を変更する場合があります。
準備学習	高校までの公民分野の知識が曖昧な人は復習しておいてください。また、日頃から海外のニュースなどにも幅広く関心をもつようにすると、授業内容をより深く理解できます。
履修上の留意点	YeStudy に毎回、その週の講義の概要、参考資料、関連リンクなどを掲載するほか、課題の提出にも利用するので、必ずアクセスしてください。私語などで周りの学生に迷惑をかける者には退場を求めることがあります。
成績評価の方法	授業中に実施する小テスト、夏休みの課題等の評点を持ち点とし、学年末定期試験の評点に加算して評価します。
教科書／テキスト	教科書は指定しません。
参 考 書	その都度紹介します。
そ の 他	授業開始時に YeStudy の利用方法について案内します。

履修コード	126601
科目名	国際政治学
担当者名	こぼり のりお 小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)	国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解し、同時に、国家が国際社会のステージで行動するとき、その国家の内部の意思決定のシステムが、どのように作用し合うかを理解することが、本講義の目的である。
講義の内容／授業スケジュール	前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに基礎的知識の整理をおこなう。 後期では、国際政治と国内政治との関係を理解し、国際政治の本質を、利益、権力政治、国際組織、政治は矛盾であり対立である、というテーマでアプローチして考案する。最後に、国家が国際社会の中で行動するとき、原理、原則があるのだろうか、というテーマで、国家の行動基準、冷戦中、冷戦後の国際政治を検証する。 授業スケジュールは、(1～5) 政治学の基礎的知識の整理、(6～8) 国家、権力、民族、階級、(9～11) 近代国家の特質、(12～15) 国際社会の特質、(16～17) 国際政治と国内政治、(18～22) 国際政治の本質、(23～26) 国家の行動基準、(27～30) 冷戦中、冷戦後の国際政治の予定である。
履修上の留意点	授業中に読むべき本を紹介するので本を読むこと、TV・新聞・雑誌の報道に日頃から留意すること。
成績評価の方法	1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。
教科書／テキスト	使用しません
参 考 書	必要に応じて講義のなかで紹介します。

履修コード	126701
科目名	ヨーロッパ政治史
担当者名	浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)	現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること、及び現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点がおかれている。
講義の内容／授業スケジュール	①古代ギリシャ、ローマの政治社会 ②キリスト教と十字軍 ③宗教改革とルネサンス ④英仏百年戦争 ⑤アン・ブーリンとエリザベス ⑥英国革命とジャコバイト ⑦アメリカ独立戦争 ⑧フランス革命とナポレオン ⑨2月革命とナポレオン3世 ⑩第一次大戦 ⑪第二次大戦 ⑫統合ヨーロッパの源流
成績評価の方法	年5～6回の出席点は学年末試験に加算する。試験はあらかじめ提示した2題を出題する。(ノートの持ち込みは不可)
教科書／テキスト	特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

履修コード	126801
科目名	政治過程論
担当者名	早川 純貴

講義の到達目標(ねらい)	本年度の政治過程論は、前決定過程から決定過程までを検討する。講義では、サンプルとしていくつかの政策決定過程を織り交ぜながら、決定に関する理論研究とその応用について論じていきたい。
講義の内容／授業スケジュール	前期《決定モデルと事例研究》(14回) アクターとアリーナの概念について (2回) 合理モデルについて (2回) アリソンの3モデルと日本の防衛政策 (4回) 増分主義モデルと日本の予算編成過程 (4回) 心理モデル—グループ・ダイナミックスなど (2回) 後期《前決定モデルと事例研究》(14回) Cobb&Elder Model—豊島事件と三番瀬保存運動 (3回) Garbage Can Model—1984年健康保険法改正 (3回) Kingdon Model—国鉄の分割・民営化 (3回) 2-level Games Model—日米コメ交渉 (3回) リポートのためのビデオ鑑賞と資料の説明 (2回)
準備学習	理論的内容が多いので、授業の後は必ずノートを読み返し、分からないところや疑問に思ったことは自分で調べるなり、次の授業時に質問して、理解を深めるようにすること。
履修上の留意点	講義では理論の解説に多くの時間をかける。理論の話は継続して聞かないと理解できない。きちんと出席することが肝要である。分からないときは遠慮せず質問すること。質問は学生の権利であり、教員はそれに答える義務がある。
成績評価の方法	中間試験と定期試験、および後期リポート、さらに回数実施する小テストの合計点数により評価する。
教科書／テキスト 参 考 書	早川純貴、他『政策過程論』2004年(学陽書房)2、600円 講義の中で随時紹介する。

履修コード	126901
科目名	日本政治史
担当者名	福永 文夫

講義の到達目標(ねらい)

政治を理解するには、思想分析、比較、一般化など様々な方法がありますが、歴史という経験に学ぶのが政治史です。本講義の目的は、日本政治史を学ぶことを通じて、日本の置かれてきた立場、選択とその結果について基本的な理解と知識を得ることです。さらに、歴史を学ぶことを通じて、政治を知り、現代を相対化してみる視点を養ってもらいたいと思います。

本年度の「日本政治史」では、現代日本の課題を、戦後日本の政治と外交を論じることで考えてみたい。

講義の内容／授業スケジュール

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに一戦後日本と国際環境 (2~3) 日米戦争への道 (4~6) 米国の日本占領政策 (7~8) 敗戦と占領の開始 (9) 政党の復活 (10~11) 日本国憲法の制定・占領改革 (12) 政党政治の再生 (13~14) 中道政権の形成と崩壊 (15) まとめ

後期：(16~17) 占領政策の転換と吉田茂の再登場 (18) 講和への胎動 (19~20) 講和をめぐる国内政治・国際政治 (21) サンフランシスコ講和会議と日米安保条約 (22) 保守勢力の混迷 (23~24) 55年体制の成立－保守合同と社会党の統一 (25) 岸・鳩山内閣 (26) 安保騒動 (27~29) 高度経済成長と日本政治 (30) おわりに

履修上の留意点
成績評価の方法

履修する学生には、出席と積極的な授業参加を求めます。

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の講義で詳しい説明を受けてください。

教科書／テキスト

福永文夫『戦後日本の再生』丸善、税別2,300円。教科書の利用については、必ず初回の授業で説明を受けてください。

参 考 書

参考図書は、講義の中で随時紹介していきます。

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。

行政学とは(1~4) 行政・政策を見る視点(5~10) 国家観の変遷(11~14) 行政国家、福祉国家(15~18) 行政改革(19~24) 民営化と規制緩和(25~28) 地方自治と地方分権改革(29~30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。

準 備 学 習

新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。

履修上の留意点

現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。

成績評価の方法

学年末試験1回と、授業内の複数回の小テスト(小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。)による。

教科書／テキスト

森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846
半分程度しか使用しない予定である。適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。

参 考 書

早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論－「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352

そ の 他

履修者が多く教場に入りきれない場合は、法律学科の学生には、フレックスBの時間帯の行政学を履修してもらうこともあります。

履修コード	127101
科目名	政治思想史
担当者名	清滝 仁志 <small>きよたき ひとし</small>

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、ヨーロッパの政治思想史を歴史上の出来事との関連から著述家の視点を通して、具体的に論じます。変動期に生きた人々が同時代をどのように眺め、いかなる心配をし、解決策を考えていったかを明らかにします。

この授業で論じる「思想」とは抽象的概念でなく、現実の政治状況に対応して生まれ、実際の制度・政策と結びつく性格のものです。講義では、代表的人物の考えを題材に、

- (1) 現在の政治現象を自分で判断する知的能力を身につけていく、
- (2) 欧米の政治・社会・文化を基礎づける知的背景を理解する、ことを目的にします。

講義の内容／
授業スケジュール

前期

政治思想史入門 (1)、プラトンとアリストテレス (2)、マキアヴェッリと近代政治学の誕生 (3～5)、モアのユートピア (6)、宗教改革とルター (7)、カルヴァンとプロテスタンティズム (8～9)、ホッブズとリヴァイアサン (10～12)、ロックと市民社会 (13～15)

後期

ルソーと平等社会 (1～3)、スコットランド啓蒙における経済と政治 (4)、パークと保守主義 (5)、トクヴィルにおけるアメリカのデモクラシー (6～8)、シュンペーターのエリート主義民主主義 (9)、ダールの大衆民主主義 (10)、ハイエクと自由社会 (11)、バーリンの二つの自由 (12)、ロールズにおける正義 (13)、アーレントの全体主義批判 (14)、戦後日本の政治思想研究 (15)

準備学習

世界史の知識があれば、より深く授業を理解できます。中公文庫の「世界の歴史」シリーズがお勧め。

履修上の留意点

本講義では次のことをおこないます。

- 1 授業に関する時事問題を取り上げながら、そのポイントを解説
- 2 授業の冒頭で皆さんの質問に答えて、復習
- 3 授業中、文章の表現能力を身に付けるための練習

さらに公務員試験やその他の資格試験の関係箇所にも配慮します。

成績評価の方法

授業にきちんと出席し、課題をこなすことで自分の考える力が身についたかを重視します。

- ①定期試験 (25%) 2011年1月実施
- ②3回の課題レポート (35%) … 6月 (10%)・9月 (15%)・11月 (10%)
- ③コメント・ペーパー (40%) 授業での意見・質問等を5段階評価

※評価のポイント

- ・授業で取り上げた基礎的知識を理解しているか?
- ・授業で取り上げた話題を自発的・積極的に考え、自分で判断できるか?
- ・自分の考えを明確にまとめ、相手にわかりやすく表現できるか?

なお、欠席・遅刻が目立つ場合、履修中止を適宜、勧告します。

教科書／テキスト

文献は講義・Yestudyを通じて随時紹介。

参 考 書

毎回、レジュメと資料を配布。レジュメは Yestudy を通じても入手可。

講義で取り上げる古典の解説については、佐々木毅『政治学の名著30』(ちくま新書)を参照してください。

全般的な入門書として、佐々木毅『民主主義という不思議な仕組み』(ちくプリマー新書)をお勧めします。

そ の 他

授業その他の質問は、Eメール (kiyotaki@komazawa-u.ac.jp) でも受け付けます。

Yestudy (<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>) に授業ページを設置します。パスワードは授業で連絡します。

履修コード	091202
科目名	国際経済学
担当者名	<small>とくなが としあき</small> 徳永 俊明

講義の到達目標(ねらい)	世界経済は、今日、世界社会・日本社会のあり方の<土台>をなしているものです。世界の姿・日本の姿を理解するカギは世界経済を理解することにあります。この講義では、このような位置にある世界経済の<基本構造>の解明をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	[前期] (1・2) 講義のテーマ・趣旨の説明、(3・4) 資本の本源的蓄積と重商主義植民地体制、(5・6) 産業革命と自由貿易植民地体制、(7) 小括、(8・9) 帝国主義植民地体制、(10・11) 第1次世界大戦と世界経済、(12・13) 戦間期の世界経済、(14) 小括、(15) 予備日 [後期] (1・2) 第2次世界大戦と世界経済、(3・4) 「アメリカ中心体制」、(5) 貿易：GATT／WTO、(6) 国際通貨制度：IMF、(7・8) 「援助」、(9・10) 多国籍企業、(11) 小括、(12・13) <南北問題>、(14) 新国際経済秩序、(15) 小括
成績評価の方法	ミニ・レポート(2回予定、各20点)と学年末レポート(60点)で評価します。世界経済の“枝葉”ではなく、“幹”の理解度を重視します。(追試験は行いません。)
教科書／テキスト	とくにありません。

履修コード	116801
科目名	労働法
担当者名	ふじもと いげら 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、労働法の対象である雇用社会は、リストラ、解雇や能力主義人事管理の導入などが行われ、日本型雇用システムの見直しがなされています。

労働法は、雇用社会において生じる紛争を法的に解決する領域です。雇用社会の変化に無関係ではられません。

この変化は労働法の法制定・改正に大きく関わってきます。特に、労働時間法、労働契約法、雇用平等法などです。

講義では、雇用関係法領域を中心に、雇用社会の変化を頭の隅に置きつつ、これまで形成定着した労働法理の基礎を学びます。また、変化する法制度をまなびます。こうして、主に雇用関係法領域を概観し現代的課題に対して自ら考える視座を身につけてもらうことをねらいとしています。

講義の内容／授業スケジュール

授業では、下記事項について、基礎的知識をまなぶとともに、現代的課題に触れます。

以下に、アウトラインを示します。

- (1) 労働法の基礎的考え方
- (2) 日本の雇用システムの変容と労働法
- (3) 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 労働条件の決定－労働契約、就業規則、労働協約
- (7) 労働条件の変更
- (8) 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- (9) 人事異動－配転、出向、転籍
- (10) 雇用の終了－退職、解雇、整理解雇
- (11) 賞金、賞与、退職金
- (12) 労働時間、時間外労働
- (13) 休憩、休日、休暇
- (14) 労働災害など

準備学習
履修上の留意点

教科書を読むこと。新聞を読むこと。雇用問題に関する新書などを読むこと。

出席は当然のことと考えています。そして、授業のマナーは守ること。途中での退席は認めません。非常の場合は申し出ること。

授業は、教科書はもとより配布するレジュメと資料を使って行います。レジュメには取り上げる項目が挙げられているだけです。内容は授業で埋められていきます。ノートをとることが必要ですし、教科書は予習復習には欠かせません。

成績評価の方法

また、憲法、民法総則、債権総論、債権各論、社会保障法、社会政策といった近接した専門科目や労働経済なども履修すること（あるいは履修済みであること）が望ましいと考えています。

学年末試験（論述式）がメインで、受験をしていないと評価は出しません。気をつけてください。また、レポート、中間試験や出席も評価対象です。これらを総合的に評価して、成績を決めます。

追試験は実施します。

教科書／テキスト

指定教科書は、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ [第2版]』(エデル研究所 2010予定)。物足りなさを感じる受講生は、労働法(菅野和夫著・弘文堂)がいいでしょう。もちろんこれら以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参 考 書

労働判例百選第8版(別冊ジュリスト)、六法は用意してください。六法は、法改正がありますから、最新のものを用意すること。また、労基法施行規則の載っているものがが必要です。詳しくは、第1回目の授業であらためて紹介します。

そ の 他

各項目についてイメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

履修コード	118001
科目名	刑事政策
担当者名	かくしよう ともかず 寛正 豊和

講義の到達目標(ねらい)

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 受講のガイダンス

刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。

第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。

第3回 現代犯罪学の課題

ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。

第4回 犯罪の理念

犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。

第5回 刑事政策と暗数

犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。

第6回 犯罪の原因(1) 身体的・生理的要因について学ぶ。

第7回 犯罪の原因(2) 個人環境的要因について学ぶ。

第8回 犯罪の原因(3) 社会環境的要因について学ぶ。

第9回 刑罰の意義・機能・沿革

意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。

第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。

第11回 自由刑

意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。

第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。

第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。

第14回 少年保護手続

家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。

第15回 定期試験(予定)

第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。

第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察

微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。

第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。

第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判

量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。

第20回 矯正の意義・目的

矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。

第21回 受刑者の処遇

法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。

第22回 犯罪の予防

意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。

第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。

第24回 恩赦・資格制度

恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。

第25回 被害者補償

意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。

第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。

第27回 各種犯罪と対策

組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。

第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。

第29回 まとめ 討論及び質疑

第30回 定期試験

初回の授業において指示する。

定期試験および平常点

斉藤・寛正「刑事政策論(2007年)」(八千代出版)3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3

授業において指示する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	原田 啓一郎 <small>はらだ けいちろう</small>

講義の到達目標(ねらい)	社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みることににより、巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に惑わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	第1～2回：社会政策の意義と範囲、第3～4回：社会政策と理念、第5～6回：資源の供給と福祉の社会的分業、第7～9回：子育て政策、第10～12回：保健医療政策、第13～15回：障害者・高齢者介護政策、第16回：障害者の社会的参入政策 第17～21回：最低所得保障と就労政策、第22～23回：労働市場政策、第24回：労働安全衛生政策、第25～28回：年金政策、第29～30回：住宅政策
履修上の留意点	社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。 教科書は開講時に指定する。 適宜紹介する。 YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	127201
科目名	行政法総論
担当者名	塩入 みほも <small>しおひり みほも</small>

講義の到達目標(ねらい)	存在する法の約8～9割は行政法です。この講義では、その行政法の基本的な仕組と理論一般について学びます。行政法は、民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり日常生活に直接関連がないと感じられがちですが、例えば交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法／違法や国家賠償請求の可否など、実は知っておくと便利なのがたくさんあります。また、政治を学ぶ上では、やはり行政法の知識を備え、日本の統治構造を支えている法実態を知ることが重要でしょう。それを学ぶのが当講義の狙いです。
講義の内容／授業スケジュール	(1)～(2) 行政法とは何か：行政法の成立、行政の定義、行政法の領域 (3)～(5) 行政法の基本構造：現代日本行政法の特徴、法治行政の原理 (6)～(8) 行政法の法源：成文法源、不文法源 (9)～(11) 行政作用の様々な分類論 (12) 行政立法 (13) 行政計画 (14) 行政指導 (15) 行政契約 (16)～(20) 行政行為論：特徴、成立と消滅、効力、行為類型論 (21)～(22) 行政裁量論 (23)～(24) 行政行為の瑕疵 (25)～(26) 職権取消しと撤回 (27)～(29) 行政上の強制制度 (30) まとめ
履修上の留意点	行政法を初めて学習する者でもその基礎知識を一年間で習得できるよう、判例・通説を引用しながら、出来るだけ解り易く且つ簡潔に説明していくつもりです。特に公務員や行政書士等の国家試験を目指している学生のために、出題頻度の高い問題は都度指摘します。
成績評価の方法	定期試験は学年末試験のみだが、前期も授業内テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポートの課題を出す。 成績評価は、定期試験、小テスト、(レポート)、平常点(不定期に確認する出欠)の総合判断により行う。
教科書／テキスト 参 考 書	特定の教科書は使用しません。但し、オリジナルノートが作れるように毎回丁寧に板書します。最初の講義の際に紹介します。

履修コード	127301
科目名	環境政策
担当者名	よこた けい 横田 匡紀

講義の到達目標(わらい)

環境問題は現代世界の将来にかかわります。従って環境政策は将来の世代の生活にかかわる選択をする営みといえましょう。この講義では、多様化、複雑化、グローバル化している環境問題の状況を踏まえて、環境政策のメカニズムを理解していきます。日本、世界各国、国際社会における環境政策の具体例に言及しながら、行政の視点、企業の視点、市民の視点が交錯する諸相を明らかにします。公務員志望者、マスコミや民間企業志望者あるいは環境問題関連の資格試験なども念頭に置き、有益な情報の提供をこころがけたい。また現代社会の一市民として環境政策をみる視座、問題解決への視座を育成することが期待されます。

講義の内容／
授業スケジュール

*前期は「グローバリゼーションと環境問題への対応」と題して、環境政策がグローバルな性質を持つことを理解します。後期は「持続可能な社会のガバナンス」と題して環境問題に対応する社会のあり方を考えます。

前期テーマ「グローバリゼーションと環境問題への対応」

序—将来の世代のための選択：政策科学の視点(2-4)

- ・環境政策の射程と担い手—ローカルからグローバルへ
- ・環境政策のキーワード

持続可能な発展 予防原則 共通だが差異のある責任原則 等

1. ストックホルムからヨハネスブルグへ(5-9)

—持続可能な発展をめぐるガバナンスの軌跡

- ・環境のグローバリゼーション
- ・国連人間環境会議と地球サミット
- ・ヨハネスブルグ・サミットと制度改革

2. 新しい政策課題(10-15)

- ・「人間の安全保障」と環境問題
- ・淡水資源のガバナンス
- ・ジェンダー／人権と環境問題
- ・反グローバリゼーションと環境問題

後期テーマ「持続可能な社会のガバナンス」

序—持続可能な社会のキーワード(16-18)

ガバナンス コモンズ 社会関係資本と環境 政策手法の変質 等

1. 持続可能な社会の政策課題(19-22)

オゾン層保護
再生可能エネルギー 等

2. 政策統合の諸相(23-26)

環境経営
貿易と環境
エコツーリズム
持続可能な交通政策 等

3. ポスト京都議定書と日本の課題(27-30)

地球温暖化のメカニズム
ポスト京都議定書の国際制度
京都メカニズム
環境政策の展望

*受講生の関心や授業の進行度に応じて優先順位を変更したり、トピックを選別することがある。

*時事問題を随時とりあげる予定である。

*新聞記事やビデオなどを多用し、理解の深化に努める予定である。

履修上の留意点

講義中は私語厳禁とする。

成績評価の方法

出席点はないが、出席しないことで生じる不利益は各自の責任となることに注意してください。
定期試験の点数を基本とし、成績を評価します。ただし任意のレポートや平常点なども考慮します。

参 考 書

宮脇・庄司編『グローバル公共政策』(晃洋書房)

横田匡紀『地球環境政策過程』(ミネルヴァ書房)(第2刷)

そ の 他

環境問題に少しでも関心を持つ学生の履修を歓迎します。

履修コード	127401
科目名	行政法各論
担当者名	塩入 ^{しおいら} みほも

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

行政活動に対する国民の権利救済に関する法制度(=行政救済法)について講義します。

- (1) 行政救済法総説
- (2)～(4) 損失補償制度
- (5)～(9) 国家賠償制度
- (10)～(12) 行政不服申立制度：意義と特徴、不服申立手続の種類・具体的要件・原理等、「公権力の行使」と「処分」の概念
- (13)～(14) 行政事件訴訟法総説：意義と特徴、行政事件と民事事件の区別基準、司法審査の要件と限界(法律上の争訟・紛争成熟性・統治行為論)等
- (15)～(19) 抗告訴訟論：処分及び裁決の取消訴訟・不作為の違法確認訴訟・無効等確認訴訟・義務付け訴訟・差止訴訟
- (20)～(26) 取消訴訟の訴訟要件論：処分性、原告適格、狭義の訴えの利益、被告適格、裁判管轄、出訴期間、不服申立前置主義、その他の形式要件
- (27) 取消訴訟の本案審理：訴訟物と本案要件、違法判断の基準時、違法の主張制限、実質的証拠法則等
- (28) 取消判決の効力
- (29)～(30) 仮の権利保護制度

履修上の留意点

行政法の基礎知識を前提とするので、「行政法総論」を履修済みであることを原則とする。努力次第では、総論との並行又は単独履修も可能であるが、予備校や独学により行政法総論の知識のある程度を習得している者でない限り、相当の努力が必要となることは覚悟していただきたい。なお、行政法は公務員、行政書士等の各種国家試験の必須科目となっているので、これら国家試験の受験を志している学生のために、出題頻度の高い問題、論点については講義内でその都度指摘していくつもりである。

成績評価の方法

定期試験は年度末一回であるが、前期も授業内テストを行う予定である。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポートを課すこともある。成績は、定期試験、小テスト、(レポート)、不定期に確認する出欠、の総合判断により評価する。

教科書/テキスト
参 考 書

特定の教科書は使用しません。
初回講義時の際に紹介します。

履修コード	127501
科目名	地方自治法
担当者名	富井 ^{とみい} 幸雄 ^{ゆきお}

講義の到達目標(ねらい)

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

講義は大旨以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修もしくは既修であることがのぞましい。
前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。
富井幸雄『地方自治法読本 改訂版』2008年4月(内外出版)
『地方自治判例百選(第3版)』(別冊ジュリスト)。
講義では頻繁に法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

履修コード	127601
科目名	地方行政
担当者名	野口 暢子 <small>のぐち のぶこ</small>

講義の到達目標(ねらい)	「地方行政」の歴史、制度、事例等を紹介し、解説することにより、「地方行政」の仕組みや課題に関する知識を定着させ、理解を深めることを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	<p><前期> 1 「地方行政」の講義について</p> <p>2～4 歴史(明治期～第二次世界大戦中、戦後改革期、地方分権改革の時代)</p> <p>5～7 機構・制度(「中央」と「地方」、都道府県と市区町村、コミュニティ)</p> <p>8～11 政策(福祉、産業、環境、教育・文化)</p> <p>12～14 住民自治(選挙、住民投票、その他)</p> <p>15 前期のまとめ</p> <p><後期> 1～5 諸外国の制度(ヨーロッパ①②、アメリカ、アジア、比較類型)</p> <p>6～9 制度改革をめぐる議論(地方分権、市町村合併、道州制、都区制度)</p> <p>10～13 日本の自治体における取り組み・事例研究</p> <p>14 「地方行政」の課題</p> <p>15 後期のまとめ</p>
履修上の留意点	日頃から、「地方行政」に関する情報・報道等にふれること、住んでいる自治体の行政に関心を持つことを心がけてください。
成績評価の方法	学期末に行う筆記試験(70%)、提出していただく年に2回のレポート(20%)、授業内に実施する小テスト(10%)で評価します。
教科書/テキスト	磯崎初仁・金井利之・伊藤正次著『ホーンブック 地方自治』北樹出版、2007年、2,700円+税、ISBN 978-4-7793-0047-9
参 考 書	阿部・今村・岩崎・大久保・澤井・辻山・山本・寄本著『地方自治の現代用語 第2次改訂版』学陽書房、2005年、3,000円+税、ISBN 4-313-16632-7 竹下讓監修・著『よくわかる 世界の地方自治制度』イマジン出版、2008年、3,500円+税、ISBN 978-4-87299-493-3
そ の 他	その他、毎回の授業でレジュメを配布するとともに、関連する文献を紹介します。授業の内容についてのわからないことや疑問はそのままにせず、授業後に質問したり、調べたりする姿勢を大切にしてください。

履修コード	127701
科目名	政策決定論
担当者名	井上 拓也 <small>いのうえ たくや</small>

講義の到達目標(ねらい)	<p>政策科学は、公共政策を対象とする学際的な学問分野であり、社会科学の様々な分野から成り立っている。そこでこの講義では、公共政策と政策決定の問題を、政治学、中でもとくに政治制度論、政治過程論、行政学の知識を応用しながら検討していく。</p> <p>講義の内容としては、まず「公共政策と政策決定」で、公共政策の意味や類型を確認した後に、政策過程における決定の在り方を検討する。「政策決定の制度」では、政治体制、議会、執政部、裁判所における政策決定に関する側面を概観する。「政策決定の主体」では、政治家、官僚制、政党、利益団体の政策決定に関する側面を概観する。「地方政府の政策決定」では、地方制度を概観した後に、条例・規則や総合計画について検討する。「行政・政策・ガバナンス」では、ガバナンス(統治)からガバナンス(協治)への変化を背景に、行政理論と新公共経営論(NPM)の流れを概観する。「ガバナンスと法人制度」では、ガバナンスの主体としての各種の法人、および現在の公益法人制度改革について概観する。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 前期序論(2～5) 公共政策と政策決定①②③④ (6～9) 政策決定の機構①②③④ (10～13) 政策決定の主体①②③④ (14) 前期結論 (15) 前期試験 (16) 後期序論 (17～20) 地方政府の政策決定①②③④ (21～24) 政策・行政・ガバナンス①②③④ (25～28) ガバナンスと法人制度①②③④ (29) 後期結論 (30) 後期試験
準備学習 履修上の留意点	政治制度論、政治過程論、行政学の基礎知識を学習済みであることが望ましい。 あらゆる社会科学の対象と同様に、公共政策や政策決定も多面的な視点から検討することが重要である。したがって受講者には、教員による説明以外にどのような説明が成立しうるかを意識しながら講義に臨んでほしい。
成績評価の方法	前期試験50%+後期試験50%=100%。
教科書/テキスト	とくに指定しない。レジュメを配布する。
参 考 書	とくに指定しない。
そ の 他	必要に応じてパワーポイントを利用する。

履修コード	127801
科目名	民法（総則・物権法）
担当者名	<small>すが あきひり</small> 須賀 昭徳

講義の到達目標(ねらい)

われわれの日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひとつおりの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面（これを規律する法が財産法）と種族保存を目的とする保族生活の面（これを規律する法が家族法）とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。なお、時間の関係で総則を中心として詳しく講義をし、物権についてはひとつおりの知識を持てるようにしていきたいと思います。

講義の内容/
授業スケジュール

前期（民法総則）

①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体（自然人） ④法人（社団法人、財団法人） ⑤権利の客体（物とは） ⑥法律行為（意思の欠缺、瑕疵ある意思表示） ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑩時効（取得時効、消滅時効）

後期（物権法）

①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権（法定担保物権） ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保（譲渡担保、仮登記担保）

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

講義にはかならず六法を持参すること。

期末試験の成績により評価する。

我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権（勁草書房）2200円

講義の中で指示する。

履修コード	127901
科目名	刑法総論
担当者名	佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)

本講義では刑法総論の分野を扱います。刑法総論は刑法各論のように殺人罪、窃盗罪といった個々の犯罪を扱うのではなく、それらの犯罪の共通にもっている性格を明らかにいたします。そこで、犯罪の基本的、重要な課題について、その意義と問題点を学説や判例をふまえながらすすめ、体系的に刑法総論を理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

I 序説

- 1 はじめに
- 2 刑法とはなにか
- 3 犯罪論の基礎
- 4 罪刑法定主義と刑法の解釈

II 構成要件

- 1 総説
- 2 結果
- 3 実行行為
- 4 因果関係

III 違法性

- 1 総説
- 2 正当業務行為
- 3 正当防衛
- 4 緊急避難

IV 責任

- 1 総説
- 2 責任能力
- 3 故意
- 4 過失
- 5 期待可能性

V 共犯

- 1 総説
- 2 共同正犯、共謀共同正犯、承継的共同正犯、過失の共同正犯
- 3 教唆犯
- 4 幫助犯

VI 共犯の諸問題

- 1 共犯と身分
- 2 不作為と共犯
- 3 共犯と錯誤
- 4 共犯の中止、離脱

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

予習及び復習は必要です。
筆記試験が中心であるがその他を考慮する場合もある。
学内指定書店の指示を受けて下さい。

履修コード	128001
科目名	国際法
担当者名	橋本 靖明

講義の到達目標(ねらい)	私達は今、国際社会の中で生きています。国際社会の動きとその行動を規律する法体系である国際法を無視しては、社会のさまざまな構成員間の関係を良好に保つことができないのです。 本講義では、皆さんとともに国際社会の現状と展望を概観しつつ、その社会を規律する国際法とは何か、について学んでゆきます。
講義の内容／ 授業スケジュール	大きく、以下の三つのパートに分けて進めてゆく予定です。 ①国際法の全体像をを概観する。(2～5) ②領域(陸、海、空、宇宙等)に関する国際法を考える。(6～25) ③領域を越えるさまざまな今日の問題(人権、環境、テロ等)に関する国際法を考える。(26～30)
準備学習	新聞、雑誌、インターネット等で報道される国際情勢に留意し、その法的背景を探ってみてください。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	特別な予習を必要としませんが、その分、授業への出席を求めます。 受講生の出席状況と筆記試験の回答内容から総合的に成績評価を行います。 編者：松井 芳郎(編集代表) 書名：『ベーシック条約集』2010年版 出版社：東信堂 価格：2730円(税込み：2009年版参考) ISBN：978-4-88713-897-1(2009年版参考)
参考書 その他	特に指定する予定はありません。 (講義形式)講義は、必要に応じて資料等を参照しながら行います。

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)	国際関係論の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	【前期】第1～2回：国際関係を学ぶ視座、第3回：多様化するアクター、第4回：国益とパワー、第5回：日本の領域と国際関係、第6回：安全保障(1)安全保障の概念と類型、第7回：勢力均衡とバンドワゴン、第8回：覇権安定論、第9回：リベラリズムの考え方、第10回：ネオ・リベラリズムの考え方、第11回：ゲーム理論と国際関係、第12回：コンストラクティヴィズム、第13回：南北問題と構造的暴力、第14回：平和学の誕生と展開、第15回：中間試験 【後期】第1回：安全保障(2)人道的介入、第2回：安全保障(3)大量破壊兵器の拡散、第3回：安全保障(4)テロリズム、第4回：東アジア共同体の構想とその課題、第5回：「人間の安全保障」と人権、第6回：難民保護とUNIICR、第7回：地球環境レジームの形成、第8回：米中関係と日本、第9回：インドの台頭と米印中関係、第10回：ASEANと日本外交、第11回：日本のエネルギー戦略と中国・インド・米国との関係、第12～13回：総括北朝鮮をめぐる六者協議、第14～15回：総括
履修上の留意点	テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いしません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補ってください。
成績評価の方法 教科書／テキスト	試験(前期30%+後期70%)。 前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。 後期：天見慧・三船恵美編『強大国化する中国の外交戦略』(仮題)2010年刊行。 (書籍名が未確定なので、教科書販売所で確認して下さい)
参考書	授業中に紹介します。

履修コード	128201
科目名	比較政治学
担当者名	三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)

政治学科の専門科目として、本格的な大学の授業を経験する場を提供します。
比較政治学は、いろいろな国や地域の事例を比較して、政治現象の因果関係の解明を目指す分野です。この授業では、その一端をご紹介しますとともに、みなさん自身が比較研究するのに役に立つ手法を練習します。

また、政治にまつわる多くのことがらに対する問題意識を養い、政治学を専攻している大学生であるみなさんが、人間についてより深く考える人になることを目標としています。

「比較」という手法は、あらゆる分野に使える方法ですので、まじめに勉強すると卒業後も役に立つことが多いと思います。

この授業を最後までやり通すことで、少しずつ計画的に学習する習慣が身につきます。さらに、グループ活動が多いので、自己表現やプレゼンのスキルも身につきます。ノートの作り方等も習得します。

講義の内容／授業スケジュール

この文章は2009年12月の時点で書いています。この授業には世界や日本で今現在起きている出来事を反映させる必要があります。また、よいドキュメンタリー番組などが放映されれば、積極的に使っていきたいと考えています。参加する学生さんの関心や熱意、人数によって、授業内容も変えていきます。したがって、2009年12月の時点で詳細な授業スケジュールを確定させることはできません。基本的には2010年度も2009年度同様、民主化、民族問題、移民政策といったテーマを取りあげ、比較研究の方法論の勉強をします。以下はあくまで参考です。

前期

第1回 ガイダンス

第2回～第6回 民主化を考える（ビルマ、ブータン、南アフリカ、日本）

第7回～第13回 ネイションを考える（チベット、クルディスタン、沖縄とアイヌ民族、ベルギー、スリランカ、オーストラリアの先住民族、日本の移民政策）

第14回 ワークショップ（多文化主義）

後期

第15回～第21回 比較の方法を学ぶ（比較方法の基礎、質的比較、ブール代数を使った比較のグループ作業）

第22回～第25回 国際社会に目を向ける（社会的起業による支援、ODA等）

第26回～第27回 日本の難民政策

第28回～第30回 個人発表（希望があれば）・ワークショップ

準備学習

毎回事前にやってくる課題が出ます。毎週1時間半程度は予習に使うことを想定しておく必要があります。新聞に日常的に目を通すことも必要です。毎週こつこつやっていくと興味深く感じるものが増えていきますので、しだいに苦にならなくなっていきます。

履修上の留意点

この授業は、自分で事前に勉強してきたことを「使って」、教室で様々な活動を行う授業です。「講義」形式の授業はほとんど行いません。知識のインプットなどは授業前にすませ、教室ではグループで作業をして教え合ったり議論したりプレゼンをしたりといったアウトプットを行います。そのため、ほぼ毎週文献を読んで来る等の課題が出ます。教室には《必ず》課題をやってくるのが条件です。こうすることで、やる気がある人だけでレベルが高いグループ活動や討論ができるようになります。

他の授業とやり方が違いますので、一回目のガイダンス授業には必ず出席してください。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。

YeStudyを必ず利用します。

中学校の社会科レベルの内容が身につけていること、新聞（特に国際面）をふだんから読んでいること、高校の社会科レベルの内容で授業に関連することは自分で学習すること、が条件です。

欠席したときの授業内容は必ず各自の責任で補ってください。就職活動であろうが部活動であろうが、欠席した人を特別扱いはありません。（病気による長期欠席の場合は早めに相談してください）

成績評価の方法

平常点と定期試験によります。参加人数が少なくなった場合、出席を取る可能性があります。一回目の授業に参加していない場合、減点が生じる可能性があります。

教科書／テキスト

指定する可能性はありますが、現時点で未定です。

参考書

その都度紹介します。

その他

この文章は2009年12月時点に書いています。変更もあり得ます。最新の情報はYeStudyで確認してください。YeStudyに、前年度に履修した学生さんの感想やアドバイス、授業評価結果を載せますので、参考にしてください。

履修コード	128401
科目名	比較都市論
担当者名	<small>むらかみ あきのぶ</small> 村上 暁信

講義の到達目標(ねらい)

経済成長を目的に都市開発を進めた時代から、地域管理や経営という視点を含む持続的発展を目指した都市づくりが要請される時代へと移行しつつある。このような変化に対し今日の都市づくりは、経済のグローバル化に伴い国内外にわたる地域間競争にさらされ、持続可能性をもって地域ポテンシャルを高めることが期待されている。一方、地方分権改革により各都市独自の政策に基づき、固有の環境や景観、歴史や文化・産業などの資源を活かした個性豊かな都市のあり方が問われている。本講義では持続可能で個性豊かな都市づくりという観点から、諸外国と日本、日本における各都市について比較し、また、先進的な事例をととして今後の都市政策における学生諸君の専門知識と理解を深めることを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

授業では、各回毎に今日的なテーマを設定し、様々な都市のデータ及び都市づくりに関する計画や政策、実践的な取り組み等を提示しながら下記のテーマを中心に講義を行う。詳しい授業スケジュールについては、第1回目のガイダンスで提示する。

【前期】

- ・ガイダンス
- ・景観・風景町並み
- ・環境と共生した都市づくり
- ・中心市街地の活性化と都市再生

【後期】

- ・都市づくりの仕組みと都市計画制度
- ・都市づくりと政策課題
- ・協働によるまちづくり

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

授業時に紹介する教科書や参考書を読み理解を深めるよう努力を払ってほしい。

授業への出席及びレポート、学期末試験の成績を中心に評価する。

特に教科書は指定しない。

授業中に随時提示し、さらに詳細な考察を望む学生にはテーマに沿う参考書を推薦する。

履修コード	128501
科目名	北米政治論 (1)
担当者名	<small>こぼり のりお</small> 小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)

この講義は、“不思議な国アメリカ”を理解することが目的である。アメリカは、世界中から集まった、多種多様な人種によって形成された国家である。その不思議な国家を理解するためには、たった一度の戦争（アメリカ革命）で国家が成立してしまった様子、アメリカの国家理念、アメリカの政党と政治を理解する必要がある。

講義の内容/
授業スケジュール

(1～5) 市民革命と近代国家の成立（イギリス、フランス、アメリカの比較）、(6～8) アメリカ国家の成立過程、(9～10) ピューリタンとアメリカ政治、(11～12) アメリカの国家理念、(13～15) アメリカ政治の特質

履修上の留意点

この講義では、アメリカ政治の総論を概説するが、政治学の基礎的な知識を必要とする。基本的な事項は、その都度明示し解説するが、理解出来ない点は積極的に質問して欲しい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

定期試験70%、授業中の小テスト30%、授業中の積極的な発言も評価の対象とします。

特定のテキストは使用しない。

読むべき本、雑誌、論文など、講義のなかでその都度紹介します。

履修コード	128601
科目名	北米政治論 (2)
担当者名	小堀 訓男 <small>こぼりのりお</small>

講義の到達目標(ねらい) この講義のねらいは、“アメリカ政治の特質”を理解することにある。そのため、ルーズベルト大統領のニューディール政策からブッシュ大統領のイラク戦争までの歴代の大統領の内政と外交を概観する。

講義の内容／授業スケジュール (1～3) ニューディール体制 (ニューディール政策の内容を理解し、政策前と政策後のアメリカの政治の変化を考える。)
(4～5) 第2次大戦後の政治と社会 (軍産複合体と人種差別問題を考える。)
(6～7) 激動の1960年代 (ベトナム戦争とアメリカの行動基準を考える。)
(8) 社会変動と政治の対応 (反戦運動とアメリカの国家理念、共和党ニクソン政権の成立を考える。)

(9) 1970年代後半の保守化への動き、(ウォーター事件とかカーター政権の外交を考える。)
(10～11) レーガン政権、I期、II期 (レーガノミックスと共和党のソ連政策を考える。)
(12) ブッシュ政権と社会主義諸国との関係 (冷戦の終結と国際政治の構造的変化について考える)
(13～15) 冷戦終結後のアメリカと国際政治 (湾岸戦争からイラク戦争までのアメリカの外交と新保守主義を考える)

履修上の留意点 上記のテーマのなかから受講生は各自好きなテーマを選択し研究をおこなう。希望者があれば授業中に研究発表をおこない、全員で討論しながら理解を深めていきたい。積極的に発表に参加することを望みます。

成績評価の方法 定期試験70%、研究発表30%、授業中の積極的な発言も評価の対象とします。

教科書／テキスト 特定のテキストは使用しない。

参考書 参考書、雑誌、論文など、講義のなかでその都度紹介します。

履修コード	128701
科目名	東南アジア政治論 (1)
担当者名	深尾 康夫 <small>ふかおのやすお</small>

講義の到達目標(ねらい) 東南アジアの特徴として域内各国における民族、宗教、言語、文化などの多様性が指摘されます。本講義では、このような多様性が東南アジア諸国の政治にどのように影響しているのかという側面を学びます。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：ガイダンス、第2回：東南アジアの概要 (自然、民族、言語)、第3～4回：交易時代の東南アジア (ヒンドゥー、仏教、イスラム、キリスト教)、第5～6回：欧米植民地下の東南アジア、第7回：独立後東南アジアにおける政治制度選択とその背景、第8回：欧米型民主主義の失敗と権威主義政治体制の登場、第9回：開発指向型権威主義政治体制の確立、第10回：経済開発と民主主義の抑制、第11～12回：開発における負の側面 (人権侵害、環境破壊、ファミリービジネス蔓延)、第13回：アジア通貨危機波及と権威主義政治体制の崩壊、第14～15回：民主化と政治制度変革、全体まとめ

準備学習 日常的に東南アジア関連報道に注意したうえで授業に出席してください。

履修上の留意点 頻りにプリント資料を配付しますので、取り忘れることの無いよう注意してください。

成績評価の方法 期末試験ないし最終レポート60%、クイズ他30%、出欠10%に基づいて評価します。

教科書／テキスト 教科書は特に指定しません。

参考書 毎回授業時に参考文献リストを配布します。

履修コード	128801
科目名	東南アジア政治論（2）
担当者名	深尾 康夫 <small>ふかお やすお</small>

講義の到達目標(ねらい)	東南アジアは古来文化的・民族的に多様な社会を發展させてきました。第2次大戦後独立を果たし、国造りを始めた大部分の国にとって、国内の多様性を尊重しながらいかに統一国家を維持するののかという問題は、今日に至るまで大きな政治的課題です。本講義では海域部の大国インドネシアを中心に、中央・地方関係の視点からこの課題への対応を探ります。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：開発途上国における中央／地方関係と分権化の意味、第3回：東南アジア海域部の社会的多様性と政治へのインパクト、第4～7回：スハルト政権と中央集権（権威主義政治体制下の中央／地方関係、地域開発と中央エリート、地方首長選挙の混乱、分権化への試みと失敗）、第8～10回：ポスト・スハルト時代の分権化（民主化インパクトと制度改革、地方自治体分立問題、第3の道）、第11回：全体まとめ及び試験問題解説、第12～14回：国家統一の維持と地域紛争（東ティモール、アチェ、パプア）、第15回：近隣諸国との比較検討
準備学習	日常的に東南アジア（特にインドネシア、マレーシア、フィリピンなど海域部）に関する報道に注意したうえで授業に出席してください。
履修上の留意点	頻繁にプリントを配布します。定期試験ないしレポート作成において、これらプリント資料は欠かせないので取り忘れることの無いよう注意してください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	期末試験ないし最終レポート70%、出欠他30%に基づいて評価します。 教科書は特に指定しません。 毎回授業時に参考文献リストを配布します。

履修コード	128901
科目名	中国政治論（1）
担当者名	三船 恵美 <small>みふね えみ</small>

講義の到達目標(ねらい)	本講義の目的は、現代中国の政治と日中関係の基本的な知識を学ぶことです。 地域研究を学ぶ意義は、単に1地域の情勢について詳しくなることだけではありません。トックヴィルが「1つの国のことしか知らない人は、実はその国についても知らない」と言ったように、他国との比較なしには1国についても知り得ません。また同時に、国際関係や外交政策を検討する場合、その国の政策決定者ならびに政策決定者に影響を与えるであろう人々のイメージを検討しなければいけません。イメージ・ギャップは、文化的距離、環境や支配目標の差異などによって生じます。現代の国際社会が極めて異質な成員の集合体であることから、国際関係の研究と地域研究は切り離せません。ここに地域研究を学ぶ意義があります。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：現代中国政治を視る眼、第2回：現代中国の政治体制と政治変容：党・国家・軍、第3～4回：中国略史、第5回：毛沢東～鄧小平時代、第6回：江沢民時代、第7～8回：胡錦濤体制、第9回：冷戦期の日中関係、第10回：米中接近と日中国交正常化、第11回：1980年代の日中関係、第12回：1990年代の日中関係、13～14回：21世紀の日中関係、第15回：総括
準備学習	時事的な話題も取り上げるつもりですので、受講期間中は、新聞に掲載された国際面の中国関連記事にざっと目を通して下さい。
履修上の留意点	就職活動や部活で欠席した人を特別扱いません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参考書	試験（100%） 毛里和子『日中関係』岩波新書、2006年。 天児懋『巨龍の胎動』講談社、2004年。 天児懋・浅野亮編『中国・台湾』ミネルヴァ書房、2008年。

履修コード	129001
科目名	中国政治論（2）
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)	<p>本講義の目的は、現代中国の政治や外交の基本的な知識を学ぶことです。中国政治は複雑かつ極めて不透明なものです。それについて学び、分析し、理解することは難しいことですが、現在の中国の台頭を考えると、とても重要なことです。</p> <p>地域研究を学ぶ意義は、単に1地域の情勢について詳しくなることだけではありません。トックヴィルが「1つの国のことしか知らない人は、実はその国についても知らない」と言ったように、他国との比較なしには1国についても知り得ません。また同時に、国際関係や外交政策を検討する場合、その国の政策決定者ならびに政策決定者に影響を与えるであろう人々のイメージを検討しなければいけません。イメージ・ギャップは、文化的距離、環境や支配目標の差異などによって生じます。現代の国際社会が極めて異質な成員の集合体であることから、国際関係の研究と地域研究は切り離せません。ここに地域研究を学ぶ意義があります。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>第1回：中国の政治と外交を視る眼、第2～3回：中国の外交戦略、第4～5回：米中関係、第6～7回：中国と朝鮮半島、第8～9回：米台中関係、第10～11回：中国と東南アジア関係、第12回：中国と国連、第13回：中国と中東・アフリカ関係、第14回：中国とロシア・中央アジア関係、第15回：総括</p>
準備学習	<p>時事的な話題も取り上げるつもりですので、受講期間中は、新聞に掲載された国際面の中国関連記事にざっと目を通しておいて下さい。</p>
履修上の留意点	<p>就職活動や部活で欠席した人を特別扱いしません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。</p>
成績評価の方法 教科書／テキスト	<p>試験（100％）</p> <p>天児慧・三船恵美編『強大国化する中国の外交戦略』（仮題）2010年刊行。 （書籍名が未確定なので、教科書販売所で確認して下さい）</p>
参 考 書	<p>天児慧『巨龍の胎動』講談社、2004年。 霞山会『中国総覧』ぎょうせい、2008年。 平和安全保障研究所『アジアの安全保障』朝雲新聞社、各年。</p>

履修コード	129101
科目名	ヨーロッパ政治論（１）
担当者名	<small>なかの ゆうじ</small> 中野 裕二

講義の到達目標(わらい)

本年度の「ヨーロッパ政治論（１）」は「フランスにおける移民・外国人問題」と題して講義します。基礎となる学問的傾向は政治社会学です。フランスは人種、文化、宗教の面で多様な人々をどのような理念・制度に基づいて社会に統合し、彼らと共存しようとしているのか。実際に移民・外国人の抱える困難は何か。政府や政治勢力は移民・外国人問題にどのように対応しているのか。こうした点の検討をとおして「国民とは何か?」「多様な人々との共存はどのように可能か?」を考えます。

講義の内容／
授業スケジュール

イントロダクション（１）

1. 社会編成原理としてのフランスの「共和制モデル」（２～４）
2. 外国人労働者から市民へ（５・６）
3. 移民・外国人の統合と排除の実態（７～１１）
4. 統合の課題とゆくえ（１２・１３）
5. 再び「共和制モデル」を考える（１４・１５）

準備学習
履修上の留意点

教科書の指定された部分と参考文献を事前に読んでおくことが望ましい。

「政治制度論」を受講済みであることを前提に授業を進めます。

フランスを直接の対象としますが、「日本の移民・外国人問題は?」「日本の共存理念は?」という問題関心をつねに持って受講してください。時間が許せば、日本の状況を紹介し、比較します。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①フランスの移民・外国人問題に関する歴史的経緯を説明できる。
- ②フランスの移民・外国人の抱える社会統合上の困難を説明できる。
- ③「共和制モデル」と移民・外国人問題との関係を説明できる。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

教科書／テキスト

宮島喬編『移民の社会的統合と排除：問われるフランス的平等』東京大学出版会、2009年、ISBN978-4-13-050174-3、3800円

参 考 書

フランソワ・エラン『移民の時代』明石書店、2008年

宮島喬『移民社会フランスの危機』岩波書店、2006年

宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年

大山礼子『フランスの政治制度』東信堂、2006年

田口富久治・中谷義和編『新版 比較政治制度』法律文化社、1999年

中野裕二『フランス国家とマイノリティ』国際書院、1996年

履修コード	129201
科目名	ヨーロッパ政治論(2)
担当者名	<small>なかの あさひ</small> 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)

本年度の「ヨーロッパ政治論(2)」は「地域のヨーロッパ」と題して講義します。この講義は、先進諸国に今日生じている社会変化の特徴を、国際化を含む多層化、そして分権化あるいは地域化を基調とする再編成にもとめ、これをヨーロッパの事例に即して検証することを目的とします。この講義のキーワードは、民主主義、参加、自治、ガバナンス、トランスナショナル化、文化、言語、マイノリティ、排除、再開発などです。

従来、社会的組織化の基盤として絶対的であった国民国家の地位が揺らぎ、一方では国際制度などの超国家空間、他方では地域・地方空間の意味が増大しています。この講義では、後者の側面、つまり領域的には国民国家より下位レベルの空間に焦点をあて、地域・地方空間を準拠枠として生じている社会の再編を検討します。

具体的には、上記の問題関心に基づき書かれたテキストに沿って進みます。

講義の内容/
授業スケジュール

- ・イントロダクションと理論枠組み(1~3)
- ・自治州国家スペインにおける「歴史的諸法」(4)
- ・橋はまた架かるか(ボスニア)(5)
- ・新しい場所と土地の記憶(イングランド)(6)
- ・シティズンシップとマイノリティ(エストニア)(7)
- ・北アイルランドにおけるコミュニティの重層化と多層化(8)
- ・ケルト語圏における地域的言語文化の振興(フランス、イギリス)(9)
- ・ユーロリージョンの「限界」(ポーランド)(10)
- ・越境労働と国民国家(フランス)(11)
- ・ローカルガバナンスの台頭と調整(イギリス)(12)
- ・まとめ(13~15)

準備学習
履修上の留意点

指定されたテキストの各論文を事前に熟読しておくこと。

この講義では各国・各地域を専門に研究している人々の論文を素材とするので、講義内容はヨーロッパ政治の「入門」ではないことに留意してください。ヨーロッパもしくは先進社会の変化に高い関心をもって授業に臨んでもらいたいと考えています。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通りです。

- ①テキストで用いられる「地域」「領域性」概念を理解している。
- ②ヨーロッパ各国における「地域」の諸相を理解している。

③各論文の説明枠組みもしくは筆者の説明の仕方を把握している。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどを通して判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

教科書/テキスト

宮島喬・若松邦弘・小森宏美編『地域のヨーロッパ』人文書院、2007年
(2200円、ISBN978-4-409-23044-2)

履修コード	129301
科目名	ヨーロッパ政治論 (3)
担当者名	浅見 政江

講義の到達目標(ねらい)

27構成国からなる欧州連合(EU:European Union)では、2009年12月に新基本条約であるリスボン条約が発効しました。この条約により、EUには「大統領」が誕生する、「外務大臣」が誕生するなど報道されています。しかし、考えてみると、そもそも国家でもないEUに、大統領や外務大臣ポストが必要なのでしょうか？ いやそれ以前に、リスボン条約が規定している「大統領」や「外相」とは、そもそもどのような職責が与えられているのでしょうか？ 本講義では、このような素朴な疑問から出発して、新条約に基づくEUのガヴァナンスの実相を明らかにしていきたいと思えます。

国家ではないものの、国家に相当するほどの権限をもつEUのガヴァナンスは複雑怪奇です。かつ、EUのガヴァナンスは27構成国の領域、すなわち、ほぼ欧州全域をカバーする至り、現代欧州の政治を理解するためには、このEUに対する深い理解が不可欠です。

さらに、なぜEUが今日のようなガヴァナンスを提供するようになったのか、という歴史的背景を理解することもまた非常に重要です。

以上のような観点から、本講義では、現在のEUに関する理解を深めるとともに、EUが誕生した歴史的背景に関する知識の習得を目指すこととします。

そのためには、政治学、国際政治学をはじめ、第二次世界大戦後の欧州地域の国際関係史、場合によっては経済学といった諸学問領域に関する基礎知識が必要になります。講義では、これら基礎知識の確認も行いつつ、専門的な「EU論」を展開したいと考えています。

講義の内容/
授業スケジュール

第1クール ガイダンス(1回)

第2クール EUの構成国(1回)

第3クール EUのガヴァナンス(4回)

第4クール EUの歴史(3回)

第5クール 総括:EUは何をしているか?(1回)

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験(最終講義日に実施)と平常点(出席点と課題)

特定のテキストは使用しませんが、毎回レジュメを用意します。

参考文献は講義中、適宜紹介します。

履修コード	129401
科目名	ヨーロッパ政治論 (4)
担当者名	浅見 政江

講義の到達目標(ねらい)

1989年11月9日、冷戦の象徴だったベルリンの壁は崩壊し、翌1990年10月3日にドイツは再統一を果たしました。この再統一から数えて今年が20年目の節目の年にあたります。

今期は、この節目の年に際して、ドイツ再統一を歴史的に再評価してみたいと思います。ドイツの再統一によって、欧州における冷戦はまさに終焉し、ドイツも欧州も新時代へと歩みを進めたわけですが、その新時代には多くの矛盾、課題、難問が立ちはだかっています。新時代の先駆けとなったドイツ再統一プロセスを検証し、その功罪を、現代的視点から捉え直し、多角的視点で再評価することが本講義の目的です。

再統一プロセスを再検証するに際しては、数多く残された映像資料を利用しつつ、臨場感を味わいながら、当時の状況を把握してもらう予定です。

ドイツの再統一は、事実上、西ドイツによる東ドイツの吸収合併でしたので、現在のドイツの政治制度は、改編は加えられたものの、基本的には西ドイツの政治制度が援用されています。ドイツ政治制度に関する理解を深めることも、ドイツ再統一を再評価するためには必要不可欠ですので、ドイツの政治制度に関する説明から講義を開始します。

その上で、ドイツ史を紐解き、第二次世界大戦後のドイツの歩みを検証し、再統一プロセス、その後20年のドイツに関して講義していきます。同時にドイツに関する興味関心も喚起したいと思いますので、ドイツの文化、芸術、スポーツといったソフトな話題も提供していく予定です。

講義の内容/
授業スケジュール

第1クール ガイダンス(1回)

第2クール ドイツの政治制度(5回)

第3クール ドイツの歴史とドイツ再統一の検証(5回)

第4クール 総括:現代ドイツに関して(2回)

履修上の留意点

ドイツを対象に講義を行います。特段ドイツ語の知識は必要ありません。ただ、講義内容を正確に理解し、理解を深めるためには講義中提示した参考文献の手助けが必要です。講義に欠かさず出席することはもちろんのこと、講義を発展的に活用する意気込みのある人の履修を期待します。

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験(講義最終日に実施)と平常点(出席点と課題)で評価します。

特定のテキストは使用せず、講義内容に関連するレジュメを配布する予定です。参考文献は、講義中、適宜紹介します。

履修コード	129501
科目名	アラブ・イスラム政治論
担当者名	<small>なかしま いさむ</small> 中島 勇

講義の到達目標(ねらい)	現代中東の政治問題を中心に扱う。開講中に発生する事件や紛争も扱い背景にある民族問題、宗教問題を説明する。中心的テーマは、アラブ・イスラエル紛争やイスラム系組織のテロ問題となる。また中東・アラブの文化的、宗教的な背景にもふれる。
講義の内容／ 授業スケジュール	1回-7回は、中東の基礎を扱う。地理、気候、言語、宗教、歴史などを整理する。8回-15回は、第一次世界大戦ころから現在までの時間枠で、政治的な流れを整理する。大枠では、オスマン・トルコ帝国の解体後におきた政治的な変化を中心に、2009年までの動きにふれる。
履修上の留意点	講義期間中に発生するニュースを扱うので、国際報道に関心があることが望ましい。
成績評価の方法	評価は、レポートの提出で行う。
その他	講義では、映像資料（ニュース、記録映像、映画）などを多様する。中東に関する映画も紹介したい。

履修コード	129601
科目名	中南米政治論
担当者名	<small>みのわ しげる</small> 箕輪 茂

講義の到達目標(ねらい)	現代ラテンアメリカ諸国において生起する政治的現象の理解を目標として講義を進める。
講義の内容／ 授業スケジュール	ラテンアメリカ社会を形作った歴史的背景、政治文化、さらに政治的体制の一般概念について概説した後、政治的アクターの役割に焦点を当てて、中南米政治の特徴や独自性について次のスケジュールで解説していく予定。第1回：ガイダンス、第2回：イントロダクション、第3～5回：歴史的背景、第6回：政治文化、第7～8回：政治体制、第9～12回：政治的アクター、第13～14回：民主化、第15回：まとめ。
履修上の留意点	講義は概説的なものになるため、関心を持った分野については教科書や参考文献、さらにニュースやドキュメンタリー番組などを通じて、より幅広い知識を習得することを期待する。
成績評価の方法	筆記試験（学期末）による。
教科書／テキスト	松下洋・乗浩子編『ラテンアメリカ 政治と社会 [全面改訂版]』（新評論）3,200円、ISBN4-7948-0631-0
参 考 書	授業開始時に紹介する。また、学生の関心に応じて専門文献なども適宜紹介する。

履修コード	129701
科目名	政治社会学
担当者名	<small>なかの ゆうじ</small> 中野 裕二

講義の到達目標(わらい)

本年度の「政治社会学」の長期的目標は次の二点にあります。第1に、現代社会を分析し、理解し、説明する力を身につけること、第2に、現代社会の諸問題を解決する理論を模索することです。しかし、直ちに現代社会の現状分析を行うことは不可能です。それは、分析道具である概念や理論を持たないからです。そこで、この講義では、19世紀の社会学者たちが、19世紀社会をいかに分析し、理解し、説明したか？彼らが19世紀社会の諸問題をいかに理論的に解決し、乗り越えようとしたのか？を学びます。

それでは、なぜ19世紀なのか？理由は2つあります。第1に、19世紀社会は、産業革命と市民革命を経た大変動期であり、われわれの現代社会が抱える問題が初期形態として登場した時代であるからです。第2に、それゆえ、19世紀の社会学者たちの理論的営みは、現代政治学の基礎になっているからです。彼らを抜きにして現代政治学を理解することはできません。

講義の内容／
履修スケジュール

イントロダクション (1)

1. 政治社会学について (2～5)
2. トクヴィル (6～9)
3. マルクス (10～13)
4. コント (14・15)
5. デュルケム (16～20)
6. ヴェーバー (21～25)
7. 20世紀の政治社会学 (26～30)

準備学習
履修上の留意点

各章の最初に参考文献を紹介するので、自主的に読むことが望ましい

上記のように、社会学者ごとに項目を設けて講義を進めます。しかし、この講義は「学説史」に重点を置くものではありません。それぞれの社会学者たちが、自分の生きた時代の何を問題視し、それをいかに理論的に乗り越えようとしたのか、という知的営みに焦点を当てます。受講生はつねに、現代社会への応用を念頭に置いて、「自分ならばこういう理論を立てる」という心構えをもって望んで欲しいと思います。

成績評価の方法

学生に期待される到達レベルは以下の通り。

- ①政治学理論発展のプロセスを理解している。
- ②19世紀の社会学者たち各々の問題関心と、彼らの学問的貢献を関連づけて説明できる。
- ③政治科学の初期理論を理解できている。

以上の到達レベルに達しているかどうかを、期末試験と授業時間中の小テストなどをもって総合的に判断します。なお、授業中の意見・質問などの授業への積極的参加は、補助的に評価します。

教科書／テキスト

教科書は使用しません。毎回プリントを配布し、その内容にそって授業を進める予定です。参考文献は適宜紹介します。

履修コード	129801
科目名	マス・コミュニケーション論
担当者名	相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

マス・メディア、とりわけテレビは、いわば空気のように、身近で、かつ、なくてはならないものというのが、私達大部分の実感と違ってよいと思います。しかしその身近さやおもしろさ、有用性などによって、メディアは実は気づかれない形で私達のものの方や考え方を、さらには感じ方までも形づくる大きな力の一つになっています。

この問題を掘り下げて考えていきます。

マスコミの二大分野、報道と娯楽を中心に検討します。

講義の内容／
授業スケジュール

前期：「カメラはウソをつかない」か。

新聞記者の「ペンがウソをつき得る」が、報道のカメラは事実をありのままに伝えてくれる—のかどうか。

(1～7) ケーススタディ：大衆的なタブロイド紙の報道写真・記事・見出しに実際に当たってみよう。一見、中立的な写真を含む紙面全体によるある方向づけとは？〈冗長度〉〈エントロピー〉とは？

(8～15) 写真を丁寧に読み解いてみよう。‘平和行進’の場合、‘パリ市庁舎前のキス’の場合、その他。

要するに、写真は記録？それとも解釈？

後期：テレビドラマについて。

テレビドラマが持つ気づかれにくい深い影響力、ドラマによってつくられるイメージ、ドラマが‘わかる’とは？

(16～22) 「意識培養分析」：ドラマによって、いつの間にか形成されるものの見方、感じ方

(23～30) ソープオペラ(連続ホームドラマ)に見る女性イメージ、ジャンル理論、ドラマの‘迫真性’について。〈主体位置〉とよばれる重要概念について：まず、名画を見ながら理解しよう。ついで、ドラマについてのこの概念の検討。

前期、後期とも、適宜、映像を見る時間をさしはさむ予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

レポートと学年末試験の成績を中心に評価します。

『構築主義メディア理論への招待』(八千代出版)(主として後半を使用)

U. エーコ『記号論』I、II(岩波書店)

児島和人『マス・コミュニケーション受容理論の展開』(東京大学出版会)

履修コード	12901
科目名	政治心理学
担当者名	<small>とみさき たかし</small> 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

民主政治において、国民がどのように政治に参加するかは決定的に重要です。そして、政治心理学は、政治に参加・関与する人々の心理と行動様式を、個々の市民（や政治家）のミクロ的視点から体系的にとらえようとする研究アプローチです。本講義では、政治心理学の中でも、特に投票行動に関する理論と実証を中心に検討します。有権者の投票行動や政治意識を検討していくことを通じ、現代における政治・社会変動を視野にいれつつ、自由民主主義体制の作動メカニズムの重要な側面を明らかにしていくことを目指したいと思います。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 講義のねらいと政治心理学・投票行動
- (2～15) 投票行動の理論モデルと研究の展開
投票行動理論の全体像
社会的属性
政党帰属意識
争点態度
イデオロギー
政府業績評価
党首評価
個人投票
政治参加
- (16～24) 現代日本における選挙と投票行動・政治意識の実証分析
- (25～29) 政治心理学の諸アプローチの理論と実証
政治文化論
社会関係資本論
インターネットと政治空間
テロリズムの政治心理

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

テスト及びレポート・出席などを総合的に評価
小林良彰『選挙・投票行動』東京大学出版会 2625円 ISBN-10: 4130341316
蒲島郁夫『戦後政治の軌跡』岩波書店 3990円 ISBN-10: 400023644X
加藤秀治郎他編『政治社会学』一藝社 2415円 ISBN-10: 490125345X
オフエル・フェルドマン『政治心理学』ミネルヴァ書房 3360円 ISBN-10: 4623044998

履修コード	130001
科目名	メディア社会論
担当者名	<small>あいだ としのこ</small> 相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

メディアを構築主義理論によって掘り下げてとらえます。構築主義とは難しいことではなく、情性化したものの見方に疑問符を突きつけることです。メディアはいくつかの意味で情性化を生み出し、また、情性化の上ののっているものといえます。メディアのなかのメディア、つまり根本的メディアは言語であることも重要です。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1～7) 構築主義とは何か
- (8～15) 表象理論：反映的アプローチ、意向的アプローチ、構築主義的アプローチ、言語論的転回、記号論的視座、言説的視座、メディア分析1
(16～23) メディア分析2、権力、＜自然化＞
(24～30) 差異、ステレオタイプ、アイデンティティ
メディア関連の映像を見る時間を若干入れる予定です。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

課題レポートと学年末試験の予定だが、受講者の人数により、最終的に決定したい。
『構築主義メディア理論への招待』（八千代出版）（主として前半を使用）
竹内郁郎，他（編著）『新版メディア・コミュニケーション論』（北樹出版）
ラッシュ『情報批判論』（NTT出版）
その他、授業中に指示する。

履修コード	130101
科目名	数量政治学
担当者名	とみさき たかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

「数字」と聞くだけで怖がる学生諸君も多いかもしれませんが、数量的手法は今日の政治学において大変重要かつ不可欠の分析ツールとなっています。本講義では、数量的政治的分析が政治学全般にその適用範囲を広げてきたことに注目し、それを「マクロ政治学」「ミクロ政治学」「国際政治学」に分けて議論し、それが政治的現実をどのように明らかにしたか、またその可能性をもつかについて検討します。本講義を受講する際、特別な数学素養は必要ありません。政治現象を論理一貫した形で「説明」し、政治現象が「そうである」ことを実証することの面白さと難しさを追体験し、理解することによって、受講生自らが政治を分析し、理解することへ進む足がかりを提供することが本講義の主要な目的です。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1～2) 講義のねらいと数量的分析の基礎
 (3～12) 「マクロ政治学(国家と自由民主主義体制のマクロ動態解明)」における数量分析
 政治・権力・国家の意味
 近現代国家システムの展開
 自由民主主義体制の意味と民主化の展開
 自由民主主義体制比較の枠組み
 政治と経済のマクロ的連動関係
 (13～25) 「ミクロ政治学(自由民主主義体制の作動メカニズム解明)」における数量分析
 執政部と政権形成
 政党と政党制
 有権者の投票行動と選挙
 議会立法過程
 官僚制と政策決定
 利益集団
 マスメディアと政治意識
 中央地方関係
 民主制メカニズムと数理・計量分析
 (26～30) 「国際政治学」における数量分析
 国際政治の意味
 国際政治の主要理論潮流
 戦争・紛争・テロリズムの数量分析

成績評価の方法

テスト及びレポート・出席などを総合的に評価

教科書/テキスト

特に指定しない

参 考 書

- 河野勝『制度』東京大学出版会 2940円 ISBN-10: 4130341421
 D. ウィットマン『デモクラシーの経済学』東洋経済新報社 3465円 ISBN-10: 4492313133
 小林良彰編『叢書・社会科学の理論とモデル(全11巻)』東京大学出版会
 増山幹高他『計量政治分析入門』東京大学出版会 2520円 ISBN-10: 4130322095
 河野勝他『社会科学の実験アプローチ』勁草書房 3150円 ISBN-10: 4326502924

履修コード	130201
科目名	比較メディア論
担当者名	しまなか まこと いわさき いさお 島中 誠・岩崎 宇雄

講義の到達目標(ねらい)

(前期) 現代のメディアが置かれている状況と現代社会との関わりについて、広範囲な視点から、最近のITの発展と情報ネットワーク社会化が既存のメディア構造をどう変化させるか、その社会へのインパクトについて日本、欧米、アジアのモデルを比較し、考察する。(後期) 新聞業界の現況、多種多様なメディアが抱える諸問題、職業としての新聞記者のあり方、特に海外特派員の仕事ぶりなどを、実体験したエピソードをまじえつつ紹介する。

講義の内容/
授業スケジュール

(前期) 現代メディアの構造、IT革命とメディア、メディアと政治システム、メディアとグローバルイズム、テレビ・メディア論、メディアと文化摩擦、電子メディアと選挙システム。(後期) (1～2) 新聞の歴史と将来 (3～4) ニュースの定義・分類 (5～7) 記者の資質・職業倫理・心得 (8) 記事の発掘・取材から紙面掲載まで (9) 誤報とスクープ (10) 国際報道と国際記者の哀歓 (11) 新聞ジャーナリズムへの批判 (12) 活字メディアと映像メディア (13) 戦争報道などを予定している。

履修上の留意点

(前期) 自分自身のメディア・リテラシー度を採点してみる。(後期) 日ごろ、一定の時間を新聞熟読にあてること。一つのテーマを連続してしつこく追いかける姿勢が必要。

成績評価の方法

(前期) レポート内容で総合的に評価する。(後期) 毎週のミニテストと学年末の筆記テストで評価する。

教科書/テキスト

(前・後期) 教科書は使わない。毎回プリント・資料を配布する。

そ の 他

(後期) 毎回出席を取る。出席回数が3分の2未満だと成績評価の対象にならないので要注意。

履修コード	130301
科目名	政治経済学
担当者名	しらとり ひろし 白鳥 浩

講義の到達目標(ねらい)

政治と経済は、現代においては社会の両輪にも例えられています。また、積極政治の進展とともに、政治と経済をマクロに理解する視座の重要性が叫ばれています。本講義においては、政治経済学の全体像を学んでもらいます。特に、先進国におけるデモクシーのあり方は、政治と経済に関する政策的なスタンスの違いに起因することを検討することを目的とします。最終的には、国民国家の発展の到達点といわれる福祉国家を理解することにつなげていきたいと考えています。

講義の内容／授業スケジュール

以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。

1. 政治と経済 (1～4)
2. 戦後政治経済 (5～8)
3. システム論とレジーム論 (9～12)
4. コーポラティズム (13～15)
5. 福祉国家論「白鳥・ローズの混合福祉論」(16～18)
6. 福祉国家論「福祉国家の三つの世界論」(19～22)
7. 経済と文化の間の政治「ヨーロッパの福祉国家」(23～25)
8. 北欧の福祉国家の変容 (26～27)
9. 福祉国家としての日本 (28～29)
10. 脱工業化社会に向かうのか? (30)

履修上の留意点

関心を持って、講義に出席してください。

成績評価の方法

試験を中心とするが、総合的に判断する。

教科書／テキスト

新川・井戸・宮元・眞柄『比較政治経済学』(有斐閣) 2004年

参 考 書

井戸『経済危機の比較政治学』(新評論) 1998年

眞柄『体制移行の政治学』(早稲田大学出版部) 1998年

白鳥編『福祉国家の再検討』(新評論) 2000年

授業内で適宜、指示します。

履修コード	130801
科目名	基礎演習
担当者名	はやかわ よしき 早川 純貴

講義の到達目標(ねらい)

基礎演習は3年次からの演習に向け、政治学の基礎的知識を養い、多面的な観察力と深い分析力、さらには資料収集方法を身につけることを目的としている。とりわけ当演習ではこうした能力を、グループ対抗のディベートおよび班毎のリサーチ(フィールドワークを含む)を通して涵養していきたい。

講義の内容／授業スケジュール

ディベートで扱うテーマは日本の政治・社会・経済の諸問題(特に賛否両論が際立つ問題)に限定し、それぞれのテーマについて二つのグループが是側・非側の立場からアプローチしていく。ディベートは勉強の目標であり総括でもある。リサーチは地方政治が抱えるさまざまな課題について、それぞれ担当の班がフィールドワークを行い、その成果を発表する。また担当したリサーチについてはレポートを提出をしてもらう。ディベートは前・後期それぞれ2回ずつ行う。

履修上の留意点

当基礎演習で鍛えて欲しいのは、自分の考えをきちんと言葉で表現できる力、あるいは自分たちの主張を効果的に相手(聞き手)に伝え、十分に納得させる力である。そのためには学生諸君の議論とフィールドワークへの積極的参加を求めたい。

成績評価の方法

議論や調査への参加度、発表の充実度、レポートの内容などを総合して評価する。

教科書／テキスト

教科書は用いない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	130901
科目名	基礎演習
担当者名	<small>みたけ なおや</small> 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

やる気がある少人数の参加者で、政治学科らしい大学レベルの勉強をするための授業です。
基礎演習は毎年顔ぶれによってやることが全然違います。参加者のニーズに合わせた指導をします。その際、将来のための目標設定や自己分析、スケジュール管理、勉強の仕方、整理の仕方などについて、細かいアドバイスをします。

履修上の留意点

扱う内容も参加者の関心に応じますが、政治学概論や比較政治学の内容を深めるものが主になります。ふだんから新聞の国際面を読んで興味もてる人、世界史が面白いと思えた人など、外国のことにも興味関心がある人のほうがこの基礎演習には向いていると思います。

今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。

YeStudy 内にある基礎演習と演習の説明も〈必ず〉よく読んでください。

三竹担当の基礎演習に入った人は、二年次に必ず比較政治学を履修登録する必要があります。比較政治学のところにある説明も読んでおいたほうがよいでしょう。

応募前にメールで相談することをすすめます。

成績評価の方法
教科書/テキスト
その他

基礎学力が足りない傾向にはとても懸念をいただいていますので、下記のことは強調します。

- ・言われなくても新聞を読む。
- ・中学校社会科程度の学力は確実に身につけておく。

学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。

その都度指示します。一冊から二冊は買うものがあります。

mitake@komazawa-u.ac.jp

最新の情報は YeStudy で確認してください。

履修コード	131001
科目名	基礎演習
担当者名	<small>しおいり みほも</small> 塩入 みほも

講義の到達目標(ねらい)

三、四年次においていずれかのゼミに所属を希望する者の為に、演習を行える基礎的能力を修得させることを狙いとします。

講義の内容/
授業スケジュール

毎回各自に特定のテーマについて研究・報告をしてもらい、報告後には全員でディスカッションを行います。後期は、ディベートや模擬裁判の方式を取り入れていきます。テーマは、主として行政法(国家と国民の関係を規制する法)に関する問題をとり上げます。具体的テーマの割り当ては、学生各自の希望を踏まえて決定する予定です。

履修上の留意点
成績評価の方法
参考書
その他

公務員、行政書士等の国家試験の受験を考えている学生には、特に有意義であると思われます。

成績評価は、平常点(出席・報告・発言回数等)により行います。

適宜必要により指示します。

授業はゼミナール形式で行います。研究・調査方法、報告の仕方、レジュメの書き方等のノウハウは、初回に指導すると共に、その都度必要に応じて教示します。

履修コード	131201
科目名	基礎演習
担当者名	こほり のり男 小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)	政治学と国際政治学の基礎的な知識を整理しながら理解すると同時に、受講者各自が興味をもっている問題を研究する方法と、発表する能力を訓練する。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は、政治学と国際政治学の基礎的な知識を受講者全員で討議しながら、講義形式で授業をおこなう。同時に並行して、受講者各自に自分が興味をもっているテーマを提出させ、それをもとに、各自に研究資料や研究方法を指導する。 後期は、それまで指導を受けた各自の研究テーマを各自が発表し、その内容について全員で討論する。討論することによって、研究発表の方法や研究内容・問題点の所在を明らかにし、本格的な演習を受講する能力を身につけたい。
履修上の留意点	問題意識を明確にもった学生の受講を希望する。研究したい、ということと、研究出来るということは別であるが、まず、研究テーマを明確にして研究したいという情熱をもつことが先決である。あとは、この講座で研究するための方法や能力を身につける訓練をしてほしい。
成績評価の方法 参考書 その他	講義中の発言、研究発表の内容で評価する。 授業中に適宜紹介する。 活発な授業参加と発言を求める。講義に関連したビデオ（各種の国際事象の実録など）を見る予定である。

履修コード	131301
科目名	基礎演習
担当者名	なかの ゆうじ 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)	本基礎演習の目標は次の3点です。 ・本を読むことに慣れる ・自らの主張を説得的に述べる方法を身につける ・報告の仕方、討論の仕方を身につける
講義の内容／ 授業スケジュール	本基礎演習では、政治学またはひろく社会科学に関連する本を読みます。事前に分担を決め、報告者は、担当章を自分なりに要約・再構成し、発表します。発表とその後の質疑応答を通して、その部分を読んでいない人にも内容の要点が理解できるようにすることが報告者の目標となります。 具体的には、日本の政治を扱った本を読みます。日本の政治において、今日、何が中心的に議論されているのか、その論点は何か、などを議論します。日本の政治に詳しくなるだけでなく、筆者が自分の主張をより説得的に表現する手法として、どのような「道具立て」をしているのかを読み取ることを、さらなる目標としたいと思います。 以下のような本を読もうと考えていますが、あくまでも予定です。受講生が読みたい本があれば紹介してもらうなどして、何を読むかは全員で決めます。 新藤宗幸『新版 行政ってなんだろう』(岩波ジュニア新書) 山口二郎『政権交代論』(岩波新書) 宮台真司・福山哲郎『民主主義が一度もなかった国・日本』(幻冬舎新書) など
履修上の留意点	本を読むゼミです。グループ研究やディベートはやりません。 読書に関して、私と同じ考えを持つ人の言葉を書いておきます。この考えに賛同する人の受講を期待します。 「インターネットなどによる情報収集と読書とはまるで性格の違うことなのである。私たちは偉大な作家や思想家の書いた一冊の本を読み通すことによって、深く感じることを学ぶのであって、情報を収集しているだけではないのだ」(木田元『猿飛佐助からハイデガーへ』岩波書店、2003年、「はじめに」より)
成績評価の方法	毎回の出席、報告内容、発言回数・内容などを総合的に判断し、評価します。

履修コード	131401
科目名	基礎演習
担当者名	<small>あいだ としひこ</small> 相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

マスコミ、広告、パソコン・インターネット普及などの情報化をめぐる広い領域から各自好きな内容を選んでテーマとする。どの領域も研究の蓄積がなされていると同時に、広告・広報や情報化は、非常に多くの仕事・企業とかかわりをもつ意味で、実践性・実用性が一層顕著になりつつある。テーマの実践性に加え、卒業後も射程に入れて、人前での発言・発表力、報告書・レポートを書く力などの基礎体力のABCからはじめる。討論、ディベート、合宿などゼミ生同士の交流も深め、大学生活の真の燃焼の場として〈ゆったり・楽しく・着実に〉活動する出発地点としたい。

講義の内容／授業スケジュール

1. テレビニュース・ドキュメンタリー、2. テレビドラマ、3. ケータイ・パソコン、4. 広告・広報、5. メディアと政治、6. その他、の中から、各自が一番興味の持てるテーマを選び、卒業後の進路も一部考慮に入れながら、自主的に(個々に、あるいはグループで)勉強を進めよう。資料としては、図書、雑誌のほか、テレビ、ラジオ、映画、ビデオ・DVD・ネット資料等々を駆使して、アピール力のある発表(プレゼンテーション)をめざそう。

興味を持って調べたことを人前で発表し、かつ、議論することに徐々に慣れてよう(その力をやがて就活にも生かせるよう指導もしたい)。

調整がつけば、ドラマ撮影の見学、プロデューサー・アナウンサー(経験者)(できれば駒大出身の)との接触もほかりたい。前期:上記の基礎体力のABCを中心とする。後期:討論(ディベート)にもウェイト。

履修上の留意点
成績評価の方法

ゼミの主役はゼミ生自身であり、運営も大幅に任せられる。
平常点

履修コード	131501
科目名	基礎演習
担当者名	<small>とみまさ たかし</small> 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)

3年次からの演習に向け、様々な政治課題に関する問題意識、政治学的分析をおこなうための資料収集能力、論理構築能力、プレゼンテーション能力等を養うことを目的とします。

具体的には、前期にグループ対抗のディベートを中心におこない、後期に班毎の共同研究リサーチとプレゼンテーションを中心におこなっていきたいと思います

講義の内容／授業スケジュール

日本および世界で議論されている具体的政策課題をディベートのテーマとして取り上げます。ディベートとは、ある問題を取り上げ、是非の2チームに分かれ一定の形式に沿って、一種のゲームのように(勝敗を決める形で)討論をおこなうものです。基礎演習での、ディベート実施の目的は、具体的政策課題を採りあげることで、広く政治問題への問題意識をもつと同時に、ディベートを通じて諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらいたいと思います。

前期議論した政策問題を中心に統一テーマを決め、後期に班毎にリサーチを行い、プレゼンテーションをおこなってもらいます。さらに、全体で論集をつくることを目標としたいと思います。

受講生の希望や場合によっては、3・4年の演習にも参加してもらいたいと思います。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

積極的・主体的参加を期待したいと思います。

受講生と相談の上、総合的に評価します。

特に定めません

特に定めません

履修コード	131601
科目名	基礎演習
担当者名	やまざき のぞみ 山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

三年次からの演習に向けて、基礎的な知識の習得・問題意識の形成と同時に、文献や資料の収集・分析方法、報告（プレゼンテーション）の技術、レジュメ（要約）の作り方など実践的なスキルの習得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール

現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。国内政治／国際政治、公／私の区別など既存の区別が揺らぐ中で噴出している多様な問題について考えます。

履修上の留意点

具体的には前期は国内／国際的な格差、フリーター、貧困、福祉、新自由主義的グローバル化をめぐる問題と代替的な社会構想の模索（ベーシックインカム論、NPO論、共産主義再考など）を、後期はナショナリズム、多文化主義、グローバルテロリズムをめぐる問題、および民主主義や市民社会をめぐる問題を中心に扱います。課題文献の報告・発表と討論、加えて履修者の問題意識に照らして、グループを作り、年に数回のグループ討論を行いたいと思います。

成績評価の方法

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

文献や資料が指定された場合は、課題文献・資料を読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください（担当者が指導します）
討論においては積極的に発言してください。詳細は初回に説明するので、履修希望者は必ず出席してください。「現代政治理論」を履修していることが望ましいです。

基本的には平常点で評価します。（出席・報告・討論への貢献など総合的に評価）。

特に指定しませんが、文献については、履修者と相談の上指定します。

特に無し。

新書や論文の輪読と議論という、ゼミ形式を予定しています。毎回報告者を指名するので、報告者は自分の関心のあるテーマに即した課題文献（こちらからも提示します）を要約・報告し、自分で調べたことを付け加え、私見を述べ論点を提起してください。その後参加者グループ単位で討論します。希望があれば、特定のテーマについてグループ研究やグループ対抗のディベートも行います。

履修コード	131611
科目名	基礎演習
担当者名	うらた さなえ 浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)

これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。

講義の内容／授業スケジュール

2009年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究を行う。

履修上の留意点

オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならぬ。

成績評価の方法
そ の 他

発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。

研究発表では、学生諸君各自が興味あるテーマを自由に選択することができる。年3～4回のコンパと夏合宿が7月にある。

履修コード	131621
科目名	基礎演習
担当者名	おおやま れいこ 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)

基礎演習の目的は、政治学を学び、政治への理解を深めるうえでの基礎的な技術を身につけることにあります。自分で問題を発見し、それについて調べ、文章にまとめ、ほかの人にわかってもらえるように発表する、という一連の過程を経験し、スキルアップをめざしてください。

講義の内容／授業スケジュール

（1～15）毎週新聞切り抜きを作り、それを素材に要約の仕方、関連項目の調べ方などを学習します。また、記事の内容について、討論します。図書館ツアーを実施し、多くの資料の使いこなし方も学びます。

履修上の留意点

（2～30）政治学関係の本を全員で読みながら、各自のテーマを決めてレポートをまとめます。演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

平常点によります。

全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。

その都度紹介します。

履修コード	131631
科目名	基礎演習
担当者名	田丸 大

講義の到達目標(ねらい)	行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、成人年齢の引き下げなどである。自分たちの興味を持った事柄を自主的に調べ、それをもとに議論を深めて欲しい。
講義の内容／ 授業スケジュール	年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、2学期には、ディベート1回と研究発表1回くらいできればと考えている。
履修上の留意点	教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度しか言いません。 したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、基礎演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。 講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなぐりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教官の願いです。 また、未成年が大半であるため、コンパは行いません。合宿は未定ですが、行う場合には、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします。
成績評価の方法 教科書／テキスト	平常点による。 特に使用しない。

履修コード	131641
科目名	基礎演習
担当者名	清滝 仁志

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、政治学科の諸科目を履修するのに必要な政治学の基礎知識を学ぶとともに、自分の考えを的確にまとめ、相手にわかりやすく表現する技術を身につけることを目的にしています。今年度は3年次演習の内容を前倒して、討論技術を1年間で習得し、就活にも対応できるようにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	1年をかけて、「多数の前で話す」「討論する」ことに慣れてもらいます。 (1)「文書で自分の意見を発表できるようにする」 政治学の文献を担当者が報告し、議論をする方式をとります。これによって、テキストを論理的にまとめ、報告する能力をつけます。 (2)「いろいろな話題について意見をすぐに発言できるようにする」 毎回テーマを設定して、グループで討論し(通称・ポストイット・ツリー)、全体で報告する方式をとります。就職面接等での集団討論を念頭におきながら、議事進行・意見集約・建設的討論の技術を習得していきます。 (3)「皆の前で建設的な討論ができるようにする」 皆の前で討論し、的確な意見をその場で話すぐることができる訓練(通称・金魚鉢)をおこないます。就活を念頭に置き、相互に評価をしながら討論の仕方を学びます。
準備学習	いつも時事問題について関心をもつようにしてください。日経新聞の日曜日の特集の「エコノ探偵団」はお勧め。
履修上の留意点	演習での課題は次のとおり。 ①資料等を毎回熟読 ②口頭発表 ③レポート、ゼミ論文集の作成 ④グループ討論(議論するだけでなく、司会、報告等の技術も練習)
成績評価の方法	出席状況、演習での報告内容、議論の参加状況、グループでの協力の程度、ゼミ論文
教科書／テキスト	なお、欠席・遅刻・予習不足が目立つ場合、履修中止を適宜、勧告します。 前期…政治学関係の文庫、新書を選択 後期…資料を適宜配布
その他	ゼミの行事…合宿(夏)、都内の諸施設見学(新聞社、日本銀行、皇居、東証、国会、裁判所、警視庁など) 質問があれば、kiyotaki@komazawa-u.ac.jp まで。 Yestudy (https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/) に基礎演習のページを設置

履修コード	131651
科目名	基礎演習
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)

現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。

講義の内容/
授業スケジュール

前期：第一回目のゼミで、ゼミ生自身がつくりあげることからはじめましょう。

最初の一ヶ月くらいは、大学でのレポートの書き方、ゼミの進め方、司会や報告の方法などについて、担当教授が作成するオリジナル教材を使いながら講義します。その後は、ゼミ生が中心となってゼミを作り上げていきます。

後期：専門ゼミへ向かって、各自の研究関心に基づき研究成果を報告してもらいます。

準備学習
履修上の留意点

新聞の国際面を毎日読みましょう。

国際関係論ゼミの受講生には、基本的な概念を取得してほしいので、「国際関係論」の履修を勧めます。

講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席や発言などの総合評価です。

共通の教科書を使うかどうかは、授業開始後、受講生の問題関心を考慮しながら、受講生と相談して決めます。

参 考 書

適宜紹介します。

履修コード	038701
科目名	地域計画論
担当者名	原 昭夫 <small>はら あきお</small>

講義の到達目標(ねらい)	人々の暮らしの場、労働の場、憩いの場などである「地域」はどのような要素から成り、それらがどのように関係づけられているのか、それを誰がどのような手法や技術でつくり、維持・保全しているのか、それをどのように計画していったらよいのか、そこでの市民の役割は何なのか、などを考える眼と力を養う。
講義の内容／ 授業スケジュール	全体を次のような4つのステージに分け、「地域」を「知る」ことから「計画」することへ向かう。 (Ⅳ. の「計画」の段階では、受講者の参加状況(人数、定刻出席等)および興味の度合等を勘案して共同作業(ワークショップ、演習形式)で行う場合もある。)
	Ⅰ. 地域を知る／4月～5月
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の構成要素、量、規模、配置、分布など地域の現状を把握する。 ・地域の特性や差異が何によって現れるか、また地域の成立経過を知る。
	Ⅱ. 地域の課題を見つける／6月～7月
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にはどのような課題や可能性が顕在・潜在しているのかを見つける。 ・それらの課題はどのような原因や背景によってもたらされているのかを考える。
	Ⅲ. 課題の解決策を考える／9月～10月
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の課題を解決・改善していくには、どのような方策があるのか考える。 ・課題解決の手法・技術・プログラムをどう組み立てるのかを考える。
	Ⅳ. 解決策を計画・政策として提案する／11月～12月
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記Ⅰ～Ⅲのステージをふまえて地域の改善策・将来構想を考える。 ・それを現実的・具体的な計画・政策としてまとめ、提案する。
準備学習	<ul style="list-style-type: none"> ・地域計画、まちづくり、都市政策に単一の正解はない。さまざまな代替案の中から現状での最適解が求められる。そのためにもまず自らのまちをしっかりと歩き、しっかりと見ること。現地・現場を見る眼を鍛えておいてほしい。
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の事情、日本の社会状況、自らの地域の現状をしっかりと把握しておくこと。 ・何故自分はこの大学を選択し、この学科を学び、何を得て、何になろうとしているのか、改めて自らに問うて欲しい。(それをしっかりとやれば遅刻、私語、携帯の授業中使用、睡眠などは出来ない筈だが、いかがか。)
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・いわゆる「試験」はやらない。上記各ステージでレポートを数回提出(知識より自分の頭で考えたもの)および出席により評価する。
教科書／テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『自治体まちづくり』(原 昭夫/学芸出版社)をテキストとしてタテ系的に用いながら論を進める。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回関連する参考書や文献を提示する。 ・上記履修(前)留意点参照。「地域」に関心を持つ諸兄の参加を期待。 ・自学科・他学科の計画系科目、フィールドワーク、地域分析手法、地域形成史などは再習しておくとうい。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

履修コード	091701
科目名	商業政策
担当者名	番場 博之 <small>ばんば ひろゆき</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済活動としての流通活動は、単なる競争ではなくルールにもとづく競争である。そして、このような流通や商業に関わる方針やルール（公共政策）のことを流通政策・商業政策という。本講義では、流通および商業に関わるルールが必要とされた流通問題・商業問題に言及しながら、流通・商業政策の必要性や体系およびその運用について講義する。

講義の内容／授業スケジュール

- (1) 流通・商業問題と流通・商業政策の考え方
- (2～5) 流通・商業の基礎知識
- (6～9) 流通・商業政策の枠組み
- (10～15) 競争政策
- (16～21) 振興政策と調整政策
- (22～27) まちづくり政策
- (28～30) 海外における商業に関わる政策

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

詳細かつ正確なシラバスは開講時に配布する

定期試験によって評価する。ただし、若干の平常点を加味することもある。

加藤義忠・齋藤雅通・佐々木保幸編 『現代流通入門』有斐閣 978-4-641-18351-3

渡辺達朗『流通政策入門 第2版』中央経済社、2007年。

岩下弘『イギリスと日本の流通政策』大月書店、2007年。

番場博之『零細小売業の存立構造研究』白桃書房、2003年。

履修コード	093501
科目名	農業政策
担当者名	溝手 芳計 <small>みぞて よしかず</small>

講義の到達目標(ねらい)

“工業が先進国型産業であるのに対して農業は途上国型の産業だ”、“工業が環境負荷になりやすいのに対して、農業は環境に優しい産業である”、“食料価格は主に農業の生産性の高さによって決まる”、“日本農業の競争力が低いのは、主に農家の人が甘えているせいだ”、こうした認識は果たして正しいでしょうか。

農業は、一方では、他産業、とりわけ川上の農機具・資材産業や川下の食品関連産業などいわゆるアグリビジネスとの関連が強まり、他方で、WTO農業交渉に象徴される国際化への対応を求められるなど、かつて見られなかった激動の時代を迎えています。こうした時代に農業政策のあり方を考えるためには、農業という産業の特質と現代の農業問題の構図を理解するとともに、政策ツールについて批判的に検討していくことが必要です。

授業では、食料問題を入口として、現代農業の産業的特質との関連で日本と世界の農業問題・農業政策について、経済学の視点から説明します。

講義の内容／授業スケジュール

1. 「農業政策」とは（1回）
2. 食料問題と食料政策（6回程度）
3. 農業の特質と現代農業（4回程度）
4. 戦後日本の農業問題と農業政策（6回程度）
5. 農産物価格問題と価格・所得政策（5回程度）
6. グローバリゼーション下における世界の農業（5～8回）

履修上の留意点

充実した授業は、教員の努力だけでできるものではありません。授業中に「コミュニケーション・カード」を配布しますので、授業の感想や質問、意見を書いてください。授業改善の参考にします。

成績評価の方法

成績評価は定期試験（年度末）を基本としますが、授業中に行う小テストの結果を20点の範囲で加点して採点します。追試験有り。

教科書／テキスト

田代洋一『新版農業問題入門』、大月書店、3150円、ISBN978-4-272-14046-6

中野一・新・岡田知弘編『グローバリゼーションと世界の農業』、大月書店、3150円、

ISBN978-4-272-14055-8

参 考 書

※ どちらも、授業中には使いませんが、予復習してください。

大塚茂・松原豊彦編『現代の食とアグリビジネス』、有斐閣、2100円、ISBN4-641-28094-0

加瀬良明編著『グローバル資本主義と農業』、筑波書房、2940円、ISBN978-4-8119-0332-3 C3033

橋本卓爾ほか編著『食と農の経済学』、ミネルヴァ書房、3150円、ISBN4-623-04012-7

履修コード	093601
科目名	工業政策
担当者名	おくやま まさゆき 奥山 雅之

講義の到達目標(ねらい)

わが国の工業(「ものづくり」産業)は、その技術力を背景に高い国際競争力を有しており、産業全体を支える重要な存在です。

この講義では、数多くの企業事例を取り上げ、ものづくり産業の特徴を確認しながら、産業の「過去」「現在」そして「将来」を考察します。また、ものづくり産業に対する国や地方公共団体の政策の課題と方向性についても検討を加えていきます。

前期では、ものづくり産業の現状をさまざまな角度から分析し、その課題と今後の方向性を明らかにします。後期では、産学連携、知的財産、環境問題、CSR(企業の社会的責任)など、ものづくり産業をめぐる今日的な題材に検討を加えます。

1年間を通じて、ものづくり産業に関する政策的な課題設定力と、自分なりの解決策を提案する力を持つことを到達目標としています。

講義の内容/
授業スケジュール

前期(1~3)工業の意義と役割

(4~6)工業の発展と工業政策の歩み

(7~9)産業構造とものづくり産業

(10~13)工業の立地問題

(14~15)ものづくり中小企業と政策

後期(16~19)ものづくり産業の業種別動向(自動車産業、繊維産業ほか)

(20~21)「ソフトなものづくり」産業(映画産業、アニメーション産業ほか)

(22~23)ものづくりを支える人材の確保・育成

(24~25)イノベーションと産学連携

(26)知的財産の創造・保護・活用

(27)創業・ベンチャー支援策

(28~29)工業振興と環境問題

(30)工業振興とCSR(企業の社会的責任)

準備学習

事前学習としては、日ごろから新聞の経済・産業関連記事に接しておくことを望みます。事後学習としては、配布した資料とノートを再確認し、各週のテーマに対する自分なりの考え方をまとめておくことが重要です。

履修上の留意点
成績評価の方法

H頃からものづくり産業や企業に関心を持つことを望みます。

成績は学年末試験とレポートで評価します。試験が8割、レポートが2割のウェイトで評価します。試験およびレポートの内容については、講義に積極的に参加していた人が有利になるように配慮します。追試は行いません。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

特に指定しません。配布する資料によって講義を実施します。

加藤秀雄『地域中小企業と産業集積!』(新評論)

なし

履修コード	094101
科目名	地方財政論
担当者名	しのはら あきら 篠原 章

講義の到達目標(ねらい)

「分権の時代」といわれて久しいが、本講義では、地方自治体（地方政府）の財政（収入と支出）に関する制度的・理論的な知識を身につけると同時に、地方分権に関わるさまざまな問題点を理解・分析し、その解決策を見いだす能力を涵養することが目標である。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 前期オリエンテーション（講義の進め方・注意点）
- 2 財政・地方財政と経済（1）
- 3 財政・地方財政と経済（2）
- 4 中央政府と地方政府（1）
- 5 中央政府と地方政府（2）
- 6 財政の三つの機能と地方財政支出（1）資源配分
- 7 財政の三つの機能と地方財政支出（2）資源配分
- 8 財政の三つの機能と地方財政支出（3）所得再分配
- 9 財政の三つの機能と地方財政支出（4）所得再分配
- 10 財政の三つの機能と地方財政支出（5）経済安定
- 11 地方財政の現状と課題（1）合併と道州制
- 12 地方財政の現状と課題（2）合併と道州制
- 13 地方財政の現状と課題（3）地方分権の課題
- 14 地方財政の現状と課題（4）地方分権の課題
- 15 中間総括（前期総括）
- 16 後期オリエンテーション（講義のポイント）
- 17 地方税の理論（1）
- 18 地方税の理論（2）
- 19 地方税の現状と課題（1）
- 20 地方税の現状と課題（2）
- 21 地方税の現状と課題（3）
- 22 社会保障と地方財政（1）年金
- 23 社会保障と地方財政（2）年金
- 24 社会保障と地方財政（3）医療
- 25 社会保障と地方財政（4）医療
- 26 社会保障と地方財政（5）福祉
- 27 社会保障と地方財政（6）福祉
- 28 ケーススタディ：沖縄県の財政（1）
- 29 ケーススタディ：沖縄県の財政（2）
- 30 総括講義

履修上の留意点
成績評価の方法

経済学・財政学に関する基礎的な知識が身につけていることが望ましいが、必要条件ではない。平常点（レポート）と定期試験（後期／論述形式）の総合評価。前期と後期に各1～2回のレポート提出を義務づける。成績評価の際の配分は、レポート3割・定期試験6割が目安だが、レポート実施回数にも依存するので、詳細は授業時に開示する。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

特に指定せず。
必要に応じて指定する。
shino.hara@nifty.com（篠原章）

履修コード	115801
科目名	刑法各論
担当者名	原口 伸夫

講義の到達目標(ねらい)	問題となる犯罪類型がどのような利益を保護しているのか、罪刑法定主義という刑法の基本的な考え方から(とくに法文の文理解釈の点から)無理のない解釈なのか、現在の社会の中で問題を解決するためにその犯罪類型は十分に機能しているのか等々の観点を十分に考慮に入れた上で、各犯罪類型・成立要件について理解すること。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：刑法典各側の全体像、第2～4回：生命・身体に対する罪、第5～7回：自由・名誉に対する罪、第8～16回：財産に対する罪(窃盗罪・強盗罪〔8～11回〕、詐欺罪・恐喝罪〔12～13回〕、横領罪・背任罪〔14～15回〕、盗品関与罪・毀棄隠匿罪〔16回〕)、第17～19回：放火罪、第20～23回：偽造罪、第24回：その他の社会的法的に対する罪、第25～26回：公務執行妨害罪、第27～28回：贈収賄罪、第29～30回：その他の国家的法益に対する罪。
準備学習 履修上の留意点 成績評価の方法	扱うテーマについてあらかじめ教科書の関連部分を読んでおくこと。 この科目で扱う問題に興味をもって、意欲的に学習することを望む。授業に出席すること。 定期試験の成績、および、出席状況を含む平常点(レポートなど、平常点の評価の仕方は履修者の人数による)を総合して評価する(定期試験の成績が約60%、平常点が約40%と考えている)。
教科書／テキスト 参考書 その他	西田典之、『刑法各論(第4版補正版)』、弘文堂、3,850円+税、ISBN 978-4-335-30249-7 西田・山口・佐伯編『刑法判例百選Ⅱ各論(第6版)』、有斐閣 特になし。

履修コード	116301
科目名	社会保障法
担当者名	原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会保障法の各分野について、基本的な体系と現状、法主体間の権利義務関係、法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題が残されており、どのような解決が望ましいかを規範的に考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～2回：社会保障(法)とは何か、第3～7回：医療保障法、第8～11回：介護保障法、第12～13回：福祉サービス法、第14～18回：年金法、第19～21回：労災保険法、第22～23回：雇用保障法、第24～25回：社会的補償法、第26～28回：公的扶助法、第29～30回：社会保障財政の法理論
履修上の留意点	社会保障に関する立法論上の課題については、同担当者の担当科目「社会政策」にて取り扱うので、並行履修が望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト	社会保障に関する法的紛争は行政事件が多いため、「行政法」及び「行政救済法」を履修済みまたは並行履修中であることが必要である。 学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。 教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。
参考書	・労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2010』(労働調査会、2010年) ・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』(有斐閣、2008年)
その他	その他の文献は適宜指示する。 YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	主 ^{おつ} 志安 ^{しあん}

講義の到達目標(ねらい)

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容／授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そして WTO の紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかり取ってもらいたい。

成績評価の方法

power point で講義を進める。簡潔な聴講ノートは、Yestudy から入手できる。
学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書／テキスト

家正治など 共著 『国際紛争と国際法』（嵯峨野書院、2008年）

参 考 書

大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版（下）（東信堂）2002年 2,000円

市販されている国際条約集および国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

そ の 他

授業は Power Point を使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	松前 龍宣

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、前期にミクロ経済学、後期にマクロ経済学の基礎理論を学び、ミクロ・マクロの経済政策が、どのように私たちの生活に影響を及ぼしているのかを理解してもらうことを目的とする。講義方針として、表とグラフの直観的理解に加え、簡単な数式モデルを使って論理的にも理解してもらうこととする。

講義の内容/
授業スケジュール

(前期)

1. ガイダンス、テキストと成績評価。
2. 需給分析・余剰分析Ⅰ (第1章)
3. 需給分析・余剰分析Ⅱ (第1章)
4. 需給分析・余剰分析Ⅲ (第1章)
5. 市場への政府介入Ⅰ (第2章)
6. 市場への政府介入Ⅱ (第2章)
7. 公共事業と競争政策Ⅰ (第3章)
8. 公共事業と競争政策Ⅱ (第3章)
9. 公共事業と競争政策Ⅲ (第3章)
10. 外部性Ⅰ (第4章)
11. 外部性Ⅱ (第4章)
12. 外部性Ⅲ (第4章)
13. 公共財 (第4章)

(後期)

1. マクロ経済指標と国民経済計算 (第1章)
2. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅰ (第7章)
3. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅱ (第7章)
4. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅲ (第7章)
5. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅳ (第7章)
6. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅴ (第7章)
7. インフレ・デフレと失業Ⅰ (第8章)
8. インフレ・デフレと失業Ⅱ (第8章)
9. インフレ・デフレと失業Ⅲ (第8章)
10. インフレ・デフレと失業Ⅳ (第8章)
11. 成長理論Ⅰ (第6章)
12. 成長理論Ⅱ (第6章)
13. 成長理論Ⅲ (第6章)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

数学の知識は特に必要としない。

試験60%，レポート40%で評価する。

岩田規久男，飯田泰之著，『ゼミナール経済政策入門』(2006)，日本経済新聞社，ISBN: 4-532-13310-6

参 考 書

ミクロ経済学：武隈慎一，(1999)，『ミクロ経済学』，新世社

マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー，足立ほか訳，(2008)，『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門編』，東洋経済新報社

そ の 他

板書による講義形式である。

履修コード	117801
科目名	日本法制史
担当者名	<small>しげの たかひる</small> 茂野 隆晴

講義の到達目標(ねらい)

全ての学問には史学がある。法を学ぶものにとって、もっとも身近にある史学が法制史である。われわれは来し方を回想するときのみならず、未来に進もうとするとき、何らかの形で過去の知識(歴史)を知ろうとしよう。

現代の社会知識を知ろうとするとき、その手がかりを過去の社会生活に求めるのは自然であるといつてよい。そうした意味からも、日本法の歴史の本質的なものを身につけてほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 日本法制史とその時代区分
2. 上古(氏族法時代) I
3. 上古(氏族法時代) II
4. 中古(律令法時代) I
5. 中古(律令法時代) II
6. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) I
7. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) II
8. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 I
9. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 II
10. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 III
11. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 I
12. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 II
13. 近代(含む幕末) I
14. 近代(含む幕末) II
15. 婚姻関係(ことわざと川柳等による)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

上記は1. と15. を除き、それぞれの項目ごとに2週を割当ててを目安としています。

学期末試験と平常点としての出席状況を総合して評価す。

大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 - 史資料へのいざない - 』1998年刊(芦書房)

2,300円

履修コード	117901
科目名	西洋法制史
担当者名	<small>こむろ てるひさ</small> 小室 輝久

講義の到達目標(ねらい) イングランド法及びヨーロッパ大陸法のそれぞれの基本的な考え方を法の歴史を通して理解し、かつヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を、現代日本の法及び裁判制度と比較しながら認識できるようにすること。

講義の内容／授業スケジュール 第1～9回 第1章 イングランド・フランス・ドイツ法制史の概観、第10～15回 第2章 中世ヨーロッパの法および現代のヨーロッパ法、第16～23回 第3章 コモン・ローとシヴィル・ローの諸特徴、第24～25回 第4章 原意主義と釈義学派、第26～28回 第5章 ヨーロッパ古来の裁判手続、皇帝権・王権とローマ法、12世紀ルネサンス、第29～30回 第6章 ドイツ民法典の編纂と政治文化

準備学習 *講義内容は必要に応じて変更することがあります。
高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分で復習しておいて下さい。また、講義を受講した後で、テキストの該当箇所をよく読んで下さい。

履修上の留意点 講義を通してヨーロッパの法と裁判制度の歴史に関する一通りの知識を習得することがまず必要ですが、それだけでなく、ヨーロッパの歴史的な法と裁判制度が現在の日本のそれとどう違うのかに気づき、またなぜ違っているのかを考えることが、より重要です。

成績評価の方法 講義に対する質問は、講義終了後次回の講義までの間に、講義担当者あてに電子メールで提出して下さい(質問の内容により平常点として試験点数に加えます)。

原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解した上で、ヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を現代日本の法及び裁判制度と比較しながら指摘できているかどうかを基準にして行います。試験点数に平常点(「履修上の留意点」参照)を加えて最終の成績評価を行います。

教科書／テキスト R. C. van Caenegem, *European Law in the Past and the Future: Unity and Diversity over Two Millennia*, Cambridge University Press, US \$39.99 ISBN:978-0521006484

参 考 書 J・ベイカー(小山貞夫訳)『イングランド法制史概説』創文社、9975円 ISBN:978-4423740286
F・W・メイトランド(小山貞夫訳)『イングランド憲法史』創文社、12600円 ISBN:978-4423492130
R・C・ヴァン・カネヘム(小山貞夫訳)『裁判官・立法者・大学教授』ミネルヴァ書房、3780円 ISBN:978-4623020447

田中英夫『英米法総論(上)』東京大学出版会、3675円 ISBN:978-4130350518
勝田有恒・山内進・森征一編『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、3360円 ISBN:978-4623040643
そ の 他 講義担当者連絡先(講義に対する質問等のあて先) tkumuro@kisc.meiji.ac.jp

(メールを送信する場合は、「講義の曜日・時限、科目名、学科、学年、学生番号、氏名」をメールの「題名(件名)」に必ず記載して下さい。)

講義担当者ホームページ {<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~tkumuro>}

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	にしやま としお 西山 敏夫

講義の到達目標(ねらい)

大陸法を学んだ我々にとり理解しにくい英米法の側面に重点を置き、主要な実体法概念の発展過程を探究することを目的とする。

前期は、英米公法成立の過程を概観したのち、米国憲法のリーディング・ケースについて検討する。また、後半では、企業買収に関する英文契約書を材料にして、英文契約書の読み方を練習する。

後期は、英米私法について考察するが、特にその基礎であるコモンロー、エクイティの発展、その応用である信託・フィデューシャリーに焦点を当て、英米私法の特徴を考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 前期

- ①英米公法の成立と特徴 (4回)
- ②米国憲法の原則とリーディング・ケース (4回)
- ③英文契約書の読み方と演習 (5回)

2. 後期

- ①コモンローの成立と発展 (3回)
- ②中世不動産法と発展 (3回)
- ③近代契約法 (2回)
- ④信託とユース (3回)
- ⑤フィデューシャリーとコーポレート・ガバナンス (2回)

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

英米判例百選第三版 (有斐閣)

英米法総論 上 (田中英夫, 東大出版会)、英米法の歴史家たち (ホウルズワース, 創文社)

試験準備には講義ノートが最も有効である。各自注意して出席し、ノートをとること。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	つかもと まさよし 塚本 正文

講義の到達目標(ねらい)

私たちは、様々なサービスなどを国や地方自治体から受け、反対に租税を納めている。これだけ身近な問題でありながら、その仕組みは複雑で専門用語だらけのように見える。そこで、私たちはなぜ租税を納めなければならないのか、納めた租税はどのように用途が決定されるのか、どのような租税や公共サービスが存在するのかなど生活に密着した話題をテーマに、財政の仕組みや問題点を学び、税や政府について理解を深めることを目的として講義を行う。

(第1～2回目) 財政の枠組みとはどういうものなのか、(第3～4回目) 政府のお金の使い道はどの様に決まるのか～予算について～、(第5～7回目) 政府が集めたお金は何に使っているのか～政府支出について～、(第8～11回目) 政府はどの様にお金を集めているのか～租税について～、(第12～14回目) 政府の借金とは何か～公債について～、(第15回目) 前期の総括、(第16～18回目) まちと財政問題～地方財政について～、(第19回目) 財政のもつ機能について、(第20～22回目) 資源配分～財政の機能 I～、(第23～25回目) 所得再分配～財政の機能 II～、(第26～28回目) 景気政策～財政の機能 III～、(第29回目) 地球環境と財政、(第30回目) 後期の総括

履修上の留意点

できるだけ指定した教科書に沿ってすすめるので、当日の講義内容を予め読んでおくこと。また、日頃から新聞の政治および経済欄を読んでおくこと。

成績評価の方法

学期末試験の結果をもとに成績を決定する。ただし、授業時に指示する提出物(レポート)の提出状況も考慮に入れる。

教科書／テキスト

里中恒志・八巻節夫編著『新財政学』文真堂 ¥3,300 ISBN:4-8309-4546-X

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	森岡 仁 <small>もりおか じん</small>

講義の到達目標(ねらい)

市場を中心とした自由主義経済の中に、国が運営する経済政策を導入するようになってかなりの時間が経過したが、今や国民は経済政策を抜きに安定した経済生活を送ることはできない。本講義では経済政策の基礎を構成する諸概念の理解を深めることによって、日々展開される実践的経済政策を的確に判断する力を高めることを目的としている。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～4) 経済政策の概念、経済政策の目標、経済政策の手段、経済政策学、(5～8) 重商主義の経済政策思想、自由主義の経済政策思想、価値判断論争と経済政策学、現代経済政策学、(9～12) 政策課題としての福祉問題、政策課題としての秩序問題、政策課題としての社会問題、現代政策課題の総括、(13～16) 経済成長の意義、古典派の経済成長論、完全雇用と現代の成長政策、経済成長と資本・労働、(17～20) 安定と成長の問題、経済変動とその安定政策、物価変動のメカニズム、現代インフレーションの対策、(21～24) 経済均衡と市場機構、独占と寡占、寡占の本質と作用、産業組織政策の展開、(25～28) 社会的公正と社会均衡化政策、国民所得の分配と再分配、公害問題の発生、福祉国家への道、(28～30) 現代の人口問題、人口政策の課題、経済政策と人口政策。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。

学年末の定期試験。追試験も実施する。

森岡他著『現代経済政策』(千倉書房)1975年 2,520円。4-8051-0842-8

特に指定せず。

授業方法は講義。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂 <small>わかばやし ありさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済法を中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

期末試験により評価を行う。

丹宗・厚谷編『新現代経済法入門(第3版)』(法律文化社)

別冊ジュリスト『独禁法審決・判例百選(第六版)』(有斐閣)

履修コード	133601
科目名	外交史
担当者名	小宮 一夫 <small>こみや かずお</small>

講義の到達目標(ねらい)

近代日本の出発点である明治維新时期から21世紀初頭に至るまで、日本は如何なる対外環境のもとで、対外政策を決定してきたかを、内政との連関を重視しながら振り返ります。そして、歴史の視点から日本外交の特質を考察していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

国際相互依存がますます強まるなか、私たち国民は、ある意味一人ひとりが「外交官」なのです。この授業では、受講生の皆さんが過去の日本外交の軌跡を学ぶことを通して「外交感覚」を養い、歴史の視点から21世紀の日本外交のあり方を展望できるようになることを目標にします。

第1～3回：条約改正と大陸国家への道、第4～6回：満州事変とワシントン体制の崩壊、第7～9回：日中戦争から日米戦争へ、第10～12回：占領期の日本外交、第13～15回：1950年代の日本外交―講和・独立と安保改定―、第16～18回：1960年代の日本外交―日米「パートナーシップ」の展開と沖繩返還―、第19～21回：1970年代の日本外交―デタントと総合安全保障構想―、第22～24回：1980年代の日本外交―新冷戦と日米関係の「同盟」化―、第25～27回：冷戦終結後の日本外交―国際貢献と日米同盟の「深化」―、第28～29回：21世紀の日本外交、第30回：戦後外交とは何か

準備学習

授業時に適宜指示します。

履修上の留意点

履修する学生には、出席と積極的な授業参加を求めます。

成績評価の方法

成績は、学年末試験（6割）と夏休みの課題レポート（2割）、授業内に提出を求める課題（2割）を基本に評価します。総合評価の際、出席状況も勘案します。

教科書／テキスト

五百頭旗真編『新版』戦後日本外交史』有斐閣、税込2100円、ISBN:464112258X。

参考書

参考図書は、講義の中で随時紹介していきます。

その他

なし

履修コード	133651
科目名	時事英語講座
担当者名	横山 滋 <small>よこやま しげら</small>

講義の到達目標(ねらい)

英語の新聞に親しみ、英語で書かれた時事問題の記述を読み解くための基礎的な知識と技能の習得を目指します。

講義の内容／
授業スケジュール

読売新聞社発行の英字新聞、The Daily Yomiuriに掲載された各種の記事を読みながら、新聞記事における見出し、リード、本文などの構造とそれらについての約束ごとなどを、具体的に学んでゆきます。

履修上の留意点

原則として、予め定められた記事について予習をしてもらい、次の授業で発表された解釈に検討を加えながら勉強をしてゆきます。語学は意欲を持って自分から取り組まなければ、身につけません。やる気とねばり強さを持った諸君の参加を期待します。

成績評価の方法

主として学期末に行う試験によりますが、日常の活動状況も考慮に入れます。

教科書／テキスト

上記の The Daily Yomiuri 紙を用います。

その他

この科目は、読売新聞社の寄付口座であるため、受講には、教材の The Daily Yomiuri 紙を3ヶ月間、特別割引価格で定期購読することが求められています。

履修コード	133681
科目名	実務者講座
担当者名	<small>たまる ない</small> 田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

政治学科あるいは法学部で扱う内容に関連した仕事をしている外部の実務者をゲストに招き講義をしてもらい、実務についての理解を深めてもらうことがねらいである。講義や演習などで触れる「政治」や「法律」が現実の世の中どのように関わっているのか、どのように動いているのかといった点について、現場に携わっている実務者の話を伺うことは、大学での自らの学びを総括し、また将来の進路や、自身と社会との接点を考える上で有意義と考える。

ゲストに招く実務者は、公務員、地方議員、シンクタンク職員、マスメディア関係者などを予定しているが、担当教員の専門(行政学)からして、行政や政策に関連したゲストが多くなる点を了解してもらいたい。

駒澤の政治学科出身のゲストも招きたいと思う。自分たちの先輩の姿をとおして、実務をより一層リアルに感じる機会となることを願っている。

講義の内容/
授業スケジュール

ガイダンス・履修にあたっての注意事項(1)、担当教員による若干の講義(2~3)、実務者による講義(4~15)。その間に、複数回の授業内でのレポート作成を予定している。ゲストに招く具体的な実務者については、開講時に示す予定であるが、現在のところ、例えば、区議会議員、地方公務員(都庁職員、県庁職員、市役所職員など)、国家公務員、法曹関係者、NPO関係者、民間企業などを考えている。

履修上の留意点

双方向の議論となって招いた実務者の方々も楽しむことができるよう、授業中の質問や感想・意見などの発言を歓迎します。それをきっかけとして、思いがけなく興味深い話が聞けることもあると思うので。

成績評価の方法

平常点および授業内さらに授業時間外で作成するレポートによる。学年末試験は行わない。履修者の人数にもよるので、初回講義で、詳細を決めます。

教科書/テキスト
そ の 他

特に使用しない。

①スケジュール調整の都合上、割り当てられた曜日・時間帯以外に行われる可能性もあること、②仕事の都合による突然のキャンセルもありうることを了解してください。①の場合にはプラスアルファの出席点を、②の場合には視聴覚教材などを用いての講義を考えている。

履修コード	133701
科目名	国家安全保障論
担当者名	<small>こぼり のりお</small> 小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)

カントがその著、『永遠平和のために』において「相共に生活する人々間の平和状態は、けっして自然状態なのではない。自然状態はむしろ戦争状態である。すなわち、たとえつねに敵対行為が勃発してはならないにしても、絶えずそれによって脅かされているのである。だから平和状態は樹立されなければならない」と述べているごとく、人間が、その長い歴史のうちで不断に希求してきたものは永遠平和であって、戦争それではなかったのである。カントによって提起された「永遠平和」という、この哲学的命題は、皮肉にも彼の夢想曲に終始してきたのが現実の歴史過程の常態である。本講では、「人は何故集団社会を形成するのか、集団を単位とした闘争と、個人レベルでの闘争は何処がどのように違うのか」をテーマに、国家の安全保障を考える。

講義の内容/
授業スケジュール

国家の究極的利益は確実な生存である。個人の究極的利益も同様に確実に生存しつづけることである。国家は、国民の社会的生存権を保障している。しかし、国家は、国家の生存のために国民に戦うことを命令することもある。この論理が何故成立するのかを、以下のテーマで考察する。

(1~2)人は何故集団社会を形成するのか、(3~5)近代国家の特質、(6~8)国家安全保障の意味、(9~15)国家安全保障の機能、(16~23)国家安全保障の手段、(24~26)国家安全保障に関する諸見解、(27~30)国家安全保障に関する理念と現代的課題

履修上の留意点

「人はなぜ闘争するのか」ということに興味をもっている学生への積極的な参加を望む。

成績評価の方法

定期試験70%、授業中の小テスト30%授業中の積極的な発言も評価の対象とします。

教科書/テキスト

特定のテキストは使用しない。

参 考 書

授業中にその都度紹介しますので、出きるだけ本を買って読むこと。

履修コード	133801
科目名	現代国家論
担当者名	おおつか かづら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)	本講義は近代における日本国家の解明を主たる目的に定めます。具体的には下記の諸課題を検討していきます。第一に近代日本国家の形成過程＝明治国家の構造（前期）であり、第二に日本人の政治的行動様式・観念形態を規定するもの＝政治文化の問題（後期）をとりあげます。
講義の内容／ 授業スケジュール	I 前期 (1) 幕末維新の政治過程 (2) 内閣官制 (3) 大日本帝国憲法 (4) 統帥権 (5) 帝国議会 (6) 自由民権運動 (7) 地方官官制 (8) 財政 (9) 国家神道 (10) 教育勅語 (11) 社会主義 (12) 大正デモクラシー (13) 天皇制ファシズム (14) 統制経済 (15) 中間試験 II 後期 (16) 日本の宗教①～⑤ (17) 日本人の死生観 (18) タテ社会の原理 (19) 和の精神 (20) ムラ・イエの原理 (21) ホンネとタテマエ (22) 集団指導体制 (23) 意志決定 (24) 被害者意識 (25) 期末試験
成績評価の方法 教科書／テキスト	授業内における中間試験（50％）と期末試験（50％）により評価します。 大塚桂『明治国家の基本構造』（法律文化社）3200円 大塚桂『日本の政治文化』（勁草書房）2800円
参 考 書 そ の 他	上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。 私の研究室は、第二研究館八階（2835）です。電話は、3418-9377（直）です。

履修コード	133901
科目名	社会学原理
担当者名	お びよんさん 奥 炳三

講義の到達目標(ねらい)	社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす社会問題を分析する手法として、社会学の基礎的な概念や理論の使い方を学ぶこと。またはその身近な社会問題を認識、理解することを通じて、現代社会を展望する視点を養ってもらうことを本講義の目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期は以下の内容について概念や理論を中心に講義を行う。 (1) はじめに、(2) 社会学とは、(3～4) 個人と社会（社会的行為、社会化と人間形成、パーソナリティ・社会的自我）、(5～6) 現代家族論（配偶者選択、結婚、家族の構造と機能、家族の現代的課題）、(7～8) 組織論、官僚制（専門職）、(9～10) 職業、労働（職場や人間関係、就職・転職・リストラ、フリーター・ニート）、(11～12) 若者の犯罪（ラベリング理論、加害者と被害者の関係、犯罪の原因）、(13～14) 自殺と社会（自殺の歴史、自殺の背景、自殺の最近の情報）、(15) 社会階層など 後期は以下のテーマについて受講生の発表およびディベートを行う。 (1) 教員免許更新制度、(2) 若者文化、(3) 少年法改正、(4) 出会系サイト、(5) 自殺といじめ、(6) 家族の変容、(7) 高齢者虐待、(8) 格差社会、ワーキングプア、(9) 草食男子・肉食女子、(10) 婚活・恋活、(11) ペットは家族の一員か、(12) 代理出産など 以上、講義を予定しているが、受講生の人数などによっては、講義内容を変更することがある。
履修上の留意点 成績評価の方法	積極的にノートをとること。 出席状況（遅刻厳禁）、発表やディベートの内容と授業態度、簡単なレポートなどを総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。
教科書／テキスト 参 考 書	特に指定しない。 講義中に、その都度紹介する。

履修コード	134001
科目名	比較憲法
担当者名	柳瀬 昇

講義の到達目標(ねらい)	この講義は、わが国の憲法との比較において、諸外国の憲法の歴史、制度及び運用を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。 主要各国の憲法を比較しながら、立憲主義の普遍性及び各国の憲法の固有性を学ぶとともに、わが国の憲法についての理解をより深められたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	諸外国の憲法の成立過程、統治機構規定・人権保障規定の比較分析、著名な判例を通じた憲法運用の検討の順に講義を行う。 第1回：比較憲法の意義、第2-7回：近代・現代憲法の成立（英米独仏の憲法史、国際社会と憲法、非西欧諸国の憲法）、第8-16回：諸外国の憲法の統治機構規定の比較分析（諸外国の憲法の統治機構規定の総説、選挙制度、議会制度、政府と議会との関係、司法制度、違憲審査制度）、第17-18回：諸外国の憲法の人権保障規定の分析、第19-29回：諸外国の著名な判例を通じた憲法運用の検討、第30回：総括
準備学習	基本的には予習は必要ないが、その代わりに、必ず講義に出席し、復習に努めてほしい。ただし、憲法運用の検討を扱う後半のうち数回は、配布された資料を読んだうえで講義に臨むことを求める。
履修上の留意点 成績評価の方法	講義の進行を妨げるような遅刻や早退は、厳に慎まれたい。 期末に行う筆記試験や、授業時間中に適宜行う小テスト等に基づき、総合的に判断する（履修者数が少ない場合には、レポートを中心とした成績評価の方法に変更することもある）。 90点以上の者を「S」、80点以上の者を「A」、70点以上の者を「B」、60点以上の者を「C」とし、60点未満の者を「F」と評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。 各国の憲法については、高橋和之編『世界憲法集〔新版〕』（岩波書店、2007年）を携行されたい（主要各国の憲法典が掲載されているものであれば、他の図書でもよい）。
参考書 その他	第1回の講義で説明する。 講義の内容に関する質問や学生生活上の相談については、講義の前後またはオフィスアワーにおいて、対応する。確実に時間を確保したい場合には、eメールで事前に連絡をとることをすすめる。

履修コード	134101
科目名	政治学特殊講義（1）
担当者名	浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)	これからの日本の政治、経済、社会を考える上で重要と思われる論点を取り上げ、討議することによって各自の問題意識を高めていきたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	日本の政治システム 日本経済の今後 結果の平等・機会の平等 民主主義の限界 日米外交 アジア外交 日本の安全保障 格差社会 行政改革 危機管理 地域の再生 犯罪被害等に関する記事、小論を毎時間2～3取り上げ議論を行う。
履修上の留意点 成績評価の方法	毎回出される課題について調べ、自分の意見をまとめ、発言することが求められる。 授業での発言内容を評価する。

履修コード	134201
科目名	政治学特殊講義（2）
担当者名	山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

近代以降の政治は、主に主権国家の間の秩序が問題となる「国際政治」と、主権国家内部の秩序が問題となる「国内政治」とに分かれて論じられてきました。しかし国境を越えて人、モノ、資本、情報、文化など展開するグローバル化により、国内政治と国際政治の境界線は以前ほど明確なものではなくなりつつあります。一方ではEUやイスラム圏などの巨大な地域主義が台頭し、世界レベルでも安全保障や貧困、環境への取り組む仕組みも作られるなど、国境を越えた緊密なネットワークが張り巡らされ、国境を越えた協力和衝突が起きています。テロをめぐる問題やリーマンショックは国境の向こうの「他人事」ではありません。逆に国内では格差などの分裂が、国境よりも高い壁となって立ちはだかっています。

講義の内容／授業スケジュール

「国内政治／国際政治」といった境界線が融解することによって、いかなるリスクと可能性が出てきたのか、そしていかにそれらに対処していくか、を受講者と共に考えます。最終的には講義の終わりまで本講義のテーマに関連する問題意識をもってもらい、小論文の作成をしてもらいます。

（第1回）国民国家論（第2・3回）同化主義1・2（第4・5回）多文化主義1・2（第6・7回）地域主義論（EUとアジア共同体構想）（第7・8回）グローバル・ガバナンス論1・2（第9・10回）人道的介入とグローバル・テロリズム（第11回）暴力に抗して

（第12回）論文の書き方（第13・14・15回）個人研究報告

履修上の留意点

極めて専門性の高い、いわば「現代政治理論の最前線」ともいうべき講義となりますので、当該問題に強い関心を持ち、難解な専門書を読み（場合によっては英語を含む）、頻繁にレポートの提出や研究報告をする意思と高度な能力を持っていることが求められます。担当者（山崎）の「現代政治理論」の単位を取得済みである事が強く望まれます。また担当者による「演習」との関連が強いテーマなので、当該科目の受講生は単位登録することを強く勧めます。

成績評価の方法
教科書／テキスト

レポート・小論文提出と平常点（議論への参加など）。

参 考 書
そ の 他

特になし。

講義の進行に応じて、適宜指定します。

少人数の受講生によるハイレベルな講義を想定しています。講義のテーマと関連した個人研究報告の機会なども設ける予定です。

履修コード	134301
科目名	政治学特殊講義（3）
担当者名	早川 純貴

講義の到達目標(ねらい)

本講義では日本の労働政治の変遷を辿り、労働勢力の政治的役割、とりわけ「公労協」運動が日本労働運動史に残した意義と限界について論じていきたい。さらに、労働者を守る立場の労組の力が、他の先進諸国と比べ、日本が著しく弱い原因をも考えてみたい。

講義の内容／授業スケジュール

①戦後労働運動の概要——権力資源論の視点から（2回）、②公労協の特色と社会党（2回）、③75年スト権ストをめぐる公労協と自民党（3回）、④国労の分裂（2回）、⑤全通の路線転換（3回）、⑥総評の崩壊と連合への合流——労働戦線統一に向けて（2回）

準 備 学 習

日常的に新聞の政治・経済面をよく読んでおくこと。また授業後は必ずノートを読み返し、疑問点は自分で調べるなり、次の授業時に質問すること。

履修上の留意点

講義では労働組合運動の解説のみならず、自民党や（旧）社会党にも言及する。日本の現代政治を労働勢力と政府・自民党との対立と妥協の視点から論じることになるが、労働政治に関心のある学生の聴講を歓迎する。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験により評価する。

参 考 書

使用しない。

講義の中で随時紹介する。

履修コード	134401
科目名	政治学特殊講義(4)
担当者名	大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	国会の仕組みや役割について掘り下げて検討し、議会制民主主義を活性化し、国民の声をより反映する国会をつくるにはどうしたらよいかを考えます。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1) 国際比較からみた国会、(2～3) 帝国議会以来の歴史、(4～5) 国会の成立と特色、(6～7) 国会議員、(8～10) 立法機関としての国会、(11～12) 政府の監視、(13～14) 国民に開かれた国会、(15) まとめ
準備学習 履修上の留意点	ただし、時事問題の解説などを適宜取り入れるため、予定を変更する場合があります。国会の基本知識を復習しておくこと。新聞の政治面に目を通す習慣をつけること。課題の提出などにYeStudyを利用するので、必ずアクセスしてください。少人数の講義になると思われるので、積極的に国会について考えてみたいという学生の参加を求めます。
成績評価の方法	平常点によります。平常点というのは、日頃の受講態度、課題の提出状況を問われるので、定期試験だけで成績が決まるより厳しいと覚悟して下さい。
教科書/テキスト	教科書は指定しません。
参 考 書	その都度紹介します。
そ の 他	授業開始時にYeStudyの利用方法について案内します。

履修コード	134411
科目名	会社法
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい)	【注意】この講義を選択できるのは、法律学科2年生で学生番号LK9201番以降の学生、法律学科3年生以上の学生、政治学科2年生以上の学生である。
講義の内容/ 授業スケジュール	企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整(いわゆる形式的な意味での会社法)について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。 前期 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義 2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整(株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等) 後期 3 会社の資金調達と法規整(設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等) 4 会社の組織再編(M&A等) 5 企業会計
履修上の留意点	少なくとも民法(総則・債権各論)を履修済か、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。
成績評価の方法	原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。
教科書/テキスト	平出・山本・田澤編『商法概論Ⅱ』(青林書院)の予定であるが、発売が4月までに間に合わなければ代替措置を考える。
参 考 書	江頭憲治郎『株式会社法』(有斐閣)、神田秀樹『会社法』(弘文堂)。その他、適宜授業内で紹介する。
関 連 リ ン ク	http://homepage3.nifty.com/inoue-k/

履修コード	143802
科目名	民法 (債権)
担当者名	上井 長久 <small>みえい ながひさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、他人に対して、或る物を交付させること、または、或ることを為すことを要求する権利、すなわち債権についての実体的権利関係を総合的に考察するが、それを通して、債権をめぐる問題に対して精通するとともに、柔軟に解決できるように導くことを目標とする。そのように人が人に対して或る事柄を要求することを正当と認め、その請求の実現が当事者間ではかることが出来ない場合に、当事者の一方の訴えに基づき他方の責任を追求するために裁判所が力を貸す関係が債権関係である。そのような人と人の関係は、封建的な身分関係から生じるのではなく、周知のように近現代では多くは契約関係から生じる。その他に、契約関係がなくとも相互扶助、公平、損害補填等の要請に基づく事務管理、不当利得、不法行為などからも債権関係が生じる。

債権法は、その全てについて言えることではないが、合意優先ないし契約自由の原則の及ぶ領域においては、その規定が任意法規性のゆえに日常の経済生活では往々にして、合意により債権法規と異なる生活規範が設定され、また、それが許される法の範疇である。この範疇においては、日常生活の一定の基準たる債権法規の解釈と、その法規を排除した、より有益な準則を設定した生活関係の両方を理解することが必要である。

講義の内容/
授業スケジュール

この講義は、債権総論と債権各論を講義の対象とする。まず債権法全体の仕組み、内容をひととおり説明したうえで、債権一般の通則たる債権総論、次いで債権発生の原因にあたる債権各論について逐条的かつ重点的に解明する。

第1回～第3回：債権の意義・性質・社会的機能、債権法の法源、債権法の特質・体系、第4回：債権の目的・内容、第5回：債権の効力——債務と責任、履行強制、第6回～7回：債務不履行責任、第8回：債権の対外的効力——債権者代位権、第9回：債権者取消権、第10回：多数当事者の債権関係——債権の共有・合有・総有、分割・不可分債権、第11回～12回：連帯債務、第13回～14回：保証債務、第15～16回：債権の譲渡、債務の引受、第17回：債権の消滅、第18回：契約総則——債権発生原因、契約自由の原則、契約の種類、第19回：契約の成立、第20回：契約の効力——同時履行の抗弁権、第21回：危険負担、第22回～23回：第三者のためにする契約、契約の解除、第24回：贈与、売買、交換、第25回：消費貸借、使用貸借、質貸借、第26回：雇傭、請負、委任等の契約、第27回：事務管理、不当利得、第28回～30回：不法行為

準備学習
履修上の留意点

各回のテーマに関連する内容について条文および教科書を一読した上で講義に臨むこと。

債権法は、民法学の一分野であるから、必然的に民法の他の分野にも関連する。とくに債権を担保するための担保物権や民法全体の基本原則である民法総則などを扱う「民法I」も併せて履修することが望ましい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

学年末の定期試験で行う。

我妻栄・有泉亨・川井健著『民法Ⅱ 債権法 (第三版)』(勁草書房)

川井健『民法概論Ⅲ 債権総論』、『民法概論Ⅳ 債権各論』(有斐閣)

内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物権』、『民法Ⅱ 債権各論』(東京大学出版会)

稲本洋之助・上井他共著『民法講義Ⅴ 契約』(有斐閣大学双書)

履修コード	130501・130502
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	三竹 <small>みなけ たけや</small> 直哉

講義の到達目標(ねらい)	英語で政治学を勉強します。また、興味がある内容を通じて、せっかくなってきた英語を実際に使えるものにするのも目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	参加者の希望や人数によって、内容もやり方も変わってきます。 扱う文献は、参加する人の関心や希望に応じて決めます。比較政治学に関連した内容を原則としますので、比較政治学の授業内容をよく確認して参考にしてください。 2009年度は、日本語訳がある英語文献を毎週少しずつ各自で読み進め、授業でわからないところや重要なポイントを討論するかたちで授業を行いました。
履修上の留意点	あくまでも政治学科の専門科目です。「英語の授業」ではありません。政治学科の3年次もしくは4年次生として、当然持っているべき知識は前提として授業を進めます。 ただし、英語学習上のコツなどは授業を通じてたくさんお教えしますので、役に立つことと思います。 授業に関連する新聞記事などを課題として指定することがあります。授業で扱った事柄について自ら調べたり勉強したりする課題も出る可能性があります。 自分の将来のために真剣に勉強している人向けの授業です。 原則として平常点によります。小テストを行うことがあります。 買う必要があるものではありません。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	辞書は中辞典以上の大きさのものを毎回持参してください。電子辞書も可です。学習用英英辞典の“Cobuild English Dictionary”はおすすめです。電子辞書も、この辞書が入っているものをすすめます（必ず買わなければいけないわけではありません）。
そ の 他	最新の情報はYeStudyで確認してください。

履修コード	130601・130602
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	清滝 <small>きよたき ひとし</small> 仁志

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、政治を中心にした時事的文献を題材にして、比較的視野で政治問題・国際問題を理解する方法を身につけることを目的にします。「比較は頭脳を明晰にする」(フランスの政治思想家トクヴィルの言葉)のであり、政治学科で学んだ知識をさまざまな分野に活用しようという場合、比較的視点は不可欠です。 さらに時事問題を自分の頭で解釈し、論理的思考(ロジカルシンキング)の育成、論文・レポートの作成能力の向上にもつながるように配慮します。
講義の内容／ 授業スケジュール	新聞・雑誌等に掲載された政治関連の最新の記事を題材にしなが、政治学の基礎知識や時事問題を学んでいきます。今年度は演習の要素を取り入れ、積極的に発言をする機会を設けます。 授業では日本の新聞とは違った視点で政治を分析している外国の文献もとりあげることで、政治に関する多角的な知識を身につけます。
準備学習	本年度は講義のスタイルでなく、演習方式にしますので、積極的に授業に参加することが必要になります。
履修上の留意点	英語能力は不問。履修に不安がある場合は事前にご相談ください。英語よりもむしろ国際事情・時事問題について理解・関心を深めることを期待しています。 とくに国際問題において、日本のメディアを通してだけでは得られない情報をとりあげ、紹介していきますので、皆さんの政治を論じる能力を向上させてください。
成績評価の方法	授業の参加状況・課題の提出などで判断します。 評価では、講義を受けることでいかに力をつけたか、を重視します。 定期試験は実施せず、平常点で評価します。また授業中に自分の意見をまとめたレポートを書いてもらいます。 *欠席・遅刻が目立つ場合、履修中止を適宜、勧告します。
教科書／テキスト 参 考 書	解説を加えた資料を毎回配布します。 英字新聞を読むための参考書として 伊藤サム『第一線の記者が教える英文記事の読み方』(ジャパントイムズ) 同じ著者の『伊藤サムのこれであなたも英文記者』(ジャパントイムズ)もお勧めします。
そ の 他	授業を通じて、身の回りの情報に自発的・積極的に関心を抱く知的習慣が身につくことを期待します。 授業の性格上、大学院受験等で英語を勉強される場合、別の担当者の授業をお勧めします。質問があれば、kiyotaki@komazawa-u.ac.jp まで。 Yestudy (https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/) に授業ページを設置します。パスワードは授業で連絡します。

履修コード	130701・130702
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい) メディア研究関連の英文読解。
 講義の内容／授業スケジュール 資料 (McQuail's Mass Communication Theory) はコピー配付する。
 履修上の留意点 英語が得意科目であることが望ましい。
 成績評価の方法 平常点

履修コード	120701・120702
科目名	外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）
担当者名	松村 格

講義の到達目標(ねらい) ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ることが目的とします。
 講義の内容／授業スケジュール ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することにします。そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。
 準備学習 必ず授業の進度予定分の翻訳予習をすること。
 履修上の留意点 毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書を参考にしながら、講読すると理解しやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。
 成績評価の方法 善段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。
 教科書／テキスト 未定。第1回目の授業に配布します。
 参考書 未定。

履修コード	120801・120802
科目名	外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）
担当者名	荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい) わが国が近代国家として出発するとき、フランスをはじめヨーロッパ諸国の法制度や政治制度に多くを学んだ。そして、その諸制度は現在もわが国を支える基本的な法的・政治的枠組みとなっている。これらの諸制度が、本来どのような考え方を基礎として生まれ、どのような社会的、経済的、政治的背景のもとに発展してきたのかについて、フランス語の原書の講読を通して母国フランスの思考や事情を学び、わが国の制度をより広い観点から深く理解する力をつけてもらいたい。
 講義の内容／授業スケジュール 教材は、受講生のフランス語の学力に合わせ、公法や私法の基本的な考えや政治の仕組みなどを易しく解説した原書の文献を選ぶつもりである。
 準備学習 授業の中で必要に応じて指示する。
 履修上の留意点 履修にあたっては、基礎的なフランス語の学力が必要である。また、根気よく文献の解説に取り組む熱意のあることが求められる。
 成績評価の方法 成績は、出席の回数と平常の努力を評価して行う。ペーパーテストは行わない。
 教科書／テキスト 教材については、必要に応じてプリントを配布する。
 参考書 参考書は、授業の内容に応じてその都度紹介する。

履修コード	120901・120902
科目名	外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）
担当者名	岩崎 壘

講義の到達目標(ねらい) 社会問題や犯罪等のニュースを通して、中国の今を知ること。
 講義の内容／授業スケジュール 文章の訳読を中心に授業を進めます。
 履修上の留意点 授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由（急病、急用、忌引、部活動等）により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。
 成績評価の方法 4分の3以上の出席を前提に、前期末期それぞれ1回行う試験によって評価します。
 教科書／テキスト インターネット上で見られる新聞記事を元に教材を作成します。

履修コード	123601・123602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)	わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わりつつあります。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行など多くみられるのもその表われです。演習は、この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今までの労働法理の基礎を自ら学びとる場です。到達目標は、自らの関心事を自ら調べ読み学び理解を深め理解したところを発表するそしてまた理解してもらえなかったところ理解不足だったところなどを自ら体得することです。
講義の内容／授業スケジュール	本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深めたところで発表し、議論をする方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。夏季には研究合宿を行いません。
準備学習	4月授業開始前に、3回ほど課題を提出してもらいます。通常授業時の準備学習は、予めどのようなテーマの報告がなされるかはみんな知っていることなので、ここに書くまでもないことですが、報告者以外の者は、当該テーマの予習を判例百選や教科書を読んで、質問事項を用意しておくことです。報告者が準備をしていくことは言うまでもありません。
履修上の留意点	演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。 ゼミ運営や懇親会にも積極的に関わることが大切だと考えています。
成績評価の方法	講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。 出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。
教科書／テキスト	金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法』(エイデル研究所 2009)。 菅野和夫著『労働法』(弘文堂) 労働判例百選 労働法の争点
参考書	必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自分で探ることが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	124501・124502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)	この演習は、法律の解釈論や政策論の基礎となる原理的な議論に関心を持つ学生のために「法哲学演習」として開講するものである。「法学の学習の中で培った知見を応用する」と同時に、それを「哲学や社会科学その他を含む広い文脈のなかで捉えなおすこと」、この両方が本演習の目標であるが、さらに社会科学的な文章の扱い方に慣れることや、報告や討論の中で問題を掘り下げる能力の養成も本演習の中で心がけたい。
講義の内容／授業スケジュール	<基本方針> 1年間を通じて扱う統一テーマを設定して演習を進めていく。とりあげる内容は、現代の法的问题のをいくつかえらんで検討していく場合と、古典的文獻精読を中心に進める場合と、年度ごとに重点の置き方を変えていく。 本年度の具体的なテーマは演習開始時に相談の上決定するので未定であるが、参考までに過去にとりあげた題材やテーマを紹介しておく。 テーマの一例：配分的正義と福祉国家、公正の概念、平等論、格差社会、所有権論、民主主義、私法の意義、自由論 購読文献の一例：ミル『自由論』、ロック『統治論』、ドゥオーキン『権利論』、ルソー『社会契約論』、ロールズ『万民の法』
履修上の留意点	<年間スケジュール> 前期は、選定した文献についての報告を軸にし、テーマに関する議論を参加者全員が共有することを目指す。後半は、そこから発展したテーマやさらに議論を深めるための文献を割り当て、より各参加者の関心に引きつけた報告を行なってもらう予定。 <運営方法> 毎回の演習は、報告・質疑・討論の形式で運営する。報告者の他、あらかじめコメントーターを指定する。
成績評価の方法	常に積極的に発言すること、おそれずに聞くこと、調べる手間を厭わないことを、演習参加者の姿勢として求める。
教科書／テキスト	平常点(出席、報告および討論における発言を勘案して評価)と全日程終了後提出のレポートにより総合評価する。 特に指定しない。

履修コード	124801・124802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	おう しあん 王 志安

講義の到達目標(ねらい)

国際裁判および国内裁判の判例の分析を通して、現代国際法の適用過程を検証する。具体的に、慣習国際法が裁判においてどのように確認され、適用されるか、また条約がどのように適用されるかを実際の判例において分析する。そして演習を通して国際法に関する知識だけでなく、判例分析や報告書又は小論文の作成に関する知識および能力をも養っていただきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

テーマとして国家の領域紛争、国際法における承認および人権問題にかかわる判例を選定し、判例の読解および関連の参考資料の学習を通して国際法の適用における実情および問題点を明らかにしていく。前期において特定の中心テーマを基準に選定された事例の勉強となるが、後半において参加者の関心を尊重して個別の判例の分析を中心に演習を行っていききたい。また、夏休みでは、原文(英文)の国際判例を読み解くための合宿を行う。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
そ の 他

出席および配布された資料を事前に読むことを要求する。
演習への参加状況および報告に望む態度や積極性を考慮して評価する。
『判例百選国際法』(有斐閣)2001年
ゼミに関する情報などは、Yestudyから入手できる。

履修コード	125001・125002
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	さとう たみお 佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)

刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実に当てはめてみるのが有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。

講義の内容／
授業スケジュール
成績評価の方法
教科書／テキスト

本演習の目標は結局のところ、具体的な事実を刑法を適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができる必要がある。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。

判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。

レポート、発言、出席等を総合評価
刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。

履修コード	125701・125702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	にし おさむ 西 修

講義の到達目標(ねらい)

私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切に、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずから磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉強ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけたす場でもあると。こんな場にするために、私はつぎのような方針でのぞみたいと思っています。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) ゼミのモットーは「出会い、学び合い、そして人間愛」です。
- (2) とくに少人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。
- (3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

前記と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。共通に読む本は開講時に指定。またディスカッションの内容としては、(1) 日本国憲法の成立過程とその法的問題点、(2) 憲法第9条をめぐる諸問題、(3) 世界の憲法トレンド、(4) 人権の現代的意味などを考えています。その他、年に1回は合宿を行います。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

「講義のねらい」で記述した方針でのぞみますので毎回出席すること。
出席、発言、課題論文などを総合的に判断する。
開講時に指示する。
適宜紹介する。
合宿中に私の落語を聴かされることがあります。

履修コード	131701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	浦田 早苗

講義の到達目標(ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
講義の内容／ 授業スケジュール	2009年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。
履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならぬ。
成績評価の方法 その他	発表内容と各自の持つ勉学意欲(発表に対する質問・意見等)によって評価する。 学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。

履修コード	131901・131902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	柳瀬 昇

講義の到達目標(ねらい)	この演習は、日本国憲法の解釈論を学ぶことを通じて、法的なものの考え方を養うことを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	憲法は、国家統治の組織・作用の基本法である。特に、今日では、自由主義に基づき人権保障のために権力を抑制することを定めた基本法をいう。この演習では、日本国憲法の解釈論上の基本概念について、徹底的な理解を図る。そのうえで、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、担当者の指導の下、研究を行う。 憲法は、国や地方公共団体等の公務員試験の受験科目であるので、公務員を志望する学生は、憲法を学習する際のベースメーカーとして、この演習を活用することができるであろう。もちろん、研究機関や民間企業等に就職する学生にとっても、この演習では、憲法の解釈論を通じて、人間や社会についての法学的な分析を行うので、さまざまなことを学び、総合的な人間力を高めることができるだろう。いずれにせよ、意欲的な学生の主体的かつ能動的な参加を期待している。 3年次の前期には、憲法解釈論上の基本概念について、ソクラティック・メソッドにより、徹底的な理解を求める。授業時間中は、担当者の司会の下、全員で議論を行う。 夏合宿では、憲法学の現代的課題を1つ取り上げ、議論を行う(全員参加、9月第1週を予定している)。 3年次の後期は、憲法判例を素材として、憲法解釈論上の諸問題について、担当者の司会の下、全員で議論を行う。
準備学習	なお、4年次には、各自の関心に応じて選択した憲法学の現代的課題について、卒業論文等の制作に取り組むものとする。
履修上の留意点	3年次の前期は、あらかじめ示した論点に沿って、後期は、配布された判例を踏まえて、受講者各自による綿密な予習を行ったうえで、演習に臨みたい。 演習Ⅰと演習Ⅱは継続して履修することを原則とする。
成績評価の方法 教科書／テキスト	基本的には、毎回、演習に参加を求める。この演習に関する活動(合宿等も含む)を欠席する場合には、正当な理由を示して、担当者に事前に申し出られたい。 演習への参加状況に基づき、総合的に評価する。 特に指定しない。
参 考 書	どの出版社のものでもかまわないので、六法(法令集)は、必ず携行されたい。なお、六法については、第1回目の演習で説明する。 担当者が執筆した憲法学に関する概説書として、佐々木幸寿・柳瀬昇『憲法と教育〔第2版〕』(学文社、2009年)などがある。
そ の 他	担当者は、憲法学及び立法政策論を専攻している。公法学及び政治学の領域で昨今きわめて注目されている討議民主主義(deliberative democracy)理論の精緻化と、その実践モデルの諸相について、これまで研究を進めてきた。授業担当者の代表的著作として、柳瀬昇『裁判員制度の立法学—討議民主主義理論に基づく国民の司法参加の意義の再構成』(日本評論社、2009年)がある。関心があれば、参照されたい。 その他、適宜、演習の中で紹介する。
	このゼミは、今年度初めて募集する。学期はじめや終わりに懇親会を行ったり、夏などに合宿を行うなど、さまざまな行事を予定している。ゼミ第1期生は、自ら積極的にゼミの活動を企画し、参加してほしい。 この演習を通じて、学生には、生涯にわたって付き合えるような仲間づくりをしてほしいと担当者は考えている。

履修コード	132001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	大田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、ディベートや研究発表を行ってもらう。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、成人年齢の引き下げの是非、駅前の放置自転車対策などである。とくにディベートはルールに従って、大量の準備を行う必要があり、また自分の希望しないテーマや立場を取らざるを得ないことが頻繁にあるが、そのような時にこそ、全力で準備して、自らの力を高めて欲しい。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

年間の演習を5回ずつ程度に分けて、ディベートや研究発表を繰り返していきたい。例えば、夏休み前にディベートを2回くらい、研究発表1回くらいできれば十分と考えている。

秋に開催される法学部のゼミ対抗のディベート大会に出場してもらおう予定です。そのため、8月から10月は、平日の夕方や夜、休日にも自主的に集まり準備を行っていただきます。予備校とのダブルスクール、部活動との両立、アルバイト等は、この時期にはかなり難しくなります。また、ディベート大会で他のゼミと対戦すると、テーマを調整する必要があるため、自分たちの希望するテーマにならないことが通常です。その場合でも、真剣に調べて議論を構築しようとする根気を必要とします。実際にディベートがどのようなものであるかを事前に確認するために、是非、ディベート大会またはマスコミ研究所のディベート大会などを見てください（法律学科の学生には強く勧めます）

教員は、ディベートの資料を配りDVDを見せて多少の解説を加えたりするだけで、細かいことに関してはほとんど指示を出さずに、「いつまでに何を準備してくれ」程度のことを、たまにしか言いません。

したがって、ディベートやグループ研究を行う中で、グループごとに時間管理を行い、演習以外の時間に自主的に学生が集まって作業をすることが非常に多くなります。そのような時間外の活動についても、できるだけ出席点に反映するようにします。

講義の場合と比べて、教員の指導が少なく物足りないと感じるかもしれませんが、このように自分たちで作業を行いチームで成果を出すことを通じて、結果的に、大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなぐりの友人も作り、グループでの作業を通じてチームで物事を達成する充実感を味わってほしいというのが、担当教員の願いです。

コンパ・合宿を考えていますが、正規の授業の理由を除いては、全員参加とします（出席点として考慮します。）

OB会の準備などをお願いする予定です。

成績評価の方法
教科書/テキスト

平常点による。
特に使用しない。

履修コード	132101・132102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	小堀 訓男

講義の到達目標(ねらい)

国家は国際社会にあって、外部から受けるインパクトに対し、さまざまなリアクションを引起す。これを国家の行動と呼ぶならば、国家は国際社会のなかで行動するための何らかの基準があるのではないか、という素朴な疑問をもって、戦争・紛争・国家間の経済問題・国家の統合などを研究の素材としてとりあげ、それらの事象を分析する。つまり、この演習では、国家には何らかの行動基準があるのではないかという問題意識をもって、諸種の国際事象を分析、考察する。

第1回から第4回までの演習では、“国際政治とは、いかなるものか”をテーマに討論し全員が国際政治について共通の認識をもてるようにする。

第5回から第8回までの演習では、国家についての基礎的知識を得るために、国家論の諸説を整理する。殊に、国家・民族・階級について、各自研究し討論する。

第9回からの演習では、戦争・紛争・国家間の経済問題・国家の統合などの具体的な事象について、興味あるテーマを各自が選び、その現象を分析しながら、国家の内部に包含されている民族や階級が、その国家の行動にどのように作用しているかを考察し、国家の行動基準の法則性の有無を検討する。

履修上の留意点

問題意識を明確にもった学生の受講を希望する。殊に国家の政策決定について興味をもっている学生の受講をのぞむ。

成績評価の方法
参 考 書
そ の 他

講義中の発言、研究発表の内容で評価する。

授業中に適宜紹介する。

ゼミ生は、テーマ別の研究班に分かれて研究会をおこないます。(例) アメリカ研究班、中東研究班、東南アジア研究班、EU研究班、理論研究班等。よって、積極的に参加する者の応募を望みません。

履修コード	132201・132202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	相田 敏彦

講義の到達目標(ねらい)

一言でいえば、マスコミ、広告・広報、情報化がゼミのテーマである。マスコミは興味深いだけでなく、政治学の根底にかかわる領域である。テレビCMを含め、広告・広報はどんな企業・組織体にとっても重要な問題であり、実社会とつながりの深い実践的テーマである。パソコン・ケータイ・インターネットに象徴される情報化の急速な進行も、身近な生活から企業内にまでおよんでいる。

メディア・広告・情報化の3領域のなかから、各自に、またグループ単位に好きなテーマを選択し、資料調べ・発表・討論などを行ないながらまとめてゆく。

合宿やふだんの授業で友人との親しさが増すだけでなく、人前での発言・発表能力、もの書きまとめる能力を2年次より一層高め(ゆったり・楽しく・着実に)進展・燃焼する場としてのゼミにしたい。

当ゼミの特徴を一言でいえば、おもしろさプラス実践性の高い役に立つ知識の習得プラスコミュニケーション能力の向上である。

<基礎演習>に記載の内容を参照。それをいっそう高度化したい。

前期: レポートを書く力、口頭発表力を2年次以上のレベルにまで高める(3年生)。ゼミ論文のテーマを決める(4年生)。後期: ロール・プレイングにもウェイト(3年生)。ゼミ論文の書き方を学び、執筆・完成して1冊のゼミ論文集を作る(4年生)。

平常点。

講義の内容/
授業スケジュール

成績評価の方法

履修コード	132211・132212
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	山崎 望

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、国民国家から成り立つ現代世界の変容を多様な観点から分析します。その上で、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。演習を通じて「あたり前」と思っている事が「あたり前」ではなく、テロやナショナリズム、グローバル経済といった「大きな問題」が「他人事」ではなく「自分の問題」である事について学んでもらうことが目的です。今年フェミニズムをめぐる議論についても検討します。

現代世界の変容を多角的に分析し、世界秩序の変容が生み出す問題にどのように対応するのか、考えていきます。国内政治/国際政治、公/私の区別など既存の区別が揺らぐ中で噴出している多様な問題について考えます。

(1) イントロダクション

(2~8) 国内/国際的な格差社会論、貧困問題、世界恐慌、社会の分断

(9~13) 福祉国家の再編、ベーシックインカム論、共産主義再考、NPO論、

新しい労働の模索

(14・15) グループ対抗ディベート

(16~20) 「9・11」対米同時多発テロ、アメリカ一極秩序の動揺と世界秩序の多極化

「新しい戦争」、人道的介入、グローバル・テロリズム、ネオ・ナショナリズム

(21~27) 多文化主義論、フェミニズム、地域共同体論(EU)と東アジア共同体構想)

市民社会論、新しい民主主義と国境を越える民主主義

(28~30) 研究報告

履修上の留意点

毎回、課題とされた文献をしっかりと読んでからゼミに臨んでください。報告者は課題文献の要約レジュメと私見を事前に作成してください(担当者が指導します)討論においては積極的に発言してください。正当な理由なく無断欠席をする方、指導をしても積極的に議論をしない方には単位を与えませんので、留意してがんばってください。

班分けの作業などを行うので、ゼミの第一回目には必ず出席して下さい。

(演習の進め方の詳細もゼミの一回目に説明します)

平常点(出席・報告・討論への貢献など総合的に評価)。

報告者・参加者と議論の上、適宜指定します。

他の文献については、ゼミの進行に応じて適宜指定します。

ゼミ形式。毎回報告者を指名するので、報告者は課題文献を要約し、レジュメを作成し、それを報告し、かつ新聞や課題文献以外の資料、本を用いて私見を作成することが求められます。その後参加者をグループに分けて、集団討論を行います。希望があれば個人研究報告やグループ対抗のディベートも行います。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

履修コード	132301・132302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>なかの ゆうじ</small> 中野 裕二

講義の到達目標(ねらい)

自分で研究テーマを決め、年度末にゼミ論文として提出することを目標とします。研究テーマは、受講生の問題関心に即して決定します。「自分はどうしてこの事に関心を抱いているのか？」を自問することも大切なことだと考えます。

講義の内容／
授業スケジュール

毎回の演習の時間は、ゼミ論文の中間報告、または、論文作成のために必要な文献の内容紹介にあてます。毎回1人または2人の報告を行い、内容の発表と質疑応答を通して論文作成上の問題点を洗い直し、または自分の問題関心の再確認を行います。

履修上の留意点
成績評価の方法

自発的に研究し、論文をまとめる意志のある学生のみ受講してください。

出席、ゼミ論文の提出、報告内容・質疑応答の内容などを総合的に判断し、成績評価とします。

履修コード	132401・132402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>みたけ なほや</small> 三竹 直哉

講義の到達目標(ねらい)

比較政治学的な研究を自らやってみる演習です。せっかく大学に来たのだから、中学校や高校の自由研究レベルのものではなく、自分の問題意識で本格的に卒業研究をやってみたいという人向けです。小学校以来受けてきた教育の集大成であり、自分の(作品)となる卒業論文を作成します。たくさん書き、本や論文にたくさん接し、いろいろな人に会い、図書館にたくさん行ってもらいます。そういうことが「楽しい」と思う人向けの演習です。

講義の内容／
授業スケジュール

お互いに助け合いながら個人研究を行います。やり方や内容は年によって参加者によってかなり異なります。卒業してからどんな分野に進んでも役に立つよう、知的な仕事をする上での基本的な訓練、練習は三年次に必ず行います。簡潔で論理的な文章の書き方のトレーニング、ノートの取り方、自己分析、プレゼンテーションのしかた、スケジュール管理のしかた等々を、かなり細かくやります。原則として、研究テーマは、比較政治学やその他三竹担当の授業内容に関連したものを自分で設定することになります。

履修上の留意点

今年度は、日本の多文化状況についての学習の一環として、新宿大久保地区で活動している団体のフィールドワークに参加する計画です。

応募する前に《必ず》メールで相談してください。向いていないゼミに応募してしまうと、ゼミを履修するチャンスを失ってしまう可能性があります。

4年次にもしっかり勉強し、よい卒業研究をしたい人のためのゼミです。4年次は出席しなくてもよいなどという方針はとっておりません。その他にも条件がありますので、応募前に相談してください。法律学科から応募する方は特に注意が必要です。必ず応募前に相談してください。

成績評価の方法
教科書／テキスト
その他の他

詳しい案内は、YeStudyに掲載してありますので、そちらを参照してください。また、在籍中のゼミ生やゼミ卒業生に直接話しを聞き取れば、紹介します。見学も歓迎します。

学期末に行う自己評価プレゼンにより、100満点で自己評価します。

たくさんあります。その都度、指示します。(買わなければいけないものは多くありません。)

mitake@komazawa-u.ac.jp

最新の情報は YeStudy で確認してください。

履修コード	132501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	とみさき たかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい) 全体としては、現代政治学の理論的・実証研究(特に数量的研究)を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思ひます。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていく」ものだとも思ひます。そして、共同(及び個々に)で研究活動やその他の活動に参加して行く中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思ひます。

講義の内容/
授業スケジュール

演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。

第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート(模擬討論)になると思ひます。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見をしてもらひます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらひたいと思ひます。

第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思ひます。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミなど(予定)があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

積極的・主体的参加を期待します
受講生と相談の上、総合的に評価します
特に定めません
特に定めません

履修コード	132701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	はやかわ よしき 早川 純貴

講義の到達目標(ねらい) 当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。

講義の内容/
授業スケジュール

当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらふ。平成22年度の前期・統一テーマは「事件はいかにして政治的対応がなされたか」である。ある政治的、経済的、社会的事件が生じた後、政策立案者たちがそれらの事件に注目し、どのような政治的対応を取っていったのか。そのプロセスを解明し、当事者がどのような選択肢からある政策案をなぜ選択したのか。そうして取られた政策はどのような結果と影響を残したのか。こうした点を解明することにより日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。

履修上の留意点

当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。

成績評価の方法
教科書/テキスト

個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。
教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	132801・132802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>おおやま れいこ</small> 大山 礼子

講義の到達目標(ねらい)	演習は、学生が主体的にテーマを決めて、政治学の関連分野についての研究を深めていく場です。本の読み方、資料の扱い方など、基本的な技術を身につけ、論文執筆をめざします。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～15) 全員で政治学関係の本を読み、内容について討論します。 (16～30) 各自のテーマを研究し、演習Ⅰでは3000～5000字程度のレポート、演習Ⅱでは1万～2万字程度の卒業論文を執筆します。
履修上の留意点	なお、夏休みには御岳山での合宿を予定しています。 演習は受講する学生が中心となってつくっていくものです。受動的な態度では出席する意味がありませんので、積極的な参加を求めます。
成績評価の方法	平常点によります。
教科書／テキスト	全員で読む本や論文は、参加者と話し合って決定します。
参 考 書	その都度紹介します。

履修コード	133101・133102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>しおいり みほも</small> 塩入 みほも

講義の到達目標(ねらい)	行政法上の諸問題をとり上げて、演習を行います。他から教授されるだけの受動的な学問ではなく、判例及び学説を自分なりに分析・検討する作業を通じて能動的に研究し、報告し、且つ他の者と法律学的討論を行えるための能力を鍛錬することを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	当演習は、学生の主体性を重視しているため、毎年度、ゼミの運営方針・内容はゼミ生と話し合っていて決めています。但し、取り扱うテーマは、基本的には行政法総則一般、行政訴訟法、行政手続法、情報公開法などの各分野からの選択になります。
履修上の留意点	公務員、行政書士等の国家試験受験者には特に有意義であると思われませんが、それ以外の者でも無論履修可能です。
成績評価の方法	平常点(出席・報告・発言等)により成績評価を行います。
教科書／テキスト	未定
参 考 書	初回授業の際に紹介します。

履修コード	133301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	きよたき ひとし 清滝 仁志

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、現在の社会における変化を政治学の観点を通じて考えていくことを目的にしています。皆さんの生きている現在は、かつてない規模と速さで社会が変化し、今までになく将来が見えない時代となっています。演習では、同時代の状況を理解し、将来自分がどのような知的態度をもって対応すべきか、を解明する手がかりとなるような内容をめざしていきます。

演習を通じて、自分で未来を切り開くための基礎的知識と知的習慣を身につけ、どのように自分が能力を磨き、何をしたいのかを考えることを期待しています。

さらに、文章の表現能力を身につけるための練習や報告の仕方について、演習という特性を生かしながら具体的に指導します。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 講義の内容

①テーマを設定しグループで討論

就職面接等を念頭におきながら、議事進行・意見集約・建設的討論の技術を習得。

前期は、ボードを整理しながら、皆で意見を集約する集団討論(通称・ポストイット・ツリー)をおこないます。

後期は、実践的に相互評価をしながら、皆の前で討論し、的確な意見をその場で話す訓練(通称・金魚鉢)をおこないます。

②ニュース解説

時事問題を取り上げ、その背景等が説明できるようにします。

*今年は就活対策のための実践的な訓練を強化します。

(2) 講義の目的

①政治・経済・社会の基本的問題について理解

②自分の考えを的確にまとめ、相手にわかりやすく表現する技術を習得

③さまざまな情報を自分で的確に判断できる知的能力を習得

さらに公務員試験、就職活動に対応できるように配慮します。

準備学習

いつも時事問題について関心をもつようにしてください。日経新聞の日曜日の特集「エコノ探偵団」はお勧め。

履修上の留意点

演習での課題は、次のとおりです。

①資料等を毎回熟読

②口頭発表

③レポート、ゼミ論文集の作成

④グループ討論(議論するだけでなく、司会・報告の技術を訓練)

成績評価の方法

演習での報告内容、議論の参加状況、グループでの協力の程度、出席状況
なお、欠席・遅刻・予習不足が目立つ場合、履修中止を適宜、勧告します。

教科書/テキスト
その他

資料を適宜配布します。

ゼミの行事…コンパ、合宿(夏)、都内の諸施設見学(新聞社、日本銀行、皇居、東証、国会、裁判所、警視庁など)

授業中に4年生の就職活動報告などを適宜おこないます。

質問があれば、kiyotaki@komazawa-u.ac.jp まで。

Yestudy (<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>) に演習のページを設置します。パスワードは授業で連絡します。

履修コード	133401・133402
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	三船 ^{みつね} 恵美 ^{えみ}

講義の到達目標(ねらい)

現代の国際関係について自分自身の視角を形成し、それを報告しながら討論することを学ぶのが、本ゼミの目的です。複数の学生全員が同じ考え方をすることはあり得ません。異なる考え方の学生が集まり、異なる価値観に対して排他的になることなく、しかも単なる「仲良し関係」では終わらない知的緊張関係の中で、対立するところは対立し、評価できるところは評価しあうことを学びましょう。自分の意見を単純に主張するだけではゼミに参加する意義がありません。議論は言い争うことと本質的に異質なものです。議論することで自分の意見を主張したり異なる意見を受け入れ、自分の考え方を鍛えるためにゼミは存在します。

講義の内容／
授業スケジュール
準備学習
履修上の留意点

前期の第一日目で前半のスケジュールを、前期最終ゼミで後半のスケジュールを、ゼミ生が作成します。

新聞の国際面を毎日読みましょう。

講義と異なり、ゼミは学生が主体になって運営します。緊張感を失わないで、でも、楽しい、笑顔の絶えないゼミを目指しましょう。

成績評価の方法
教科書／テキスト

報告・討論・レジュメの質、議論に対する貢献などの総合評価です。

なし

履修コード	133501・133502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	大塚 ^{おおつか} 桂 ^{かづら}

講義の到達目標(ねらい)

政治学における基礎的・原理的研究をおこないます。基礎研究にあたっては、古典的文献の取り組みが不可欠です。政治原理・哲学・国家論に関心のある学生の参加を期待します。

講義の内容／
授業スケジュール

I 政治学の基本文献を輪読する。

II 共通テーマを設定し、共同研究をおこなう（例えば、明治の政治家たち、自由主義の系譜）。

III ゼミ生各自が定めた個人研究の発表とそれに対する指導をおこなう。

履修上の留意点

一定の読書と思索をつみかさねてきた学生の参加を切望します。政治学原論か現代国家論を履修し、私の政治学に対する姿勢を理解してくれる学生さん、いらっしゃい！

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

平常点

教員が準備し提供します。

参考書として、拙著をあげておきます。図書館等で目を通しておいってください。大塚『フランスの社会連帯主義』（成文堂）、同『ラスキとホップハウス』（勁草書房）、同『多元的国家論の展開』（法律文化社）、同『多元的国家論の周辺』（信山社）、同『近代日本の政治学者群像』（勁草書房）、同『明治国家と岩倉具視』（信山社）、同『明治維新の思想』（成文堂）、同『ヨーロッパ政治理念の展開』（信山社）、『大東亜戦争期の政治学』（成文堂）。

その他の

4年次生は就職活動を最優先させます。金銭的負担（OB会・合宿等）、規則、束縛は一切ありません。年1～2回のお食事を開催しますが、教員がゼミ生をご招待いたします。

履修コード	101202
科目名	現代企業論
担当者名	江夏 <small>えなつ</small> あかね

講義の到達目標(ねらい)

本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。

講義の内容／授業スケジュール

以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 金融・経済関連情報の捉え方
- 第3回 証券投資のリスク・リターンの概念
- 第4回 証券市場の概要と市場参加者
- 第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識
- 第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎
- 第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (1)
- 第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (2)
- 第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-1)
- 第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-2)
- 第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-1)
- 第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-2)
- 第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き
- 第14回 レポートの講評
- 第15回 まとめ

成績評価の方法

定期試験とレポートで評価する。

教科書／テキスト

毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。

参 考 書

江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725、978-4785716172。

代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100、978-4419048792。

そ の 他

金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私話は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	132011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>たまる だい</small> 田丸 大

講義の到達目標(ねらい)

行政の活動や政策は、世の中の我々の生活とも密接に関わっている。そういった行政活動について、各自でテーマを設定し、発表及び短めの論文を作成してもらう。可能であれば、2年生の基礎演習、3年生の演習との交流の機会も持ちたい。なるべくグループでの作業を多くし、チームワークを重視する予定である。過去に扱ったテーマは、サマータイムの導入の是非、消費税の引き上げの是非、駅前の放置自転車対策、官僚の天下り、振り込め詐欺などバラエティに富む。

前期にテーマの選定と骨子の作成、後期に発表及び論文の作成を行えばと考えている。

講義の内容／

授業スケジュール

履修上の留意点

大学生の間に、アルバイトやサークル以外に勉強つなぐりの友人も作ってほしいというのが、担当教官の願いです。

OB会の準備、2年生や3年生の指導などをお願いする予定です。

成績評価の方法

平常点による。就職活動期間中については、考慮します。

教科書／テキスト

特に使用しない。

履修コード	132511
科目名	演習Ⅱ
担当者名	^{うらた} 浦田 ^{さなえ} 早苗

講義の到達目標(ねらい)	これまでわれわれが直面してきた、そしてこれからも直面し続ける様々な政治・社会現象について、純粹かつ鋭い視点から問題を喚起し、幅広い柔軟な発想をもって解決策を導きだせる人材を育成することに主眼をおいている。
講義の内容／ 授業スケジュール	2009年度は共通テーマとして「混乱の世界と日本」とし、内外の重要課題について個人研究及びグループ研究が行う。
履修上の留意点	オリジナリティ溢れる問題解決策・プランニングの作成にはかなりの時間を費やさなければならない。
成績評価の方法 その他	発表内容と各自の持つ勉学意欲（発表に対する質問・意見等）によって評価する。 学内のディベート戦に積極的に参加すること、及び年2回の合宿とゼミ論集の刊行を励行している。

履修コード	133001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	^{はやかわ} 早川 ^{よしき} 純貴

講義の到達目標(ねらい)	当演習の基本目的は現代日本政治の特質を理解し、その問題点を探り出すこと、あるいはそれらの問題をいかに克服できるかを考えることである。特に当演習では研究対象を政策形成・施行過程に置く。具体的には、いくつかの政策が成立する背景と過程を明らかにしつつ、それらがいかに施行されたか、その過程でどんな問題が生じたのか、あるいはそれらの政策が日本の経済や社会、国際関係にどのような意味・影響を持ったのかを考察する。
講義の内容／ 授業スケジュール	当ゼミは前期が統一テーマによるグループ研究であり、後期は学生自身が選択したテーマで個人発表を行い、あわせてゼミ論を執筆してもらう。平成22年度の前期・統一テーマは「事件はいかにして政治的対応がなされたか」である。ある政治的、経済的、社会的事件が生じた後、政策立案者たちがそれらの事件に注目し、どのような政治的対応を取っていったのか。そのプロセスを解明し、当事者がどのような選択肢からある政策案をなぜ選択したのか。そうして取られた政策はどのような結果と影響を残したのか。こうした点を解明することにより日本の政策決定の本質に迫ることができるであろう。
履修上の留意点	当演習は法律学科の学生にも開講する。政治学科の学生はもとより、政策の形成・執行に関心のある法律学科学生諸君の参加を大いに歓迎する。また当演習は春と夏に合宿を行うが、そこではディベートやパネル・ディスカッションなど、通常の演習ではあまりできないことを企画している。
成績評価の方法 教科書／テキスト	個々人の発表・報告の充実度、レポート・ゼミ論の内容などを総合的に判断して評価する。 教科書は使用しない。参考文献は演習の過程で随時紹介する。

履修コード	133051
科目名	演習Ⅱ
担当者名	とみさき なかし 富崎 隆

講義の到達目標(ねらい)	<p>全体としては、現代政治学の理論的・実証研究（特に数量的研究）を「体験すること」を演習の主たる目的としていきたいと思ひます。演習の雰囲気自体は、学生諸君と「創りあげていく」ものだと思います。そして、共同（及び個々に）で研究活動やその他の活動に参加して行く中で、「現代政治をみる視点」を養って欲しいと思ひます。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>演習の第1の活動は、3年次における共同研究、4年次における卒業論文の作成です。ここでいう「研究」とは、本を読んでまとめることとは基本的に異なります。それは単なる「お勉強」です。本研究会における研究とは、従来世界中で誰も「知らなかった」「そうであるといえなかった」政治現象を「そうである」と確認・発見する作業です。もちろん、そのためには多くの努力と創造性が必要です。</p> <p>第2に、具体的な、みなさんの毎週の研究会での中心活動は、当面ディベート（模擬討論）になると思ひます。毎週のディベートを通じて、政治学における基本問題に対する理解と問題発見をしてもらひます。研究会でのディベート実施の目的は、政治学の従来議論の意義と問題点を探ることにあります。しかし、同時にディベートを通じ諸君の論理・実証・思考・討論能力を向上させてもらひたいと思ひます。</p> <p>第3に、研究会としてインターカレッジ・セミナーに参加していきたいと思ひます。他の参加ゼミとしては、明治大学・小西ゼミ、慶応義塾大学・河野ゼミ、拓殖大学・大谷ゼミなど（予定）があります。このセミナーでは、年1回の共同合宿や講演会、大学対抗のディベート大会などを行なっていく予定です。</p>
履修上の留意点	積極的・主体的参加を期待します
成績評価の方法	受講生と相談の上、総合的に評価します
教科書／テキスト	特に定めません
参 考 書	特に定めません

履修コード	133511
科目名	演習Ⅱ
担当者名	清滝 仁志 <small>きよたき ひとし</small>

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、現在の社会における変化を政治学の観点を通じて考えていくことを目的としています。皆さんの生きている現在は、かつてない規模と速さで社会が変化し、今までになく将来が見えない時代となっています。演習では、同時代の状況を理解し、将来自分がどのような知的態度をもって対応すべきか、を解明する手がかりとなるような内容をめざしていきます。

演習を通じて、自分で未来を切り開くための基礎的知識と知的習慣を身につけ、どのように自分が能力を磨き、何をしたいのかを考えることを期待しています。

さらに、文章の表現能力を身につけるための練習や報告の仕方について、演習という特性を生かしながら具体的に指導します。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 講義の内容

① テーマを設定しグループで討論

就職面接等を念頭におきながら、議事進行・意見集約・建設的討論の技術を習得。

下級生に討論の指導をすることで、客観的な討論技術向上をめざします。

② ニュース解説

時事問題をとりあげ、背景等の説明や自分の意見を表明できるようにします。

残り1年で政治学科の学生としての知識・教養の総仕上げを行います。

(2) 講義の目的

① 政治・経済・社会の基本的問題について理解

② 自分の考えを的確にまとめ、相手にわかりやすく表現する技術を習得

③ さまざまな情報を自分で的確に判断できる知的能力を習得

就職活動と連動させることで、実践的な知的能力向上につとめます。

1年後の社会人としてふさわしいように、時事問題には関心を持ち続けてください。

演習での課題は、次のとおりです。

① 資料等を毎回熟読

② 口頭発表

③ レポート、ゼミ論文集の作成

④ グループ討論（議論するだけでなく、司会等の技術も学ぶ）

出席状況、演習での報告内容、議論の参加状況、グループでの協力の程度、ゼミ論文提出
なお、欠席・遅刻が目立つ場合、履修中止を適宜、勧告します。

資料を適宜配布します。

ゼミの行事…コンパ、合宿(夏)、都内の諸施設見学(新聞社、日本銀行、皇居、東証、国会、警視庁、裁判所)

Yestudyに演習Ⅰと共同のページを設置しています。就活等で欠席しがちな場合、Yestudyに目を通しておいください。

質問があれば、kiyotaki@komazawa-u.ac.jp まで。

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト
その他

専 門 教 育 科 目

(3) 法律学科フレックスB

履修コード	323011・323012
科目名	公法入門 法学概論B
担当者名	金子 昇平・奥村 公輔

講義の到達目標(わらい) 平成16年度から、従来の法学概論を区分けて、法学概論・公法入門・私法入門とし、それぞれ2単位ずつ、計6単位とした。今年度は、公法入門を2名で6回ずつ担当する。内容は、前半を憲法入門、後半を行政法入門とし、それぞれ最終回に試験を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

- 前半(憲法入門)
1. 憲法とは何か
 2. 人権享有主体と私人間効力
 3. 自由権①——精神的自由権——
 4. 自由権①——経済的自由権——
 5. 社会権
 6. 試験
- 後半(行政法入門)
1. 行政法とは何か
 2. 行政法の法源
 3. 行政法の領域
 4. 法治行政
 5. 行政作用と法
 6. 試験

履修上の留意点

前半と後半で担当者も講義内容も異なるため、各担当者の話は、5回しかない。したがって、欠席しないように留意してください。

成績評価の方法

成績は、憲法入門と行政法入門の各試験を総合して評価する。

教科書/テキスト

前半・後半ともに教科書は使用しない。

参考書

参考書はその都度紹介するので、積極的に読書するようにしてほしい。

法B

履修コード	323021・323022
科目名	私法入門 法学概論B
担当者名	竹中 智香

講義の到達目標(わらい) この科目は、法律学科の新入生がこれから私法分野の科目を学んでいく上で、必要な基礎的な知識を身につけていくために設けられているものです。

本来、「私法」は個人の日常生活に密接に関連した問題を扱い、身近な分野であるはずですが、「公法(憲法や刑法)」に比べると近寄りにくい。その理由は、登記簿・契約書・手形・小切手など一般の学生にとって必ずしも親しみのわかないものが次々に出てくるし、少なくとも、学生の日常生活からかけ離れ、具体的問題としてイメージすることができないことにあります。そこで、現実の社会生活における身近な問題や具体的事案を多く取り上げ、興味を持てるように講義を進めます。

学習の順番や方法は、それぞれの先生が工夫して、講義を進めていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 法の分類と私法の意義
 - (1) 公法と私法
 - (2) 私法
 - (3) 公私混合法
 - (4) 新たな法領域
2. 私法の基本原理
 - (1) 序説
 - (2) 近代私法の基本原理
 - (3) 現代における近代私法原理の修正
3. 私法の法源
 - (1) 序説
 - (2) 制定法
 - (3) 慣習法
 - (4) 判例
 - (5) 条理
4. 私法の効力
 - (1) 序説
 - (2) 時に関する効力
 - (3) 人に関する効力
 - (4) 場所に関する効力
5. 私法の適用と解釈
 - (1) 序説
 - (2) 裁判外の紛争解決
 - (3) 裁判による紛争解決
 - (4) 私法の適用と解釈
6. 私法上の権利
 - (1) 権利とは何か
 - (2) 私権の種類
 - (3) 私権の社会性
7. 財産法と家族法

成績評価の方法

期末試験・授業時間内に行う試験の他、出席点も評価の対象とします。

教科書/テキスト

五十嵐清「私法入門(改訂2版)」有斐閣

参考書

講義の際に紹介するので、積極的に読書するようにしてください。

履修コード	323031・323032
科目名	法学概論 法学概論A
担当者名	<small>たかはし ひろき</small> 高橋 洋城

法B

講義の到達目標(ねらい)

法学部に入っはじめて法学を学ぶひとに、法学科履修の前提となるような知識を身につけてもらうことが、第1のねらいです。法学学習の上で必要になる、現実をイメージしながらその法的構造を読みとる力の基礎的感覚を開発することが、第2のねらいです。はじめてのことばかりで、最初はとまどうかもしれませんが、休まずに学習するよう心がけてください。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 法のイメージと法学部の講義科目
 - (1) 法とは何か
 - (2) 法学部ではどう学ぶか
2. 法の一般的分類
 - (1) 法の分類
 - (2) 法令の種類
3. 近代日本法とその社会
 - (1) 国家と社会
 - (2) 近代日本が受け継いだ法
 - (3) 近代法の変容
4. 立法の角度からの法
 - (1) 制定法主義とその法源
 - (2) 法の体系性
5. 司法の角度からの法
 - (1) 紛争解決の仕組みと機構
 - (2) 紛争の種類と解決の種類
6. 法令の解釈
 - (1) 事実の法的再構成
 - (2) 事実への法令のあてはめ

履修上の留意点

半期科目で集中的に多くのことを学びます。継続的に出席することが必要です。授業中に小テストを実施することもありますので、休まないようにしてください。

成績評価の方法

主に前期授業最終時間の試験（進度によっては定期試験）によって評価します。出席、小テスト、レポートなどが課される場合は、その評価も加味します。

教科書/テキスト
参 考 書

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書52）有斐閣
竹下・福井編『はじめての法学』成文堂

その他の参考書は随時紹介します。授業中に参考資料を配ることもあります。配付資料は原則として研究室などでの追加請求には応じませんので、必ず出席して受け取るようにしてください。

履修コード	323101
科目名	憲法
担当者名	奥村 公輔 <small>おくむら こうすけ</small>

講義の到達目標(ねらい) 憲法は、個人の人権を保障し、国の統治機構のあり方を定めている。その憲法の内容を学習しながら、具体的事例の検討を通じて、憲法が我々の生活に密接不可分なものであることを理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 憲法とは何か
2. 日本国憲法の制定
3. 国民主権
4. 平和主義
5. 人権享有主体
6. 人権保障の限界
7. 私人間効力
8. 幸福追求権
9. 平等権
10. 精神的自由 (1) —思想・良心の自由—
11. 精神的自由 (2) —信教の自由—
12. 精神的自由 (3) —学問の自由—
13. 精神的自由 (4) —表現の自由①—
14. 精神的自由 (5) —表現の自由②—
15. 精神的自由 (6) —集会・結社の自由—
16. 経済的自由 (1) —職業選択の自由—
17. 経済的自由 (2) —財産権—
18. 人身の自由
19. 社会権
20. 参政権
21. 権力分立
22. 議院内閣制
23. 選挙制度
24. 国会と立法
25. 内閣と行政
26. 裁判所と司法
27. 司法権の限界
28. 違憲審査制
29. 財政民主主義
30. 地方自治

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

次週の講義内容を告知するので、教科書の該当部分を読んで予習してくることが望ましい。
毎回レジュメを配布しそれに沿って授業を行うが、教科書も適宜参照するので必ず購入すること。
学年末試験による。
大石眞・大沢秀介編『判例憲法』有斐閣、2,700円＋税、ISBN:978-4-641-13049-4

法B

履修コード	323201
科目名	民法総則
担当者名	おおみや たかし 大宮 隆

法B

講義の到達目標(わらい)

民法は、個人相互間の私的生活関係の基本法として、財産(物の所有や契約など)と家族(夫婦・親子や相続など)に関する事項を規律する法律である。日本の民法典は、総則・物権・債権・親族・相続の配列で、五編より構成されているが、本講義の対象は、総則編である。総則には、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定が集められている。民法の学習にあたっては、条文数が多いことや、内容が複雑で技術的な構成をとっているため、親しみ難い面があるので、実際の社会生活から遊離することのないように、例示をできるだけ多くして説明することを心がけている。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 民法典の沿革・構成 (1回)
- (2) 権利の主体 (2回—10回)
自然人・法人
- (3) 権利の客体 (11—12回)
物
- (4) 権利の変動原因 (13回—)
法律行為・意思表示・代理・無効及び取消・条件及び期限・時効

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

予習が必要である。
教科書と条文を熟読すること。
数回の小テストを予定している。
その結果と、学期末試験の成績を総合して、評価を行う。

教科書／テキスト

田山輝明著「民法総則 第3版」成文堂 3000円
ISBN978-4-7923-2566-4

履修コード	323301
科目名	刑法総論
担当者名	まつむら いたる 松村 格

講義の到達目標(わらい)

基本的には、刑法の意義と使命および目的を理解することにある。刑法総論は、犯罪論・刑罰論・罪数論から成るが、講義では犯罪論を中心に勉強する。犯罪論では、犯罪の成立要件を学習するが、常に刑法の使命と目的を念頭に置いて考えていく。犯罪論は抽象的概念を多用するので、刑法各論の具体的な犯罪類型を事例に活用しながら講義を進める。犯罪論を通じて、最終的には、刑法の厳しさと優しさを知ってほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 前期の前半で、刑法総論と刑法各論を含む刑法学全般を概観し、その全体像を理解する。したがって、①刑法の使命・目的・意義、②刑法を支える原理・原則、③犯罪論・刑罰論・罪数論、④刑法各論の意義、⑤犯罪学の意義を理解する。
- (2) 前期の後半から、犯罪論を詳細に検討する。犯罪論というシステムは、①構成要件論、②違法性論、③有責性(責任)論、④未遂犯論、⑤共犯論という部分システムから成るので、これらを順次学習する。そして、各部分システムは、更にそれを構成する細かい論点に分化するので、それらを厳密に学習する。

準備学習

教科書の講義予定に該当する箇所を毎週必ず読んで予習しておくこと。参考書は未だ必要ではない。教科書を自分の基本書として、徹底的に読みこなす努力が必要である。

履修上の留意点

- (1) ①教科書、②六法全書、③ノート、④判例解説書を必ず持参すること。
- (2) 刑法は、人の生命・自由などを剥奪する厳しい制裁を伴っているため、その点で、刑法学は、人間学・哲学でもあるし、納得できる筋道の論証を必要とする論理学でもある。したがって、自分なりの人間観・生命観・倫理観の確立を目指しながら学習を進めてほしい。
- (3) 各種の問題点ごとに、刑法の使命・原理・原則を念頭に置きながら学習してほしい。

成績評価の方法

- ①授業中に実施する小テスト、②定期試験の両方の平均点で評価する。
出席はとらない。

教科書／テキスト

- ①松村格著『刑法学への誘い』(八千代出版)(前期前半用教科書)
- ②松村格著『日本刑法総論教科書』(八千代出版)(前期後半以降用教科書)

参考書

- (1) 1年生の間は必要ない。2年生以降、司法試験を目指す学生には、松村・都築・神田・野崎共著『刑法総論』(ミネルヴァ書房)を推薦する。
- (2) 判例解説書として、①曾根/日高編『基本判例5・刑法総論』第二版(法学書院)を授業で使用するので購入してほしい。なお、司法試験志望者には、②別冊ジュリスト『刑法判例百選I』総論[第6版]を推薦する。

履修コード	323501
科目名	会社法
担当者名	<small>あらかき まさたか</small> 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、会社法（株式会社、持分会社（合名会社、合資会社、合同会社））の重要かつ基本的な事項について解説するが、とくに現代の経済活動において最も大きな役割を果たしている株式会社の法規制について一年の大半の時間を割くつもりである。

講義の内容／
授業スケジュール

大企業から零細企業まで多くの企業が株式会社の形態をとり、株式会社が現代の経済活動を担い、多数の人々に商品やサービスを提供し、労働の場を提供するという社会的な機能を通して国民の生活に計り知れない影響を与えている。この講義では、株式会社の生成、機能、構造、消滅などに関する私法的側面を中心に規制する株式会社法に重点を置き、そこにおける基本的かつ重要な問題を取り上げて解説し、また実務の対応なども検討して、会社法の基本的な考え方を理解してもらうことを目的とする。

平成18年5月1日に「会社法」が施行された。この会社法は、従来片仮名文語体で表記されていた商法第二編、有限会社法、株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律について平仮名口語体化してひとつの法典にまとめたものであり、かつ近年、毎年のように行われて来た法改正を全体的に調整し、社会情勢の変化に対応するために各種制度の見直しを行うものである。今年、新会社法について、株式会社の設立の概要、設立の手続き、発起人の意義、設立中の法律関係、設立の無効、設立の登記、設立関係者の責任などについて説明し、株式制度においては、株式の意義、株式の内容・種類、株式の流通、株主の権利、自己株式、株式の併合・分割・無償割当、単元株制度などに触れ、会社の管理・運営については、機関の意義、株主総会、会社役員を選任・解任、取締役、取締役会、代表取締役、監査役・監査役会、委員会設置会社、役員損害賠償責任などについて解説する。

履修上の留意点

会社法は、民法を前提としているから、民法総則、物権法、債権法などの知識があると理解が容易である。ただ、これらの知識がなくても、講義の内容を理解するために必要な民法の規定や基本概念については、その都度必要な説明をするつもりであるから、民法＝財産法について十分な知識がなくても受講には差し支えない。ただし、教場には、必ず最新の六法を持参する必要がある。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

成績は、年度末に行なわれるペーパーテストの点数で評価します。
教科書は、授業の初めに指示します。

江頭・岩原・神作・藤田編 会社法判例百選（別冊ジュリスト No.180）（有斐閣）

法B

法B

履修コード	323601・323602
科目名	行政法 行政法総論
担当者名	塩入 <small>しおいり みほ</small>

講義の到達目標(ねらい) 存在する法の約8～9割は行政法です。この講義では、その行政法の基本的な仕組みと理論一般について学びます。行政法は、民法や刑法、憲法等の他の法分野とは異なって、学生レベルではあまり日常生活に直接関連がないと感じられがちですが、例えば交通取締・治安等に関わる警察権行使の適法/違法や国家賠償請求の可否など、実は知っておくと便利なきことがたくさんあります。そして何より、行政法は、権力分立構造の要であり、「憲法の具体化法」として、法治国家を支えている基盤なのです。言い換えれば、国家と国民の法律関係を規律しているのが行政法です。法治国における国家統治権行使のあり方や国民の権利について学ぶのが、当講義の狙いです。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1)～(2) 行政法とは何か：行政法の成立、行政の定義、行政の定義の領域
- (3)～(5) 行政法の基本構造：現代日本行政法の特徴、法治行政の原理
- (6)～(8) 行政法の法源：成文法源、不文法源
- (9)～(11) 行政作用の様々な分類論
- (12) 行政立法
- (13) 行政計画
- (14) 行政指導
- (15) 行政契約
- (16)～(20) 行政行為論：特徴、成立と消滅、効力、行為類型論
- (21)～(22) 行政裁量論
- (23)～(24) 行政行為の瑕疵
- (25)～(26) 職権取消しと撤回
- (27)～(29) 行政上の強制制度
- (30) まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

授業には六法持参のこと
定期試験は学年末試験のみだが、場合によっては前期に授業内小テストを実施する。また、授業の進行状況や履修態度の如何によっては、レポートの課題を出す。
成績評価は、定期試験、小テスト、(レポート)、平常点(不定期に確認する出欠)の総合判断により行う。

教科書/テキスト
参 考 書

特定の教科書は使用しない
初回講義時に紹介する。

履修コード	324601
科目名	物権法
担当者名	今尾 <small>いまわ まこと</small> 真

講義の到達目標(ねらい) 民法総則講義において、民法全般の仕組みと基本的概念や制度を一通り学習した学生を対象に、債権とともに二大財産権の一つである物権(担保物権を除く)について、人と物の関わり・各物権の特質・各制度の特徴・隣接諸制度等を、より深く、より詳細に理解することを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

物権の意義・性質・効力・物権変動のメカニズムといった物権法総論部分の学習をした上で、各種物権(占有権から用益物権まで)を個別的に細かく学習する。前期は、(1回)イントロダクション・物権法序論、(2～3回)物権の意義・客体・種類、(4～5回)物権の効力、(6～11回)物権変動、(12～14回)即時取得・物権の消滅。後期は、(1～5回)占有権、(6～10回)所有権、(10～14回)用益物権。上記のスケジュールのもと、特に物権取引の安全と公示・公信の要請という理念を反映する物権変動論につき、これらの理念をどこまで貫徹できるかの観点から各種物権および他の諸制度との関連で検討する。

履修上の留意点
成績評価の方法

民法総則は、履修済みまたは最低限同時履修の上、本講義に出席することが望ましい。
講義の出席回数と前・後期各一回の定期試験の結果を総合判断して評価する。ちなみに、テスト形式は、択一式の問題(5択)を3問、論述式の問題を1問という出題形式で行う。

教科書/テキスト
参 考 書

- 宮本健蔵編『マルシェ物権法・担保物権法〔改訂第2版〕』(嵯峨野書院)2005年
(1) 中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選1〔第6版〕』有斐閣(2009年)。
(2) 星野英一・平井宜雄・能見善久編『民法判例百選1総則・物権〔第五版新法対応補正版〕』(有斐閣)別冊ジュリスト159号、2005年

そ の 他

多人数を想定した講義科目であるが、授業中、随時受講生に質問しながら、大規模なゼミ形式を念頭において講義を行う予定である。積極的に発言することを希望する。

履修コード	325001
科目名	債権総論
担当者名	中田 英幸

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、債権法の共通規則である債権総論を学習することを目的とする。債権総論とは、具体的には民法第3編債権第1章総則（およびその特別法）を指し、債権に関して共通して妥当する規則をまとめたものである。それゆえ、債権総論は債権法の根幹を成すが、難解な領域でもある。講義は、抽象的な規定の有する実際的な意味を明らかにして、わかり易くする。

法B

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 序論 (1)
 - (①債権総論とは何か②債権とは何か)
- (2) 債権の「目的」(2-3)
 - (①債権の「目的」の意味②債権の種類)
- (3) 債権の効力(4-13)
 - (①履行の強制②債務不履行③責任財産の保全④第三者による債権侵害⑤債権者遅滞)
- (4) 債権債務の移転(14-18)
 - (①債権譲渡②債務引受)
- (5) 債権の消滅(19-24)
 - (①弁済②供託③代物弁済④相殺⑤更改・免除・混同)
- (6) 多数当事者の債権関係(25-30)
 - (①債権者が多数である関係②分割債務③不可分債務④連帯債務⑤保証債務)

準備学習
履修上の留意点

指定教科書を事前に読んでおくこと。
債権総論と債権各論が合わさって債権法を構成するので、債権各論も同時に履修することが望ましい。
最新の六法は必ず持参すること。講義の内容などについて良く分からない点や疑問に思うことがあれば、いつでも質問してほしい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

期末試験により評価する。
野村豊弘ほか著『民法 III - 債権総論 (第3版)』(有斐閣、2005年)
中田裕康・潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選 II 債権 (第6版)』(有斐閣、2009年)
他の文献は講義中に指示する。

履修コード	327011・327021
科目名	新入生演習
担当者名	向田 正巳・西 修・佐藤 多美夫・赤松 晃

法B

講義の到達目標(わらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけていくために設けるものです。選択科目ですが、できる限り多くの学生が積極的に履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待します。

講義の内容／
授業スケジュール

授業は、原則として一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も適切な勉学方法を探し当て、開発していったって欲しいと願っています。

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。数字の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせて、全体としてこれらの基本的なスキルが身につについていくものとして、考えられています。

1. 基本的な学習施設
 - ・図書館や情報センターの利用方法と文献の探し方・調べ方
 - ・教室での講義の受け方とノートのとり方
2. 基本的な書籍の利用方法
 - ・六法全書の読み方と使い方
 - ・法学用語集や辞書の活用方法
 - ・法律学的な文章の読み方とまとめ方
3. 発展的な書籍の活用
 - ・法学文献以外の書籍から法についての感覚を学ぶ
 - ・注のある文献の読み方と注の使い方
4. 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
 - ・レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
 - ・ゼミなどでの発表のし方
5. 将来設計と学修
 - ・卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか

履修上の留意点

一週おきの教室での一斉授業への出席は当然ですが、研究室での指導に課題を課されたり面接があったりする場合には、担当の先生の指示に従って学習してください。国民の休日などの関係で、次回授業日がずれることがあります。毎回出席して、次回授業日を確認してください。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席点および課題提出評価点を総合して成績評価します。
指定教科書はありません。
参考書、課題図書は、各クラス担当の先生がその都度指示します。

履修コード	327031
科目名	新入生演習
担当者名	間瀬 清史・中田 英幸

講義の到達目標(わらい)

この科目は、法学部に入学してはじめて法律学を学ぶ法律学科の新入生が、これから法律学を学んでいく上で必要な基礎的な勉学の方法を身につけていくために設けるものです。選択科目ですが、できる限り多くの学生が積極的に履修し、4年間の法律学の学修を効果的に行うための基本を修得することを期待します。

授業は、原則として一週おきに、教室と研究室での指導による学習を組み合わせた形態で行います。教室で教わったり体験したりしたさまざまな知識や学習方法を、次の週に研究室で先生と相談したり、指導に従って自習したりしながら、発展させて、自分なりに最も適切な勉学方法を探し当て、開発して行って欲しいと願っています。

講義の内容/
授業スケジュール

学習の順番や指導の方法はそれぞれの先生が工夫して、学生のみなさんの習熟度を見ながら組み立てていきますが、共通して学ぶ項目は以下の通りです。数字の順番の通りにすべて学習していくというよりも、いろいろな項目を組み合わせ、全体としてこれらの基本的なスキルが身につくものとして、考えられています。

1. 基本的な学習施設
 - ・図書館や情報センターの利用方法と文献の探し方・調べ方
 - ・教室での講義の受け方とノートのとり方
2. 基本的な書籍の利用方法
 - ・六法全書の読み方と使い方
 - ・法学用語集や辞書の活用方法
 - ・法律学的な文章の読み方とまとめ方
3. 発展的な書籍の活用
 - ・法学文献以外の書籍から法についての感覚を学ぶ
 - ・注のある文献の読み方と注の使い方
4. 法学学習に必要な文の書き方と書くための作業
 - ・レジュメ・レポート・答案のまとめ方と書き方
 - ・ゼミなどでの発表のし方
5. 将来設計と学修
 - ・卒業後の進路をどう考え、法律学科での学修をどう生かすか

履修上の留意点

授業への毎回出席は当然ですが、担当教員による指導に従いつつも、積極的かつ主体的に学習してください。国民の休日などの関係で、次回授業日がずれることがあります。毎回出席して、次回授業日を確認してください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

出席点および課題提出評価点を総合して成績評価します。

指定教科書はありません。

参考書、課題図書は、各クラス担当の先生がその都度指示します。

法B

履修コード	117801・324001
科目名	日本法制史
担当者名	茂野 ^{しげの} 隆晴 ^{たかはる}

法 B

講義の到達目標(ねらい)

全ての学問には史学がある。法を学ぶものにとって、もっとも身近にある史学が法制史である。われわれは来し方を回想するときのみならず、未来に進もうとするとき、何らかの形で過去の知識(歴史)を知ろうとしよう。

現代の社会知識を知ろうとするとき、その手がかりを過去の社会生活に求めるのは自然であるといつてよい。そうした意味からも、日本法の歴史の本質的なものを身につけてほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 日本法制史とその時代区分
2. 上古(氏族法時代) I
3. 上古(氏族法時代) II
4. 中古(律令法時代) I
5. 中古(律令法時代) II
6. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) I
7. 中世(武家法時代前期、鎌倉・室町時代) II
8. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 I
9. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 II
10. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 公法・刑事編 III
11. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 I
12. 近世(武家法時代後期、戦国・江戸時代) 私法・民事編 II
13. 近代(含む幕末) I
14. 近代(含む幕末) II
15. 婚姻関係(ことわざと川柳等による)

履修上の留意点

上記は1. と15. を除き、それぞれの項目ごとに2週を割当てることを目安としています。

成績評価の方法

学期末試験と平常点としての出席状況を総合して評価す。

教科書/テキスト

大久保治男・茂野隆晴『日本法制史史料60選 - 史資料へのいざない -』1998年刊(芦書房)
2,300円

履修コード	324301
科目名	政治学原論
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(ねらい)

I 自己紹介

私は、いままですイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならず隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、および方法(1)

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2~15)

C 政治の思想(史)的究明(15~18)

D 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体(19~30)

講義の内容/
授業スケジュール

成績評価の方法

試験による単位認定

中間・学年末試験により、成績を評価します。評価基準は、中間試験50%、学年末試験50%です。

なお試験は通常の授業時間を利用して実施します。欠試者に対しては、レポートを課します。

※追試験は実施しません。

教科書/テキスト

大塚桂『現代国家へのアプローチ』(成文堂) 3,000円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社) 2,900円

参 考 書

上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

法B

履修コード	324401
科目名	経済原論
担当者名	<small>ふじわら ひろのり</small> 藤原 碩宣

法 B

講義の到達目標(ねらい) 経済学の基礎理論および概念の理解
現代日本経済の実状とその背景、および展望の理解

講義の内容／
授業スケジュール 前期：主としてマクロ経済学を中心として行います。
経済学の規範、経済学の流れ－A. スミスと J. M. ケインズー、国民経済の循環過程、国民所得決定理論－消費と投資はどのように決まるのか、
後半では、経済政策の体系、目的、手段、主体の話を通じて、わが国の実状の理解を深めます。
後期：主としてミクロ経済学を中心として行います。
個別経済主体の行動理論－消費者選択、生産者行動、寡占経済理論－屈折需要曲線の理論、フルコスト原則、参入阻止価格論によって現代社会の実態を理解します。
後半では、財政・金融、社会保障といった日本の実状を理解する事を中心に応用経済学のお話をします。

履修上の留意点
成績評価の方法 授業に出席しノートをよくとって下さい。
定期試験による。前期、後期の範囲から各1問づつ出題、論述式。
レポート等の自助努力の成果物を提出した場合は、それも加点する。

教科書／テキスト 藤原碩宣他著『経済と経済学』実教出版（授業では、テキストに従って説明するのではなく、より詳しく理解してもらうために使用する）

そ の 他 参考資料等は適宜指示する。数回毎に質疑応答の時間を設ける。

履修コード	324501
科目名	行政学
担当者名	<small>たまる だい</small> 田丸 大

講義の到達目標(ねらい) 例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論（考え方・法則）と実際の事例（ニュースなど）との関連に特に注意を払う予定である。

講義の内容／
授業スケジュール 行政学とは（1～4）行政・政策を見る視点（5～10）国家観の変遷（11～14）行政国家、福祉国家（15～18）行政改革（19～24）民営化と規制緩和（25～28）地方自治と地方分権改革（29～30）。（）内の数字は、講義の大まかな回数です。

準備学習 新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。

履修上の留意点 現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、各自でも新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。

成績評価の方法 年1回の学年末試験と、授業内の複数回の小テストによる（小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時に具体的に示します）。もし履修者が50人を切る場合には、学年末テストを行わず、授業内の複数回の小テストによることを考えています。初回の講義に決定して、お知らせします。

教科書／テキスト 森田朗『現代の行政（改訂版）』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846
半分程度しか使用しない予定である。適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。

参 考 書 早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論－「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352

履修コード	323401
科目名	国際法
担当者名	王志安 <small>おうしあん</small>

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

国際法学の基礎知識を修得し、国際関係の現状を法的側面から理解する能力を養う。
国際法学の全体を様々な基礎的課題に細分し、毎回の講義においてできるだけ一つの課題を絞り、それぞれ基礎概念、理論体系、そして事例分析の形で解明する。

前期においては、国際法の史的展開、国際法と国内法との関係、国際法の法的性質といった基礎知識から着手し、国家および国際機構にかかわる様々な法的問題を取り上げていきたい。たとえば、国家の分裂や統合に生じた国家の承認や承継の問題、違憲的な政府変更やクーデターに関する国際的対応の法的性格、国内裁判における未承認政府や国家の地位、そして国連を中心とした国際機構の法的地位や機能の形態などを分析する。

後期では、前期の基礎知識の修得を踏まえて、領域に関する管轄権、国際的人権保障、条約関係の理論および外交関係の法的仕組みを検証する。具体的には、国家領域の法的地位や取得に関する理論および実行、国際地域、国際海域および宇宙空間といった国際区域の法的地位、外国人の法的地位、人権保障に関する国際制度の展開、条約の締結、形式および効力に関する法規制、外交関係および領事関係における特権および免除などを取り上げる。

準備学習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

国際関係を法的側面からとらえる視点の養成を常に心構えとする。個々の概念、理論、事例を解明する戦術的な能力がまず重要視されるべきであるが、政治、外交、経済、文化といった様々な形態で展開される国際関係を法という枠内でとらえる戦略的な資質をのぼすことも見失われてはならない。そのためには、教科書に取り上げられた学説を理解するだけでなく、講義に取り上げられた課題の視点、問題意識をしっかりと修得する必要もある。配布される参考資料や聴講ノートを参照しながら、教科書の理解を深めてもらいたい。

成績評価の方法

成績は年末の定期試験で決定する。ただし、前期小テストや講義出席の状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書/テキスト
参考書

王志安・飯田順三『国際法への誘い』(八千代出版 2006年)
大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(上)(東信堂)2002年 2,800円
市販されている国際条約集

その他

授業はすべて power point を使って講義方式で行い、適宜に参考資料を配付する。power point で使われる簡潔な聴講ノートは、Yestudy から入手できる。

履修コード	323701
科目名	裁判法
担当者名	吉田純平 <small>よしだ じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい)

裁判に関する基礎的知識を取得するとともに、裁判をめぐる現代的な諸問題について考察し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のテーマに沿って、それぞれ6回ずつ講義する。
①裁判の意義、②裁判所制度、③法律家、④いろいろな裁判制度の概要(民事裁判、刑事裁判、行政裁判など)、⑤裁判をめぐる現代的諸問題

成績評価の方法

定期試験(5割)とレポート(5割)による。

教科書/テキスト

市川正人ほか『現代の裁判(第5版)』(有斐閣)1700円+税 ISBN978-4-641-12363-2

法B

履修コード	118001・323901
科目名	刑事政策
担当者名	覚正 豊和

法 B

講義の内容／
授業スケジュール

講義の到達目標(ねらい)

犯罪とは何か、刑罰とは何か、非収容者の処遇の実態、犯罪者をどのように再社会化させるかなどについて単なる犯罪対策にとどまるのではなく、その社会的・文化的要因や身体的要因、犯罪学仮説、警察機構、刑事司法対策等の諸問題にわたり比較犯罪学的展開を踏まえた上で理解させていきたい。そして、犯罪学における基本理念をわが国の理論的現状をも対比しつつ、国際的動向との関係から正しく捉え犯罪を防衛するための合理的、合目的な手段・方法を探求していくことを目的とする。今日、とうとうと流れる国際社会において、犯罪者という社会のもっとも片隅においやられた人権の在り方を考えるということは、ますます重要な問題になってくるはずである。講義を通じてそれを概観していきたい。

- 第1回 受講のガイダンス
刑事政策の意義と課題 刑事政策、犯罪学と規範学の相違について学ぶ。
- 第2回 犯罪学の歴史と展開 その起源から近代学説までを学ぶ。
- 第3回 現代犯罪学の課題
ラベリング理論、非犯罪化、非刑罰化、社会的統制理論などについて学ぶ。
- 第4回 犯罪の理念
犯罪とはなにか。日常わたしたちが用いるよりも広義なものであることを学ぶ。
- 第5回 刑事政策と暗数
犯罪統計と暗数の意味、被害調査、事故報告調査などについて学ぶ。
- 第6回 犯罪の原因(1) 身体的・生理的要因について学ぶ。
- 第7回 犯罪の原因(2) 個人環境的要因について学ぶ。
- 第8回 犯罪の原因(3) 社会環境的要因について学ぶ。
- 第9回 刑罰の意義・機能・沿革
意義機能はもちろん一般予防、特別予防、抑制主義、処罰の種類などについて学ぶ。
- 第10回 死刑 憲法と死刑、存廃論、代替刑について学ぶ。
- 第11回 自由刑
意義、歴史的考察、短期自由刑、不定期刑などについて学ぶ。
- 第12回 財産刑 罰金の意義、特質、罰金と科料などについて学ぶ。
- 第13回 保安処分 意義、種類、要件などについて学ぶ。
- 第14回 少年保護手続
家庭裁判所と少年審判、少年法改正問題について学ぶ。
- 第15回 定期試験(予定)
- 第16回 犯罪者の処遇 意義、原則、動向について学ぶ。
- 第17回 犯罪者の刑事司法政策(1) 警察
微罰処分、ダイヴァージョンなどについて学ぶ。
- 第18回 犯罪者の刑事司法政策(2) 検察 起訴猶予などについて学ぶ。
- 第19回 犯罪者の刑事司法政策(3) 裁判
量刑基準、宣告猶予、執行猶予、判決前調査などについて学ぶ。
- 第20回 矯正の意義・目的
矯正処遇の意義、目的、観念、矯正処遇の原則などについて学ぶ。
- 第21回 受刑者の処遇
法的地位、処遇原則、分類処遇、死刑確定者の処遇などについて学ぶ。
- 第22回 犯罪の予防
意義、予防、予防活動、予測、問題点などについて学ぶ。
- 第23回 更生保護 意義、措置、概況などについて学ぶ。
- 第24回 恩赦・資格制度
恩赦の種類、効力、存在理由などについて学ぶ。
- 第25回 被害者補償
意義、歴史、必要性、法的性質などについて学ぶ。
- 第26回 各犯罪と対策 少年非行、女性犯罪などについて学ぶ。
- 第27回 各種犯罪と対策
組織犯罪、ホワイトカラー犯罪などについて学ぶ。
- 第28回 各種犯罪と対策 薬物、アルコール犯罪などについて学ぶ。
- 第29回 まとめ 討論及び質疑
- 第30回 定期試験
初回の授業において指示する。
定期試験および平常点
斉藤・覚正「刑事政策論(2007年)」(八千代出版)3,500円 ISBN978-4-8429-1421-3
授業において指示する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

履修コード	117601・324201
科目名	法思想史
担当者名	<small>たかはし ひろあき</small> 高橋 洋城

講義の到達目標(ねらい)

法に関する概念や用語が生まれてきた歴史的、哲学的背景や世界観に遡って検討するのが法思想史の役割である。これには二つの側面がある。一つは、中核的な概念の由来や変遷を知ることにより現代法を形成する要素の理解を深めることである。しかし同時に、様々な思考様式に触れることによって近代的思考を相対化し、実はそれが或る特殊な一様式なのだということを自覚する、ということも重要である。

法B

講義の内容／
授業スケジュール

なお題材はヨーロッパの法思想史にほぼ限定される（東洋および日本固有の法思想を扱うことはできない）。講義の理解のためには、最低限の世界史的知識が必要だが、講義時間内においてはそこに時間をさくことはではないので、そうした点について不安のある受講者は自学自習して講義に臨んでもらわねばならない。また20世紀以降の法理論史については本講義ではとりあげず、むしろ法哲学講義の方で扱うことになるのでそちらを参照されたい。

以下に掲げる時系列に沿った講義を柱とし、その過程でいくつかの重要な法概念については、時代横断的な考察をも交えていく。

第I部 古典的自然法論とその背景の世界像

[1] 講義のねらい、対象、重点、注意事項などについて / プラトンの法思想：『国家』を中心に考察する

[2] アリストテレスの法思想：アリストテレス哲学の基礎理論を考察する

[3] アリストテレスの法思想（続）：正義論、政治体制論を中心に考察する

[4] キリスト教とローマ法：ヨーロッパの法律学・法思想を規定してきたキリスト教およびローマ法に由来する諸概念・思想について概説的な紹介を行なう。

[5] 中世自然法論：トマス・アクィナスの自然法論を中心に論ずる。題材は主として『神学大全』に拠る。

第II部 近代自然法論の思想

[6] 近代的世界像と社会契約説総説

[7] ホブズの法思想：『リヴァイアサン』を中心に考察する

[8] ロックの法思想：『統治論』を中心に考察する。また特に、所有権論史におけるロック所有権論の意義に着目する

[9] ルソーの法思想：『社会契約論』『不平等起源論』を題材に考察する / 近代自然法論まとめ

[10] カントの哲学と法思想 批判哲学の意義とその法理論への展開を考察する。特にカントに於ける「公論」の意義を検討する

第III部 19世紀以降の法思想・法律学の潮流

[11] 近代市民社会の思想：18世紀～19世紀の自然法論の果たした役割、およびヘーゲル法哲学について論ずる

[12] 19世紀の法律学の動向：歴史法学・概念法学についてとりあげる。

[13] 概念法学批判

[14] 法実証主義の諸形態

[15] 現代法理論の動向

履修上の留意点

とりあげる著作の原文抜粋を中心としたプリントに説明を加える形式で講義を進める。受講者はプリントを駒澤大学 e-ラーニングページ YeStudy からダウンロードして持参すること、さらに毎回の該当箇所を事前に読んで上で講義に臨むことが要求される。YeStudy については、下記「関連リンク」を参照のこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験と平常点によって評価する。平常点には小テスト、課題レポート等が含まれるが、これらは加算点にのみ用いる（定期試験のみを受験するのでもかまわないということ）。

教科書／テキスト

教科書としては特定の書籍を指定しないが、講義の理解を深めるため、法思想史全般の概観ができる図書を手に置き、予・復習に役立てることを推奨する。次項の参考図書参照。

参考書

法思想史に関する概説書の例として

・三島淑臣『新版・法思想史』（青林書院）4,854円：講義内容をさらに深く掘り下げて勉強したい場合に有益であろう。

・深田三徳、濱真一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房 2,730円）；田中成明他編『法思想史』（有斐閣 S シリーズ 1,800円）：法思想史の流れを大まかにつかみ整理するのに役立つだろう。

関連リンク

上記の他、講義でとり上げる思想家の著作原著については、そのつど指示する。

<https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/>

履修コード	324701
科目名	刑法各論
担当者名	<small>はらぐち のぶお</small> 原口 伸夫

法B

講義の到達目標(ねらい) 問題となる犯罪類型がどのような利益を保護しているのか、罪刑法定主義という刑法の基本的な考え方から(とくに法文の文理解釈の点から)無理のない解釈なのか、現在の社会の中で問題を解決するためにその犯罪類型は十分に機能しているのか等々の観点を十分に考慮に入れた上で、各犯罪類型・成立要件について理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール 第1回：刑法典各側の全体像、第2～4回：生命・身体に対する罪、第5～7回：自由・名誉に対する罪、第8～16回：財産に対する罪(窃盗罪・強盗罪〔8～11回〕、詐欺罪・恐喝罪〔12～13回〕、横領罪・背任罪〔14～15回〕、盗品関与罪・毀棄隠匿罪〔16回〕)、第17～19回：放火罪、第20～23回：偽造罪、第24回：その他の社会的法的に対する罪、第25～26回：公務執行妨害罪、第27～28回：贈収賄罪、第29～30回：その他の国家的法益に対する罪。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法 扱うテーマについてあらかじめ教科書の関連部分を読んでおくこと。
この科目で扱う問題に興味をもって、意欲的に学習することを望む。授業に出席すること。
定期試験の成績、および、出席状況を含む平常点(レポートなど、平常点の評価の仕方は履修者の人数による)を総合して評価する(定期試験の成績が約60%、平常点が約40%と考えている)。

教科書／テキスト
参考書
その他 西田典之、『刑法各論(第4版補正版)』、弘文堂、3,850円+税、ISBN 978-4-335-30249-7
西田・山口・佐伯編『刑法判例百選Ⅱ各論(第6版)』、有斐閣
特になし。

履修コード	324801
科目名	債権各論
担当者名	<small>すが あさのり</small> 須賀 昭徳

講義の到達目標(ねらい) 民法は財産法と家族法とに分類される。そして財産法は総則編・物権編・債権編よりなっている。家族法は親族編・相続編よりなっています。そして債権編は総論と各論に分かれている。本講義では債権各論と称される分野を講義するものである。

講義の内容／
授業スケジュール ところで現代社会は契約を中心とする取引社会である。債権各論ではこの契約法を中心として講義するものである。そして事務管理不当利益・不法行為についても概略・説明するつもりである。

前期
①契約総論序説 ②契約自由の原則とその修正 ③契約の種類 ④契約の成立 ⑤同時履行の抗弁権・危険負担 ⑥契約の解除(1)(2) ⑦贈与 ⑧売買(1)(2)(3) ⑨交換・消費貸借 ⑩使用貸借

後期
①賃貸借(1)(2)(3) ②借地借家法 ③雇用 ④請負 ⑤委任 ⑥寄託 ⑦組合・和解 ⑧不法原因給付 ⑨不当利得 ⑩不法行為(1)(2)(3)

履修上の留意点
成績評価の方法 講義にはかならず六法を持参すること。
期末試験の成績により評価する。

教科書／テキスト
参考書 中斐道太郎・乾昭三・椿寿夫編『新民法概説(2)第3版』(有斐閣)2,000円
講義の中で指示する。

履修コード	325501
科目名	商法総則・商行為法
担当者名	みずしま おさむ 水島 治

講義の到達目標(ねらい) 1, 本講義の目的
本講義の目的は、商法総則（商法1～31条）及び商行為（商法501～683条）に関する基本的な制度概要と解釈論的問題を解説することにあります。

法B

2, 本講義の到達目標
本講義の到達目標は、(1) 商法の基本的な制度の趣旨や内容を理解してもらうこと、(2) 簡単な事例について商法総則又は商行為法の規定を適用して法律関係を説明できるようになること、(3) 基本的な判例や学説を具体的に適用することで法令の適用に必要な解釈論的な処理ができるようになること、の3点にあります。

なお、講義の基本的な水準は、昼間開講の商法総則・商行為法（11710）と基本的に同水準とします。

講義の内容／授業スケジュール 講義で扱う内容は、商法総則の範囲として①から⑥、商取引法の範囲として⑦から⑬となります（講義の進行上、順序は若干入れ替わる可能性があります。）。扱う内容や履修者の理解度等にもよりますが、原則として、各テーマに関して数回に分けて講義を行ない、前期に商法総則の領域、後期に商行為法の領域を主として扱うこととします。

- | | |
|---------|--------------|
| ①商法総則総論 | ②商人・商行為 |
| ③商業登記 | ④商号 |
| ⑤商業帳簿 | ⑥商業使用人・代理商 |
| ⑦商事契約総論 | ⑧交互計算 |
| ⑨匿名組合 | ⑩仲立営業 |
| ⑪問屋営業 | ⑫運送取扱営業・運送営業 |
| ⑬寄託 | |

準備学習 1, 講義の対象となる条文は、事前に六法等で確認してきて下さい。
2, 余力があれば、テキスト等で該当する部分を読んできて下さい。
3, 民法（財産法）の知識を多用しますので、民法に不安のある人は、あらかじめ復習しておくことを勧めます。

履修上の留意点 1, 履修を必要とする科目
民法の財産法分野（総則、物権、債権）は、必ずすべて履修しておくことが必要です。当該科目を履修していない場合には、本講義の単位取得は相当難しくなると考えられますので、くれぐれも注意して下さい。

2, 講義は、基本的には商法本法の解説が中心となります。
このため、不正競争防止法、商業登記法、国際海上物品運送法のような商法以外の付屬法令や関連法令に関しては、本講義では最小限度で扱うものとします。また、保険法、海商法、金融商品取引法に関しては、本講義の対象外となりますので、これらの講義の履修が必要な学生は該当する科目を履修して下さい。

3, 会社法の取扱い
会社法総則（会社法1～24条）は本講義の範囲と重複する限りにおいて、講義で併せて説明しますが、それ以外の会社法の規定は本講義では扱いません。別途、会社法の講義を履修して下さい。

成績評価の方法 1, 期末試験の成績
2, 出席は取りません。また、レポートや中間試験等についても実施しない予定です。
本講義は、期末試験一本での成績評価ですから、単位認定に関する救済措置はありません。履修に際してはくれぐれも注意して下さい。

教科書／テキスト 1, 六法
小型のものでかまいませんが、必ず最新版（平成22年版）を用意して下さい。また、判例付きの六法は、期末試験等に持ち込むことを禁止しますので、その点を考慮して六法を選択して下さい。

2, レジュメ
本講義は基本的にレジュメで進行しますので、必ず持参して下さい。
3, 教科書
レジュメで講義しますので、教科書を購入して頂く必要はありません。

4, 参考書
参考書に関しては、第1回講義時に文献リストを配布して説明します。

参 考 書 第1回講義時に配布する参考文献リストで説明します。
そ の 他 1, 期末試験だけの成績評価ですから、無理に講義に来てもらう必要はありません。
2, 講義中に私語や携帯電話をすること等は、他の学生の履修の妨げになることは厳に謹んで下さい。
3, 担当者は非常勤講師ですから、質問等に関しては講義終了時に受けることとなりますので、その点はあらかじめ了解して履修判断をして下さい。

履修コード	326901・326902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>なかつ ひでゆき</small> 中田 英幸

法B

講義の到達目標(ねらい) 本演習の目的は、財産法(民法総則・物権・債権)に関する判例を素材として、民法の解釈を学習することにある。紛争が発生した経緯を理解し、望ましい結論(法的判断)を考えることにより、法の運用を学び、法的思考を養う。

講義の内容／授業スケジュール (3年生)前期は、財産法に関する基本判例を演習の素材とする。演習参加者は、初回到報告する判例を選び、報告前にレジュメの配布・参考文献の指定をすること。後期は、最近の判例を演習の素材として前期と同じく報告をする。演習の進め方は前期と同様である。なお、報告者は、演習での質疑応答を踏まええたレポートを作成する。

履修上の留意点 前期・後期ともに、適宜基礎知識の確認を行う。

成績評価の方法 (4年生)卒業レポートの作成を目標とする。自ら法的課題を見出し、検討を加え、結論を導く。演習において卒業レポートの中間報告を行う。

参 考 書 以上の内容は、演習参加者の希望や参加人数によって変更することがある。
民法に興味を持ち、勉強する意欲があることが大前提である。
必ず毎回出席し、積極的に発言すること。
報告内容、演習での発言、レポートにより評価する。発言は、結論よりも、結論に至るまでの理由づけや思考過程を重視する。
演習にて適宜指示する。

履修コード	327101・327102
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>ふじもと しげる</small> 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい) わが国雇用社会は、経済構造の変化に伴う雇用システムの変容、少子高齢社会の到来、労働者意識の多様化などにより大きく変わろうとしています。最近の労働基準法改正、労働契約法制定・施行などはその表われです。この現代労働法の対象である雇用社会を知り、今まで形成されてきた労働法理の基礎を自ら学びとる場が演習だと思っています。したがって、その到達目標は、自ら調べ読み理解しまとめてレジュメを作り発表し議論をする、これを通して、基礎的知識を身につけるとともに、発表すること理解してもらうことの難しさを学びとり、自らの立ち位置を理解することが目標です。

講義の内容／授業スケジュール 本演習では、テーマを各自受講生が関心のあるところから、自ら選択し勉強し、理解を深めたところで発表し、議論をする方法をとっています。特に発表し議論するところに重点を置いています。今年度は1年間の演習です。

準備学習 4月授業開始前に課題を提出してもらいます。テーマは事前に知らせます。通常授業時の準備学習は、予め報告するテーマが報告者(グループ)より知らされていますので、当該テーマの予習をすることが、報告者(グループ)以外の者に課せられます。そして質問事項を用意しておくことです。

履修上の留意点 演習のいいところは、大いに勉強し、恥をかくところにあります。出席は大前提。評価はそのあと。
ゼミ運営に積極的に関わることも大切だと考えています。

成績評価の方法 講義科目として、労働法はもとよりのこと、憲法、民法総則、債権総論・各論、社会保障法、社会政策は、ぜひとも、履修してください。

教科書／テキスト 出席、積極的発言、ゼミ運営への積極的参加など。平常時の積極的な姿勢で評価します。追試はありません。夏季に研究合宿を実施します。

参 考 書 金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010予定)。
労働判例百選
労働法の争点
必要に応じて、〈調べ方〉を教えます。参考書というより法律雑誌の論文等が重要になります。自ら探し集め読みまとめることが勉強の第一歩と思っています。

履修コード	327201・327202
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	金子昇平

講義の到達目標(ねらい)

本演習においては、行政上の諸制度、行政法規の仕組みおよび複雑多様な法現象を広範囲にとりあげ、現代のあるべき行政法理論について理解を深めていきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

ゼミ生の関心のあるテーマについて、判例研究および、学術論文の書評を行い、参加者全員と共に、議論をつくしたいと思っている。演習の内容については、例えば、環境の問題、教育の問題、公務員の問題、地方自治の問題、租税の問題、医療の問題、高齢者の問題、福祉の問題等である。

①環境の問題 東京大気汚染事件、熊本水俣病事件、田子の浦ヘドロ事件、大阪空港事件、名古屋新幹線事件、横田基地、厚木基地事件、国道43号線事件、武蔵野マンション事件、国立マンション事件。②教育の問題 学問の自由と学生の自活、ポポロ事件、教育を受ける権利と教育権・私立大学における学生の思想、表現の自由、校則の問題、いじめ事件、学生処分と教育的裁量権・学校事故③公務員の問題 公務員関係の法的性質、公務員における不利益処分と救済、職員の措置要求権、職員の財産上の権利、安全配慮義務、公務傷病等に対する補償を受ける権利・服務・職務命令と服従義務、職務上の秘密の意義、公務員の労働基本権④地方自治の問題 地方公共団体の情報公開、直接請求、住民投票、青少年保護育成条例、公安条例、要綱による開発負担金、公営住宅の使用関係、議会と政務調査費、議員の研修旅行、教育委員会の公開原則、住民監査請求、住民訴訟、国民健康保険⑤租税の問題 租税法律主義の意義、サラリーマン税金訴訟、租税回避行為の否認、所得控除の意義、固定資産税訴訟、消費税、輸入禁止措置と検閲、租税訴訟における文書の提出の申し立て⑥医療の問題 診療記録閲覧請求、予防接種事件、ハンセン病事件、健康食品と医薬品の定義⑦高齢者の問題 高齢者虐待防止法、高齢者の在宅介護、特別養護老人ホーム、老人保健施設⑧福祉の問題 生有権と生活保護基準、福祉法にかかる問題

年二回、七月、二月にゼミ合宿を行い、研究の成果を発表し、討論を行う。

年二回、公的施設の見学会を行う。

履修上の留意点

ゼミ生は、あらかじめ該当する判例、法令等を読みこなして欲しい。六法を持参すること。

判例、論文、法律を知ることだけではなく、現実の社会の実態についても、調査し、国・地方公共団体にアウトリーチ、担当者と面会し、取材してもらいたい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
その他

出席（ゼミ、見学会、合宿等）により評価する。

適宜指示する。

発表者は、レジュメを作成し、論点および、自分の意見を発表する。全員が、議論に参加出来ることを望む。

法B

履修コード	327301・327302
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	にし西修

講義の到達目標(ねらい)

私は、演習をつぎのように位置づけたいと考えます。すなわち、マスプロ教育に陥りがちな一方通行を補うべく、双方向性を大切にし、履修生と教師、履修生同士のディスカッションを多用して、みずからを磨きあげる場であると。そしてそれは、たんに勉学ばかりでなく、合宿などを通じて、心のふれあいのなかから、あらたな自分を見つけた場でもあると。こんな場にするために、私はつぎのような方針でのぞみたいと思っています。

(1) ゼミのモットーは「出会い、学び合い、そして人間愛」です。

(2) とくに少人数の場合、日々のふれあいが大切なので、毎回、出席すること。

(3) ディスカッションには、積極的に参加し、かならず発言すること。

講義の内容／
授業スケジュール

前期と後期に分け、前期は1、2冊の本を精読し、それについてディスカッションをします。共通に読む本は開講時に指定。またディスカッションの内容としては、(1)日本国憲法の成立過程とその法的問題点、(2)憲法第9条をめぐる諸問題、(3)世界の憲法トレンド、(4)人権の現代的意味などを考えています。その他、年に1回は合宿を行います。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他

「講義のねらい」で記述した方針でのぞみますので、毎日出席すること。

出席、発言、課題論文などを総合的に判断する。

開講時に指示する。

適宜紹介する。

合宿中に私の落語を聴かされることがあります。

法B

履修コード	327501・327502
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	佐藤 多美夫

講義の到達目標(ねらい)

刑法を知るためには、犯罪について刑法総論及び刑法各論で修得した基礎的知識を具体的事実に当てはめてみるのが有用である。しかし具体的事実を刑法の立場から眺めてみることは意外と難しいことであるので、ひとつ一つ、理解を深めながら進めることにする。

本演習の目標は結局のところ、具体的な事実を刑法を適用して解決することにある。この目標を達成するためには、事実に含まれている刑法上の論点を抽出してその論点について自己の立場から態度決定して結論を提示する必要がある。一般的に結論には多角的・多面的な見方があり得るので相手の立場・考え方にも耳を傾けそれに対して自己の見解を論理的に主張し説得力のある反批判ができることが必要である。これにより自らの結論の妥当性を検証することができる。

講義の内容／
授業スケジュール
成績評価の方法
教科書／テキスト

判例、事例を素材にして罪刑法定主義、因果関係、不作為犯、違法性、正当防衛、緊急避難、過失犯、責任能力、未遂、共犯、傷害罪、窃盗罪、強盗罪、詐欺罪などを扱う。

レポート、発言、出席等を総合評価

刑法の基本書・判例集等 演習時間に適宜紹介する。

履修コード	327601・327602
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)

会社法を理解するのに必要な民法総則、物権法および債権法などの講義で聞いた個々の知識や考え方が本当に学生諸君の血となり肉となっているかどうかは、実際に具体的な問題の解決に取り組む、多くの人々が納得する妥当な法的解決を導き出すことができるか否かにかかっている。この演習では、講義で修得した個別の知識を関連付け、総合し、それをより深く理解し、十分に活用できる力をつけることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

この演習では、基礎的知識を確認する作業を常に心掛けながら、具体的には、会社法に関する裁判例の中から参加者が希望するテーマや課題について発表してもらい、そのレポートを中心に活発な議論を展開するという方法で進めます。

準備学習

参加者は、自分が発表者に指名されていない時でも、積極的に発言したり問題提起できるように、あらかじめ発表内容について学習しておく必要がある。

履修上の留意点

この演習では、出席の状況と発表の内容や回数を重視します。夏季・冬季(学年末試験終了後)に合宿を予定しています。必ず参加し、教室では望めない参加者間の全人格的な触れ合いを深めたいと思います。

成績評価の方法
参考書

出席と平常の発言やゼミでの活動を考慮して評価します。

神作・藤田・江頭・岩原編『会社法批判百選』(有斐閣)などを予定していますが、その他の文献や資料については必要な都度指示します。

履修コード	327701・327702
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>たなか ゆうじ</small> 田中 優企

講義の到達目標(ねらい)	演習テーマ：「刑事訴訟法基本判例研究」 実際に裁判で争われた具体的なケースの研究を通じて、抽象的な理解になりがちな刑事訴訟法をより深く掘り下げた形で理解してもらおうこと及び判例の分析と授業での報告を通じて「問題解決のプロセス」の一つを学んでもらうことがこの演習のねらいです。
講義の内容／授業スケジュール	授業では、私が指定した判例について、それぞれ、前期は3名1組で、後期は1名が担当して、1つの判例を2回に分けて報告してもらいます。1回目は担当判例の報告を、2回目は、授業での討論を通じて明らかになった問題点や私が指摘した問題点等についてさらに分析した上で、これを報告してもらうスタイルを予定しています。 その他、具体的な報告方法など授業全般については、第1回目の時にもお話しします。 また、フレックスA・B合同で、裁判傍聴及び夏合宿を行ないます。
準備学習	憲法の他、1年次及び2年次配当の刑事法科目（刑法総論、刑法各論、刑事政策）を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解もより一層、深まります。
履修上の留意点	受講者各自の時間割の都合が許す限り、私の「刑事訴訟法」を同時履修して下さい。
成績評価の方法	出席状況、報告内容及び討論内容を総合的に考慮して評価します。
教科書／テキスト	指定しません。
参考書	中野次雄編『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）3150円 井上正仁編『刑事訴訟法判例百選（第八版）』（有斐閣、2005年）2200円 筈井治・前田雅英編『ケースブック刑事訴訟法（第二版）』（弘文堂、2008年）4410円 井上正仁他『ケースブック刑事訴訟法（第三版）』（有斐閣、2009年）6300円 各年度に出版される『ジュリスト臨時増刊・重要判例解説』（有斐閣）、『最高裁判所判例解説』（法曹会）
その他	素朴な疑問が実は重要な問題であったということはよくあることです。また、この演習は、みなさんの意見と疑問があって初めて成立します。みなさんの主体的な参加を期待しています。

法B

履修コード	327801・327802
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>はらだ けいいちろう</small> 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会保障制度のうち医療・介護制度に関する法的理解を深めるとともに、ゼミでの報告・議論を通じて問題発見能力・法的思考力を養うことを目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	医療関係法（医事法を含む）・介護関係法を中心に、これらの最新重要裁判例及び重要文献を取りあげ、その問題について検討を行う。報告者は分担して裁判例及び文献の報告のためのレジюмеを作成し、それをもとに報告する。参加者は報告者の報告をもとに議論をする。
履修上の留意点	報告者以外の参加者にも積極的に議論に参加してもらうため、判例・文献を熟読し、準備をしておくこと。 「社会保障法」を必ず受講すること。
成績評価の方法	平常点による。
教科書／テキスト	・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』（有斐閣、2008年）
参考書	・労働調査会出版局（編）『社会保障法令便覧 2010』（労働調査会、2010年） 適宜紹介する。

履修コード	327901・327902
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>おおみや たかし</small> 大宮 隆

講義の到達目標(ねらい)	家族法の研究上、知っておいてほしいと思われる裁判例を取り上げます。
講義の内容／授業スケジュール	教科書に掲載されている判例と、近年、特に平成になってから、相続法の分野で重要な判例が出されていますので、それらを中心に行います。
準備学習	判決全文を読んで出席して下さい。
履修上の留意点	予習が必要です。
成績評価の方法	課題への取り組みや出席状況を総合して評価を行う。
教科書／テキスト	泉久雄他編著『家族法基本判例32選』（信山社）2,500円 ISBN4-88261-422-7

履修コード	327911・327912
科目名	演習Ⅰ 演習Ⅱ
担当者名	<small>むかいだ まさみ</small> 向田 正巳

法B

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、判例研究を通じて、民法を基礎から学びます。民法の基本判例を読みながら民法における基本的なものの考え方、法的思考の基本を学び、演習参加者が裁判実務、ビジネス法務実務、行政実務等それぞれの進路においてその知識を活かす術を学ぶことが目標です。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず判例百選等でとりあげられるような基本判例を読みながら民法の基礎的な論点を学習し、それを通して判例の読み方、教科書のまとめ方、論文などの資料調査と研究報告の方法について学びます。次に10月くらいからになると思いますが、最高裁判所民事判例集等から最新の判例をゼミのグループ単位で選び、判例のなかから民法解釈論上の論点を抽出し、従来の学説、判例に照らし合わせながら検討するという作業を行います。最後に時間があれば参加者が各自、関心のあるテーマにつき個別に報告、レポートを提出してもらいます。
履修上の留意点	民法の基礎をしっかりと学び、民法の学習を将来の自己の進路希望に役立てることを真剣に考えている学生の演習参加を希望します。
成績評価の方法 教科書／テキスト その他	出席、発表、議論参加などから総合的に評価します。無断欠席は厳に慎んでください。演習の始めに指示します。 コンパ、合宿を予定しています。

履修コード	324901
科目名	有価証券法
担当者名	<small>なかほま よしあき</small> 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)	手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。 1 手形・小切手の意義(約束手形・為替手形・小切手の異同) 2 手形法・小切手の経済的機能 3 手形行為の意義・性質 4 手形行為の成立時期(手形理論) 5 手形行為と法律行為に関する一般原則 6 代理人・代表者による手形行為 7 無権代理と偽造、変造 8 手形行為と実質関係 9 手形の振出 10 白地手形 11 手形の裏書 12 善意取得の制度 13 手形抗弁、人的抗弁切断(制限)の制度 14 支払、支払拒絶など 15 為替手形・小切手に特有の法制度 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題
履修上の留意点	六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』(有斐閣)、『セレクト六法』(岩波書店)、『デイリー六法』(三省堂)など。 民法(財産法関係科目)および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。大塚龍児ほか『商法Ⅲ－手形・小切手(第3版)』(有斐閣Sシリーズ) 落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選(第6版)』(有斐閣) 詳細については、開講時に指示します。 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集(第3版)』(有斐閣)
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	ふじもと しばる 藤本 茂

講義の到達目標(わらい)

今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化に伴って、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しなどが大きく変貌しています。

労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。

この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働時間法制、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。

本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。

講義の内容/
授業スケジュール

授業では、下記事項について、行います。

- (1) 労働法の基礎的考え方
- (2) 日本型雇用システムの変化と労働法
- (3) 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特色
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 労働条件の集団的決定－就業規則、労働協約
- (7) 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- (8) 人事異動－配転、出向、転籍
- (9) 雇用の終了－退職、解雇、整理解雇
- (10) 賃金、賞与、退職金
- (11) 労働時間、時間外・休日労働
- (12) 休憩、休日、休暇
- (13) 労働災害など

準備学習

準備学習といえば、以下のことをお願いするだけです。当り前のことですが、教科書を読んで授業に臨むということです。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。

適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。

追試験は実施します。

教科書/テキスト

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010予定)。これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

第1回目の授業で、プリントで紹介します。

六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。

その他

皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。

法B

履修コード	325201
科目名	経済法
担当者名	ひがしで こういち 東出 浩一

法 B

講義の到達目標(ねらい)	経済法の中心をなす独占禁止法について、21年改正の内容を含め、基本的な事項を理解することを目標とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	条文の解説にとどまらず、できるだけ具体的な事件の審判決や相談事例を紹介し、実際の事例でどのような事項が論点となったか等を説明することにより、実務的な理解が進むように講義を進める予定です。 おおむね、次の事項について説明する予定です。
準備学習 履修上の留意点	1 独占禁止法の概要、行為主体 2～6 私的独占・不当な取引制限 7～14 不公正な取引方法等 15～17 企業結合規制 18～20 適用除外・民事訴訟 21～25 事件処理手続・排除措置・課徴金 26～28 刑事罰・犯則調査手続、その他 教科書「経済法」(第5版補訂)の該当部分を一読しておいてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他 関 連 リ ン ク	教科書である「経済法」(第5版補訂)は、21年改正に対応していないので、留意してください。 期末試験によって成績評価をします。 「経済法」(第5版補訂・岸井大太郎・向田直範ほか)・有斐閣アルマ 「逐条解説 平成21年改正独占禁止法」(藤井宣明・熊能克己)・商事法務 レジュメを配布する予定です。 http://www.jftc.go.jp/

履修コード	325301
科目名	社会保障法
担当者名	はらだ けいいちろう 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会保障法の各分野について、基本的な体系と現状、法主体間の権利義務関係、法解釈上の論点を学習することにより、社会保障に関する法制度を正確に理解し、どこに課題が残されており、どのような解決が望ましいかを規範的に考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～2回：社会保障(法)とは何か、第3～7回：医療保障法、第8～11回：介護保障法、第12～13回：福祉サービス法、第14～18回：年金法、第19～21回：労災保険法 第22～23回：雇用保障法 第24～25回：社会的補償法、第26～28回：公的扶助法、第29～30回：社会保障財政の法理論
履修上の留意点	社会保障に関する立法論上の課題については、同担当者の担当科目「社会政策」にて取り扱うので、並行履修が望ましい。「社会保障法」と「社会政策」の両科目を履修することにより、社会保障に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト	社会保障に関する法的紛争は行政事件が多いため、「行政法」及び「行政救済法」を履修済みまたは並行履修中であることが必要である。 学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。 教科書は開講時に指定する。受講にあたっては、指定教科書のほかに下記の法令集を毎回持参すること。
参 考 書	・労働調査会出版局(編)『社会保障法令便覧 2010』(労働調査会、2010年) ・西村健一郎・岩村正彦〔編〕『社会保障判例百選〔第4版〕』(有斐閣、2008年)
そ の 他	その他の文献は適宜指示する。 YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	325401
科目名	国際関係論
担当者名	三船 恵美

講義の到達目標(ねらい)

国際関係論の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを講義の目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

【前期】第1～2回：国際関係を学ぶ視座、第3回：多様化するアクター、第4回：国益とパワー、第5回：日本の領域と国際関係、第6回：安全保障（1）安全保障の概念と類型、第7回：勢力均衡とバンドワゴン、第8回：覇権安定論、第9回：リベラリズムの考え方、第10回：ネオ・リベラリズムの考え方、第11回：ゲーム理論と国際関係、第12回：コンストラクティヴィズム、第13回：南北問題と構造的暴力、第14回：平和学の誕生と展開、第15回：中間試験

【後期】第1回：安全保障（2）人道的介入、第2回：安全保障（3）大量破壊兵器の拡散、第3回：安全保障（4）テロリズム、第4回：東アジア共同体の構想とその課題、第5回：「人間の安全保障」と人権、第6回：難民保護と UNHCR、第7回：地球環境レジームの形成、第8回：米中関係と日本、第9回：インドの台頭と米印中関係、第10回：ASEANと日本外交、第11回：日本のエネルギー戦略と中国・インド・米国との関係、第12～13回：総括北朝鮮をめぐる六者協議、第14～15回：総括

履修上の留意点

就活や部活で欠席した人を特別扱いません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験（前期30%＋後期70%）。
前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。
後期：天見慧・三船恵美編『強大国化する中国の外交戦略』（仮題）2010年刊行。
（書籍名が未確定なので、教科書販売所で確認して下さい）

参 考 書

授業中に紹介します。

法 B

履修コード	325601
科目名	環境法
担当者名	仲田 孝仁

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、受講者に広く環境問題に関心を持たせることは言うまでもなく、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」という道具を用いることで、各人が環境問題への具体的解決策を導くための糸口を与えることにある。履修者諸君には、本講義の履修後に、環境問題を一歩踏み込んで解釈・分析する視点を持つことが期待される。

講義の内容／
授業スケジュール

1. オリエンテーション（環境法とは？）、2～3. 環境法の歴史（四大公害訴訟について。細川一医師の葛藤。公害法の確立から環境法の生成・発展へ。）、4. 環境法の諸原則（持続可能な開発、拡大生産者責任、汚染者負担原則、予防原則について。環境権とは。）、5～6. 環境基本法について、7～11. 廃棄物・リサイクルと法（循環型社会形成推進基本法、廃棄物処理法、個別リサイクル法）、12. 化学物質管理と法（化審法、PRTR法）、13～18. 大気・水質・土壌環境保全と法、19. 外来生物と法（特定外来生物被害防止法について。アライグマ、ブラックバス、グリーンアノール対策等。防除とは。動物愛護法との関係は。）、20. 自然環境保全・種の保存と法（生物多様性基本法、種の保存法、自然公園法等。）、21～22. 環境影響評価と法、23～24. 環境紛争と民事的・行政的解決、25. 道路公害訴訟について（尼崎、名古屋南部、東京大気汚染訴訟、環境ロードプライシング、高速道路の無料化問題、大気汚染防止法や道路交通法とのかかわり。）、26. 国・自治体におけるディーゼル車規制（自動車 NOx・PM 法）、27～28. 地球温暖化対策と法（京都議定書、地球温暖化対策推進法、最新の COP の動向）、29. 環境リスク管理と予防原則、30. 最終講—環境法の現在・過去・未来。

履修上の留意点

学生諸君との対話を重視した双方向型の授業とする。よって諸君には頻繁に発言やメモの提出を求める。講義自体はパワーポイントやビデオ等を用い、視覚に訴えることで分かりやすさを心がけたい。講義内容は基礎的な事項を中心に進めるが、最新判例や理論の動向も加味していく。また、具体的な事例を取り上げ、それらの問題の所存や解決策を諸君とともに模索していく。範囲は広いものの、広く浅い講義ではない。よって、連続して欠席するとついていくことが困難となる。出席が確保できる諸君のみ履修されたい。

成績評価の方法

期末試験の成績（70%）及び平常点（出席点・発言点、レポート、30%）を総合的に評価する。詳しくは、開講時に説明する。

教科書／テキスト

使用しない。インターネット上や新聞、ニュース等が生きた教材となる。

参 考 書

別冊ジュリスト『環境法判例百選』（有斐閣）2004年等。

そ の 他

その他は授業時に指示する。

講義においては、レジュメを配布する。また、必要な範囲で環境法令も配布する。

履修コード	119601・325701
科目名	知的財産権法
担当者名	角田 政芳

講義の到達目標(ねらい)

現代社会は、もはや有体物ではなく科学技術や芸術のような無体物により構築される社会です。そのような無体物は知的財産と呼ばれており、例えば、テクノロジー、デザイン、ブランド、ノウ・ハウ、ミュージックや映画、アニメーション、ゲームソフトなどのアートという人類の知恵から生み出された広い意味での財産が含まれます。これらは、特許権、実用新案権、育成者権、意匠権、商標権、著作権などにより他人の無断利用を禁止することのできる権利によって保護されています。この授業では、このうち、特許権、実用新案権、意匠権、商標権、不競法上の権利、そして著作権や著作隣接権について、保護法制度の基本をなるべく多くの事例を見ながら解説します。

法 B

講義の内容／
授業スケジュール

- 【第1回】知的財産法総論(知的財産権の種類、法的性質)
 - 【第2回】特許法の目的、発明の意義・種類
 - 【第3回】特許要件(産業上利用性・新規性喪失事由・進歩性・先願範囲の拡大・公序良俗)
 - 【第4回】特許権の主体(発明者・共同発明・職務発明)
 - 【第5回】特許権取得手続(願書・明細書・特許請求の範囲・図面・要旨、審査手続、出願公開)
 - 【第6回】特許権の効力と制限(試験・研究、医薬の調合等、用尽理論、属地主義)
 - 【第7回】特許権の利用(ライセンス・専用実施権と通常実施権、担保権、信託など)
 - 【第8回】特許権の侵害と救済(直接侵害・クレーム解釈・均等論、間接侵害、民事救済、刑罰)
 - 【第9回】実用新案権
 - 【第10回】意匠権(権利の客体・意匠、主体、登録要件、権利取得手続、権利侵害、特殊制度)
 - 【第11回】商標権(1)(権利の客体・商標、主体、登録要件)
 - 【第12回】商標権(2)(権利取得手続、権利の効力と制限、権利侵害、取消審判)
 - 【第13回】不正競争防止法(1)(有名ブランド・ドメインネーム・トレードシークレット)
 - 【第14回】不正競争防止法(2)(不正競争行為への救済・刑罰)
 - 【第15回】国際的側面(属地主義、並行輸入、国際技術移転、強制ライセンス、パリ条約・PCT・マドプロ等)
 - 【第16回】著作権法総論、著作権法の目的、沿革、産業財産権と著作権の相違点、著作権法の現代的課題
 - 【第17回】著作権の客体(1)(著作物の要件)
 - 【第18回】著作権の客体(2)(著作物の種類、二次的著作物)
 - 【第19回】著作者人格権とその制限
 - 【第20回】著作権の効力(複製権、上演・演奏権、上映権、公衆送信権、展示権、口述権、頒布権、譲渡権・貸与権等)
 - 【第21回】著作権の制限(1)(私的複製、図書館の複製、引用・転載)
 - 【第22回】著作権の制限(2)(教育目的の複製、非営利目的の上演・演奏等)
 - 【第23回】著作権の制限(3)(報道目的の複製、一時的固定、プログラムのインストール等)
 - 【第24回】著作権の利用(権利移転、ライセンス・出版権設定契約・出版契約、担保権、JASRACの信託的譲渡等)
 - 【第25回】著作権の侵害(直接侵害と擬制侵害、間接侵害と代位責任等、Winny事件等)
 - 【第26回】著作隣接権(実演家人格権、実演家・レコード製作者・放送事業者・有線放送事業者の著作隣接権)
 - 【第27回】著作権侵害の救済(差止請求・損害賠償請求・不当利得返還)
 - 【第28回】著作権侵害罪(罰則・コピープロテクション回避禁止等)
 - 【第29回】著作権の国際的側面(複製物の並行輸入、インターネット上の著作権侵害等)
 - 【第30回】著作権関係条約の概要(TRIPs協定、ベルヌ条約、万国著作権条約、WCT,WPPTなど)
- 総合評価(平常点:原則10%;定期試験:原則90%)
 角田政芳他著「アルマ知的財産法<第5版>」有斐閣、2010年
 角田政芳編「知的財産権六法2010」三省堂2010

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	118901・325801
科目名	税法
担当者名	あかまつ あきら 赤松 晃

講義の到達目標(ねらい)	所得税法、法人税法、相続税法(相続・贈与)及び消費税法を中心に、租税法に関する日本経済新聞等の記事を読み解くことができる水準とする。公務員試験や資格試験に資する。
講義の内容／授業スケジュール	<p>・講義は、原則として、下記の講義予定に係る各テキストの目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度は、詳細は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事や論文等を配布する。</p> <p>・1～4『税法入門』(4回)、5～11『所得税法』(7回)、12～15『相続税法(相続税・贈与税)』(4回)、16～22『法人税法』(7回)、23～25『消費税法』(4回)、26～28『国税通則法』(3回)、29～30まとめ(2回)。</p>
準備学習	<p>・初回講義には、下記の税務大学校講本のうちから『税法入門』(全92頁)を各自が印刷して持参すること。</p> <p>・初回講義はイントロダクションとして『税法入門』の第6章「税務行政の大要」及び第7章「税務行政の組織と権限」を対象とする。</p>
履修上の留意点	<p>・講義に先立ち予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること</p> <p>・税法が登載されている小六法又は六法全書などを持参すること(租税に関する法令・通達等{http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1}を参照)。</p>
成績評価の方法教科書/テキスト	<p>出席状況及び随時行う小テスト並びに課題レポート又は定期試験の成績を総合勘案して行う。</p> <p>国税庁税務大学校が、普通科及び専門官基礎研修で初めて税法に触れる研修生に税法の基礎的知識を学ばせるために、毎年アップデートしている税務大学校講本のうち、次を各自が{http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm}からダウンロードして持参すること(頁数は平成21年度版による)。</p> <p>『税法入門』(全92頁)、『所得税法』(全165頁)、『法人税法』(全150頁)、『相続税法(相続税・贈与税)』(全97頁)、『消費税法』(全95頁)、『国税通則法』(全100頁)。</p>
参考書	<p>参考書は、図書館の蔵書等を利用。</p> <p>・水野忠恒『租税法』(有斐閣、4版、2009年)6200円+税</p> <p>・金子宏『租税法』(弘文堂、14版、2009年)5500円+税</p> <p>・岡村=渡辺=高橋『ベーシック税法』有斐閣アルマ(有斐閣、4版、2009年)2100円+税</p> <p>・金子=清永=宮谷=畠山『税法入門』有斐閣選書(有斐閣、6版、2007年)1000円+税</p>
その他	<p>次の関連リンクを参照のこと</p> <p>・国税庁税務大学校講本{http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm}</p> <p>・国税庁HP{http://www.nta.go.jp/}</p> <p>・財務省税制HP{http://www.mof.go.jp/jouhou/syuzei/syuzei.htm}</p> <p>・租税に関する法令・通達等{http://www.nta.go.jp/shiraberu/zeiho-kaishaku/index.htm#1}</p>
関連リンク	http://www.nta.go.jp/ntc/kouhon/index.htm

法B

履修コード	325901
科目名	国際私法
担当者名	佐々木 彩

法 B

講義の到達目標(ねらい)

法律関係の構成要素に外国に関連する要素が一つでも含まれる場合を、一般に渉外的法律関係と呼ぶ。そして、渉外的法律関係に適用すべき法律を指定する規定を定めているのが国際私法である。国際私法は、渉外的法律関係によって生じる紛争を円滑に解決に導く手段のみならず、予めどの国の法律を適用することとなるのか等の予測可能性を高めてくれることにも役立つ。わが国では「法の適用に関する通則法」という法律を中心に国際私法が形成されている。国際私法は、民法や商法のような実質法のように私法問題の判断基準となる法律とは規律する領域を異にしており、異なる次元に位置づけられるものとして、上位規範等と呼ばれることがある。このような他の分野と異なる国際私法的センスを習得できるように講義を進めたいと考えている。国際私法は時として難解な科目であると捉えられがちであるが、国際結婚・離婚、国際養子縁組等に関する身近な問題を具体例として取り上げ、できる限り分かり易いものとなるように工夫を試みたい。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容及びスケジュールについては、以下のように予定している。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際家族法総説
- 第3回 国際私法の構造 (1) 法性決定
- 第4回 国際私法の構造 (2) 連結の態様
- 第5回 国際私法の構造 (3) 連結概念の決定 (国籍)
- 第6回 国際私法の構造 (4) 連結概念の決定 (住所、常居所)
- 第7回 準拠法の指定 (1) 場所的不統一法法国法の指定
- 第8回 準拠法の指定 (2) 人的不統一法法国法の指定
- 第10回 準拠法の適用 (1) 外国法
- 第11回 準拠法の適用 (2) 公序
- 第12回 準拠法の適用 (3) 先決問題
- 第13回 婚姻の成立 (1)
- 第14回 婚姻の成立 (2)
- 第15回 中間テスト
- 第16回 婚姻の効力 (1)
- 第17回 婚姻の効力 (2)
- 第18回 離婚 (1)
- 第19回 離婚 (2)
- 第20回 親子関係 (1)
- 第21回 親子関係 (2)
- 第22回 親子関係 (3)
- 第23回 後見・保佐・補助
- 第24回 扶養
- 第25回 氏名
- 第26回 相続
- 第27回 遺言
- 第28回 不法行為
- 第29回 国際裁判管轄権
- 第30回 1年間のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

基礎となる他の科目 (特に家族法) について基礎知識を有することが望ましい。

原則として学年末の筆記試験による。場合によっては、中間試験及び平常点も加味する。

笠原俊宏著『国際家族法新論』文真堂

いずれかの六法を常に携帯すること。

授業は講義によって進行するが、随時、事例を設定して、皆で一緒に考えることを予定している。

履修コード	127501・326001
科目名	地方自治法
担当者名	富井 幸雄 <small>とみい ゆきお</small>

講義の到達目標(ねらい)	日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。平成12年度より、地方分権を旨とした新しい地方自治制度がスタートする。この改革がいかなる意義をもつのかをきみしめながら、新地方自治法の理念を理解する。	法B
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は大旨以下のスケジュールで行う。前期は、地方自治の概念、憲法と地方自治、地方公共団体の概念、地方公共団体の事務、住民自治を順に勉強していく。後期は、地方公共団体の組織、自治立法権、自主財政権、公の施設、国と地方公共団体の関係を順に勉強する。なお、前後期それぞれ最後の授業時に試験を実施する。	
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	憲法や行政法、ならびに行政学も同時履修あるいは既修であることが望ましい。 前期試験(40%)と学年末試験(60%)で総合的に評価する。 富井幸雄『地方自治法読本 改訂版』2008年4月(内外出版) 『地方自治判例百選(第3版)』(別冊ジュリスト)。 講義では頻りに法律の条文に言及するので、その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両方分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。	

履修コード	326301
科目名	担保物権法
担当者名	熊谷 芝青 <small>くまがい しせい</small>

講義の到達目標(ねらい)	企業等に就職した際に、取引先との決済は現金で行われず、信用という債権を用いて行われます。その取引先の債務を担保するために担保物権があり、そしていよいよ取引先が危なくなったときの破産手続きという法的知識が特に求められます。これらの重要な法的知識の中で、担保物権に関する講義を行います。 また債権法と物権法の両領域にまたがる法分野ですので、債権法と物権法の関連知識の復習にも心がけることにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	1. 担保物権法概論 2. 留置権 3. 先取特権 4. 質権 5. 抵当権総論 6. 抵当権の目的の範囲 7. 抵当権侵害 8. 抵当権の物上代位 9. 抵当権の処分 10. 第三取得者 11. 法定地上権 12. 共同抵当 13. 根抵当
履修上の留意点	担保物権を学習するには、債権法と物権法の知識を必要とします。この両法を学習していることを期待します。しかし、現状では両法を履修している学生諸君が少ないことを鑑み、債権法と物権法の必要な知識はその都度確認しながら講義をするつもりです。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	学年末の筆記試験を中心に総合的に評価します。 近江幸治『民法講義 III 担保物権(第2版)』(成文堂) 尾崎哲夫『はじめの担保物権』(自由国民社) 柴田孝之『S式択一条文問題集 民法』(自由国民社) 我妻榮・有泉亨『民法1』(勁草書房)

履修コード	326411
科目名	家族法
担当者名	竹中 智香

法B

講義の到達目標(ねらい)

民法典のうち、第四編「親族」と第五編「相続」の講義を行います。前期に取り上げる親族法は、われわれにとって最も身近な家族生活を規制する法律であり、「家制度」の存在とその解体、高度・低度経済成長期やバブル前後の経済的变化、さらには少子化・超高齢化、女性の社会進出といったさまざまな社会の動向に影響を受けています。社会の変化に伴って生じてきた問題に対して、親族法がどのように対応しているかを、具体的な裁判例の紹介も交えながら、検討していきます。一方、後期に取り上げる相続法も、第二次大戦の敗戦後、戦前の家督相続が庶子均分共同相続へと変遷し、さらに近年、遺言制度の利用も増加するなど、著しく変化している分野です。本講義では、こうした変遷の内容とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を目指します。

講義の内容／
授業スケジュール

- [前期]
- (1) 家族法と財産法の相違と家族法の特徴、欧米家族法との比較とわが国の家族法の特徴
 - (2) 氏と戸籍、親族
 - (3・4) 婚姻：婚約、婚姻成立の要件
 - (5・6) 婚姻：婚姻の効果、夫婦財産制
 - (7) 婚姻解消
 - (8・9) 親子：実親子関係
 - (10・11) 親子：養親子関係
 - (12) 後見・保佐・補助、扶養
- [後期]
- (1) わが国の相続法の変遷とその背景
 - (2) 相続人
 - (3～5) 相続の効力：相続財産の範囲
 - (6) 相続の効力：相続分
 - (7) 相続の効力：遺産の共有
 - (8・9) 相続の効力：遺産分割、相続回復請求権
 - (10) 相続の承認・放棄、財産分離、相続人の不存在
 - (11・12) 遺言と遺留分

履修上の留意点

身近な問題を取り上げる分野とはいえ、難解なテクニカルタームが多用されています。講義を受ける際には、教科書の該当部分を読んだうえで、分からない文言を調べておくことが望まれます。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

学年末の筆記試験の他、出席状況などの平常点も重視します。
川井健『民法概論5 親族・相続』有斐閣 2,800円
六法
久貫忠彦・米倉明編『家族法判例百選 [第7版]』(有斐閣)
『法律学小辞典 [第4版]』(有斐閣)

履修コード	326501
科目名	保険・海商法
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい)

商法のうち、保険取引および海商を含めた国際取引に関する法規整を概観する。この分野は、商法典の条文、もしくは判例の理解のみならず、約款や条約、あるいは商慣習なども含めた実務慣行に注意を払う必要がある。いわば実務との関係で「生きている法」を扱うという意味で、意欲を持って取り組めば非常に面白い内容である。前期および後期の半分は保険法を、特に保険契約法を中心に扱い、後期の後半(11月～)は海商法およびそれに関連した国際取引に関する契約に対する法規整を扱う。保険会社や商社などの実務に興味がある者は是非参加してほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

- I 保険法
 1. 保険法総論・保険契約法総論
 2. 損害保険契約
 3. 生命保険契約
 4. 傷害保険
- II 海商法・国際取引法
 1. 海商法・国際取引法総論
 2. 海上企業者
 3. 海上運送契約・国際取引契約
 4. 海上危険・海上保険
 5. 国際取引における紛争解決

履修上の留意点
成績評価の方法

民法(総則・債権各論)および商法総則・商行為法を履修済み、履修中であることが望ましい。原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で対話式のケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

山下・竹濱・洲崎・山本『保険法』(第3版)(有斐閣)
レジュメで随時紹介する
<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

履修コード	326601
科目名	民事訴訟法
担当者名	間瀬 清史

講義の到達目標(ねらい) この講義では、民法など民事実体法についての一応の学習を終えた人を対象として、民事訴訟手続の概説を行います。ここに民事訴訟手続とは、私人間の権利義務ないし法律関係の存否を巡って生じた紛争の解決を目指し、そのための基準を提示する手続のことをいいます。判決手続のみならず、和解、調停および仲裁などの訴訟以外の民事紛争解決手続についても講ずる予定です。受講者に民事手続の全体像と民事理論の基本を体得してもらうのがこの講義の目標です。

講義の内容／授業スケジュール

(1～2) 民事紛争の解決制度、(3) 民事訴訟制度の現代的課題、(4) 訴え、(5) 裁判所、(6) 当事者、(7) 第三者による訴訟追行、(8～9) 本案と訴訟要件、(10～11) 当事者と裁判所の役割、(12) 口頭弁論の諸原則、(13) 口頭弁論の準備、(14) 証明と証拠、(15) 証明責任、(16) 当事者の行為による訴訟の終了、(17～19) 終局判決とその効力、(20～21) 複数請求、(22～24) 共同訴訟、(25～26) 訴訟参加、(27) 当事者の変動、(28～29) 上訴・再審・簡略な手続、(30) 試験

履修上の留意点
成績評価の方法

民事実体法の基本事項について一応の理解を有することが履修の前提となります。
日常の授業参加態度、論述式試験の結果及び受講者の提出物の内容等に依拠して行うつもりです。問題作成および成績評価にあたっては、講義に積極的に参加した人が有利になるよう配慮する予定です。

教科書／テキスト

名津井吉裕ほか著『民事訴訟法』(法学書院)2007年、3200円(税別)。

小林秀之編『判例講義 民事訴訟法(第二版)』(悠々社)2010年予定。

参 考 書

小林秀之編『法学講義 民事訴訟法』(悠々社)2006年、4000円+税。

『民事訴訟法の争点』(有斐閣)2009年、2400円+税。

『民事訴訟法判例百選 [第3版]』2003年、2800円+税。

履修コード	119301・326701
科目名	民事執行・保全法
担当者名	吉田 純平

講義の到達目標(ねらい) 本講義は、民事執行法・民事保全法の基礎的知識を取得するとともに、重要な論点について考察することによって、同法への理解を深めることを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール

後期前半までに、民事執行法を以下の順序で説明する。

民事執行法総論として、①民事執行・保全法序論、②執行機関、当事者、③民事執行における不服申立て。強制執行総論として、①債務名義、②執行文、③請求異議の訴え、④責任財産(第三者異議の訴え)、⑤強制執行手続。強制執行各論として、①不動産執行、②船舶執行、③動産執行、④権利行、⑤物の引渡請求権についての強制執行、作為・不作為についての強制執行。最後に、担保権実行と形式的競売、財産開示制度。

履修上の留意点
成績評価の方法

後期後半に民事保全法について講義を行う。

民法や民事訴訟法の内容と関連する。

定期試験および小テストによる。

教科書／テキスト

上原敏夫ほか『民事執行法・保全法(有斐閣アルマ)(第2版補訂)』1800円+税 ISBN 978-4-641-12323-6

法B

履修コード	119501・326801
科目名	倒産処理法
担当者名	鈴木 貴博

法 B

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

破産法を中心に倒産処理法制の概要とその基本事項に関する理解を深める。
倒産処理手続は、債務者・債権者・担保権者など多数の利害関係人の利益が錯綜し、債権者の平等な取扱いや、破産者の再起更生、社会経済上の不利益の回避といった要請に応え、実体法の規定に配慮しつつ、手続の基準として多数の利害関係人を納得させるように機能することが期待される。このような様々な実体的法律関係の修正・処理のための法制度の特徴と概要を学んでいく。

1. 倒産法制の概観
2. 破産原因・破産能力
3. 破産手続開始申立てとその効果
4. 別除権・相殺権
5. 破産財団をめぐる法律関係
6. 破産管財人の法的地位
7. 財団債権・取戻権
8. 否認権・配当
9. 免責・破産犯罪
10. 消費者倒産

履修上の留意点

民法法関連科目(民法・商法・民事訴訟法など)を履修済みか履修中であることが望ましい。その他、受講にあたって必要なことは開講時に指示する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

簡単なレポートと学期末試験により評価される。
徳田和幸『ブレップ破産法』(弘文堂、第4版、2008年) ¥1,260 ISBN978-4-335-31309-7
①伊藤眞『破産法・民事再生法』(有斐閣、第2版、2009年) ¥6,615 978-4-641-13544-4
②山本和彦・中西正・笠井正俊・沖野眞巳・水元宏典『倒産法概説』(弘文堂、2006年) ¥4,725 978-4-335-35373-4 C3032
③山本和彦『倒産処理法入門』(有斐閣、第3版、2008年) ¥2,205 978-4-641-13534-5
④青山善充・伊藤眞・松下淳一『倒産判例百選』(有斐閣、第4版、2006) ¥2,520 978-4-641-11484-6

履修コード	326911
科目名	行政救済法
担当者名	赤松 晃

講義の到達目標(ねらい)

「行政救済法」とは、行政機関による違法又は不当な行政作用により私人の権利権益に対する侵害が現に生じ、又は生じようとしているときに、私人を救済(法律が特に定める場合は自己の権利権益と関わらない紛争の解決としての訴訟を含む)するための法をいう。講義では、社会生活において必要な状況が生じたときに、必要な対応ができるように、「行政救済法」に関する基本的な知識及び考え方を学習する。したがって、講義での到達水準は、公務員採用試験のレベルとなる。

講義の内容/
授業スケジュール

講義は、原則として、指定テキストである宇賀克也『行政法概説 II 行政救済法』(有斐閣、第2版、2009年)の目次に従って進めていく。具体的な学習の内容及び進度は講義において述べる。適宜、関係する新聞記事、判例評釈、論文等を配布する。講義の進展に応じ、「行政救済法」の具体的な展開としてもっとも身近な税務争訟を取り上げ、実践的に検討する。

準備学習

- ・初回講義には、指定テキストである宇賀克也『行政法概説 II 行政救済法』(有斐閣、第2版、2009年)を持参すること。
- ・初回はイントロダクションとして、序論、序章、第1章を検討する。
- ・各回の予習項目を指定するので、該当箇所を必ず読み込んで出席すること。

履修上の留意点

税法が登載されている小六法又は六法全書などを持参すること(法令については(<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>)を参照)

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席状況及び随時行う小テスト並びに課題レポート又は定期テストの成績を総合勘案して行う。
宇賀克也『行政法概説 II - 行政救済法』(有斐閣、2版、2009年) 3500円 + 税 ISBN: 978-4-641-13058-6 C1032

参 考 書

- 参考書は、図書館の蔵書等を利用
- ・宇賀克也編『ブリッジブック行政法』(信山社、2007年) 2000円 + 税
 - ・藤田宙靖『行政法入門』(有斐閣、5版、2006年) 1900円 + 税
 - ・塩野宏『行政法 II』(有斐閣、4版、2005年) 2300円 + 税
 - ・塩野宏他編『行政判例百選 I・II』第五版(有斐閣)

関連リンク

<http://law.e-gov.go.jp/cgi-bin/idxsearch.cgi>

履修コード	327001
科目名	刑事訴訟法
担当者名	田中 優企

講義の到達目標(ねらい)

昨年5月に開始した裁判員制度は、国民が裁判員として刑事裁判に参加する制度ですが、裁判員に刑事手続に関する知識は求められていません。ですが、法制度を学ぶ法学部生としては、その一角をなす刑事訴訟法の基本原理、その法運用と問題点を学ぶことは不可欠でしょう。

法B

講義の内容/
授業スケジュール

そこで、この講義では、現行刑事訴訟法施行60年を迎えた我が国の刑事手続を規律する基本原理、これに基づく法運用の実際を理解してもらい、そこで生じている問題点の解決方法について、みなさんと共に考えていきます。

第1回目は、今年度の講義全般及び我が国の犯罪情勢・犯罪防止対策について、第2回目以降は、次の各項目を1回または複数回に分けて順番にお話します。

- ① 刑事手続の概要、刑事裁判のかたち
- ② 刑事手続に關与する機關・人とその役割
- ③ 強制捜査と任意捜査
- ④ 職務質問、所持品検査、自動車検問
- ⑤ 逮捕・勾留
- ⑥ 捜索・押収
- ⑦ 取調べ、接見交通権
- ⑧ 公訴、起訴状一本主義
- ⑨ 公判手続、裁判員制度
- ⑩ 訴因制度
- ⑪ 自白法則、補強法則
- ⑫ 排除法則
- ⑬ 伝聞法則
- ⑭ 裁判の効力
- ⑮ 上訴、再審

準備学習

憲法その他、1年次及び2年次配当の刑事法科目（刑法総論、刑法各論、刑事政策）を履修・学習していると、刑事訴訟法の理解もより一層、深まります。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

教科書及び六法を必ず持参してください。

学期末試験の成績により評価します。

椎橋隆幸編『ブリッジブック刑事裁判法』（信山社出版、2007年）2000円

井上正仁編『刑事訴訟法判例百選（第八版）』（有斐閣、2005年）2200円

参考書

渥美東洋『全訂刑事訴訟法（第二版）』（有斐閣、2009年）5300円

椎橋隆幸編『プライマリー刑事訴訟法（第二版）』（不磨書房、2008年）2900円

椎橋隆幸編『よくわかる刑事訴訟法』（ミネルヴァ書房、2009年）2600円

その他

授業に関する質問は遠慮なくどうぞ。

履修コード	333301
科目名	財政学
担当者名	はやま のり子 速水 昇

法B

講義の到達目標(ねらい)

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。

さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。

なお、公務員試験、入試試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。

講義の内容／
授業スケジュール

<前期>

- 1週 財政とは何か
- 2週 政府の役割
- 3週 公共財
- 4週 外部効果
- 5週 費用逓減産業
- 6週 政府の失敗
- 7週 予算の機能
- 8週 予算原則
- 9週 特別会計
- 10週 予算過程(編成)
- 11週 予算過程(執行・決算)
- 12週 政府の収入
- 13週 租税収入(所得税)
- 14週 租税収入(相続・贈与税)
- 15週 その他の租税収入

<後期>

- 1週 経常的歳出(公債費)
- 2週 経常的歳出(地方交付税交付金)
- 3週 社会保障関係費
- 4週 公共事業関係費
- 5週 防衛関係費
- 6週 経済協力費・文教及び科学振興費
- 7週 中小企業関係費・他歳出
- 8週 財政政策(国民所得の決定)
- 9週 財政政策(インフレ・デフレギャップ)
- 10週 財政政策(政府支出乗数)
- 11週 財政政策(租税乗数・外国貿易乗数)
- 12週 財政政策(I S曲線)
- 13週 財政政策(L M曲線)
- 14週 財政政策(I S・L M曲線の応用)
- 15週 質疑応答

履修上の留意点

学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する(小テストを受けていない学生は成績評価の対象外としますのでご注意ください)

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験、授業中の小テスト、レポート
速水 昇・水野恵子・和田尚久著 『公共経済と租税』学文社

履修コード	117301
科目名	政治学原論
担当者名	おれつか かつら 大塚 桂

講義の到達目標(わらい)

I 自己紹介

私は、いままでイギリスの政治的多元主義・新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれません。政治学のみならずひろく隣接領域にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第二研究館八階(2835)にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377(直)です。

II 講義の目的

政治学原論はカリキュラム上、基礎的部門に属しています。政治学原論は政治学の総論であるとともに、基礎理論としての意味合いをもつものです。講義の目的の第一は、現代政治学の体系的な理解を深めることにあります。目的の第二は、政治現象の理論的説明と解明ができるように基礎的的原理的知識を修得することです。目的の第三は、近い将来履修するであろう他の専門学科目を研究する上で必要な知識を提供することです。

III 講義のすすめかた

現代政治学のアウト・ラインを理解してもらうために、一回一テーマ主義でかなり広範囲な問題にふれていきます。それだけに、授業のペースは少しばかりはやくなります。講義はテキストに準拠しつつすすめます。学生諸君は授業に出席することはもちろんのこと、予習・復習・自主研究などの研鑽をつんでください。教員と学生、それぞれの努力によって学習効果をあげていきたいと考えています。

IV 講義の内容

おおよそ、以下の諸問題を取り上げる予定です。

A 政治学の課題と対象、ならびに方法(1)

B 政治の原理的究明

(1) 政治的なるもの

～政治的空間、政治権力、正当性、権威、政治倫理、抵抗と不服従

(2) 共同体的なるもの

～国家、社会、主権、法

(3) イデオロギー的なるもの

～イデオロギー、正義、自由、平等、人権(シティズンシップ)(2～15)

C 政治の実体論的究明

(1) 制度論的究明

～権力分立、議会、選挙、地方自治、官僚制(16～22)

(2) 機能論的究明

～政党、圧力団体、市民参加、マスコミ、政治教育、政治的社会化(23～30)

講義の内容/
授業スケジュール

成績評価の方法

V 成績評価

単位の認定は、ペーパー試験を中心におこないます。

成績評価は

中間試験：50%

学年末試験：50%

以上の割合によるものとします。教科書、授業の理解度を重視し採点します。

なお、追試験も実施します。

教科書/テキスト

大塚桂『政治学原論序説』(勁草書房)3,296円

大塚桂『政治哲学入門』(法律文化社)2,900円

上記教科書の巻末にある参考文献を参照のこと。

参 考 書
そ の 他

学習にあたっては、大塚編『補章オリエンテーション政治学』『政治学へのいざない』(成文堂)、大塚編『日本の政治学I』(法律文化社)等を参考にしてください。

法 B

履修コード	117401
科目名	政治史
担当者名	<small>よくだなが ふみお</small> 福永 文夫

法B

講義の到達目標(わらい)

政治は広く私達の生活に関係しており、また私達は主に選挙を通じて政治を形作っていく立場にもあります。したがって政治を知ることは社会人の大事なたしなみといえます。本講義は、法律学科の1・2年生を対象としていますので、社会人の素養としての活きた政治史を心がけ、政治史上の基本的な知識を修めるとともに、歴史的な分析を通じて現在への政治的理解を深めることを目的としています。

講義の内容/
授業スケジュール

本年度の「政治史」では、戦後日本の政治と外交を論じることで、この国の来し方を考え、21世紀日本政治の課題について考えてみたい。

講義内容は、以下を予定しています。スケジュールなど詳細は開講後にお知らせします。

前期：(1) はじめに－戦後日本と国際環境 (2～3) 日米戦争への道 (4～6) 米国の日本占領政策 (7～8) 敗戦と占領の開始 (9) 政党の復活 (10～11) 日本国憲法の制定・占領改革 (12) 政党政治の再生 (13～14) 中道政権の形成と崩壊 (15) まとめ
後期：(16～17) 占領政策の転換と吉田茂の再登場 (18) 講和への胎動 (19～20) 講和をめぐる国内政治・国際政治 (21) サンフランシスコ講和会議と日米安保条約 (22) 保守勢力の混迷 (23～24) 55年体制の成立－保守合同と社会党の統一 (25) 岸・鳩山内閣 (26) 安保騒動 (27～29) 高度経済成長と日本政治 (30) おわりに

履修上の留意点
成績評価の方法

履修する学生には、出席と積極的な授業参加を求めます。

成績は、随時おこなう出席調査と、中間試験、学年末試験によって評価します。初回の授業で詳しい説明を受けてください。

教科書/テキスト
参 考 書

福永文夫『戦後日本の再生』丸善、2001年、税別2300円、ISBN:9784621074626。

参考図書は、講義のなかで随時紹介していきます。

履修コード	117501
科目名	経済原論
担当者名	まつま たつし 松前 龍宜

講義の到達目標(わらい) 本講義は、前期にミクロ経済学、後期にマクロ経済学の基礎理論を学び、ミクロ・マクロの経済政策が、どのように私たちの生活に影響を及ぼしているのかを理解してもらうことを目的とする。講義方針として、表とグラフの直観的理解に加え、簡単な数式モデルを使って論理的にも理解してもらうこととする。

法B

講義の内容/
授業スケジュール

- (前期)
1. ガイダンス、テキストと成績評価。
 2. 需給分析・余剰分析Ⅰ (第1章)
 3. 需給分析・余剰分析Ⅱ (第1章)
 4. 需給分析・余剰分析Ⅲ (第1章)
 5. 市場への政府介入Ⅰ (第2章)
 6. 市場への政府介入Ⅱ (第2章)
 7. 公共事業と競争政策Ⅰ (第3章)
 8. 公共事業と競争政策Ⅱ (第3章)
 9. 公共事業と競争政策Ⅲ (第3章)
 10. 外部性Ⅰ (第4章)
 11. 外部性Ⅱ (第4章)
 12. 外部性Ⅲ (第4章)
 13. 公共財 (第4章)

(後期)

1. マクロ経済指標と国民経済計算 (第1章)
2. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅰ (第7章)
3. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅱ (第7章)
4. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅲ (第7章)
5. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅳ (第7章)
6. 安定化政策の基礎と財政・金融政策Ⅴ (第7章)
7. インフレ・デフレと失業Ⅰ (第8章)
8. インフレ・デフレと失業Ⅱ (第8章)
9. インフレ・デフレと失業Ⅲ (第8章)
10. インフレ・デフレと失業Ⅳ (第8章)
11. 成長理論Ⅰ (第6章)
12. 成長理論Ⅱ (第6章)
13. 成長理論Ⅲ (第6章)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

数学の知識は特に必要としない。
試験60%、レポート40%で評価する。
岩田規久男、飯田泰之著、『ゼミナール経済政策入門』(2006)、日本経済新聞社、ISBN: 4-532-13310-6

参 考 書

ミクロ経済学：武隈慎一、(1999)、『ミクロ経済学』、新世社
マクロ経済学：N. グレゴリー・マンキュー、足立ほか訳、(2008)、『マンキューマクロ経済学Ⅰ 入門編』、東洋経済新報社

そ の 他

板書による講義形式である。

履修コード	117701
科目名	比較憲法
担当者名	にし おさむ 西 修

講義の到達目標(わらい) 比較憲法は、世界の憲法動向を知り、日本国憲法を広い視野から眺めるといって非常に大きな効用をもっている。本講義は、主要諸国のみならず、アジアや発展途上国の憲法をも対象にして、立体的に組み立てる。

講義の内容/
授業スケジュール

おおむね以下の内容になる。(1) 比較憲法とは(研究の意義、比較の対象、方法、限界など)
(2) 欧米主要諸国の憲法(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツなど)の概要、(3) アジア諸国の憲法(中国、韓国、北朝鮮など)の概要、(4) 項目別の比較(平和主義、家族条項など)。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

毎回配布するであろう資料を熟読すること。
試験結果にもとづき評価する。
『世界地図でわかる日本国憲法』(講談社、1500円+税)
(1) 西修著『憲法体系の類型的研究』(成文堂)1997年

参 考 書

(2) 取り扱う内容に応じて指定する。

そ の 他

私語、途中からの入退室は厳禁。

履修コード	117901
科目名	西洋法制史
担当者名	小室 輝久

法 B

講義の到達目標(ねらい)	イングランド法及びヨーロッパ大陸法のそれぞれの基本的な考え方を法の歴史を通して理解し、かつヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を、現代日本の法及び裁判制度と比較しながら認識できるようにすること。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～9回 第1章 イングランド・フランス・ドイツ法制史の概観、第10～15回 第2章 中世ヨーロッパの法および現代のヨーロッパ法、第16～23回 第3章 コモン・ローとシヴィル・ローの諸特徴、第24～25回 第4章 原意主義と釈義学派、第26～28回 第5章 ヨーロッパ古来の裁判手続、皇帝権・王権とローマ法、12世紀ルネサンス、第29～30回 第6章 ドイツ民法典の編纂と政治文化
準備学習	*講義内容は必要に応じて変更することがあります。 高等学校で学習した世界史のうち西洋史の部分の復習しておいて下さい。また、講義を受講した後で、テキストの該当箇所をよく読んで下さい。
履修上の留意点	講義を通してヨーロッパの法と裁判制度の歴史に関する一通りの知識を習得することがまず必要ですが、それだけでなく、ヨーロッパの歴史的な法と裁判制度が現在の日本のそれとどう違うのかに気づき、またなぜ違っているのかを考えることが、より重要です。
成績評価の方法	講義に対する質問は、講義終了後次回の講義までの間に、講義担当者あてに電子メールで提出して下さい(質問の内容により平常点として試験点数に加えます)。 原則として学年末試験により行います。試験の評価は、講義内容を十分理解した上で、ヨーロッパの歴史的な法及び裁判制度の特徴を現代日本の法及び裁判制度と比較しながら指摘できているかどうかを基準に行います。試験点数に平常点(「履修上の留意点」参照)を加えて最終の成績評価を行います。
教科書／テキスト	R. C. van Caenegem, European Law in the Past and the Future: Unity and Diversity over Two Millennia, Cambridge University Press, US \$39.99 ISBN:978-0521006484
参 考 書	J・ベイカー (小山貞夫訳)『イングランド法制史概説』創文社、9975円 ISBN:978-4423740286 F・W・メイトランド (小山貞夫訳)『イングランド憲法史』創文社、12600円 ISBN:978-4423492130 R・C・ヴァン・カネヘム (小山貞夫訳)『裁判官・立法者・大学教授』ミネルヴァ書房、3780円 ISBN:978-4623020447 田中英夫『英米法総論(上)』東京大学出版会、3675円 ISBN:978-4130350518 勝田有恒・山内進・森征一編『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房、3360円 ISBN:978-4623040643
そ の 他	講義担当者連絡先(講義に対する質問等のあて先) tkomuro@kisc.meiji.ac.jp

(メールを送信する場合は、「講義の曜日・時限、科目名、学科、学年、学生番号、氏名」をメールの「題名(件名)」に必ず記載して下さい。)

講義担当者ホームページ (<http://www.kisc.meiji.ac.jp/~tkomuro>)

履修コード	118101
科目名	法律時事英語
担当者名	井上 健一 <small>いのうえ けんいち</small>

講義の到達目標(ねらい)

法律英語と言った場合、大別して2つの形態のものに習熟する必要があるように思われる。一つは、法律について書かれた論文や記事であり、もう一つは法律そのものや契約書の規定である。日本法を勉強していても実感できると思うが、「議論されること」を前提にして説明しようとする動機に基づいて書かれる前者と、さまざまな事実を大きなくくりで抽象化しようとする後者とは相当異なる。本講義は、基本的に前者を素材として扱いつつ、後者についても必要な限り触れようと思う。

講義の内容／
授業スケジュール

簡単なオリエンテーションの後、配布文献の輪読。まず英文を音読してもらい、その後、翻訳をしてもら。前後期通じて、特に発表者は指定せず、ランダムに授業内で指名した者にその都度、音読・翻訳をしてもらう。よって、参加者は常に準備が必要である。

準備学習

英語の習熟レベルは英検2級以上あることが望ましいが、ただ、熱意でカバーは十分可能である。法的な知識は前提としないが、あるに越したことはない。英語のトレーニングである以上に、「法」を理解することが最大の目的であることをお互い(履修者も私も)忘れないようにしたい。

履修上の留意点

配布教材の翻訳。単語をつなげるのではなく、きちんと文章として理解すること。履修前に高校レベルの英文法の復習しておくこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト

様々な文化のありかたに触れ、深く物事を考えたいという意欲を持つこと。単位合わせのための履修というスタンスでの参加はご遠慮願いたい。

参考書
関連リンク

出席と授業での翻訳・議論への貢献による。レポート等は課さない。テストも実施しない。英字新聞からのコピーを配布する。辞書は英和中辞典レベル以上のものを使用すること。さしあたり、小学館のプログレッシブ英和中辞典を推奨しておく。
適宜紹介する。
<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

法B

履修コード	127001
科目名	行政学
担当者名	田丸 大 <small>たまる だい</small>

講義の到達目標(ねらい)

例えば、ゴミの収集、建物や食品の安全性のチェック、今般の金融危機における経済政策など、我々の日常生活は「行政」と密接に関わっている。そういった行政の活動や政策とはどのようなものか、また具体的にどのように世の中や我々の生活に関わっているのかといった点について理解を深めることが講義の狙いである。ニュース番組を初めとした視聴覚教材も時々用いながら、行政学の理論(考え方・法則)と実際の事例(ニュースなど)との関連に特に注意を払う予定である。

講義の内容／
授業スケジュール

行政学とは(1～4)行政・政策を見る視点(5～10)国家観の変遷(11～14)行政国家、福祉国家(15～18)行政改革(19～24)民営化と規制緩和(25～28)地方自治と地方分権改革(29～30)。()内の数字は、講義の大まかな回数です。

準備学習

新聞、ニュース番組をできるだけ毎日見て、教科書に書いてある行政理論と、現実の行政・政策の動きを結びつけて考える練習を積んでください。

履修上の留意点

現実の行政や政策と理論を結びつけて考えることが狙いであるので、新聞などに目を通す習慣をつけて欲しい。

成績評価の方法

学年末試験1回と、授業内の複数回の小テスト(小テストの回数や方法は、受講生の人数や教場によって決めるので、4月の開講時なるべく速やかに具体的に示します。)による。

教科書／テキスト

森田朗『現代の行政(改訂版)』放送大学教育振興会、2000年、2,100円、ISBN9784595830846
半分程度しか使用しない予定である。適宜、参考書の該当ページ・箇所を指摘する。購入するか否かは、様子を見てで構わないと思います。

参考書

早川純貴、内海麻利、田丸大、大山礼子『政策過程論—「政策科学」への招待』学陽書房、2004年、2,730円、ISBN9784313320352

その他

履修者が多く教場に入りきれない場合は、履修制限を行うことがあります。その場合は政治学科を優先します。次に、法律学科フレックスAの1年、2年、フレックスBの学生の順に、履修を許可する予定です。履修を許可されなかった場合は、科目登録をコンピューター上で行ったとしても、学年末の成績でF(不合格)が付く予定です。詳細は初回及び2回目の講義で話します。

もし履修制限となってしまった法律学科の学生は、フレックスBの時間帯の行政学を履修してください。

内容は、ほぼ同じになるように努めます。(進度は異なります。)

履修コード	118401
科目名	英米法
担当者名	にしやま としお 西山 敏夫

法 B

講義の到達目標(ねらい)

大陸法を学んだ我々にとり理解しにくい英米法の側面に重点を置き、主要な実体法概念の発展過程を探求することを目的とする。

前期は、英米公法成立の過程を概観したのち、米国憲法のリーディング・ケースについて検討する。また、後半では、企業買収に関する英文契約書を材料にして、英文契約書の読み方を練習する。

後期は、英米私法について考察するが、特にその基礎であるコモンロー、エクイティの発展、その応用である信託・フィデュシャリーに焦点を当て、英米私法の特徴を考察する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 前期

- ①英米公法の成立と特徴 (4回)
- ②米国憲法の原則とリーディング・ケース (4回)
- ③英文契約書の読み方と演習 (5回)

2. 後期

- ①コモンローの成立と発展 (3回)
- ②中世不動産法と発展 (3回)
- ③近代契約法 (2回)
- ④信託とユース (3回)
- ⑤フィデュシャリーとコーポレート・ガバナンス (2回)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

論文式筆記試験 (後期試験期間・年1回)

英米判例百選第三版 (有斐閣)

英米法総論 上 (田中英夫, 東大出版会)、英米法の歴史家たち (ホウルズワース, 創文社)

試験準備には講義ノートが最も有効である。各自注意して出席し、ノートをとること。

履修コード	118601
科目名	仏法
担当者名	上井 ^{うえい} 長久 ^{たけひさ}

講義の到達目標(ねらい)

フランス法の根幹をなす諸制度および諸理論と、それらの理解に必要な社会的背景および歴史を講義する。フランス法は、我が国の母法の一つとして重要であるばかりではなく、近代国家として、いち早く成文の憲法、諸実定法を持つ法典国として経験が豊富であり、法の宝庫としても重要である。

法B

講義の内容／
授業スケジュール

本講義は、フランス法の根幹をなす諸問題を対象として、フランス私法・公法の基底を理解することを目的とする。近現代の私法・公法の基本的問題ばかりでなく、古代フランク時代と封建制度下の中世の法とにわけられる古法の時代、および自由と平等を旗印とした大革命に始まる革命期の法すなわち中間法の時代の法をも本講義の課題としている。フランスの近現代法は、19世紀初頭に統一的な成文法により樹立され発展したが、それまでの法を基礎として、或いは統一・整備され、或いは断絶・改良たものである。フランスの近現代の法を深く理解するためには、古法、中間法をも学ぶ必要がある。本講義は、そのようなフランスでいわゆるフランス私法・公法の序論と歴史と称する領域を原典資料(法文、判例、学説、一般論述等)により理解しようとするものである。

本講義は、まず、近現代のフランス私法・公法の基礎であるフランス人権宣言と19世紀におけるその開化について、近現代の私法・公法上の個別的問題と関係づけながら考究し、次いで、法典編纂および判例の役割という、伝統敵かつ現代においてもなお重要な私法・公法の基本的問題について、それまでの歴史的経緯を踏まえて、現代的意義を検討する。

第1回：フランス法の概要、近年の法的諸問題、第2回：フランス人権宣言の法的効力、第3回：フランス現行憲法前文の法的効力、結社の自由に関する憲法院判決、憲法院の役割、第4回：革命期の諸人権宣言および諸憲法、第5回：1789年人権宣言の着想の背景・精神、第6回：法の支配、法治国家、第7回：ナシオン主権とプーブル主権、第8回～9回：身体的自由、第10回：個人的所有権の確立、第11回：権力分立、国会優越から大統領優越へ、第12回：1946年憲法前文の社会権—労働の権利義務、第13回：企業の国有化と私有化、第14回：生存権、福祉国家、第15回：第三世代の人権—国際的連帯権ないし協調権、第16回：法の下の平等—男女平等、子の平等、第17回：夫の優越から夫婦平等へ、第18回：法典編纂とその後の私法実定法の変遷、法典化・再法典化・非法典化、第19回：法典編纂の意義・目的、啓蒙期思想家による古き良き法、ナポレオンの5法典と王令・中間法、第20回：フランク王国の法—ゲルマン法とローマ法、世俗法と教会法、属人法、第21回：高期中世(制限王政期)の法、属地法、第22回：絶対君主制(旧体制)の法、第23回：革命期における民法典の制定経緯、第24回：委員会草案とポルタリス起草の序論、第25回：議院との非公式交渉、第26回：判例の効力—判決の構造と判例、判例観の変遷(古法、中間法)、第27回：判決の既判力、判例の拘束力と創造力、第28回：判例の非拘束性の原則とその修正、司法裁判所・行政裁判所・権限裁判所、第29回：権利濫用論、第30回：法律の解釈と法学の法律学化(注釈学派、科学学派)

準備学習

予定された授業のテーマについて、教科書および参考書を中心にして概要を把握し、質問事項を用意して授業に臨まれると、授業内容をより深く理解してもらえらると思います。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

フランス法とフランス語に興味があれば、楽しく受講してもらえらると思います。
成績評価は、学年末の定期試験で行う。

参考書

上井長久著プリント版「Introduction au droit privé」、「Introduction au droit public」及び「Histoire du droit privé」(最初の講義の時に配付する予定)

ジャン・アンペール著三井哲夫=菅野一彦訳『フランス法制史』(白水社文庫クセジュ)、山口俊夫『概説フランス法 上』(東大出版会)、滝沢正「フランス法」(三省堂)

履修コード	118701
科目名	債権各論
担当者名	青野 博之 <small>あおの ひろゆき</small>

法B

講義の到達目標(ねらい)

債権各論とは、民法典のうち、第3編「債権」の第2章「契約」、第3章「事務管理」、第4章「不当利得」および第5章「不法行為」をいう。

たとえば、Aが自己所有の土地をBに売却する契約をBとの間で締結した場合には、Aは、Bに対して代金を払うように請求することができる。つまり、代金債権が発生する。また、Cの家にDの運転する車がぶつかって、家が壊れた場合には、Cは、Dに対して賠償金を払うように請求することができる。つまり、損害賠償債権が発生する。このように、債権は、契約、不法行為など、さまざまな理由によって発生する。このような債権発生原因について考察するのが、債権各論である。具体的には、たとえば不法行為では、どんな場合に損害の賠償を求めることができるか、どのような損害の賠償を求めることができるかが問題となる。

なお、債権の発生原因のうち、債権各論で学ぶのは、契約、事務管理、不当利得および不法行為だけであるが、これらが債権発生原因の主要なものである。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1～2回：契約の成立（申込、承諾）
- 第3～4回：契約の効力（同時履行の抗弁権、危険負担）
- 第5～6回：契約の解除
- 第7～10回：所有権移転型の契約（贈与、売買、交換）
- 第11～14回：貸借型の契約（消費貸借、使用貸借、質貸借）
- 第15回：これまでのまとめ
- 第16～20回：役務提供型の契約（雇傭、請負、委任、寄託）及びその他の契約
- 第21回：事務管理
- 第22～23回：不当利得
- 第24～29回：不法行為
- 第30回 これまでのまとめ

準備学習

指定教科書の該当頁及びどの本でも掲載されている概念・制度などを事前に知らせるので、これを予習しておくこと、授業の際に学習することができることが多く、深くなるはずである。

履修上の留意点

できるだけ債権総論も受講してほしい。債権各論を理解するために重要な科目だからである。また、これ以外の民法の科目も受講すると、民法全体の理解につながる。

成績評価の方法

質問は大歓迎である。講義の中では、私からも質問するので、答えてほしい。双方向の講義を目指している。

質問した回数および私からの質問に対する解答の回数を重視する。解答が正しいかどうかではなく、考えて解答することに意味がある。安心して答えてほしい。

受講者がそれほど多くなければ、質問と応答による平常点だけで成績を評価する。しかし、平常点で成績を評価することができないほど受講生が多ければ、年度末の試験を行う。試験を行う際には、いっさいの持ち込みを不可とする。

教科書/テキスト

大島俊之ほか著『ブリーメール民法4・債権各論（第3版）』（法律文化社）2005年 2,700円（税別）、ISBN4-589-02876-X

教科書は上記のものを使うが、自分が気に入ったもの、手持ちのものがあれば、それでもよい。

参考書
その他

講義に際して紹介する。

出席し、質問し、私からの質問に答える、積極的な学生であってほしい。

YeStudyを活用する。

履修コード	120401・120402
科目名	外書講読Ⅰ（英書） 外書講読Ⅱ（英書）
担当者名	王 志安 <small>おう しあん</small>

講義の到達目標(ねらい)

英語で書かれた、国際法教科書を使って、英語の読解力の向上をはかると同時に、国際法についての理解を深める。

講義の内容/
授業スケジュール

演習形式で行う。履修生は、あらかじめ指定された箇所を全員が読んで訳文案を作成し、毎回あらかじめ指定する担当者の訳を素材に、全員がその内容を検討する。進行度は履修生の英語読解力によって異なるので、年間の細かいスケジュールを立てることはせず、読解力と理解力の深化に応じて、一回ごとに読み進む分量を増やすようにする。

履修上の留意点

十分な準備が必要になる。毎回、自分が報告担当者になるつもりで、十分な準備をすること。

成績評価の方法

毎回の出席および討論参加をもとにした平常点と、11月末に課する共通課題英文の翻訳レポート成績をあわせて判定する。

教科書/テキスト

あらかじめ指定することはせず、年度当初に複数提示する入門書のなかから、履修生の希望によって、用いるテキストおよびその該当箇所を決定する。決定したテキストはコピーで配布するので、履修生が購入する必要はない。

参考書

随時指定する。

履修コード	120701・120702
科目名	外書講読Ⅰ（独書） 外書講読Ⅱ（独書）
担当者名	まつむら いいたる 松村 格

講義の到達目標(ねらい)	ドイツ語の法学文献を読むことを通して、ドイツ人の法的感覚・法意識・法理論の構成を学習し、日本人のそれらと比較することによって、日本と日本人の法意識についての長短を知ることが目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	ドイツ語の法学文献を逐条解釈していきます。私が毎週指定した範囲の文章について、受講生が予習してきて全員が順番で翻訳発表することにします。
準備学習	そして、解釈の是非を相互に指摘しながら読み進めます。
履修上の留意点	必ず授業の進度予定分の翻訳予習をすること。 毎週出席して参加することが不可欠です。日本の法学・法哲学・法理論の基本書を参考にしながら、講読すると理解しやすいです。ドイツ語の文法書と独和辞典を常に携帯してください。ノートに原文と訳文を筆記することも良策です。
成績評価の方法	普段の予習・復習の態度と講読力および出席回数によって評価します。
教科書／テキスト	未定。第1回目の授業に配布します。
参考書	未定。

法B

履修コード	120801・120802
科目名	外書講読Ⅰ（仏書） 外書講読Ⅱ（仏書）
担当者名	あらかさ まさなか 荒木 正孝

講義の到達目標(ねらい)	わが国が近代国家として出発するとき、フランスをはじめヨーロッパ諸国の法制度や政治制度に多くを学んだ。そして、その諸制度は現在もわが国を支える基本的な法的・政治的枠組みとなっている。これらの諸制度が、本来どのような考え方を基礎として生まれ、どのような社会的、経済的、政治的背景のもとに発展してきたのかについて、フランス語の原書の講読を通して母国法の思考や事情を学び、わが国の制度をより広い観点から深く理解する力をつけてもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	教材は、受講生のフランス語の学力に合わせ、公法や私法の基本的な考えや政治の仕組みなどを易しく解説した原書の文献を選ぶつもりである。
準備学習	授業の中で必要に応じて指示する。
履修上の留意点	履修にあたっては、基礎的なフランス語の学力が必要である。また、根気よく文献の解読に取り組む熱意のあることが求められる。
成績評価の方法	成績は、出席の回数と平常の努力を評価して行う。ペーパーテストは行わない。
教科書／テキスト	教材については、必要に応じてプリントを配布する。
参考書	参考書は、授業の内容に応じてその都度紹介する。

履修コード	120901・120902
科目名	外書講読Ⅰ（中国書） 外書講読Ⅱ（中国書）
担当者名	いわさき ひろし 岩崎 皇

講義の到達目標(ねらい)	社会問題や犯罪等のニュースを通して、中国の今を知ること。
講義の内容／授業スケジュール	文章の訳読を中心に授業を進めます。
履修上の留意点	授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ない理由（急病、急用、忌引、部活動等）により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得はできません。
成績評価の方法	また、これまで中国語を勉強したことのない人は履修できません。
教科書／テキスト	4分の3以上の出席を前提に、前期後期それぞれ1回行う試験によって評価します。
	インターネット上で見られる新聞記事を元に教材を作成します。

履修コード	101202
科目名	現代企業論
担当者名	江夏 あかね

法 B

講義の到達目標(ねらい)

本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 金融・経済関連情報の捉え方
- 第3回 証券投資のリスク・リターンの概念
- 第4回 証券市場の概要と市場参加者
- 第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識
- 第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎
- 第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (1)
- 第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (2)
- 第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-1)
- 第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-2)
- 第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-1)
- 第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-2)
- 第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き
- 第14回 レポートの講評
- 第15回 まとめ

成績評価の方法

定期試験とレポートで評価する。

教科書／テキスト

毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。

参 考 書

江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725、978-4785716172。

そ の 他

代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100、978-4419048792。

金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	116601
科目名	国際紛争解決法
担当者名	志安

講義の到達目標(ねらい)

国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界および適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能および事例検証の形で解明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決および世界貿易機構(WTO)の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査および調停といった制度の展開および適用、国連における紛争処理の制度的展開および現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続きおよび制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判および国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立およびその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。

準 備 学 習

授業前教科書の関連箇所を読むこと。関心のあるテーマについて読書すること。聞きたい問題を用意すること

履修上の留意点

参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。聴講ノートをしっかり取り取ってもらいたい。

成績評価の方法

power pointで講義を進める。簡潔な聴講ノートは、Yestudyから入手できる。

学年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストや出席状況も成績を評価する際に考慮される。

教科書／テキスト

家正治など 共著 『国際紛争と国際法』(嵯峨野書院、2008年)

参 考 書

大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版(下)(東信堂)2002年 2,000円

そ の 他

市販されている国際条約集および国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。

授業はPower Pointを使って講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。

履修コード	118801
科目名	登記法
担当者名	たぬま ひろし 田沼 浩

講義の到達目標(ねらい)	初めて登記法を学ぶ者にも、以前勉強したことのある者にも、民法・会社法・商法の手続法としての「不動産登記法・商業登記法」が現在の取引社会においてどのような役割を担っているのか、両法のより深い理解を図ります。また、登記簿等のオンライン閲覧や今後予想されるオンライン登記申請に伴う情報リテラシー（活用）能力を養います。
講義の内容／授業スケジュール	（前期）（1・2）登記法概論（3～5）不動産登記法総則・商業登記法総則（6～15）会社法第四章登記、商法第三章商業登記及び会社法にかかる商業登記、（後期）（16～18）会社法にかかる商業登記つづき（19～21）民法典物権編総則にかかる不動産登記（22）所有権にかかる不動産登記（23～26）民法典相続編にかかる不動産登記（27～29）担保物権にかかる不動産登記（30）まとめ
準備学習 履修上の留意点	民法及び会社法の日頃から関心をもって、書籍や新聞を読みましよう。 不動産に関する取引全体の流れに対して、情報として重要な役割を果たす不動産登記を理解することを目指し、会社法と相関させることによって会社の起業や取引先の情報収集に役立つ商業登記法の知識を最低限習得できるように努めます。受講者は民法典第二編物権、第三編債権、第五編相続、会社法の履修を望みます。また、この講義を受講することが望ましい者として、将来、企業の法務部・総務部に配属されることを考えている者、不動産・金融関係の会社に就職を希望する者、起業して自営業を目指す者、そして司法書士試験を受験したいと考えている者など、広く対象とします。
成績評価の方法	学年末試験の結果と提出物（前期レポート）の内容に依拠して行います。問題作成及び成績評価にあたっては、教科書等から問題を作成し、講義に積極的に参加した人が有利になるように成績評価を配慮します。
教科書／テキスト	『定款の実務』日本司法書士会連合会の推奨図書（オンブック 田沼浩著）3600円。オンブックサイトから直接購入してください。『定款の実務』か、『田沼浩』で検索するか、次をクリック。 { http://www.onbook.jp/bookd.html?bid=0099 }
参 考 書	『窓口の相談事例にみる事項別不動産登記の Q&A200選』（日本法令 不動産登記研究会編）2,310円 『有斐閣判例六法 Professional』（有斐閣）5,460円 法務省民事局編『不動産登記実務〔5訂版〕』（法曹会）
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/

法 B

履修コード	119001
科目名	財政学
担当者名	つかもと まさみ 塚本 正文

講義の到達目標(ねらい)	私たちは、様々なサービスなどを国や地方自治体から受け、反対に租税を納めている。これだけ身近な問題でありながら、その仕組みは複雑で専門用語だらけのように見える。そこで、私たちはなぜ租税を納めなければならないのか、納めた租税はどのように用途が決定されるのか、どのような租税や公共サービスが存在するのかなど生活に密着した話題をテーマに、財政の仕組みや問題点を学び、税や政府について理解を深めることを目的として講義を行う。
講義の内容／授業スケジュール	（第1～2回目）財政の枠組みとはどういうものなのか、（第3～4回目）政府のお金の使い道はどの様に決まるのか～予算について～、（第5～7回目）政府が集めたお金は何に使っているのか～政府支出について～、（第8～11回目）政府はどの様にお金を集めているのか～租税について～、（第12～14回目）政府の借金とは何か～公債について～、（第15回目）前期の総括、（第16～18回目）まちと財政問題～地方財政について～、（第19回目）財政のもつ機能について、（第20～22回目）資源配分～財政の機能Ⅰ～、（第23～25回目）所得再分配～財政の機能Ⅱ～、（第26～28回目）景気政策～財政の機能Ⅲ～、（第29回目）地球環境と財政、（第30回目）後期の総括
履修上の留意点	できるだけ指定した教科書に沿ってすすめるので、当日の講義内容を予め読んでおくこと。また、日頃から新聞の政治および経済欄を読んでおくこと。
成績評価の方法	学期末試験の結果をもとに成績を決定する。ただし、授業時に指示する提出物（レポート）の提出状況も考慮に入れる。
教科書／テキスト	里中恒志・八巻節夫編著『新財政学』文真堂 ¥3,300 ISBN:4-8309-4546-X

履修コード	119101
科目名	経済政策
担当者名	もりおか じん 森岡 仁

法 B

講義の到達目標(ねらい)	市場を中心とした自由主義経済の中に、国が運営する経済政策を導入するようになってかなりの時間が経過したが、今や国民は経済政策を抜きに安定した経済生活を送ることはできない。本講義では経済政策の基礎を構成する諸概念の理解を深めることによって、日々展開される実践的経済政策を的確に判断する力を高めることを目的としている。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～4) 経済政策の概念、経済政策の目標、経済政策の手段、経済政策学、(5～8) 重商主義の経済政策思想、自由主義の経済政策思想、価値判断論争と経済政策学、現代経済政策学の方角、(9～12) 政策課題としての福祉問題、政策課題としての秩序問題、政策課題としての社会問題、現代政策課題の総括、(13～16) 経済成長の意義、古典派の経済成長論、完全雇用と現代の成長政策、経済成長と資本・労働、(17～20) 安定と成長の問題、経済変動とその安定政策、物価変動のメカニズム、現代インフレーションの対策、(21～24) 経済均衡と市場機構、独占と寡占、寡占の本質と作用、産業組織政策の展開、(25～28) 社会的公正と社会均衡化政策、国民所得の分配と再分配、公害問題の発生、福祉国家への道、(28～30) 現代の人口問題、人口政策の課題、経済政策と人口政策。 経済政策の根底には経済理論があるが、少しでも経済理論に触れておくことが好ましい。 学年末の定期試験。追試験も実施する。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	森岡他著『現代経済政策』(千倉書房) 1975年 2,520円。4-8051-0842-8 特に指定せず。 授業方法は講義。

履修コード	119201
科目名	社会政策
担当者名	はらだ けいいちろう 原田 啓一郎

講義の到達目標(ねらい)	社会政策という学問領域は、経済学のみならず、社会学、法学、政治学、哲学、歴史学など様々なアプローチによって分析される。学際的な研究領域としての社会政策に対して、法政策(学)の視点からの接近を試みることにより、巷にあふれる政策への根拠なき直感的な批判に惑わされることなく、体系的かつ理論的に社会政策の課題を考察する力を養うことを目標とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1～2回：社会政策の意義と範囲、第3～4回：社会政策と理念、第5～6回：資源の供給と福祉の社会的分業、第7～9回：子育て政策、第10～12回：保健医療政策、第13～15回：障害者・高齢者介護政策、第16回：障害者の社会的参入政策 第17～21回：最低所得保障と就労政策、第22～23回：労働市場政策、第24回：労働安全衛生政策、第25～28回：年金政策、第29～30回：住宅政策
履修上の留意点	社会政策は雇用問題や社会保障・福祉問題と密接な関係があるため、「労働法」、「社会保障法」を履修することにより、社会政策の対象とする問題群に関する法制度と政策的課題を立体的に理解することが可能となる。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	学期末試験によるものとし、出席状況は加味しない。 教科書は開講時に指定する。 適宜紹介する。 YeStudyを活用する。Password等の説明は第1回目の講義で説明するので必ず出席のこと。

履修コード	119401
科目名	法哲学
担当者名	高橋 洋城 <small>たかはし ひろき</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、近現代法の仕組・思考方法の基礎について検討するために必要な様々な分析枠組、原理や概念等々を学び、批判的思考のツールとして、他の法律学の学習や日常的な法との関わりの中で使えるものにしていくことを第一の目標とする。その過程では、しばしば「当然だと思っていたことがかえってわからなくなる」こともある。しかし「あらためて考え直してみる」という過程で、様々な思想や思考法に触れ理解を深めることは、将来、自らの力であらためて根本的な問題を考えてゆくための手がかり・突破口を得ることにもつながるであろう。

法B

講義の内容／授業スケジュール

法理論史において繰り返し論じられてきた諸トピックの中からいくつかの論点をとりあげ、それぞれの項目ごとに、理論的分析、思想史的背景、さらに現代の具体的な諸問題を念頭に置いた検討を加えていく。項目によって扱いは異なるが、できるだけ具体的な諸問題と法哲学的問題の関連が理解できるような授業の進行を心がけるつもりである。

授業で扱う具体的テーマは、おおむね以下を予定しているが、受講者の反応・理解に応じて修正する可能性もある。

- 1 自然法論と法実証主義
 - ・古典的自然法論を中心とした自然法論の基礎的理解
 - ・近代自然法論、および18世紀以降の自然法論の展開についての概観
 - ・法実証主義の基礎的理解、およびその現代における展開の概観
 - ・法と道徳の問題等、自然法論と法実証主義にかかわる諸問題の批判的検討
- 2 正義論
 - ・アリストテレスの正義論を軸に、法と正義の問題の基礎的理解
 - ・平等と自由の問題
 - ・正義論の現代的展開および、現代の諸問題との関連
- 3 法解釈と法の客観性
 - ・法解釈の性質について
 - ・概念法学とそれに対する批判的諸潮流の検討
 - ・日本における戦後法解釈学論争の意義
 - ・法解釈に関する諸理論の現代的展開

履修上の留意点

講義に際しては、受講者において、少なくとも本講義履修対象年次までの必修科目についてその基本的・原理的部分の理解があることを前提に進める。その点に不安がある場合には、受講にあたって十分な自助努力が必要となることを了解しておいてほしい。

成績評価の方法

年度末の定期試験を主たる評価基準とするが、夏期休暇を利用したレポートないしは夏期休暇後の小テストを副次的に参照する。さらに、受講者の人数によっては出席点を加味する場合もある。以上についての詳細やその他の評価基準・方針は第1回の講義において伝えるので、必ず出席すること。

教科書／テキスト

深田三徳・真寅一郎（編）『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房）、¥2,730 講義の資料としても、また自習・予習の指示のためにも用いるので、必ず授業に持参すること。

参考書

開講時に紹介する。

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 亜理砂 <small>わかばやし ありさ</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済法の中心をなす独占禁止法を理解をすることを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容／授業スケジュール

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

成績評価の方法

期末試験により評価を行う。

教科書／テキスト

丹宗・厚谷編『新現代経済法入門（第3版）』（法律文化社）

参考書

別冊ジュリスト『独禁法審決・判例百選（第六版）』（有斐閣）

履修コード	120101
科目名	消費者法
担当者名	<small>むかいだ まさみ</small> 向田 正巳

法 B

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、民法の特別法としての消費者法についての概説を行います。消費者法という法典があるわけではありませんが、消費者を保護し、その権利を守るための法としてはさまざまなものがあります。私たちは消費者として生活に必要な商品を消費しながら暮らしていく中で、さまざまな法的トラブルに直面します。消費者を保護する法として、どのようなものがあるかを知ることが、健全な社会生活をおくる上で、とても大切なことです。本講義では民法についての基本的な知識を確認しながら、商品を買うときにだまされたとき、欠陥商品を買ってしまったときなど、消費生活上のさまざまな法的トラブルにいかに対処すべきか、事例を用いながら学んでいくことにします。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義では前期に主に製造物責任法を、後期に主に消費者契約法を検討します。基本的な授業の進め方は以下の通りです。

前期：製造物責任法について

- 1 民法と製造物責任法
- 2 民法における不法行為責任についての確認
- 3 製造物責任法についての各論点の検討

後期：消費者契約法について

- 1 民法と消費者契約法
- 2 民法における契約責任についての確認
- 3 消費者契約法についての各論点の検討

履修上の留意点

消費者法は民法の特別法ですから、本講義の履修者には当然のことながら民法の基礎知識が必要となります。履修者は消費者法の各論点を検討する際には、必ず民法の体系を念頭においた考察をするように心がけてください。

成績評価の方法

期末試験と小テストによって評価します。

教科書／テキスト

未定。授業の始めに指示します。

履修コード	120211
科目名	法律学特殊講義〔金融商品取引法〕
担当者名	<small>まんざわ ようこ</small> 萬澤 陽子

講義の到達目標(ねらい)

有価証券の取引やデリバティブ取引に適用される金融商品取引法（金商法）という、あまり馴染みのない法律を、i)法の背景・歴史、ii)規制対象、iii)取引内容、iv)エンフォースメントの視点から考えることによって、身近に感じられるようにすること。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 オリエンテーション 第2～4回 イントロダクション——資本市場の機能およびそこでの金商法の役割—— 第5～7回 法の背景・歴史の視点から金商法を考える——旧証券取引法の歴史、証券取引法から金商法へ、金商法の基本的考え・目的・概要—— 第8～14回 規制対象の視点から金商法を考える——適用対象としての「金融商品」（範囲とその背景的事情）、金融商品取引業者等（業規制・行為規制）、発行者（発行開示・継続開示制度）、ゲートキーパー（公認会計士・監査法人等に課される責任）—— 第15～22回 取引内容の視点から金商法を考える——不正取引（インサイダー取引、風説の流布・偽計、相場操縦、損失補てん）、公開買付制度、大量保有報告制度—— 第23～30回 エンフォースメントの視点から金商法を考える——刑罰によるエンフォースメント、行政によるエンフォースメント（行政処分、課徴金、金融庁・証券取引等監視委員会の関係）、民事（金商法、民法）によるエンフォースメント、自主規制機関（金融商品取引所、金融商品取引業協会）によるエンフォースメント——

履修上の留意点

学期末試験の結果のみならず、平常点も重視することから、講義に主体的に参加しようとする学生の受講を歓迎する。

成績評価の方法

学期末試験 50%、平常点（授業における発言・質問に対する応答、授業で行う小テスト） 50%で、総合的に判断する。

教科書／テキスト

黒沼悦郎「金融商品取引法入門（第3版）」（日経文庫、2009）

参 考 書

追って指定する。

履修コード	120301
科目名	環境法
担当者名	<small>なかつ たかひと</small> 仲田 孝仁

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、受講者に広く環境問題に関心を持たせることは言うまでもなく、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」という道具を用いることで、各人が環境問題への具体的解決策を導くための糸口を与えることにある。履修者諸君には、本講義の履修後に、環境問題を一步踏み込んで解釈・分析する視点を持つことが期待される。

講義の内容／
授業スケジュール

環境法に係る共通的な法理論・原則を概説した後、個別の実定環境法へと講義内容を展開する。1. 開講の辞(オリエンテーション)、2～3. 環境法の歴史(四大公害訴訟について。)、4. 環境法の諸原則(持続可能な開発、環境権、拡大生産者責任、汚染者負担原則、予防原則について。)、5～6. 公害対策基本法から環境基本法へ(環境基本法の諸原則、環境基本計画、規制的手法、経済的手法、情報的手法等の環境政策の枠組みについて。)、7～12. 廃棄物・リサイクルと法((1)～(4))(循環型社会形成推進基本法、廃棄物処理法、家電リサイクル法、容リ法等の個別リサイクル法)、13. 化学物質管理と法(化審法、PRTR法、環境リスク、リスクコミュニケーション)、14～19. 大気・水・土壌環境保全と法((1)～(3))(大気汚染防止法、水質汚濁防止法、土壌汚染対策法)、20～22. 自然環境保全と法(生物多様性基本法、外来生物法、種の保存法、自然公園法)、23. 環境影響評価と法(環境アセスメントについて)、24. 環境紛争と私法的・行政的解決(環境民事訴訟・行政訴訟の動向・課題について。)、25. 道路公害訴訟の現状と課題(東京大気汚染訴訟、ディーゼル車規制について。)、26. 環境行政組織/公害紛争処理と環境ADR、27～28. 地球温暖化対策と法(京都議定書、地球温暖化対策推進法、排出枠取引、最新のCOPの動向)、29. 環境法における市民の役割(住民参加)、30. 最終講—環境法の未来(まとめ)

履修上の留意点

履修者数にかかわらず、学生諸君との対話を重視し、頻繁に発言やメモの提出を求める。講義内容は基礎的な事項にとどまらず、応用・発展的な内容とする。常に日常的・具体的な事例を取り上げ、それらの問題の所存や解決策を諸君とともに模索していく。築地市場の豊洲への移転問題(土壌汚染)、産廃の不法投棄事案、工場排水による水質汚濁事案等を具体例として諸君と検討することとなる。さらに、応用的学習の一環として、昨年度は新司法試験の問題を授業中に検討したり、コペンハーゲン合意を原文で読む機会等をもった。向学心旺盛で、一方的な講義形式に飽きつつある諸君の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験の成績に平常点(授業時の課題およびレポートの提出)を加点し、総合的に評価する(期末試験を100点満点として、それに平常点を上限30点として加算する。130点満点で計算する予定。)。特に夏期レポートについては、諸君からの提出後、担当者からの内容に関する個別質問への回答や推敲後の再提出等を必ずお願いする。

教科書/テキスト

使用しない。

参 考 書

別冊ジュリスト『環境法判例百選』(有斐閣)2004年等。

その他は授業時に指示する。

そ の 他

講義においては、レジュメおよび環境法令を配布する。

法B

履修コード	121411
科目名	実務演習Ⅰ
担当者名	中野 辰久 <small>なかの たつひさ</small>

法 B

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、従前応用憲法演習として実施されていた経過を踏まえ、憲法を中心に演習を行っていきます。特徴としては、弁護士が担当することで実務における法の適用のされ方を踏まえた、憲法の諸論点の理解並びに法解釈能力を養うことを目的としています。また、法律実務に関する諸問題についても適宜ご紹介していきたいと考えています。

講義の内容／
授業スケジュール

憲法の中でも基本的人権論を中心に上げ、それに関連する形で統治機構論・憲法訴訟論を加味していく予定です。基本的には近年問題となった実際の事件・判決を題材にしていきたいと思えます。

検討テーマは、下記のとおりです。

- 第1回 基本的人権総論
- 第2回～第3回 基本的人権の限界—公共の福祉論（死刑の合憲性をめぐる問題）
- 第4回～第5回 表現の自由・報道の自由（「あるある大事件」事件）
- 第6回～第8回 表現の自由・検閲の禁止・事前抑制の原則的禁止の法理とプライバシー権（週刊文春事件）
- 第9回～第11回 表現の自由・明確性の基準（青少年保護育成条例事件）
- 第12回～第13回 集会の自由・集団行動の自由（ホテル使用拒否事件）
- 第14回～第16回 職業選択の自由・営業の自由（プロ野球のドラフト制度の是非）
- 第17回～第19回 法の下での平等（議員定数不均衡事件、尊属殺重罰規定違憲判決、国籍法違憲判決）
- 第20回～第21回 生存権（生活保護費貯蓄容認判決）
- 第22回～第24回 教育を受ける権利・特別権力関係論・部分社会の法理（校則）
- 第25回～第27回 政教分離原則・信教の自由（内閣総理大臣靖国神社公式参拝事件）
- 第28回～ 外国人の人権（外国人の公務就任の可否）

その他、新しい事件・問題が生じた時は、適宜追加していきたいと思えます。

準備学習

講義の際に次回の予定をお話しますので、それに該当する箇所について、教科書、レジュメを検討しておかれると良いと思えます。

履修上の留意点

出席を成績評価の1要素としますので、出席を取ります。また、本演習を受講した後の復習をしていただきたいと思えます。

成績評価の方法

レポートと出席で評価する予定です。レポートは講義中に課題をお知らせし、後期最終講義終了時に提出してもらう予定です。

教科書／テキスト

芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第四版』（岩波書店）

参考書

高橋和之・長谷部恭男・石川健治編『別冊ジュリスト 憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第5版）』（有斐閣）

演習の都度、レジュメを配布する予定です。

その他、参考となる書籍として下記の書籍を掲記します。

『立憲主義と日本国憲法』高橋和之著（有斐閣）

『憲法Ⅰ第4版』『憲法Ⅱ第4版』野中俊彦他共著（有斐閣）

その他

前記のとおり、弁護士の業務内容その他の法律実務の話や日々生起する憲法問題についての紹介等も適宜行っていきたいと思えます。

履修コード	121511
科目名	実務演習Ⅱ
担当者名	中田 英幸・上野 雅祥・小林 寛・杉山 真一 <small>なかた ひでゆき うのの まさよし こばやし さとる すぎやま しんいち</small>

講義の到達目標(ねらい)

本演習は、民法の領域を中心に行います。その特徴は、①法科大学院への準備段階として、専門領域について精通している経験豊かな弁護士を中心に、双方向授業を行うこと、②法曹になるための前提として、大学院試験等を念頭に入れ、単なる知識をつめこむという演習ではなく、柔軟なものの考え方をすることができる頭の訓練をすること、の2点である。

講義の内容／
授業スケジュール

演習内容は、3人の弁護士と相談して決定するが、基礎民法演習で学んできたことを前提として、ケース・スタディーなど実践的な内容の比重が大きくなると思われる。具体的事案の解決にあたって、今まで学んできた民法の基本原則をどのように活用し、法律的に構成して妥当な結論を導くかという、理論的思考を重視した演習になる。そのため、積極的に議論に参加できることを希望する。

検討するテーマは、受講者決定後にプリントにより連絡する予定である。

履修上の留意点

本演習の性質上、民法総則・物権・債権等を履修していることが必要である。なお、受講者が多数の場合には、最初の演習の時間に選択を行う予定であるので、最初の講義時に必ず成績証明書を持参すること。

成績評価の方法

出席状況と平常点によって総合的に評価する。

参考書

演習の都度、適宜指示する。

履修コード	121521
科目名	実務演習Ⅲ
担当者名	<small>きむら</small> 木村 <small>よしただ</small> 美隆

講義の到達目標(ねらい) 刑法の基本的な論点を含む判例を、事実関係から分析検討することを通じ、実務の現場における法適用の一端にふれることを、目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 判例を毎回1件ずつテーマに取り上げます。分野別に分類すると、おおむね次のとおりの予定です。

①総論分野 a構成要件該当性(4件)、b違法性(3件)、c責任(2件)、d未遂(1件)、e共犯(6件)

②各論分野 a財産犯(3件)、bその他(2件)

履修上の留意点 判旨の結論をそのまま記憶しようというのではなく、常に批判的な視点で検討する姿勢を期待したいと思います。

成績評価の方法 学期末に提出するレポートの内容により、評価します。

教科書／テキスト 教科書は特に指定しません。判例を学習するのにふさわしい学生向けの判例集を、学期はじめに紹介します。ただし、一度は判例の原典を読み込んでほしいと考えています。

法B

履修コード	128101
科目名	国際関係論
担当者名	<small>みづね</small> 三船 <small>えみ</small> 恵美

講義の到達目標(ねらい) 国際関係論の基本的な概念や理論、現代国際関係の枠組み、国際関係における諸問題などについて講義するとともに、受講生の専門知識と理解を深めることを本講義の目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 【前期】第1～2回：国際関係を学ぶ視座、第3回：多様化するアクター、第4回：国益とパワー、第5回：日本の領域と国際関係、第6回：安全保障(1)安全保障の概念と類型、第7回：勢力均衡とバンドワゴン、第8回：覇権安定論、第9回：リベラリズムの考え方、第10回：ネオ・リベラリズムの考え方、第11回：ゲーム理論と国際関係、第12回：コンストラクティヴィズム、第13回：南北問題と構造的暴力、第14回：平和学の誕生と展開、第15回：中間試験

【後期】第1回：安全保障(2)人道的介入、第2回：安全保障(3)大量破壊兵器の拡散、第3回：安全保障(4)テロリズム、第4回：東アジア共同体の構想とその課題、第5回：「人間の安全保障」と人権、第6回：難民保護とUNHCR、第7回：地球環境レジームの形成、第8回：米中関係と日本、第9回：インドの台頭と米印中関係、第10回：A S E A Nと日本外交、第11回：日本のエネルギー戦略と中国・インド・米国との関係、第12～13回：総括北朝鮮をめぐる六者協議、第14～15回：総括

履修上の留意点 テストを欠席した場合にレポートは課しません。就活や部活で欠席した人を特別扱いません。配布物は、理由の如何に関わらず、一度しか配りません。欠席した場合の授業内容は、各自の責任で補って下さい。

成績評価の方法 試験(前期30%+後期70%)。

教科書／テキスト 前期：山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年、2100円。
後期：天児慧・三船恵美編『強大国化する中国の外交戦略』(仮題)2010年刊行。
(書籍名が未確定なので、教科書販売所で確認して下さい)

参 考 書 授業中に紹介します。

専 門 教 育 科 目

2. 経 営 学 部

(1) 経 営 学 科

経 営 学 科 フ レ ッ ク ス A

市 場 戦 略 学 科

履修コード	134901・135011
科目名	経済学概説
担当者名	あかし ひろゆき 明石 博行

講義の到達目標(ねらい)

20世紀の支配的な経済学説であった近代経済学とマルクス経済学について、入門的な解説をします。

講義の内容／
授業スケジュール

講義は序章と2つの編に分けて行います。第1編では近代経済学の基礎について、第2編ではマルクス経済学の基礎について、説明します。

- 第1回 講義紹介
- 序章 近代経済学とマルクス経済学
- 第2回 近代経済学的な考え方
- 第3回 マルクス経済学的な考え方
- 第1編 近代経済学
 - 第1章 ミクロ経済学の基礎
 - 第4回 需要と需要曲線
 - 第5回 供給と供給曲線
 - 第6回 価格の決定
 - 第7回 価格の変化
 - 第8回 資源配分と所得分配
 - 第9回 市場の失敗と政府の役割
 - 第2章 マクロ経済学の基礎
 - 第10回 国民経済計算の基礎
 - 第11回 総需要と総供給の均衡メカニズム
 - 第12回 インフレとデフレ
 - 第13回 経済成長
 - 第14回 経済変動
 - 第3章 経済政策の基礎
 - 第15回 IS-LM 分析
 - 第16回 財政政策
 - 第17回 金融政策
- 第2編 マルクス経済学
 - 第4章 商品と貨幣
 - 第18回 商品
 - 第19回 交換
 - 第20回 貨幣
 - 第5章 資本の生産と流通
 - 第21回 貨幣の資本への発展
 - 第22回 剰余価値
 - 第23回 剰余価値を増大させる方法
 - 第24回 賃金
 - 第25回 資本の蓄積と再生産
 - 第26回 資本の循環と回転
 - 第27回 社会的総資本の再生産と流通
 - 第6章 資本の諸姿態と資本の歴史性
 - 第28回 利潤率とその低下
 - 第29回 資本制の所得分配
 - 第30回 資本制経済の発展と変化

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

配布するプリントと教科書の関連箇所をよく読んでください。
講義に出席してノートを取り、定期的に復習するよう心がけてください。
適時のミニテストと学年度末の定期試験で評価します。

参考図書

岩田紀久男『経済学への招待』（新世社、定価1800円＋税）
一井昭『ポリティカル・エコノミー』（桜井書店、2400円＋税）
J．E．スティグリッツ，C．E．ウォルシュ／藪下史郎他訳『スティグリッツ入門経済学（第3版）』（東洋経済新報社、3675円）

その他の他

大谷禎之介『図解・社会経済学』（桜井書店、3000円＋税）
プリントを配布しますので、講義時にプリントを受け取ってください。また、YeStudy も活用します。

営・堂・A・
市

履修コード	135001
科目名	経済学概説
担当者名	高畑 純一郎 <small>たかはた じゆんいちろう</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、経済学の基礎的な概念や考え方を学び、それらを使って現実の経済問題を理解する力を養う事を目的としています。前期はミクロ的な視点から、後期はマクロ的な視点から経済の動きについて学びます。

講義の内容／
授業スケジュール

前期のミクロ経済学では、各消費者や生産者の経済行動を分析し、それをもとにして市場の機能を説明するものです。

(前期)

1. 経済学とは何か?、2~4. 市場機能の働き (1) 需要曲線と供給曲線、(2) 市場の均衡、(3) 価格の変化、5~7. 消費者の行動理論 (1) 予算制約式と無差別曲線、(2) 効用最大化問題、(3) 需要曲線の導出、8. 中間試験、9~11. 生産者の行動理論 (1) 生産関数と費用関数、(2) 利潤最大化問題、(3) 供給曲線の導出、12~13. 一般均衡と資源配分、14. 独占の理論、15. 期末試験

後期のマクロ経済では個々人の行動ではなく、特に市場全体の動きに注目して経済の動向を分析します。

(後期)

1. マクロ経済学とは?、2~4. GDP の概念、5~6. GDP の決定：財市場分析、7. 中間試験、8~9. 金融市場分析 (1) 貨幣需要、(2) マネーサプライ、10~11. GDP の決定：IS-LM 分析、12. 財政・金融政策の効果、13. 総需用と総供給、14. インフレーション・デフレーション、15. 期末試験

履修上の留意点

授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。

成績評価の方法

成績は中間試験と期末試験によって評価します。

教科書／テキスト

スティグリッツ著、藪下史郎他訳『ミクロ経済学』(東洋経済新聞社)
伊藤元重著『マクロ経済学』(日本評論社)

参 考 書

授業内で適宜指示します。

履修コード	135101
科目名	簿記学
担当者名	大野 満奈 <small>おのの みんな</small>

講義の到達目標(ねらい)

簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部で学ぶ者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。取引の仕訳から財務諸表の作成まで帳簿記録の方法や計算の技術を学び、またその背景にある簿記・会計の基礎理論を勉強する。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容／授業スケジュール

前期 (15回) 1. 簿記・会計の意義と目的、2. 企業の財政状態－貸借対照表、3. 企業の経営成績－損益計算書、4. 取引と仕訳、5. 勘定記入と元帳の締め切り、6. 帳簿・伝票・証ひょう、7. 試算表の作成 (1)、8. 精算表の作成 (1)、9. 現金・預金、10. 小口現金、11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳、12. その他の債権債務、13. ~14. 有価証券、15. 前期試験

後期 (15回) 1. 商品有高長、2. 売掛金・買掛金と人名勘定、3. 有形固定資産の取得と売却、4. 資本金と引出金、5. 試算表の作成 (2)、6. 売上原価の計算と決算仕訳、7. 貸し倒れの見積り、8. 減価償却、9. 精算表の作成 (2)、10. 手形取引、11. 費用・収益の見越しと繰り延べ、12. 決算整理、13. 精算表の作成 (3)、14. 総合復習、15. 後期試験

準備学習

授業時間内に解ききれなかった問題に関しては、次回の授業までに必ず解いておくこと。

履修上の留意点

簿記は自分で練習問題を解き、反復的に記帳練習を行うことにより初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。

成績評価の方法

試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。

教科書／テキスト

新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社

参 考 書

新検定 簿記講義 3級 商業簿記 中央出版社

履修コード	135201
科目名	簿記学
担当者名	たかだ みつあき 高田 光明

講義の到達目標(ねらい)	<p>企業が元手となる資本を調達したり、調達資本で商品を仕入れて販売するといった営業活動を実施すると、企業資本が増減変化する。こうした資本の動きを把握するために必要とされるのが、複式簿記である。</p> <p>複式簿記を学ぶ簿記学は、大学における会計関係の科目を履修する基礎・出発点としての位置にある。簿記学のこのような性格に配慮し、この授業では、受講者が、会計関係の諸科目をこれから学んでいける発展性のある学力を身に付けられることを目指す。そのためには、複式簿記を理論的に理解できるようにする必要があるので、会計学との関連に留意しながら授業を行う。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>この授業では、複式簿記について、その基本構造と、帳簿の開始記入時から決算手続きを経て帳簿の締切り手続きに至る一巡の主要手続きを系統的に理解できるようになることをまず主眼とする。そこで、次の順番で授業を進めていく。</p> <p>(1) 簿記の学び方、(2) 資本と資産、(3～5) 勘定の記入、(6～8) 取引の分解、(9～10) 収益と費用、(11～12) 仕訳と転記、(13) 試算表、(14～15) 精算表と財務諸表、(16～17) 決算と決算手続、(18～20) 商品売買、(21) 現金・預金、(22～23) 売掛金・買掛金、(24～25) 手形、(26～28) その他の取引、(29～30) 決算整理</p>
履修上の留意点	<p>簿記の学習には、記帳練習が不可欠である。授業中にあるいは宿題の形で課す記帳練習のノルマを果たし、簿記の仕組みを言わば体得するという姿勢も大事である。</p>
成績評価の方法	<p>中間と期末に実施する試験(それぞれ50%ずつ)により評価する。</p>

営・営・A
市

履修コード	135301
科目名	簿記学
担当者名	おおの みく 大野 満奈

講義の到達目標(ねらい)	<p>簿記は会計学の基本であり、複式簿記の計算構造は、会計学のどの分野を学ぶにしても前提的に理解されることが必要である。この意味において、簿記の基本原則を理解し、経営学部に通学する者が最低必要とされる簿記知識を修得することを目的とする。取引の仕訳から財務諸表の作成まで帳簿記録の方法や計算の技術を学び、またその背景にある簿記・会計の基礎理論を勉強する。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>講義の内容／授業スケジュール</p> <p>前期(15回) 1. 簿記・会計の意義と目的、2. 企業の財政状態-貸借対照表、3. 企業の経営成績-損益計算書、4. 取引と仕訳、5. 勘定記入と元帳の締め切り、6. 帳簿・伝票・証ひょう、7. 試算表の作成(1)、8. 精算表の作成(2)、9. 現金・預金、10. 小口現金、11. 商品売買の処理と仕入帳・売上帳、12. その他の債権債務、13.～14. 有価証券、15. 前期試験</p> <p>後期(15回) 1. 商品有高長、2. 売掛金・買掛金と人名勘定、3. 有形固定資産の取得と売却、4. 資本金と引出金、5. 試算表の作成(2)、6. 売上原価の計算と決算仕訳、7. 貸し倒れの見積り、8. 減価償却、9. 精算表の作成(2)、10. 手形取引、11. 費用・収益の見越しと繰り延べ、12. 決算整理、13. 精算表の作成(3)、14. 総合復習、15. 後期試験</p>
準備学習	<p>授業時間内に解ききれなかった問題に関しては、次の授業までに必ず解いておくこと。</p>
履修上の留意点	<p>簿記は自分で練習問題を解き、反復的に記帳練習を行うことにより初めて修得できるものであるから、原則として毎回出席して要点を理解し、自宅では毎回の復習に心掛けること。また、疑問点は、積極的に質問することによって早期に解決しておくこと。</p>
成績評価の方法	<p>試験の点数・出席回数・提出物の三点をもって総合的に評価する。</p>
教科書／テキスト	<p>新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記 中央経済社</p>
参考書	<p>新検定 簿記講義 3級 商業簿記 中央経済社</p>

履修コード	135401・135601・135801
科目名	簿記学
担当者名	水野 恵子

講義の到達目標(わらい) 初めて簿記を学ぶ学生を対象に、簿記の基本原則を解説する「簿記入門」の授業です。この講義では、簿記検定3級程度の知識の習得を目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1. 簿記を学ぶにあたって | 1. 現金・預金 |
| 2. 簿記上の取引と勘定 | 2. 仕入・売上 |
| 3. 取引の仕訳 | 3. 手形 |
| 4. 勘定への転記 | 4. 債権・債務 |
| 5. 試算表の作成 | 5. 有価証券 |
| 6. 精算表の作成 | 6. 固定資産 |
| 7. 決算手続 | 7. 資本金 |
| | 8. 貸倒償却費の計算 |
| | 9. 減価償却費の計算 |
| | 10. 収益と費用の見越・繰延 |
| | 11. 8けた精算表の作成 |

履修上の留意点

簿記は、練習問題を多く解くことで力がつきます。そのため、授業の復習は不可欠です。検定合格には、一步一步の努力が重要です。授業中の私語は厳禁。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

前期と後期の定期試験、講義の際の小テストの点数を基本に評価します。出席状況も考慮します。
『日商簿記検定テキスト基本問題集三丁版3級』、実教出版 650円 ISBN4-407-04623-6
『簿記テキスト』羽瀨信宏 岩谷伸一監修 共栄出版 1,845円
必要に応じレジュメを配布します。

履修コード	135501
科目名	簿記学
担当者名	矢島 <small>やじま</small> 正 <small>ただし</small>

講義の到達目標(ねらい) この講義は簿記をはじめて学習する学生を対象とし、通年で日商簿記検定3級程度の知識を身につけることを目的としています。

簿記とは日常の経営活動を帳簿に記録、計算、整理して企業の財政状態及び経営成績を的確に把握する技術です。この技術によって、企業の経営管理及び経営計画が可能となります。よって、経営者及び利害関係者にとって、簿記は必要不可欠な技術であると考えられます。問題意識をもって積極的な姿勢で受講することを強く望みます。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 簿記とは(1)
- 第2回 簿記とは(2)
- 第3回 現金預金(1)
- 第4回 現金預金(2)
- 第5回 商品売買取引(1)
- 第6回 商品売買取引(2)
- 第7回 手形取引(1)
- 第8回 手形取引(2)
- 第9回 貸倒引当金
- 第10回 有価証券
- 第11回 固定資産
- 第12回 その他の債券・債務(1)
- 第13回 その他の債券・債務(2)
- 第14回 引出金と税金
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 伝票(1)
- 第17回 伝票(2)
- 第18回 訂正仕訳
- 第19回 決算[締切り]
- 第20回 決算[試算表]
- 第21回 決算[経過勘定](1)
- 第22回 決算[経過勘定](2)
- 第23回 精算表(1)
- 第24回 精算表(2)
- 第25回 精算表(3)
- 第26回 試算表(1)
- 第27回 試算表(2)
- 第28回 試算表(3)
- 第29回 損益計算書・貸借対照表
- 第30回 後期のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

必ず電卓を用意してください。

出席・宿題(30%)、期末テスト(70%)によって評価しますが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験3級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点します。

教科書／テキスト

田邊 正、矢島 正「ズバッと解決! 日商簿記検定3級商業簿記テキスト—これで理解ばっちり—」 創成社

参 考 書

染谷恭次郎、新井清光、岡本清監修『平成22年度版新検定簿記講義3級 商業簿記』、『平成22年度版簿記ワークブック3級』中央経済社

そ の 他

是非、日商簿記検定3級を目指してみてください。

履修コード	135701
科目名	簿記学
担当者名	小田 ^{おだ} ^{みきお} 幹雄

講義の到達目標(ねらい)

簿記を初めて学ぶ学生のために設けられた基礎知識を理解してもらうクラスです。簿記は日常の経済活動の状態を数値的に把握し、記録するための大切な手段であるので、本講座では「簿記とはどのようなものか」ということを認識してもらうために、プリントや練習問題により、簿記学習の基礎である資産・負債・資本の概念、収益・費用の意味について理解してもらいたい。また、勘定科目の意味を理解し、簿記一連の流れである仕訳・転記・試算表・決算修正・決算等についての基本的問題について正確に理解してもらいたい。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容は次のようになります。

- I 複式簿記の原理：複式簿記の計算構造・簿記一巡の手順
- II 期中取引の処理：現金預金、商品売買、売掛金・買掛金、受取手形・支払手形
- III 決算に必要な処理：決算修正仕訳・残高試算表の作成など
- IV 帳簿処理の合理化：伝票制度、(コンピューター簿記)

履修上の留意点

簿記の学習は「自分自身がペンと電卓をもって練習問題を数多く解くこと以外にはない」との私の教育方針から、練習問題を解かせるし、テストや宿題を出すこともある。テスト用紙は必ず提出すること。出欠席のチェックは毎回行う。

成績評価の方法

講義時のテストおよび、宿題の点数を合計し、更に、定期試験の点を加算し、再び平均点を出して評価する。そのため、講義中のテストや宿題の木提出者は当然平均点が下がることになるから注意をすること。

教科書／テキスト

羽瀧信宏監修『簿記テキスト—商業簿記—初級編』(共栄出版) 2,000円程度

履修コード	135901・136001
科目名	経営学
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい)

我々が日常生活をしていく上で、企業は必要不可欠な存在になっている。例えば、洋服を買う場合を考えてみたい。洋服をデザインし、生地から商品を作り、在庫として管理し、各店舗に必要なものを運搬し、販売する。そして、我々の手に届くのである。この一連の流れの中心には、企業が関わっており、より良い商品や、販売までの仕組みを作ることを課題としている。さらに、卒業後には、企業に就職を希望する人たちが大半であろう。経営学は、そのような企業の分析を中心に展開されてきた。

本講義では、今まで培われてきた豊富な経営学の理論と、できる限り身近な企業の実例を用いながら、理論と事例の融合を図り、経営学とは一体何を勉強する学問なのかということを中心に聞きたい。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を扱い、さらなる専門科目の学習への基盤になるような知識と考え方の取得を目指していく。

講義の内容／
授業スケジュール

第1部 経営学の基本課題(前期)

- 1、経営学を学ぶ意義(1回)
 - 2、経営学の対象(経営とは何か、経営の概念)(2～4回)
 - 3、経営学の展開(経営学の過去と現在)(5～6回)
 - 4、企業・組織とは何か(企業をつくる、企業の仕組み)(7～9回)
 - 5、経営者とは何か(10回)
 - 6、企業を取り巻く諸問題(現代の経営環境の特徴)(11～13回)
 - 7、まとめ、試験(14～15回)
- ・前期では、経営学に関する基礎知識の習得を目的に学習していく。

第2部 経営学の諸課題(後期)

- 1、組織とヒト(労務に関わる問題)(16回)
- 2、組織とモノ(生産、販売に関わる問題)(17～19回)
- 3、組織とカネ(財務に関わる問題)(20回)
- 4、組織をつくる(組織に関わる問題)(21～22回)
- 5、組織を管理する(管理に関わる問題)(23～24回)
- 6、組織を成長させる(戦略に関わる問題)(25～26回)
- 7、組織を革新させる(イノベーションに関わる問題)(27回)
- 8、まとめ、試験(28～30回)

・後期では、経営学の各論部分を学習していく。多くの専門科目につながっていく内容である。

準備学習

経営学を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的である。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるだろう。

履修上の留意点

本講義は、多くの学生が受講するので、他人の迷惑になる私語は絶対にしないように注意すること。また、2年次以降の専門科目の基礎として位置付けられるので、講義には極力出席することが必要である。

成績評価の方法

前期末の中間試験(30%)、学年末の定期試験(50%)、授業中のリアクションペーパー(20%)

教科書／テキスト
参考書

周佐他『専門基礎ライブラリー 経営学1-企業の本質-』実教出版、2008年、1,575円
特に指定しないが、講義において適宜、参考書を紹介する。

営・営A・
市

履修コード	136011
科目名	経営学
担当者名	<small>みねむら さいてつ</small> 兼村 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

皆さんは、これまで、中学や高校の授業において、「公民」、「現代社会」、「政治経済」、「流通経済」、「商業経済」、「マーケティング」などを学習してきており、(営利)企業を中心としたさまざまな組織の経営について、漠然としたイメージをもたれていることでしょう。本講義は、そうしたイメージをより明確なものとするために、一つの学問として「経営学」を概説していきます。具体的には、皆さんが経営学の初心者であることを考慮しつつ、事例などをまじえて、経営学にかかわる基礎的な用語・概念・理論などをわかりやすく説明していきます。

講義を担当する私としては、皆さんが、この「経営学」を履修し、経営学の基礎を勉強した後に、経営および経営学により一層関心を持ち、次年度以降の専門的な科目を積極的に履修・学習してもらえば幸いです。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：経営学とは
第2～5回：組織とは
第6～7回：企業とは
第8～10回：企業の種類
第11～14回：株式会社の特徴と仕組み
第15～18回：基本的な組織形態（組織構造）
第19～21回：経営戦略
第22～24回：マーケティング管理
第25～26回：生産管理
第27～28回：労務管理
第29～30回：日本的経営

準備学習
履修上の留意点

事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。
1. 講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
2. 携帯電話や私語など、講義の妨げになるような行為は絶対にしないこと。

成績評価の方法

テスト 80点
出席状況 10点
授業態度 10点

教科書/テキスト
参考書

なし（配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく）。
その都度、紹介する。

履修コード	136101・136211
科目名	会計学
担当者名	<small>やまだ じゆんぺい</small> 山田 純平

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、2年次から始まる専門科目（会計に限る）にスムーズに入っていけるように、広く会計とはどのようなことを学ぶ学問なのか、会計の本質は何かといったことに重点をおいた解説を行います。この講義を受講することにより、会計でどのようなことが行われているか把握していただくとともに、専門科目に興味を持って進んでいただくことを期待しています。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：ガイダンス、第2回：会計の目的、第3回：会計の歴史、
第4回：会計基準と会計制度（会社法や税法の計算も含む）、
第5回：会計基準の国際的な動向、第6～7回：収支の期間配分、第8回：小テスト①、
第9～10回：利益の認識と測定、第11～12回：複式簿記、
第13～14回：資産・負債の認識・測定、第15回：小テスト②、第16回：前期の復習、
第17～18回：資本金会計、第19～21回：決算書の分析、第22回：原価計算、
第23回：小テスト③、第24～25回：会計単位（連結会計、セグメント会計）、
第26回：会計情報の役立ち、第27回：監査と粉飾・環境会計
第28回：費用配分のバリエーション、第29回：小テスト④、第30回：総復習

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

講義は原則として教科書にそって進めていくので、必ず教科書を購入すること。

期末試験65%、小テスト25%、出席10%

川本淳他『はじめて出会う会計学』有斐閣

授業中に紹介します。

私語がひどく授業の進行を妨げる学生は、退席させるまたは受講をやめていただきます。

欠席した授業のプリントは、YeStudyに登録してダウンロードすること。

履修コード	136201
科目名	会計学
担当者名	岩渕 昭子 <small>いわぶち しょうこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

会計の目的は、一般的に複式簿記の手法等によって、組織（主に企業）の経営成績および財政状態を明らかにして、企業を取り巻く利害関係者に会計情報を提供することにあります。簿記学は主に帳簿記入のルールを学習するのに対し、会計学は理論的なフレームワークや会計制度を学習します。会計学は、組織（主に企業）の経営活動を貨幣金額で表したデータの意味を理解することに役立ちます。本講義では、会計学を経済社会の動きとも関連して学習します。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1回 ガイダンス、総論
- 2回 会計の仕組み
- 3回 企業会計の理論的特徴（会計基準・会計原則）
- 4～5回 企業会計制度
- 6～14回 資産会計
- 15回 まとめ・中間試験
- 16～19回 負債会計
- 20～22回 資本金会計
- 23～25回 損益会計
- 26～27回 財務諸表の作成
- 28～29回 連結財務諸表
- 30回 まとめ・後期末試験

履修上の留意点
成績評価の方法

簿記学と平行して受講すると、会計学を理解することが容易になります。
中間試験（3割）、期末試験（3割）、出席（3割）、小テスト・受講態度（1割）として総合的に評価します。

教科書／テキスト

新井清光著・川村義則補訂、『現代会計学 [第11版]』、中央経済社、2,600円＋税

営・営A・
市

履修コード	136251
科目名	市場戦略概説
担当者名	菅野 <small>かんの さおり</small> 佐織

講義の到達目標(ならい)

私たちの周りには、たくさんのモノがあふれているにも関わらず、モノが売れない時代とされている。現在、モノが売れずに不況となっているのは、魅力あるサービスやモノがまだまだ製造・販売されていないことにある。第二次世界大戦後のモノ不足の時代であれば、モノを製造すれば売れるという生産者の論理の時代だったし、人々はモノの豊かさに満足していた。

しかし、今日は需要者・生活者の論理の時代である。ある程度の生活水準が満たされた今日、モノ自体に対するニーズは少なくなっている。しかし、いまだ日本の生活者の満足は満たされていないとも言えない。孤立する高齢者や若者、安心安全の崩壊、携帯電話やインターネットの可能性と危険性、狭い住宅事情、美観を損なう景観、etc…。まだまだ、解決されるべき課題は多く、企業も行政もこうした問題を競争・協調しながら解決していくことで、新しい市場が創造されていくのである。

マーケティングの考え方は、生活者の諸問題をいかに解決・支援していくかという思考方法によって市場を創造し続けて (Market+ing) いくことにあり、生産者の論理と生活者の論理を架橋するという、注目すべき役割がある。

この授業では、前期にマーケティングの基礎用語および理論について学び、後期ではマーケティングの諸問題及びケースについて学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

1. マーケティングとは
2. マーケティングの基本概念
- 3～4. マーケティング戦略の基礎
5. 製品戦略
6. 価格戦略
7. 広告コミュニケーション戦略
8. チャンネル戦略
9. サプライチェーン・マネジメント
10. 営業のマネジメント
- 11～12. 消費者行動
13. マーケティング・リサーチ
14. 前期のまとめ
15. テスト
- 16～17. ブランド・マネジメント
18. リレーションシップ・マーケティング
19. インターネット・マーケティング
20. グローバル・マーケティング
21. サービス・マーケティング
22. 企業の社会的責任
- 23～28. マーケティング・ケース (低価格戦略、ブランド拡張戦略、IMC戦略、地域ブランド戦略等)
29. 後期のまとめ
30. テスト

準備学習

大学での学びを有意義なものにするためには、勉強を楽しむことである。勉強を楽しむために、まずは、社会の問題に関する情報に毎日触れ、社会の動きを知ることである。ビジネスを学ぶ初学生にはお勧めなのは、日本経済新聞の購読、「WBS」(テレビ東京・月～金曜23時～)、「ガイアの夜明け」(テレビ東京・火曜22時～)、「クローズアップ現代」(NHK 総合・月～木曜19:30～)である。

履修上の留意点

・授業環境の維持のため、授業中の私語や携帯電話の音など、受講態度が不良の学生は、即座に教場から退出させる。

・講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

- 出席点(数回)、レポート課題、テストによって評価する。
- 『1からのマーケティング』(石井淳蔵・廣田章光編著、硯学舎、2400円)
『マーケティングを学ぶ(上) 売れる仕組み』(上田隆穂・青木幸弘編、中央経済社、2730円)
『マーケティングを学ぶ(下) 売れ続ける仕組み』(青木幸弘・上田隆穂編、中央経済社、2730円)

履修コード	137601
科目名	情報処理基礎A
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	現代のビジネスにおいてコンピューターの利用は不可欠です。この講義では、コンピューターとネットワークの仕組みについて理解するとともに、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピューターの知識を身につけます。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：コンピューターとネットワークの仕組み、コンピューターの基本操作、第2～6回：文書作成（文書の入力、書式の設定、図と表の作成）、情報検索の方法、課題1・課題2、第7～11回：表計算（表の作成、グラフの作成、数式と関数の使い方、いろいろな関数）、課題3・課題4、第12～14回：プレゼンテーション資料の作成、課題5、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習は特に必要ありません。復習として、授業で学んだことを必ず最低一回は一通り自分でやってみて下さい。WordやExcelなど、コンピューター・アプリケーションの操作を修得するには、迷いながらも自分で何度も繰り返しやってみることが早道です。
履修上の留意点	前提とする内容は特にありません。5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらいます。
成績評価の方法	課題提出（5回、合計70点）、練習ファイルの提出（複数回、合計20点）、出席（10点）で評価します。
教科書／テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

営・営A・市

履修コード	137611
科目名	情報処理基礎A
担当者名	長 国強

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、コンピューターとネットワークの仕組みについて説明した後、文書作成、情報検索、表計算の知識について、実際にコンピューターを使いながら学んでいく。
講義の内容／授業スケジュール	コンピューター基礎(1-2)；文書作成(3-7)；情報検索(8)；小テスト(9)；表計算(10-12)；全体のまとめ(13-14)；小テスト(15)。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(50)+期末試験(20)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは毎回配布する予定。
参考書	特に使用しません。

履修コード	137621
科目名	情報処理基礎A
担当者名	若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、コンピューターとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを介して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピューターの知識について、実際にコンピューターを使いながら学んでいく。具体的には、PC基礎、PC操作基礎、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。
講義の内容／授業スケジュール	(1)～(2) コンピューターとネットワークの仕組み、 (3) コンピューターの基本操作、 (4)～(5) 情報検索の方法、 (6)～(12) 文書作成、 (13)～(14) プレゼンテーション資料の作成、発表会 (15) まとめ
履修上の留意点	市場戦略学科1年生の必修科目であり、出席を重要視する。また、授業進行状況により講義スケジュールの項目が、情報処理基礎Bへ移動するなど、前後する場合がある。教場座席数に制限があるので、2年生以上の再履修希望者は先着順に履修を許可するので早めに申し出ること。
成績評価の方法	4～5回の小課題提出状況と出席、授業態度（課題に取り組む姿勢）、期末課題により総合的に評価する。
教科書／テキスト	必要に応じて配布あるいは、指示する。
参考書	必要に応じて配布あるいは、指示する。

履修コード	137631
科目名	情報処理基礎A
担当者名	中野 秀洋 <small>なかの ひでひろ</small>

講義の到達目標(ねらい) この講義では、コンピュータとネットワークの仕組みについて説明した後、インターネットを利用して情報を収集し、それを資料としてまとめ、プレゼンテーションするために必要なコンピュータの知識について、実際にコンピュータを使いながら学んでいく。具体的には、情報検索、文書作成、表計算、プレゼンテーション資料作成などを、専用アプリケーションを用いて行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：コンピュータとネットワークの仕組み（1）
第2回：コンピュータとネットワークの仕組み（2）
第3回：コンピュータの基本操作
第4回：文書作成（文書の入力）
第5回：文書作成（書式の設定）
第6回：文書作成（図と表の作成）
第7回：情報検索の方法（1）
第8回：情報検索の方法（2）
第9回：表計算（表の作成）
第10回：表計算（グラフの作成）
第11回：表計算（関数の使い方）
第12回：表計算（いろいろな関数）
第13回：プレゼンテーション資料の作成（1）
第14回：プレゼンテーション資料の作成（2）
第15回：全体のまとめ

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。
授業の中で資料を配布する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	138601
科目名	情報処理基礎B
担当者名	小沢 利久 <small>おざわ としひさ</small>

講義の到達目標(ねらい) 適切な経営判断、有効な計画立案を行うためには、日々蓄積されるデータを、コンピューターを用いてさまざまな観点から分析し、そこから意味のある情報を引き出すことが重要となります。この講義では、代表的な表計算アプリケーションである Excel のワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法を身につけます。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：ワークシート関数の基本についての復習、課題1、第2～4回：統計関数とその応用例、課題2、第5～8回：回帰分析ツールの使い方・決定係数と残差を用いた分析および応用例、課題3、第9～10回：ゴールシークの使い方とその応用例、課題4、第11～14回：ソルバーの使い方とその応用例、課題5、第15回：全体のまとめ

準 備 学 習

予習は特に必要ありません。復習として、授業で学んだことを必ず最低一回は一通り自分でやってみて下さい。この授業は、単に Excel の操作を修得するためのものではなく、Excel の操作と同時にデータの分析方法についても学ぶ授業です。授業で学んだ分析方法がどのような場面で利用できるかを常に意識しながら復習をしてください。

履修上の留意点

情報処理基礎 A の内容を前提とします。5回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらいます。

成績評価の方法

課題提出（5回、合計70点）、練習ファイルの提出（複数回、合計20点）、出席（10点）で評価します。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他
関 連 リ ン ク

プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
必要に応じて示します。
特にありません。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	138611
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	なが こさぶろ 長 国強

講義の到達目標(ねらい) この講義では、ホームページ作成言語 HTML とプレゼンテーション資料の作成ソフト (PPT) について学んでいく。

講義の内容／授業スケジュール インターネット基礎 (1-2) ; HTML 言語 (3-7) ; 情報検索 (8) ; 小テスト (9) ; プレゼンテーション資料の作成 (10-12) ; 全体のまとめ (13-14) ; 小テスト (15)。

成績評価の方法 総合評価 (100)= 出席 (30)+ 提出課題 (50)+ 期末試験 (20)。

教科書／テキスト 特に使用しませんが、プリントは毎回配布する予定。

参考書 特に使用しません。

営・営A
市

履修コード	138621
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	わかやま だいじ 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい) この講義は、情報処理基礎 A の学習内容習得済を前提に行うものである。本講義では、大学初年度で大学生が習得しておく必要がある情報処理リテラシーについて学ぶ。具体的には、代表的な表計算アプリケーションである Excel のワークシート関数 (財務関数、統計関数など) と付属ツールを用いたデータ分析の方法 (回帰分析など)、分析結果のグラフ化、プレゼンテーション資料の作成方法 (応用) について学んでいく。

講義の内容／授業スケジュール (1) ~ (2) 表計算ソフト・エクセルの基本、
(3) ~ (6) ワークシート関数、財務関数、統計関数、
(7) ~ (8) グラフ作成、編集、
(9) ~ (11) 回帰分析の基礎、
(12) ~ (14) プレゼンテーション (パワーポイントの基礎と応用)、発表会
(15) まとめ

ただし、情報処理基礎 A の進捗状況により、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを情報処理基礎 B の最初に実施する場合がある。

履修上の留意点 情報処理基礎 A を履修していること。授業進行状況により講義スケジュールの項目が前後する場合があります。

成績評価の方法 4 ~ 5 回の小課題提出状況とパワーポイントを用いた発表、出席、期末課題、課題に取り組む姿勢 (授業態度) により総合的に評価する。

教科書／テキスト 必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。

参考書 必要に応じて授業時間内に配布あるいは指示する。

履修コード	138631
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	なかの ひでひろ 中野 秀洋

講義の到達目標(ねらい) この講義では、代表的な表計算アプリケーションである Excel のワークシート関数と付属ツールを用いたデータ分析の方法について学んでいく。具体的には、財務関数、統計関数、ゴールシーク、回帰分析、ソルバーを用いて例題を解きながらデータ分析についての理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール 第1回: ワークシート関数の基本についての復習
第2回: 財務関数 (いろいろな財務関数)
第3回: 財務関数 (応用例)
第4回: 統計関数 (いろいろな統計関数)
第5回: 統計関数 (応用例)
第6回: ゴールシーク (ゴールシークの使い方)
第7回: ゴールシーク (応用例)
第8回: ソルバー (ソルバーの使い方)
第9回: ソルバー (応用例1)
第10回: ソルバー (応用例2)
第11回: 回帰分析 (回帰分析ツールの使い方)
第12回: 回帰分析 (決定係数と残差を用いた分析)
第13回: 回帰分析 (応用例1)
第14回: 回帰分析 (応用例2)
第15回: 全体のまとめ

成績評価の方法 複数回の課題提出により評価する。授業に出席することも合格の必要条件である。

教科書／テキスト 授業の中で資料を配布する。

参考書 授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	135811
科目名	簿記学
担当者名	猿山 義広

営・
市

講義の到達目標(ねらい)	この講義の目的は、会計実務の基礎となる簿記の手続きについて、最も単純な企業形態である個人企業の取引を例に取り上げて理解させることにある。内容のレベルは、日商簿記検定3級商業簿記のレベルである。簿記の知識は、すべての社会人にとって有用であり、とくに将来、企業経営者を目指す人にとっては必須の知識と言ってよい。この講義を通じて、企業の財政状態や経営成績を正しく把握できるための基礎知識を習得してほしい。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 簿記の基本概念、第2回 簿記一巡の手続、第3回 試算表と精算表、第4回 第1回小テスト、第5回 現金と預金1、第6回 現金と預金2、第7回 商品売買1、第8回 第2回小テスト、第9回 商品売買2、第10回 債権・債務1、第11回 債権・債務2、第12回 第3回小テスト、第13回 手形、第14回 貸倒損失と貸倒引当金、第15回 残高試算表、第16回 第4回小テスト、第17回 有価証券、第18回 固定資産、第19回 費用・収益の見越しと繰延べ、第20回 第5回小テスト、第21回 決算1、第22回 決算2、第23回 純資産と税金、第24回 帳簿と伝票1、第25回 帳簿と伝票2、第26回 第6回小テスト、第27回 特殊商品売買の基礎、第28回 株式会社会計の基礎、第29回 本支店会計の基礎、第30回 まとめ
履修上の留意点	簿記学では、会計処理や記帳法の技術を習得することが重要なので、授業においては可能なかぎり計算問題を解くようにしたい。講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を参照すること。
成績評価の方法	年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウェイトで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。
教科書／テキスト	毎回プリントを配布するので、とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記3級商業簿記および2級商業簿記の過去の検定試験において出題された問題を参考にしてほしい。プリントは毎回配布するので、きちんと保存するようにしてほしい。
参 考 書	個々の項目の内容については、中央経済社や税務経理協会が発行している日商簿記3級商業簿記および2級商業簿記のテキストが参考になる。また、問題の解法については、専門学校が編集・発行しているテキストに詳しく説明されているので、そちらを参照すること。
そ の 他	少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後までできらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	136611
科目名	経営数学A
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	企業経営上の問題を扱う際に用いられる、定量的な分析や合理的な意思決定のための数理的方法論を理解する上で、ある程度の数学的知識を持っていることが望まれます。経営数学Aでは、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識について、高校で習った数学の復習を含めて、基本的な内容を主に学びます。
講義の内容／ 授業スケジュール	授業内容は、基本的な関数、数列、極限、級数、ベクトル、行列などです。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介します。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1) イントロダクション、(2-5) 数と関数、(6-7) 数列、(8-9) 極限、(10) 級数、(11-13) ベクトルと行列、(14-15) 逆行列とその応用。
履修上の留意点	講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないで理解できないことも多いため、毎回出席すること。
成績評価の方法	中間試験と期末試験を行い、それらの成績で評価します。
教科書／テキスト	適宜、プリントを配布します。

履修コード	136621
科目名	経営数学B
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)	経営数学Bでは、経営数学Aに引き続き、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識を、高校で習った数学の復習を含めて、さらに学びます。
講義の内容／ 授業スケジュール	授業内容は、利益の最大化や費用の最小化を行う際に用いられる微分法とその応用（微分係数、導関数、微分の方法、高次導関数、極値など）を中心とします。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介しします。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1) イントロダクション、(2-4) 集合、(5-9) 微分法、(10-12) 微分法の応用、(12-15) 多変数関数の微分と応用。
履修上の留意点	講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。
成績評価の方法 教科書／テキスト	中間試験と期末試験を行い、それらの成績で評価します。 適宜、プリントを配布します。

営・営・
市

履修コード	136631
科目名	確率・統計入門A
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	データには必ず誤差が含まれており、データの利用にあたっては誤差を考慮した分析が必要となります。確率・統計入門では、そのような分析のための基礎理論である統計的推定と検定の理解を最終的な目標とします。そのために、この確率・統計入門Aでは統計的推定と検定の理解に必要な確率論の基礎とデータ処理について学び、後期に配当された確率・統計入門Bで統計的推定と検定を学びます。この科目は2年次以降に配当された専門教育科目を受講する上で必要となる確率・統計の基礎を学ぶ科目です。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：誤差を考慮した分析の必要性、第2回：事象と確率、第3回：条件付き確率とベイズの定理、第4回：確率変数と分布関数、第5回：平均と分散、第6～9回：いろいろな確率分布（二項分布、ポアソン分布、幾何分布、指数分布、一様分布、正規分布）、第10～11回：多変量確率変数（同時分布、独立性、共分散と相関係数）、第12～13回：標本抽出と標本平均・標本分散、第14回：データの処理、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習として教科書を読む、復習として教科書の例題を自分で解いてみることを心がけて下さい。数学的な内容の理解には、問題を解いてみるのがもっとも効果的です。
履修上の留意点	後期継続して確率・統計入門Bを受講して下さい。理解度確認のために宿題を出します。授業の前提とする内容は特にありませんが、数学的な理解を助けるために経営数学Aを同時に履修することを勧めます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の結果を主とし（基本的に10割）、それに提出された宿題の点を加算して評価します。 稲垣 宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
参 考 書 そ の 他 関 連 リ ン ク	必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	136641
科目名	確率・統計入門B
担当者名	小沢 利久 <small>おざわ としひさ</small>

講義の到達目標(ねらい)	この確率・統計入門Bでは、確率・統計入門Aで学んだことを前提として統計的推定と検定について学びます。この科目は2年次以降に配当された専門教育科目を受講する上で必要となる確率・統計の基礎を学ぶ科目です。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：推定・検定とは、標本抽出の復習、第2回：標本平均と標本分散、確率変数・分布・平均と分散の復習、第3～4回：大数の法則と中心極限定理、正規分布の復習、第5回：推定と推定量、第6～8回：母平均・母分散・母比率の区間推定、カイ2乗分布とティール分布、第9回：仮説検定の考え方、第10～12回：母平均・母分散・母比率の検定、第13～14回：平均の差と分散比の区間推定と検定、エフ分布、第15回：全体のおまとめ
準備学習	予習として教科書を読む、復習として教科書の例題を自分で解いてみることを心がけて下さい。数学的な内容の理解には、問題を解いてみるのがもっとも効果的です。
履修上の留意点	確率・統計入門Aの内容を前提とします。理解度確認のために宿題を出します。数学的な理解を助けるために経営数学Bを同時に履修することを勧めます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	定期試験の結果を主とし（基本的に10割）、それに提出された宿題の点を加算して評価します。 稲垣宣生・吉田光雄・山根芳知・地道正行、『統計学講義』、裳華房、本体2,100円、ISBN978-4-7853-1545-0
参 考 書 そ の 他 関 連 リ ン ク	必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	139411・139421
科目名	現代企業論
担当者名	中川 功一 <small>なかがわ こういち</small>

講義の到達目標(ねらい)	現代に生きる我々にとって、企業とはあまりに当たり前のものである。多くの人間は、企業に所属して働き、企業から給料をもらって人生を歩む。また、我々が日常的に消費する様々な財やサービスは、企業に対価を支払って入手している。このように、我々はごく当たり前のように企業という仕組みを利用しているが、ひとたび考えてみると、企業とは具体的にどのようなものであり、そしてまた、なぜ社会に企業が存在しているのかは、必ずしも明らかではない。そこで、本講義では、「企業」とは何なのかを、多面的に分析し、その現代社会における役割や実態を理解することを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1章：企業活動の実態（第2回～第5回） 第2章：株式会社論（第6回～第11回） 第3章：社会・経済・個人にとっての企業の役割（第12回～第17回） 第4章：日本における企業のあり方（第18回～第22回） 第5章：ベンチャー企業論（第23回～第25回） 第6章：現代企業に関わる諸トピック（第26回～第30回）
成績評価の方法	講義中に実施する小テストやレポート課題を30点分、期末試験70点分で評価を行う。
参 考 書	三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』2006年〔新版補訂版〕、有斐閣アルマ、2000円。 必ずしも購入しなくてもよいが、講義の内容をより正確に、かつ深く理解するためには、購入を奨励する。

履修コード	136301
科目名	経済原論
担当者名	あかし 明石 ひろゆき 博行

講義の到達目標(ねらい)

資本制市民社会の経済的基礎に関する概括的理解とその変化に関する基礎的知識を得られるよう、入門的な講義を行います。

資本制社会は、近代から現代にかけて生まれ、発展し、変化してきた、現代世界における支配的な経済社会です。資本制社会の発展は、市民社会を拡大し、資本制市民社会を確立させます。本講義では、この資本制市民社会について、そこにはどのような経済的な仕組みと法則があるのか、資本制社会の思想・法律・政策などは経済の仕組みや法則によってどのように影響され制度化されるのか、社会的に埋め込まれた諸制度によって資本制経済はどのような変容を受けるのか、について説明します。本講義ではまた、欧米とアジアの市民社会の相違についても言及し、資本制市民社会がどのような方向に変化しようとしているかについても説明します。

資本制経済の仕組みや法則および資本制市民社会の特質を概括的に理解し、それらの変化に関する基礎的な認識を得られるよう援助することが、この講義の基本的な課題です。

序論的な解説を行う序章のち、(1) 市場、(2) 貨幣の資本への発展、(3) 労働と資本、(4) 資本の蓄積と再生産、(5) 資本の流通、(6) 資本と利潤、(7) 資本の諸姿態、(8) 資本制社会とその変貌、という8つの章からなる本論について、その第1章から4章までに重点をおいて講義をします。主な内容は、以下の通りです。

第1回 講義紹介

序章 経済社会学と経済原論

- 第2回 経済社会学の伝統とその復興 (1) : ミレニアム転換仮説と経済社会学
- 第3回 経済社会学の伝統とその復興 (2) : 近代経済学と経済社会学
- 第4回 经济社会把握の基礎 (1) : マルクスの知的遺産
- 第5回 经济社会把握の基礎 (2) : マルクス経済学と経済社会学
- 第6回 经济社会把握の基礎 (3) : 経済社会の基本構成とその変化
- 第7回 经济社会把握の基礎 (4) : 単純な複合的発展モデルによる資本制理解
- 第8回 経済理解の基礎 (1) : 伝統的な経済観と経済学
- 第9回 経済理解の基礎 (2) : 経済観の拡張と展開
- 第10回 経済理解の基礎 (3) : 資本制経済

第1章 市場

- 第11回 商品 (1) : 商品の二面的性格
- 第12回 商品 (2) : 商品の価値
- 第13回 商品 (3) : 価値の形態
- 第14回 商品 (4) : 商品の物神的性格
- 第15回 交換過程と貨幣の生成
- 第16回 貨幣 (1) : 貨幣の諸機能
- 第17回 貨幣 (2) : 貨幣制度
- 第18回 貨幣 (3) : インフレとデフレの基礎理論

第2章 貨幣の資本への発展

- 第19回 市場型生産様式と市民社会の形成
- 第20回 資本の一般的定式とその矛盾
- 第21回 消費手段と生産手段の購買と消費
- 第22回 労働力の購買と消費

第3章 労働と資本

- 第23回 資本制生産と労資型生産様式
- 第24回 剰余価値を増大させる諸方法
- 第25回 賃金制度

第4章 資本の蓄積と再生産

- 第26回 資本の蓄積と再生産
- 第27回 雇用と失業
- 第28回 身分階層型生産様式と階層分化

補章 資本の諸姿態と資本制市民社会の変容

- 第29回 資本の流通と資本の諸姿態
- 第30回 資本制市民社会とその変容

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

事前に配布するプリントを読み、参考書の関係箇所を読んでください。

講義に出席してノートを取り、よく復習してください。

出席、レポート、年度末の定期試験の結果を総合的に判断し、評価をします。

教科書は使用しません。講義時に毎回プリントを配布し、講義を理解できるよう援助します。

大谷禎之介『図解・社会経済学』(桜井書店、3000円+税)

一井昭『ポリティカル・エコノミー』(桜井書店、2400円+税)

営・営A・
市

そ の 他 毎時間プリントを配布します。プリントは翌週の講義時までは配りますが、それ以降は配布しませんので、期間内にプリントを受け取ってください。また、YeStudyも活用します。

履修コード	136401・136402
科目名	産業組織論 近代経済学
担当者名	<small>なみた こういち</small> 滝田 公一

講義の到達目標(ねらい) 産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。

営・営A・市 講義の内容／
授業スケジュール

第1回 産業組織論とは？、第2～3回 企業の理論、第4回 産業の分類と集中度、第5～6回 完全競争と厚生経済学、第7回 独占、第8回 支配企業の理論、第9回 価格差別、第10～11回 ゲームの理論I、第12～14回 寡占理論、第15～16回 ゲームの理論II、第17回 寡占の動学理論、第18回 企業の戦略的行動、第19回 参入障壁の理論、第20～21回 製品差別化、第22～23回 垂直的統合と垂直的制約、第24回 水平合併、第25回 研究開発投資 第26回 耐久消費財、第27回 産業規制の経済理論、第28回 自然独占 第29回 国際貿易と産業構造

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。

学年度末の筆記試験で評価します。

特に、指定しません。

Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000.

Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994.

Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998

ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版)1989年

新庄浩二ほか『産業組織論』(有斐閣ブックス)1995年

履修コード	136501
科目名	経営科学概論
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

生産活動には、本来の物作りの技術のほかに、高能率、高品質、低コスト、短納期を達成するための効率的な生産システムの設計・改善および維持管理の技術が必要である。わが国の産業界は、いち早く QC (品質管理), IE (経営工学), OR (オペレーションズリサーチ) をはじめとする経営管理技術を導入することによって、生産、品質、コスト面で飛躍的發展を成しとげた。

この講義では QC, IE, OR を中心に、経営管理技術の基本的な理論と方法を概説する。また、今後本学部において経営科学系の科目を受講する上での基礎を学ぶ。

必修科目にはなっていないが、経営学科の学生は卒業するまでにぜひ履修してほしい科目である。

講義の内容／
授業スケジュール

全体を大きく 1, 2, 3 の部分に分けて講義を行う。1 ではこの講義で扱う学問領域（一般に経営工学と呼ばれている）を概観し、経営工学の歴史と現在の変化を説明する。2 では経営工学が対象とする経営管理の諸分野を取りあげる。3 では経営管理で用いられている技術的な各種手法について解説していく。ただし、2 と 3 は相互に関連するものであり、必要に応じて順番を入れ替え、両者が有機的に結びつくよう講義を進めていく。

1. 経営工学の概略と歴史
2. 経営工学が対象とする諸分野
 - * 経営計画： 経営計画の策定，経営情報のシステム化
 - * 販売管理： マーケティング活動，販売計画
 - * 生産管理： 生産方式，設備配置計画，日程計画，在庫管理
 - * 品質管理： 統計的品質管理，総合的品質管理
3. 経営管理技術の各種手法
 - * 狭義の IE： 動作研究と作業測定
 - * 経済性工学： 資金の時間的価値，設備投資案の経済計算
 - * データ解析： 需要予測，推定と検定，回帰分析
 - * QC七つ道具その他： パレート図，特性要因図，ガントチャートなど
 - * 性能評価方法： 待ち行列理論，シミュレーション，システムの信頼性解析
 - * システム解析： システムの概念，情報処理システム
 - * 問題の発見と解決： ブレインストーミング，KJ法，デルファイ法

準備学習
履修上の留意点

授業用の Web ページを読んでおいてほしい。

履修に際して予備的な知識は必要としない。教科書はあくまで参考として用いるものなので、毎回出席してきちんとノートをとること。また、手法についての理解を深めるために適宜演習を行う。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

演習課題の提出と試験（前期末、後期末）によって総合評価

秋庭雅夫ほか『経営工学概論』（朝倉書店）¥3,800。

佃純誠ほか『新しい経営工学』（中央経済社）¥3,780。

授業用の Web ページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/index.html>

および YeStudy (<http://yestudy.komazawa-u.ac.jp/2009/course/view.php?id=234>)

その他
関連リンク

関連科目： → 経営統計，生産管理論，経営情報システム；(市) マネジメント・サイエンス

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/intro/index.html>

営・営A・
市

履修コード	136511
科目名	経営科学概論
担当者名	高井 徹雄 <small>たかい てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)

経営学における「経営管理」の概念は、20世紀初頭 F.W. テイラーが提唱した「科学的管理法」に端を発する。科学的管理法を推進した人々は、自らの試みをインダストリアル・エンジニアリング(IE)と称した。IEは、当初よりQC(品質管理)を必要とし、20世紀後半にはOR(オペレーションズ・リサーチ)や、HF(人間工学)、IT(情報技術)も加わり、20世紀の今日では、より広い対象をもつ「経営科学」として発展を続けている。

テイラー以来、経営科学は、常に産業界において、高効率・高商品、低コスト・短納期を達成する効率的なシステムの設計・改善、および維持管理のための技術を追求してきた。わが国産業界も、いち早くこれを取り入れ実践することによって、生産・品質・コスト面で飛躍的な発展を遂げた。本講義ではIE・QC・ORを中心に、経営管理技術の基本的な理論と方法について概説する。

経営科学および経営工学の管理技術の基本的な理論と応用の中で、IE・QC・ORの中から主要なものを取り上げる。本講義では、理論や方法論の詳細に入り過ぎることなく、幅広く講義する。授業スケジュールは、以下のとおりである。

1. イントロダクション(1)
2. 経営工学の概略とその歴史(2-3)
 - (1)IEの成立
 - (2)QCとORの概略
3. 生産管理とIE技法(4-8)
 - (1)科学的管理法と生産管理
 - (2)生産計画と工程管理
 - (3)生産方式と生産・在庫管理
4. 品質管理とその技法(9-15)
 - (1)品質管理(QC)とTQC
 - (2)QC7つ道具
 - (3)統計的品質管理と管理図法
5. OR技法による計画と決定(16-30)
 - (1)利益計画
 - (2)日程計画:PERT/CPM
 - (3)資源配分:LPとMRP
 - (4)在庫管理:定期発注法と発注点方式
 - (5)待ち行列現象:待ち行列理論と離散系シミュレーション
 - (6)意思決定法:AHP他

履修上の留意点
成績評価の方法

経営数学と確率・統計入門を履修済みまたは同時に履修することが望ましい。
前期・後期それぞれに小テストを数回行う。それらの成績を学期末の筆記試験の成績に加味して評価する。

教科書/テキスト

「基礎から学ぶ経営科学」高井他著、税務経理協会 2300円
必要に応じて、補助教材プリントを配布する。

営・営A・
市

履修コード	139701
科目名	経営管理論
担当者名	渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)	本講義のねらいは、経営管理論の理論的フレームワークに基づいて、現代の企業が直面する経営管理の課題を理解し、経営管理の観点から企業活動を思考する力を養うことである。ついで、これまで主張されてきた学説を検討しながら、基本的なフレームワークの学習を中心に行う。
講義の内容／授業スケジュール	(第1回) 経営管理の全体像をつかむ (第2～6回) 第1部：管理者の役割(「管理」という問題の出現、経営「管理論」の発展の概説、経営管理論の代表的なパイオニアたち、経営管理論における管理者像の変遷、『マネジャーの仕事』H. ミンツバーグを中心に) (第7～11回) 第2部：企業の仕組みを管理する(経営管理の対象としての組織、現代企業の組織設計、外部環境と企業の適合関係、経営資源の管理、事例としての「デル社のビジネスモデル」) (第12～14回) 第3部：経営環境と企業との関係を管理する(経営管理からみた企業の活動領域とは、活動領域の決定と変更、事例としての「ホンダにみる活動領域の設定」) (第15回) 中間試験 (第16～22回) 第4部：企業で働く人々を管理する(モチベーションの内容論、モチベーション管理の理論 Part 1～2、作業組織とチーム・マネジメント Part 1～2、経営管理とキャリア形成 Part 1～2) (第23～25回) 第5部：企業の成長プロセスを管理する(経営組織の発展段階モデル Part 1～3、事例としての「インテルのマトリックス管理」) (第26～29回) 第6部：変革プロセスを管理する(生産性のジレンマ、企業文化と逆機能、二重性の管理、変革プロセスを管理する) (第30回) 総括
履修上の留意点	1) 講義ではパワーポイントを使用する。講義の重要なポイントについては各自が積極的にノートを取ることを。 2) 随時、確認テストを行う。確認テストで提出された問題は定期試験の範囲内とするので、しっかりと取り組むこと。
成績評価の方法 教科書／テキスト	前期の最終講義日に行う中間試験(50%)、学期末の定期試験(50%)で評価する。 岸田民樹・田中正光著(2009)『経営学説史』有斐閣アルマ プリントを配布する。
参 考 書	塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏夫著(1999)『経営管理』有斐閣アルマ。

営・営・市

履修コード	139801
科目名	原価計算論
担当者名	岸田 隆行

講義の到達目標(ねらい)	原価計算は特に製造業において必須の技術である。原価計算は一方で財務会計を支え、一方で管理会計を支えており、会計を学ぶものにとっては必ず習得しておかなければならない知識である。 原価計算の計算理論はすべて企業の製造プロセスの実態を数字として表すにはどのようなすべきであるのかを理論化したものである。理論の背景には企業の製造プロセスや環境変化がある。単に公式を覚えて、計算ができるようになるだけでなく、実態を正確に表すためにはどのような計算方法をとるべきなのか、また、計算された数字がどういう意味を持つのか、自ら考えられるようになってもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：原価計算とはなにか、第2回：原価計算の機能と原価概念、第3回：工業簿記(1)、第4～8回：費目別原価計算、第9～14回：製造間接費計算・部門別原価計算、第15回：中間試験、第16～18回：個別原価計算、第19～23回：総合原価計算、第24～26回：標準原価計算、第27～29回：直接原価計算、第30回：原価計算の近年の動向
準 備 学 習	1年次履修科目の会計学および簿記学についての基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。特に仕訳から総勘定元帳への転記について理解した上で履修してもらいたい。 また、原価計算は費目別原価計算から製品別原価計算までが一連のプロセスとして行われる。そのため、前の方で学習した内容が理解できていないと、後で学習する内容が理解できない。練習問題を解くなど、復習を欠かさないようにしてもらいたい。
履修上の留意点	原価計算を習得するためには自ら計算を行うことが必要である。講義では、例題を解いていくが、解答を丸写しするのではなく、自ら電卓をたたき、実際に計算をしてみることを。また、随時小テストを行い、知識の定着をはかる。したがって、受講するにあたっては、必ず、電卓を持参すること。
成績評価の方法	前期末に行う中間試験30点、年度末の定期試験70点に、講義中に随時行う小テストの結果を加味して評価する。
教科書／テキスト	特に指定しない。毎回プリントを配布する。
参 考 書	講義の進行にしたがって、下記のテキストを自ら進めていくことが望ましい。 木島淑孝・高橋史安・吉川武男『コスト・アカウントティング・セミナー』(税務経理協会)

履修コード	140201
科目名	経営組織論
担当者名	日野 健太

講義の到達目標(ねらい)	組織論のフレームワークによって、企業をはじめとする組織を分析できるようになることを目的とする。そのための基本概念と思考方法を学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	経営組織論の内容は、組織の環境適応を扱うマクロ組織論と組織における集団、個人を扱うミクロ組織論に大別される。下記に示すテーマごとに講義を進めるが、以前の講義で取り上げたことを、のちの内容の理解に役立てるようなスタイルで進める。 講義の対象と回数は以下の通り 前期：1.モチベーション(4) 2.リーダーシップ(8) 後期：3.組織文化(3) 4.組織の環境適応(5) 5.環境と組織(2) 6.知識創造理論(1) その他に、まとめや中間テスト(3) 各回の内容やスケジュールを記した詳細なシラバスは開講時に配布する。
履修上の留意点	学び方を学ぶのも重要。例えば、講義を聴いてノートにまとめることは、すべての受講生がこの講義で、身につけなければならない能力だと考えている。従って穴あきレジュメを用いるような講義ではない。 YeStudyで小テストを行ったり、コメントや質問を提出してもらおう。また、教場で配布した配布物を手に入れるようにする。
成績評価の方法	後期の授業開始日に中間試験を行う。このテストのウエイトが40%程度、学年末の定期試験のウエイトが60%程度。大まかには、この二つが成績を決める。中間試験を欠席するのは、即不可ではないが致命的である。
教科書／テキスト	日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』近刊 (ただし、テキスト代で単位が買える科目にするつもりはない)
参 考 書	金井『経営組織』(日経文庫) 経営学辞典の類、例えば、二神編著『ビジネス・経営学辞典』(中央経済社)などもなにかと重宝である。
そ の 他	教場には、想像力を持参すること。

履修コード	140711
科目名	経営統計A
担当者名	長 国強

講義の到達目標(ねらい)	経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：経営統計について；第2回：統計的基礎概念I；第3回：統計的基礎概念II；第4回：データの収集と整理I；第5回：データの収集と整理II；第6回：データの収集と整理III；第7回：パソコン実習I；第8回：統計特性値I；第9回：統計特性値II；第10回：パソコン実習II；第11回：相関分析；第12回：パソコン実習III；第13回：正規分布とその応用I；第14回：正規分布とその応用II；第15回：全体のまとめ。
履修上の留意点	後期の『経営統計B』も履修してください。
成績評価の方法	総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。
教科書／テキスト	特に使用しませんが、プリントは随時に配布する予定。
参 考 書	西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)； 守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。

履修コード	140721
科目名	経営統計 B
担当者名	<small>ながい こきろう</small> 長 国強

講義の到達目標(ねらい)

経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。

講義の内容／授業スケジュール

第1回：推定予測モデル(回帰モデル)I；第2回：推定予測モデル(回帰モデル)II；第3回：パソコン実習 I；第4回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)I；第5回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)II；第6回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)III；第7回：パソコン実習 II；第8回：分散分析(一元配置分散分析)I；第9回：分散分析(一元配置分散分析)II；第10回：パソコン実習 III；第11回：統計的意思決定理論 I；第12回：統計的意思決定理論 II；第13回：経営指数(物価指数、数量指数)I；第14回：経営指数(物価指数、数量指数)II；第15回：全体のまとめ。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

『経営統計 A』を受講してから履修されたほうが望ましい。
総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。
特に使用しませんが、プリントは随時に配布する予定。
西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)；
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。

営・営A・市

履修コード	141011
科目名	経営情報システム A
担当者名	<small>たかい てつお</small> 高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい)

経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT(情報技術)の基礎について解説する。

講義の内容／授業スケジュール

(1) イントロダクション
(2-3) 科学とシステム思考
科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。

(4-8) 情報科学の成立と発展

20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータ EDSAC が誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。

(7-9) IT とインターネット

IT(情報技術)に関わる基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。

(10-15)：情報環境の発展と経営における利用

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日の環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

後期の経営情報システム B とあわせて履修してください。
毎回出席を取ります。その上で、最終授業時に筆記試験を実施して成績評価を行います。

高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円

※ このテキストは、主として後期 B で用います。前期 A では、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B 連続履修の方は必ず用意しておいてください。また、今年度は「経営科学概論」と共通テキストです。そのほか、適宜プリントを配布します。

参考書

個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。

履修コード	140121
科目名	経営情報システム B
担当者名	高井 徹雄 <small>たかい てつお</small>

講義の到達目標(ねらい) 経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待される IT (情報技術) の活用方法について学びます。

講義の内容／
授業スケジュール (1) イントロダクション
(2-3) データとは何か
データには測る尺度によって定量的なものと定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。

(4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと
調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。

(9-12) シミュレーション技法とその応用
複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。

(13-15) 人工知能の経営への応用
人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待される DSS (意思決定支援システム)、ES (専門家システム) などの概要について学ぶ。

履修上の留意点 前期の経営情報システム B とあわせて履修してください。受講生数によりますが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。

成績評価の方法 適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。

教科書／テキスト 高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円
参 考 書 適宜プリントを配布します。

履修コード	141111
科目名	マネジメント・サイエンス A
担当者名	小沢 利久 <small>おざわ としひさ</small>

講義の到達目標(ねらい) マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンス A では、最適化の手法を中心に、線形計画法 (LP)、ネットワーク計画法、データ包絡分析法 (DEA)、階層化意思決定法 (AHP) について、生産・流通やマーケティング分野における例を用いながら解説します。

講義の内容／
授業スケジュール 第1回：マネジメント・サイエンスについて、第2～4回：線形計画法 (定式化、図による解法、感度分析)、第5～7回：ネットワーク計画法 (グラフについて、最短経路問題、最小木問題、最大流問題)、第8～10回：データ包絡分析法 (CCR モデル、効率的フロンティア)、第11～13回：階層化意思決定法 (階層モデル、一対比較、ウエイトの計算)、第14回：Excel ソルバーを用いた線形計画問題の解法、第15回：全体のまとめ

準備学習 予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。

履修上の留意点 理解度確認のため、単元ごとに宿題を出します。経営数学 A・B、確率・統計入門 A・B を先または同時に履修しておくことを勧めます。

成績評価の方法 定期試験の結果を主とし (基本的に10割)、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。

教科書／テキスト プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参 考 書 必要に応じて示します。

そ の 他 特にありません。
関 連 リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	141121
科目名	マネジメント・サイエンスB
担当者名	おざわ としひさ 利久

講義の到達目標(わらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンスBでは、確率モデルを用いた分析手法を中心に、在庫管理、情報の期待価値、キャッシュフローと現在価値、ポートフォリオ選択、待ち行列理論について、生産・流通やファイナンス分野における例を用いながら解説します。
講義の内容／授業スケジュール	第1～3回：在庫管理（経済的発注量、発注点方式、定期発注方式）、第4～6回：情報の期待価値（情報の貨幣的価値、完全情報とサンプル情報の期待価値）、第7～8回：キャッシュフローと現在価値（現在価値、割引キャッシュフロー、内部収益率）、第9～12回：ポートフォリオ選択（リターンとリスク、平均・分散モデル、効用関数とリスク）、第13～14回：待ち行列理論（待ち行列モデル、リトルの式、M/M/Sモデル）、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。
履修上の留意点	理解度確認のため、単元ごとに宿題を出します。経営数学A・B、確率・統計入門A・Bを先または同時に履修しておくことを勧めます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし（基本的に10割）、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。
教科書／テキスト	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

営・営A・市

履修コード	142201
科目名	財務会計論
担当者名	やまだ じゆんぺい 山田 純平

講義の到達目標(わらい)	本講義では、企業がどのようなルールに従って決算書を作成し、外部の利害関係者に開示しているかについて解説します。詳細な会計ルールをおぼえることよりも、会計ルールがどのような考え方に基づいているか、なぜそのような考え方をとるのかといった点について重点的に説明するつもりです。ここで解説する会計ルールの特徴を把握することを通じて、企業の取引が決算書にどのような影響をおよぼすのか、各企業の決算書をどこをみて分析したらいいのかといったことについて理解が深められることでしょう。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：ガイダンス、第2回：会計の目的、第3回：会計基準と会計制度、第4～5回：会計基準の国際的な動向、第6～7回：収支の期間配分、第8回：小テスト①、第9～10回：利益の認識と測定、第10回：複式簿記、第11～12回：資産・負債の認識・測定、第13～14回：金融商品の会計、リース会計、第15回：小テスト②、第16回：前期の復習、第17～18回：資本金会計、第18～20回：決算書の分析、第21回：小テスト③、第22～23回：会計単位（連結会計、セグメントの会計）、第24回：会計情報の役立ち、第25～26回：監査と粉飾、第27～28回：費用配分のバリエーション、退職給付会計、ポイント引当金、第29回：小テスト④、第30回：総復習
履修上の留意点	簿記学と会計学を履修していることが望ましいです。 授業では教科書+αの解説をするので、教科書を購入しておいてください。余裕があれば事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。
成績評価の方法	期末試験65%、小テスト25%、出席10%
教科書／テキスト	川本淳他『はじめて出会う会計学』有斐閣
参考書	桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣
その他	私語がひどく授業の進行を妨げる学生は、退席させるまたは受講をやめていただきます。 欠席した授業のプリントは、YeStudyに登録してダウンロードすること。

履修コード	142511
科目名	情報セキュリティA
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

情報のセキュリティについての組織の取組みを理解する。
 まず、情報は社会基盤にもかかわる重要な経営上の資産であることを認識する。
 情報セキュリティの定義と歴史を概観したうえで、現代の脅威、社会問題と対策を知る。
 そのうえで、企業の社会的責任からの要請、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO) と情報セキュリティポリシーの必要性、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)、内部統制、情報セキュリティ監査、従業員教育を含む情報セキュリティガバナンスについて学ぶ。
 社会全体では、倫理も含むセキュリティ文化を醸成する必要があることを認識する。

講義の内容/
授業スケジュール

回数 内容

- 1 ガイダンス、自己紹介
- 2 犯罪と事故の例、危機管理
- 3 情報セキュリティの実際、現代の暗号技術
- 4 情報とは、情報の資産価値
- 5 情報セキュリティの定義と歴史
- 6 リスク管理、現代の脅威、社会問題と対策
- 7 組織（国、民間、企業）の取組み、ISO 27000
- 8 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS, CISO)
- 9 情報セキュリティポリシー
- 10 プライバシー、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)
- 11 企業統治、コンプライアンス、内部統制
- 12 情報セキュリティ監査、コンピュータ・フォレンジクス
- 13 情報セキュリティガバナンス、従業員教育の必要性
- 14 情報セキュリティ文化、まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

授業用の Web ページを読んでおいてほしい。
 履修に際して予備的な知識は必要としない。毎回出席してきちんとノートをとること。
 小テストと定期試験を総合評価する。
 なし
 [1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター、情報セキュリティ読本 ― IT 時代の危機管理入門, 実教出版, 2004. (500円).

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html>

履修コード	142521
科目名	情報セキュリティB
担当者名	にしむら かずお 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

情報セキュリティに関する法制度および暗号の技術について理解する。
 まず、守るべき情報の価値には、秘匿性、完全性、可用性があることと、秘匿性と可用性とはトレードオフの関係にあることを再確認する。
 不正アクセス禁止法、個人情報保護法などの法律を学び、アクセス制御を理解する。また、暗号によって達成可能な目標および暗号技術を理論的に理解する。特に、公開鍵暗号の RSA 方式を理解する。そのうえで、ネットワーク上で情報セキュリティを実現する方法および認証局の必要性について理解する。いくつかの暗号プロトコルを学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 回数 内容
- 1 授業内容概説、機密性と可用性のトレードオフ、危機管理
 - 2 不正アクセス禁止法、個人情報保護法、著作権法 など
 - 3 アクセス制御、アクセス制御リスト
 - 4 暗号によって達成できる目標と暗号技術
 - 5 暗号系と用語
 - 6 共通鍵暗号、“踊る人形”の解説
 - 7 転置式暗号、ストリーム暗号、暗号解読
 - 8 公開鍵暗号
 - 9 剰余環、RSA 方式
 - 10 認証、電子署名、ハッシュ関数
 - 11 暗号技術を使ってできること、電子マネー、量子暗号
 - 12 暗号プロトコル、SSL
 - 13 公開鍵基盤 (PKI)、認証局
 - 14 情報セキュリティ基盤、情報セキュリティ・サービス

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業用の Web ページを読んでおいてほしい。
 情報セキュリティAの履修を前提とする。毎回出席して、きちんとノートをとること。
 小テストと定期試験を総合評価する。
 なし
 [1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター、情報セキュリティ読本 — IT 時代の危機管理入門、実教出版、2004。(500円)。
 [2] 結城浩、暗号技術入門 — 秘密の国のアリス、ソフトバンクパブリッシング、2003。ISBN 4-7973-2297-7。

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html#B>

管・管A・
市

履修コード	143201
科目名	マーケティング論
担当者名	かねむら 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報の懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。

マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本講義のねらいは、各履修者が、マーケティング論における基本的な概念ないし理論などを正確に理解することにある。

講義の内容／
授業スケジュール

第1～4回：マーケティングの二義性

第5回：流通機能の意義

第6回：流通フロー(マーケティング・フロー)

第7～15回：流通機能の領域

第16回：流通機構の意義

第17～18回：流通機関の意義と分類

第19～22回：小売業者の分類

第23回：マーケティング・コンセプト

第24回：企業におけるマーケティングの役割

第25～26回：マーケティング管理

第27回：製品政策

第28回：価格政策

第29回：プロモーション政策

第30回：チャネル政策

準備学習
履修上の留意点

事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。

1. 講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。

2. 携帯電話や私語など、講義の妨げになるような行為は絶対にしないこと。

成績評価の方法

テスト 90点

出席状況 10点

教科書／テキスト
参 考 書

なし(配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。

兼村栄哲他4名(著)『現代流通論』(八千代出版)1999年、3,045円。

宮澤永光(監修)『基本流通用語辞典』[改訂版](白桃書房)2007年、2,625円。

宮澤永光・亀井昭宏(監修)『マーケティング辞典』[改訂版](同文館)2003年、2,940円。

履修コード	143211
科目名	流通システム論
担当者名	青木 茂樹 <small>あおき しげき</small>

講義の到達目標(ねらい)

私達の生活はあらゆる商品によって支えられており、これは流通システムがあるから成り立っている。講義では、身近な事例より興味を喚起し、その仕組みの理解を促す。今日、情報化、国際化によって、流通システムは新たな変化のうねりを迎えている。変化の時代に重要なことは現象面を追うだけではなく、どのような分析枠組みで理解・予測できるかである。また複眼的・多角的に捉えることにより、個々人の受講生が今後の流通のあり方についてのおのおのの意見をもつことを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1) ～ 4) 流通の基礎概念と機能的アプローチ
- 5) ～ 9) 流通の機関別アプローチ (小売業・卸売業)
- 10) ～ 13) 流通システムとしての発展 I
 - ・第一次・第二次流通再編成の諸特徴
 - ・チェーン・オペレーションの登場と進化
- 14) ～ 17) 流通を巡る法規制とまちづくりの諸問題
- 18) ～ 21) 流通システムとしての発展 II
 - ・工業化社会の流通システムから情報化社会の流通システムへ
 - ・コンビニエンス・ストアのイノベーション
- 22) ～ 25) 流通の情報化の進展
 - ・サプライ・チェーンからダイヤモンド・チェーンへの転換
 - ・インターネットによる流通の革新
- 26) ～ 30) 流通における関係的取引の理論的認識

履修上の留意点

講義形式ではあるが、一方向とならぬよう、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促し、積極的に楽しんで参加してもらえるような方向を目指したい。

成績評価の方法

毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書／テキスト
参 考 書

渡辺達郎他(2008)『流通論をつかむ』有斐閣
日経 MJ 編(2009)『日経 MJ トレンド情報 マーケティング・ハンドブック(2010年版)』日本経済新聞社。

営・営A・
市

履修コード	143401
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	許 伸江・崔 銀順 <small>きよ のぶえ ちえ うんずん</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済の停滞が長引く中、活力あるベンチャー企業への関心が高まっている。本講義は、ベンチャー企業の意義、歴史、特徴等について理解することをねらいとする。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1～3) ベンチャー企業、企業家とは何か (4～5) 起業活動のフレームワーク (6～8) ベンチャー企業のマネジメント (9～13) ベンチャー企業のビジネスモデル、マーケティング (14～15) ケース・スタディ (学生起業、女性企業、シニア企業、IT企業など) (16～17) ベンチャー企業の戦略 (18～20) 独立形態、会社法の改正 (21～24) ベンチャー・ファイナンス、IPO、株式公開市場 (25～27) ベンチャー支援策、クラスター政策 (28～29) ベンチャー企業のリスクと対応 (30) ケース・スタディ (失敗例、挫折と復活など)

履修上の留意点

日頃から、新聞、TV、インターネットなどでベンチャー企業関連の情報に触れておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、授業内レポート、夏休みのレポート、学期末試験等を総合的に評価する。

教科書／テキスト

教科書は使用せず、ノート講義形式とする。

履修コード	143721
科目名	ゲーム理論A
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい)	本講義ではゲーム理論の基礎を解説します。ゲーム理論は、利害対立関係にある複数の人々がお互いの意思決定を考慮に入れて行動をした際に起こる結果について分析するための理論です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論を学ぶことは、他者がどのように考え、それが自分にどのような影響をもたらすかについて考える訓練にもなります。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 ゲーム理論とはどのような学問か？、 第2回 ゲームの記述、 第3～7回 標準型ゲーム 第8回 中間試験、 第9～14回 展開型ゲーム、 第15回 期末試験
履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	成績は中間試験と期末試験によって評価します。 岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

営・営A・
市

履修コード	143731
科目名	ゲーム理論B
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい)	本講義では「ゲーム理論A」を既に受講したものとして、より発展的なトピックについての解説を行います。ゲーム理論Aよりも理論の応用方面にスポットを当てていく予定です。経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論の応用を通じて戦略的思考方法を身につける事を目標としています。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 ゲーム理論の応用と社会的役割、 第2～4回 標準型ゲーム (1) 再論：ナッシュ均衡、 (2) ナッシュ均衡の存在証明、 (3) 様々な応用例、 第5～6回 展開型ゲーム (1) 再論：サブゲーム完全ナッシュ均衡、 (2) 展開型ゲームの応用：シュタッケルベルグ均衡、 第7回 中間試験、 第8～9回 展開型ゲーム (3) 繰り返しゲーム、 (4) 繰り返しゲーム：トリガー戦略、 第10～14回 不完備情報ゲーム (1) ベイジアン・ナッシュ均衡、 (2) オークションの理論、 (3) オークションの理論2、 (4) 完全ベイジアン均衡、 (5) シグナリングゲーム、 第15回 期末試験
履修上の留意点	授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	成績は中間試験と期末試験によって評価します。 岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

履修コード	147201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	あべ かずひと 阿部 一人

講義の到達目標(ねらい) 会計監査の基礎理論を体系的に考察する。
 講義の内容／授業スケジュール 会計監査の基本的役割、機能そして監査基準をとり上げる。
 成績評価の方法 成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。
 教科書／テキスト 開講後指示する。
 参考書 授業中において適宜指示する。

履修コード	147301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	おざわ としひさ 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい) マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がりつつあります。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。
 講義の内容／授業スケジュール マネジメント・サイエンスの応用として、マーケティング・サイエンスで用いられている様々な分析手法について学んでいきます。また、コミュニケーション能力を高めるための訓練として、商品企画書の作成と PowerPoint を用いた発表練習を行います。
 準備学習 必要に応じて授業の中で示します。
 履修上の留意点 演習Ⅱについては、演習Ⅲ（4年生）を継続して受講することを前提としています。
 成績評価の方法 課題提出物、発表内容、出席状況により評価します。
 教科書／テキスト 必要に応じて指定します。
 参考書 必要に応じて示します。
 その他 特にありません。
 関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	147401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。
 講義の内容／授業スケジュール 現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2ヵ月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者（レジュメを作成）、コメンテータを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。
 準備学習 日常的に新書や経済新聞に目を通して、関心を広げておくこと。
 履修上の留意点 カリキュラム構成上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。特別な事情には個別に対応します。行事もゼミの一環なので出席のこと。
 成績評価の方法 出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。
 教科書／テキスト 適宜指示。過去のテキスト例。小林良暢『なぜ雇用格差はなくなるのか』、小杉礼子編著『若者の働きかた』、萩原久美子『迷走する両立支援』、パク・ジョアン・スックチャ『会社人間が会社をつぶす』など。
 参考書 演習時に適宜紹介。
 その他 履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動に、卒業論文集の発行、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。入ゼミ希望者は WEB ページ参照のこと。
 関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/>

履修コード	147501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	山田 純平 <small>やまだ じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい) 日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際基準の動向とその基礎概念を考察します。

また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。

財務諸表の読み方に関するテキストを読むとともに、卒業論文に向けて中間報告をしてもらう予定です。

原則として毎回出席してください。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。

議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。

授業中に参加者と相談のうえ、決定します。

講義の内容／授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

履修コード	147701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	日野 健太 <small>ひの けんた</small>

講義の到達目標(ねらい) このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。

演習Ⅱでは、自分の関心のあるテーマを明確にし、組織論の見地から論じられるようになることを目的とする。文献の輪読によって、分析のための概念を得るとともに、関心の所在について報告してもらう。

演習Ⅰに同じ。

演習Ⅰに同じ。

演習Ⅰに同じ。

開講時に指示する。参考までに、昨年度の演習Ⅱで読破したのは、以下の2冊である。

伊丹敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞社

C. プラハラード『ネクスト・マーケット』英治出版

参 考 書 有斐閣の『経済辞典』は、何かと重宝する。田尾雅夫・若林直樹『組織調査ガイドブック』はゼミ論のテーマを明確にするのに役立つ。

そ の 他 演習Ⅰに同じ。学生、教員ともに中だるみしないで意欲的にやりましょう。

講義の内容／授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

履修コード	147901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	石名坂 邦昭 <small>いしなざか くにあき</small>

講義の到達目標(ねらい) 企業の安定経営をはかる上でリスク・マネジメントは欠かすことのできない理論となっている。今日の複雑多岐にわたるビジネス・リスクにどのように対処すべきかは企業経営者の一番の関心事と言える。本演習においては、ビジネス・リスクへの対処を理論的・技術的に考察していきたい。

リスク・マネジメントを学ぶ上で、必要不可欠となる保険について、各課題ごとに毎週レポートを提出してもらい、数名の受講生に報告をしてもらい、そのことにつき討論を行う。また、リスク・マネジメントの基本的なことにつき講義も行う。

毎週、定められたテーマについて全員が参加してデスカッションを行うため無断欠席はしないであらう。

出席およびレポートによる総合評価を行う。

講義に必要な資料等はコピーして配布する。

授業中に適宜紹介する。

講義の内容／授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	148101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>まさむね かずとし</small> 前田 和利

講義の到達目標(ねらい) 日本における企業経営の発展を進化論的アプローチによって検討し、ケースをとおして進化・発展のプロセスにおける特質を理解すること。

講義の内容／授業スケジュール 日本企業経営の進化・発展モデルを理解したうえで、進化・発展の担い手となった企業経営者を中心として歴史的ケースを検討する。とりあげる企業経営者・企業(組織)は、安田善次郎、渋沢栄一、堤康次郎・清二、二代小宮丹治、関西電力業界の経営者、国分、花王、キャノンなどである。

準備学習 担当者による要旨報告と問題提起、質疑応答という形式で進めるので、事前に要旨・資料の準備が求められる。

履修上の留意点 2年継続とし、演習を優先できる人の参加を希望する。

成績評価の方法 平常点(出席と授業態度)とレポート提出によって評価する(各50点)。

教科書/テキスト 橘川武郎・島田昌和編『進化の経営史—人と組織のフレキシビリティ』有斐閣、3360円。

参考書 適宜紹介する。

営・営A
市

履修コード	148201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>やまが まさる</small> 山田 勝

講義の到達目標(ねらい) ボードレス時代にビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。

講義の内容／授業スケジュール 英文経営雑誌 Business Week の Cover Story を素材に(コピーを配布)、その内容についてディスカッションする。共通語は英語。英語を学ぶのではなく、英語が含んでいる国際的経営センスを得ることが目的。

準備学習 授業の対象となる記事内容に関する事柄を積極的に調べておくことが大切です。

履修上の留意点 各自で英語力の向上に努めること。

成績評価の方法 平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わることが評価の対象となる。

履修コード	148301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>たかだ みつあき</small> 高田 光明

講義の到達目標(ねらい) この演習は、企業が行う財務活動に関して、資本調達面から重点的に研究する。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用を指す。企業は、その活動を営むに際し、原材料、機械といった財貨を取得しなければならないし、労働力も確保しなければならない。そのために元手となる資本を企業は必要とする。資本の調達とは、この元手としての資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、上で述べた原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。

講義の内容／授業スケジュール 企業が必要とする資本を調達するには、株式や社債の発行とか、銀行からの借入など様々な方法がある。これらの資本調達方法は、特徴がそれぞれ異なる。したがってこうした資本調達方法を使い分けて、生産要素の取得を賄うための資本をどのように調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。当演習では、資本の運用面に配慮しつつ、企業は、資本の調達活動をどのように行うべきかについて考察する。

基礎的知識の体系的理解を図ることをまず目的として授業を進める。

(1) 演習という形式の授業のオリエンテーション

(2~15) 高田光明稿、「経営財務論序説」(駒大経営研究26巻3号、1995年2月)を中心に研究

(16~30) ウェストン・ブリッグム共著、諸井勝之助訳、経営財務Ⅰ(東京大学出版会、1968年)を中心に研究

履修上の留意点 企業が実施する財務活動に伴う資本の増減・変化は、企業の会計システムによって記録・測定される。したがって企業の財務活動に関する情報を理解し、企業の財務を研究するために、企業会計に関する初歩的知識は必要である。

成績評価の方法 適宜提出を求める課題レポートにより評価する。

履修コード	148351
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>わたなべ いつこ</small> 渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミでは、ゼミⅠで学習した経営管理論の理論的フレームワークに基づいて、経営管理の観点から問題を掘り下げ、思考することができる力を磨くことをねらいとする。前期は、企業のビジネス・ケースやニュースを取り上げながら、経営管理の課題について自ら「問いを立てる力」を養う。後期は、前期に設定した「問い立て」に基づいて、グループ研究を行う。講義の最終日には、パワーポイントを用いて発表大会を行う。

講義の内容／
授業スケジュール (1) オリエンテーション
(2～14) ゼミ生による発表と討論(問いを立てる)
(15) 中間試験
(16・17) グループ研究のテーマの決定と資料収集
(18～28) テーマに関する発表と討論
(29) 研究成果の発表大会
(30) 総括

履修上の留意点
成績評価の方法 経済や経営の動向に関心を持つとともに、関連情報の収集に努めること。
平常点60% (出席、積極的な参加、レジュメ作成、発表内容)
中間テストおよび最終発表の内容40%

教科書／テキスト
参 考 書 開講時に指示する。
外山滋比古著(1986)『思考の整理学』ちくま文庫。
荻谷剛彦著(2002)『知的複眼思考法』講談社+α。

履修コード	148401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>みやぎ てつ</small> 宮城 徹

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅱ(3年)
3年次ゼミ生は、英語圏とドイツ語圏(邦訳書)と日本の代表的な「新しい制度学派」の文献を素材として、企業について一層突っ込んだ研究を行う。

講義の内容／
授業スケジュール こうして、ゼミ生は、「組織理論」(特に意思決定理論とコンティンジェンシー理論=状況的アプローチ)と「新しい制度学派」の双方の組織(=企業)についての理解の共通性や相違点などを少しでも見分けることができるようになれば、それに越したことはない。それはともあれ、3年次ゼミ生は各自、同ゼミの最後の段までに、「ゼミ論文」のテーマを設定し、私に提出しなければならない。

※ ゼミは、毎回1人あるいは複数のリポーターが与えられた範囲をレジュメに基づいて報告し、その他のゼミ生はそれを中心にして活発にディベートするように進める。
※ ゼミの中心的素材はゼミの開始時に指示する。
※ 斉藤 孝著『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部)平成9年、を入手のこと。
成績評価の方法 平常点評価。その際、(a)出席を重視する。(b)自分の思うところを述べ、他人の意見に注意深く耳を傾ける能力があるかどうかを重視する。

履修コード	148501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>みやぎ こういち</small> 滝田 公一

講義の到達目標(ねらい) 本年度は、文献[1]のほかに、ダミー変数を含んだ回帰分析、時系列データやパネルデータを取り扱った回帰分析などを学び、演習Ⅰで学んだ回帰分析の知識を深めます。また、RATS、TSPといった計量経済学用のソフトの使い方も学びます。それらのソフトを使って、capital asset pricing modelや、生産費用の測定、製品の品質の変化の測定、賃金差別の問題などについても学習する予定です。さらに、エクセルのデータ分析以外の機能についても学びます。すなわち、エクセルのソルバー機能を使って、線形計画の解き方を学びます。また、エクセルのシミュレーション機能を利用して、簡単な定差方程式の解法を学び、その応用問題として、ローン返済の問題を考えてみます。回帰分析のより進んだ分析を学ぶ予定です。それらは、ダミー変数を伴う回帰分析や、非線形モデルの回帰分析、不均一分散の問題、自己相関、連立方程式体系の推計、分布ラグのモデル、時系列分析、パネルデータの分析、などです。また、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。

成績評価の方法 成績評価は、課題報告(30%)と学年末のレポート(通常、computer assignment、70%)によって行います。

履修コード	148601
科目名	演習Ⅱ
担当者名	片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)

このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。

経営分析とは、文字通り「企業の経営を分析すること」であり、きわめて範囲の広いものです。具体的には、皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、
- 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、

といった内容です。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

履修上の留意点

このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心にします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向けのゼミです。

成績評価の方法

3年次(演習Ⅱ)では、各自が決めたテーマに取り組み、4年次のゼミ論作成に向け少しずつ仕上げていきます。各自、月に1回程度のレポートであり、確実に提出すること、成績評価の方法は、毎月のレポート提出による平常点100%です。

教科書/テキスト

開講時、指示します。

参 考 書

随時、紹介します。

そ の 他

ゼミ入室の決定方法は面接〔志望理由書(500字程度)事前提出〕とテスト(演習Ⅰは1年次学習中の簿記、演習Ⅱは日商簿記検定2級程度)によります。

なお、いうまでもなく無断欠勤と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。

営・管A・
市

履修コード	148701
科目名	演習Ⅱ
担当者名	はとり しげる 羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅱでは、日本企業のコーポレート・ガバナンス、情報効率性、システム特性などのより進んだ研究を目指して、上級レベルのテキストと専門的な基本文献を理解し、知識の拡充とゼミ生各自のレベル・アップを目標にします。

講義の内容/
授業スケジュール

前期では、下記の参考書、教科書を中心に学習し、研究テーマの方向が決まるようにゼミを進めていきます。後期では、ゼミ生の研究テーマを報告してもらい、ディスカッションとプレゼンテーションを繰り返すことによって研究を確かなものにしていきたいと考えています。なお、研究の中間報告を年末に提出してください。

成績評価の方法

ゼミでの報告とその内容によって評価します。

教科書/テキスト

青木昌彦『比較制度分析に向けて』NTT出版、龍澤弘和・谷口和弘訳3900円(新装版)

参 考 書

岡田章『ゲーム理論』有斐閣、4600円

青木昌彦・奥野正寛・岡崎哲二編著『市場の役割・国家の役割』東洋経済新報社、2500円

履修コード	148801
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>たかき かづみ</small> 高木 克己

講義の到達目標(ねらい) 3年次では、前期において卒業論文作成に向けてのテーマ決定するために、法人税関連のテキストを読みます。なお、「税務会計論」も必ず並行して、受講してください。
3年次後期から4年次終了時までの予定としては、各自選定したテーマを数回に分けて報告することになります。例えば、制度の意義、概要、沿革、ケース・スタディ、問題点の整理、その解決策あるいは方向性、などです。
3年次終了時には、各自選定したテーマで進級論文(10枚以上、400字)の作成を行います。特に3年次では、各自のテーマの沿革、制度導入の背景等、現行の制度の内容、諸外国の制度との比較等に重点を置いて、作成することになります。
なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。
前期は、卒業論文のテーマを決めるために、法人税法に関する文献を1冊採り上げ、報告してもらいます。
後期は、各自選定したテーマにそって、沿革、現行制度の内容等を検討していきます。
出席及び報告により評価します。
最初の授業で紹介します。

講義の内容／
授業スケジュール

成績評価の方法
参 考 書

履修コード	148901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>いいた てるお</small> 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい) この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。問題に応じて、様々なモデルがありますが、この演習では、演習Ⅰでの学習を発展させ、いくつかのモデルについてより発展的・応用的な知識の習得を目指します。また、コンピュータの利用技術についても同様です。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

このゼミでは、学生の主体的・積極的な参加を前提としています。「経営数学」を受講した程度の数学的知識を持っていることが望ましい。その数学的知識を応用してみたいと思っている意欲のある学生の参加を希望します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

平常点(出席とゼミへの積極性)、課題のレポートと発表により総合的に評価します。
最初の授業のときに紹介します。

履修コード	149101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい) 【テーマ：情報セキュリティ】 文書(英論文など)の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。

講義の内容／
授業スケジュール 次の事項をおこなって行う。

- ・コンピュータによる情報セキュリティについての演習。
- ・テーマの発見と発表(3回)。
- ・BPMNによるビジネスプロセス図の作成。UML。
- ・ゼミ論文のテーマの決定、ゼミ論文中間報告書の提出。

その他

- ◆就職活動についてのアドバイス、面接の実習、ビジネス文書の書きかた。
- ◆情報処理技術者試験のための学習。
- ◆イベント(年1・2度)。

履修上の留意点 テーマは“情報セキュリティ”であって、コンピュータの操作方法ではない。コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。入ゼミ者は、2年次までに“情報処理基礎”を必ず履修すること。

成績評価の方法 出席のほか、発表(3回)、ゼミ論文テーマの発表、ゼミ論文中間報告書。

教科書／テキスト 教材のページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html>

参 考 書 吉田幸生『仕事の文章が面白いほど書ける本』(中経出版)1992年

そ の 他 入ゼミ手続き(2年次)：面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。“情報処理基礎”をすでに履修していること。

関 連 リ ン ク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/>

営・営A・
市

履修コード	149201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	<small>あかし ひろゆき</small> 明石 博行

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、パソコンの操作能力等の基礎力の育成を図るとともに、経済社会学の応用領域の学習に取り組みます。研究テーマと課題図書についてはゼミ参加者と相談して決めますが、最近では、現代の多国籍企業と国際経営に関する研究を基本課題としています。また、卒業論文の作成に向けての準備活動も、本演習の重要な課題です。

講義の内容／
授業スケジュール 演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パソコン教場において、エクセル(およびパワーポイント)の操作能力を育成しつつ、マクロ経済データの処理と分析の基本を学びます。後期には、通常の演習教場において、課題図書を中心とする学習と討論に取り組みます。

本演習では、サブゼミと合宿も大切な取り組みとなります。サブゼミでは、3から4人のチームをつくり、それぞれのチームごとに研究テーマを設定し、資料やデータの収集の仕方や分析の仕方を学んでゆきます。合宿では、ビデオ学習なども含め、通常のゼミの取り組みの補足や新たな準備となる学習・研究に取り組みます。

準 備 学 習 高校の政治経済で学ぶ経済領域の知識の習得は、ゼミ学習の前提となるものとして、ゼミの参加者全員に取り組んでもらいます。

履修上の留意点 定められた時間帯の演習、および補習、合宿、相談会を通じて、サブゼミにおけるテーマ別の学習と演習参加者全員による学習・研究とを組み合わせることでゆきます。演習は参加者の自主的な取り組みなしには成立しません。受け身の姿勢ではなく、能動的・積極的な姿勢で演習に参加することが求められます。

成績評価の方法 出席、演習課題への取り組みを総合的に判断し、評価をします。

教科書／テキスト 前期には、『Excel2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1780+税) および『PowerPoint2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1800+税)を使用します。後期に使用するテキストについては、参加者との相談のうえ、選定し確定します。

参 考 書 『最新政治・経済資料集2010』(第一学習社)を使用します。

そ の 他 ゼミの内部で使用する関係資料を、必要に応じて配布します。

履修コード	149301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 自分の興味あるテーマをデータを使って解析し、その結果から新たな知見を導く能力の習得を目的としています。

講義の内容／授業スケジュール 前期はExcelを使った統計実習が中心です。Excel実習では、テキストの輪読形式をとります。担当者は事前に担当箇所を読解し、データを準備し、他の学生にわかりやすいよう工夫し発表します。また課題も出しますので、各自実習を行い、結果と考察をまとめ、発表してもらいます。後期は各自興味ある分析テーマを見つけ、そのテーマの検証にどのようなデータや事例を利用すればよいか検討し、適宜報告してもらいます。

履修上の留意点 演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと継続して受講することを前提としています。無断欠席は厳禁です。

成績評価の方法 出席状況、課題やグループワークへの取り組み、発表態度および理解度により総合的に評価。

教科書／テキスト 柏木吉基『Excelで学ぶ意思決定論』オーム社

履修コード	149401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	長 国強

講義の到達目標(ねらい) 現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使ってのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容／授業スケジュール 演習Ⅱ(3年生)：EXCELと情報収集…コンピュータ上の情報収集とデータ解析
EXCELなどの入門が既に果たされ、これからコンピュータのことを、情報収集やデータ解析などの実践を通じてもっと知りたいという学生のための演習です。近い将来学生諸君に直面されるだろう市場調査・予測、品質・生産管理、国際経済・株式投資などの課題をコンピュータ上、データ解析手法を使い、企業現場の具体例を交えて細かく実習していく。

成績評価の方法 平常点：出席・レポートの成績などで総合的に評価する。

その他 演習Ⅱは毎回の実習アイテに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけなくなることも考えられる。したがって、理由なく年間8回以上欠席した場合、自動的に除名されることにする。

履修コード	149501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	中川 淳平

講義の到達目標(ねらい) この演習では、経営学説について考察する(したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる)。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。

講義の内容／授業スケジュール 経営学説の基本文献についての輪読。応用的な文献についての報告と討論。毎回担当を決め、報告をする。報告後、参加者で討論を行なう。※経営学史についての文献(前期)、経営学分野について、ゼミ生が選択した文献(後期)。

準備学習 毎回の該当箇所について報告者がレジюмеを作成するだけでなく、他の参加者も討論に参加できるように十分に予習しておくこと。

履修上の留意点 予習・復習、あるいは論文作成のために多くの時間を割く必要があるので、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。

成績評価の方法 平常点100%(発表や討論の内容、論文、学習態度など)

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 参加者が選択したテーマに応じ、適宜指示する。

履修コード	149601
科目名	演習Ⅱ
担当者名	猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、管理会計の基礎となる諸概念について財務会計分野の知識も含めて学ぶことを目的としている。会計計算はたんなる四則演算ではなく、目的に適った政策的計算であること、また会計計算の裏側には明瞭な意図をもつ会計制度と会計理論が存在していることをつねに念頭に置いて勉強を進めていってもらいたい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 管理会計の基礎(1)—管理会計とは何か、第2回 管理会計の基礎(2)—会計情報システム、第3回 管理会計の基礎(3)—財務諸表、第4回 管理会計の基礎(4)—株式会社会計、第5回 管理会計の諸概念(1)—原価概念、第6回 管理会計の諸概念(2)—利益概念、第7回 管理会計の諸概念(3)—キャッシュフロー、第8回 管理会計の諸概念(4)—資本コスト、第9回 管理会計と原価計算(1)—原価計算の基礎、第10回 管理会計と原価計算(2)—間接費管理、第11回 管理会計と原価計算(3)—標準原価計算、第12回 管理会計と原価計算(4)—直接原価計算、第13回 第1回から第12回までのまとめ、第14回 利益計画(1)—CVP分析、第15回 利益計画(2)—価格を考慮した利益計画、第16回 利益計画(3)—プロモーションを考慮した利益計画、第17回 利益計画(4)—セールスマックス、第18回 原価管理(1)—ABC、第19回 原価管理(2)—原価企画、第20回 原価管理(3)—営業費管理、第21回 原価管理(4)—研究開発費管理、第22回 意思決定会計の基礎(1)—差額原価収益分析、第23回 意思決定会計の基礎(2)—期待値による意思決定、第24回 意思決定会計の基礎(3)—割引価値による意思決定、第25回 意思決定会計の基礎(4)—最適値による意思決定、第26回 第14回から第25回までのまとめ、第27回 管理会計の文献研究(1)、第28回 管理会計の文献研究(2)、第29回 管理会計の文献研究(3)、第30回 現代管理会計の特質

履修上の留意点

演習では学生による発言が中心となる。発言にあたっては、他の参加者がより深く理解できるように資料を作成してもらった場合もあるが、その際は、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。

成績評価の方法

授業中の発言および課題の出来、出席状況、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。

教科書／テキスト

参考資料を授業中に配布する。

参 考 書

櫻井通晴『管理会計〔第三版〕』同文館出版。

そ の 他

1回の授業につきかならず、何か1つは新しい知識や疑問点を見つけられるよう集中して授業に臨んでもらいたい。

営・営A・
市

履修コード	149801
科目名	演習Ⅱ
担当者名	藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することももちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

講義の内容／
授業スケジュール

3年次・4年次では、先述のように各人がゼミ論文のテーマを設定し、論文作成のための研究を進めていく。また授業自体は、ゼミ生各人による自分の論文についてのプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる(全30回の授業全て)。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。このような研究報告や議論・討論を活発に効果的に進めるために、ゼミ内に全員が積極的に発言できるような雰囲気を作りたい。それゆえ授業以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。

履修上の留意点

以上のような内容なので、中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。2年という時間の中で、一定水準以上の論文を完成させるのは、継続的な努力と意欲が必要になるからである。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

履修コード	149901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	かねむら えいせい 兼村 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情動的懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。

マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を購入することを可能にする活動をいい、社会的・経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の4つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 通常の演習においては、テキストを全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。
2. 年に2回、各自で業界研究をし、それぞれについて、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概略を冬（ないし春）合宿で発表する。
3. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、各自で20以上の質問を考える。
4. 東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。

履修上の留意点

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席状況、授業態度、発表内容、レポート内容等による総合的な評価

フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』〔第3版〕、ピアソン・エデュケーション、2008年、3,990円。

参 考 書

フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』〔第12版〕、ピアソン・エデュケーション、2008年、8,925円。

宮澤永光（監修）『基本流通用語辞典』〔改訂版〕（白桃書房）2007年、2,625円。

宮澤永光・亀井昭宏（監修）『マーケティング辞典』〔改訂版〕（同文館）2003年、2,940円。

履修コード	149911
科目名	演習Ⅱ
担当者名	青木 ^{あおき} 茂樹 ^{しげき}

講義の到達目標(ねらい)

この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。

こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、① Action (主体性、働きかけ力、実行力)、② Thinking (課題発見力、計画力、創造力)、③ Teamwork (発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。
2. 夏休み 夏合宿(9月)&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。
3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。
4. 冬休み 完全休み
5. 春休み OB・OG会。

履修上の留意点

学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。

成績評価の方法

ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。

教科書/テキスト

皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

営・営A・
市

履修コード	149921
科目名	演習Ⅱ
担当者名	高井 ^{たかい} 徹雄 ^{てつお}

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。

- (1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
- (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
- (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
- (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。

皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方向を見極めながら進めていきます。

講義の内容/
授業スケジュール

- 4-10月：輪読・・・ゼミメンバーの希望に沿って適切な文献を決め、全員参加の輪読会を実施
6月：ソフトシステム方法論・・・演習Ⅰと合同ゼミ合宿、SSMで社会的問題を扱う
11-12月：ゼミ論テーマの作成

履修上の留意点

毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。

成績評価の方法

毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。

履修コード	149931
科目名	演習Ⅱ
担当者名	菅野 <small>かんの さおり</small> 佐織

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅱの目的は、マーケティングに関連する研究を通じて「論理的思考力」を養うことです。このゼミでは、グループ毎にテーマ課題を設定し、問題の発見から仮説の導出、データ分析による仮説の検証といった一連のプロセスを通して、論理的思考を養います。研究Ⅱでは、グループ研究を主に行い、その結果は、10ゼミ討論会またはスチューデント・カレッジといった他大学との討論会で発表することを目標にします。最終的な研究成果は、論文にまとめていきます。このような一連の作業は、他大学の学生との勉強会、討論会を進めながら行っていく予定です。

講義の内容／
授業スケジュール
準備学習
履修上の留意点

- ・グループ毎でのテーマ研究
- ・研究発表会への参加(11月Sカレ、12月10ゼミ討論会)

ゼミ以外の時間に勉強をしなければならないことは言うまでもない。このゼミでは、次のような人が向いています。

- ・マーケティング、消費者心理の問題や、消費者調査などのマーケティング・リサーチに興味がある。

成績評価の方法

出席の状況と毎回の課題への取り組み度合い、授業への貢献を総合的に判断して評価します。なお、自己評価および他のゼミ生からの他者評価によっても評価をします。

教科書／テキスト
参考書
その他

授業で適宜お知らせします。
授業で適宜お知らせします。
継続力と強い精神力、礼儀を持つ人を歓迎します。遅刻、欠席が多い人、やる気の低い人には、ゼミの途中でも辞めてもらうことがあります。また、何かを楽しむためには、ある一定以上の知識が必要となるので、ゼミ以外の時間にも進んで勉強するようにしてください。

履修コード	149941
科目名	演習Ⅱ
担当者名	中川 <small>なかがわ こういち</small> 功一

講義の到達目標(ねらい)

演習のねらい：問題解決力の育成
社会では、形の決まった問題は起らず、常にその時その時に固有の状況の中で判断を迫られることになる。そのときに必要となるのは、ものごとを論理的に考え、自分なりの答えを見つけ出す、問題解決能力である。
経営戦略論とは、特にビジネスの現場における問題解決力を養うために準備された学問である。本ゼミでは、経営戦略論の学習を通じて、さまざまなビジネスシーンにおける問題解決の能力の育成を目指す。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。

成績評価の方法

原則として毎回出席、毎回発言を求める。なお、教科書はゼミとして購入するので個別に購入する必要はない。
ゼミ論の提出と、出席、報告。

履修コード	149951
科目名	演習Ⅱ
担当者名	なかの かおり 中野 香織

講義の到達目標(ねらい)

マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につけることが必要である。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

前半はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有するため、教科書を輪読し、内容について議論する。
後半はグループ研究を基本とし、以下の課題等に取り組む。

- ・グループでの論文執筆（他大学との合同論文発表会への参加）
- ・ある商品についてのマーケティング・コミュニケーション戦略を企画し、実務家へプレゼンテーションするケース研究

履修上の留意点

・6大学合同で大学生1000人に調査・分析し、記者発表するプロジェクト（FUTURE）への参加
ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業態度（出席状況、積極的な参加）、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。

参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。

亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』（日本経済新聞出版社）2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊（八千代出版）2,835円、亀井昭宏・疋田聰編『新広告論』2005年刊（日本経済新聞社）1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊（電通）2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年刊（有斐閣）2,205円

管・営A・
市

履修コード	149961
科目名	演習Ⅱ
担当者名	わかやま だいすけ 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅱの目的は、市場（消費者行動）を理解するための理論や方法論、および統計処理ソフトウェア SPSS の使い方について学ぶことにある。

講義の内容／
授業スケジュール

マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察法・調査法・実験法を学び、この分野で最も利用されている統計処理ソフトウェア SPSS の使い方を学び、マーケティングデータ解析の理解を深める。さらに市場理解に重要な社会心理学の諸理論について学ぶ。

(1)～(6) テキストの輪読、(7)～(14) 論文の輪読、(15) 前半まとめ、(16)～(22) 統計処理ソフトウェア SPSS を用いた演習、(23)～(30) マーケティングデータ分析課題とプレゼンテーション

履修上の留意点

グループワークをはじめ、学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。統計処理ソフトウェアを用いた演習では、統計学を学んだことがなくても基礎からわかりやすく解説する。休まずに出席すれば理解できるようになる。もしも欠席するときは事前に申し出るようにしてください。

成績評価の方法

成績は、一人3～4回の発表、出席、ディスカッション（質問、コメント等）への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。無断欠席が何度か続いた場合は履修放棄とみなすことがあります。

教科書／テキスト
参 考 書

テキストや論文は必要に応じて配布する。

必要に応じて配布あるいは指示する。

履修コード	150001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	中村 公一 <small>なかむら こういち</small>

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。

ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。

(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。

(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。

(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。

(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱ(3年生)

前期(1～15回)；競合企業の比較分析、ビジネスプラン対抗戦

後期(16～30回)；ケース・ディスカッション

準備学習

経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。

履修上の留意点

ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)

成績評価の方法

遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。

教科書／テキスト

授業時に発表する。

履修コード	150011
科目名	演習Ⅱ
担当者名	岸田 隆行 <small>きしだ たかゆき</small>

講義の到達目標(ねらい)

原価を知ることにはマネジメント・コントロールの基礎であり、原価を知ることなくして、経営を理解することは困難である。近年は経営環境の変化が著しく、原価計算・管理会計も経営環境の変化に対応すべく、様々な技法が編み出されている。しかし、それらの新技法が実際に有効であるのか、またあらゆる企業に適合するのかが明らかではない。本演習では現代的な経営環境の中で、原価計算がマネジメント・コントロールにおいてどのような役割を果たすかについて理解を深めていく。

講義の内容／
授業スケジュール

それぞれのテーマについて担当者を割り当て、担当箇所についてレジメを作成し、報告してもらい、報告内容について受講者全員でディベートを行う。

準備学習

担当箇所の報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってもらいたい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読した上で、議論に参加することが望ましい。

履修上の留意点

積極的にゼミ活動に参加してもらいたい。

成績評価の方法

報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。

教科書／テキスト

開講時に指示する。

参考書

適宜紹介する。

履修コード	150041
科目名	演習Ⅱ
担当者名	河合 由佳理 <small>かわい ゆかり</small>

講義の到達目標(ねらい)	近年、ビジネスのグローバル化に伴い会計の分野についても国際会計基準審議会を中心とした会計基準の国際化が著しくみられます。そこで、本講義では国際財務報告基準（IFRS）についての専門書を用いてIFRSの基本的な考え方を理解し、日本の会計基準との異同点を学びます。そして報告・討論の中で会計の国際化がもたらす問題点、今後の課題について考察します。 また、各自で興味のあるテーマを探し、卒業論文作成を意識した学習・準備を進めます。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回：授業の進め方について 第2回：資料の探し方、報告の方法について 第3～15回：会計基準のコンバージェンス－IFRSを中心に－ 第16回：卒業論文に向けての説明 第17～30回：各自の選んだテーマの学習・報告
準備学習	本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。
履修上の留意点	授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有することを望みます。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席状況と授業への取り組みを総合して評価します。 授業中に指示します。

管・管A・
市

履修コード	144101
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	宮城 徹 <small>みやぎ てつ</small>

講義の到達目標(ねらい)	経営学を学ぶ際、特に、英語圏とドイツ語圏の経営学を原書で読む能力が重要である。ここでは英語圏だけを取り上げる。 その際、実践的問題解決は、理論研究の必要性を前提し、それを裏づける理論なしにはすまされえない、という基礎前提の上に立ってはじめて認められる、という点を見落してはならない。 だからこそ、原書を正しく読む能力が不可欠である。ここに原書講読の意義がある。
講義の内容／ 授業スケジュール	この講義の内容は、2009年ノーベル経済学賞を受賞したアメリカのO. ウィリアムソン（Oliver Williamson）、ドイツ経営学者の代表者の一人であるミュンヘン大学のA. ピコー（Arnold Picot）、フランスにおける取引コスト理論の代表者であるパリ大学のC. メナード（Claude Ménard）、その他の世界的な権威者たちの企業論に関する最新の論文集である。 受講生が、（1）専門用語の正確な訳語を理解し、（2）文章全体を正しく翻訳し、（3）その理論の内容を正しく理解できるように説明し、（4）同時に翻訳のコツを指導する。 毎回、受講生各自に翻訳させ、誤りを正してゆく。 十分な予習・復習を要する。 出席と翻訳力による平常点評価。
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書／テキスト	Edited by Ulrich Bindseil, Justus Haucap, Christian Wey, "Institutions in Perspective", Mohr Siebeck, 2006

履修コード	144111
科目名	外書講読（英書Ⅰ）
担当者名	中川 淳平 <small>なかがわ じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい)	英文の講読を通じて企業社会の実態認識を深められるようにする。
講義の内容／ 授業スケジュール	事前に配布する英文資料について、毎回報告者を決め、要約ないし翻訳を報告してもらう（1－30）。
準備学習	担当者以外にも、毎回必ず予習をしてから出席すること。
履修上の留意点	1つのトピックは数回にまたがるので、継続して出席できない学生の参加は遠慮してほしい。
成績評価の方法 教科書／テキスト	平常点100%。但し、履修者の出席状況いかにによっては試験を課す場合がある。 プリントを配布する。

履修コード	144121
科目名	外書講読 (英書 I)
担当者名	<small>はねだ しやうこ</small> 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、英語で書かれた経済学の専門書を読みこなす能力を養うことです。単に英語を和訳するのではなく、教科書の内容を理解し、それを第三者にわかりやすく伝えることに尽力してください。

講義の内容／
授業スケジュール 履修上の留意点 テキストに沿って進める。

成績評価の方法
教科書／テキスト 講義の進め方としては、輪読形式をとります。一回の授業ごとに担当者を複数人割り当てるので、該当者は担当箇所を読解し、その内容を発表してください。

平常点 (課題への取り組み、講義への出席状況) 50%、筆記試験50%で評価する。
Avinash Dixit, Susan Skeath and David H. Reiley. 2009. Games of Strategy (3rd Edition) :W W Norton & Company.

履修コード	144201
科目名	外書講読 (英書 I)
担当者名	<small>なかの かおり</small> 中野 香織

講義の到達目標(ねらい) 英語で書かれた書籍、新聞、雑誌を読むことを通じて、統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) の視点から広告やセールス・プロモーションを学ぶことを目的とする。単に英語を和訳するのではなく、内容理解に重点をおく。

講義の内容／
授業スケジュール 履修上の留意点 前期は書籍を用いて、マーケティング・コミュニケーションの基礎的な理解につながる章を対象とする。講読する文献は受講生の興味に応じて、講義の最初に決めたい。

後期は新聞や雑誌 (THE NIKKEI WEEKLY, The Economist, BusinessWeek など) の、マーケティング・コミュニケーションに関連する記事を対象とする。

講義の進め方は一回の授業ごとに、全員が予習し、内容を発表してもらう。ただし受講者数によっては、進め方を変更する。

成績評価の方法
教科書／テキスト 平常点 (課題への取り組み、授業への参加など) 50%、レポート50%で評価する。

現時点では以下の文献を予定している。ただし、受講生の関心によって講義の最初に文献を決めたい。なお、講義で利用する部分は印刷して配布するので、購入する必要はない。

George E. Belch and Michael A. Belch, Advertising and Promotion : An Integrated Marketing Communications Perspective(7th edition), McGraw-Hill, 2007。(1 章 An Introduction to Integrated Marketing Communications)

参 考 書 必要に応じて、以下の文献を参照してほしい。

亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』(日本経済新聞出版社) 2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊 (八千代出版) 2,835円、亀井昭宏・疋田聡編『新広告論』2005年刊 (日本経済新聞社) 1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊 (電通) 2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年刊 (有斐閣) 2,205円

そ の 他 授業には英和辞典か電子辞書を持参すること

履修コード	150101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	たかだ みつあき 高田 光明

講義の到達目標(ねらい)

3年次からの演習に参加している間に、自分なりに持った問題意識のもとで、どのようなゼミ論文のテーマを選ぶかという作業は、自発的な姿勢で取り組むことを要求される。テーマ探しの過程でいろいろと文献を探して読むという経験を積むことは、大学卒業後に、仕事の必要に応じて、また自らの関心・興味にしたがい、自分で主体的に学べる能力である自己学習能力を身に付けるために有効である。そして論文の執筆過程で、考えながら書き、書きながら考えを深めてまとめることは、論理的に思考する能力を培うのに役立つ最も主体的な行為である。したがって、自己学習能力と論理的思考能力の養成という大学教育の根本的目的の達成を図る上で、ゼミ論文作成は、きわめて重要な位置を占めている。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅲでは、リスク・リターン関係や資本のコストといった概念をキーワードにして、企業の資本調達問題についてさらに議論を深める。そしてこのようなテーマで演習を進めていく間に、各自が持った問題意識のもとで選んだ個別テーマにより、ゼミ論文を作成する。

(1～15) 砂川伸幸著、コーポレート・ファイナンス入門(日経文庫, 2004年)を中心に研究
(16～30) ゼミ論文の作成指導

履修上の留意点

ゼミ論文の出来・不出来は、テーマをいかに絞り込むかにかかっている。扱うテーマが広いとどうしても掘り下げ不足となり、論文が、概説書の抄録のようなものになってしまうがちである。テーマについては、できるだけ絞る必要がある。したがって、自分が関心を持って扱おうとする領域に関して理解を深め、テーマを絞り込める眼を育てることが肝要である。

成績評価の方法

ゼミ論文の評価を基本とし、適宜提出を求める課題レポートも加味する。

履修コード	150201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なかがわ じゆんぺい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、経営学説について考察する(したがって、演習での研究テーマとしては、経営学説のなかから1つないし複数の学説から選択することとなる)。併せて、文献・資料の調査の仕方、報告のあり方、文章のまとめ方について習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

演習論文についてのテーマ決定と参考文献の選定(前期)
章立ての決定と作成の指導(後期)

履修上の留意点

論文作成のために多くの時間を割く必要があるので、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。

成績評価の方法

提出論文100%。

営・営A・
市

履修コード	150301
科目名	演習Ⅲ
担当者名	兼村 栄哲 <small>かねむら えいせつ</small>

講義の到達目標(ねらい) 社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報的懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。

マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

講義の内容／
授業スケジュール

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。授業時間内においても積極的に参加することが要求される。以下の2つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 学業面における大学生生活の集大成として、各自の問題意識にしたがい卒業論文を作成する。当論文は、A4サイズ1頁あたり1,200字（40字×30行）で25枚以上とする。（ワープロ原稿）。
2. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、各自が50以上の質問を考える。

履修上の留意点

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 無断で欠席や遅刻を繰り返したり、病気・就職活動などを理由に欠席や遅刻をしたにもかかわらず、その証明書を持参しない履修者については、卒業論文の最低枚数が増加することもあるので注意すること。
4. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席状況、授業態度、発表内容、卒業論文の内容等による総合的な評価なし
適宜紹介する。

履修コード	150401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	藤原 篤志 <small>ふじわら あつし</small>

講義の到達目標(ねらい) 本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション（発表・報告）をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

講義の内容／
授業スケジュール

4年次でも3年次に引き続き、先述のように各人が論文作成のための研究を進めていく。ただ場合によっては必ずしも論文という形にはこだわらず、一つのテーマ（指定もしくは任意のテーマ）についてのレポート作成を目標にすることもある。授業自体はゼミ生各人によるプレゼンテーション（発表・報告）、質疑応答、議論・討論を中心に行われる（全30回の授業全て）。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。このような研究報告や議論・討論を活発に効果的に進めるために、ゼミ内に全員が積極的に発言できるような雰囲気を作りたい。それゆえ授業以外のイベント（工場見学、合宿、コンパなど）には全員が参加することが原則である。その他、一層の学習および親睦を深めるためのサブゼミの開講も予定している。

履修上の留意点

中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

履修コード	150501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅱで決めた各自の分析テーマを、演習ⅠおよびⅡで習得した解析手法で検証し、卒業論文を作成します。

講義の内容／
授業スケジュール
成績評価の方法 前期は各自分析を進めてもらいます。後期は分析結果の報告をしてもらい、問題点や改善点の修正をし、よりよい分析を進めてもらいます。論文の書き方については、適宜指導します。出席状況、報告状況および論文の内容により総合的に評価します。

履修コード	150601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	岸田 隆行

講義の到達目標(ねらい) これまでに習得した原価計算・管理会計の知識をもとに、卒業論文を作成する。論文作成の各段階ごとに報告を行い、内容についてゼミ員同士で討論することによってよりよい論文を作成できるようにする。

講義の内容／
授業スケジュール 一年を通して論文を完成させる。
前期は各自で設定したテーマについての論文を渉猟し、いくつかの論文を報告していく。
後期は各自の論文の進捗状況を報告し、最終的に完成した論文を提出してもらう。

準備学習
履修上の留意点 他人が報告する内容であっても、事前に内容を読み、質問を考慮しておくこと。
ゼミには積極的に参加してもらいたい。
また、他人の卒業論文の報告であっても、自分とは関係ないという態度ではなく、積極的に批判や質問をすることによって、切磋琢磨し、それぞれがよりよい論文が書けるよう努力してもらいたい。

成績評価の方法
参考書 出席、報告の内容、論文によって総合的に評価する。
それぞれのテーマに沿った文献を適宜紹介する。

履修コード	150701
科目名	演習Ⅲ
担当者名	前田 和利

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅱのテーマを継続して検討するが、論文作成の指導に力点をおく。

講義の内容／
授業スケジュール ①事例研究をとりあげる。
②個人ないしグループによる研究成果の報告を行ない、論文（ワープロ、12000字以上）を作成する。

準備学習
成績評価の方法
参考書 報告者は論文の進行度に応じて事前に報告要旨・資料を作成しておくこと。
平常点（20%）および論文評価（80%）による。
論文の進行速度に応じて適宜指示する。

履修コード	150801
科目名	演習Ⅲ
担当者名	あかし ひろゆき 明石 博行

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、パソコンの操作能力等の基礎力のさらなる育成を図るとともに、引き続き経済社会学の応用領域の学習に取り組みます。今年度の研究テーマは、3年次からの継続的課題である、現代の多国籍企業と国際経営に関する研究です。また、活動の全体を通して、卒業論文の作成に取り組んでゆきます。
講義の内容／授業スケジュール	演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パソコン教場において、パワーポイント（およびエクセル）の操作能力とプレゼンテーション能力の育成を図ります。後期には、通常の演習教場において、主要テキスト『新グローバル経営』を中心とする学習と討論に取り組みます。後期にはまた、卒業論文についての報告と討論をしつつ、卒業論文を完成させます。こうした取り組みと関連するかたちで、情報収集能力と情報の整理能力のさらなる向上を図り、秋にパワーポイントを用いたプレゼンテーションと卒業論文の中間報告・検討のための合宿を行います。
準備学習	報告と討論のための事前の準備をしっかりと行うよう心がけてください。とくに、テキストをよく読み、わからないことなどを調べるよう努めてください。
履修上の留意点	4年次には、卒業論文のテーマに即して班を再編します。また、卒論の作成に際しては、班別あるいは個人別に、通常の演習時間外にも補足的な相談会を行います。
成績評価の方法	成績は、通常の演習および相談会などへの参加状況を基本としつつ、卒業論文の取り組みに関する判断を加えて評価をします。
教科書／テキスト	前期には、『PowerPoint2007 [総合版]』（毎日コミュニケーションズ、1800+税）および『Excel2007 [総合版]』（毎日コミュニケーションズ、1780+税）を使用します。後期には、引き続き、安室憲一編著『新グローバル経営』（白桃書房、3500円+税）を使用します。なお、卒業論文の作成に必要なすべての文献が、教科書・参考書となります。
参考書	『最新政治・経済資料集2010』（第一学習社）を使用します。また、個々の領域の学習に必要な参考書についても、適時、紹介します。
その他	ゼミの内部で使用する関係資料を、必要に応じて配布します。

履修コード	150901
科目名	演習Ⅲ
担当者名	おざわ としひさ 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、コンピューターを使って定量的に分析する点に特徴があります。また、マネジメント・サイエンスの応用範囲は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へと広がっています。この演習ではそのようなマネジメント・サイエンスの各種手法とコンピューターリテラシーについて学ぶとともに、資料作成とプレゼンテーションを通じてコミュニケーション能力の育成を図ります。
講義の内容／授業スケジュール	ゼミ論文を作成します。そのために、前期は経営・経済関連の雑誌記事を読みながら興味のある対象を選び、テーマを決めていきます。後期は、前期に決めたテーマについて調査・分析し、それを論文にまとめます。最後に、論文発表を行います。
準備学習	必要に応じて授業の中で示します。
履修上の留意点	論文作成ではオリジナリティを重視します。単なる調査ではなく、自分自身の見解を持つことが求められます。
成績評価の方法	提出論文、発表内容、出席状況により評価します。
教科書／テキスト	使用しません。
参考書	必要に応じて示します。
その他	特にありません。
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	151001
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>かたざり のぶお</small> 片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)

このゼミは3・4年次(演習Ⅱ・Ⅲ)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習Ⅱの講義のねらいをごらんください。)

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表、損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

履修上の留意点

このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。

成績評価の方法

成績評価の方法は平常点100%です。

教科書/テキスト
参 考 書

4年次(演習Ⅲ)では、2年間の成果をゼミ論としてまとめます。

開講時、指示します。

随時、紹介します。

営・営A・
市

履修コード	151101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>やまが じゆんぺい</small> 山田 純平

講義の到達目標(ねらい)

日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際基準の動向とその基礎概念を考察します。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。

卒業論文の構想やその周辺分野について報告をしてもらう予定です。

授業中に中間報告をしてもらうことと卒業論文を提出することが、単位の最低要件です。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

卒業論文の出来、議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。

授業中に参加者と相談のうえ、決定します。

履修コード	151201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>いいた てるお</small> 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに基づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。この演習では、ゼミ論文の作成を通して、問題を定量的に自ら分析できるようになることを目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

各自が、モデルによる意思決定・分析に関するテーマを決め、そのテーマに沿ってゼミ論文を作成します。

履修上の留意点
成績評価の方法

自ら問題意識を持ち、積極的にテーマに沿った調査・研究を行うことが求められます。

ゼミ論文の内容とそのプレゼンテーション、および出席・受講態度を考慮して総合的に評価します。

履修コード	151301
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>ながた ともひ</small> 永田 智則

講義の到達目標(ねらい) 世界の各地で生じている諸現象の中から、経済発展と貿易の關係に焦点を絞り、この問題の研究を通して、国際経済の仕組みやメカニズムについて理解を深めることを目標としている。

講義の内容／
授業スケジュール 「演習Ⅲ」では研究活動の集大成としてゼミ論と取り組み、経済開発と貿易の關係を整理しながら、国際経済の仕組みやメカニズムについて理解を深める。

履修上の留意点 無断欠席、遅刻は厳禁。授業中は積極的に発言をすること。

成績評価の方法 提出されたゼミ論を評価対象にする。

教科書／テキスト 教科書及び参考文献等については必要に応じて紹介する。

履修コード	151401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>なかむら こういち</small> 中村 公一

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。

ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。

(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。

(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。

(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。

(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。

講義の内容／
授業スケジュール 演習Ⅲ(4年生)
前期；過去のゼミ論文優秀作の輪読(論文執筆方法の学習)
後期；ゼミ論文の作成(各自の論文テーマの報告)

準備学習 経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、経営学への学習意欲の向上につながるでしょう。

履修上の留意点 ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)

成績評価の方法 遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。

教科書／テキスト 過去のゼミ論集を読みます。

履修コード	151501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	<small>やまだ まさる</small> 山田 勝

講義の到達目標(ねらい) ボードレス時代にビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。

講義の内容／
授業スケジュール 月1度の割で、各自が毎日読む『日本経済新聞』の記事の中から、テーマを定めて日本語(1000字程度)と英文のレポートをメールで提出。更にそれを演習時間に発表し、その内容をめぐってディスカッションする。共通語は英語。

成績評価の方法 平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わる事が評価の対象となる。

履修コード	151601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	日野 健太

講義の到達目標(ねらい)	このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げていくが、経営学全般について理解できるように配慮する。 演習Ⅲでは、演習Ⅱでの学習を発展させ、2万字程度のゼミ論文を完成させる。テーマは演習Ⅱと同じであることが望ましいが、就職活動等を通じて、問題意識が変わることもあり得るので変更も認める。
講義の内容／ 授業スケジュール	ゼミも各自の研究テーマの発表を中心に進める。 必要に応じて、夏、秋の合宿を行う。 普段のゼミで経過発表をした上で、ゼミ論文を提出する。
履修上の留意点	ゼミ論文の提出には合計3回の中間報告が必須。 良い論文を書くゼミ生は、他のゼミ生の論文の長所・短所をよく見ている。兄が怒られている(はめられている)のを見る次男坊の気持ちでディスカッションに参加すること。
成績評価の方法	提出された論文による。自他の中間発表に参加しなかった場合は提出を認めない。

営・営A・
市

履修コード	151701
科目名	演習Ⅲ
担当者名	宮城 徹

講義の到達目標(ねらい)	演習Ⅲ(4年) 4年次ゼミ生は、400字詰原稿用紙30～50枚程度のゼミ論文の作成にとりかかる。 そのさい、テーマに密接に関連のある邦訳書・邦語の文献を適宜指示するが、英語圏あるいはドイツ語圏の論文をゼミ論文の素材にしたいというゼミ生に対しては、然るべき論文を1本割り当てるので、それを翻訳してゼミ論文に加味してもよい。また、論文を仕上げるまでの日程等についてもアドバイスする。
講義の内容／ 授業スケジュール	※ ゼミは、毎回1人あるいは複数のリポーターが与えられた範囲をレジュメに基づいて報告し、その他のゼミ生はそれを中心にして活発にディベートするように進める。 ※ ゼミの中心的素材はゼミの開始時に指示する。 ※ 齊藤 孝著『学術論文の技法』(日本エディタースクール出版部)平成9年、を入手のこと。
成績評価の方法	平常点評価。その際、(a)出席を重視する。(b)自分の思うところを述べ、他人の意見に注意深く耳を傾ける能力があるかどうかを重視する。

履修コード	151801
科目名	演習Ⅲ
担当者名	石名坂 邦昭

講義の内容／ 授業スケジュール	各自のテーマについて論文を作成し、全体の論文集を作成する。
成績評価の方法	論文をもって評価する。
参考書	論題に必要な資料を紹介する。

履修コード	151901
科目名	演習Ⅲ
担当者名	羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)	最終学年の演習Ⅲでは、これまでの学習成果をまとめることが目標です。3年次で提出した研究テーマの中間報告に基づいて完成品に仕上げられるように指導したいと考えています。
講義の内容／ 授業スケジュール	1年を通して、ゼミ生の報告に基づく研究会のような形式で進めます。ゼミ生には研究報告のための十分な時間が与えられるので、活用してください。
成績評価の方法	研究報告とその内容によって評価します。
教科書／テキスト	特にありませんが、ゼミの中で必要に応じて適宜に紹介とアドバイスはもちろん行います。
参考書	特にありませんが、ゼミの中で必要に応じて適宜に紹介とアドバイスはもちろん行います。

履修コード	152001
科目名	演習Ⅲ
担当者名	滝田 公一

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅰ,Ⅱで習得した、資料の分析的読み、批判的読み、データの情報処理技術などを活用して、ゼミ卒業論文を作成していただきます。ゼミ卒業論文の作成を義務づける理由は、次のようであり、すなわち、

(ア) どのようなトピックをゼミ卒業論文のテーマとしたらよいか、すなわち、論題の切り出し方を学ぶ、

(イ) 自分の考えを論理的に明確にし、読者に理解しやすいように、幹線のわかる構造を持った論文の書き方を学ぶ、

と言った、知的作業については、その重要性にもかかわらず、これまで、日本の学校教育では、その教育が十分になされてこなかったように思われるからであります。最後に比較的入手が容易であろうと思われる参考文献をあけておきます。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを利用して、卒業論文を書いてもらいます。前期の授業で、論文の書き方、すなわち、問題の切り出し方、論文のアウトラインの作り方、研究資料の探し方、その分析、などを学びます。その後は、個々の論文の作成の指導を致します。

成績評価の方法
参 考 書

成績評価は、提出していただいたゼミ論文によって行います。
澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)昭和52年
澤田昭夫『論文のレトリック』(講談社学術文庫)昭和58年
梅棹忠夫『知的生産の技術』(岩波新書)昭和50年
川喜田二郎『発想法』(中公新書)昭和51年
中野不二男『メモの技術—パソコンで知的生産—』(新潮選書)平成9年

履修コード	152101
科目名	演習Ⅲ
担当者名	高木 克己

講義の到達目標(ねらい)

4年次では、5月半ばから7月にかけて、3年次に作成した進級論文を教材にして論文の書き方、文章の構成、専門用語の使い方等、2、3人の少人数で個別指導を行います。そして後期には、各自選択したテーマの問題点の整理、今後の方向性(解決策等)を中心に報告を行い、4年次終了時には、卒業論文(30枚以上、400字)の作成します。

なお、合宿等の行事は、2年次と同じく例年通りです。

講義の内容／
授業スケジュール

前期は、進級論文として、3年次末に提出された課題を題材にして、個別指導を中心に勉強していきます。

後期は、最後の仕上げとして、問題点、今後の課題等について勉強していき、卒業論文を完成させます。

成績評価の方法
参 考 書

出席及び報告により評価します。
各自選択したテーマにより紹介します。

履修コード	152201
科目名	演習Ⅲ
担当者名	西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

資料(論文など)を探して、読み、論文を書く、成果の発表をする。これらを通して、論理的な思考力を養う。

講義の内容／
授業スケジュール

論文の書きかたを習得する。

- ・資料の調査
- ・中間発表とりポート提出
- ・論文の作成と発表
- ・論文提出
- ・発表会

その他

- ◆情報処理技術者試験のための学習
- ◆ゼミ論文発表会(2度)・イベント(1・2度)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
関連リンク

就職活動に左右されず、計画的にゼミ論文を作成すること。

出席のほか、ゼミ論文、

教材のページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html>
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/>

履修コード	152301
科目名	演習Ⅲ
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)

研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出になるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。

講義の内容/
授業スケジュール

現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2ヵ月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者(レジュメを作成)、コメントータを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。

準備学習
履修上の留意点

日常的に新書や経済新聞に目を通して、関心を広げておくこと。
カリキュラム構成上、本演習は経営学科生対象。無断欠席は単位認定なし。特別な事情には個別に対応します。行事もゼミの一環なので出席のこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。
適宜指示。過去のテキスト例。小林良暢『なぜ雇用格差はなくなるのか』、小杉礼子編著『若者の働きかた』、萩原久美子『迷走する両立支援』、バク・ジョアン・スックチャ『会社人間が会社をつぶす』など。

参考書
その他

演習時に適宜紹介。
履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動に、卒業論文集の発行、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。入ゼミ希望者はWEBページ参照のこと。

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/>

宮・宮A・
市

履修コード	152401
科目名	演習Ⅲ
担当者名	なが こさしろう 長 国強

講義の到達目標(ねらい)

現代は情報化社会といわれ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使ってのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

演習Ⅲ(4年生):総決算…卒業論文作成に挑戦
研究テーマを自主的に選び、演習Ⅰと演習Ⅱの2年間で学んだコンピュータやデータ解析の基本知識や手法などを自ら実践し、卒業論文作成に取り込む。卒業論文については、11月の中間報告、12月の卒論発表会を経て、最終的に提出してもらう。

成績評価の方法
その他

平常点:出席・レポートの成績などで総合的に評価する。
継続性ということから、演習Ⅲの新規募集はいたしません。

履修コード	152411
科目名	演習Ⅲ
担当者名	青木 茂樹

講義の到達目標(ねらい) この演習の目的は、マーケティングや流通に関する知識を主体的に獲得していく姿勢や作法を身につけることである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。

講義の内容／授業スケジュール こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、① Action (主体性、働きかけ力、実行力)、② Thinking (課題発見力、計画力、創造力)、③ Teamwork (発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。

履修上の留意点 1. 前期 マーケティング・流通に関する重要な論文を輪読しながら、それらのアイデアが生まれてきた背景や今後の発展的展開を考える。フィールドワークや企業訪問、ゲスト・スピーカーの招聘なども適宜行う。

2. 夏休み 夏合宿(9月)&OB・OG会 合宿では、グループ研究の中間発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。

3. 後期 前期同様に論文の輪読と批判的検討を行う。これに加え、グループ発表へ向けて、グループ論文の作成に取り掛かってもらう。これは、外部機関の学生懸賞論文などとテーマを兼ねることも考えられる。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。

4. 冬休み 完全休み

5. 春休み OB・OG会。

成績評価の方法 学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。

教科書／テキスト ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。

皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

履修コード	152421
科目名	演習Ⅲ
担当者名	菅野 佐織

講義の到達目標(ねらい) 演習Ⅲの目的は、マーケティングに関連する研究を通じて「論理的思考力」及び「分析力」をさらに磨くことです。卒業論文の作成を行っていきます。最終的には論文集にまとめていく予定です。
・卒業論文作成

講義の内容／授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書／テキスト

参 考 書

そ の 他

とくになし。

出席の状況と毎回の課題への取り組み度合い、授業への貢献を総合的に判断して評価します。自己評価・他者評価によっても評価します。

授業で適宜お知らせします。

授業で適宜お知らせします。

就職活動を理由に勉強をおろそかにせず、高い目標を持って卒業論文を仕上げるように。

履修コード	152431
科目名	演習Ⅲ
担当者名	中川 功一

講義の到達目標(ねらい) 経営戦略論を使いこなせるようになるよう、更なる訓練を積んでいく。同時に、その訓練の中で、問題解決のための思考能力を養っていく。

講義の内容／授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法

文献購読、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。

教科書はゼミとして購入するので、個別に購入する必要はない。

ゼミ論の提出。

履修コード	152441
科目名	演習Ⅲ
担当者名	中野 香織

講義の到達目標(わらい) マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につけることが必要である。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。

講義の内容／授業スケジュール 本演習における中心的課題は卒業論文である。取り組みは、各自で研究テーマを設定することから始める。論文をまとめるにあたって、希望者には、グループでの論文執筆（『インナー大会』への応募）や、4大学で内容を競い合う研究発表大会（MRGP）への参加も予定している。

履修上の留意点 ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。

成績評価の方法 卒業論文に加え、授業態度（出席状況、積極的な参加）と発表内容を考慮して評価する。

教科書／テキスト 参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。

参 考 書 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』（日本経済新聞出版社）2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊（八千代出版）2,835円、亀井昭宏・疋田聰編『新広告論』2005年刊（日本経済新聞社）1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊（電通）2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年刊（有斐閣）2,205円

管・営A・市

履修コード	152451
科目名	演習Ⅲ
担当者名	若山 大樹

講義の到達目標(わらい) 演習Ⅲでは、3年生までに身に付けたマーケティング諸活動に関する知識や諸理論および、統計的な考え方をもちに、各自の研究テーマで専門性を高め、その成果を卒業論文にまとめる。

講義の内容／授業スケジュール 各自のテーマごとに、
 (1～5) 文献やデータの収集、
 (6～12) (必要に応じて) 調査実験を実施
 (13～20) データ解析、
 (21～28) 論文作成
 を行う。
 (研究テーマや内容・進捗状況により、夏休みや冬休みにも、行うことがある。)

履修上の留意点 卒業研究のテーマは各自の関心に応じて選ぶ。もちろん興味を持って楽しんで取り組めるものが望ましいが、楽しんで取り組めるように努力する姿勢（工夫）も大切である。また、マーケティング・サイエンス A、B は履修済であることが望ましい。

成績評価の方法 最終的には提出された卒業論文、および最終発表会での発表により評価するが、論文を作成するプロセスも重要視する。従って、ゼミでの進捗状況報告(4～5回)と中間発表(8月～10月)、最終発表(12月)、およびディスカッションへの参加状況も含めて総合的に判断する。無断欠席は履修放棄とみなします。

教科書／テキスト 必要に応じて配布あるいは、指示する。

参 考 書 必要に応じて配布あるいは、指示する。

履修コード	152501
科目名	演習Ⅲ
担当者名	阿部 一人

講義の到達目標(わらい) 前年度に続いて会計監査の問題をとり上げ、ゼミ論文の作成を期する。

講義の内容／授業スケジュール 各自の選択したテーマにそって、卒業論文の作成とその検討を行う。

成績評価の方法 成績評価は、報告発表、レポート、出席状況により総合的に判定する。

教科書／テキスト 授業中において適宜指示する。

履修コード	152551
科目名	演習Ⅲ
担当者名	渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミでは、演習Ⅰおよび演習Ⅱで学習した知識や各自の問題意識に基づいて、卒業論文の作成を行う。卒業論文に取り組むにあたって、ゼミという場は多様な視点や考え方を取り入れる最高の機会であるので、お互いに積極的に意見をたたかわせることを期待する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1～14) 卒業研究に関する報告Ⅰ (15) 卒論中間発表 (15～29) 卒業研究に関する報告Ⅱ (30) 卒論最終発表
成績評価の方法	平常点50% (出席、積極的な参加、レジュメの作成、発表内容) 卒業論文のできばえ50%
教科書／テキスト	開講時に指示する。
参 考 書	卒業研究のテーマに応じて適宜指示する。

履修コード	152601
科目名	演習Ⅲ
担当者名	猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、現代の管理会計理論について詳細に学ぶことを目的としている。現代の管理会計は経営戦略と密接に結びついており、コスト・リーダーシップの確立や差別化を図るためのマネジメント・ツールとして展開されている点に特徴がある。たんなる事実についての計算ではなく、戦略目標を達成するための計算であることを念頭に置いて勉強を進めてもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	第1回 企業経営と管理会計、第2回 経営者と管理会計、第3回 企業価値創造のための管理会計、第4回 事業部制の管理会計、第5回 キャッシュ・フロー経営、第6回 経営戦略の管理会計への役立ち、第7回 中長期経営計画と予算管理、第8回 バランス・スコアカード、第9回 損益分岐点分析と直接原価計算、第10回 標準原価計算とコスト・コントロール、第11回 コスト・マネジメント、第12回 原価企画と戦略的コストマネジメント、第13回 第1回から第12回のみまとめ、第14回 ABCによる経営効率の向上、第15回 製品原価算定のための技術と概念、第16回 物流費・販売促進費・本社費の管理、第17回 広告宣伝費の管理、第18回 ブランド・マネジメントと管理会計、第19回 経営意思決定のための会計、第20回 戦略的・戦術的価格決定、第21回 戦略的意思決定と設備投資意思決定、第22回 企業再編と分権化の管理会計、第23回 ITのための管理会計、第24回 研究開発費の管理会計、第25回 海外事業のための管理会計、第26回 第14回から第25回のみまとめ、第27回 管理会計の事例研究(1)、第28回 管理会計の事例研究(2)、第29回 管理会計の事例研究(3)、第30回 現代管理会計の課題
履修上の留意点	演習は学生による報告が中心となる。報告にあたっては、聴講者がより深く理解できるように資料を作成してもらうことになるが、文章だけでなく図表を盛り込んだ資料をつくること。
成績評価の方法	割り当てられた報告の内容、授業中の発言、出席状況、年2回課すレポートの内容に基づいて総合的に評価する。
教科書／テキスト	櫻井通晴『管理会計(第三版)』同文館出版。
参 考 書	参考資料や計算問題については授業中に配布する。
そ の 他	必要に応じて指示する。 卒業後、胸を張って「私は学生時代、管理会計論の演習を受講しました」といえるだけの成果が上げられるよう、限られた時間の中で一生懸命に勉強してもらいたい。

履修コード	152611
科目名	演習Ⅲ
担当者名	高井 ^{たかい} 徹雄 ^{てつお}

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とするIT(情報技術)は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。

- (1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
- (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
- (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
- (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。

皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年2回の合宿(1回は勉強、もう1回は親睦を主目的とする)における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方向を見極めながら進めて行きます。

4-12月：ゼミ論各テーマ別個人指導

1月：ゼミ論最終発表と提出

毎回、コンピュータルームにおいて実習形式で授業を行います。

実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法

毎回出席をとります。また、前期・後期各1件程度、学習内容に応じてHTML作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。

営・営A・
市

履修コード	136701・137101
科目名	情報処理基礎A
担当者名	河内谷 ^{かわちや} 幸子 ^{さちこ}

講義の到達目標(ねらい)

この講義のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。

毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、ホームページ検索、ホームページ作成入門、ブログ、情報倫理などを実習していきます。

履修上の留意点

コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。

成績評価の方法

コンピュータを使って解くレポート課題を2~3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

サイエンス社「実習 Word」

その都度授業で指示します。

1人1台コンピュータを使った実習形式です。

※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	136801・136901
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	「むら」 地引 昌弘

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、経営の様々な場面で出会う意思決定やその問題解決の手段として、コンピュータを自分自身で活用できるための基礎の習得を目標とする。
講義の内容／授業スケジュール	・イントロダクション (1) 講義内容概説／情報教育センターに関するオリエンテーション／コンピュータ科学と経営学について (プロローグ) ・コンピュータの構成と基本操作 (2～8) 初めてコンピュータに触れる人が戸惑わないために、コンピュータを使う上での最初の一步から説明を始める。続いて、基本的な入力装置であるキーボードおよびマウスの操作に慣れることを目標に、ワープロソフトを用いた文書の作成を行なう。 ・ホームページによる情報発信 (9～15) 電子メールを用いたコミュニケーションや WWW ブラウザを用いた情報収集、最後に白らのホームページを作成して情報を発信できることを目指す。
履修上の留意点	本講義は、コンピュータの初心者が、コンピュータを補助として利用できるようになることを、そして何か問題が起きた場合でも自分自身で対処を行なえるようになることを最終的な目標としています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問／疑問でも大いに歓迎致します。
成績評価の方法	まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題／レポートの各部分点を総合して評価する。
そ の 他	教科書などは特に指定しないが、必要に応じて各項目ごとの参考図書を紹介する。状況が許せば、コミュニケーション手段の一つとして E-mail (電子メール) を利用する予定。 ※この科目は 4 月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137001
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	「かとう たけのぶ」 加藤 武信

講義の到達目標(ねらい)	情報化社会の電子文房具であるパソコンは、個人レベル、組織レベルおよび社会レベルで益々必要性を増している。ここではパソコンの原理とその活用法の基礎部分を総合的に学習し、それを自在に使う、インターネットを用いた情報検索やワープロによる文書の作成、表計算によるデータ加工の技法などを修得する。パソコンの実習環境は、Windows を用いる。
講義の内容／授業スケジュール	A. コンピュータの仕組みと Windows の基本操作 (1～2) アクセサリとペイントの活用、タイピング、ファイルシステムの操作を含む B. ワードプロソフト Word による文書作成 (3～4) 日本語入力、手紙、納品書、履歴書などの作成、図形描画の活用 C. インターネットと電子メールの活用 (5～6) Web ページの検索、ダウンロード、メールの送受信など D. 表計算ソフト Excel による作表・作図 (基本レベル) (7～10) 売上集計、成績処理と各種グラフ、納品書、履歴書、精算表の作成 (11～15) 基本関数、論理関数、データベースの活用
履修上の留意点	パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。
成績評価の方法	平常点(出席とレポートへの点数付け)およびテストにより総合評価する。
教科書／テキスト	①電子教材 ②コンピュータリテラシー研究会「Office2007によるコンピュータリテラシー」(サンウェイ出版) 1,300円 ISBN978-4-88389-028-6 C0004
参 考 書	鈴木光勇「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055
そ の 他	授業の方法：パソコン実習 ※この科目は 4 月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137201
科目名	情報処理基礎A
担当者名	村上 友佳子 <small>むらかみ ゆかこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、経営学・経済学での基礎的なコンピューターによる数的処理・統計処理を修得することを目的とする。経済現象は、売上高の変化、利益率の変化、失業率や公定歩合などの割合の変化等々数字として表現されることがほとんどである。こうした数字からいかに情報を引き出すか、基本的な経営・経済指標について講義とエクセルを使った実習を行う。

官公庁などのホームページをデータの収集に利用していくこともおこなう予定である。関心のあ
る事柄を調べる(図書館での文献・データベースの検索、パソコンでのインターネットの活用など
による)、表計算ソフトを使って表・グラフを作成する、プレゼンテーションを行う、レポートを書
く、などの方法を習得する。

大学生として、成果をレポートや論文として残したい学生に相応しい講義です。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1 ガイダンス
 - 2 インターネットによる官公庁統計の利用
 - 3 データのダウンロード
 - 4 企業の経営データに親しむ (図書館データベースの利用)
 - 5 数的処理の方法 (構成比、成長率、寄与度)
 - 6 EXCELによる統計処理の方法 (記述統計 グラフを描く)
 - 7 WORDによるレポート執筆 (グラフの貼り付け)
 - 8 POWER POINT によるプレゼンテーション(報告)行い方
 - 9 分析事例を見てみよう (論文やレポートを読んで、数的処理を知る)
 - 10 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方
- (「5. 数的処理の方法」「6. EXCELによる統計処理」は、複数回、講義する予定。少しずつ無理なく、情報処理を学びましょう。)

経済統計のバックグラウンドとなる経済・経営知識の講義を多少行い、実作業を行っていく予定です。

参考文献 浅子和美・加納・倉沢「マクロ経済学」(新世社)

小田切宏之「企業経済学」(東洋経済)

刈屋武昭「計量経済学の基礎と応用」(東洋経済新報社)

成績評価の方法

第一に、レポート提出を課題とする。興味のある企業の経営戦略について、WORD・EXCEL(数表、グラフ添付)を用いて、執筆すること。

第二に、講義で遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義で進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習問題を提出する。

そ の 他

講義受講者は、次回までに、ユーザーコード パスワードを総合情報センターの事務室で申請してください。

※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137301
科目名	情報処理基礎Ⅷ
担当者名	依田 聖 ^{よだ きよし}

講義の到達目標(ねらい) コンピュータなしでは社会生活を遂行してゆくことは困難になりつつある。コンピュータの基本的な操作方法をマスターする中で、コンピュータの機能について理解し、情報を大学生生活に活用する能力を身につける。前期はワープロ(ワード)とプレゼン用ツール(パワーポイント)の実習を行う。

営・営A・市

講義の内容／授業スケジュール 大学あるいは企業でPCを道具(情報収集、情報伝達、レポートの作成等)として使う基本的な力(コンピュータ・リテラシー)を養う。演習を中心に進めるが、コンピュータ化の問題点と情報倫理等の講義も行う。演習の主要な点は(1)PCの操作(Windowsの基本操作)(2)WWW(ブラウザの使用法、情報検索・収集)(3)電子メール(送受信、添付ファイル、アドレス帳)(4)ワープロ(操作法、文書作成、印刷)(5)スライドの作成(パワーポイントでスライドを作成する)以上の項目(1)～(5)を2-3回で行い15回で終わる。

準備学習 PCの電源のON/OFFやKBの操作など基本的なところは自習しておくこと。

履修上の留意点 初回は電子(PC)メールの設定をするので、必ず出席すること。

講義にはメールを活用(講義録の送付と課題の提出)する。
本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと(出欠は必ずとります)。

成績評価の方法 出席(毎回の課題を提出)・レポート40%、試験60%。特にメールを習った後は毎回の課題はメールで提出する。

教科書/テキスト 太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ [第4版]』(サイエンス社)2008年
1,950円+税、ISBN4-7819-1085-8

その他の ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137401
科目名	情報処理基礎A
担当者名	桃塚 薫 ^{ももづか かおる}

講義の到達目標(ねらい) この授業では、Microsoft Office Word 2007のMicrosoft Certified Application Specialistの資格取得を視野に入れながら、出題範囲に含まれるWordの諸機能を幅広く学習する。

講義の内容／授業スケジュール (1、2)文書を作成、カスタマイズする。(文書作成、書式設定、文書と内容の検索、Word 2007のユーザー設定)

(3、4)文章の設定を行う。(文字と段落の書式設定、文字列の操作、改ページ位置の修正)

(5、6)ビジュアルコンテンツを操作する。(図の挿入と設定、文字列を画像として扱う、テキストボックスの挿入と編集編集)

(7、8)文章を整理する。(クイックパーツの使用、表とリストの利用、表の編集、参考文献と図表一覧の挿入、データファイルの差し込み)

(9、10)文書を校閲する。

(11、12)文書の共有

(13-15)まとめ

履修上の留意点 実習授業のため、遅刻・欠席をしないこと。毎回出席を取る。授業中に数回、課題を提出する。受講者は、Windowsと日本語入力の基礎的な操作ができることが望ましい。

成績評価の方法 出席点(50)、授業中の課題提出状況(25)、期末レポート(25)による相対評価。

教科書/テキスト 佐藤 薫(著)、光信 知子(著)、『セミナーテキスト Microsoft Certified Application Specialist 攻略問題集 Microsoft Office Word 2007 第2版』、日経BPソフトプレス。

その他の ※この科目は4月初旬に抽選登録の申請をしなければ履修できません。

履修コード	137701
科目名	情報処理基礎B
担当者名	桃塚 薫 <small>ももづか かおる</small>

講義の到達目標(ねらい) この授業では、Microsoft Office Excel 2007の Microsoft Certified Application Specialist の資格取得を視野に入れながら、出題範囲に含まれる Excel の諸機能を幅広く学習する。

講義の内容／授業スケジュール (1、2) データを作成、操作する。(オートフィル、データの信頼性の確保、セルの内容と書式の編集、ワークシートの表示の変更と管理)
(3、4) データと内容の書式を設定する。(ワークシートの書式を設定、行と列の挿入・編集、セルとセルの内容に書式を設定、テーブルに書式を設定)
(5～8) 数式を作成および編集する。(数式の参照先、数式を使ったデータの集計、小計を利用したデータの集計、条件付き数式、数式を使ったデータの検索、数式に条件付き論理を使う、数式を使った文字列の書式設定や編集、数式を表示、印刷)
(9～12) データの表示と共有。
(13～15) まとめ。

履修上の留意点 実習授業のため、遅刻・欠席をしないこと。毎回出席を取る。授業中に数回、課題を提出する。受講者は、Windows と日本語入力の基礎的な操作ができることが望ましい。

成績評価の方法 出席点 (50)、授業中の課題提出状況 (25)、期末レポート (25) による相対評価。

教科書／テキスト 間久保 恭子, 2008, 『セミナーテキスト Microsoft Certified Application Specialist 攻略問題集 Microsoft Office Excel 2007 第2版』, 日経 BP ソフトプレス。

その他の他 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

営・営・A
市

履修コード	137901・138001
科目名	情報処理基礎B
担当者名	河内谷 幸子 <small>かわちや さちこ</small>

講義の到達目標(ねらい) この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に全く新種のソフトが世間的に普及するような場合が生じても適応できるように、積極的に新しいものに取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

講義の内容／授業スケジュール 毎回、1人1台コンピュータを使って実習を行います。「情報処理基礎A」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使い方、ソフト比較演習、などを実習します。

履修上の留意点 「情報処理基礎A」をあらかじめ履修しておくことをすすめます。また、コンピュータ実習授業は1回休むと次の実習内容がわからなくなるので、休まないようにしましょう。出席は必ずとります。

成績評価の方法 コンピュータを使って解くレポート課題を2～3回出し、その結果と出席状況の総合評価によって成績を評価します。

教科書／テキスト サイエンス社「実習 Word」
その都度授業で指示します。

その他の他 1人1台コンピュータを使った実習形式です。
※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138101・138201
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	地引 昌弘

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、コンピュータの操作方法を単に習得するだけに偏らず、コンピュータ自体の知識や経営における実際の問題などに対応させながら、意思決定／問題解決の手段として活用できる能力の習得を目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール

・表計算の基本(1～6)
経営の場における情報分析に際して、ワープロ以上に重要なツールである表計算ソフトに慣れることを目標に、代表的な表計算ソフトである MS-EXCEL を利用した表計算やグラフの作成、基礎的な統計分析などの各機能について学ぶ。

・オフィス統合ツールの基本(7～12)

表計算ソフトの基礎的な利用方法をベースに、より実践的な経営の問題への応用を目指す。まずは、ワープロソフトやデータベースソフトとの連携を目標に、作成したグラフを文書に組み込んだり、データベースからデータを取り出して解析を行なう技術を習得する。

最後に、表計算ソフト上の簡易プログラミング機能であるマクロを利用して、各オフィスツールを統合した環境における応用方法について学ぶ。

・コンピュータの応用(13～15)

コンピュータを自分自身で使いこなせることを目標に、プログラミングやアーキテクチャ、トラブル時の処理などコンピュータへの理解を深めるための実習／解析を行なう。まずは、簡易なプログラムを自分で開発できることを目指して、オフィス統合ツール上で利用される Visual Basic を対象にプログラミングの基礎を習得する。続いて、複雑なプログラムを作成するための作法や、実際のデバッグ手法を学ぶ。最後に、OSやネットワークの仕組みについて解説を行ない、今後コンピュータを独力で使いこなしていける能力の習得を目指す。

履修上の留意点

本講義は、情報処理基礎の履修者が日常の活動にコンピュータを自在に活用できることを最終的な目標にしています。従って、上記の基本スケジュールと並行して、適宜コンピュータに関する様々な知識や最新情報なども解説していく予定です。また、この目標に向けてのどのような質問／疑問でも大いに歓迎致します。

成績評価の方法

まずは、上記に述べた本講義の趣旨より、単位の取得だけが目的の者は遠慮していただきたい(出席免除などは基本的に認めない)。実習が中心なので、基本的には毎回出席し、出席の確認として実習内容を提出させることを予定している。各実習毎に、解決すべき課題(あるいはその実習の目標)を示すので、これらを解決(あるいは実現)できた場合に、実習毎の内容に応じた部分点を与える。また、実習の状況に応じて追加課題を提出させる場合がある。期末には、履修を終えた項目を応用したレポートを提出させる。成績は、出席および課題／レポートの各部分点を総合して評価する。

そ の 他

教科書などは特に指定しないが、必要に応じて各項目ごとの参考図書を紹介する。状況が許せば、コミュニケーション手段の一つとして E-mail(電子メール)を利用する予定。

※この科目を履修するためには、「情報処理基礎 A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎 A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138301
科目名	情報処理基礎B
担当者名	<small>かとう たけのぶ</small> 加藤 武信

講義の到達目標(わらい)

「情報処理基礎 A」の授業で確立したパソコンに関する知識・技術をさらに発展させ、実社会で応用できる活用能力に高める。すなわち Excel による応用処理と PowerPoint を用いたプレゼンテーション、さらに関係データベース Access を活用した「仕事の仕組み」の具体化を試みる。パソコンの実習環境は、Windows を用いる。

講義の内容／
授業スケジュール

- A. 表計算ソフト Excel による応用処理
 (1～4) データベース応用、ピボットテーブルの活用、各種計算モデルの活用、管理資料の作成
 B. プレゼンテーションソフト PowerPoint によるデータの視覚化
 (5～6) 表題、箇条書き、組織図、表、グラフ、挿絵入りスライドなどの作成
 (7～8) プレゼンテーション課題に沿った発表順序の企画とスライドの作成
 C. データベースソフト Access による成績処理業務の設計と処理
 (9～15) テーブルの設計、フォームによるデータ入力、テーブルの結合、クエリによる各種集計、SQL の基礎

履修上の留意点

パソコン実習が全体の80%を占めるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。また、テキストや配布教材を熟読しなければならない。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席、レポートおよびテストにより総合評価する。
 コンピュータリテラシー研究会「Office2007によるコンピュータリテラシー」(サンウェイ出版)
 1,300円

参 考 書

鈴木光男「EXCEL ビジネスデータ分析2007対応」(翔泳社) 2,180円
 ISBN978-4-7981-1118-6 C3055

そ の 他

授業の方法：パソコン実習
 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎 A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎 A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

営・営A・
市

履修コード	138401
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	村上 友佳子

講義の到達目標(ねらい)

本講義の狙いは、大学生がレポートや卒業論文を執筆する際に、必要とされるスキルを学ぶことです。また、それらは、社会人になってからも、利用可能です。

数的処理やデータベース処理、回帰分析などの高度な統計処理も、EXCEL 使うと簡単に習得できて、これまでと一味違う論文を書くことができます。

また、POWER POINT を使って、効果的なプレゼンテーションの練習をしましょう。今まで書いたことのあるレポートを POWER POINT に移して、きれいな背景や分かりやすい見出しをつけ、発表すると自信がきます。

出席する方は、まず、少人数クラスのなかで自分の意見や疑問点をしっかり述べる習慣、授業にきちんと出席して、話を聞き、課題をこなす習慣をつけてください。

大学生として、勉強や学問で実りある成果をレポートや卒業論文として残したいと考えている学生に相応しい講義です。また、社会人になってからも有効に使えるスキルを身につけたいと考えている学生にも相応しい講義です。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 POWER POINT によるプレゼンテーション (報告の行い方)
- 2 図書館における文献、資料、統計、データベースの検索の行い方
- 3 パソコン端末利用による、データのダウンロードの行い方
- 4 EXCEL 表計算ソフトを使ってみましょう
- 5 EXCEL 統計関数、財務関数の使い方
- 6 EXCEL 論理関数の使い方 (企業を評価し、ランクづけする)
- 7 EXCEL データベース処理 I (並び替え、フィルタ、自動集計機能を使う)
- 8 EXCEL データベース処理 II (顧客データの集計をピボットテーブルで行う)
- 9 EXCEL グラフの描き方 (企業評価をグラフで図示しましょう)
- 10 EXCEL 回帰分析

成績評価の方法

第一に、POWER POINT を使って、講義時間内に少なくとも一度は報告を行うことがも定められる。報告する内容は、以前に書いた企業の経営に関するレポートに基づき、EXCEL の数表、グラフを示すこと。学生個人のオリジナルな考え方に従った報告に対して高い評価をする。

第二に、講義内で示す 2 回の課題 (EXCEL による数的処理) を提出することが求められる。

第三に、講義に遅刻しないで出席し、講義を聴き、指示に従い作業を行う。分からなければ質問し、講義が進められる実際の演習を習得する。その結果として、講義内の練習を適宜、提出する。

そ の 他

※この科目を履修するためには、「情報処理基礎 A」の 4 月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎 A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	138501
科目名	情報処理基礎 B
担当者名	依田 聖

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータなしでは社会生活を遂行してゆくことは困難になりつつある。コンピュータの基本的な操作方法をマスターする中で、コンピュータの機能について理解し、情報を大学生活に活用する能力を身につける。後期は表計算 (エクセル) と H P の作成 (HTML 言語による) の実習を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

前期で養った基本的な力をベースにして、コンピュータを実践的に使えるような力を養う。演習を中心に進めるが、情報倫理や IT ビジネス等の講義も行う。演習の主要な点は (1) 表計算 (エクセル) (操作法、表計算、グラフ) (2) www - ワープロ・エクセルの連携 (アプリケーション間でのデータのやり取り、情報検索・収集とその解析) (3) H P の作成 (HTML 言語で H P を作成する)

以上の項目 (1) ~ (3) を 4 - 5 回で行い 1.5 回で終わる。

(年々 P C のレベルが上がってきているので、状況を見て P C の総合的な使用法の練習を含むこともあり得る。)

履修上の留意点

講義にはメールを活用 (講義録の送付と課題の提出) する。

本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしながら聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと (出欠は必ずとります)。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席 (毎回の課題を提出) ・レポート 40%、試験 60%。毎回の課題はメールで提出する。
太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ [第 4 版]』(サイエンス社) 2008 年
1,950 円 + 税、ISBN4-7819-1085-8

そ の 他

※この科目を履修するためには、「情報処理基礎 A」の 4 月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。「情報処理基礎 A」への抽選登録申請のみでは履修できません。

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではられません。

労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正、労働時間、男女雇用平等、労働契約法などです。

本講義ではこの雇用関係法領域を中心に、基礎的な知識を身につけてもらうことを念頭においています。

講義の内容／
授業スケジュール

下記事項について、基礎的な知識を学びつつ、現代的課題に言及します。

詳細は第1回目の授業のときにプリントを配布して述べます。ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。

- (1) 労働法の基礎的思考方
- (2) 日本型雇用システムの変化と労働法
- (3) 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 集团的労働条件の法定・変更－労働契約、就業規則、労働協約
- (7) 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- (8) 人事異動－配転、出向、転籍
- (9) 雇用の出口－解雇、定年、退職
- (10) 賃金、賞与、退職金
- (11) 労働時間、時間外・休日労働
- (12) 休憩、休日、休暇
- (13) 労働災害など

準備学習

テキストを読むこと。新聞を読むことなどです。現代雇用問題にかかわる新書なども読んでください。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は必要です。予習や復習をする上でも欠かせないでしょう。

憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

成績評価の方法

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価がつきません。レポートや中間試験も出席も考慮して評価します。

追試験は実施します。

教科書／テキスト

指定教科書は、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ [第2版]』(エイデル研究所 2010)。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。

六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

その他

各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

宮・宮A・
市

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	^{わかばやし} 若林 ^{ありさ} 亜理砂

講義の到達目標(ねらい) 経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をなうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

期末試験により評価を行う。
丹宗・厚谷編『新現代経済法入門(第3版)』(法律文化社)
別冊ジュリスト『独禁法審決・判例百選(第六版)』(有斐閣)

履修コード	127802
科目名	民法Ⅰ(総則・物権法)
担当者名	^{すが} 須賀 ^{あきのり} 昭徳

講義の到達目標(ねらい) われわれの日常生活は民法に支配されている。したがって、この社会で活動するには民法についてひとつの知識がなければならない。市民の社会生活には財貨の生産、交換、消費、配分などを目的とする経済生活の面(これを規律する法が財産法)と種族保存を目的とする保族生活の面(これを規律する法が家族法)とがある。この財産法の領域の法が物権法と債権法である。これらの通則として総則がおかれている。本講義では民法第一編総則と第二編物権法について、基本となる知識を持てるようにしたい。なお、時間の関係で総則を中心として詳しく講義をし、物権についてはひとつの知識を持てるようにしていきたいと思います。

講義の内容/
授業スケジュール

前期(民法総則)

- ①民法とは何か、民法の歴史 ②民法の基本原則 ③権利の主体(自然人) ④法人(社団法人、財団法人) ⑤権利の客体(物とは) ⑥法律行為(意思の欠缺、瑕疵ある意思表示) ⑦無効と取消 ⑧条件および期限・期間 ⑨時効(取得時効、消滅時効)

後期(物権法)

- ①物権の意義、種類 ②物権の効力 ③物権の変動 ④占有権 ⑤所有権 ⑥用益物権 ⑦担保物権(法定担保物権) ⑧約定担保物権 ⑨非典型担保(譲渡担保、仮登記担保)

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

講義にはかならず六法を持参すること。

期末試験の成績により評価する。

我妻栄・有泉亨・川井健『民法』第三版①総則・物権(勁草書房)2200円

講義の中で指示する。

履修コード	138701
科目名	商法Ⅰ（総則・会社法）
担当者名	重田 ^{しげた} 麻紀子 ^{まさこ}

講義の到達目標(ねらい)

現代の市場経済社会を支える会社企業がビジネス活動を展開していくうえで、どのようなルールの下で経営を行ない、または行わなければならないのか、そしてそうしたルールがなぜ存在するのかについて理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

現在、会社企業を取り巻く環境は多様化・国際化するなど急速な勢いで変化している。これにもなって、2006年5月「会社法」が施行され、わが国の会社法制は大きくその姿・内容を変えた。会社法が会社企業の法務・会計・税務といった会社経営全般に与える影響は計り知れず、企業実務からの関心を常に集めている法分野である。

会社法は範囲が広いため、組織に関する説明に重点を置きながら、できるだけ会社法上の論点を広くカバーして講義することとしたい。本講義では、会社とりわけ株式会社における基本的なルールを学び、株式会社法制を貫く基礎理論を修得してほしい。単にルールの内容を知識として修得するだけでなく、なぜそうしたルールが定められているのかを理解してもらいたいため、その点を意識して皆さんが立体的に会社法を理解できるように毎回の講義を進めていきたい。

具体的な授業スケジュールは、以下の通りである。

第1週 ガイダンス、第2週 会社とは何か、第3週 会社の種類と比較、第4、5週 株式の設立、第7、8週 株式の意義・種類、第9週 株主名簿、第10週 株式譲渡自由の原則とその例外、第11週 自己株式、第12、13週 募集株式の発行、第14週 新株予約権、社債、第15週 小テスト、第16、17週 株式会社の機関設計、経営機構、第18週 株主総会の権限、運営、第19、20週 株主の議決権、第21週 取締役会の権限・運営、第22週 取締役の義務、第23、24週 取締役の責任、第25週 株主による監督是正権、第26週 監査機関、第27、28週 組織再編、第29週敵対的買収と企業防衛、第30週 期末試験

履修上の留意点

法律科目を学んだことのない学生にも分かりやすい授業をするよう努めるが、各自授業の復習だけは欠かさないでほしい。(授業が始まる前の数分でもよいから、レジュメや教科書の該当ページに目を通してだけでも授業の理解度が高まります)

成績評価の方法
教科書/テキスト

期末試験の成績(7割)と夏休み前に行う小テスト(3割)の成績で総合評価する。
近藤光男・志谷匡史・石田眞得・釜田薫子『基礎から学べる会社法』弘文堂、2,500円
ISBN 9784335353918 (2010年3月に第2版が刊行予定)
なお、平成22年度版の小型の六法も持参してください。

管・営A
市

履修コード	138801
科目名	情報処理応用A
担当者名	小沢 ^{おざわ} 利久 ^{としひさ}

講義の到達目標(ねらい)

顧客データの分析は、企業がマーケティング戦略を作成する上で重要な要素となっています。この講義では、そのようなデータ分析の手法を実際に使ってみる(パソコンを用いて実際に計算してみる)ことで、応用面からの理解を目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

この講義では下記の3つのテーマについて、アンケートを作成し、お互いにアンケートに答えてデータを作り、分析ツールを使って分析し、結果をまとめ、発表するというサイクルで進めていきます。なお、第1回は授業内容と予定の説明、第15回は全体のまとめとします。

テーマ1(第2~5回):顧客の分類(クラスター分析を用いて顧客の類似性を分析します)、テーマ2(第6~10回):知覚マップ(因子分析を用いて商品イメージの図を作成し、回帰分析を用いて好みの傾向分析を行います)、テーマ3(第11~14回):顧客の判別(判別分析を用いて優良顧客か否かの判別をします)

準備学習
履修上の留意点

必要に応じて授業中に示します。
情報処理基礎A・Bの内容を前提としますが、用いる分析手法についての知識は前提としません。分析は分析ツールを使うので難しくありません。アンケートの作成や結果の解釈に頭を使ってもらいます。それぞれのテーマは数人のチームを組んでやってもらいます。

成績評価の方法
教科書/テキスト

テーマの結果提出と発表(3回、合計90点)、出席(10点)で評価します。
酒井隆、酒井恵都子、『マーケティングで使う多変量解析がわかる本』、日本能率協会マネジメントセンター、本体2,000円、ISBN978-4-8207-4419-1

参考書
その他
関連リンク

必要に応じて示します。
特にありません。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

管・管A・
市

履修コード	138901
科目名	情報処理応用 A
担当者名	<small>うたに あきひで</small> 宇谷 明秀

講義の到達目標(ねらい) 本講義では、簡単なデータ処理であるならば、市販のデータ処理ソフトに頼ることなく、自らプログラムを作成してデータ処理できるようになることを目標に、プログラミングの基礎を学ぶ。演習で簡単なデータ処理プログラムを作成する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. プログラミング講義 (10回)
C言語について、そのすべてを説明する。
2. プログラミング演習 (5回)
C++Builderを使って、実際に幾つかの簡単なデータ処理プログラムを作成する。

履修上の留意点

- ・情報処理の基礎科目を履修しておくとうい。
- ・情報処理系の科目、特にプログラミングは暗記科目ではない。
- ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

期末試験に出席状況を加味して評価する。
特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	139001
科目名	情報処理応用 B
担当者名	<small>おざわ としひさ</small> 小沢 利久

講義の到達目標(ねらい) プログラムとはコンピューターに処理を実行させるための命令書であり、その命令書を記述するための言語がプログラミング言語です。例えば、Excelで「折れ線グラフを作成する」という処理もプログラムとして記述されています。自らプログラムを作ることで、より複雑で柔軟な処理をコンピューター上で実行したり、便利な機能をアプリケーションへ追加したりすることが可能となります。この講義では、プログラミング言語 VBA (Visual Basic for Applications) を用いてプログラム作成の初歩を学びます。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：VBAの基礎1 (VB エディタ、モジュール、プロシージャ、コード、オブジェクト)、第2～3回：VBAの基礎2 (変数、演算子、セルの代入と参照、入出力関数)、第4～5回：処理の流れの制御 (条件分岐、繰り返し制御)、第6～7回：オブジェクト (メソッドとプロパティ、セルの操作、シートの操作)、第8～9回：処理の分割 (サブプロシージャ、ユーザー関数)、第10～11回：課題1 (コンピューター・シミュレーション)、第12～13回：ユーザーフォーム (コントロール、イベントプロシージャ)、第14～15回：課題2 (データ入力ためのユーザーフォーム)

準備学習

予習は必要ありません。復習として、授業で学んだことを必ず最低一回は一通り自分でやってみて下さい。プログラムの作成は、何回か失敗を繰り返しながら、自分で作ったプログラムがうまく動いたときに初めて理解できるものです。

履修上の留意点

情報処理基礎 A・Bの内容を前提とします。2回の課題の他に、授業中に練習として作成したファイルも提出してもらいます。

成績評価の方法

課題提出 (2回、合計70点)、練習ファイルの提出 (複数回、合計20点)、出席 (10点) で評価します。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他
関 連 リ ン ク

プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。
必要に応じて示します。
特にありません。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/>

履修コード	139101
科目名	情報処理応用 B
担当者名	宇谷 明秀 <small>うたに ありひで</small>

講義の到達目標(ねらい)

インターネットの普及やコンピュータの性能向上によって、情報の収集・蓄積が容易になってきている。現在、多くの企業では、日々膨大なデータを収集し、収集したデータを分析して企業経営に役立てている。この講義では、

- ・基本的なデータ分析手法の習得
- ・プログラミング技術の習得

を主たる目的として、基本的なデータ分析手法を紹介し、C++Builder を使って実際にデータ分析ソフトを開発する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. データ分析手法の講義 (5回)
幾つかの基本的なデータ分析手法を紹介する (様々なデータを用い、そのデータにどのような意味が隠されているのかを探る)。

2. プログラミング技術の講義 (5回)
演習を中心に進める。

3. データ分析ソフトの開発 (5回)
C++Builder を使って実際にデータ分析ソフトを開発する。

履修上の留意点

- ・情報処理関連の科目を履修しておくが良い。
- ・C 言語の基礎的知識を前提として講義を進める。
- ・授業は演習中心になるので、欠席は極力避けること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

期末試験に出席状況を加味して評価する。
特に教科書は使用しない。講義内容をまとめた資料を配布する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

営・営A・
市

履修コード	139901
科目名	経営財務論
担当者名	高田 光明 <small>たかだ みつあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、その活動を営むに際し、原材料・機械などの財貨や労働力といった生産要素を確保しなければならない。そのために元手となる資本を必要とする。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。

資本の源泉は、それぞれ異なる特徴を持っている。したがって、生産要素の取得を賄うために必要とする資本を、どの源泉からどのくらいずつ調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。この授業では、以上の問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3～4) 資本の分類、(5～6) 資本の運用形態、(7～8) 資金調達方法の特徴、(9～10) 資金調達の基本原則、(11～12) 流動・固定分類法の重要性、(13～14) 資金概念、(15～16) 企業利益の概念、(17～18) 減価償却費の性格、(19～20) キャッシュ・フロー、(21～22) リスクとリターン、(23～24) レバレッジ、(25～26) 資本のコスト、(27～28) 続・資金調達の基本原則、(29～30) 資金調達の手順

履修上の留意点

企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験による評価を原則とし、出席点を5点を限度に加味する。

履修コード	140101
科目名	管理会計論
担当者名	猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)

この講義の目的は、日商簿記検定試験や公認会計士試験に出題された計算問題を解きながら、管理会計の考え方や技法を理解してもらうことにある。管理会計は財務会計と並ぶ会計学の柱であり、会計学系列の演習を受講する学生はできるだけ履修してほしい。また、管理会計は経営学とも深く関わっているので、経営学系の演習を受講する学生も積極的に履修してほしい。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回 管理会計の基本概念、第2回 管理会計と原価計算1 —— 原価の意義と分類、第3回 管理会計と原価計算2 —— 原価計算の手続、第4回 管理会計と原価計算3 —— 直接原価計算、第5回 第1回小テスト、第6回 短期利益計画における CVP 分析1 —— 損益分岐点分析、第7回 短期利益計画における CVP 分析2 —— 目標利益の達成計画、第8回 短期利益計画における CVP 分析3 —— プロモーション効果、第9回 第2回小テスト、第10回 原価予測、第11回 最適セールス・ミックスの決定、第12回 経済的発注量 (EOQ) の決定、第13回 第3回小テスト、第14回 標準原価計算による原価管理1 —— 原価統制の基礎、第15回 標準原価計算による原価管理2 —— 製造間接費の原価差異分析、第16回 標準原価計算による原価管理3 —— 標準直接原価計算、第17回 予算実績差異分析、第18回 第4回小テスト、第19回 活動基準原価計算 (ABC)、第20回 原価企画、第21回 バランスト・スコアカード (BSC)、第22回 事業部制の管理会計、第23回 第5回小テスト、第24回 意思決定会計1 —— 業務的意思決定、第25回 意思決定会計2 —— 不確実性下の意思決定、第26回 意思決定会計3 —— 設備投資の意思決定、第27回 第6回小テスト、第28回 マーケティング会計1 —— 営業費管理会計、第29回 マーケティング会計2 —— ブランド管理会計、第30回 まとめ

履修上の留意点

講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。周知のように、管理会計における計算問題の多くは、日商簿記1級原価計算や公認会計士試験原価計算の特殊原価調査の分野で出題されるような問題と重なっているので、学習効果を高めるためにも、できるだけ「原価計算論」と併せて履修してほしい。

成績評価の方法

年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエートで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。

教科書/テキスト

とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記2級工業簿記や日商簿記1級原価計算の過去問題を参考にしてほしい。また、例題や解法のポイントについてのプリントを毎回配布するので、それを保存するようしてほしい。

参 考 書

管理会計の最新理論については次の本に詳しく述べられている。

そ の 他

櫻井通晴『管理会計〔第三版〕』同文館出版。

少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後まであきらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	140901
科目名	上級簿記
担当者名	加古 ^{やどす} 宣士 ^{ただし}

講義の到達目標(ねらい)

この講義は「簿記学」を習得した学生を対象とし、通年で日商簿記検定2級の知識を身につけることを目的としています。

投資家、債権者、取引先、課税当局などの外部利害関係者に対して、企業は経済活動及び経済事象を財務諸表等によって報告する役割があります。しかし、企業では経営の多角化及び国際化の傾向が急速に強まり、これにともなって取引も複雑化してきました。したがって、企業は高度な会計知識をもった会計技術者を必要としています。問題意識をもって積極的な姿勢でこの講義を受講することを強く望みます。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回 現金預金
- 第2回 手形(1)
- 第3回 手形(2)
- 第4回 有価証券
- 第5回 固定資産(1)
- 第6回 固定資産(2)
- 第7回 繰延資産
- 第8回 引当金
- 第9回 一般商品取引
- 第10回 特殊商品売買(1)
- 第11回 特殊商品売買(2)
- 第12回 特殊商品売買(3)
- 第13回 社債(1)
- 第14回 社債(2)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 資本・剰余金(1)
- 第17回 資本・剰余金(2)
- 第18回 本支店会計(1)
- 第19回 本支店会計(2)
- 第20回 本支店会計(3)
- 第21回 銀行勘定調整表(1)
- 第22回 銀行勘定調整表(2)
- 第23回 特殊仕訳帳(1)
- 第24回 特殊仕訳帳(2)
- 第25回 特殊仕訳帳(3)
- 第26回 税金
- 第27回 決算(1)
- 第28回 決算(2)
- 第29回 決算(3)
- 第30回 後期のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

必ず電卓を用意してきてください。
出席・宿題(30%)、期末テスト(70%)によって評価しますが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験2級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点します。

教科書/テキスト
参考書
その他

講義時に資料を配布いたします。
加古宣士、渡部祐亘編著『平成22年度版新検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社
是非、日商簿記検定2級を目指してみてください。
講義では各項目ごとに出来るだけ丁寧に説明していきますが、併せて『ワークブック』も購入し学習を継続することにより、一層の効率があがると思われます。
講義の内容に変更がある場合は、第1回の講義時にお知らせいたします。

営・営A・
市

履修コード	142301
科目名	商業史
担当者名	やまだ まさる 山田 勝

講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール	大変革の渦中にある現下の商業経営を、歴史的視点から見つめ直し、変革の方向と意味を考える。 (A) 生産主導の商業 (1) 商業史の意義と講義の目的(第1～3回) (2) パラダイムの発展(第4回) (3) 利益と継続性(第5～8回) (4) 商品と市場(第9～12回) (5) 大衆消費社会の特徴(第13～15回) (B) 需要主導の商業 (1) 消費スタイルの変化(第16～18回) (2) 充足から満足度重視へ(第19～20回) (3) 多様化の要因(第21～22回) (4) 「サービス」商品の特徴(第23～24回) (5) IT革命と商業経営(第25～27回) (6) 生活(文化)の変革と商業(第28～30回)
準備学習	各回の対象となるテキストの範囲をあらかじめ精読し、前回までの授業内容との関係を考えてみる。
履修上の留意点	その上で授業を聴くようにすることによって、自分の商業史観がまとめやすくなります。教科書の内容を講義で補充していくので、出席はとらないが聴講に努め質問をして欲しい。講義中の私語は他の受講生に迷惑となるので厳禁とする。
成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書 そ の 他	定期試験による。 山田勝『商業史概論』(創成社)3,000円(消費税別) 講義の中で、参考書などは随時紹介していきます。 日頃から、新聞・雑誌を通して経済・商業・経営の現状を理解するようにしてください。

履修コード	142601
科目名	生産管理論
担当者名	ふじわら あつし 藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)	生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。 また効率よくモノづくりを行なうシステムである各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について、主として自動車産業を中心に解説する。 以上のような企業内の管理機能としての生産管理に留まらず、企業内外での生産に関する諸活動、諸現象、諸問題についても幅広く取り上げたい。また本講義では生産や生産管理と密接に関連していることから労働者による労働も考察の対象としている。 このような講義内容の学習を通じて、包括的な生産管理の機能と日本のモノづくりの強さの理解につなげたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	以下の順序で講義を行なう。前期は生産管理の機能を体系的に解説する。生産に関する基本的な用語・概念(第2～4回)、生産計画と生産統制(第5～8回)、QCDの側面の管理(第9～11回)、生産要素に関する管理(第12～15回)。後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16～19回)、フォード・システム(第20～22回)、トヨタ生産システム(第23～28回)、セル生産システム(第29～30回)。 以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業での取り組みについて解説を行いたい。
履修上の留意点	講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることもあるので注意すること。 主として定期試験で行う。またレポートの課題が出ることもあるが、その場合は事前に通知する。指定しない。
成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書	山下高之『体系生産管理論』中央経済社、1990年 門田安弘『トヨタプロダクションシステム～その理論と体系～』ダイヤモンド社、2006年 その他、講義の中で指示する。

履修コード	143101
科目名	税法
担当者名	おくむら まさあき 奥村 正郎

講義の到達目標(ねらい)

租税は、我々納税者が、税法の定めるところにしたがって、国や地方公共団体（都道府県及び市町村）に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からかその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に関心を持ち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を習得してもらいたい。

営・営A・市

講義の内容/
授業スケジュール

また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識を提供できるような内容にしたい。
講義の内容は以下ようになります。

前期

1. 租税のあらまし
2. 税法の基本原則
3. 租税の種類と分類
4. 民法の相続制度(1)
5. 民法の相続制度(2)
6. 相続税の納税義務者
7. 相続税の課税財産
8. みなし相続財産
9. 相続税の財産評価(1)
10. 相続税の財産評価(2)
11. 相続税の計算(1)
12. 相続税の計算(2)
13. 贈与税
14. 贈与税と相続時精算課税制度
15. まとめ

後期

1. 所得の概念
2. 納税義務者
3. 課税所得の範囲等
4. 各種所得の種類
5. ～8. 各種所得の計算(1)～(4)
- 9.10. 所得控除及び税額の計算(1).(2)
11. 申告、納付、源泉徴収、その他
12. その他の税法(法人税)
- 13.14. その他の税法(消費税(1)(2))
15. まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他
関連リンク

テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくこと授業の理解に効果的です。
本講義では簿記会計の知識は必須ではないが、上級簿記等の講義も受講することを勧める。
学期末試験80%、平常点20%、出席状況も勘案して評価する。
仮題『公共経済と租税』速水昇編著(学文社)開講時指示する。
授業を進める中で適宜紹介する。
計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。

<http://www.nta.go.jp/>

履修コード	143301
科目名	経営戦略論
担当者名	<small>なかむら こういち</small> 中村 公一

講義の到達目標(わらい)

経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。

本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。

そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 経営戦略論の基礎概念 (1~5)
2. 成長戦略論：事業領域、多角化戦略など (6~9)
3. 競争戦略論：ポーターモデル、コア・コンピタンス、ビジネスモデルなど (10~14)
4. 前期のまとめ (15)
5. 組織間戦略論：M&A、グループ戦略、グローバル戦略 (16~21)
6. 経営戦略と経営組織：専門組織、ナレッジマネジメントなど (22~25)
7. 最新の戦略課題：研究開発戦略、ライセンス戦略、企業集積の戦略など (26~29)
8. 年間講義のまとめ (30)

準備学習

経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。

履修上の留意点

注意点としては、講義に対する妨害行為(私語、携帯電話など)には厳しく対処する。1人(数名)の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験(70%)、後期発表のレポート課題(20%)、授業中のリアクションペーパー(10%)

教科書/テキスト

授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。

参考書

中村公一『M&Aマネジメントと競争優位』白桃書房、2003年、3,570円

履修コード	143501
科目名	環境経営論
担当者名	<small>かわむら まさひこ</small> 川村 雅彦

講義の到達目標(わらい)

- ①地球環境問題の基礎知識を習得し、企業の環境問題への取組を理解する。
- ②地球環境問題と企業経営の関係について、「自分の考え方」を確立する。
- ③「知識」よりも「考え方」を問う。

講義の内容/
授業スケジュール

(前期：理論編) ①②環境経営の基本的な考え方、③④日本における環境経営の変遷、⑤⑥環境経営の手段と目的、⑦⑧市場のグリーン化と環境ビジネス、⑨⑩企業経営の環境リスクとリスク対応力、⑪⑫環境経営の評価指標(環境会計、環境効率)、⑬⑭環境経営のパウンダリー問題、⑮前期の総括

(後期：実践編) ①②企業の環境問題への取組(全体像)、③④⑤⑥環境問題への取組の実際(業種別)、⑦⑧環境マネジメントシステム、⑨⑩京都議定書と温室効果ガスの排出量取引、⑪⑫環境経営の評価と環境コミュニケーション、⑬⑭環境文明論、CSR(企業の社会的責任)、⑮後期の総括

準備学習

①日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどで地球温暖化(気候変動)や生物多様性(生態系の保全)などの地球環境問題を意識的に見る。②関心のある企業の「環境報告書」(最近ではCSR報告書としての発行が多い)を見る(ホームページで閲覧可能)。

履修上の留意点

毎回レジュメを配布するが、講師の多様な経験も交えて話をするので、出席を重視し、規定回数以上の出席を原則とする(出席は毎回とるが、事情がある場合には事前相談に応ずる)。

成績評価の方法

- ①出席(50点) + 試験(50点) = 満点100点(合格は60点以上)
- ②前期・後期各2/3以上の出席を合格条件とする(公欠届などは認める)。
- ③前期と後期の期末試験の受験を合格条件とする(資料持ち込み可)。

教科書/テキスト

教科書は特に指定しない。

参考書
その他

参考書は授業で随時推薦する。
特になし。

履修コード	143601
科目名	イノベーション論
担当者名	はわだ しやうこ 羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい) 経済システムにおけるイノベーションの役割と影響は大変大きなものです。イノベーションは生産性の向上をもたらす、企業や経済の成長や浮沈を左右し、社会や生活のあり様をも変えてしまいます。本講義では、イノベーションの特徴を理解し、その創出、活用および促進に取り組むために必要な基礎的知識を、体系的に学ぶことを目的としています。

講義の内容／授業スケジュール イノベーションは「新しいものを変える、既存のものを変える」といった幅広い概念で用いられていますが、本講義では、新製品、新サービス開発および改良といった経済システムにおけるイノベーションを対象とします。

履修上の留意点 前期は主として経済学や政策関連のトピックを、後期は経営学関連のトピックを扱います。

成績評価の方法 【前期】・イノベーションとは何か：その特質について、・経済システムにおけるイノベーションの役割、・経済成長と生産性、・イノベーションにおける政府の役割、技術政策とその事例、・日本のイノベーションシステムの現状と課題

教科書／テキスト 【後期】・企業におけるイノベーションの役割、・製品アーキテクチャと組織、・技術戦略とその事例、・組織のイノベーション、イノベティブな組織の実験、・研究開発プロジェクトの評価

参 考 書 初歩的数学を使うことがある（解説はその都度加える）。
経済学の基本的な知識があると望ましい。
年度末の定期試験（1回）と小レポート（講義内容を理解する為に、講義時間内に複数回実施）で評価。定期試験70％、小レポート30％で総合的に成績をつけます。なお、講義への参加態度も成績評価に加味することがあります。
一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』（日本経済新聞社）2800円
延岡健太郎『MOT 技術経営入門』（日本経済新聞社）3000円
小田切宏之『企業経済学』（東洋経済新報社）
後藤晃『イノベーションと日本経済』（岩波新書）

履修コード	143701
科目名	計量経済学
担当者名	こいつりよう 呉 逸良

講義の到達目標(ねらい) 現実の経済データを用いた例題を実際に解くことを通じて、計量経済学を学ぶ。パソコンを利用して演習を行うことにより、抽象的になりがちな計量経済学を分かりやすく理解し、実際のデータ分析の能力を身につける。

講義の内容／授業スケジュール (前期) Excel を利用して例題を解きながら、以下の内容を講義する。
(1・2) 統計学の基礎知識 (I)
(3) 統計学の基礎知識 (II)
(4～8) 単純回帰モデル
(9～11) 重回帰モデル
(12・13) 回帰モデルの仮説検定 (I) TSP を利用して前期の例題を再計算することを通じて、TSP の扱いをマスターする。その上で、以下の内容を講義し、TSP を用いて演習を行う。
(14) 回帰モデルの仮説検定 (II)
(15・16) TSP の基礎および練習
(17・18) Chow Test と予測
(19・20) ダミー変数
(21～23) 系列相関
(24～) 復習・授業中試験

履修上の留意点 経済理論をある程度勉強していることと、統計原理と経営数学を履修すること。

成績評価の方法 日頃の宿題、レポート、学期末試験の結果により総合的に判断する。期末試験は授業中に行い、試験での持ち込みは自由。

教科書／テキスト 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』（日本評論社）1999 2,800円（税別）
山本拓『計量経済学』（新世社）
蓑谷千風彦『計量経済学』（東洋経済新報社）
G.S. マダラ著・和合肇訳『計量経済分析の方法』（シーエーピー出版）
唯是康彦『Excel で学ぶ計量経済学入門』（東洋経済新報社）
縄田和満『Excel による回帰分析入門』（朝倉書店）
蓑谷千風彦等『パソコンによる数量分析・Excel と TSP 入門』（多賀出版）
縄田和満『TSP による計量経済分析入門』（朝倉書店）
和合肇、伴金美『TSP による経済データの分析』（東京大学出版会）

履修コード	143711
科目名	ファイナンス理論
担当者名	<small>えとう たかはる</small> 江頭 隆治

講義の到達目標(ねらい) 受講者がファイナンシャル・リテラシーを身に付け、ファイナンシャル・インテリジェンスを高めることを目的とする。すなわち、ファイナンスに関する日常的な問題を通じて基礎知識を学び、その背後にある基本的な考え方を理解する。そして資産の効率的な運用能力を高めることを目指す。

講義の内容／
授業スケジュール 入門知識篇(1-15) ファイナンシャル・リテラシーとファイナンシャル・インテリジェンス、投資とはどういうゲームか、株価とは何か、投資は運か実力か、現代ポートフォリオ理論のシュールな結論、投資に対するアドバイス

履修上の留意点 基礎理論篇(16-30) 金融工学で何を学ぶか、リスクとリターン、分散投資の原理、「ベータ」投資理論、先物取引、オプション、行動ファイナンス入門
日ごろから、メディアに掲載される銀行・証券会社などの金融機関の広告などを見て、どんな金融商品があるか、その金融商品の内容を理解できるか、考えてください。

成績評価の方法
教科書／テキスト 試験と課題による評価
藤沢数希「なぜ投資のプロはサルに負けるのか?」、ダイヤモンド社、1600円、ISBN4-478-60053-8
野口悠紀雄「金融工学、こんなに面白い」、文藝春秋、690円、ISBN4-16-660123-7

履修コード	145101
科目名	演習 I
担当者名	<small>たかき かづみ</small> 高木 克己

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミナールでは、3年間を通じて、法人税の対象となる企業の課税所得の算定過程を明らかにすることを中心に研究を行います。

なお、毎回報告者の発表に対し討論を行うという形式で進めていくので、その中で十分に自分の意見が主張できるようになって欲しいと考えています。

2年次では、企業の税金の問題を扱う前提として、簿記、会計理論の基礎的な知識を習得します。本年度は会計学の基礎を中心に勉強をします。ただし、最低限、6月の日商検定試験3、2級に向けて3カ月間だけ簿記検定の勉強をします。(すでに3級を取得している者は2級に向けて、初めての人は3級の合格を目的にします。)

なお、合宿は11月全学年合同で行っています。その内容は、ディベートが中心になります。その他、年2回程度、全学年で集まる機会を持っています。

明るくて、好奇心が強く、夢をたくさん持っている人が志望してくれたりいいなと思っています。ゼミ運営の基本的な考え方として、目標を持って頑張っている人や一生懸命勉強をしている人が居心地が悪くなるような雰囲気は絶対つくらないようにしています。

4月から、6月までは、日商簿記検定受験に向けて、個別問題や模擬試験問題等を使用して各自の実力に合わせて勉強していきます。

その後は、12月まで、会計の基礎を学びます。ローテーションを決めて報告してもらい、解説していきます。

講義の内容／
授業スケジュール

成績評価の方法
参 考 書

出席及び報告により評価します。
最初の授業で紹介します。

履修コード	145401
科目名	演習Ⅰ
担当者名	滝田 公一

講義の到達目標(ねらい)

本年度は次の文献を利用して演習を行う予定です。
 [1] 東北大学経営学グループ著、『ケースに学ぶ経営学』(有斐閣ブックス) 1998 (2,500円)
 文献[1]は、「企業とは何か?それはどのように経営されているのか?」という問題を幾つかの現実の事例(例えば、スカイマークエアライン社の設立、マクドナルドとモスバーガーの競争戦略など)をどうして考察したものです。此の教科書を題材として、学生諸君には、課題報告(例えば、1970年代から80年代に架けて、日本の自動車企業は、アメリカの自動車企業に追いつき追い越していきませんが、なぜそのようなことが起こったのか、環境と戦略について調べましょう、など)をしてもらう予定です。このような課題報告を通じて、レポートの書き方と文献・資料の探し方に習熟していただくことも演習Ⅰの狙いの一つです。

講義の内容/
授業スケジュール

また、文献[1]とあわせて、代表的な表計算ソフトであるExcelを使った経済データの情報処理をも勉強する予定です。簡単な計算によるデータの変換、グラフの作成、最小二乗推定、確率分布、線形計画法、簡単な経済理論のシミュレーション、などが取り扱われる予定です。特別な予備知識は必要ありませんが、「情報処理基礎」を前もって、または、同時に履修されると理解が一層深まるのではないかと考えられます。

前期は、エクセルを用いて、表やグラフの作成法を学び、つぎにその知識を生かして、初歩の確率・統計を学びます。これらの知識を基にして、単回帰の考え方を学びます。後期は、重回帰と仮説の検定を学びます。また、前期の初めに、レポートの書き方を勉強し、それを基にして、プレゼンテーション用の原稿を作り、3週に1度程度、学生諸君に企業のケーススタディに基づく課題の報告をしてもらいます。

成績評価の方法

成績評価は、課題報告(30%)と、学年末のレポート(通常、computer assignment、70%)によって行います。

営・営A・
市

履修コード	145501
科目名	演習Ⅰ
担当者名	羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)

日本企業のコーポレート・ガバナンスや情報効率性、システム特性などを研究するための基礎を確かなものにすることが目的です。

講義の内容/
授業スケジュール

上記の目標を達成するために1年を3期に分けて、1期(4月~6月)においては、何が問題であり、これまでにどのようにアプローチされ、どのような結果が得られたかを理解します。2期(7月、9月~10月)では、必要な分析ツールとしてナッシュ交渉解、提携形ゲームのさまざまな解その他を学習します。3期(11月~12月)になって、前2期の研究成果を踏まえて当初の目的に立ち返り、各人が自分の答えを出せるように指導したいと考えています。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

1人1人がゼミのリーダーとなるよう積極的に報告、発言してください。
 出席状況、課題の提出内容、理解度、意欲を総合的に判断し評価します。
 私のノートを含めプリントを配布します。
 ゼミの進み具合に応じて適宜紹介します。

履修コード	145801
科目名	演習Ⅰ
担当者名	岸田 隆行

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、原価計算について計算の理論的背景を探り、原価計算で行われているような計算方法がなぜ必要なのかを探求していく。また、原価計算が経営管理において、どのような機能を持ちうるのかを管理会計的な側面から追求していく。

講義の内容/
授業スケジュール

原価計算に関する知識の習得を目的として、原価計算に関するテキストを読み進めていく。受講者の報告および報告内容についての討論を中心として、原価計算の理論に対する理解を深めていく。また、練習問題を解いていくことによって、計算力も高めていく。

準 備 学 習

担当箇所の報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読し、質問を考えた上で参加してほしい。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

積極的にゼミ活動に参加してほしい。
 報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。
 開講時に指示する。
 適宜紹介する。

履修コード	146101
科目名	演習 I
担当者名	山田 純平

講義の到達目標(ねらい)

日本の会計基準は、国際的な調和化を理由に、ここ10年でかなりの変貌をとげてきたといわれます。しかし、国際的な調和化といっても、そもそも世界的に会計基準がどのような方向に向かいつつあるのか、その背景となる考え方はどのようなものか、といったことは十分に検討されているとはいえません。そこで、本演習では、企業会計に関する基礎的な知識を身につけるとともに、国際会計基準の動向とその基礎概念を考察します。

また、会計基準は実際に運用されてこそ意味があるのだから、現実の財務諸表を分析することを通じて、会計基準の実態面についても合わせて検討します。

企業会計に関する基礎的な知識を得るためのテキストを輪読する予定です。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

原則として毎回出席してください。また、ゼミの行事にはできるだけ参加すること。

議論への参加度、報告の出来、出席率で評価します。

授業中に参加者と相談のうえ、決定します。

履修コード	146201
科目名	演習 I
担当者名	飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。問題に応じて、様々なモデルがありますが、この演習では、それらの中の基礎的なものから学習していきます。また、数理モデルを用いた分析には、コンピュータの利用を前提としているものが多くあり、それらの分析を行うためのコンピュータの利用技術についても基礎的なところから学習していきます。

基礎的な数理モデルの知識および、コンピュータの利用に関する知識の習得のために、ゼミのメンバーによる輪読およびコンピュータ演習を行います。

このゼミは学生の主体的・積極的な参加を前提としています。また、数理モデル分析やコンピュータの高度な利用方法を学ぶため、ある程度は数学的知識やコンピュータに慣れていることが望まれます。具体的には、「経営数学」「情報処理基礎」を履修していることが望ましい。

平常点(出席とゼミへの積極性)、課題のレポートと発表により総合的に評価します。

用いる教科書や参考書については最初のゼミのときに紹介します。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト

履修コード	146301
科目名	演習 I
担当者名	片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)

このゼミは3・4年次(演習II・III)で「就職希望会社の経営分析」を行うことを目的とします。(経営分析の内容については、演習IIの講義のねらいをごらんください。)

2年次(演習I)では、その準備として、日商簿記検定2級にチャレンジしてもらいます。

2級商業簿記:春休み3月にプレゼミ4回(8コマ)と(1-10)、2級工業簿記(11-20)、受験対策、(21-30)。以上は大まかなスケジュールですが、日商簿記検定は6月、11月、2月にあるため、個々人に合わせ、再受験対策もします。

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。(なお、日商簿記検定2級取得者で1級にチャレンジする人は、独学or経理研究所or専門学校1級コースで一通りを学習していることを前提に受験対策のみ指導します。1級は2級の4倍程度の学習範囲があり、演習Iでは対応できないためです。)

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

成績評価の方法は平常点100%です。

私が作成したものを差し上げます。

問題集等、随時、紹介します。

プレゼミや合宿も行います。

ゼミ入室の決定方法は面接[志望理由書(500字程度)事前提出]とテスト(演習Iは1年次学習中の簿記)によります。

なお、いうまでもなく無断欠席と遅刻は厳禁です。以上の方針に見合う、学習意欲十分な学生諸君の参加を希望します。

履修コード	146501
科目名	演習 I
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドで繋がったインターネットを基盤とする IT (情報技術) は、今日の企業経営また社会・経済システムを捉えるうえでも最も重要なキーワードとなっています。皆さんは、真の意味で、情報が価値を持ち、情報が価値を生み出す時代に生きています。このような時代、企業や官庁のスタッフとして、また将来はエグゼクティブとして、「情報エリート」を目指すならば、少なくとも以下の能力が要求されると考えます。

- (1) 発見力：与えられるのを待つのではなく、自分で問題を見つける能力。
- (2) 洞察力：問題に関係する必要な情報を選別する能力。情報を分析し問題の本質を洞察する能力。
- (3) 表現力：分析結果を集約し、解り易くプレゼンテーションする能力。
- (4) 解決力：他者と協力しあって、具体的な問題解決を図る能力。

皆さんに、こうした素地を養って頂くことを狙いとして、各週の演習、および年 2 回の合宿 (1 回は勉強、もう 1 回は親睦を主目的とする) における題材と環境を用意します。主体的にゼミに参加されることを願っています。およそのスケジュールは以下のとおり。受講生とコミュニケーションをとりながら、理解度や興味の方向を見極めながら進めていきます。

講義の内容/
授業スケジュール

4-7 月：情報リテラシ・・・文書作成、HTML 作成、スプレッドシート基礎・応用
6 月：ソフトシステム方法論・・・演習 II と合同ゼミ合宿、SSM で社会的問題を扱う
9-12 月：計算機言語・・・スプレッドシートマクロ、Delphi プログラミング

履修上の留意点

毎回、コンピュータールームにおいて実習形式で授業を行います。実習形式の授業は、全体が同じペースで学習を進めていく必要がありますので、極力欠席しないようお願いいたします。

成績評価の方法

毎回出席をとります。また、前期・後期各 1 件程度、学習内容に応じて HTML 作成やプログラミングなどの課題を出します。これら平常点により評価を行いますので、筆記試験は行いません。

管・営 A
市

履修コード	146601
科目名	演習 I
担当者名	藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4 年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション (発表・報告) をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見を持ち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

講義の内容/
授業スケジュール

2 年生 (演習 I) では、まずは基礎固めとして経営学全般の基本的な内容を学習することを目的としている。ゼミ生各人にはこちらから勉強テーマが与えられるので、それについてゼミの中でプレゼンテーション (発表・報告) をしてもらい、それに対する質疑応答、議論・討論を行う。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく (全 30 回の授業全て同様)。また上記のように授業自体はプレゼンテーション、質疑応答、議論・討論が中心となるので、ゼミ内に全員が積極的に発言できる雰囲気を作りたい。そのため、授業時間以外のイベント (工場見学、合宿、コンパなど) には全員が参加することが原則である。

履修上の留意点

以上のような内容なので、中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。勉強にしろその他のイベントにしろ、自分から常に積極的に参加・参画する姿勢が求められる。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

履修コード	146701
科目名	演習Ⅰ
担当者名	兼村 栄哲 <small>かねむら えいてつ</small>

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情報の懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。

マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換（の連鎖）を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会的な観点に立ったマクロ・マーケティング（「流通」とほぼ同義）と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング（いわゆる「マーケティング」）に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本演習のねらいは、履修者の一人ひとりが、こうしたマーケティングにかかわる諸現象を体感し、当該現象について自分なりに論理的に説明できるようになることにある。

演習は、講義科目とはまったくその性格が異なっている。最低限、予・復習することはもちろんのこと、授業時間内においても積極的に参加することが要求される。このことは、「たんに出席し、ノートをとる」ことを意味するのではない。以下の5つが、私が皆さんに最低限要求する内容である。

1. 通常の演習においては、テキストを全員で輪読し、基礎的な概念や理論を学ぶ。
2. 年に1・2回、4～5人のグループで、マーケティング（論）にかかわるいくつかのテーマについて調べて、その内容を発表する。
3. 4～5人のグループで業界研究をし、A4サイズで100枚以上のレポートにまとめる。そして、その概略を冬（ないし春）合宿で発表する。
4. 夏休みの工場見学に参加する。その前提として、各工場について、それぞれのグループで20以上の質問を考える。
5. 東京都が主催する「学生起業家選手権」および日刊工業新聞主催の「キャンパスベンチャーグランプリ」に参加する。

履修上の留意点

1. 通常の演習のみならず、合宿その他の課外活動にも参加すること。同時に、たんに出席するのではなく、自発的に自分なりの疑問や意見を示すなど、積極的に参加すること。
2. お互いの親睦を図ること。
3. 授業開始後、諸般の事情で履修を取りやめる場合には、必ず事前にその旨を申し出ること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席状況、授業態度、発表内容、レポート内容等による総合的な評価
フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』〔第3版〕、ピアソン・エデュケーション、2008年、3,990円。

参 考 書

フィリップ・コトラー+ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵直人（監修）、月谷真紀（訳）『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント』〔第12版〕、ピアソン・エデュケーション、2008年、8,925円。
宮澤永光（監修）『基本流通用語辞典』〔改訂版〕（白桃書房）2007年、2,625円。
宮澤永光・亀井昭宏（監修）『マーケティング辞典』〔改訂版〕（同文館）2003年、2,940円。

履修コード	146801
科目名	演習 I
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい) 【テーマ：情報セキュリティ】 文書（英論文など）の読みかた、書きかた、発表のしかた、コンピュータの利用のしかたを体得し、論理的な思考力を養う。

講義の内容／授業スケジュール
 次の事項を順に演習する。
 ・タッチタイピング
 ・HTMLによるWebページの記述、CSS。
 ・文章の書き方：頭括法、ビジネス文書の書き方、レポートの書き方、公用文の書き方
 ・書誌情報の検索のしかたと検索練習 ⇒ レポートや論文の作成に役立つ。
 ・コンピュータの基礎知識
 ・問題の発見と解決：問題とは何か、解決の諸方法
 ・コンピュータによる問題解決：アルゴリズムと計算量
 ・論文の読み方と発表のしかた

管・営・A・市

履修上の留意点
 その他
 ◆情報処理技術者試験のための学習
 ◆研究発表会（年1度）・イベント（年1・2度）
 テーマは“情報セキュリティ”であって、コンピュータの操作方法ではない。コンピュータの知識がある人ではなく、やる気と実行力のある人を求む。

成績評価の方法
 教科書／テキスト
 その他
 出席のほかに、タッチタイピングの基準達成、検索課題、レポート、
 教材のページ：<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/seminar/materials.html>
 入ゼミ手続き（1年次）：面接と文章完成法テストによって選考する。説明会に出席しないと、面接が受けられない。原則として“情報処理基礎”をすでに履修していること。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/>

履修コード	146811
科目名	演習 I
担当者名	<small>あおき しげき</small> 青木 茂樹

講義の到達目標(ねらい) この演習の目的は、マーケティングや流通に関するフィールドワークやケーススタディをグループで行いながら、現場での課題を発見し、実際の社会に対して新たな切り口で企画・提案していくことである。今日、様々な情報が渦巻く社会では、本質的課題を発見し仮説を創造する力や、これを検証する様々な情報収集の仕方、これを論理的に説明していく力が必要である。こうした姿勢や作法を学生時代に体得しているか否かは、社会の舞台にたったときのスタート時から大きな差となるであろう。

講義の内容／授業スケジュール
 こうしたゼミ活動を通じて、今日、社会人基礎力といわれる12の力、① Action（主体性、働きかけ力、実行力）、② Thinking（課題発見力、計画力、創造力）、③ Teamwork（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）を養う。事前・中間・事後で、個々人のこれらの到達度を測り、将来の職業適性などに応じた指導も合わせて行う。
 1. 前期 プロジェクト・マネジメントの手法、フィールドワークの手法、企画書の書き方をまずは学ぶ。課題となるテーマや対象を設定し、グループにて議論を進める。
 2. 夏休み 夏合宿（9月）&OB・OG会 合宿では、前期のグループ研究の発表を行う。そのために自主的な研究会を開く場合もあろう。
 3. 後期 グループ研究を深める者と、個人研究を深める者に分かれる。ゼミ時間外に研究活動を進めながら、ゼミでは経過報告とアドバイスを貰う機会とする。基本は自分達が一番やりたい研究を行うことであろう。
 4. 冬休み 完全休み
 5. 春休み OB・OG会。

履修上の留意点 学生の主体的な研究意欲や向上心によってゼミは牽引されるものであり、教員はアドバイザーやサポーターに徹する。もちろん無断欠席はありえない。

成績評価の方法 ゼミ活動全般を通じて、総合的に評価する。すべてにパーフェクトな人間はいない。むしろ個々の人の関心や持ち味を生かしてゼミ運営に参加・貢献していることを高く評価する。

教科書／テキスト 皆さんの研究や将来の職種の興味を伺いながら、演習時にテキストを決めていく。

履修コード	146821
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>いしなま くにあき</small> 石名坂 邦昭

講義の到達目標(ねらい) 経営学部の学生として必要な基本的知識を身につけてもらう。
 講義の内容／授業スケジュール 前期において、経営学の基本的知識を習得するための授業を行う。後期は、それぞれのテーマについてレポートを書いてもらい、それをもとに発表し討議を行う。
 履修上の留意点 授業には毎回出席のこと。
 成績評価の方法 平常の授業への取り組みと、レポートにて採点する。
 教科書／テキスト 必要などきに指示する。

履修コード	146841
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>なかがわ こういち</small> 中川 功一

講義の到達目標(ねらい) 演習のねらい：問題解決力の育成
 社会では、形の決まった問題は起こらず、常にその時その時に固有の状況の中で判断を迫られることになる。そのときに必要となるのは、ものごとを論理的に考え、自分なりの答えを見つけ出す、問題解決能力である。
 経営戦略論とは、特にビジネスの現場における問題解決力を養うために準備された学問である。本ゼミでは、経営戦略論の学習を通じて、さまざまなビジネスシーンにおける問題解決の能力の育成を目指す。
 講義の内容／授業スケジュール 文献購読（伊丹敬之・加護野忠男著『経営学入門』）、ケーススタディ、フィールドワークの3本柱による。
 履修上の留意点 原則として毎回の出席と発言を求める。なお教科書はゼミで購入するので個別に買わなくてもよい。
 成績評価の方法 ゼミ論の提出、出席、報告による。
 教科書／テキスト 伊丹敬之・加護野忠男『経営学入門』

履修コード	146851
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>なかの かおり</small> 中野 香織

講義の到達目標(ねらい) マーケティング・コミュニケーションおよび広告について、実務と理論の両方の面から考察することを目的とする。理論を学ぶことに加え、それを実際の戦略に応用できるような思考も身につけることが必要である。また、さまざまな課題に取り組むことを通じて、テーマに関連した資料収集の方法、問題を発見する視点、それを解決するための方法、考えたことを人に伝えるためのプレゼンテーション方法などを学んでほしい。
 講義の内容／授業スケジュール 前半はマーケティング・コミュニケーションおよび広告に関する基礎的な知識をメンバー全員で共有するため、教科書を輪読し、内容について議論する。
 後半はグループ研究を基本とし、以下の課題等に取り組む。
 ・ある商品についてのマーケティング・コミュニケーション戦略を企画し、実務家へプレゼンテーションするケース研究
 ・4大学で内容を競い合う研究発表大会（MRGP）への参加
 履修上の留意点 ゼミの時間には積極的な発言が、ゼミの時間外には自主的な課題への取り組みが求められる。特にグループ研究ではメンバーと共同で多くの課題をこなし、活発な議論を行う。そのため、マーケティング・コミュニケーションに関心が高く、ゼミ中心の学生生活を過ごしたいと思うような意欲的かつ協調性のある人に参加してほしい。
 成績評価の方法 授業態度（出席状況、積極的な参加）、発表内容、レポートなどにより総合的に評価する。
 教科書／テキスト 参考書のなかから、数冊を教科書として利用する。詳しくは開講時に指示する。
 参 考 書 亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』（日本経済新聞出版社）2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊（八千代出版）2,835円、亀井昭宏・疋田聡編『新広告論』2005年刊（日本経済新聞社）1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊（電通）2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論 新版』2008年刊（有斐閣）2,205円

履修コード	146861
科目名	演習 I
担当者名	わかやま たいき 若山 大樹

講義の内容/
授業スケジュール

演習 I では、市場（消費者行動）を理解するための方法論や理論について学ぶ。具体的には、マーケティングデータの理解を深めるために消費者行動の観察方法、調査方法、実験手法、マーケティングデータ解析法、そして市場理解において重要な社会心理学の理論についても学ぶ。また、この分野で最も利用されている統計処理ソフト（SPSS）について学び、レポートのまとめ方やプレゼンテーションの方法についても学ぶ。

講義のスケジュールは以下のとおり。

(1)～(6) マーケティングの基礎を学ぶためのテキストの輪読・発表、(7)～(14) 論文の輪読・発表・質疑応答・ディスカッション、(15) 前半まとめ、(16)～(22) 統計処理、(23)～(30) データ分析課題

履修上の留意点

学習効果が高まると考えられることは積極的に取り入れる。各自、意欲を持って積極的に取り組むこと。マーケティング関連科目を履修していること。

成績評価の方法

一人3～4回の発表。出席とディスカッション（質問、コメント等）への参加、データ解析課題提出状況を総合的に評価する。無断欠席は履修放棄とみなします。

教科書/テキスト

演習配属説明会で指示した教材（2冊）は4月中に各自用意しておくこと。その他、必要に応じて指示あるいは配布する。

参 考 書

必要に応じて配布あるいは指示する。

営・営A・
市

履修コード	146871
科目名	演習 I
担当者名	なが こさよ 長 国強

講義の到達目標(ねらい)

現代は情報化社会と言われ、新聞・雑誌・インターネットを開いてもそこに大量の経済・経営データが見られる。ところで、経済・経営などのデータをそのまま見れば、単なる数字の山にすぎず、大切なことはそこから正しい見通しを得ることであろう。実際のデータから経済・経営など社会的な動きをどのように読みとるのかといった能力を養成できるようにすることを目的として、本演習はコンピュータを使っのデータ解析の基本技術を学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

演習 I (2年生)：決算書…見方・読み方

決算とは、一定期間の収入・支出を計算し、利益又は損失(損益)を算出することである。企業だけでなく国・地方公共団体においても決算を行うことが、法律で定められている。本演習では、インターネットや参考書・討論などを多用して、決算書などの数字を読むように実習していく。数字が強くなると、会社の安全性、収益性、営業力そして将来性まで、面白いように見えてくる。平常点：出席・レポートの成績などで総合的に評価する。

成績評価の方法
そ の 他

演習 I は毎回の実習アイテンに連続性があり、1回欠席すると、次回の実習についていけなくなることも考えられる。したがって、理由なく年間8回以上欠席した場合、自動的に除名されることになる。

履修コード	146901
科目名	演習 I
担当者名	あべ かずひと 阿部 一人

講義の到達目標(ねらい)

会計監査論は会計学の領域の一部分であるが、簿記・会計学を学習した後でないとい会計監査論を体系的に理解することは難しいかもしれない。

そこで本演習では、会計学の基本的文献をとりあげ、輪読する。

財務諸表論をとり上げる。

講義の内容/
授業スケジュール

成績評価の方法

成績評価は、出席状況、報告発表、レポート等により総合的に判定する。

教科書/テキスト

開講後、指示する。

参 考 書

授業中において適宜指示する。

履修コード	147001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい) 研究テーマは現代日本企業の人事労務管理。大学生活の中で、ゼミは最も勉強に打ち込み、一番思い出せるところだと考えます。よって、積極的に勉強し、行事を企画し、みんなで楽しくゼミを過ごしたいという学生を採用します。

講義の内容／授業スケジュール 現代の日本企業とそこに働くサラリーマンが抱える問題に関して、入門書と専門書を読んでいきます。企業と労働、社会について幅広い関心を持ち、科学的に考える力を養います。サブテーマは「終身雇用」「年功賃金と能力主義」「日本の経営」「女性労働」「日本の労使関係」「会社人間」「過労死」ほか。2ヵ月に1冊のペースで本を読みます。受講者全員があらかじめテキストを熟読し、中から報告者(レジュメを作成)、コメンテータを決め、その2人を中心に議論をしていきます。最近の新聞から企業経営や労務に関するものを切り抜き、コメントを加えてプレゼンテーションすることもやっています。4年次は卒論作成中心。

準備学習 日常的に新書や経済新聞に目を通して、関心を広げておくこと。
履修上の留意点 カリキュラム構成上、本演習は経営学学科生対象。無断欠席は単位認定なし。特別な事情には個別に対応します。行事もゼミの一環なので出席のこと。

成績評価の方法 出席点、講義中の発表・発言、レポートを総合して判定。
教科書／テキスト 適宜指示。過去のテキスト例。小林良暢『なぜ雇用格差はなくなるのか』、小杉礼子編著『若者の働きかた』、萩原久美子『迷走する両立支援』、バク・ジョアン・スックチャ『会社人間が会社をつぶす』など。

参考書 演習時に適宜紹介。
その他 履修希望者は、必ず経営労務論を履修のこと。他のゼミ活動に、卒業論文集の発行、ゼミ書評、全国コンテスト参加などがあります。入ゼミ希望者はWEBページ参照のこと。

関連リンク <http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/>

履修コード	147101
科目名	演習Ⅰ
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミでは現代企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を紐解いていき、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を身に付けるために、文献購読・資料調査・ケーススタディ・ビジネスプランニングなど多彩な課題に取り組みます。

ゼミは、単位を採るだけのものではなく、個人の「知的トレーニングの場」であり、他のゼミ生達と切磋琢磨する場であると考えて下さい。私の役割は、ゼミ生がゼミでの勉強をきっかけにして、豊かな学生時代を築こうとする時のお手伝いをするだけに過ぎません。運営の主体は君達にあります。

(1) 文献購読やケーススタディなどを通して、企業の置かれている環境とそれに対する戦略を的確に理解する専門知識の習得、分析力、洞察力の強化を図ります。

(2) レポート作成を通してのアウトプット能力、論述能力、論理構成力の強化を図ります。

(3) 毎週の報告や議論などを通じてプレゼンテーション能力やディスカッション能力の強化を図ります。

(4) 実際にビジネスプランの策定を通して、事業戦略を構築する企画力と構想力の強化を図ります。

講義の内容／授業スケジュール 演習Ⅰ(2年生)
前期(1~15回); 経営戦略論に関する入門書の購読+資料などの調査方法、企業研究・分析レポートの作成

準備学習 後期(16~30回); 現在の経営環境の解説作業、競争企業分析の実践(グループ調査)、報告書『経営戦略事例集』の作成

履修上の留意点 経営学・経営戦略論を勉強する上では、日頃から新聞や雑誌、テレビなどで関連する情報にはできる限り目を通すことが効果的です。我々の周りではどのようなことが起きているのか、常に把握していくことが、学習意欲の向上につながるでしょう。

成績評価の方法 ゼミの理念は「知的トレーニング」にあるので、毎週レポートを宿題として課し、相当の勉強時間の確保が必要になります。また、ゼミでは議論が中心になるために、事前の準備も必要となります。(夏に合宿を行います)

教科書／テキスト 遅刻の常連、無断欠席、各種課題や提出物の期限の遅れ、不十分な内容のレポートを提出した場合は、厳しくチェックします。成績は、出席数、提出課題の内容、議論への貢献度などの平常点によって判断します。なお、4年次にはゼミ論文があります。

授業時に発表する

履修コード	147111
科目名	演習 I
担当者名	日野 健太

講義の到達目標(ねらい)	このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げていくが、経営学全般について理解できるように配慮する。
講義の内容／授業スケジュール	演習 I では、まず、経営組織論の基本的な文献を輪読し、組織論の見地から論じられるようになることを目的とする。理論にとどまらず、同時に具体的な問題を取り上げ、理解を深めたい。また、自分の関心のあるテーマを見つけてもらう。 文献輪読とディスカッションによって経営組織論の内容を学ぶとともに、工場、職場の見学を行い、現実の組織のイメージを持てるように進める。 必要に応じて、夏、秋の合宿を行う。
履修上の留意点	学年末には、1万字程度のゼミ論文を提出してもらう。 ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須であるし、自分の考えをまとめるために、小レポート（原稿用紙2枚以下）を頻繁に課す。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席とゼミへの積極性、レポート内容による。 開講時に指示する。参考までに、昨年度の演習 I で読破した本は、以下の3冊である。
参 考 書	J. フェッファア & R. サットン『実行力不全』ランダムハウス講談社 斎藤慎『社会起業家 社会責任ビジネスの新しい潮流』岩波新書 C. クリステンセン『イノベーションのジレンマ』翔泳社
そ の 他	有斐閣の『経済辞典』は、何かと重宝する。日経産業新聞の『日経 MJ トレンド情報源』は、経営学部の2年生の暇つぶし向き。 わたくし自身も、学部学生時代のゼミの友人とはいまだにつきあいが深い。そういった友人を得る機会となるように望む。既存の友人関係で履修しにくるのは友人関係にとっても、ゼミにとってもマイナスである。 また、かれこれ7年間で軽く100人を超える卒業生がいるが、一人残らずわたくしの「ゼミの学生」だと思っている。 欠席回数や遅刻回数などの上限は定めない。ゼミを休むことや、課題を提出しないことは受講生の権利ではないからである。このような考え方が理解できる学生を歓迎する。 教室でのディスカッションのみならず、コンパ（コンパニーの略。学生などが費用を出し合って催す懇親会（広辞苑より）のことである。）等の親睦活動にも積極的に参加すること。

営・営A・市

履修コード	147121
科目名	演習 I
担当者名	羽田 尚子

講義の到達目標(ねらい)	演習 I, II および III を通じ、自分の興味あるテーマをデータを使って解析し、その結果から新たな知見を導く能力の習得を目的としています。
講義の内容／授業スケジュール	演習 I では、アイデアを伝達するためのテクニク（サポートするためのデータの選び方、解析ツールの使い方、思考の整理方法）を学びます。 Excel を使った統計実習とグループワークが中心です。 Excel 実習では、テキストの輪読形式をとります。担当者は事前に担当箇所を読解し、データを準備し、他の学生にわかりやすいよう工夫し発表します。また課題も出しますので、各自実習を行い、結果と考察をまとめ、発表してもらいます。 グループワークでは、意見の発散、集約プロセスを体験することにより、グループで問題解決する能力を養います。
履修上の留意点	演習 I, II, III と継続して受講することを前提としています。 無断欠席は厳禁です。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席状況、課題やグループワークへの取り組み、発表態度および理解度により総合的に評価。 柏木吉基『Excel で学ぶ意思決定論』オーム社

履修コード	147131
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>やまが まさる</small> 山田 勝

講義の到達目標(ねらい)	ポダレス時代ビジネスパーソンとして活躍するためのセンスを磨くこと。
講義の内容／ 授業スケジュール	(イ)各自が『日本経済新聞(朝夕刊)』を毎日読む。 (ロ)およそ2週間に1度、日経新聞の中から指定した記事に関して、日本語400字とその英訳文のレポートをメールによって提出。 (ハ)月1度のわりで各自のレポート内容を英語で発表し、それに関してディスカッションする。共通語は英語。
履修上の留意点	各自で英語力のアップに努めること。
成績評価の方法	平常点評価。毎時間出席し、積極的にディスカッションに加わることが評価の対象となる。

履修コード	147141
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>わたなべ しづこ</small> 渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミでは「経営管理」の基本的な概念および理論について理解を深めることを目的とする。前期は、第1に、経営学を学習していくうえで必要となるスキル(たとえば文献・資料の探し方など)について学習する。第2に、経営管理の基本的な概念および理論について講義を行う。後期は、経営管理に関する基本的文献の輪読を行う。ゼミ生は割り当てられた部分についてレジュメを作成し、報告する。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)オリエンテーション (2・3)必要なスキルを学ぶ(文献・資料の探し方、文献・資料の読み方、レジュメの作り方、レポートの書き方など) (4～15)経営管理の基礎を学ぶPart 1～10 (16～29)経営管理の基本的な文献の輪読(レジュメ作成、報告) (30)総括
履修上の留意点	本ゼミでは、「ゼミ活性化」に関する企画提案を常時受け付けます。ゼミのイベントやその他の活動などについて、新しいアイデアや実行してみたい企画などがあれば積極的に提案してください。1つの企画について草案から実行の一連のプロセスを責任を持って担当した学生については、これを高く評価します。
成績評価の方法	平常点60%(出席、積極的な参加、レジュメ作成、報告内容) 課題レポート40%
教科書／テキスト 参 考 書	開講時に指示する。 山中共子編(2003)『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房。

履修コード	147151
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>なかがわ しゆんぺい</small> 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい)	この演習では、企業、そして企業をめぐる社会・経済現象について参加者が多角的な理解が得られるようにしたいと考える。併せて、報告の仕方、文章のまとめ方について習得する。
講義の内容／ 授業スケジュール	経営学・経済学の基本的な文献を読み、討論してゆく。文献は開講時にこちらで指定する文献のなかから参加者に選択してもらい、その概要を発表してもらう。さらに、一年間の学習のまとめとして、レポート(小論文)を作成する。
履修上の留意点	多量の文献を読む予定なので、積極的に勉学する、意欲ある学生の参加を望みます。
成績評価の方法	平常点100%(発表や討論の内容、レポート、学習態度による)
教科書／テキスト	開講時に指示します。

履修コード	147161
科目名	演習Ⅰ
担当者名	河合 ^{かわい} 由佳理 ^{ゆかり}

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、国際会計を学ぶための基礎学習を目的としています。会計は企業活動を数値で記録・報告するビジネスの言語としての役割を担い、ビジネスの世界では欠かすことができません。

そこで、前期に会計学が社会に与える役割や重要性を確認し、後期に財務会計の専門書を輪読することによって、会計理論に関する基本的な知識を身につけるようにします。また、授業の中ではテーマに関連した企業の実例を題材に、皆で意見交換をしながらさらに理解を深めることも目指します。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：授業の進め方について
第2回：資料の探し方、報告の方法について
第3～15回：会計学の基礎学習
第16～30回：日本を中心とした財務会計の学習

準備学習

本講義は、週ごとに報告の担当を決めるため、報告資料の作成、財務データの収集等、事前準備が不可欠です。

履修上の留意点

授業は、受講生の報告・討論をベースに進める予定のため、無断欠席・遅刻は認めません。また、日商簿記検定3級から2級程度の知識を有するか、今後、検定を受験する意欲をもっている人の受講を希望します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席状況と授業への取り組みを総合して評価します。
授業中に指示します。

営・営A・
市

履修コード	139301
科目名	日本経済史
担当者名	渡辺 ^{わたなべ} 新 ^{あらた}

講義の到達目標(ねらい)

経済学は理論・歴史・政策の3つの柱から成り立つが、この講義はその内の歴史(経済史)についてのものである。今年度は、日本において資本主義経済が成立して以来の経済の歴史、つまり日本資本主義発達史を学んでいくこととする。現在、私たちが住んでいる日本の資本主義経済はたかだか百数十年の歴史しかもっていない。しかし、その百数十年は人類が経験したことのない速いテンポで進み、大きく変貌している。この講義のねらいは日本の資本主義経済の歴史分析にあることはいうまでもないが、そのことによって現代日本の歴史的位をを考えていくことにもう一つのねらいがある。

講義の内容／
授業スケジュール

前期・後期を通じてそれぞれの歴史段階に沿った形で日本経済の特質を解説していくが、今年度はとりわけ財閥の歴史を重視していく。財閥は近代日本資本主義において経済発展を担う主体であり、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な位置を占めてきた。その財閥が、政商として誕生してから時代とともにどのように変容していったかをみていくこととする。

1. 前近代の社会経済構造
2. 明治維新の社会経済構造
3. 日本の産業革命
4. 政商から財閥へ
5. 大正デモクラシーの社会経済構造
6. 商社ブームと破綻
7. 昭和恐慌と高橋財政
8. 財閥の転向
9. 十五年戦争下の日本経済
10. 戦時体制と財閥
11. 敗戦と戦後改革
12. 財閥の解体
13. 高度経済成長の歴史構造
14. 企業集団と財閥
15. まとめ

履修上の留意点

歴史は暗記するものではなく理解するものであることを絶えず念頭におくこと。

成績評価の方法

試験ないしはレポートによって評価する。

教科書／テキスト

特に指定しない。

参 考 書

そのつど指示する。

履修コード	139501
科目名	経営学史
担当者名	なかがわ じゆんぺい 中川 淳平

講義の到達目標(ねらい)	この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に着目し、現代企業経営の諸問題を解決するための技法として解説を加えていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> 1. コーポレートガバナンスのための問題解決技法(制度学派など、1-7) 2. リストラクチャリングへの問題解決技法(経営戦略論など、8-15) 3. イノベーションへの問題解決技法(生産管理論など、16-20) 4. コミュニケーションへの問題解決技法(人間関係論など、21-23) 5. セクショナルリズムへの問題解決技法(経営組織論など、24-30)
準備学習 履修上の留意点 成績評価の方法	次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。 講義中の私語は慎んで下さい。 定期試験100%。但し講義中などで必要に応じてレポートの提出を求めることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2007年。 授業毎に配布するプリントに適宜指示する。 経営学、経営学史に関して『週刊 ダイヤモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク(読もうよビジネス書)に記載されている。
関 連 リ ン ク	http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php

履修コード	139601
科目名	経営史
担当者名	まえだ かずとし 前田 和利

講義の到達目標(ねらい)	経営史を学ぶことによって企業経営における進化・発展のプロセスを理解することが可能となる。本講義では、方法論を検討したうえで、できるだけ産業の発展と個別企業の歴史をふまえ、国際比較の視点をとりいれ、各段階における典型国をとりあげながら経営発達史を論じる。日本の企業経営の特質を理解するためにも、講義において提示する企業経営一般の進化・発展モデルを理解すること。
講義の内容／ 授業スケジュール	<ol style="list-style-type: none"> I. 経営史の学び方(1回) II. 経営史研究の課題と方法(4回) 伝統的経営史、企業者史、組織総合理論、新動向 III. 企業経営発達史 <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業経営の生成(4回) 商人資本の経営、マニファクチュア経営 2. 企業経営の確立(3回) 産業革命、工場制度 3. 確立期企業経営の諸様相(5回) 企業経営者と行動原理、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織 4. 企業経営の発展(7回) 市場と技術、大量生産システム、大企業の形成と戦略・組織、巨大企業の成立と管理機構 5. 企業経営の変容(3回) 大企業体制の発展と動揺(管理組織の発展類型を中心として) 6. 日本における企業経営の進化(3回) 進化の特質、歴史的ケース
準備学習 履修上の留意点	シラバスに掲載してある参考書および事前に配布する講義用プリントを読んでおくこと。 教科書は使用しないので、配布する講義用プリントおよび下記の参考書を参照し、必ずノートを整理しておくこと。年に5回程度簡単な問題等を提示して回答してもらう予定である。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	学年末試験による評価を90%、出席時に提出した回答を10%とする。 使用しない。 榎本悟『アメリカ経営史学の研究』新版(同文館)、大河内暁男『経営史講義』(第2版)(東京大学出版会)、米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)、安部悦生『経営史』(日経文庫)、鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』(有斐閣)、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』(有斐閣)、J. ミクルスウェイト、A. ウールドリッジ(鈴木泰雄訳)『株式会社』(ランダムハウス講談社)、橋川武郎ほか編『進化的経営史』(有斐閣)。その他随時紹介する。

履修コード	140001
科目名	経営労務論
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)	現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	講義は1コマ1テーマの原則。各回毎に「日本は終身雇用なのか？」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。スケジュールは大まかに次の予定。(1) ガイダンス、(2)～(4) 経営労務論と日本の経営論、(5)～(10) 正規、非正規の雇用管理、出向・転籍・早期退職など、(11)～(16) 賃金論入門、年功賃金の歴史、職能資格制度、人事考課、昇進・昇格など、(17)～(22) 労使関係の歴史、構造、労働組合など、(23)～(30) 各論(労働時間、福利厚生、賃金格差問題、教育訓練など)とまとめ、質問受付、試験。
準備学習 履修上の留意点	経済新聞や新書に日頃から目を通して、関心の幅を広げておくこと。 詳細は最初の講義で説明。(1)出席点は無し。(2)私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3)携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。
成績評価の方法	7月と12月に実施予定の小テスト、並びに、レポート課題等の合計点で評価する予定。ただし、受講者数が著しく多い、あるいは、少ない場合は、変更することがあるので、授業内に発表する情報に十分注意しておくこと。
教科書／テキスト 参 考 書	特に指定しない。 津田真澄『人事労務管理』(ミネルヴァ書房)1993(定価3,000円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのに白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社)1992(定価3,500円程度)をあげておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
そ の 他	WEB ページ (E ラーニングページと個人ページ) でも授業に関する情報を提供。https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/
関 連 リ ン ク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

営・営A・
市

履修コード	140051
科目名	経営心理学
担当者名	しもむら ひでお 下村 英雄

講義の到達目標(ねらい)	産業・組織心理学およびキャリア心理学に関するテキスト、実際の職場における問題等に関する資料を取り上げて企業経営における人間の心理について説明します。また、関連する心理学の基礎的知識、基本的な論点・学説について随時紹介します。
講義の内容／授業スケジュール	以下のテーマを取り上げる予定です。第1～2回：イントロダクション、第3～5回：産業・組織心理学の歴史とテーマ、第6～8回：ワーク・モチベーション、第9～10回：採用と面接、第11～12回：人事評価、第13～17回：キャリア発達、第18～20回：職場のコミュニケーションと人間関係、第21～23回：リーダーシップ、第24～26回：仕事の能率と安全、第27～29回：職場のストレスとメンタルヘルス、第30回：まとめ
準備学習	教科書を指定するので、次回、授業で取り上げる箇所について事前に読んでおくこととします。また、教科書は独自に先の方まで読み進めて、早い段階で全体像を自分なりにつかむようにしてください。
履修上の留意点	産業・組織心理学およびキャリア心理学では、企業における人間の心理を、「個人の側」と「組織の側」の両面から考えることが重要になります。受講者は積極的に授業に参加し、将来、自分が働くということについて、また組織で人を動かすということについて、自分なりの理解を形成するようにしてください。
成績評価の方法	授業への出席状況(50%)、授業に課す課題に対する取り組み方(20%)、期末のレポート(前期・後期各1回)での的確な見解または独自の見解を述べている程度(30%)を評価の基準とします。
教科書／テキスト	山口裕幸・金井篤子著『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房2,520円(I S B N 978-4623048717)。その他、授業中に関連するテキストを随時配布します。
参 考 書	授業中に随時指示します。
そ の 他	なし

履修コード	140301
科目名	商業経営論
担当者名	石川 和男

講義の到達目標(ねらい) 人は日々モノやサービスを購し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。

講義の内容/
授業スケジュール

1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買契約、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ

履修上の留意点

- 1 遅刻、早退、中抜けをしない
- 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合はその場で受講中止)
- 3 他人との会話などを授業中はしない
- 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る
- 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと)
- 6 その他

成績評価の方法

・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する
授業への参加意欲(出席点) 約30%
中間レポートまたは中間試験 約30%
期末試験 約40%
授業中のボーナス加点

教科書/テキスト
参 考 書

年度内に販売士試験2級に合格した者は加点
尾崎・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五紘舎
石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社
鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣
小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に詳細な説明を行うので、必ず第1回目の授業から出席のこと。
連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	140401
科目名	保険経営論
担当者名	岡田 大

講義の到達目標(ねらい) 保険は、個人や企業などをリスクから守る有効な手段です。リスクマネジメント論が主に保険を利用する視点から展開されるのに対して、本講義は保険を提供する保険企業の立場から経営の基本を学びます。リスクマネジメントをビジネスとして営む保険企業の特徴を理解し、経営をめぐる諸問題を考察することを目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

(1~3) 保険概論 (4~6) 保険市場 (7~9) 保険産業 (10~11) 保険経営総論 (12~17) 保険マーケティング(各種保険商品の企画・開発、販売、保全、保険流通、CRM) (18~19) 再保険 (20~21) 資産運用 (22~23) 保険金請求処理 (23~24) 保険数理 (25~26) 保険会社のリスク管理とガバナンス (27) 保険会社のCSR (28~29) 国際経営 (30) まとめ

履修上の留意点

リスクマネジメント論とあわせて履修すると学習効果が高まります。新聞・雑誌などで保険の記事に注意してください。授業でも適宜最近の話題を解説します。また、授業で使用するレジюмеについて、各自ダウンロードしてください。

成績評価の方法

学期末試験(60%)と授業参加(出席、レポートなど40%)を総合して評価します。詳細は開講時に説明します。

教科書/テキスト

下和田・米山・金・柳瀬・諏澤・岡田著『はじめて学ぶリスクと保険』(改訂版)有斐閣
ISBN9784641183506、2007年

参 考 書

教科書掲載の参考文献のほか、必要に応じて授業中に指示します。

履修コード	140601
科目名	金融論
担当者名	わたなべ さとし 渡部 訓

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、担当教員の日本銀行、Bank for International Settlements、預金保険機構における金融実務経験も踏まえて、金融に関心のある学生、将来金融界での勤務を希望する学生を対象にしています。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義の狙いは、①金融の基礎から出発して、金融システム、金融機関行動と金融政策、市場メカニズムと金利形成、国際金融取引まで幅広く応用分野をカバーして、金融を理解する前提となる理論的なフレームワークを提供するとともに、②現代の金融問題の中で、金融システム安定に向けたブルーデンス政策（金融庁検査および日本銀行考査、自己資本比率に関するBIS規制、預金保険制度）、金融システムにおけるイノベーション（セキュリタイゼーション、デリバティブス、リスク・マネジメント）について、実践的な検討を行うことを目指しています。

授業は、以下のスケジュールで行いますが、毎回、教科書に加え、日本銀行公表資料や日本経済新聞掲載記事や各国中央銀行や国際機関の website 等を紹介して、理論と実践のインターフェースを図ることを目標としています。

前期

- 第1回：金融の基本的な機能
- 第2回：資金循環と金融取引（1）
- 第3回：資金循環と金融取引（2）
- 第4回：家計の貯蓄と資金余剰
- 第5回：家計の金融資産選択
- 第6回：企業の投資と資金調達（1）
- 第7回：企業の投資と資金調達（2）
- 第8回：金融機関の役割
- 第9回：金融市場の機能
- 第10回：金融システムの機能（1）
- 第11回：金融システムの機能（2）
- 第12回：ブルーデンス政策（1）
- 第13回：ブルーデンス政策（2）
- 第14回：中央銀行の機能（1）
- 第15回：中央銀行の機能（2）

後期

- 第16回：金融政策の目的と手段（1）
- 第17回：金融政策の目的と手段（2）
- 第18回：マネー・サプライの概要
- 第19回：債券市場の概要
- 第20回：債券利回りの決定メカニズム
- 第21回：株式市場の概要
- 第22回：株価の決定メカニズム
- 第23回：国際収支と外国為替市場
- 第24回：為替レートの決定メカニズム
- 第25回：デリバティブス（フューチャー）
- 第26回：デリバティブス（スワップ）
- 第27回：デリバティブス（オプション）
- 第28回：セキュリタイゼーション（1）
- 第29回：セキュリタイゼーション（2）
- 第30回：セキュリタイゼーション（3）

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

金融に関して最も関心のあることを何か1つ考えて授業に臨んでください。

履修者は、マクロ経済学の基礎知識があることが望まれます。

期末テストによって評価します。

黒田昇生、『入門金融（第4版）』、東洋経済新報社、¥2,300、2006年

日本銀行金融研究所編、『新しい日本銀行 その機能と業務（増補版）』、有斐閣、¥2,520、2004年

その他

毎回、授業前に YeStudy に教材の PDF をアップしますので、予習、復習に活用してください。また、授業中は、毎回、講義の後、質疑応答の時間を設けます。

履修コード	140801
科目名	公益企業論
担当者名	枝松 正行

営・営A・市

講義の到達目標(ねらい) 講義では、公益性と公共性と共益性、営利性と非営利性、ネットワーク、独占等々の概念規定を再検討し、新会社法に基づいた新しい私企業分類と公企業・公私混合企業・第三セクターなどとの対比のなかで、公益企業の特別な位置と社会的使命を確認するとともに、その歴史的発展の過程を振り返り、21世紀公益企業の現状と課題について考える。

講義の内容／授業スケジュール 公益企業は、過去30年間にそのあり方をめぐって世界的にも国内的にも大きな変貌を遂げてきた。とりわけ中曽根政権・小泉政権時代に実施された公企業改革は、アメリカからの市場開放・制度改革要求とも相俟って、公益企業の規制改革とグローバル化・経営効率化という新たな問題領域を大きく拡大させた。また、環境や福祉を中心としてNPOや社会的企業と呼ばれる多様な非営利公益の事業形態も現れており、新公益法人制度もスタートした。加えて、昨年実現した鳩山連立政権による自公政権からの政権交代を受けて、これまでの公益事業改革も「事業仕分け」による見直しという新たな段階を迎えている。

講義では、広範囲にまたがる公益事業と改革見直し論議も視野に入れつつ、バブル崩壊以後の不良債権処理とグローバル化のための税制・会計制度・金融証券システム・独占禁止法・外為法・会社法の大改正や企業合併・買収と世界金融危機という現代グローバル経済の大きな流れのなかで、新政権発足後のわが国公益企業の置かれている位置と今後を考える。

(1) ガイダンス (2) 公益企業とは何か (3~4) 公企業・私企業と公益企業 (5~6) 公企業・公益企業と公共企業 (7~10) 戦後日本経済と公企業改革 (11~14) バブル崩壊以後のグローバル経済と特殊法人「構造改革」(15) 中間試験 (16~17) テレコムビジネス (18~19) 金融・証券自由化と企業合併・買収 (20~21) ダム建設差止め政策と電力自由化・太陽光発電 (22~23) 道路公団民営化と高速道路改革 (24~25) 郵政民営化の見直し改革 (26~27) JAL 再建問題のエアライン規制緩和と国際公益 (28~29) CO2削減目標と国際公益 (30) 期末試験

準備学習 課題図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について平日頃からメディア報道に留意し、毎回講義ノートを読み直して自分自身の疑問点や意見や考えをまとめておき、次回授業までに質問・意見・要望等を準備しておくこと。

履修上の留意点 毎回出席を取る。課題図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について平日頃から自分自身の意見や考えをまとめておくことが予習となる。質問や意見・要望は、所定カードで授業終了後に積極的に提出すること。次回授業の冒頭に匿名で紹介・応答し、可能な限り講義内容にも反映させていく。必ずノートを取り、復習を欠かさないこと。

関連科目として私の担当する「社会科学論」の履修も勧める。

成績評価の方法 教科書/テキスト 出席・平常点 (20%) と前・後期末 (計2回) の授業内試験 (80%) 等により総合的に評価する。とくに指定しないが、課題図書・参考書は適宜指摘する。

履修コード	141201
科目名	アメリカ経営学
担当者名	みやぎ 徹

講義の到達目標(ねらい)

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて一般的に講義するが、主として、下記の授業計画の9つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

講義の内容／
授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数(ただし、期末試験日を入れて)から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために下見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数(合計29回)で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

(2010年度『アメリカ経営学』授業計画)

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力(パワー:マハト)(2)
- IV 戦略(特に提携、グループ、ファミリー)(2)
- V 取引コスト理論(6)
- VI プロパティ・ライツ理論(4)
- VII プリンシパル - エージェント理論(5)
- VIII 契約の理論(3)
- IX 企業のモジュラー化(4)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確認するために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』(税務経理協会)1983:1999年
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』(早大、第20号)1985年
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』(千倉書房)1987年
- 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』(第2版)(成文堂)1989:1999年
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』(学文社)1983:1993年
- 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』(千倉書房)1997年
- 7 宮城徹「企業統治の研究の統合の一試論」『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000年
- 8 宮城徹(単独訳書)『情報時代の企業管理の教科書—組織の経済理論の応用—』(税務経理協会)2000:2009年。(A.Picot u.a.,Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998)
- 9 宮城徹(共訳書)『新制度派経済学による組織入門』(白桃書房)1999:2007年。(A.Picot u.a.,Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schaffer-Poeschel, 1997)
- 10 宮城徹「企業文化と組織の経済理論」遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』(敬愛大学学術叢書)(白桃書房)2003年
- 11 宮城徹(訳稿)「民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎—O. ウィリアムソンの貢献*—」

*Ingo Pies: Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik—Der Beitrag Oliver Williamsons, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)

12 宮城徹(訳稿)「取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデートル—組織の経済学の構想の新しい志向を求めて*—」

*Ingo Pies: Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure—Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S.95-119. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

履修コード	141301
科目名	経営分析論
担当者名	片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい)	経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。 皆さんが将来を託そうとする会社は、 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、また、 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか(社会性分析)、といった内容です。
講義の内容／授業スケジュール	(1)経営分析について、(2-6)経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12)収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15)貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20)生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26)キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30)税効果会計、正味現在価値法と設備投資
履修上の留意点	この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。
成績評価の方法	成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。 評価基準 前期レポート40%、前期小テスト10%、 後期レポート40%、後期小テスト10%、 ☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。
教科書／テキスト 参 考 書	開講時、指示します。 随時、紹介します。

履修コード	141401
科目名	日本経済論
担当者名	羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)	多様な経済システム(日本の経済システムはそれらのうちの1つ)がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。
講義の内容／授業スケジュール	情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアの1つである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、講義のねらいの目標にチャレンジします。 前期では企業の内部システムを検討します。企業内コーディネーションの情報効率性比較、企業システムの生成と進化の可能性、雇用契約とインセンティブが主要なテーマです。 後期においては、企業間の競争と合併、コーポレート・ガバナンス、企業金融、政府と企業の関係がテーマになります。
成績評価の方法	後期授業終了後の筆記試験によって成績評価を行います。
教科書／テキスト 参 考 書	青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』(東京大学出版会)、1996年、3200円 鶴光太郎『日本の経済システム改革』2006年、2600円 その他、講義の進み具合に応じて適時紹介します。

履修コード	141501
科目名	銀行経営論
担当者名	はつとり よしひさ 服部 昌久

講義の到達目標(ねらい)

金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては、戦後のわが国の金融システムの変遷を振り返るとともに、欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。

講義の内容/
授業スケジュール

講義はおおよそ次のような内容を予定している。
(1) オリエンテーション「銀行経営論をはじめのにあたって」(2) 日本経済をめぐる環境(3) 戦後経済の変遷(4) わが国の金融制度の沿革と特徴(5) 銀行とは何か(6～8) 銀行の基本的機能—金融仲介機能、決済機能、信用創造機能(9～11) 銀行の業務範囲、銀行の貸出業務、銀行の預金業務(12) 銀行持株会社制度(13～14) わが国の銀行の収益状況、米銀の収益状況(15) 中間整理(16～17) 金利と利鞘、マネーサプライの変化と銀行(18～19) 銀行の国際業務、為替相場と銀行(20) 銀行のマネーロンダリング対策(21～24) バブル経済の発生・崩壊と銀行の責任、不良債権問題と銀行破綻、銀行の再編、預金保険制度(25～27) 銀行経営とリスク管理—リスクとは何か、リスクとリターン、自己資本比率規制(28) リレーションシップバンキングの本質(29) 新しい銀行像(30) 期末試験

準備学習

格別の事前準備は必要ないが、日頃から新聞・雑誌に目を通すなどして、金融・経済問題に広く関心を持っておくことが望ましい。

履修上の留意点

講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説するよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。

成績評価の方法

学年末の定期試験(参照物の持込不可)(50%)、レポート(45%)、授業への出席(5%)を総合して評価する。

教科書/テキスト
参 考 書

レポートの課題は開講時に指示する。

指定しない。

- ・鹿野嘉昭『日本の金融制度(第2版)』(東洋経済新報社) 3,800円 ISBN4-492-65379-1
- ・星岳雄・A. カシャップ『日本金融システム進化論』(日本経済新聞社) 2,800円 ISBN4-532-13317-3
- ・小野有人『新時代の中小企業金融』(東洋経済新報社) 2,200円 ISBN978-4-492-65400-2
- ・白川方明『現代の金融政策』(日本経済新聞社) 6,000円 ISBN978-4-532-13344-3
- ・鹿野嘉昭『日本の中小企業』(東洋経済新報社) 3,200円 ISBN978-4-492-65413-2

そ の 他
関 連 リ ン ク

なし

<http://www.fsa.go.jp/>

営・営A・
市

履修コード	141601
科目名	財政学
担当者名	ほやみのぼる 速水 昇

講義の到達目標(ねらい)

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。

さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。

なお、公務員試験、入試試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。

<前期>

- 1週 財政とは何か
- 2週 政府の役割
- 3週 公共財
- 4週 外部効果
- 5週 費用逓減産業
- 6週 政府の失敗
- 7週 予算の機能
- 8週 予算原則
- 9週 特別会計
- 10週 予算過程(編成)
- 11週 予算過程(執行・決算)
- 12週 政府の収入
- 13週 租税収入(所得税)
- 14週 租税収入(相続・贈与税)
- 15週 その他の租税収入

<後期>

- 1週 経常的歳出(公債費)
- 2週 経常的歳出(地方交付税交付金)
- 3週 社会保障関係費
- 4週 公共事業関係費
- 5週 防衛関係費
- 6週 経済協力費・文教及び科学振興費
- 7週 中小企業関係費・他歳出
- 8週 財政政策(国民所得の決定)
- 9週 財政政策(インフレ・デフレギャップ)
- 10週 財政政策(政府支出乗数)
- 11週 財政政策(租税乗数・外国貿易乗数)
- 12週 財政政策(I S曲線)
- 13週 財政政策(L M曲線)
- 14週 財政政策(I S・L M曲線の応用)
- 15週 質疑応答

履修上の留意点

学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する(小テストを受けていない学生は成績評価の対象外としますのでご注意ください)

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験、授業中の小テスト、レポート
速水 昇・水野恵子・和田尚久著 『公共経済と租税』学文社

履修コード	141701
科目名	国際経済論
担当者名	永田 <small>えいだ とものり</small> 智則

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、現実が生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。

分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずです。

講義の内容／
授業スケジュール
履修上の留意点

(1) 国際経済学の意義、(2～7) 国際分業論、(8～12) 貿易政策、(13～15) 経済成長と貿易、(16～22) 国際マクロ経済学、(23～25) 外国為替と国際収支、(26～30) 資本の国際移動

現実の世界経済の動きを題材にしますので、新聞等で報道される関連ニュースに接しておいてください。

成績評価の方法

原則として学年末の定期試験に重きをおきますが、授業への出席も重視します。途中、検討課題を出すことも考えていますので、総合的な評価になります。

教科書／テキスト

下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。

参 考 書

仙頭佳樹著「最もやさしい国際経済学」多賀出版、2800円＋税、ISBN4-8115-6491-X
随時必要に応じて紹介します。

営・営A・
市

履修コード	141801
科目名	会計監査論
担当者名	阿部 一人 <small>あべ かずひと</small>

講義の到達目標(ねらい)

“監査論を無味乾燥であるとエスケープしないでくれたまえ”
 もともと監査論は、その言葉自体がもつ語感からして、堅苦しく・手続的で暗いイメージを与えがちである。

監査論は他人の不実行為を暴くこと自体を目的とするものではないので、仮にその結果、内容のどこにも非のうちどころがなく全く適切で妥当なことが明らかになったとしても、それはむしろ当然の事柄であって、その人が負っている責任を免れることにもなるのである。

監査は、優れて社会的・人間的な用具として生みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。

まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！

監査論は財務諸表監査として特徴づけられている。

これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。

本講義では、財務諸表監査を中心として概説する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 会計監査の意義と目的 (総論) (1)
 - ① 監査の必要 ② 監査の意義
 - ③ 監査の対象
2. 会計監査の意義と目的 (総論) (2)
 - ① 監査の目的 ② 監査思想の変遷
 - ③ 監査の効用
3. 金融商品取引法監査
4. 会社法監査
5. 監査基準
6. 内部統制
7. 監査計画
8. 監査手続
9. 監査意見と監査報告書
10. 中間監査
11. 現代監査論の動向

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

「簿記学」「会计学」の科目を履修済みであることが望ましい。

学期末試験とレポートにより総合的に評価する。

開講後指示する。

田島四郎『最新監査論』(税務経理協会) 2,900円

高田正淳『最新監査論』(中央経済社) 2,800円

鳥羽至英『監査基準の基礎』(白桃書房) 3,900円

三澤 一『会計監査の理論』(中央経済社) 2,800円

山本忠恕・松田信男『監査基準精鋭精説』(税務経理協会) 3,500円

脇田良一『財務諸表監査の構造と制度』(中央経済社) 3,800円

履修コード	141901
科目名	税務会計論
担当者名	高木 克己 <small>たかき かつみ</small>

講義の到達目標(ねらい)

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。ここでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義内容の概要は次のとおりである。

(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

原則として学年末の試験によって評価する。数回の小テストを行う予定である。
開講時に指示する。
開講時に指示する。

営・管A・
市

履修コード	142001
科目名	証券市場論
担当者名	勝田 佳裕 <small>かつた よしひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)

わが国の金融システムは、銀行等を仲介とする間接金融を中心として発展してきた。しかしながら、近年では、企業が自ら有価証券を発行し投資家から資金を調達する直接金融へと、金融システムが移行してきている。本講義は、有価証券市場の機能や構成といった基礎的な事柄に関する解説から始め、最終的に、ニュースや新聞での経済動向に関する報道等を正しく理解し、自ら判断する能力を培うことを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

最初に、証券市場で取り扱う対象である有価証券を定義し、その機能等を解説する。その上で、伝統的有価証券である債券や株式の種類や機能、発行・流通市場について考察する。また、わが国の財政事情と国債市場の動向あるいは株式市場動向と経済全般との関わりなど、経済社会における重要な課題についても触れておきたい。

資金運用手段としての証券市場の役割も重要であるため、債券利回りの意味と計算の仕方、株式の投資尺度やその利用方法、企業の債務返済能力を示す格付け制度の概要と活用方法など、実務的側面についても解説する。

近年における金融・証券市場のグローバル化に伴って、資金の動きが速くなり、移動の範囲も急速に拡大しているため、市場改革のテンポも極めて速くなっている。今後も、内外共に市場の激変が予想されるため、証券市場に関連して重要な事態が発生した際には、その都度、背景や影響などを解説する。

履修上の留意点

証券や金融市場に関連するニュースや新聞での報道に関心を持って欲しい。その上で、疑問点や不明な用語等があれば積極的に質問してもらいたい。授業に際しては、出来るかぎり質問の時間を設ける予定である。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

レポート及び学年末の定期試験によって評価する。
代田純著「図説 やさしい金融財政」(丸善株式会社) 1890円
授業中に指定する。

履修コード	142101
科目名	日本経営史
担当者名	おおしま ひさゆき 大島 久幸

講義の到達目標(ねらい)

株主との利害調整、持株会社の機能、経営者の役割など現代企業が直面する様々な問題に対処するうえで、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代日本において経済発展を担う主体として、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な地位を占めてきた財閥に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の歴史的な起源や日本の経済発展を考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

【前期】1. 財閥の定義 2. 幕末維新の危機 3. 資本生社会論 4. 政商の誕生 5. 政商と華族資本 6. 政商からの脱皮 7. 運輸・通信システムの整備 8. 産業化の光と影 9. 家政改革と家憲 10. コンツェルンと持株会社 11. 専門経営者の登場(1) 12. 専門経営者の登場(2) 13. ～15. 前期のまとめ

【後期】1. 第一次大戦期における商社ブームと破綻 2. 三井物産の形成 3. 鈴木商店と金融恐慌 4. 都市化の進展と大衆生活の洋風化 5. 三大財閥の覇権 6. 恐慌とドル買い事件 7. 財閥の転向 8. 戦時体制と財閥 9. 財閥解体 10. 企業集団の形成 11. 高度成長期の日本経済 12. 高度成長期の専門経営者 13. ～15. 後期のまとめ

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

前期試験と定期試験で総合的に評価する。

武田晴人『財閥の時代』(新曜社)1996年

宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』(有斐閣)1999年。

老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史』(税務経理協会)2002年。

営・営A・
市

履修コード	142401
科目名	国際経営論
担当者名	白井 哲也

講義の到達目標(わらい) 本講義の目的は、企業の国際化、多国籍化の動因および国際経営上の諸問題を理解するためのツールとなる諸理論、パースペクティブを学習することにある。多国籍企業における経営戦略上の課題、解決策について検討する。

講義の内容／授業スケジュール 以下は授業スケジュールの予定である。

前期

- ①ガイダンス（必ず出席すること）
- ②国際経営の現代的課題
- ③国際経営の対象としての多国籍企業
- ④ハイマーの優位性概念とFDI
- ⑤OLIパラダイム
- ⑥内部化理論と取引コスト
- ⑦多様性の中での国際経営
- ⑧グローバル戦略経営の基礎
- ⑨グローバル戦略経営の目的
- ⑩グローバル戦略経営の実際
- ⑪グローバル経営組織 1
- ⑫グローバル経営組織 2
- ⑬⑭グループ演習
- ⑮前期まとめ

後期

- ①ガイダンスと前期復習
- ②グローバル R&D 戦略 1
- ③グローバル R&D 戦略 2
- ④グローバル生産戦略 1
- ⑤グローバル生産戦略 2
- ⑥グローバル・ソーシング戦略
- ⑦グローバル HRM
- ⑧本社—子会社間のマネジメント 1—子会社のイニシアティブ—
- ⑨本社—子会社間のマネジメント 2—公正手続き—
- ⑩国際提携と M&A 戦略 1
- ⑪国際提携と M&A 戦略 2
- ⑫⑬個人演習
- ⑭地域経済統合と国際経営
- ⑮後期まとめ

履修上の留意点 遅刻、私語厳禁。ルールを無視するものは直ちにFとする。

成績評価の方法 配布資料なし。自著ノート作成。グローバル・マーケティング論と併せて受講することを推奨する。学期末試験と課題（レポートなど）を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。

教科書／テキスト とくに指定しない

参考書 白井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究—国際市場戦略の新視角』2006年刊（文真堂）2,800円

履修コード	142701
科目名	ドイツ経営学
担当者名	高橋 成夫 <small>たかはし しげお</small>

講義の到達目標(ねらい)

現代のドイツの企業システムの特徴を解明するとともに、ドイツ経営学の性格や内容を、ドイツ経営学の歴史(史的展開)の中で明らかにすることにある。

講義の内容/
授業スケジュール

(1~8) I. ドイツの企業システム ドイツの企業形態/所有構造と支配類型/トップ・マネジメント構造/共同決定法/企業統治
(9~11) II. ドイツ経営学の前史
(12~16) III. ドイツ経営学の生成, 科学的私経済学と技術的私経済学
(17~24) IV. ドイツ経営学の展開, (1) 私経済学的企業経済学と規範的・技術的経営経済学, (2) 理論科学的経営経済学と応用科学的経営経済学
(25~30) V. ドイツ経営学の現状(多様な構想), 意思決定志向的/システム志向的/行動理論的/新規範論的経営経済学/労働志向的個別経済学/新制度派経済学に基づく経営経済学
新聞・雑誌などからドイツ企業関連の記事を整理しておくこと事前学習になる。

準備学習
履修上の留意点

講義では主要な内容について出来る限り板書して説明するので、積極的に出席することが望ましい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

定期試験(9割)と平常点(1割)を総合して評価する。
特に指定しない。
北野利信編『経営学説入門』(有斐閣新書)900円+税

履修コード	142801
科目名	国際会計論
担当者名	河合 由佳理 <small>かわい ゆかり</small>

講義の到達目標(ねらい)

従来、各国の会計制度はそれぞれの環境要因の制約を受け発展したため、会計に求められる役割・機能は異なっていました。しかし、経済活動の国際化を背景に近年、会計の分野でも国際的な統一にむけた動向が世界的に注目されています。

講義の内容/
授業スケジュール

そこで、本講義では①各国における会計制度の理解、②会計基準のコンバージェンス(収斂)及びアドプション(採用)に対する各国の対応の把握、③具体的な会計基準の検討を行うことにより、国際会計を巡る現状と課題を考察します。
第1回:国際会計とは、第2回:会計制度の種類、第3~4回:日本の会計、第5~6回:アメリカの会計、第7回:イギリスの会計、第8~9回:国際会計を取り巻く環境、第10~13回:国際財務報告基準に対する各国の対応、第14回:前半部分の総括、第15回:中間試験、第16~25回:会計基準のコンバージェンスとその影響、第26~29回:会計を巡る国際的課題、第30回:全体の総括

履修上の留意点

基本的な簿記の知識を有すると授業の理解に役立ちます。また、状況の変化が激しい分野なので常に新聞等で最新の情報を確認する習慣をつけるようにしてください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

中間試験(4割)、学期末試験(4割)と出席状況等(2割)を基本に評価します。
教科書の指定はありません。
佐藤信彦『国際会計基準制度化論【第2版】』白桃書房、3,500円、978-4-561-36171-8
杉本徳栄『国際会計[改訂版]』同文館出版、2,000円、978-4-495-18572-5
若杉明『会計制度の国際比較』中央経済社、3,900円、4-502-12593-8

履修コード	143001
科目名	システム論
担当者名	宇谷 明秀 <small>うたに あきひで</small>

講義の到達目標(ねらい) この科目では、複雑で大規模なシステムを理解し、構築し、運用するための方法論を学ぶ。なるべく具体的な事例をとりあげ、システム思考、システム論への理解を深める。

講義の内容／
授業スケジュール

- 〔前期〕
1. システム論 (その歴史) 3回
 2. システム論 (分類と展望) 3回
 3. モデル化の方法論 (分類と特徴) 3回
 4. 数理モデリング 3回
 5. コンピュータショナルモデリング 3回
- 〔後期〕
1. システムの評価 3回
 2. システムの故障と信頼性 3回
 3. 危機管理と対策 3回
 4. 不確実な事象とシステム設計 3回
 5. システム導入における経済性 3回

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

特定分野の事前の知識は要求しないが、基礎的な数学の学力が必要である。
中間試験と期末試験に出席状況を加味して評価する。
授業の中で指示する。
授業の中で必要に応じて紹介する。

営・営A・
市

履修コード	140351
科目名	サービス経営論
担当者名	高畑 泰 <small>たかはた やすか</small>

講義の到達目標(ねらい) サービス産業は特に先進国において非常に重要な地位を占めている。しかしながら、一般的なビジネス研究は製造業が中心であるため、サービスを中心に据えた本講義は大きな意味を持つ。本講義では、そもそもサービスとは何かを理解した上で、通常のビジネスとサービスを提供するビジネスとの差異は何か、を理解することを目標とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：サービスを学ぶ意義、第2～3回：サービス・プロセスの理解、第4～5回：顧客コンタクト、第6～7回：顧客から見たサービス、第8～9回：生産性とクオリティ、第10～11回：顧客ロイヤルティの構築、第12回～13回：サービス・リカバリー、第14～15回：サービスのデザイン、第16～17回：補足的サービス要素、第18～19回：サービス・デリバリー、第20～21回：サービスの価格、第22回～23回：顧客エデュケーション、第24～25回：需要と供給のマネジメント、第26～27回：行列と予約、第28～29回：サービス従業員の管理、第30回：総括

準 備 学 習

サービスの視点からビジネス関連の記事を読むようにして下さい。また、アルバイトでサービスに従事している人が多いと思いますので、自分のアルバイトの仕事内容について常に検討することが一番有用でしょう。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

ネット上のニュース・サイトなどで、常に最新のビジネス・シーンに触れるようにしましょう。
学期末試験により評価します。
C. ラブロック、L. ライト『サービス・マーケティング原理』白桃書房、3,900円、ISBN978-4-561-65127-7

履修コード	140851
科目名	e-ビジネス
担当者名	<small>やすおか ひろみち</small> 安岡 寛道

講義の到達目標(ねらい)	日々進化するe-ビジネスを概観し、経営学の一つとして体系立てて理解することを目的とする。また、社会人になる、さらにはいつの日か起業する際の基礎知識として準備することも目的としたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	下記のステップでe-ビジネスの講義を行う。 <前期> (1) e-ビジネスの講義概要の紹介、(2) e-ビジネスの定義と状況、(3~5) BtoC ビジネス、(6~8) e-マーケティング(広告等)、(9~11) BtoB ビジネス、(12~13) EC(電子商取引)のプロセス(物流・決済) <後期> (14~15) BtoBtoC ビジネス、(16~17) 媒体等のビジネス事例(ポータルサイト、ネット広告、オンラインゲーム等)、(18~20) 電子マネーと周辺ビジネス、(21~22) 技術、(23~24) ビジネスモデル特許、(25~26) イノベーションの視点
準備学習 履修上の留意点	e-ビジネス関連(電子マネー含む)の書籍を少しでも読んでおいてもらいたい。 e-ビジネスの授業であるため、日ごろからインターネットを中心に、PC・ケータイ、および雑誌・新聞・TVのニュースなどを見て、自分なりの考えを持ち、電子マネー・おサイフケータイ、EC(電子商取引)などにも馴染んでもらいたい。
成績評価の方法	夏休み明け(授業内に回収)と年度末の2つのレポートで基本的に評価する。なお、毎回の出席状況もできるだけ考慮する。
教科書/テキスト	・幡鎌博『e-ビジネスの教科書』(改訂版)創成社、1900円、ISBN978-7944-2284-2 C3034
参 考 書	・梅田望夫『ウェブ進化論-本当の大変化はこれから始まる』筑摩書房、740円、ISBN4-480-06285-8 C0200 ・小川浩、後藤康成『Web2.0 BOOK』インプレスジャパン、1800円、ISBN4-8443-2226-5 C3055 ・野村総合研究所『2010年の企業通貨』東洋経済新報社、1600円、ISBN4-492-55562-4 C3034 ・野村総合研究所『企業通貨マーケティング』東洋経済新報社、1700円、ISBN978-4-492-55603-0 C3034 ・野村総合研究所『2015年のIDビジネス』東洋経済新報社、2000円、ISBN978-4-492-55642-9 C3034
そ の 他	授業の合間で、e-ビジネスの立上げの経験論なども交えて講義する。
関 連 リ ン ク	講師発表の電子マネー関連の資料は以下のURL http://www.fsa.go.jp/frtc/kenkyu/event/20090331/11-2.pdf

営・営A・
市

履修コード	141131
科目名	マーケティング・リサーチ A
担当者名	菅野 佐織

講義の到達目標(ねらい)

この授業では、マーケティング・リサーチの役割とリサーチ設計、データ分析の基礎と、マーケティング・リサーチで用いられる主な分析手法について学びます。マーケティング・リサーチは、専門家を目指さない人にとっても企業戦略やブランド戦略を立案するための必要な知識や能となりま。また、マーケティング・リサーチは、経験や実践から学ぶことも多いことから、授業においてチームで調査計画を策定、データを収集、分析することで、マーケティング・リサーチ・スキルの習得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール

1. 授業計画の説明とイントロダクション
2. マーケティング・リサーチの基礎
3. SPSS の使い方
- 4～14. マーケティング・リサーチ実習 (単純集計・回帰分析)
15. 授業のまとめ・テスト

準備学習

この授業では、チームに分かれて、マーケティング・リサーチ課題・仮説を設定し、リサーチの計画立案から実施・分析を行っていきます。面白い課題や仮説を設定するためには、マーケティングの知識だけでなく、社会の動きに関する情報が欠かせません。日頃から、新聞などの情報に触れ、社会の動きについて関心を持つことが必要になります。

履修上の留意点

この授業ではパソコンによる実習 (エクセル・SPSS を使用) を行うため、毎回の授業に参加できることが前提となります。遅刻・欠席が多い方はご遠慮ください。また、履修希望者が一定の数を越えた場合には、人数を制限することがあります。履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。やむを得ない事情により、第1回目の授業に参加できない場合には、事前に研究室まで連絡をするようにしてください (不在の場合にはメモで)。連絡がなかった場合には履修をお断りしますのでご注意ください。なお、マーケティング・リサーチ (A) 及び (B) を通期で履修する人を優先します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席点、課題への取り組み度合い、課題の出来 (理解度)、テストによって評価します。授業時に配布する資料をもとに講義を行います。授業の内容をより理解するためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。特に『データはウソをつく』を受講前に読んでおくこと。

参 考 書

- 谷岡一郎『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法』2007年 (筑摩新書) 798円
ナレシュ・K・マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践～理論編～』2006年 (同友館) 9450円
D.A. アーカー & G.S. デイ『マーケティング・リサーチ』1981年 (白桃書房) 5208円

管・営A
市

履修コード	141141
科目名	マーケティング・リサーチ B
担当者名	菅野 佐織

講義の到達目標(ねらい)

この授業では、マーケティング・リサーチ (A) で学んだ基礎を生かし、より高度なマーケティング・リサーチの分析手法について学びます。授業では、チームに分かれて、リサーチ計画を策定、データを収集、分析することで、より高度なマーケティング・リサーチ・スキルの習得を目指します。

講義の内容／授業スケジュール

- 1～7. 因子分析
- 8～14. コンジョイント分析またはクラスター分析
15. 授業のまとめ・テスト

準備学習

この授業では、チームに分かれて、マーケティング・リサーチ課題・仮説を設定し、リサーチの計画立案から実施・分析を行っていきます。面白い課題や仮説を設定するためには、マーケティングの知識だけでなく、社会の動きに関する情報が欠かせません。日頃から、新聞などの情報に触れ、社会の動きについて関心を持つことが必要になります。

履修上の留意点

この授業ではパソコンによる実習 (エクセル・SPSS を使用) を行うため、毎回の授業に参加できることが前提となります。遅刻・欠席が多い方はご遠慮ください。なお、本授業は、マーケティング・リサーチ (A) を履修した方を優先します。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席点、課題への取り組み度合い、課題の出来 (理解度)、テストによって評価します。授業時に配布する資料をもとに講義を行います。授業の内容をより理解するためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。

参 考 書

- 朝野熙彦『入門 多変量解析の実際 第2版』2000年 (講談社) 2800円
ナレシュ・K・マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践～理論編～』2006年 (同友館) 9450円
D.A. アーカー & G.S. デイ『マーケティング・リサーチ』1981年 (白桃書房) 5208円

履修コード	141151
科目名	マーケティング・サイエンスA
担当者名	<small>わかやま だいすけ</small> 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を学ぶことにある。そのため、マーケティングサイエンスAでは、マーケティング諸理論及びそこで取り扱う様々なデータや統計解析手法について学び、市場と消費者に関する理論・モデルおよびマーケティングの戦略的側面に関する科学的アプローチについて学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 科学的アプローチによるマーケティング、
- (2) 理論・モデルを通じた市場理解の方法、
- (3) ～ (4) マーケティングデータと測定法・分析法、
- (5) ～ (6) 市場の構造分析、
- (7) ～ (8) 市場細分化、
- (9) ～ (12) 消費者行動分析モデル、
- (13) ～ (14) マーケティング戦略 (STP) に関する科学的アプローチ、
- (15) まとめ

履修上の留意点

マーケティング関連科目を履修していること。また、統計学の基礎を身につけていることが望ましい。

成績評価の方法

数回の小テストと出席状況、期末レポート、期末試験により総合的に評価する。遅刻は出席にカウントしないことがある。小テストを受けたことがないものは期末レポートを受け付けられないことがある。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じて配布あるいは、指示する。
必要に応じて配布あるいは、指示する。

履修コード	141161
科目名	マーケティング・サイエンスB
担当者名	<small>わかやま だいすけ</small> 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を習得することである。そのため、マーケティング・サイエンスBでは、製品・サービスのデザインや価格、流通、プロモーションといったマーケティングの戦略的側面を議論する上で用いられるデータ分析手法を学び、マネジリアルな観点から議論するための素養を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) ～ (2) マーケティング戦略に対する科学的アプローチ、
- (3) ～ (5) マーケット (市場、消費者) の異質性を論じるための科学的方法、
- (6) ～ (8) 市場の構造と購買要因間の関連性を論じるための科学的方法、
- (9) ～ (11) マーケティング活動の効果を分析し予測するための科学的方法 (製品・サービスのデザイン、価格政策と反応、プロモーションと広告に関するモデルのまとめ)、
- (12) ～ (14) マーケティングに関する実験的方法と反応・効果の測定及びマーケティング活動でよく用いられる多変量解析、
- (15) まとめ

履修上の留意点

マーケティング・サイエンスAが履修済であることが望ましい。また、マーケティング関連科目 (例えば、統計学関連科目、心理学関連科目) を履修していること。PC 教場で統計ソフト SPSS を使用する。

成績評価の方法

5～6回の小課題提出状況 (課題に取り組む姿勢) と出席、期末レポートにより総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。
必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。

履修コード	141181
科目名	サプライチェーン・マネジメントA
担当者名	<small>いらい てつお</small> 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい) 我々が手にする製品の多くは、製品開発・原材料の調達・生産・物流・販売などの一連の諸活動を経て供給されています。そして、近年の競争環境により、企業は、消費者の望む高品質な製品を、適切な場所・時間に効率的に提供することを、ますます求められています。そのために、一連の供給プロセスの効率化や取り巻く環境の不確実性への適切な対応などが必要であり、様々な管理技術が発達しています。同時に、近年の情報技術の発展・普及により、それらの活用範囲は、より一層広がってきています。サプライチェーン・マネジメントAでは、それらの管理技術に関する理論と方法について学びます。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) サプライチェーン・マネジメントの基本的な概念、戦略的視点および課題 (4-6) 需要予測 (7-9) 需給管理 (10-12) 在庫管理 (13-14) 情報共有とその効果 (15) まとめ
履修上の留意点 経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。

成績評価の方法 数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。
教科書／テキスト 適宜、プリントを配布します。

営・営A・市

履修コード	141191
科目名	サプライチェーン・マネジメントB
担当者名	<small>いらい てつお</small> 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい) サプライチェーン・マネジメントBでは、サプライチェーン・マネジメントAに引き続き、サプライチェーン分析や計画立案を行うための理論と方法論についてさらに学びます。

講義の内容／授業スケジュール (1-3) 調達管理 (4-8) ロジスティクス管理 (9-11) マス・カスタマイゼーション (12-14) 最近の話題 (15) まとめ
履修上の留意点 サプライチェーン・マネジメントAの履修を前提とします。経営科学概論、マネジメント・サイエンスA・Bを履修済み、または同時に履修することが望ましい。

成績評価の方法 数回出す予定のレポート課題および定期試験をもとに、授業への参加状況を加味して評価します。
教科書／テキスト 適宜、プリントを配布します。

履修コード	142351
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	<small>いしなざか くにあき</small> 石名坂 邦昭

講義の到達目標(ねらい) 近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。

講義の内容／授業スケジュール リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。

①リスクマネジメントの生成と発達、1～3、②リスクマネジメントの理論、4～10、③企業経営とリスクマネジメント、11～20、④PLとリスクマネジメント、21～25、⑤環境リスクとリスクマネジメント、26～30

履修上の留意点 ノートをしっかりとること
成績評価の方法 定期試験の成績と平常点
教科書／テキスト 特になし

参考書 『リスクマネジメントの理論』石名坂邦昭著 白桃書房
その他 授業にまじめに出席すること

履修コード	143221
科目名	製品開発論
担当者名	みやした ほうじ 宮下 雄治

講義の到達目標(ねらい) マーケティングの重要な機能である需要創造において、製品開発の果たす役割は大きく、理論的にも実践的にも製品開発はマーケティング・マネジメントの中核に位置付けられます。日本の多くの産業は、市場や技術の方向性が見えにくい成熟産業であり、本講義ではすでに成熟した市場における製品開発を中心テーマとし、マーケティングと技術経営 (Management of Technology) における諸成果をふまえて解説します。講義を通して、製品開発に関する基礎的な知識の習得と、現代の産業界の要請に対する製品開発のアプローチと課題について体系的な理解を深めることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール <前期>第1回：オリエンテーション、第2～4回：製品の類型と製品開発のプロセス、第5～7回：自動車産業にみる日本型製品開発、第8～9回：製品開発におけるデザイン戦略、第10～11回：欧州のブランド戦略、第12～14回：日本の製造業の強みと課題
<後期>第15～16回：21世紀の製造業の主要市場、第17～18回：将来の成長産業（事例紹介）、第19～20回：町工場が支えるモノづくり、第21～22回：イノベーションの体系、第23～25回：成熟市場の製品開発、第26～27回：成熟市場におけるマーケティング・リサーチ、第28回：これからの製品開発

成績評価の方法 成績評価は、授業内に行う課題を重視します（ほぼ毎回行う予定）。その他、定期試験と授業外のレポートを実施し総合的に評価します。

教科書／テキスト 教科書・テキストは使わず、板書とビデオ教材を中心に授業を行います。
参 考 書 ・川上智子『顧客志向の新製品開発—マーケティングと技術のインタフェイス』有斐閣、2005年。
・延岡健太郎『製品開発の知識』日本経済新聞社、2002年。
・上原征彦『マーケティング戦略論—実践パラダイムの再構築』有斐閣、1999年。

履修コード	143231
科目名	消費者行動論
担当者名	かんの さおり 菅野 佐織

講義の到達目標(ねらい) この授業では、人の消費場面における心理的作用と、それらと企業のマーケティング活動の相互作用について考え、理解することを目的としています。今日の企業のマーケティング活動においては、消費者のインサイトを掴むことが欠かせません。この授業では、消費者の心理に関する理論を学ぶだけでなく、身近な事例や企業ケースを用いて、企業のマーケティング活動と消費者行動分析のリンクについて考えていきたいと思ひます。また、企業の方をお招きしての講義も予定しています。

講義の内容／授業スケジュール 1. 授業計画の説明とイントロダクション
2～14. マーケティング戦略と消費者行動、消費者行動研究の歴史、消費者の購買意思決定過程
15. 期末テスト
16～29. 消費者の意思決定過程、消費者行動の影響要因
30. 期末テスト

準備学習 新聞・書籍・雑誌などから情報を得るだけでなく、普段の生活や買い物行動における消費者の心理・行動について関心を持って観察してみましょう。

履修上の留意点 ・授業環境の維持のため、授業中の私語や携帯電話の音など、受講態度が不良の学生は、即座に教場から退出させることがあります。
・講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しません。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
・この授業を履修するにあたっては、マーケティングの基礎的な知識が必要となります。そのため、マーケティング論を履修していない者の場合には、独学でマーケティングを勉強する必要があります。

成績評価の方法 出席点(数回)、レポート課題、定期試験によって評価します。
教科書／テキスト 授業時に資料を配布します。さらに理解を深めるためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。

参 考 書 田中洋・清水聰編著『消費者・コミュニケーション戦略』(有扉閣アルマ) 2100円
杉本徹雄『消費者理解のための心理学』1997年(福村出版) 2730円
清水聰『新しい消費者行動』1999年(千倉書房) 3360円

履修コード	143241
科目名	マーケティング・コミュニケーション論
担当者名	中野 <small>なかの</small> 香織 <small>かおり</small>

講義の到達目標(ねらい)

マーケティング・コミュニケーション (MC) とは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信する手段のことである。近年は、消費者のメディア接触形態の変化やマス広告の効果減少などを背景に、MCの領域が拡大してきている。そこで、日常生活で接するもの全てをコミュニケーションのためのメディアと捉える統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) が、今後重要となる。本講義では IMC を包括的に理解してもらうことを目的とし、理論的な説明に加えて事例紹介やゲスト (実務担当者) による講義等、実践的な説明も行う。

講義の内容/
授業スケジュール

講義は3段階に分けて行う。初めにマーケティング・コミュニケーション (MC) の全体構造を説明する。次に MC を構成する具体的な戦略を説明し、最後に各 MC 戦略がどのように統合されるのかを IMC を用いて説明する。

- (1~2) MC の全体構造 (3~7) 広告戦略 (8~11) 販売促進戦略 (12) ゲストスピーカー (13) 商品コミュニケーション戦略 (14) グループワーク (15) 前期のまとめ (16~17) 店舗内コミュニケーション戦略 (18~19) PR 戦略 (20~21) パーソナル・コミュニケーション戦略 (22~23) ダイレクトマーケティング戦略 (24) インタラクティブマーケティング戦略 (25) ゲストスピーカー (26~27) IMC 戦略 (28~29) グループワーク (30) まとめ

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

平常点30% (ワークなど)、中間試験30%、学期末試験40%で評価する。

教科書は使わず、レジュメを配布する。

亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』(日本経済新聞出版社) 2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊(八千代出版) 2,835円、亀井昭宏・疋田聰編『新広告論』2005年刊(日本経済新聞社) 1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊(電通) 2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論新版』2008年刊(有斐閣) 2,205円

営・営A・
市

履修コード	143251
科目名	マーケティング・チャンネル論
担当者名	青木 <small>あおき</small> 茂樹 <small>しげき</small>

講義の到達目標(ねらい)

我々が手にしている商品、とくにブランドとして認知されている商品は、ある一企業の戦略目的に基づき、他の流通パートナーをコントロールしながら成果を挙げていくために形成されたマーケティング・チャンネルを経由してきている。

従来はメーカーがチャンネル・リーダーとなっており、これらが形成され、卸売業、小売業がこれによりコントロールされてきた。近年は従来、被支配的な立場とされてきた卸売業や小売業が、主体的にチャンネル・リーダーとなっており、自社のブランドを強めていく例も増えてきた。また新しいツールとしてのインターネットにおいて、チャンネル構築を試みる中小企業や農林水産業者も出てきている。

本稿では、これまでの中心であったメーカーの国内マーケティング・チャンネル戦略から、情報化・国際化の中で形成されていく新たなマーケティング・チャンネルまでを考察していく。将来、マーケティングや営業を志向する学生にとっては必須の科目となろう。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1) ~4) メーカーによる垂直的マーケティング・チャンネル
5) ~8) マーケティング・チャンネル構築・管理の諸理論
9) ~13) プライベート・ブランドに見られるマーケティング・チャンネル戦略
14) ~18) 国際マーケティングにおけるマーケティング・チャンネル戦略
19) ~23) 農林水産物におけるマーケティング戦略とチャンネル管理
24) ~27) インターネットにおけるマーケティング・チャンネル管理
28) ~30) 生産財マーケティングにおけるマーケティング・チャンネル管理

履修上の留意点

流通システム論を既習していることが望ましい。講義形式ではあるが、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促す。

成績評価の方法

毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書/テキスト
参 考 書

小林哲・南知恵子(2004)『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。
日経MJ編(2009)『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック、(2010年版)』日本経済新聞社。
Erin Anderson, Louis W. Stern, Adel I, El-Ansary, Anne T. Coughlan(2001) Marketing Channels, The Prentice Hall, 978-0130127723。

履修コード	143271
科目名	グローバル・マーケティング論
担当者名	臼井 哲也

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、企業のマーケティング活動が国境を越えて展開される際の固有の問題について理解し、その解決策として期待される諸理論について学習することにある。とくに多国籍企業のマーケティング活動に焦点をあてる。

講義の内容/
授業スケジュール

前期

- ①ガイダンス
- ②マーケティングの基礎
- ③マーケティングが国境を越える意味
- ④海外市場参入1
- ⑤海外市場参入2
- ⑥国際マーケティング・リサーチ1
- ⑦国際マーケティング・リサーチ2
- ⑧国際市場の多様性
- ⑨国際市場細分化
- ⑩国際マーケティング標準化-適応化1
- ⑪国際マーケティング標準化-適応化2
- ⑫国際マーケティング標準化-適応化3
- ⑬グループ演習1
- ⑭グループ演習2
- ⑮前期まとめ

後期

- ①ガイダンスと前期復習
- ②原産国効果
- ③広告表現の国際比較
- ④グローバル・マーケティングの基礎
- ⑤標準化-適応化同時達成論1
- ⑥標準化-適応化同時達成論2
- ⑦グローバル・マス・カスタマイゼーション1
- ⑧グローバル・マス・カスタマイゼーション2
- ⑨グローバル・マス・カスタマイゼーション3
- ⑩新興国市場の開発1-中国市場-
- ⑪新興国市場の開発2-BOP市場-
- ⑫ボーン・グローバル企業のマーケティング
- ⑬個人演習1
- ⑭個人演習2
- ⑮後期まとめ

履修上の留意点

遅刻、私語厳禁。ルールを無視するものは直ちにFとする。
配布資料なし。自著ノート作成。国際経営論と併せて受講することを推奨する。

成績評価の方法

学期末試験と課題(レポートなど)を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。

教科書/テキスト

特に指定しない

参 考 書

臼井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究-国際市場戦略の新視角』2006年刊(文眞堂)2,800円

履修コード	143281
科目名	マーケティング史
担当者名	いしかわ かずお 石川 和男

講義の到達目標(わらい)

マーケティングという学問?が誕生してからはや1世紀以上が経過した。経済学や法学など、他の社会科学分野の学問に比較すると、その歴史の長さは比べようもなくなく短いといわなければならない。しかし、マーケティングという「市場対応」に関する方法や技術が、20世紀の社会を変化させてきたこと、そして21世紀の社会を変化させる1つの基軸となることは間違いのないであろう。そこで、本講義では、いかにマーケティングが市場対応をしてきたかという歴史を振り返ることで、これから将来にわたり、いかに市場対応することが必要か、またそれを実践できる元となるものを本講義では身につけてもらいたい。講義ではさまざまな分野の産業におけるマーケティングの展開について触れる。それは経営史でも商業史でもなく、メーカーや流通業者などの主体がいかに市場に対応してきたかという足跡を辿ることになる。受講生には、ただ講義を聴くという姿勢ではなく、積極的に企業などの市場対応をしてきた歴史について関心を持つことを期待したい。

営・営A・市

講義の内容/
授業スケジュール

1. 開講にあたって、2. マーケティング史と経営史、商業史、経済史との違い、3. 戦前期の先駆的マーケティング(1) - 戦前期のマーケティングの形成、4. 戦前期の先駆的マーケティング(2) - 森永製菓、5. 戦前期の先駆的マーケティング(3) - 化粧品産業の発展と市場構造、6. 戦前期の先駆的マーケティング(4) - 資生堂、7. 戦前期の先駆的マーケティング(5) - 花王、8. 戦後の経済発展とマーケティング - 大衆消費社会の形成とマーケティング、9. 問屋制度とマーケティング(1) - 伝統的問屋制度と医薬品流通、10. 問屋制度とマーケティング(2) - 大正製薬、11. マーケティング企業の普遍化(1) - 松下電器産業、12. マーケティング企業の普遍化(2) - トヨタ自動車、13. マーケティング企業の普遍化(3) - トヨタ自動車、14. 小売業のマーケティング展開(1) - 小売業態変化、15. 小売業のマーケティング展開(2) - 百貨店、16. 小売業のマーケティング展開(3) - スーパーマーケット、17. 小売業のマーケティング展開(4) - その他の業態、18. 卸売業のマーケティング展開(1)、19. 卸売業のマーケティング展開(2) - 総合商社の発展、20. 卸売業のマーケティング展開(3) - 食品専門卸売の発展、21. グローバル化の進展とマーケティング(1) - 日本企業のグローバル化、22. グローバル化の進展とマーケティング(2) - ホンダ、23. グローバル化の進展とマーケティング(3) - ソニー、24. 展開期のマーケティング - マーケティングの刷新、25. マーケティング・コミュニケーションの進展、26. サービス・マーケティングの進展(1)、27. サービス・マーケティングの進展(2) - 外食産業の発展、28. サービス・マーケティングの進展(3) - 東京ディズニーリゾート、29. 非営利組織のマーケティング展開、30. これまでの講義のまとめ

履修上の留意点

1. 携帯電話の使用厳禁(使用を発見した場合は即刻受講中止。単位不認定)
2. 遅刻・早退・中抜け厳禁
3. 私語厳禁
4. 帽子着用、食厳禁
5. 公欠の取り扱い(運動部の公式試合、教育実習などの場合は証明書を提出のこと)
その他、開講時の1時間目に細かく指示。したがって、第1回目の授業時から出席の必要あり。

成績評価の方法

1. 出席点30
2. レポート30
3. 期末試験または期末レポート40

教科書/テキスト

特に指定しない

参 考 書

小原博(1994)『日本マーケティング史』中央経済社
日本経済新聞社編(1993)『流通現代史』日本経済新聞社
尾崎・神保編(2000)『マーケティングへの歴史的視角』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に、重要なことをお話しするつもりですので、必ず第1回目から出席すること

履修コード	143801
科目名	民法Ⅱ（債権法）
担当者名	上井 長久

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、他人に対して、或る物を交付させること、または、或ることを為すことを要求する権利、すなわち債権についての実体的権利関係を総合的に考察するが、それを通して、債権をめぐる問題に対して精通するとともに、柔軟に解決できるように導くことを目標とする。そのように人が人に対して或る事柄を要求することを正当と認め、その請求の実現が当事者間ではかることが出来ない場合に、当事者の一方の訴えに基づき他方の責任を追求するために裁判所が力を貸す関係が債権関係である。そのような人と人の関係は、封建的な身分関係から生じるのではなく、周知のように近現代では多くは契約関係から生じる。その他に、契約関係がなくとも相互扶助、公平、損害補填等の要請に基づく事務管理、不当利得、不法行為などからも債権関係が生じる。

債権法は、その全てについて言えることではないが、合意優先ないし契約自由の原則の及ぶ領域においては、その規定が任意法規性のゆえに日常の経済生活では往々にして、合意により債権法規と異なる生活規範が設定され、また、それが許される法の範疇である。この範疇においては、日常生活の一定の基準たる債権法規の解釈と、その法規を排除した、より有益な準則を設定した生活関係の両方を理解することが必要である。

この講義は、債権総論と債権各論を講義の対象とする。まず債権法全体の仕組み、内容をひととおり説明したうえで、債権一般の通則たる債権総論、次いで債権発生の原因にあたる債権各論について逐条のかつ重点的に解明する。

第1回～第3回：債権の意義・性質・社会的機能、債権法の法源、債権法の特質・体系、第4回：債権の目的・内容、第5回：債権の効力——債務と責任、履行強制、第6回～7回：債務不履行責任、第8回：債権の対外的効力——債権者代位権、第9回：債権者取消権、第10回：多数当事者の債権関係——債権の共有・合有・総有、分割・不可分債権、第11回～12回：連帯債務、第13回～14回：保証債務、第15～16回：債権の譲渡、債務の引受、第17回：債権の消滅、第18回：契約総則——債権発生原因、契約自由の原則、契約の種類、第19回：契約の成立、第20回：契約の効力——同時履行の抗弁権、第21回：危険負担、第22回～23回：第三者のためにする契約、契約の解除、第24回：贈与、売買、交換、第25回：消費貸借、使用貸借、賃貸借、第26回：雇傭、請負、委任等の契約、第27回：事務管理、不当利得、第28回～30回：不法行為

各回のテーマに関連する内容について条文および教科書を一読した上で講義に臨むこと。

債権法は、民法学の一分野であるから、必然的に民法の他の分野にも関連する。とくに債権を担保するための担保物権や民法全体の基本原則である民法総則などを扱う「民法Ⅰ」も併せて履修することが望ましい。

学年末の定期試験で行う。

我妻栄・有泉亨・川井健著『民法2 債権法（第三版）』（勁草書房）

川井健『民法概論3 債権総論』、『民法概論4 債権各論』（有斐閣）

内田貴『民法Ⅲ 債権総論・担保物権』、『民法Ⅱ 債権各論』（東京大学出版会）

稲本洋之助・上井他共著『民法講義5 契約』（有斐閣大学双書）

講義の内容／
履修スケジュール

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

履修コード	145001
科目名	商法Ⅱ（商行為、手形・小切手法）
担当者名	<small>なかほま としあき</small> 中濱 義章

講義の到達目標(ねらい)

手形小切手法の基本的な原則・制度を理解し、諸問題を検討することを通じて有価証券法理の基礎を習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

講義は以下の順に行い、各項目ごとに1～2回程度の授業時間を割り当てる。講義の内容は、制度の概要を解説し、具体例を通じて問題点の検討をおこなう。

- 1 手形・小切手の意義（約束手形・為替手形・小切手の異同）
- 2 手形法・小切手の経済的機能
- 3 手形行為の意義・性質
- 4 手形行為の成立時期（手形理論）
- 5 手形行為と法律行為に関する一般原則
- 6 代理人・代表者による手形行為
- 7 無権代理と偽造、変造
- 8 手形行為と実質関係

履修上の留意点

- 9 手形の振出
 - 10 白地手形
 - 11 手形の裏書
 - 12 善意取得の制度
 - 13 手形抗弁、人的抗弁切断（制限）の制度
 - 14 支払、支払拒絶など
 - 15 為替手形・小切手に特有の法制度
 - 16 振込・振替など新たな決済システムに関する諸問題
- 六法は小型のものでかまいませんので最新版を携行して下さい。例えば、『ポケット六法』（有斐閣）、『セレクト六法』（岩波書店）、『デイリー六法』（三省堂）など。

成績評価の方法
教科書／テキスト

民法（財産法関係科目）および商法科目を履修済み、あるいは履修中であることが望ましい。夏休み前と期末に行う筆記試験での評価を予定していますが、レポートを課す場合もあります。大塚龍児ほか『商法Ⅲ－手形・小切手（第3版）』（有斐閣Sシリーズ）

参 考 書

落合誠一＝神田秀樹編『別冊ジュリスト 手形小切手判例百選（第6版）』（有斐閣）
詳細については、開講時に指示します。
山下友信＝神田秀樹編『商法判例集（第3版）』（有斐閣）

管・管A・
市

履修コード	144211
科目名	外書講読（英書Ⅱ）
担当者名	<small>まえだ かずとし</small> 前田 和利

講義の到達目標(ねらい)

企業経営に関するテクニカル・タームを習得して英文読解力を養成するとともに、日本型経営の特質を理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール
準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

J.C.Abegglenの下記文献をとおして日本的経営の変化を学ぶ。とくに労使関係、企業財務、企業統治などに焦点を置くが、進度は受講者の意欲による。

輪読形式をとるので、事前に割り当てられた各担当者は必ず発表することが義務づけられる。

最初の授業には必ず出席すること。

平常点（出席・発表）と学年末試験をそれぞれ50点として評価する。

J.C.Abegglen, 21st-Century Japanese Management: New System, Lasting Values, PALGRAVE MACMILLAN, 2006.

参 考 書

適宜紹介する。

履修コード	144301
科目名	外書講読 (独書)
担当者名	数下 紘一

講義の到達目標(ねらい) 今までのドイツ語学習の上に立って、専門の、現場のドイツ語を習得する。

講義の内容／授業スケジュール 1 講ビジネス会話、2～5 講電話での対応、アポイントを取る、秘書が取り次ぐ、一般的なトラブル、6～10 講ホテルに到着、トラブル、タクシー出迎え、紹介、商談 (契約に関する問題)、取引の交渉、食事、11～15 講売付の取引をする、航空券の予約変更、16～20 講商業文の書き方、商業文の組み立て方、21～30 講いろいろな商業文の例 (問い合わせ、回答、申し出、注文、注文受理、抗議文、督促状、その他)

履修上の留意点 家で辞書を引いて来る事。予習復習が大事。CD がついているので、家で何度も聞いて発音をしっかりと覚える。

成績評価の方法 前後期に各々40点満点の試験を実施し、平常点最高20点をくわえる。

教科書／テキスト 『ビジネスドイツ語』(三修社、¥2,800+税)

その他 日常新聞や業界紙に目を通しておいってください。

履修コード	144401
科目名	外書講読 (仏書)
担当者名	桑田 禮彰

講義の到達目標(ねらい) フランス語の基礎を習得した学生を対象に、フランス語で書かれた経済・経営に関する文献をテキストとして講読することによって、フランス語の読解力を養うとともに、経済・経営に関する知識を深めることを目標とします。テキストは、日本に関するもの、ヨーロッパに関するもの、グローバル化に関するものなど多様な選択肢がありますが、授業開始時に履修者の関心に沿った形で決定することとします。フランス語の読解力養成のために、できるかぎり平易な文法説明・内容解説を心がけるつもりです。

講義の内容／授業スケジュール まず発音の基本をしっかりと復習した上で、はじめは初級文法を再確認しながらテキストをゆっくり読んでいきます。受講者に読解力がついてきたら多少ペースを上げ、中級文法説明や内容解説に時間をかける予定です。

履修上の留意点 (1) 受講上の諸注意 (2) 発音の基本の復習 (3)～(15) 初級文法復習を中心としたテキスト読解 (16)～(29) 中級文法説明・内容解説を中心としたテキスト読解 (30) 復習と今後のフランス語学習について

履修上の留意点 発音練習や文法理解のために最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法 前期末授業内試験 (50%) と学年末試験 (50%) の結果を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し総合的に評価します。

教科書／テキスト 授業開始時に受講者と相談の上決定。

参 考 書 そのつど授業で指示します。

履修コード	144501
科目名	外書講読 (中国書)
担当者名	佐藤 普美子

講義の到達目標(ねらい) 近年の中国社会の世相を反映する「流行語」や「文化關鍵詞」(文化キーワード) に関する解説文 (主として、新聞・雑誌記事) を読み、生活に根づく伝統と急速な変化の両面から同時代中国への理解を深める。

講義の内容／授業スケジュール 第1回：導論。第2～5回：映画・ドラマに関するトピック (以下同様)。第6～9回：教育。第10～13回：文学・芸術。第14～17回：衣食住 (1)。第18～21回：時事・政治。第22～25回：旅行・健康。第26～29回：衣食住 (2)。第30回：学期末試験。

準備学習 予習は不可欠です。

成績評価の方法 出席・予習の有無等の平常点 (6割) と学期末試験 (4割) を基本にして総合的に評価します。

教科書／テキスト 開講時に教材プリントを配布します。

参 考 書 辞書は必携です。購入に際しては下記 URL を参考にしてください。
[Http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gakujoho/zhojisho](http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gakujoho/zhojisho)

履修コード	144601
科目名	外書講読（スペイン書）
担当者名	<small>うえの かつひろ</small> 上野 勝広

講義の到達目標(ねらい)	専門書をひとりで読みこなすことができるよう、1年次、2年次で学んだスペイン語の基礎の上に、読解力を養う訓練をします。
講義の内容／ 授業スケジュール	スペイン語圏および日本の社会と文化に関するテキストを読みます。同時に必要な文法事項を以下の予定で確認します。 前期（1）オリエンテーション（2～5）自動詞・再帰動詞・他動詞の構文、など（6～10）連結動詞の構文、など（11～15）関係節、など 後期（16～20）副詞節、など（21～25）受動構文、など（26～30）比較構文、など
履修上の留意点	スペイン語の基礎文法をしっかり復習しておくこと。現代のスペイン語文に親しんでもらうため、できるだけ多量のテキストを読んでもらいます。予習復習は欠かせません。また個々の受講者の興味、関心、専攻と結びつけてテキストに関してのコメントを求めます。動機を明確にしておきましょう。スペイン語圏に真面目に関心のある学生の受講を期待します。
成績評価の方法	毎回の授業参加と、各回の達成度チェックによります。試験やレポートは課さず、平常点で評価します。
教科書／テキスト	プリント使用。

宮・宮A・
市

履修コード	144701
科目名	外書講読（ロシア書）
担当者名	<small>すぎやま ひでこ</small> 杉山 秀子

講義の到達目標(ねらい)	ビデオ、DVDを見て最低限のロシア事情についての知識を得るとともに、最低限のロシア語学習をしてもらいます。それができない人は最初から履修を断わる場合があります。
講義の内容／ 授業スケジュール	4—9月 ロシアを紹介したビデオ、DVDをみる。真似てみたい表現をパソコンでうってみる。 10月—12月 インターネットでリアルタイムのニュースをみて、カッコいい殺し文句を覚えてみよう。
履修上の留意点	パソコンルームでパソコンを動かすので、できるだけ早くパソコン操作になれて貰いたい。
成績評価の方法	定期試験はおこなわないが、毎回小テストをする。また出席は重視するので単位取得のみを目的の人は最初から履修しないこと。
教科書／テキスト	教室で配布

履修コード	144801
科目名	特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕
担当者名	<small>さるやま よしひろ</small> 猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)	本講座は、「現代のビジネスモデル」をテーマに、起業家の育成を目的として、約3分の2は実務者によって講義される。実社会の動向がわかるようになるだけでなく、自らが考えた企画がそのまま評価の対象となるので、プレゼンテーション能力や企画力を養うこともできる。
講義の内容／ 授業スケジュール	以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認していくこと。 第1回 ガイダンス、第2回 事業計画書作成の方法、第3回 プレゼンテーションの方法、第4回 ビジネスモデルの事例研究(1)、第5回 ビジネスモデルの事例研究(2)、第6回 ビジネスモデルの事例研究(3)、第7回 事業計画書とビジネスモデル、第8回 ビジネスモデルの事例研究(4)、第9回 ビジネスモデルの事例研究(5)、第10回 ビジネスモデルの事例研究(6)、第11回 プレゼンテーション(1)、第12回 プレゼンテーション(2)、第13回 プレゼンテーションの講評、第14回 これからのビジネスモデル、第15回 まとめ
履修上の留意点	事業計画書の提出とレポート試験を課す。詳細については初回の授業で述べる。
成績評価の方法	指定されたテーマで作成してもらった事業計画書とレポート試験を評価対象とする。
教科書／テキスト	毎回資料を配布する。プレゼンテーションではパワーポイントを用いる。
参 考 書	適宜、授業中に紹介する。
そ の 他	外部の特別講師による講義では、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	101203
科目名	特殊講義Ⅱ〔現代の資本主義と証券市場〕
担当者名	江夏 ^{えなつ} あかね

講義の到達目標(ねらい)

本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 金融・経済関連情報の捉え方
- 第3回 証券投資のリスク・リターンの概念
- 第4回 証券市場の概要と市場参加者
- 第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識
- 第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎
- 第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (1)
- 第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (2)
- 第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-1)
- 第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (地方債-2)
- 第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-1)
- 第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎 (財投機関債-2)
- 第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き
- 第14回 レポートの講評
- 第15回 まとめ

成績評価の方法

定期試験とレポートで評価する。

教科書／テキスト

毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。

参 考 書

江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725、978-4785716172。
代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100、978-4419048792。

そ の 他

金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	144901
科目名	ビジネス英語
担当者名	秋葉 ^{あきは} じげる

講義の到達目標(ねらい)

- 国際ビジネスの現場で使われている英語に触れ専門用語を習得する
- ビジネス英語、時事英語を通じて国際的な視野を養う
- 国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイス

講義の内容／
授業スケジュール

- (a) 第1回 オリエンテーション、「国際ビジネスとは？」について経験と説明
- (b) 第2回—第7回 英文ニュース、社説等を通して国際ビジネスで使われている専門用語の習得及びその解説、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス入門
- (c) 第8回—第12回 英文レター、E-mailの書き方の基本及び応用、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス入門
- (d) 第13回 国際ビジネスに関わる経営者のプレゼンテーション
- (e) 第14—第15回 (b)、(c)の復習及び後期授業に向けたオリエンテーション

履修上の留意点
成績評価の方法

- (f) 第16回—第20回 英文ニュース、社説等のニュースを読み、理解する及びその解説、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス実践
 - (g) 第21回—第25回 いくつかの業界を選び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイスをを行う、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス実践
 - (h) 第26回—第28回 国際ビジネスにおける英文レター、E-mailの書き方実践
 - (i) 第29回—第30回 期末試験及び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイス
- 次回使う資料、参考資料 (メディアが配信する経済ニュース、社説等) の予習
プロセス評価 (出席、宿題、小テスト、毎回の授業における積極的な発言回数等) 40%
結果評価 (学期末試験 (12月予定) の結果) 60%

教科書／テキスト
参 考 書

English on the Job 発行所 金星堂、著者 James House、三好道子
未定

専 門 教 育 科 目

(2) 経営学科フレックスB

履修コード	328001
科目名	経営学
担当者名	鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)

経営学の各分野における基本的用語・内容、概念および理論について解説を行う。解説の際には、実例・具体例を用いてなるべく理解しやすい講義にしたいと考えている。受講を通じて、企業や経営に対する関心を広げ、他の経営学専門科目の学習につなげてもらえれば幸いである。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のテーマ・スケジュールで講義を行なう予定。初回はガイダンス。1) 経営学とは(第2回)、2) 企業形態(第3～5回)、3) 経営財務(第6～7回)、4) 経営組織(第8～10回)、5) 経営戦略(第11～13回)、6) 経営労務(第14～16回) 7) 生産管理(第17～19回)、8) マーケティング(第20～22回)、9) 企業経営の国際化(第23～25回)、10) コーポレートガバナンス(第26回)、11) 企業の社会的責任(第27回)、12) 現代の経営問題とまとめ(第28～30回)

準備学習
履修上の留意点

日常的に新書や経済新聞に目を通して、関心を広げておくこと。
この科目は再履修者対象であるが、卒業のための必須科目なので、少しでも多く出席して単位が修得できるよう、奮起して欲しい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他
関連リンク

課題レポートの提出により、単位を認定する。詳細は、講義の中で説明する。
特に指定しないが、講義において適宜、参考書を紹介する。
特に指定しないが、講義において適宜、参考書を紹介する。
WEBページもあわせて参照のこと。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima>

営B

履修コード	328301
科目名	簿記学
担当者名	猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)

この講義の目的は、会計実務の基礎となる簿記の手続きについて、最も単純な企業形態である個人企業の取引を例に取り上げて理解させることにある。内容のレベルは、日商簿記検定3級商業簿記のレベルである。簿記の知識は、すべての社会人にとって有用であり、とくに将来、企業経営者を目指す人にとっては必須の知識と言ってよい。この講義を通じて、企業の財政状態や経営成績を正しく把握できるための基礎知識を習得してほしい。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回 簿記の基本概念、第2回 簿記一巡の手続、第3回 試算表と精算表、第4回 第1回小テスト、第5回 現金と預金1、第6回 現金と預金2、第7回 商品売買1、第8回 第2回小テスト、第9回 商品売買2、第10回 債権・債務1、第11回 債権・債務2、第12回 第3回小テスト、第13回 手形、第14回 貸倒損失と貸倒引当金、第15回 残高試算表、第16回 第4回小テスト、第17回 有価証券、第18回 固定資産、第19回 費用・収益の見越しと繰延べ、第20回 第5回小テスト、第21回 決算1、第22回 決算2、第23回 純資産と税金、第24回 帳簿と伝票1、第25回 帳簿と伝票2、第26回 第6回小テスト、第27回 特殊商品売買の基礎、第28回 株式会社社会記の基礎、第29回 本支店会計の基礎、第30回 まとめ

履修上の留意点

年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエートで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。

成績評価の方法

毎回プリントを配布するので、とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記3級商業簿記および2級商業簿記の過去の検定試験において出題された問題を参考にしてほしい。プリントは毎回配布するので、きちんと保存するようにしてほしい。

教科書/テキスト

毎回プリントを配布するので、とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記3級商業簿記および2級商業簿記の過去の検定試験において出題された問題を参考にしてほしい。プリントは毎回配布するので、きちんと保存するようにしてほしい。

参考書

個々の項目の内容については、中央経済社や税務経理協会が発行している日商簿記3級商業簿記および2級商業簿記のテキストが参考になる。また、問題の解法については、専門学校が編集・発行しているテキストに詳しく説明されているので、そちらを参照すること。

その他

少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後まであきらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	328601
科目名	会計学
担当者名	岩淵 昭子

講義の到達目標(ねらい)

会計の目的は、一般的に複式簿記の手法等によって、組織（主に企業）の経営成績および財政状態を明らかにして、企業を取り巻く利害関係者に会計情報を提供することにあります。簿記学は主に帳簿記入のルールを学習するのに対し、会計学は理論的なフレームワークや会計制度を学習します。会計学は、組織（主に企業）の経営活動を貨幣金額で表したデータの意味を理解することに役立ちます。本講義では、会計学を経済社会の動きとも関連して学習します。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1回 ガイダンス、総論
- 2回 会計の仕組み
- 3回 企業会計の理論的特徴（会計公準・会計原則）
- 4～5回 企業会計制度
- 6～14回 資産会計
- 15回 まとめ・中間試験
- 16～19回 負債会計
- 20～22回 資本会計
- 23～25回 損益会計
- 26～27回 財務諸表の作成
- 28～29回 連結財務諸表
- 30回 まとめ・後期末試験

履修上の留意点
成績評価の方法

簿記学の知識があると、会計学を理解することが容易になります。
中間試験（3割）、期末試験（3割）、出席（3割）、小テスト・受講態度（1割）として総合的に評価します。

教科書／テキスト

新井清光著・川村義則補訂、『現代会計学〔第11版〕』、中央経済社、2,600円＋税

営 B

履修コード	328901
科目名	情報処理基礎 A
担当者名	依田 聖

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータなしでは社会生活を遂行してゆくことは困難になりつつある。コンピュータの基本的な操作方法をマスターする中で、コンピュータの機能について理解し、情報を大学生活に活用する能力を身につける。前期はワープロ（ワード）とプレゼン用ツール（パワーポイント）の実習を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

大学あるいは企業で PC を道具（情報収集、情報伝達、レポートの作成等）として使う基本的な力（コンピュータ・リテラシー）を養う。演習を中心に進めるが、コンピュータ化の問題点と情報倫理等の講義も行う。演習の主要な点は（1）PC の操作（Windows の基本操作）（2）WWW（ブラウザの使用法、情報検索・収集）（3）電子メール（送受信、添付ファイル、アドレス帳）（4）ワープロ（操作法、文書作成、印刷）（5）スライドの作成（パワーポイントでスライドを作成する）

以上の項目（1）～（5）を 2 - 3 回で行い 1.5 回で終わる。

（年々 PC のレベルが上がってきているので、状況を見て PC の総合的な使用法の練習を含むこともあり得る。）

準備学習

PC の電源の ON/OFF や KB の操作など基本的なところは自習しておくこと。

履修上の留意点

初回は電子（PC）メールの設定をするので、必ず出席すること。

講義にはメールを活用（講義録の送付と課題の提出）する。

本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしながら聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと（出欠は必ずとりまします）。

成績評価の方法

出席（毎回の課題を提出）・レポート40%、試験60%。特にメールを習った後は毎回の課題はメールで提出する。

教科書／テキスト

太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ〔第4版〕』（サイエンス社）2008年
1,950円＋税、ISBN4-7819-1085-8

その他

授業の方法：1人1台コンピュータを使った実習形式

※この科目は4月初回の授業に必ず出席して担当教員から許可を得なければ履修できません。

履修コード	329301
科目名	情報処理基礎B
担当者名	^{よだ きよし} 依田 聖

講義の到達目標(ねらい)	コンピュータなしでは社会生活を遂行してゆくことは困難になりつつある。コンピュータの基本的な操作方法をマスターする中で、コンピュータの機能について理解し、情報を大学生活に活用する能力を身につける。後期は表計算（エクセル）とHPの作成（HTML言語による）の実習を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	前期で養った基本的な力をベースにして、コンピュータを実践的に使えるような力を養う。演習を中心に進めるが、情報倫理やITビジネス等の講義も行う。演習の主要な点は（1）表計算（エクセル）（操作法、表計算、グラフ）（2）www－ワープロ－エクセルの連携（アプリケーション間でのデータのやり取り、情報検索・収集とその解析）（3）HPの作成（HTML言語でHPを作成する） 以上の項目（1）～（3）を4－5回で行い15回で終わる。 （年々PCのレベルが上がってきているので、状況を見てPCの総合的な使用法の練習を含むこともあり得る。）
履修上の留意点	講義にはメールを活用（講義録の送付と課題の提出）する。 本科目は積み重ねが必要。欠席した場合必ず休んだ部分を勉強し、次回にのぞむように。分からないことは恥ずかしがらず聞き、その場で解決のこと。また復習をしっかりとすること。演習は結果としてハードなものになるので熱意を持って取り組むこと。休まず、遅刻はしないこと（出欠は必ずとりまします）。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席（毎回の課題を提出）・レポート40％、試験60％。毎回の課題はメールで提出する。 太田忠一編『文科系のためのコンピュータリテラシ [第4版]』（サイエンス社）2008年 1,950円＋税、ISBN4-7819-1085-8
そ の 他	授業の方法：パソコン実習 ※この科目を履修するためには、「情報処理基礎A」の4月初回授業時に担当教員の受講許可を得た上で、履修登録してください。

営B

履修コード	307802
科目名	民法
担当者名	^{みだ てるこ} 織田 晃子

講義の到達目標(ねらい)	民法総則、物権が講義の対象です。具体的な事件、従って判例をなるべく使って基礎的な力をつける。
講義の内容／ 授業スケジュール	（1～4）権利の主体、特に自然人について権利能力、意思能力、行為能力、不在者、失踪宣告 （5）権利の客体（6～9）権利の変動として法律行為、意思表示、代理、無効及び取消、時効等 （10～12）物権変動（13～15）抵当権（16～20）譲渡担保（21～22）仮登記担保（23～25）所有権留保（26～30）買戻し・再売買の予約
履修上の留意点	六法は必ず持参すること 期末試験の成績による
成績評価の方法 教科書／テキスト	『民法第三版①総則・物権法』（勁草書房）、ポケット六法（有斐閣）
そ の 他	プリント配布

履修コード	308802
科目名	商法
担当者名	井上 健一

講義の到達目標(ねらい) 企業活動の内部的な規整である会社組織に関する法規整（いわゆる形式的な意味での会社法）について講義する。単なる制度の紹介にとどまらず、なぜそのような制度が存在するのかという「制度の存在理由」を、近時の敵対的買収と対抗策の問題などに代表されるような現実の会社実務との関係で理解することを心がける。前期は主としてコーポレートガバナンスに関する規整、後期は企業金融および組織再編に関する規整を中心に講義する。商法総則についても適宜会社法との関連部分について触れていく。

講義の内容／
授業スケジュール

- 前期 1 会社法総論：商法の体系および会社法の存在意義
2 会社の機関と法：コーポレートガバナンスに関する法規整（株主総会、取締役会・代表取締役、監査役等）
- 後期 3 会社の資金調達と法規整（設立時の資金調達、設立後の資金調達：新株発行、社債等）
4 会社の組織再編（M&A等）
5 企業会計

履修上の留意点

少なくとも民法（総則・債権各論）を履修済みか、履修中であることが望ましい。日経などの新聞・雑誌の経済記事についてもアンテナを張っておくこと。

成績評価の方法

原則として期末試験によるが、履修人数によっては授業内で質疑応答形式によるケースメソッドを実施し、その評価と合算して全体を評価する可能性もある。

教科書／テキスト
参 考 書

伊藤・大杉・田中・松井「リーガルクエスト会社法」（有斐閣）ISBN 978-4-641-17906-6 ￥2940
江頭憲治郎「株式会社法」（有斐閣）、神田秀樹「会社法」（弘文堂）。その他、適宜授業内で紹介する。

関 連 リ ン ク

<http://homepage3.nifty.com/inoue-k/>

営 B

履修コード	325101
科目名	労働法
担当者名	ふじもと しげる 藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、わが国の労働関係(雇用社会)は、少子高齢社会・人口減社会やグローバル化に伴って、リストラ、成果主義人事管理の導入・見直しなどが大きく変貌しています。

労働法は、労働問題を平和的に(つまりは法的に)解決する妥当な考え方を学ぶ法領域です。雇用社会の変動に無関係ではられません。

この時期、労働者に降りかかるさまざまな事象は、労働基準法改正、労働時間法制、労働契約法や男女雇用平等などの雇用関係法領域において、顕著です。

本講義ではこの雇用関係法領域を中心に授業を進め、その基礎的知識を身につけることを目標とします。到達目標は、基礎的知識の習得とリーガルマインドを身につけることです。

講義の内容/
授業スケジュール

授業では、下記事項について、行います。

- (1) 労働法の基礎的考え方
- (2) 日本型雇用システムの変化と労働法
- (3) 労働関係の主人公-労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定-労働基準法の特徴
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 労働条件の集団的決定-就業規則、労働協約
- (7) 雇用の入り口-採用、採用内定、試用期間
- (8) 人事異動-配転、出向、転籍
- (9) 雇用の終了-退職、解雇、整理解雇
- (10) 賃金、賞与、退職金
- (11) 労働時間、時間外・休日労働
- (12) 休憩、休日、休暇
- (13) 労働災害など

準備学習

準備学習といえば、以下のことをお願いするだけです。当り前のことですが、教科書を読んで授業に臨むということです。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo、そして無断で席を立つことはNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。

適宜、項目を列挙したレジュメや資料を配りますが、それでは十分ではありません。教科書を使って有意義な勉強を心がけてください。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は、近接科目であるので、ぜひ履修してください。

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価はつきません。前期試験、レポートや出席を含めて、総合的に評価します。

追試験は実施します。

教科書/テキスト

金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法【第2版】』(エイデル研究所2010予定)。これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

第1回目の授業で、プリントで紹介します。

六法は、最新のもの(法律改正や制定があるので特に)。そして労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、これも1回目の授業で話します。

その他

皆さんが各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら、授業を進めます。

履修コード	329401
科目名	情報処理応用A
担当者名	ももづか かつる 桃塚 薫

講義の到達目標(ねらい)

この講義の目的は、コンピュータのエンドユーザーとして、コンピュータ言語を含む比較的高度なスキルを習得することです。とくに本授業では、ウェブにかかわる技術全般について学習します。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1)UNIXの基本操作。(SSH、シェル)
- (2)Webサーバの基本操作。(Apache)
- (3~5)HTML言語の基礎と応用。(XHTML)
- (6~8)スタイルシートの基礎と応用。
- (9~11)ウェブ用画像処理の基礎。
- (12~14)JavaScriptの基礎。
- (15)まとめ。

履修上の留意点

実習授業のため、遅刻・欠席をしないでください。毎回出席を取ります。授業中に数回、課題を提出してもらいます。Windowsで日本語入力ができるようにしておいてください。

成績評価の方法

出席点(50)、課題提出状況(25)、期末レポート(25)による相対評価。

教科書/テキスト

毎回プリントを配布。(同じ内容のPDFファイルをウェブ上で閲覧できる)

営B

履修コード	329501
科目名	情報処理応用 B
担当者名	桃塚 薫

営 B

講義の到達目標(ねらい)	この講義の目的は、コンピュータのエンドユーザーとして、コンピュータ言語を含む比較的高度なスキルを習得することです。とくに本授業では、データベース (SQL、Microsoft Access)、および Perl を扱います。
講義の内容／授業スケジュール	(1～2)RDB の基礎。(一貫性、独立性、ビュー、関係、関係名、属性、タプル、キー) (5、6)Microsoft Access の基本操作。 (7～9)SQL 言語の基礎。(SQL、問合せ、追加、更新、結合) (10～14)Perl の基礎(変数、演算子、比較、条件分岐、パターンマッチ、繰り返し、配列、ファイル出力、サブルーチン、モジュール) (15)まとめ
履修上の留意点	実習授業のため、遅刻・欠席をしないでください。毎回出席を取ります。授業中に数回、課題を提出してもらいます。Windows で日本語入力ができるようにしておいてください。Excel 使用経験者、歓迎します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席点 (50)、課題提出状況 (25)、期末レポート (25) による相対評価。 毎回プリントを配布。(同じ内容の PDF ファイルをウェブ上で閲覧できる)

履修コード	329601
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	崔 銀順

講義の到達目標(ねらい)	ベンチャー企業の研究は企業家に着目することが重要である。なぜならば、とくにスタートアップ期の VB では、企業家がイノベーションを遂行することがナマの形で現れるからである。そしてその発展とともにマネジメント(専門経営)の要素が拡大していく。前期では VB におけるその企業家精神を、後期では、マネジメントを中心に講義する。本講義は、ベンチャー企業に関する理論的なフレームワークを提供するとともに、学生にベンチャースピリットを育てることを目指す。
講義の内容／授業スケジュール	【前期】 ベンチャー企業とは何か (1～3) 企業家と企業家精神 (4～5) ケース・スタディ (6～10) ベンチャー企業のビジネスモデル (11～15) 【後期】 ベンチャー企業のマネジメントに関する理論的枠組み (16～25) ケース・スタディ (26～30)
履修上の留意点	日々様々な情報源を通じて環境変化と経営のあり方について考える習慣を身に付けてほしい。特に、ベンチャー魂をかきたてる情報を習得しておくことが望ましい。
成績評価の方法 教科書／テキスト 参 考 書	出席状況・授業内レポート、学期末試験などを総合的に評価する。 特定の教科書は使用しない。 必要に応じて紹介する。

履修コード	329701
科目名	環境経営論
担当者名	白鳥 和彦 <small>しらとり かずひこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

地球環境問題は全人類の課題であると共に、企業経営においても重要な課題である。我が国では公害問題以降、環境問題への対応は進み、企業活動における環境への対応は今や必須であるが、これまでは環境対応は負担と考えられてきた。しかし環境問題を企業の成長の糧、競争優位の条件として捉えた「環境経営」の取り組みが進められている。

持続可能な成長のために企業が行う環境経営とは如何なるものか。企業の社会的責任(CSR)の遂行のためにどう取り組んでいるか。企業経営における環境課題の取り組みについて理解を深めてもらいたい。

講義の内容/
授業スケジュール

環境経営の考え方と課題、およびその取り組みについて小テーマに分けて講義を行う。また産業界に籍を置く講師の知見を活かし、具体的な事例を多く取り上げていく。

<講義予定>

1. 地球環境問題 (第1～5回)

今起こっている地球環境問題、地球環境問題への対応とその変遷等

2. 企業の環境経営の取り組み (第6～15回)

環境に配慮した製品開発、温暖化防止・省エネルギー、省資源・廃棄物削減・資源循環、化学物質管理、環境マネジメントシステム(ISO14001)、環境教育、環境コミュニケーション等

3. 環境経営の理論、課題、企業の取り組み事例(第16～30回)

環境経営の意義、環境経営の指標、環境経営の課題、企業の取り組み事例等

履修上の留意点
成績評価の方法

途中数回小レポートを課することがある。

講義への出席状況および前期・後期各期末試験により評価する。

(配分：出席点50、前後期試験50)

教科書/テキスト

白鳥和彦『環境企業家と環境経営の新展開』税務経理協会、¥2400(税別)、ISBN 978-4-419-05328-4

参 考 書
そ の 他

参考書は適宜紹介する。

単に知識を積み上げるのではなく、企業の具体的な事象に触れ、自らの価値観、考え方を持つ場として貰いたい。

営B

履修コード	143601・329801
科目名	イノベーション論
担当者名	羽田 尚子 <small>はねだ しょうこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済システムにおけるイノベーションの役割と影響は大変大きなものです。イノベーションは生産性の向上をもたらし、企業や経済の成長や浮沈を左右し、社会や生活のあり様をも変えてしまいます。本講義では、イノベーションの特徴を理解し、その創出、活用および促進に取り組むために必要な基礎的知識を、体系的に学ぶことを目的としています。

講義の内容/
授業スケジュール

イノベーションは「新しいものを変える、既存のものを変える」といった幅広い概念で用いられていますが、本講義では、新製品、新サービス開発および改良といった経済システムにおけるイノベーションを対象とします。

前期は主として経済学や政策関連のトピックを、後期は経営学関連のトピックを扱います。

【前期】・イノベーションとは何か：その特質について、・経済システムにおけるイノベーションの役割、・経済成長と生産性、・イノベーションにおける政府の役割、技術政策とその事例、・日本のイノベーションシステムの現状と課題

【後期】・企業におけるイノベーションの役割、・製品アーキテクチャと組織、・技術戦略とその事例、・組織のイノベーション、イノベティブな組織の実験、・研究開発プロジェクトの評価

履修上の留意点

初歩的数学を使うことがある(解説はその都度加える)。

成績評価の方法

経済学の基本的な知識があると望ましい。

年度末の定期試験(1回)と小レポート(講義内容を理解する為に、講義時間内に複数回実施)で評価。定期試験70%、小レポート30%で総合的に成績をつけます。なお、講義への参加態度も成績評価に加味することがあります。

教科書/テキスト

一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』(日本経済新聞社)2800円

参 考 書

延岡健太郎『MOT 技術経営入門』(日本経済新聞社)3000円

小田切宏之『企業経済学』(東洋経済新報社)

後藤晃『イノベーションと日本経済』(岩波新書)

履修コード	329901
科目名	計量経済学
担当者名	真 逸良 <small>まいつりよう</small>

講義の到達目標(ねらい) 現実の経済データを用いた例題を実際に解くことを通じて、計量経済学を学ぶ。パソコンを利用して演習を行うことにより、抽象的になりがちな計量経済学を分かりやすく理解し、実際のデータ分析の能力を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール Excelを利用して例題を解きながら、以下の内容を講義する。

- (1・2) 統計学の基礎知識 (I)
- (3) 統計学の基礎知識 (II)
- (4～8) 単純回帰モデル
- (9～11) 重回帰モデル
- (12・13) 回帰モデルの仮説検定 (I)

TSPを利用して前期の例題を再計算することを通じて、TSPの扱いをマスターする。その上で、以下の内容を講義し、TSPを用いて演習を行う。

- (14) 回帰モデルの仮説検定 (II)
- (15・16) TSPの基礎および練習
- (17・18) Chow Testと予測
- (19・20) ダミー変数
- (21～23) 系列相関
- (24～) 復習・授業中試験

履修上の留意点 経済理論をある程度勉強していることと、統計原理と経営数学を履修すること。

成績評価の方法

日頃の宿題、レポートと学期末試験の結果により総合的に判断する。期末試験は授業中に行い、試験での持ち込みは自由。

教科書／テキスト
参 考 書

- 白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』(日本評論社) 2003年 2,800円(税別)
- 山本拓『計量経済学』(新世社)
- 蓑谷千風彦『計量経済学』(東洋経済新報社)
- G.S. マダラ著・和合肇訳『計量経済分析の方法』(シーエーピー出版)
- 唯是康彦『Excelで学ぶ計量経済学入門』(東洋経済新報社)
- 縄田和満『Excelによる回帰分析入門』(朝倉書店)
- 蓑谷千風彦等『パソコンによる数量分析・ExcelとTSP入門』(多賀出版)
- 縄田和満『TSPによる計量経済分析入門』(朝倉書店)
- 和合肇、伴金美『TSPによる経済データの分析』(東京大学出版会)

営B

履修コード	139701・330101
科目名	経営管理論
担当者名	渡辺 伊津子

講義の到達目標(ねらい)

本講義のねらいは、経営管理論の理論的フレームワークに基づいて、現代の企業が直面する経営管理の課題を理解し、経営管理の観点から企業活動を思考する力を養うことである。については、これまでに主張されてきた学説を検討しながら、基本的なフレームワークの学習を中心に行う。

講義の内容/
授業スケジュール

(第1回) 経営管理の全体像をつかむ
(第2～6回) 第1部：管理者の役割(「管理」という問題の出現、経営「管理論」の発展の概説、経営管理論の代表的なパイオニアたち、経営管理論における管理者像の変遷、『マネジャーの仕事』H. ミンツバーグを中心に)
(第7～11回) 第2部：企業の仕組みを管理する(経営管理の対象としての組織、現代企業の組織設計、外部環境と企業の適合関係、経営資源の管理、事例としての「デル社のビジネスモデル」)
(第12～14回) 第3部：経営環境と企業との関係を管理する(経営管理からみた企業の活動領域とは、活動領域の決定と変更、事例としての「ホンダにみる活動領域の設定」)
(第15回) 中間試験
(第16～22回) 第4部：企業で働く人々を管理する(モチベーションの内容論、モチベーション管理の理論 Part 1～2、作業組織とチーム・マネジメント Part 1～2、経営管理とキャリア形成 Part 1～2)
(第23～25回) 第5部：企業の成長プロセスを管理する(経営組織の発展段階モデル Part 1～3、事例としての「インテルのマトリックス管理」)
(第26～29回) 第6部：変革プロセスを管理する(生産性のジレンマ、企業文化と逆機能、二重性の管理、変革プロセスを管理する)
(第30回) 総括

営B

履修上の留意点

1) 講義ではパワーポイントを使用する。講義の重要なポイントについては各自が積極的にノートを取ることを。
2) 随時、確認テストを行う。確認テストで提出された問題は定期試験の範囲内とするので、しっかりと取り組むこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト

前期の最終講義日に行う中間試験(50%)、学期末の定期試験(50%)で評価する。
岸田民樹・田中正光著(2009)『経営学説史』有斐閣アルマ
プリントを配布する。

参 考 書

塩次喜代明・高橋伸夫・小林敏夫著(1999)『経営管理』有斐閣アルマ。

履修コード	330301
科目名	経営学史
担当者名	中川 淳平

講義の到達目標(ねらい)

この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に着目し、現代企業経営の諸問題を解決するための技法として解説を加えていく。

講義の内容/
授業スケジュール

1. コーポレートガバナンスのための問題解決技法(制度学派など、1-7)
2. リストラクチャリングへの問題解決技法(経営戦略論など、8-15)
3. イノベーションへの問題解決技法(生産管理論など、16-20)
4. コミュニケーションへの問題解決技法(人間関係論など、21-23)
5. セクショナルリズムへの問題解決技法(経営組織論など、24-30)

準備学習

次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。

履修上の留意点

講義中の私語は慎んで下さい。

成績評価の方法

定期試験50%、レポート30%、出席点20%。但し、履修人数が30名以下の場合には、平常点、レポート中心による採点に切り替える場合がある。

教科書/テキスト

中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2007年。

参 考 書

授業毎に配布するプリントに適宜指示する。

そ の 他

経営学、経営学史に関して『週刊ダイヤモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク(読もうよビジネス書)に記載されている。

関 連 リ ン ク

<http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php>

履修コード	139601・330601
科目名	経営史
担当者名	まえだ かずとし 前田 和利

講義の到達目標(ねらい) 経営史を学ぶことによって企業経営における進化・発展のプロセスを理解することが可能となる。本講義では、方法論を検討したうえで、できるだけ産業の発展と個別企業の歴史をふまえ、国際比較の視点をとりいれ、各段階における典型国をとりあげながら経営発達史を論じる。日本の企業経営の特質を理解するためにも、講義において提示する企業経営一般の進化・発展モデルを理解すること。

講義の内容／
授業スケジュール

- I. 経営史の学び方 (1回)
- II. 経営史研究の課題と方法 (4回)
 - 伝統的経営史、企業者史、組織総合理論、新動向
- III. 企業経営発達史
 1. 企業経営の生成 (4回)
 - 商人資本の経営、マニファクチュア経営
 2. 企業経営の確立 (3回)
 - 産業革命、工場制度
 3. 確立期企業経営の諸様相 (5回)
 - 企業経営者と行動原理、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織
 4. 企業経営の発展 (7回)
 - 市場と技術、大量生産システム、大企業の形成と戦略・組織、巨大企業の成立と管理機構
 5. 企業経営の変容 (3回)
 - 大企業体制の発展と動揺(管理組織の発展類型を中心として)
 6. 日本における企業経営の進化 (3回)
 - 進化の特質、歴史的ケース

準備学習
履修上の留意点

シラバスに掲載してある参考書および事前に配布する講義用プリントを読んでおくこと。教科書は使用しないので、配布する講義用プリントおよび下記の参考書を参照し、必ずノートを整理しておくこと。年に5回程度簡単な問題等を提示して回答してもらう予定である。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

学年末試験による評価を90%、出席時に提出した回答を10%とする。
使用しない。

榎本悟『アメリカ経営史学の研究』新版(同文館)、大河内暁男『経営史講義』(第2版)(東京大学出版会)、米倉誠一郎『経営革命の構造』(岩波新書)、安部悦生『経営史』(日経文庫)、鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』(有斐閣)、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』(有斐閣)、J. ミクルスウェイト、A. ウールドリッジ(鈴木泰雄訳)『株式会社』(ランダムハウス講談社)、橘川武郎ほか編『進化的経営史』(有斐閣)。その他随時紹介する。

管 B

履修コード	139801・330701
科目名	原価計算論
担当者名	岸田 ^{きしだ たかゆき} 隆行

講義の到達目標(ねらい)	<p>原価計算は特に製造業において必須の技術である。原価計算は一方で財務会計を支え、一方で管理会計を支えており、会計を学ぶものにとっては必ず習得しておかなければならない知識である。</p> <p>原価計算の計算理論はすべて企業の製造プロセスの実態を数字として表すにはどのようにすべきであるのかを理論化したものである。理論の背景には企業の製造プロセスや環境変化がある。単に公式を覚えて、計算ができるようになるだけでなく、実態を正確に表すためにはどのような計算方法をとるべきなのか、また、計算された数字がどういう意味を持つのか、自ら考えられるようになってもらいたい。</p>
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>第1回：原価計算とはなにか、第2回：原価計算の機能と原価概念、第3回：工業簿記（1）、第4～8回：費目別原価計算、第9～14回：製造間接費計算・部門別原価計算、第15回：中間試験、第16～18回：個別原価計算、第19～23回：総合原価計算、第24～26回：標準原価計算、第27～29回：直接原価計算、第30回：原価計算の近年の動向</p>
準備学習	<p>1年次履修科目の会計学および簿記学についての基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。特に仕訳から総勘定元帳への転記について理解した上で履修してもらいたい。</p> <p>また、原価計算は費目別原価計算から製品別原価計算までが一連のプロセスとして行われる。そのため、前の方で学習した内容が理解できていないと、後で学習する内容が理解できない。練習問題を解くなど、復習を欠かさないようにしてもらいたい。</p>
履修上の留意点	<p>原価計算を習得するためには自ら計算を行うことが必要である。講義では、例題を解いていくが、解答を丸写しするのではなく、自ら電卓をたたき、実際に計算をしてみること。また、随時小テストを行い、知識の定着をはかる。したがって、受講するにあたっては、必ず、電卓を持参すること。</p>
成績評価の方法	<p>前期末に行う中間試験30点、年度末の定期試験70点に、講義中に随時行う小テストの結果を加味して評価する。</p>
教科書／テキスト 参 考 書	<p>特に指定しない。毎回プリントを配布する。</p> <p>講義の進行にしたがって、下記のテキストを自ら進めていくことが望ましい。</p> <p>木島淑孝・高橋史安・吉川武男『コスト・アカウンティング・セミナー』（税務経理協会）</p>

営B

履修コード	139301・330801
科目名	日本経済史
担当者名	渡辺 新 <small>わたなべ あらた</small>

講義の到達目標(ねらい)

経済学は理論・歴史・政策の3つの柱から成り立つが、この講義はその内の歴史(経済史)についてのものである。今年度は、日本において資本主義経済が成立して以来の経済の歴史、つまり日本資本主義発達史を学んでいくこととする。現在、私たちが住んでいる日本の資本主義経済はたかだか百数十年の歴史しか持っていない。しかし、その百数十年は人類が経験したことのない速いテンポで進み、大きく変貌している。この講義のねらいは日本の資本主義経済の歴史分析にあることはいうまでもないが、そのことによって現代日本の歴史的位をを考えていくことにもう一つのねらいがある。

講義の内容/
授業スケジュール

前期・後期を通じてそれぞれの歴史段階に沿った形で日本経済の特質を解説していくが、今年度はとりわけ財閥の歴史を重視していく。財閥は近代日本資本主義において経済発展を担う主体であり、また、日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な位置を占めてきた。その財閥が、政商として誕生してから時代とともにどのようにして変容していったかをみていくこととする。

1. 前近代の社会経済構造
2. 明治維新の社会経済構造
3. 日本の産業革命
4. 政商から財閥へ
5. 大正デモクラシーの社会経済構造
6. 商社ブームと破綻
7. 昭和恐慌と高橋財政
8. 財閥の転向
9. 十五年戦争下の日本経済
10. 戦時体制と財閥
11. 敗戦と戦後改革
12. 財閥の解体
13. 高度経済成長の歴史構造
14. 企業集団と財閥
15. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

歴史は暗記するものではなく理解するものであることを絶えず念頭におくこと。
試験ないしはレポートによって評価する。
特に指定しない。
そのつど指示する。

履修コード	330901
科目名	近代経済学
担当者名	滝田 公一 <small>たきた こういち</small>

講義の到達目標(ねらい)

産業組織論の入門的講義を行います。産業組織論は、企業や産業についての経済学的分析を取り扱います。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回 産業組織論とは?、第2～3回 企業の理論、第4回 産業の分類と集中度、第5～6回 完全競争と厚生経済学、第7回 独占、第8回 支配企業の理論、第9回 価格差別、第10～11回 ゲームの理論I、第12～14回 寡占理論、第15～16回 ゲームの理論II、第17回 寡占の動学理論、第18回 企業の戦略的行動、第19回 参入障壁の理論、第20～21回 製品差別化、第22～23回 垂直的統合と垂直的制約、第24回 水平合併、第25回 研究開発投資 第26回 耐久消費財、第27回 産業規制の経済理論、第28回 自然独占 第29回 国際貿易と産業構造

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

経済学概説の知識、特に、ミクロ経済学の知識があると役に立ちます。
学年度末の筆記試験で評価します。

特に、指定しません。

Church and Ware, Industrial Organization, McGraw-Hill, 2000.
Carlton and Perloff, Modern Industrial Organization, HarperCollins, 1994.
Waldman and Jensen, Industrial Organization, Addison-Wesley 1998
ロジャー・クラーク『現代産業組織論』(多賀出版)1989年
新庄浩二ほか『産業組織論!』(有斐閣ブックス)1995年

履修コード	140001・331001
科目名	経営労務論
担当者名	かしま ひでおき 鹿嶋 秀晃

講義の到達目標(ねらい)	現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会に幅広い問題関心を持ってもらいたい。
講義の内容／ 授業スケジュール	講義は1コマ1テーマの原則。各回毎に「日本は終身雇用なのか?」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。スケジュールは大まかに次の予定。(1) ガイダンス、(2)～(4) 経営労務論と日本的経営論、(5)～(10) 正規、非正規の雇用管理、出向・転籍・早期退職など、(11)～(16) 賃金論入門、年功賃金の歴史、職能資格制度、人事考課、昇進・昇格など、(17)～(22) 労使関係の歴史、構造、労働組合など、(23)～(30) 各論(労働時間、福利厚生、賃金格差問題、教育訓練など)とまとめ、質問受付、試験。
準備学習 履修上の留意点	経済新聞や新書に日頃から目を通して、関心の幅を広げておくこと。 詳細は最初の講義で説明。(1) 出席点は無し。(2) 私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3) 携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。
成績評価の方法	7月と12月に実施予定の小テスト、並びに、レポート課題等の合計点で評価する予定。ただし、受講者数が著しく多い、あるいは、少ない場合は、変更することがあるので、授業内に発表する情報に十分注意しておくこと。
教科書／テキスト 参 考 書	特に指定しない。 津田真澄『人事労務管理Ⅱ(ミネルヴァ書房)1993(定価3,000円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社)1992(定価3,500円程度)をあげておく。他にも適宜講義中に紹介していく。
そ の 他	WEB ページ (E ラーニングページと個人ページ) でも授業に関する情報を提供。{ https://yestudy.komazawa-u.ac.jp/ }
関連リンク	http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

営 B

履修コード	143711・331011
科目名	ファイナンス理論
担当者名	えどう たかはる 江頭 隆治

講義の到達目標(ねらい)	受講者がファイナンシャル・リテラシーを身に付け、ファイナンシャル・インテリジェンスを高めることを目的とする。すなわち、ファイナンスに関する日常的な問題を通じて基礎知識を学び、その背後にある基本的な考え方を理解する。そして資産の効率的な運用能力を高めることを目指す。
講義の内容／ 授業スケジュール	入門知識篇(1-15) ファイナンシャル・リテラシーとファイナンシャル・インテリジェンス、投資とはどういうゲームか、株価とは何か、投資は運か実力か、現代ポートフォリオ理論のシュールな結論、投資に対するアドバイス
履修上の留意点	基礎理論篇(16-30) 金融工学で何を学ぶか、リスクとリターン、分散投資の原理、「ベータ」投資理論、先物取引、オプション、行動ファイナンス入門 日ごろから、メディアに掲載される銀行・証券会社などの金融機関の広告などを見て、どんな金融商品があるか。その金融商品の内容を理解できるか、考えてください。
成績評価の方法	試験と課題による評価
教科書／テキスト	藤沢数希「なぜ投資のプロはサルに負けるのか?」、ダイヤモンド社、1600円、ISBN4-478-60053-8 野口悠紀雄「金融工学、こんなに面白い」、文藝春秋、690円、ISBN4-16-660123-7

履修コード	331101
科目名	経営財務論
担当者名	高田 光明 <small>たかだ みつあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、その活動を営むに際し、原材料などの財貨や労働力を確保しなければならない。そのために元手となる資本を必要とする。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。

資本の源泉は、それぞれ異なる特徴を持っている。したがって、生産要素の取得を賄うために必要とする資本を、どの源泉からどのくらいずつ調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。この授業では、以上の問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。

(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3～4) 資本の分類、(5～6) 資本の運用形態、(7～8) 資金調達方法の特徴、(9～10) 資金調達の基本原則、(11～12) 流動・固定分類法の重要性、(13～14) 資金概念、(15～16) 企業利益の概念、(17～18) 減価償却費の性格、(19～20) キャッシュ・フロー、(21～22) リスクとリターン、(23～24) レバレッジ、(25～26) 資本のコスト、(27～28) 統・資金調達の基本原則、(29～30) 資金調達の手順

企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。

定期試験による評価を原則とし、出席点を5点を限度に加味する。

営 B

講義の内容／
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法

履修コード	331301
科目名	経営組織論
担当者名	日野 健太 <small>ひの けんた</small>

講義の到達目標(ねらい)

組織論のフレームワークによって、企業をはじめとする組織を分析できるようになることを目的とする。そのための基本概念と思考方法を学ぶ。

経営組織論の内容は、組織の環境適応を扱うマクロ組織論と組織における集団、個人を扱うミクロ組織論に大別される。下記に示すテーマごとに講義を進めるが、以前の講義で取り上げたことを、のちの内容の理解に役立てるようなスタイルで進める。

講義の対象と回数は以下の通り 前期：1. モチベーション(4) 2. リーダーシップ(8) 後期：3. 組織文化(3) 4. 組織の環境適応(5) 5. 環境と組織(2) 6. 知識創造理論(1) その他に、まとめや中間テスト(3)。各回の内容やスケジュールを記した詳細なシラバスは開講時に配布する。

履修上の留意点

成績評価の方法

毎回コメントや質問を提出してもらう。

夜間に開講されるこの講義に限って出席を重視する。3分の2以上出席していない学生は、その時点で単位取得の資格を失う。つまり、2回目の授業までは必ず出席しなければならない。このルールはすべての受講生に適用する。就職活動等の事情は一切考慮しない。遅刻は欠席扱い。よって、この講義は単位の取得が極めて難しい科目である。

後期の授業開始日に中間試験を行う。このテストのウエイトが40%程度、学年末の定期試験のウエイトが60%程度。大まかには、この二つが成績を決める。出席状況は前提条件。中間試験を欠席するのは、即不可ではないが、ほぼ単位の取得は不可能である。

教科書／テキスト

日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』近刊
(ただし、テキスト代で単位が買える科目にするつもりはない)

参 考 書

金井『経営組織』(日経文庫)

経営学辞典の類、例えば、二神編著『ビジネス・経営学辞典』(中央経済社)などもなにかと重宝である。

そ の 他

夜間の講義を登録し、年間を通じて昼の講義に出席したいという学生は配慮するので、2回目の講義までに申し出ること。この場合、成績評価の方法等は昼の講義に準ずる。

また、成績評価の方法は、受講生の不利益にならない方向で変更することがある。

履修コード	140801・331401
科目名	公益企業論
担当者名	<small>えだまつ まさゆき</small> 枝松 正行

講義の到達目標(わらい)

講義では、公益性と公共性と共益性、営利性と非営利性、ネットワーク、独占等々の概念規定を再検討し、新会社法に基づいた新しい私企業分類と公企業・公私混合企業・第三セクターなどとの対比のなかで、公益企業の特別な位置と社会的使命を確認するとともに、その歴史的発展の過程を振り返り、21世紀公益企業の現状と課題について考える。

講義の内容／
授業スケジュール

公益企業は、過去30年間にそのあり方をめぐって世界的にも国内的にも大きな変貌を遂げてきた。とりわけ中曽根政権・小泉政権時代に実施された公企業改革は、アメリカからの市場開放・制度改革要求とも相俟って、公益企業の規制改革とグローバル化・経営効率化という新たな問題領域を大きく拡大させた。また、環境や福祉を中心としてNPOや社会的企業と呼ばれる多様な非営利公益の事業形態も現れており、新公益法人制度もスタートした。加えて、昨年実現した鳩山連立政権による自公政権からの政権交代を受けて、これまでの公益事業改革も「事業仕分け」による見直しという新たな段階を迎えている。

営B

講義では、広範囲にまたがる公益事業と改革見直し論議も視野に入れつつ、バブル崩壊以後の不良債権処理とグローバル化のための税制・会計制度・金融証券システム・独占禁止法・外為法・会社法の大改正や企業合併・買収と世界金融危機という現代グローバル経済の大きな流れのなかで、新政権発足後のわが国公益企業の置かれている位置と今後を考える。

(1) ガイダンス (2) 公益企業とは何か (3~4) 公企業・私企業と公益企業 (5~6) 公企業・公益企業と公共企業 (7~10) 戦後日本経済と公企業改革 (11~14) バブル崩壊以後のグローバル経済と特殊法人「構造改革」(15) 中間試験 (16~17) テレコムビジネス (18~19) 金融・証券自由化と企業合併・買収 (20~21) ダム建設差し止め政策と電力自由化・太陽光発電 (22~23) 道路公団民営化と高速道路改革 (24~25) 郵政民営化の見直し改革 (26~27) JAL 再建問題のエアライン規制緩和と国際公益 (28~29) CO2削減目標と国際公益 (30) 期末試験

準備学習

課題図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について常日頃からメディア報道に留意し、毎回講義ノートを読み直して自分自身の疑問点や意見や考えをまとめておき、次回授業までに質問・意見・要望等を準備しておくこと。

履修上の留意点

毎回出席を取る。課題図書を各自読み進め、公益企業を含む現実企業社会の動向について常日頃から自分自身の意見や考えをまとめておくことが予習となる。質問や意見・要望は、所定カードでか授業終了後に積極的に提出すること。次回授業の冒頭に匿名で紹介・応答し、可能な限り講義内容にも反映させていく。必ずノートを取り、復習を欠かさないこと。

成績評価の方法
教科書／テキスト

関連科目として私の担当する「社会科学論」の履修も勧める。
出席・平常点 (20%) と前・後期末 (計2回) の授業内試験 (80%) 等により総合的に評価する。とくに指定しないが、課題図書・参考書は適宜指摘する。

履修コード	14230・331501
科目名	商業史
担当者名	やまだ まさる 山田 勝

<p>講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール</p>	<p>大変革の渦中にある現下の商業経営を、歴史的視点から見つめ直し、変革の方向と意味を考える。</p> <p>(A) 生産主導の商業</p> <p>(1) 商業史の意義と講義の目的 (第1～3回)</p> <p>(2) パラダイムの発展 (第4回)</p> <p>(3) 利益と継続性 (第5～8回)</p> <p>(4) 商品と市場 (第9～12回)</p> <p>(5) 大衆消費社会の特徴 (第13～15回)</p> <p>(B) 需要主導の商業</p> <p>(1) 消費スタイルの変化 (第16～18回)</p> <p>(2) 充足から満足度重視へ (第19～20回)</p> <p>(3) 多様化の要因 (第21～22回)</p> <p>(4) 「サービス」商品の特徴 (第23～24回)</p> <p>(5) IT革命と商業経営 (第25～27回)</p> <p>(6) 生活(文化)の変革と商業 (第28～30回)</p>
<p>準備学習</p>	<p>各回の対象となるテキストの範囲をあらかじめ精読し、前回までの授業内容との関係を考えてみる。</p>
<p>履修上の留意点</p>	<p>その上で授業を聴くようにすることによって、自分の商業史観がまとめやすくなります。</p> <p>教科書の内容を講義で補充していくので、出席はとらないが聴講に努め質問をして欲しい。講義中の私語は他の受講生に迷惑となるので厳禁とする。</p>
<p>成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書 そ の 他</p>	<p>定期試験による。</p> <p>山田勝『商業史概論』(創成社) 3,000円(消費税別)</p> <p>講義の中で、参考書などは随時紹介していきます。</p> <p>日頃から、新聞・雑誌を通して経済・商業・経営の現状を理解するようにしてください。</p>

営B

履修コード	331601
科目名	商業経営論
担当者名	いしかわ かずお 石川 和男

講義の到達目標(ねらい)

人は日々にモノやサービスを購入し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。

講義の内容/
授業スケジュール

1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは、流通とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買契約、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ

営B

履修上の留意点

- 1 遅刻、早退、中抜けをしない
- 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合はその場で受講中止)
- 3 他人との会話などを授業中はしない
- 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る
- 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと)
- 6 その他

成績評価の方法

・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する
 授業への参加意欲(出席点) 約30%
 中間レポート(テーマまたは課題図書を選択制) 約30%
 期末試験 約40%
 授業中のボーナス加点

教科書/テキスト
参 考 書

また、年度内に販売士試験2級に合格したものは加点する
 尾碕・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五弦舎、2000円
 石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社
 鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣
 小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に詳細な説明を行う。必ず第1回目の授業から出席のこと。
 連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	141801・331801
科目名	会計監査論
担当者名	あべ かずひと 阿部 一人

講義の到達目標(ねらい)

“監査論を無味乾燥であるとエスケープしないでくれたまえ”

もともと監査論は、その言葉自体がもつ語感からして、堅苦しく・手続的で暗いイメージを与えがちである。

監査論は他人の不実行為を暴くこと自体を目的とするものではないので、仮にその結果、内容のどこにも非のうちどころがなく全く適切で妥当なことが明らかになったとしても、それはむしろ当然の事柄であって、その人が負っている責任を免れることにもなるのである。

監査は、優れて社会的・人間的な用具として生みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実には存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。

まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！

監査論は財務諸表監査として特徴づけられている。

これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。

本講義では、財務諸表監査を中心として概説する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 会計監査の意義と目的（総論） (1)
 - ①監査の必要 ②監査の意義
 - ③監査の対象
2. 会計監査の意義と目的（総論） (2)
 - ①監査の目的 ②監査思想の変遷
 - ③監査の効用
3. 金融商品取引法監査
4. 会社法監査
5. 監査基準
6. 内部統制
7. 監査計画
8. 監査手続
9. 監査意見と監査報告書
10. 中間監査
11. 現代監査論の動向

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

「簿記学」「会計学」の科目を履修済みであることが望ましい。

学期末試験とレポートにより総合的に評価する。

開講後指示する。

田島四郎『最新監査論』（税務経理協会）2,900円

高田正淳『最新監査論』（中央経済社）2,800円

鳥羽至英『監査基準の基礎』（白桃書房）3,900円

三澤 一『会計監査の理論』（中央経済社）2,800円

山榎忠恕・松田信男『監査基準精鋭精説』（税務経理協会）3,500円

脇田良一『財務諸表監査の構造と制度』（中央経済社）3,800円

履修コード	141501・331901
科目名	銀行経営論
担当者名	服部 昌久

講義の到達目標(ねらい)

金融制度は一国の歴史的発展の産物であり、その国の繁栄を築くための社会的インフラである。社会が今日のように大きな変革期にあるときには、長期的な展望に立って変化を先取りして新たな制度を構築しなければならない。経営環境が大きく変化した中で、銀行は新たな道を求めて模索しているが、本講義においては、戦後のわが国の金融システムの変遷を振り返るとともに、欧米主要銀行の動きにも注目しながら、利用者のニーズに応える銀行のあるべき姿を探りつつ、時事問題も含め、銀行経営にかかわる諸問題を、わかりやすく解説する。

講義の内容/
授業スケジュール

講義はおおよそ次のような内容を予定している。
(1) オリエンテーション「銀行経営論をはじめのあたって」(2) 日本経済をめぐる環境(3) 戦後経済の変遷(4) わが国の金融制度の沿革と特徴(5) 銀行とは何か(6~8) 銀行の基本的機能—金融仲介機能、決済機能、信用創造機能(9~11) 銀行の業務範囲、銀行の貸出業務、銀行の預金業務(12) 銀行持株会社制度(13~14) わが国の銀行の収益状況、米銀の収益状況(15) 中間整理(16~17) 金利と利鞘、マネーサプライの変化と銀行(18~19) 銀行の国際業務、為替相場と銀行(20) 銀行のマネーロンダリング対策(21~24) バブル経済の発生・崩壊と銀行の責任、不良債権問題と銀行破綻、銀行の再編、預金保険制度(25~27) 銀行経営とリスク管理—リスクとは何か、リスクとリターン、自己資本比率規制(28) リレーションシップバンキングの本質(29) 新しい銀行像(30) 期末試験

準備学習

格別の事前準備は必要ないが、日頃から新聞・雑誌に目を通すなどして、金融・経済問題に広く関心を持っておくことが望ましい。

履修上の留意点

講義は基本的な事柄を取り上げ、わかりやすく解説しよう心がけるが、それでも不明な点があれば、質問を歓迎する。

成績評価の方法

学年末の定期試験(参照物の持込不可)(50%)、レポート(45%)、授業への出席(5%)を総合して評価する。

教科書/テキスト
参 考 書

レポートの課題は開講時に指示する。

指定しない。

・鹿野嘉昭『日本の金融制度(第2版)』(東洋経済新報社) 3,800円 ISBN4-492-65379-1

・星岳雄・A. カシャップ『日本金融システム進化論』(日本経済新聞社) 2,800円

ISBN4-532-13317-3

・小野有人『新時代の中小企業金融』(東洋経済新報社) 2,200円 ISBN978-4-492-65400-2

・白川方明『現代の金融政策』(日本経済新聞社) 6,000円 ISBN978-4-532-13344-3

・鹿野嘉昭『日本の中小企業』(東洋経済新報社) 3,200円 ISBN978-4-492-65413-2

そ の 他
関 連 リ ン ク

なし

<http://www.fsa.go.jp/>

営B

履修コード	140711・332011
科目名	経営統計A
担当者名	長 国強

講義の到達目標(ねらい)

経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：経営統計について；第2回：統計的基礎概念I；第3回：統計的基礎概念II；第4回：データの収集と整理I；第5回：データの収集と整理II；第6回：データの収集と整理III；第7回：パソコン実習I；第8回：統計特性値I；第9回：統計特性値II；第10回：パソコン実習II；第11回：相関分析；第12回：パソコン実習III；第13回：正規分布とその応用I；第14回：正規分布とその応用II；第15回：全体のまとめ。

履修上の留意点

後期の『経営統計B』も履修してください。

成績評価の方法

総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。

教科書/テキスト

特に使用しませんが、プリントは随時に配布する予定。

参 考 書

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)；

守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。

履修コード	140721・332021
科目名	経営統計B
担当者名	なが 国強

講義の到達目標(ねらい)

経営統計は分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造について予測し、いろいろな意思決定をサポートすることである。経営的意思決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は重要な役割を果たされるはずである。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：推定予測モデル(回帰モデル)I；第2回：推定予測モデル(回帰モデル)II；第3回：パソコン実習I；第4回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)I；第5回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)II；第6回：時系列予測(平滑化技法、季節指数の測定)III；第7回：パソコン実習II；第8回：分散分析(一元配置分散分析)I；第9回：分散分析(一元配置分散分析)II；第10回：パソコン実習III；第11回：統計的意思決定理論I；第12回：統計的意思決定理論II；第13回：経営指数(物価指数、数量指数)I；第14回：経営指数(物価指数、数量指数)II；第15回：全体のまとめ。

営B

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

『経営統計A』を受講してから履修されたほうが望ましい。

総合評価(100)=出席(30)+提出課題(30)+期末試験(40)。

特に使用しませんが、プリントは随時に配布する予定。

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』(培風館)；

守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』(日本理工出版社)。

履修コード	332101
科目名	国際経済論
担当者名	ながた 智則

講義の到達目標(ねらい)

本講義の目的は、現実が生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。

分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずで。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 国際経済学の意義、(2～7) 国際分業論、(8～12) 貿易政策、(13～15) 経済成長と貿易、(16～22) 国際マクロ経済学、(23～25) 外国為替と国際収支、(26～30) 資本の国際移動

履修上の留意点

現実の世界経済の動きを題材にしますので、新聞等で報道される関連ニュースに接しておくください。

成績評価の方法
教科書／テキスト

授業への出席を重視します。途中、検討課題を出しますので、総合的に評価します。

下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。

参 考 書

仙頭佳樹著「最もやさしい国際経済学」多賀出版、2800円+税、ISBN4-8115-6491-X
随時必要に応じて紹介します。

履修コード	141901・332301
科目名	税務会計論
担当者名	<small>たかき かづみ</small> 高木 克己

講義の到達目標(ねらい)

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人(株式会社等)を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、会社法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定(いわゆる別段の定め)が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容/
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

(1~2) 税務会計の制度的基礎、(3~5) 法人税の意義、性格、納税義務者等、(6~8) 事業年度、同族会社、(9~12) 課税所得計算の基礎、(13~16) 販売収益、請負収益、有価証券譲渡益等、(17~21) 売上原価、減価償却、寄付金、交際費等、(22~24) 税額の計算、申告、納付等、(25~28) 企業組織再編税制、連結納税制度等、(29~30) 国際課税、不服申立・訴訟等

履修上の留意点

「簿記学」「会计学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

原則として学年末の試験によって評価する。数回の小テストを行う予定である。

開講時に指示する。

開講時に指示する。

営B

履修コード	142001・332401
科目名	証券市場論
担当者名	<small>かつた よしひろ</small> 勝田 佳裕

講義の到達目標(ねらい)

わが国の金融システムは、銀行等を仲介とする間接金融を中心として発展してきた。しかしながら、近年では、企業が自ら有価証券を発行し投資家から資金を調達する直接金融へと、金融システムが移行してきている。本講義は、有価証券市場の機能や構成といった基礎的な事柄に関する解説から始め、最終的に、ニュースや新聞での経済動向に関する報道等を正しく理解し、自ら判断する能力を培うことを目的とする。

最初に、証券市場で取り扱う対象である有価証券を定義し、その機能等を解説する。その上で、伝統的有価証券である債券や株式の種類や機能、発行・流通市場について考察する。また、わが国の財政事情と国債市場の動向あるいは株式市場動向と経済全般との関わりなど、経済社会における重要な課題についても触れておきたい。

資金運用手段としての証券市場の役割も重要であるため、債券利回りの意味と計算の仕方、株式の投資尺度やその利用方法、企業の債務返済能力を示す格付け制度の概要と活用方法など、実務的側面についても解説する。

近年における金融・証券市場のグローバル化に伴って、資金の動きが速くなり、移動の範囲も急速に拡大しているため、市場改革のテンポも極めて速くなっている。今後も、内外共に市場の激変が予想されるため、証券市場に関連して重要な事態が発生した際には、その都度、背景や影響などを解説する。

履修上の留意点

証券や金融市場に関連するニュースや新聞での報道に関心を持って欲しい。その上で、疑問点や不明な用語等があれば積極的に質問してもらいたい。授業に際しては、出来るかぎり質問の時間を設ける予定である。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

レポート及び学年末の定期試験によって評価する。

代田純著「図説 やさしい金融財政」(丸善株式会社)1890円

授業中に指定する。

履修コード	332511
科目名	経営情報システム A
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい) 経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT（情報技術）の基礎について解説する。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) イントロダクション
(2-3) 科学とシステム思考
科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。

(4-8) 情報科学の成立と発展
20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータ EDSAC が誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。

(7-9) IT とインターネット
IT（情報技術）に関わる基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。

(10-15)：情報環境の発展と経営における利用
経営場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日的な環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

「情報処理基礎」を履修済みまたは同時履修が望ましい。
後期の経営情報システム B とあわせて履修してください。
適宜出席を取ります。前期末に筆記試験を実施して成績評価を行います。
高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円
※ このテキストは、主として後期 B で用います。前期 A では、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B 連続履修の方は必ず用意しておいてください。また、今年度は「経営科学概論」と共通テキストです。そのほか、適宜プリントを配布します。
個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。

参 考 書

履修コード	332521
科目名	経営情報システム B
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい) 経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待される IT（情報技術）の活用方法について学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) イントロダクション
(2-3) データとは何か
データには測る尺度によって定量的なものや定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。

(4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと
調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。

(9-12) シミュレーション技法とその応用
複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。

(13-15) 人工知能の経営への応用
人工知能の原理と、その経営場での応用として期待される DSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）などの概要について学ぶ。

履修上の留意点

前期の経営情報システム A とあわせて履修してください。受講生数によりますが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。

成績評価の方法

適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。

教科書/テキスト

高井徹雄他著『基礎から学ぶ経営科学』税務経理協会 2300円

参 考 書

適宜プリントを配布します。

履修コード	140401・332601
科目名	保険経営論
担当者名	おかだ ひとし 岡田 太

講義の到達目標(ねらい)

保険は、個人や企業などをリスクから守る有効な手段です。リスクマネジメント論が主に保険を利用する視点から展開されるのに対して、本講義は保険を提供する保険企業の立場から経営の基本を学びます。リスクマネジメントをビジネスとして営む保険企業の特徴を理解し、経営をめぐる諸問題を考察することを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～3) 保険概論 (4～6) 保険市場 (7～9) 保険産業 (10～11) 保険経営総論 (12～17) 保険マーケティング (各種保険商品の企画・開発、販売、保全、保険流通、CRM) (18～19) 再保険 (20～21) 資産運用 (22～23) 保険金請求処理 (23～24) 保険数理 (25～26) 保険会社のリスク管理とガバナンス (27) 保険会社の CSR (28～29) 国際経営 (30) まとめ

履修上の留意点

リスクマネジメント論とあわせて履修すると学習効果が高まります。新聞・雑誌などで保険の記事に注意してください。授業でも適宜最近の話題を解説します。また、授業で使用するレジュメについて、各自ダウンロードしてください。

成績評価の方法

学期末試験 (60%) と授業参加 (出席、レポートなど40%) を総合して評価します。詳細は開講時に説明します。

教科書／テキスト

下和田・米山・金・柳瀬・諏澤・岡田著『はじめて学ぶリスクと保険』(改訂版) 有斐閣
ISBN9784641183506、2007年

参 考 書

教科書掲載の参考文献のほか、必要に応じて授業中に指示します。

堂 B

履修コード	141201・332701
科目名	アメリカ経営学
担当者名	宮城 徹

講義の到達目標(ねらい)

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の9つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数(ただし、期末試験日を入れて)から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッパ内の授業回数(合計29回)で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当たる場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

(2010年度『アメリカ経営学』授業計画)

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力(パワー:マハト) (2)
- IV 戦略(特に提携、グループ、ファミリー) (2)
- V 取引コスト理論 (6)
- VI プロパティ・ライツ理論 (4)
- VII プリンシパル・エージェント理論 (5)
- VIII 契約の理論 (3)
- IX 企業のモジュラー化 (4)

成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論述する。詳細は試験前の授業で説明する。

参 考 書

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』(税務経理協会)1983:1999年
 - 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』(早大、第20号)1985年
 - 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』(千倉書房)1987年
 - 4 宮城徹「経営者論」鈴木英寿編『経営学総論』(第2版)(成文堂)1989:1999年
 - 5 宮城徹「経営学の歴史」藤方誠一編『新版・新時代の経営学』(学文社)1983:1993年
 - 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』(千倉書房)1997年
 - 7 宮城徹「企業統治の研究の統合の一試論」『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000年
 - 8 宮城徹(単独訳書)『情報時代の企業管理の教科書—組織の経済理論の応用—』(税務経理協会)2000:2009年(A.Picot u.a.,Die grenzenlose Unternehmung, Gabler, 1998)
 - 9 宮城徹(共訳書)『新制度派経済学による組織入門』(白桃書房)1999:2007年(A.Picot u.a.,Organisation. Eine ökonomische Perspektive, Schaffer-Poeschel, 1997)
 - 10 宮城徹「企業文化と組織の経済理論」遠山正朗編著『ケースに学ぶ企業の文化』(敬愛大学学術叢書)(白桃書房)2003年
 - 11 宮城徹(訳稿)「民主的な経済政策と社会政策の理論的基礎—O. ウィリアムソンの貢献*—」
*Ingo Pies: Theoretische Grundlagen demokratischer Wirtschafts- und Gesellschaftspolitik—Der Beitrag Oliver Williamsons, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S. 1-27. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)
 - 12 宮城徹(訳稿)「取引対相互作用、特異性対拡散効果および結束した行為者のレーゾンデートル—組織の経済学の構想の新しい志向を求めて*—」
*Ingo Pies: Transaktion versus Interaktion, Spezifität versus Brisanz und die raison d'être korporativer Akteure—Zur konzeptionellen Neuausrichtung der Organisationsökonomik, in: Ingo Pies und Martin Leschke (Hrsg.) (2001): Oliver Williamsons Organisationsökonomik, Tübingen: Mohr Siebeck, S.95-119. 『駒大経営研究』第39巻第3・4号(2008年)
- ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介しておく。

履修コード	141301・332801
科目名	経営分析論
担当者名	かたまり のぶお 片桐 伸夫

講義の到達目標(ねらい) 経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか(安定性分析)、
 - 2 「儲け」はどうだろうか(収益性分析)、
 - 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか(生産性分析)、
 - 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか(成長性分析)、また、
 - 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか(社会性分析)、
- といった内容です。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

営B

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

評価基準 前期レポート40%、前期小テスト10%、

後期レポート40%、後期小テスト10%、

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書/テキスト

開講時、指示します。

参 考 書

随時、紹介します。

履修コード	141401・332901
科目名	日本経済論
担当者名	はとり しげろ 羽鳥 茂

講義の到達目標(ねらい)

多様な経済システム(日本の経済システムはそれらのうちの1つ)がどのようにして生まれ、また、それらはどのように進化していくのでしょうか。このことを考えてみたいと思います。

講義の内容/
授業スケジュール

情報・組織・契約のミクロ経済学と、それらの理論的基礎を提供するゲーム理論、およびゲーム理論のフロンティアである進化ゲーム理論の新しい展開をふまえて、講義のねらいの目標にチャレンジします。

前期では企業の内部システムを検討します。企業内コーディネーションの情報効率性比較、企業システムの生成と進化の可能性、雇用契約とインセンティブが主要なテーマです。

後期においては、企業間の競争と合併、コーポレート・ガバナンス、企業金融、政府と企業の関係がテーマになります。

成績評価の方法

後期授業終了後の筆記試験によって成績評価を行います。

教科書/テキスト

青木昌彦・奥野正寛編著『経済システムの比較制度分析』(東京大学出版会)、1996年、3200円

参 考 書

鶴光太郎『日本の経済システム改革』2006年、2600円

その他、講義の進み具合に応じて適時紹介します。

履修コード	142101・333001
科目名	日本経営史
担当者名	おおしま ひさゆき 大島 久幸

講義の到達目標(ねらい)

株主との利害調整、持株会社の機能、経営者の役割など現代企業が直面する様々な問題に対処するうえで、近代以降の企業経営の歴史から多くの示唆を得ることができよう。本講義では、近代日本において経済発展を担う主体として、また日本的な企業類型の主要なルーツとして中心的な地位を占めてきた財閥に着目して、それら財閥が、どのようなプロセスで誕生し、日本の経済発展とともにどのように成長していったのかという点を考察し、そこから日本経済の歴史的な起源や日本の経済発展を考えてみたい。

講義の内容/
授業スケジュール

【前期】1. 財閥の定義 2. 幕末維新の危機 3. 資本生社会論 4. 政商の誕生 5. 政商と華族資本 6. 政商からの脱皮 7. 運輸・通信システムの整備 8. 産業化の光と影 9. 家政改革と家憲 10. コンツェルンと持株会社 11. 専門経営者の登場(1) 12. 専門経営者の登場(2) 13. ～15. 前期のまとめ

【後期】1. 第一次大戦期における商社ブームと破綻 2. 三井物産の形成 3. 鈴木商店と金融恐慌 4. 都市化の進展と大衆生活の洋風化 5. 三大財閥の覇権 6. 恐慌とドル買い事件 7. 財閥の転向 8. 戦時体制と財閥 9. 財閥解体 10. 企業集団の形成 11. 高度成長期の日本経済 12. 高度成長期の専門経営者 13. ～15. 後期のまとめ

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

前期試験と定期試験で総合的に評価する。

武田晴人『財閥の時代』(新曜社)1996年

宇田川勝・中村青志『マテリアル日本経営史』(有斐閣)1999年。

老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史』(税務経理協会)2002年。

営 B

履修コード	140601・333101
科目名	金融論
担当者名	わたなべ さとし 渡部 訓

講義の到達目標(ねらい)

本講義は、担当教員の日本銀行、Bank for International Settlements、預金保険機構における金融実務経験も踏まえて、金融に関心のある学生、将来金融界での勤務を希望する学生を対象にしています。

本講義の狙いは、①金融の基礎から出発して、金融システム、金融機関行動と金融政策、市場メカニズムと金利形成、国際金融取引まで幅広く応用分野をカバーして、金融を理解する前提となる理論的なフレームワークを提供するとともに、②現代の金融問題の中で、金融システム安定に向けたブルーデンス政策（金融庁検査および日本銀行検査、自己資本比率に関する BIS 規制、預金保険制度）、金融システムにおけるイノベーション（セキュリティゼーション、デリバティブス、リスク・マネジメント）について、実践的な検討を行うことを目指しています。

講義の内容／
授業スケジュール

授業は、以下のスケジュールで行いますが、毎回、教科書に加え、日本銀行公表資料や日本経済新聞掲載記事や各国中央銀行や国際機関の website 等を紹介して、理論と実践のインターフェースを図ることを目標としています。

営 B

前期

- 第1回：金融の基本的な機能
- 第2回：資金循環と金融取引（1）
- 第3回：資金循環と金融取引（2）
- 第4回：家計の貯蓄と資金余剰
- 第5回：家計の金融資産選択
- 第6回：企業の投資と資金調達（1）
- 第7回：企業の投資と資金調達（2）
- 第8回：金融機関の役割
- 第9回：金融市場の機能
- 第10回：金融システムの機能（1）
- 第11回：金融システムの機能（2）
- 第12回：ブルーデンス政策（1）
- 第13回：ブルーデンス政策（2）
- 第14回：中央銀行の機能（1）
- 第15回：中央銀行の機能（2）

後期

- 第16回：金融政策の目的と手段（1）
- 第17回：金融政策の目的と手段（2）
- 第18回：マネー・サプライの概要
- 第19回：債券市場の概要
- 第20回：債券利回りの決定メカニズム
- 第21回：株式市場の概要
- 第22回：株価の決定メカニズム
- 第23回：国際収支と外国為替市場
- 第24回：為替レートの決定メカニズム
- 第25回：デリバティブス（フューチャー）
- 第26回：デリバティブス（スワップ）
- 第27回：デリバティブス（オプション）
- 第28回：セキュリティゼーション（1）
- 第29回：セキュリティゼーション（2）
- 第30回：セキュリティゼーション（3）

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書
その他の

金融に関して最も関心のあることを何か1つ考えて授業に臨んでください。

履修者は、マクロ経済学の基礎知識があることが望まれます。

期末テストによって評価します。

黒田暁生、『入門金融（第4版）』、東洋経済新報社、¥2,300、2006年

日本銀行金融研究所編、『新しい日本銀行 その機能と業務（増補版）』、有斐閣、¥2,520、2004年

毎回、授業前に YeStudy に教材の PDF をアップしますので、予習、復習に活用してください。また、授業中は、毎回、講義の後、質疑応答の時間を設けます。

履修コード	140901・333201
科目名	上級簿記
担当者名	やじま ただし 矢島 正

講義の到達目標(ねらい)

この講義は「簿記学」を習得した学生を対象とし、通年で日商簿記検定2級の知識を身につけることを目的としています。

投資家、債権者、取引先、課税当局などの外部利害関係者に対して、企業は経済活動及び経済事象を財務諸表等によって報告する役割があります。しかし、企業では経営の多角化及び国際化の傾向が急速に強まり、これにともなって取引も複雑化してきました。したがって、企業は高度な会計知識をもった会計技術者を必要としています。問題意識をもって積極的な姿勢でこの講義を受講することを強く望みます。

講義の内容／
授業スケジュール

営B

- 第1回 現金預金
- 第2回 手形(1)
- 第3回 手形(2)
- 第4回 有価証券
- 第5回 固定資産(1)
- 第6回 固定資産(2)
- 第7回 繰延資産
- 第8回 引当金
- 第9回 一般商品取引
- 第10回 特殊商品売買(1)
- 第11回 特殊商品売買(2)
- 第12回 特殊商品売買(3)
- 第13回 社債(1)
- 第14回 社債(2)
- 第15回 前期のまとめ
- 第16回 資本・剰余金(1)
- 第17回 資本・剰余金(2)
- 第18回 本支店会計(1)
- 第19回 本支店会計(2)
- 第20回 本支店会計(3)
- 第21回 銀行勘定調整表(1)
- 第22回 銀行勘定調整表(2)
- 第23回 特殊仕訳帳(1)
- 第24回 特殊仕訳帳(2)
- 第25回 特殊仕訳帳(3)
- 第26回 税金
- 第27回 決算(1)
- 第28回 決算(2)
- 第29回 決算(3)
- 第30回 後期のまとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

必ず電卓を用意してきてください。

出席・宿題(30%)、期末テスト(70%)によって評価しますが、そのほかに、在学中(履修年度まで)に日商簿記検定試験2級合格、講義の取り組み等においても期末の評価に加点いたします。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

講義時に資料を配布いたします。

加古宜士、渡部祐亘編著『平成22年度版新検定簿記ワークブック2級商業簿記』中央経済社
是非、日商簿記検定2級を目指してみてください。

講義では、各項目ごとに出来るだけ丁寧に説明していきますが、併せて『ワークブック』も購入して学習を継続することにより、一層の効率が上がると思われます。

講義の内容に変更がある場合は、第1回の講義時にお知らせいたします。

履修コード	141601・333301
科目名	財政学
担当者名	速水 昇

講義の到達目標(わらい)

私たちの日常生活は、そのほとんどの側面で直接・間接的に政府の経済活動の恩恵を受けている。例えば、出掛けに傘を持っていくべきか否かは、適確な天気予報によって判断できるし、病気や怪我をしたときにかかる医療費は医療保険のおかげで実際に支払った額の数割程度ですむ。また、道路・港湾などの社会資本整備は公共部門が供給しているなど、政府はさまざまな役割を担っている。さらに最近の景気低迷、国債の累積残高、高齢化社会、規制緩和など政府が解決しなければならない問題が非常に多い。このような問題を納税者としての立場、あるいは日本国民としての立場から考えていくことが必要であるという認識に立って授業を行う。

なお、公務員試験、入試試験において財政学の問題が非常に多く出題されているので、授業で講義した内容に関する問題の小テストを行って、授業の理解度を確認する。

講義の内容/
授業スケジュール

<前期>

- 1週 財政とは何か
- 2週 政府の役割
- 3週 公共財
- 4週 外部効果
- 5週 費用逡減産業
- 6週 政府の失敗
- 7週 予算の機能
- 8週 予算原則
- 9週 特別会計
- 10週 予算過程(編成)
- 11週 予算過程(執行・決算)
- 12週 政府の収入
- 13週 租税収入(所得税)
- 14週 租税収入(相続・贈与税)
- 15週 その他の租税収入

<後期>

- 1週 経常的歳出(公債費)
- 2週 経常的歳出(地方交付税交付金)
- 3週 社会保障関係費
- 4週 公共事業関係費
- 5週 防衛関係費
- 6週 経済協力費・文教及び科学振興費
- 7週 中小企業関係費・他歳出
- 8週 財政政策(国民所得の決定)
- 9週 財政政策(インフレ・デフレギャップ)
- 10週 財政政策(政府支出乗数)
- 11週 財政政策(租税乗数・外国貿易乗数)
- 12週 財政政策(I S 曲線)
- 13週 財政政策(L M 曲線)
- 14週 財政政策(I S・L M 曲線の応用)
- 15週 質疑応答

履修上の留意点

学生として当然のことだが、テキスト・ノートは必ず持参すること。小テストは10回程度予定しているので出席に自信のある学生を希望する(小テストを受けていない学生は成績評価の対象外としますのでご注意ください)

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験、授業中の小テスト、レポート
速水 昇・水野恵子・和田尚久著 『公共経済と租税』学文社

営B

履修コード	14251・333611
科目名	情報セキュリティA
担当者名	西村 ^{にしむら} 和夫 ^{かずお}

講義の到達目標(ねらい)

情報のセキュリティについての組織の取組みを理解する。
 まず、情報は社会基盤にもかかわる重要な経営上の資産であることを認識する。
 情報セキュリティの定義と歴史を概観したうえで、現代の脅威、社会問題と対策を知る。
 そのうえで、企業の社会的責任からの要請、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO) と情報セキュリティポリシーの必要性、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)、内部統制、情報セキュリティ監査、従業者教育を含む情報セキュリティガバナンスについて学ぶ。
 社会全体では、倫理も含むセキュリティ文化を醸成する必要性があることを認識する。

営B

講義の内容/
授業スケジュール

回数 内容

- 1 ガイダンス、自己紹介
- 2 犯罪と事故の例、危機管理
- 3 情報セキュリティの実際、現代の暗号技術
- 4 情報とは、情報の資産価値
- 5 情報セキュリティの定義と歴史
- 6 リスク管理、現代の脅威、社会問題と対策
- 7 組織(国、民間、企業)の取組み、ISO 27000
- 8 情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS, CISO)
- 9 情報セキュリティポリシー
- 10 プライバシー、個人情報保護マネジメントシステム (PMS)
- 11 企業統治、コンプライアンス、内部統制
- 12 情報セキュリティ監査、コンピュータ・フォレンジクス
- 13 情報セキュリティガバナンス、従業者教育の必要性
- 14 情報セキュリティ文化、まとめ

準備学習

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト

参考書

関連リンク

授業用の Web ページを読んでおいてほしい。

履修に際して予備的な知識は必要としない。毎回出席してきちんとノートをとること。

小テストと定期試験を総合評価する。

なし

[1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター、情報セキュリティ読本 — IT 時代の危機管理入門, 実教出版, 2004. (500円).

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html>

履修コード	142521・333621
科目名	情報セキュリティB
担当者名	<small>にしむら かずお</small> 西村 和夫

講義の到達目標(ねらい)

情報セキュリティに関する法制度および暗号の技術について理解する。
 まず、守るべき情報の価値には、秘匿性、完全性、可用性があることと、秘匿性と可用性とはトレードオフの関係にあることを再確認する。
 不正アクセス禁止法、個人情報保護法などの法律を学び、アクセス制御を理解する。また、暗号によって達成可能な目標および暗号技術を理論的に理解する。特に、公開鍵暗号の RSA 方式を理解する。そのうえで、ネットワーク上で情報セキュリティを実現する方法および認証局の必要性について理解する。いくつかの暗号プロトコルを学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- | 回数 | 内容 |
|----|----------------------------|
| 1 | 授業内容概説、機密性と可用性のトレードオフ、危機管理 |
| 2 | 不正アクセス禁止法、個人情報保護法、著作権法 など |
| 3 | アクセス制御、アクセス制御リスト |
| 4 | 暗号によって達成できる目標と暗号技術 |
| 5 | 暗号系と用語 |
| 6 | 共通鍵暗号、“踊る人形”の解説 |
| 7 | 転置式暗号、ストリーム暗号、暗号解読 |
| 8 | 公開鍵暗号 |
| 9 | 剰余環、RSA 方式 |
| 10 | 認証、電子署名、ハッシュ関数 |
| 11 | 暗号技術を使ってできること、電子マネー、量子暗号 |
| 12 | 暗号プロトコル、SSL |
| 13 | 公開鍵基盤 (PKI)、認証局 |
| 14 | 情報セキュリティ基盤、情報セキュリティ・サービス |

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

授業用の Web ページを読んでおいてほしい。
 情報セキュリティAの履修を前提とする。毎回出席して、きちんとノートをとること。
 小テストと定期試験を総合評価する。
 なし
 [1] 情報処理推進機構 セキュリティセンター、情報セキュリティ読本 ― IT 時代の危機管理入門、実教出版、2004。(500円)。
 [2] 結城浩、暗号技術入門 ― 秘密の国のアリス、ソフトバンクパブリッシング、2003。ISBN 4-7973-2297-7。

関連リンク

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kazov/Nis/lecture/security/index.html#B>

営B

履修コード	142601・333801
科目名	生産管理論
担当者名	藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

生産管理は製造企業における生産活動の管理であり、財の生産に投入する生産諸要素(資材、設備、労働力)を総合的に調整することにより、主としてQ(品質)・C(原価)・D(納期)の側面について企業の生産効率を最大にすることを目的としている。このような生産管理の機能・特徴を体系的に解説したい。

また効率よくモノづくりを行なうシステムである各種生産システム(テイラーシステム、フォードシステム、トヨタ生産システムなど)について、主として自動車産業を中心に解説する。

以上のような企業内の管理機能としての生産管理に留まらず、企業内外での生産に関する諸活動、諸現象、諸問題についても幅広く取り上げたい。また本講義では生産や生産管理と密接に関連していることから労働者による労働も考察の対象としている。

このような講義内容の学習を通じて、包括的な生産管理の機能と日本のモノづくりの強さの理解につなげたい。

講義の内容／
授業スケジュール

以下の順序で講義を行なう。前期は生産管理の機能を体系的に解説する。生産に関する基本的な用語・概念(第2～4回)、生産計画と生産統制(第5～8回)、QCDの側面の管理(第9～11回)、生産要素に関する管理(第12～15回)。後期は歴史上代表的な生産システムについて解説する。テイラー・システム(第16～19回)、フォード・システム(第20～22回)、トヨタ生産システム(第23～28回)、セル生産システム(第29～30回)。

以上の内容の講義と並行して経済専門紙や専門雑誌の記事を紹介しながら、最近の生産上の問題や生産の効率化に関する企業での取り組みについて解説を行いたい。

講義中の私語は厳禁である。私語や携帯電話の呼出音等、講義を妨げる者は即座に退室扱いになり、また場合によって減点や単位取得不可になることなので注意すること。

主として定期試験で行う。またレポートの課題が出ることもあるが、その場合は事前に通知する。指定しない。

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

山下高之『体系生産管理論』中央経済社、1990年
門田安弘『トヨタプロダクションシステム～その理論と体系～』ダイヤモンド社、2006年
その他、講義の中で指示する。

履修コード	333901
科目名	ドイツ経営学
担当者名	高橋 成夫

講義の到達目標(ねらい)

現代のドイツの企業システムの特徴を解明するとともに、ドイツ経営学の性格や内容を、ドイツ経営学の歴史(史的展開)の中で明らかにすることにある。

講義の内容／
授業スケジュール

(1～8) I. ドイツの企業システム ドイツの企業形態/所有構造と支配類型/トップ・マネジメント構造/共同決定法/企業統治

(9～11) II. ドイツ経営学の前史

(12～16) III. ドイツ経営学の生成、科学的私経済学と技術的私経済学

(17～24) IV. ドイツ経営学の展開、(1) 私経済学的企業経済学と規範的・技術的経営経済学、

(2) 理論科学的経営経済学と応用科学的経営経済学

(25～30) V. ドイツ経営学の現状(多様な構想)、意思決定志向的/システム志向的/行動理論

的/新規範論的経営経済学/労働志向的個別経済学/新制度派経済学に基づく経営経済学

準備学習

履修上の留意点

新聞・雑誌などからドイツ企業関連の記事を整理しておくことと事前学習になる。

講義では主要な内容について出来る限り板書して説明するので、積極的に出席することが望ましい。

成績評価の方法

教科書／テキスト

参 考 書

定期試験(8割)と平常点(2割)を総合して評価する。

特に指定しない。

北野利信編『経営学説入門』(有斐閣新書)900円+税

履修コード	142801・334001
科目名	国際会計論
担当者名	河合 由佳理

講義の到達目標(ねらい)

従来、各国の会計制度はそれぞれの環境要因の制約を受け発展したため、会計に求められる役割・機能は異なっていました。しかし、経済活動の国際化を背景に近年、会計の分野でも国際的な統一にむけた動向が世界的に注目されています。

そこで、本講義では①各国における会計制度の理解、②会計基準のコンバージェンス(収斂)及びアドプション(採用)に対する各国の対応の把握、③具体的な会計基準の検討を行うことにより、国際会計を巡る現状と課題を考察します。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：国際会計とは、第2回：会計制度の類型、第3～4回：日本の会計、第5～6回：アメリカの会計、第7回：イギリスの会計、第8～9回：国際会計を取り巻く環境、第10～13回：国際財務報告基準に対する各国の対応、第14回：前半部分の総括、第15回：中間試験、第16～25回：会計基準のコンバージェンスとその影響、第26～29回：会計を巡る国際的課題、第30回：全体の総括

履修上の留意点

基本的な簿記の知識を有すると授業の理解に役立ちます。また、状況の変化が激しい分野なので常に新聞等で最新の情報を確認する習慣をつけるようにしてください。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

中間試験(4割)、学期末試験(4割)と出席状況等(2割)を基本に評価します。
教科書の指定はありません。
佐藤信彦『国際会計基準制度化論【第2版】』白桃書房、3,500円、978-4-561-36171-8
杉本徳栄『国際会計【改訂版】』同文館出版、2,000円、978-4-495-18572-5
若杉明『会計制度の国際比較』中央経済社、3,900円、4-502-12593-8

営B

履修コード	143101・334301
科目名	税法
担当者名	奥村 正郎

講義の到達目標(ねらい)

租税は、我々納税者が、税法の定めるところにしたがって、国や地方公共団体(都道府県及び市町村)に納付すべきものであり、それは公共サービスの資金となり、我々の生活に影響する。しかしながら税法は、多数の法律とそれを施行するための政令、省令で成り立ち、さらに多くの通達があり、しかも法律の解釈や手続きは難解で、改正も毎年ある。このような事情からかその重要性は認識していても、将来その専門家になりたいという人以外、積極的に税法の知識を身につけようとする人は少ないように思われる。このようなことから本講義により、我々の身近な法律である税法に、関心を持ち、具体的事例、計算を通じてその基本的知識を修得してもらいたい。

また将来、税理士試験を目指すものにとっても有用な知識が提供できるような内容にしたい。講義の内容は以下になります。

講義の内容/
授業スケジュール

前期

1. 租税のあらまし
2. 税法の基本原則
3. 租税の種類と分類
4. 民法の相続制度(1)
5. 民法の相続制度(2)
6. 相続税の納税義務者
7. 相続税の課税財産
8. みなし相続財産
9. 相続税の財産評価(1)
10. 相続税の財産評価(2)
11. 相続税の計算(1)
12. 相続税の計算(2)
13. 贈与税
14. 贈与税と相続時精算課税制度
15. まとめ

後期

1. 所得の概念
2. 納税義務者
3. 課税所得の範囲等
4. 各種所得の種類
- 5.～8. 各種所得の計算(1)～(4)
- 9.10. 所得控除及び税額の計算(1).(2)
11. 申告、納付、源泉徴収、その他
12. その他の税法(法人税)
- 13.14. その他の税法(消費税(1)(2))
15. まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他
関 連 リ ン ク

テキスト、配布プリント等を事前に読んでおくことと授業の理解に効果的です。
本講義では簿記会計の知識は必須ではないが、上級簿記等の講義も受講することを勧める。
学期末試験80%、平常点20%、出席状況も勘案して評価する。
仮題『公共経済と租税』速水昇編著(学文社)開講時指示する。
授業を進める中で適宜紹介する。
計算演習等プリントを随時配布する。電卓を使用するので持参すること。
<http://www.nta.go.jp/>

履修コード	143201・334401
科目名	マーケティング論
担当者名	<small>かねむら えいてつ</small> 兼村 栄哲

講義の到達目標(ねらい)

社会的な分業体制が成立している今日の経済においては、生産と消費の間に、①主体的懸隔、②量と組み合わせに関する懸隔、③情動的懸隔、④空間的懸隔、⑤時間的懸隔といったさまざまな経済的懸隔が発生している。

マーケティングとは、こうした経済的懸隔を架橋することによって、円滑な交換(の連鎖)を実現し、ひいては、消費者が、生産者が生産する商品を消費することを可能にする活動をいい、社会経済的な観点に立ったマクロ・マーケティング(「流通」とほぼ同義)と、個別企業のマネジメントの観点に立ったミクロ・マーケティング(いわゆる「マーケティング」)に大別される。

マーケティング論は、以上の2つのマーケティングのメカニズムを研究する学問である。

本講義のねらいは、各履修者が、マーケティング論における基本的な概念ないし理論などを正確に理解することにある。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1～4回：マーケティングの二義性
- 第5回：流通機能の意義
- 第6回：流通フロー(マーケティング・フロー)
- 第7～15回：流通機能の領域
- 第16回：流通機構の意義
- 第17～18回：流通機関の意義と分類
- 第19～22回：小売業者の分類
- 第23回：マーケティング・コンセプト
- 第24回：企業におけるマーケティングの役割
- 第25～26回：マーケティング管理
- 第27回：製品政策
- 第28回：価格政策
- 第29回：プロモーション政策
- 第30回：チャネル政策

準備学習
履修上の留意点

- 事前に配布された印刷物などに目を通しておくこと。
1. 講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しない。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
 2. 携帯電話や私語など、講義の妨げになるような行為は絶対にしないこと。

成績評価の方法

テスト 90点
出席状況 10点

教科書/テキスト
参考書

なし(配布する印刷物に基づいて、授業を進めていく)。
兼村栄哲他4名(著)『現代流通論』(八千代出版)1999年、3,045円。
宮澤永光(監修)『基本流通用語辞典』〔改訂版〕(白桃書房)2007年、2,625円。
宮澤永光・亀井昭宏(監修)『マーケティング辞典』〔改訂版〕(同文館)2003年、2,940円。

履修コード	335001
科目名	演習Ⅰ
担当者名	<small>きしだ たかゆき</small> 岸田 隆行

講義の到達目標(ねらい)

原価を知ることはマネジメント・コントロールの基礎であり、原価を知ることなくして、経営を理解することは困難である。近年は経営環境の変化が著しく、原価計算・管理会計も経営環境の変化に対応すべく、様々な技法が編み出されている。しかし、それらの新技法が実際に有効であるのか、またあらゆる企業に適合するのかは明らかではない。本演習では現代的な経営環境の中で、原価計算がマネジメント・コントロールにおいてどのような役割を果たすかについて理解を深めていく。

講義の内容/
授業スケジュール

それぞれのテーマについて担当者を割り当て、担当箇所についてレジュメを作成し、報告してもらい、報告内容について受講者全員でディベートを行う。

準備学習

担当箇所の報告では、指定されたテキストだけでなく、様々な文献を読んだ上で報告を行ってほしい。また、報告者以外の受講生も事前にテキストを熟読した上で、議論に参加することが望ましい。

履修上の留意点

積極的にゼミ活動に参加してほしい。
報告の内容、ゼミへの参加程度により総合的に評価する。
開講時に指示する。
適宜紹介する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

履修コード	335301
科目名	演習Ⅰ
担当者名	日野 <small>ひの けんた</small> 健太

講義の到達目標(ねらい)

このゼミでは組織が直面するさまざまな問題を取り上げ、多角的に分析する。組織論の問題を中心に取り上げ、組織論のものの見方を身につけることを目的とするが、経営学全般についての理解が深まるように、配慮する。

演習Ⅰでは、自分の関心のあるテーマを明確にし、組織論の見地から論じられるようになることを目的とする。文献の輪読によって、分析のための概念を得るとともに、関心の所在について報告してもらう。

講義の内容/
授業スケジュール

文献輪読とディスカッションによって経営組織論の内容を学ぶとともに、工場、職場の見学を行い、現実の組織のイメージを持てるように進める。

必要に応じて、夏、秋の合宿を行う。

学年末には、1万字程度のゼミ論文を提出してもらう。

履修上の留意点

ディスカッションに参加するためには、レポーター以外の学生も予習は必須であるし、自分の考えをまとめるために、小レポート(原稿用紙2枚以下)を頻繁に課す。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席とゼミへの積極性、レポート内容による。

開講時に指示する。参考までに、昨年度の演習Ⅱ(フレックスAの3年生)で読破したのは、以下の2冊である。

伊丹敬之『経営戦略の論理』日本経済新聞社

C. プラハラード『ネクスト・マーケット』英治出版

参 考 書

有斐閣の『経済辞典』は、何かと重宝する。田尾雅夫・若林直樹『組織調査ガイドブック』はゼミ論のテーマを明確にするのに役立つ。

そ の 他

わたくし自身も、学部学年時代のゼミの友人とはいまだにつきあいが深い。そういった友人を得る機会となるように望む。既存の友人関係で履修しにくるのは友人関係にとっても、ゼミにとってもマイナスである。

また、かれこれ7年間で軽く100人を超える卒業生がいるが、一人残らずわたくしの「ゼミの学生」だと思っている。

欠席回数や遅刻回数などの上限は定めない。ゼミを休むことや、課題を提出しないことは受講生の権利ではないからである。このような考え方が理解できる学生を歓迎する。

教室でのディスカッションのみならず、コンパ(コンパニーの略。学生などが費用を出し合って催す懇親会(広辞苑より)のことである。)等の親睦活動にも積極的に参加すること。

フレックスAの3年生(演習Ⅱ)と一緒にゼミを行うことがある。

2010年の4月開講時の新規募集は行わない。

営B

履修コード	142351・331551
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	<small>いしなざか くにあき</small> 石名坂 邦昭

講義の到達目標(ねらい)

近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。

講義の内容/
授業スケジュール

リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。

①リスクマネジメントの生成と発達、1～3、②リスクマネジメントの理論、4～10、

③企業経営とリスクマネジメント、11～20、④PLとリスクマネジメント、21～25、

⑤環境リスクとリスクマネジメント、26～30

履修上の留意点

ノートをしっかりととること

成績評価の方法

定期試験の成績と平常点

教科書/テキスト

特になし

参 考 書

『リスクマネジメントの理論』石名坂邦昭著 白桃書房

そ の 他

授業にまじめに出席すること

履修コード	144901・334501
科目名	ビジネス英語
担当者名	あきは しげる 秋葉 滋

講義の到達目標(ねらい)	—国際ビジネスの現場で使われている英語に触れ専門用語を習得する —ビジネス英語、時事英語を通じて国際的な視野を養う —国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイス
講義の内容／ 授業スケジュール	(a) 第1回 オリエンテーション、「国際ビジネスとは？」について経験と説明 (b) 第2回—第7回 英文ニュース、社説等を通して国際ビジネスで使われている専門用語の習得及びその解説、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス入門 (c) 第8回—第12回 英文レター、E-mailの書き方の基本及び応用、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス入門 (d) 第13回 国際ビジネスに関わる経営者のプレゼンテーション (e) 第14—第15回 (b)、(c)の復習及び後期授業に向けたオリエンテーション (f) 第16回—第20回 英文ニュース、社説等のニュースを読み、理解する及びその解説、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス実践 (g) 第21回—第25回 いくつかの業界を選び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイスをを行う、テキスト「English on the Job」を使った国際ビジネス実践 (h) 第26回—第28回 国際ビジネスにおける英文レター、E-mailの書き方実践 (i) 第29回—第30回 期末試験及び国際ビジネスにチャレンジする際のアドバイス
履修上の留意点 成績評価の方法	次回使う資料、参考資料（メディアが配信する経済ニュース、社説等）の予習 プロセス評価（出席、宿題、小テスト、毎回の授業における積極的な発言回数等）40% 結果評価（学期末試験（12月予定）の結果）60%
教科書／テキスト 参 考 書	English on the Job 発行所 金星堂、著者 James House、三好道子 未定

営 B

履修コード	334801
科目名	外書講読 (英書)
担当者名	かわい ゆかり 河合 由佳理

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、会計学に関する英語文献を正しく読む能力を身につけ、文献を訳読することによってビジネスの世界に必要な不可欠とされる会計学の基礎を英語で理解することを目標とします。英語文献を使用するため、通常よりゆっくりとした進度で授業を行い、確実に内容把握ができるようにします。
講義の内容／ 授業スケジュール	会計学の役割から財務諸表の読み方までの基本を学びます。具体的には以下の3つの章を訳読する予定です。 「Accounting : The Language of Business, Investing, Finance, and Taxes」 「Financial Statements and Accounting Standards」 「How Lenders and Investors Read a Financial Report」
準 備 学 習	本講義は、受講生が発表を行い、適宜解説を加えながら授業を進めます。そのため予習を行うことが前提となります。
成績評価の方法	中間試験（3割）、学期末試験（3割）、授業中の発表（2割）、出席状況（2割）を基本に評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	教科書の指定はありません。授業中に適宜プリントを配布します。 John A. Tracy, CPA 『Accounting FOR DUMMIES 4th Edition』

履修コード	335721
科目名	演習Ⅱ
担当者名	小田 幹雄 <small>おだ みさお</small>

講義の到達目標(ねらい)

ガソリン価格の高騰は庶民の生活に非常に大きな影響を与え物価の上昇を招いている。このような状態のなか、政府は税収不足を消費税の税率アップを計ろうとしている。少子高齢化が進み景気が低迷している現在、消費税率見直しよりも政府の特殊法人の見直しなど無駄を排除するのが先ではないだろうか。わが国の財政状態はどうなっているのでしょうか、わが国の中小企業のうち法人税を納付している会社は全体の35%にすぎず実に65%は赤字や欠損補填のために法人税の支払いはおこなわれていないのだという。このような現実を知った上でわが国の財政について改めて考えてみたい。

講義の内容／
授業スケジュール

各人が以下の各章を学びつつ卒業テーマをかんがえながら勉強していくように指導したい。

- 第一章 政府の役割
- 第二章 歳入論
- 第三章 歳出論
- 第四章 地方財政論
- 第五章 租税論
- 第六章 後期 卒論指導

各人の選択したテーマにしたがって部分的に発表をしながら不足分を指摘していきたい。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

将来税理士や会計事務所に就職したい学生向きです。

出席を重視する。

教科書：速水昇・小田幹雄 編著 『公共部門の経済活動と租税』 学文社 ￥2,900

営B

履修コード	335901
科目名	演習Ⅱ
担当者名	片桐 伸夫 <small>かたぎり のぶお</small>

講義の到達目標(ねらい)

ゼミ論集の発行

各自の選択したテーマにそって、卒業論文の作成とその検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表、損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

履修上の留意点

このゼミでは、経営分析の中でも、とくに財務諸表(貸借対照表や損益計算書など)の分析を中心とします。したがって、1年次の簿記学に興味を感じた人向きのゼミです。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

成績評価の方法は平常点100%です。2年間の成果をゼミ論としてまとめます。

授業中において適宜指示します。

随時、紹介します。

履修コード	336001
科目名	演習Ⅱ
担当者名	飯田 哲夫 <small>いいた てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)

この演習では、企業経営上の問題解決のための定量的な情報分析の理論と方法について学びます。近年の情報技術の発展により、大量のデータや情報を活用した定量的な分析の多くが、比較的容易に行うことができる状況になってきており、それらを利用して定量的に問題を分析することは、データに裏づけられた合理的な意思決定へと通じていきます。そして、分析の際には、より有効にデータや情報を活用するために、また、問題の本質を理解するために、しばしば問題状況を数理的にモデル化します。この演習では、ゼミ論文の作成を通して、問題を定量的に自ら分析できるようになることを目指します。

講義の内容／
授業スケジュール

各自が、モデルによる意思決定・分析に関するテーマを決め、そのテーマに沿ってゼミ論文を作成します。

履修上の留意点
成績評価の方法

自ら問題意識を持ち、積極的にテーマに沿った調査・研究を行うことが求められます。

ゼミ論文の内容とそのプレゼンテーション、および出席・受講態度を考慮して総合的に評価します。

履修コード	336101
科目名	演習Ⅱ
担当者名	藤原 篤志

講義の到達目標(ねらい)

本演習ではテーマを「モノづくりの経営学」としており、主として製造企業の生産戦略、生産管理、技術管理、作業管理などを対象としている。またモノづくりには労働力が不可欠かつ重要な要素であるので、労働者による労働も考察の対象としている。ゼミ生各人がこのテーマ・領域に関連して自分の興味・関心のあるテーマを選び、それについて研究を行い、4年のゼミ終了の時点までにゼミ論文を作成・完成させることを最大の目的としている。また授業の中で、ゼミ生には自分の論文の経過・成果についてプレゼンテーション(発表・報告)をしてもらい、それに対する質疑応答や議論・討論を他のゼミ生と活発に行うことにしている。以上の論文作成、プレゼンテーション、質疑応答、議論・討論を通じて、知識を吸収することはもちろん、ゼミ生各人が物事に対して疑問や意見をもち、それらを論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することを目指している。

宮B 講義の内容/
授業スケジュール

4年次でも3年次に引き続き、先述のように各人が論文作成のための研究を進めていく。ただ場合によっては必ずしも論文という形にはこだわらず、一つのテーマ(指定もしくは任意のテーマ)についてのレポート作成を目標にすることもある。授業自体はゼミ生各人によるプレゼンテーション(発表・報告)、質疑応答、議論・討論を中心に行われる(全30回の授業全て同様)。その中で、報告・発表、思考、発言・表現等の能力を養っていく。このような研究報告や議論・討論を活発に効果的に進めるために、ゼミ内に全員が積極的に発言できるような雰囲気を作りたい。それゆえ授業以外のイベント(工場見学、合宿、コンパなど)には全員が参加することが原則である。その他、一層の学習および親睦を深めるためのサブゼミの開講も予定している。

履修上の留意点

中途半端な気持ちで志願する学生には遠慮してもらいたい。本ゼミでは何よりもやる気のある学生を歓迎する。

成績評価の方法

出席とゼミでの報告を重視。出欠については、規定の欠席回数に達したものは即除籍にする。その他、ゼミでの討論時の発言内容や参加態度も成績評価に入る。

履修コード	336201
科目名	演習Ⅱ
担当者名	明石 博行

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、パソコンの操作能力等の基礎力のさらなる育成を図るとともに、引き続き経済社会学の応用領域の学習に取り組みます。今年度の研究テーマは、3年次からの継続的課題である、現代の日本経済と国際経済に関する研究です。また、活動の全体を通して、卒業論文の作成に取り組んでゆきます。

講義の内容/
授業スケジュール

演習は前期と後期に分けて行います。前期には、パソコン教場において、パワーポイント(およびエクセル)の操作能力とプレゼンテーション能力の育成を図ります。後期には、通常の演習教場において、主要テキスト『新グローバル経営』と『戦後日本経済史』を中心とする学習と討論に取り組みます。後期にはまた、卒業論文についての報告と討論をしつつ、卒業論文を完成させます。こうした取り組みと関連するかたちで、情報収集能力と情報の整理能力のさらなる向上を図り、秋にパワーポイントを用いたプレゼンテーションと卒業論文の中間報告・検討のための合宿を行います。

準備学習

報告と討論のための事前の準備をしっかりするよう心がけてください。とくに、テキストをよく読み、わからないことなどを調べるよう努めてください。

履修上の留意点

4年次には、卒業論文の作成が大きな課題となります。卒論の作成に際しては、班別あるいは個人別に、通常の演習時間外にも補足的な相談会を行います。

成績評価の方法

成績は、通常の演習および相談会などへの参加状況を基本としつつ、卒業論文の取り組みに関する判断を加えて評価をします。

教科書/テキスト

前期には、『PowerPoint2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1800+税)および『Excel2007 [総合版]』(毎日コミュニケーションズ、1780+税)を使用します。後期には、安室憲一編著『新グローバル経営』(白桃書房、3500円+税)と野口悠紀雄『戦後日本経済史』(新潮選書、1200円+税)を使用します。なお、卒業論文の作成に必要なすべての文献が、教科書・参考書となります。

参考書

『最新政治・経済資料集2010』(第一学習社)を使用します。また、個々の領域の学習に必要な参考書についても、適時、紹介します。

その他

ゼミの内部で使用する関係資料を、必要に応じて配布します。

履修コード	336301
科目名	演習Ⅱ
担当者名	園田 哲男 <small>そのだ てつお</small>

講義の到達目標(ねらい)

21世紀はアジアの時代といわれている。1985年のブラザ合意を契機に日本からアジア NIES へ、そして80年後半には NIES (台湾、韓国、香港、シンガポール) から A.S.E.A.N. (タイ、マレーシア、インドネシア、フィリッピン)、中国へと投資が活発に行われている。こういったアジアの経済発展のメカニズムを、日本と NIES、中国を中心に分析し、21世紀のアジアを展望する。

本ゼミでは、学生諸君が将来企業家、ビジネスマンとして活躍を期待される中で、アジア諸国の経済発展の特徴、要因、構造を理解することによって、アジアを舞台にビジネスチャンスを探み、さらに大きな飛躍を遂げられることをめざす。

講義の内容/
授業スケジュール

前期・後期を通じて、アジア諸国・地域に関する実態経済について学習し、基礎的知識を身につける。特にアジア諸国・地域の経済発展の特徴や要因を実態的に把握する視点から、アジア諸国・地域の実態調査を実施する予定である。

準備学習
履修上の留意点

卒業論文作成のための文献収集をしっかりと行うこと
本ゼミは、欧米諸国から驚異の目で見られている、アジア NIES や中国経済のマクロのパフォーマンスの実態を研究する観点から、実態調査なども行う予定であり、意欲のある学生を歓迎する。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席、発表内容など総合的に評価する。
授業に中で指示する。

営 B

履修コード	336401
科目名	演習Ⅱ
担当者名	大野 満奈 <small>おのの みんな</small>

講義の到達目標(ねらい)

この演習を通じて参加各人の個性や発想を生かし、意見交換等を通じて相互の交流を深めること、そして、大学での自己の専攻と呼べる領域を築きあげること、この二点をねらいとする。

講義の内容/
授業スケジュール

財務会計の諸概念を理論的に追及する作業を行う。さしあたりは、企業会計原則を中心とする制度会計の理解が得られるよう指導していき、その後は今日における会計上の諸問題を取り扱っていく。

準備学習
履修上の留意点

ゼミ論の内容を順次発表するための、下準備をすること。
日簿簿記検定3級取得者、または「簿記学」の単位を修得しその内容をよく理解している者が望ましい。ゼミ論を書くことを前提にして演習に望むこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

レポート、ゼミ論文、出席などで総合的に評価する。
飯野利夫「財務会計論 3訂版」同文館 1993年
新井清光「現代会計学 第10版」中央経済社 2009年

履修コード	336501
科目名	演習Ⅱ
担当者名	加藤 武信 <small>かとう たけのぶ</small>

講義の到達目標(ねらい)

現代企業における情報システムの役割に関して、理論的・技術的な検討を行う。競争戦略論・戦略情報システム論・管理会計論などに依拠したビジネスデータの分析に関して、Excel 課題の解題を含めて考察する。また情報技術の修得訓練では、販売管理を含むデータベース設計・システム設計について、3年次に引続き勉強を深める。

講義の内容/
授業スケジュール

- 競争戦略から業務システムまでの経営プロセスを Excel 計算モデルにより理解 (1~3) 経営戦略の策定、市場の分析 (4~10) 各種管理モデル
- キャッシュフロー経営の理解と会計計算および経営分析 (11~15) キャッシュフロー経営・会計の理解 (16~20) 工業簿記レベルの会計計算、経営分析
- 販売管理や顧客管理・データベース設計および活用 (21~25) Access による販売管理や顧客管理の設計事例の検討と活用法の理解
- 各自の進路にふさわしいテーマでのゼミ論文の作成 (26~30)

履修上の留意点

パソコン実習を含む授業であるので、欠席せず、熱意をもって受講することを望む。習熟するためには、時間外のパソコン実習が必須である。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

出席状況、報告発表、レポート等々により、総合的に評価する。
授業中に指示する。
授業時に指示する。

履修コード	336601
科目名	演習Ⅱ
担当者名	わたなべ あみた 渡辺 新

講義の到達目標(ねらい)

この演習のねらいは、以下の三つである。

①1960年に約80%であった日本の食料自給率は、現在40%を切る状況にある。つまり、私たちの食料の60%は輸入に依存していることになるが、これほど食料自給率の低い国は先進国の中で日本だけである。また、輸入食料も、マクドナルドやコカコーラに代表されるように戦後一貫してアメリカ型であったが、近年アジア型の食料輸入が急増している。こうした日本の食料事情を経済史的に解明していく。

②かつて日本のそば屋や寿司屋は飲食店とよばれていた。しかし、1970年代以降、ファーストフードやファミレスの登場によって外食産業とよばれるようになった。さらに、弁当・惣菜屋やコンビニ食とよばれる中食産業も生まれた。こうした「食」をめぐる産業の変化を解明する。

③アメリカ産牛肉の再輸入によって牛丼の販売は再開されたが、BSE問題は解決したわけではない。また、食品表示の偽装事件もいまだに起きているのが現状である。この演習では、BSEの発生以来、私たちの前に突きつけられた「食」の安全の問題も考えていきたい。

講義の内容/
授業スケジュール

上記の〈演習のねらい〉にそって、日本の食料事情を歴史と現状の二つの方向から分析していく。とりあえず、この問題に関する文献を輪読していくが、学生諸君が自らデータを処理し、資料を分析していけるように指導していく。また、食料の生産、流通、消費の場を訪れるようなフィールドワークも考えている。

履修上の留意点

ゼミナールは学生が主役である。学生自身が共に学び、近年少なくなった議論のできる場をつくっていくのも演習のねらいの一つである。

成績評価の方法

平常点によって評価するので出席することが大前提となる。また、演習での到達点として「ゼミ論」を発刊する。

教科書/テキスト

その都度指示する。

宮 B

履修コード	136611
科目名	経営数学 A
担当者名	いらい てるお 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)

企業経営上の問題を扱う際に用いられる、定量的な分析や合理的な意思決定のための数理的方法論を理解する上で、ある程度の数学的知識を持っていることが望まれます。経営数学 A では、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識について、高校で習った数学の復習を含めて、基本的な内容を主に学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

授業内容は、基本的な関数、数列、極限、級数、ベクトル、行列などです。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介しします。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1) イントロダクション、(2-5) 数と関数、(6-7) 数列、(8-9) 極限、(10) 級数、(11-13) ベクトルと行列、(14-15) 逆行列とその応用。

履修上の留意点

講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。

成績評価の方法

中間試験と期末試験を行い、それらの成績で評価します。

教科書/テキスト

適宜、プリントを配布します。

履修コード	136621
科目名	経営数学 B
担当者名	いらい てるお 飯田 哲夫

講義の到達目標(ねらい)

経営数学 B では、経営数学 A に引き続き、定量的な分析や合理的な意思決定の方法論を扱う経営科学関連の専門科目に関係する数学的知識を、高校で習った数学の復習を含めて、さらに学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

授業内容は、利益の最大化や費用の最小化を行う際に用いられる微分法とその応用(微分係数、導関数、微分の方法、高次導関数、極値など)を中心とします。授業は講義形式で行います。授業では、数学がどのように用いられるのかを理解するために、適宜、応用例を紹介しします。授業スケジュールは、以下のとおりです。(1) イントロダクション、(2-4) 集合、(5-9) 微分法、(10-12) 微分法の応用、(12-15) 多変数関数の微分と応用。

履修上の留意点

講義では理解を助けるために例を用いて説明を行うけれども、数学を学ぶ上では、抽象的な概念に慣れることが必要であり、かつ、講義の積み重ねを経ないと理解できないことも多いため、毎回出席すること。

成績評価の方法

中間試験と期末試験を行い、それらの成績で評価します。

教科書/テキスト

適宜、プリントを配布します。

履修コード	098801
科目名	労働法
担当者名	藤本 茂

講義の到達目標(ねらい)

今日、雇用社会は、能力主義人事管理の導入に見られるように大きく変貌しています。労働法は、労働問題を平和的に解決する方法を検討する法領域です。この変動に無関係ではありません。労働者に降りかかるさまざまな事象は、最近では雇用関係法領域において顕著です。たとえば、労働基準法改正、労働時間、男女雇用平等、労働契約法などです。本講義ではこの雇用関係法領域を中心に、基礎的な知識を身につけてもらうことを念頭においています。

講義の内容/
授業スケジュール

下記事項について、基礎的知識を学びつつ、現代的課題に言及します。詳細は第1回目の授業のときにプリントを配布して述べます。ここでは、一応の項目を掲げるに止めます。

- (1) 労働法の基礎的考え方
- (2) 日本型雇用システムの変化と労働法
- (3) 労働関係の主人公－労働者、使用者、労働組合
- (4) 労働条件の最低基準の法定－労働基準法の特徴
- (5) 雇用における男女平等
- (6) 集团的労働条件の決定・変更－労働契約、就業規則、労働協約
- (7) 雇用の入り口－採用、採用内定、試用期間
- (8) 人事異動－配転、出向、転籍
- (9) 雇用の出口－解雇、定年、退職
- (10) 賃金、賞与、退職金
- (11) 労働時間、時間外・休日労働
- (12) 休憩、休日、休暇
- (13) 労働災害など

準備学習

テキストを読むこと。新聞を読むことなどです。現代雇用問題にかかわる新書なども読んでください。

履修上の留意点

出席を心がけてください。私語はNo、携帯電話はOff、内職はNo。そして無断で席を立つこともNo。いわゆる授業のマナーは守ってください。配布プリントは取り上げる項目を列挙したレジュメや資料です。教科書は必要です。予習や復習をする上でも欠かせないでしょう。

成績評価の方法

憲法、民法、社会保障法、社会政策は履修してほしい科目です。

成績は、学年末試験がメインで、受験しなければ評価が付きません。レポートや中間試験そして出席も考慮して評価します。

追試験は実施します。

教科書/テキスト

指定教科書は、金子征史・藤本茂・高野敏春・大場敏彦共著『基礎から学ぶ労働法Ⅰ [第2版]』(エイデル研究所 2010)。もとより、これ以外でもかまいませんが、相談して下さい。

参考書

概説書・参考書をいくつか、第1回目の授業において紹介します。

六法は最新のもの(法律改正や制定があるので特に注意)。そして、労基法施行規則の載っているものを用意してください。詳しくは、第1回授業で配布するプリントで。

その他

各々の事項について法的にはどのように考えていくのか、イメージを描きやすいように、裁判例など具体的な例を掲げながら授業を進めます。

営B

履修コード	139411
科目名	現代企業論
担当者名	中川 功一 <small>なかがわ こういち</small>

講義の到達目標(ねらい) 現代に生きる我々にとって、企業とはあまりに当たり前のものである。多くの人間は、企業に所属して働き、企業から給料をもらって人生を歩む。また、我々が日常的に消費する様々な財やサービスは、企業に対価を支払って入手している。このように、我々はごく当たり前のように企業という仕組みを利用しているが、ひとたび考えてみると、企業とは具体的にどのようなものであり、そしてまた、なぜ社会に企業が存在しているのかは、必ずしも明らかではない。そこで、本講義では、「企業」とは何なのかを、多面的に分析し、その現代社会における役割や実態を理解することを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

第1章：企業活動の実態（第2回～第5回）
第2章：株式会社論（第6回～第11回）
第3章：社会・経済・個人にとっての企業の役割（第12回～第17回）
第4章：日本における企業のあり方（第18回～第22回）
第5章：ベンチャー企業論（第23回～第25回）
第6章：現代企業に関わる諸トピック（第26回～第30回）

成績評価の方法
参 考 書

講義中に実施する小テストやレポート課題を30点分、期末試験70点分で評価を行う。
三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論』2006年〔新版補訂版〕、有斐閣アルマ、2000円。
必ずしも購入しなくてもよいが、講義の内容をより正確に、かつ深く理解するためには、購入を奨励する。

営 B

履修コード	139501
科目名	経営学史
担当者名	中川 淳平 <small>なかがわ じゆんぺい</small>

講義の到達目標(ねらい) この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に着目し、現代企業経営の諸問題を解決するための技法として解説を加えていく。

講義の内容／
授業スケジュール

1. コーポレートガバナンスのための問題解決技法（制度学派など、1-7）
2. リストラクチャリングへの問題解決技法（経営戦略論など、8-15）
3. イノベーションへの問題解決技法（生産管理論など、16-20）
4. コミュニケーションへの問題解決技法（人間関係論など、21-23）
5. セクショナリズムへの問題解決技法（経営組織論など、24-30）

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

次回講義までに該当箇所について教科書を読んでおくこと。
講義中の私語は慎んで下さい。
定期試験100%。但し講義中などで必要に応じレポートの提出を求めることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2007年。
授業毎に配布するプリントに適宜指示する。
経営学、経営学史に関して『週刊 ダイヤモンド』にて、私が以前選定した書籍については、下記リンク（読もうよビジネス書）に記載されている。

関連リンク

<http://www.4mo4.com/biz/2005/08/200816329.php>

履修コード	139901
科目名	経営財務論
担当者名	高田 <small>たかた</small> 光明 <small>みつあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

経営財務論は、企業という組織体の財務活動を研究対象とする学問分野である。今日、企業の財務という場合、企業による資本の調達と運用をいっている。企業は、その活動を営むに際し、原材料・機械などの財貨や労働力といった生産要素を確保しなければならない。そのために元手となる資本を必要とする。資本の調達とは、この元手となる資本を集めることをいう。そして調達した資本で、企業は、原材料などの生産要素を取得して、製品を生産し販売するという営業活動を遂行する。こうした活動により、資本を増殖させようとする行為を、資本の運用といっている。

資本の源泉は、それぞれ異なる特徴を持っている。したがって、生産要素の取得を賄うために必要とする資本を、どの源泉からどのくらいずつ調達するかは、企業が営業活動を実施して、調達資本をいかに効率的に運用できるかに大きな影響を与える。この授業では、以上の問題意識のもとに、次のスケジュールにしたがって講義を進め、経営財務に関する基礎的知識・基本的考え方を身に付けることを主要目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

(1) 経営財務の領域、(2) 資本と資産、(3～4) 資本の分類、(5～6) 資本の運用形態、(7～8) 資金調達方法の特徴、(9～10) 資金調達の基本原則、(11～12) 流動・固定分類法の重要性、(13～14) 資金概念、(15～16) 企業利益の概念、(17～18) 減価償却費の性格、(19～20) キャッシュ・フロー、(21～22) リスクとリターン、(23～24) レバレッジ、(25～26) 資本のコスト、(27～28) 続・資金調達の基本原則、(29～30) 資金調達の手順

履修上の留意点

企業による財務活動に関する情報は、企業の会計システムから得られる。したがって履修にあたっては、企業会計の初歩的知識があることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験による評価を原則とし、出席点を5点を限度に加味する。

宮B

履修コード	140051
科目名	経営心理学
担当者名	下村 <small>しもむら</small> 英雄 <small>ひでゆ</small>

講義の到達目標(ねらい)

産業・組織心理学およびキャリア心理学に関するテキスト、実際の職場における問題等に関する資料を取り上げて企業経営における人間の心理について説明します。また、関連する心理学の基礎的知識、基本的な論点・学説について随時紹介します。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のテーマを取り上げる予定です。第1～2回：イントロダクション、第3～5回：産業・組織心理学の歴史とテーマ、第6～8回：ワーク・モチベーション、第9～10回：採用と面接、第11～12回：人事評価、第13～17回：キャリア発達、第18～20回：職場のコミュニケーションと人間関係、第21～23回：リーダーシップ、第24～26回：仕事の能率と安全、第27～29回：職場のストレスとメンタルヘルス、第30回：まとめ

準備学習

教科書を指定するので、次回、授業で取り上げる箇所について事前に読んでおくこととします。また、教科書は独自に先の方まで読み進めて、早い段階で全体像を自分なりにつかむようにしてください。

履修上の留意点

産業・組織心理学およびキャリア心理学では、企業における人間の心理を、「個人の側」と「組織の側」の両面から考えることが重要になります。受講者は積極的に授業に参加し、将来、自分が働くということについて、また組織で人を動かすということについて、自分なりの理解を形成するようにしてください。

成績評価の方法

授業への出席状況 (50%)、授業に課す課題に対する取り組み方 (20%)、期末のレポート (前期・後期各1回) での的確な見解または独自の見解を述べている程度 (30%) を評価の基準とします。

教科書／テキスト

山口裕幸・金井篤子著『よくわかる産業・組織心理学』ミネルヴァ書房2,520円 (ISBN 978-4623048717)。その他、授業中に関連するテキストを随時配布します。

参 考 書

授業中に随時指示します。

履修コード	140101
科目名	管理会計論
担当者名	猿山 義広 さるやま よしひろ

講義の到達目標(ねらい)

この講義の目的は、日商簿記検定試験や公認会計士試験に出題された計算問題を解きながら、管理会計の考え方や技法を理解してもらうことにある。管理会計は財務会計と並ぶ会計学の柱であり、会計学系列の演習を受講する学生はできるだけ履修してほしい。また、管理会計は経営学とも深く関わっているので、経営学系の演習を受講する学生も積極的に履修してほしい。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回 管理会計の基本概念、第2回 管理会計と原価計算1 —— 原価の意義と分類、第3回 管理会計と原価計算2 —— 原価計算の手段、第4回 管理会計と原価計算3 —— 直接原価計算、第5回 第1回小テスト、第6回 短期利益計画における CVP 分析1 —— 損益分岐点分析、第7回 短期利益計画における CVP 分析2 —— 目標利益の達成計画、第8回 短期利益計画における CVP 分析3 —— プロモーション効果、第9回 第2回小テスト、第10回 原価予測、第11回 最適セールス・ミックスの決定、第12回 経済的発注量 (EOQ) の決定、第13回 第3回小テスト、第14回 標準原価計算による原価管理1 —— 原価統制の基礎、第15回 標準原価計算による原価管理2 —— 製造間接費の原価差異分析、第16回 標準原価計算による原価管理3 —— 標準直接原価計算、第17回 予算実績差異分析、第18回 第4回小テスト、第19回 活動基準原価計算 (ABC)、第20回 原価企画、第21回 バランス・スコアカード (BSC)、第22回 事業部制の管理会計、第23回 第5回小テスト、第24回 意思決定会計1 —— 業務的意思決定、第25回 意思決定会計2 —— 不確実性下の意思決定、第26回 意思決定会計3 —— 設備投資の意思決定、第27回 第6回小テスト、第28回 マーケティング会計1 —— 営業費管理会計、第29回 マーケティング会計2 —— ブランド管理会計、第30回 まとめ

履修上の留意点

講義の重点は計算問題の解法に置かれるので、かならず電卓を持参すること。周知のように、管理会計における計算問題の多くは、日商簿記1級原価計算や公認会計士試験原価計算の特殊原価調査の分野で出題されるような問題と重なっているため、学習効果を高めるためにも、できるだけ「原価計算論」と併せて履修してほしい。

成績評価の方法

年間で6回行う授業中の小テストを20%、本試験を80%のウエイトで評価を行う。本試験は電卓以外の参照は一切不可なので、注意してほしい。

教科書／テキスト

とくに指定する教科書はないが、計算問題については日商簿記2級工業簿記や日商簿記1級原価計算の過去問題を参考にしてほしい。また、例題や解法のポイントについてのプリントを毎回配布するので、それを保存するようにしてほしい。

参 考 書

管理会計の最新理論については次の本に詳しく述べられている。

そ の 他

櫻井通晴『管理会計〔第三版〕』同文館出版。

少しでも疑問な点があれば、授業中でも授業終了後でもかまわないので、積極的に質問すること。プリントは大切に保存してほしいが、もし紛失してしまったときは遠慮なく申し出ること。最後まであきらめることなく、粘り強く勉強してほしい。

履修コード	140201
科目名	経営組織論
担当者名	日野 健太 ひの けんた

講義の到達目標(ねらい)

組織論のフレームワークによって、企業をはじめとする組織を分析できるようになることを目的とする。そのための基本概念と思考方法を学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

経営組織論の内容は、組織の環境適応を扱うマクロ組織論と組織における集団、個人を扱うミクロ組織論に大別される。下記に示すテーマごとに講義を進めるが、以前の講義で取り上げたことを、のちの内容の理解に役立てるようなスタイルで進める。

履修上の留意点

講義の対象と回数は以下の通り 前期：1. モチベーション (4) 2. リーダーシップ (8) 後期：3. 組織文化 (3) 4. 組織の環境適応 (5) 5. 環境と組織 (2) 6. 知識創造理論 (1) その他に、まとめや中間テスト (3) 各回の内容やスケジュールを記した詳細なシラバスは開講時に配布する。

学び方を学ぶのも重要。例えば、講義を聴いてノートにまとめることは、すべての受講生がこの講義で、身につけなければならない能力だと考えている。従って穴あきレジュメを用いるような講義ではない。

成績評価の方法

YeStudy で小テストを行ったり、コメントや質問を提出してもらおう。また、教場で配布した配布物入手できるようにする。

後期の授業開始日に中間試験を行う。このテストのウエイトが40%程度、学年末の定期試験のウエイトが60%程度。大まかには、この二つが成績を決める。中間試験を欠席するのは、即不可ではないが致命的である。

教科書／テキスト

日野健太『リーダーシップとフォロワー・アプローチ』近刊 (ただし、テキスト代で単位が買える科目にするつもりはない)

参 考 書

金井『経営組織』(日経文庫)
経営学辞典の類、例えば、二神編著『ビジネス・経営学辞典』(中央経済社)などもなにかと重宝である。

そ の 他

教場には、想像力を持参すること。

履修コード	140301
科目名	商業経営論
担当者名	石川 <small>いしかわ</small> 和男 <small>かずお</small>

講義の到達目標(ねらい)

人は日々モノやサービスを購入し生活している。またこれらの活動なしには人々の生活が成立しなくなっている。本講義では主に人々(消費者)にモノやサービス(特にモノ)を販売する主体(商業者)の行動を取り上げる。分野として大きく分けると4つの分野から構成されている。1) 商業・流通の概念とその機能、2) 商業者(流通業者)の現状とその行動、3) 販売に関する技術と方法、4) 商業者を取り巻く外部環境と内部環境についてである。これら4つの面から多面的に商業者の組織的行動である「商業経営」をとらえてもらえればと考えている。また受講生には受け身の姿勢ではなく、積極的に疑問に思い、解決を探る姿勢が身につけられるように期待したい。

講義の内容/
授業スケジュール

1 開講にあたって(受講上の諸注意)、2 商業とは、流通とは(商業概念、流通概念)、3 流通機能と流通機構、4 流通機能I(商的流通と物的流通)、5 流通機能II(流通情報と流通情報システム)、6 流通補助機関の役割、7 小売とその営業形態、8 小売業の構造と変化、9 小売マーケティング、10 卸売とその営業形態、11 卸売業の構造と変化、12 卸売マーケティング、13 卸売マーケティングの事例、14 予算管理と販売管理、15 商品回転率と価格政策、16 仕入管理と売買契約、17 在庫管理、18 消費者行動の変化、19 商業立地と商業集積、20 商業・流通を取り巻く法的環境、21 流通政策I(競争政策と振興政策)、22 流通政策II(調整政策)、23 中小零細商業者問題、24 中小零細商業者の将来、25 日本の商業環境と商慣行I、26 日本の商業環境と商慣行II、27 これまでの講義のまとめ

営B

履修上の留意点

- 1 遅刻、早退、中抜けをしない
- 2 授業中は携帯電話の電源を切る(発見した場合はその場で受講中止)
- 3 他人との会話などを授業中はしない
- 4 帽子の着用、飲食しないなど最低限のマナーは守る
- 5 公欠の取り扱い(運動部の人は必ず公式試合などの場合は提出のこと)
- 6 その他

成績評価の方法

- ・第1回目の授業時に詳細な注意事項を書いたプリントを配付する
- 授業への参加意欲(出席点) 約30%
- 中間レポートまたは中間試験 約30%
- 期末試験 約40%
- 授業中のボーナス加点
- 年度内に販売士試験2級に合格した者は加点

教科書/テキスト
参 考 書

尾崎・野本・石川(2007)『流通業のマーケティング』五紘舎
石川和男(2007)『基礎からの商業と流通(第2版)』中央経済社
鈴木安昭(2004)『新・流通と商業(第3版)』有斐閣
小宮路雅博編著(1997)『現代の小売流通』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に詳細な説明を行うので、必ず第1回目の授業から出席のこと。
連絡方法は、授業時に指示する。

履修コード	141011
科目名	経営情報システム A
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい) 経営スタッフの役割は意思決定の支援、すなわち、意思決定者が適切な決定を行えるよう判断の指針となる情報を提供すること。本講義では、企業や官庁における経営スタッフを目指す皆さんのために、情報処理に関するシステムの観点と、IT (情報技術) の基礎について解説する。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) イントロダクション
(2-3) 科学とシステム思考
科学的方法の特徴とは何か、システムの観点とはどのようなものか。情報学のバックグラウンドにある基本的なものの見方と、それに基づく問題へのアプローチ方法について解説する。

(4-8) 情報科学の成立と発展

20世紀半ば世界初のノイマン型コンピュータ EDSAC が誕生した。これに前後して、コンピュータ科学・情報理論・通信工学などを含む「情報科学」が成立し、急速な発展を遂げた。ここでは、その恩恵に与る現代人として知っておくべき基礎知識について整理する。

(7-9) IT とインターネット

IT (情報技術) に関わる基礎的事項に理解を深める。コンピュータによる情報の取り扱い、インターネットなど情報ネットワーク技術に関する基礎的事項について解説します。

(10-15) 情報環境の発展と経営における利用

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観し、インターネットによる情報インフラが十二分に整った今日的な環境下において、市場戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

後期の経営情報システム B とあわせて履修してください。

毎回出席を取ります。その上で、最終授業時に筆記試験を実施して成績評価を行います。

高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円

※ このテキストは、主として後期 B で用います。前期 A では、数学的準備の参考書としてのみの利用ですが、A・B 連続履修の方は必ず用意しておいてください。また、今年度は「経営科学概論」と共通テキストです。そのほか、適宜プリントを配布します。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

参 考 書

個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。

履修コード	140121
科目名	経営情報システム B
担当者名	高井 徹雄

講義の到達目標(ねらい) 経営計画・市場戦略立案などに際して適用が期待される IT (情報技術) の活用方法について学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) イントロダクション

(2) データとは何か

データには測る尺度によって定量的なものと定性的なものが存在する。意思決定の手掛かりとなる情報へ加工するためには、データの種類に応じた取扱いが必要である。

(4-8) データ解析とは、データの意味を読むこと

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、主に定量的データを解析する手法と、コンピュータ上での取扱いについて学ぶ。

(9-12) シミュレーション技法とその応用

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法にシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法や離散系シミュレーションなど基礎的な方法に触れた後、様々な分野で用いられる多様なシミュレーション技法について概観する。

(13-15) 人工知能の経営への応用

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待される DSS (意思決定支援システム)、ES (専門家システム) などの概要について学ぶ。

履修上の留意点

前期の経営情報システム B とあわせて履修してください。受講生数によりますが、必要に応じて数回程度、情報教育センターの計算機実習室を利用した体験的な実習形式の授業を行う予定です。

成績評価の方法

適宜出席を取ります。不定期に授業時小テストを行います。期末試験時に筆記試験を実施して成績評価を行います。

教科書/テキスト

高井徹雄他著「基礎から学ぶ経営科学」税務経理協会 2300円

参 考 書

適宜プリントを配布します。

履修コード	141111
科目名	マネジメント・サイエンスA
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンスAでは、最適化の手法を中心に、線形計画法(LP)、ネットワーク計画法、データ包絡分析法(DEA)、階層化意思決定法(AHP)について、生産・流通やマーケティング分野における例を用いながら解説します。
講義の内容／授業スケジュール	第1回：マネジメント・サイエンスについて、第2～4回：線形計画法(定式化、図による解法、感度分析)、第5～7回：ネットワーク計画法(グラフについて、最短経路問題、最小木問題、最大流問題)、第8～10回：データ包絡分析法(CCRモデル、効率的フロンティア)、第11～13回：階層化意思決定法(階層モデル、一対比較、ウエイトの計算)、第14回：Excel Solverを用いた線形計画問題の解法、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。
履修上の留意点	理解度確認のため、單元ごとに宿題を出します。経営数学A・B、確率・統計入門A・Bを先または同時に履修しておくことを勧めます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に10割)、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。
教科書／テキスト 参考書 その他 関連リンク	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。 必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

営B

履修コード	141121
科目名	マネジメント・サイエンスB
担当者名	小沢 利久

講義の到達目標(ねらい)	マネジメント・サイエンスとは、経営活動の様々な場面における意思決定を支援するための方法を考える学問であり、対象をモデルで表現し、定量的に分析する点に特徴があります。マネジメント・サイエンスの考え方や手法は、伝統的な生産・流通の分野から近年はマーケティングやファイナンスの分野へ応用の範囲を広げつつあります。マネジメント・サイエンスBでは、確率モデルを用いた分析手法を中心に、在庫管理、情報の期待価値、キャッシュフローと現在価値、ポートフォリオ選択、待ち行列理論について、生産・流通やファイナンス分野における例を用いながら解説します。
講義の内容／授業スケジュール	第1～3回：在庫管理(経済的発注量、発注点方式、定期発注方式)、第4～6回：情報の期待価値(情報の貨幣的価値、完全情報とサンプル情報の期待価値)、第7～8回：キャッシュフローと現在価値(現在価値、割引キャッシュフロー、内部収益率)、第9～12回：ポートフォリオ選択(リターンとリスク、平均・分散モデル、効用関数とリスク)、第13～14回：待ち行列理論(待ち行列モデル、リトルの式、M/M/Sモデル)、第15回：全体のまとめ
準備学習	予習は特に必要としません。板書き中心で授業を進めますので、ノートをしっかり取り、ノートとプリントを次回授業の前に読み直すという復習を実行して下さい。
履修上の留意点	理解度確認のため、單元ごとに宿題を出します。経営数学A・B、確率・統計入門A・Bを先または同時に履修しておくことを勧めます。
成績評価の方法	定期試験の結果を主とし(基本的に10割)、それに提出された宿題の点を加算して評価します。出席は参考とします。
教科書／テキスト 参考書 その他 関連リンク	プリントを配布し、テキストに代えます。プリントは下記の関連リンクからも取得できます。 必要に応じて示します。 特にありません。 http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshi/teaching/

履修コード	141701
科目名	国際経済論
担当者名	<small>ながた ともり</small> 永田 智則

講義の到達目標(ねらい)	<p>本講義の目的は、現実が生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。</p> <p>分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずです。</p> <p>(1) 国際経済学の意義、(2～7) 国際分業論、(8～12) 貿易政策、(13～15) 経済成長と貿易、(16～22) 国際マクロ経済学、(23～25) 外国為替と国際収支、(26～30) 資本の国際移動</p> <p>現実の世界経済の動きを題材にしますので、新聞等で報道される関連ニュースに接しておいてください。</p>
講義の内容／授業スケジュール	
履修上の留意点	
成績評価の方法	原則として学年末の定期試験に重きをおきますが、授業への出席も重視します。途中、検討課題を出すことも考えていますので、総合的な評価になります。
教科書／テキスト	下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。
参 考 書	仙頭佳樹著「最もやさしい国際経済学」多賀出版、2800円＋税、ISBN4-8115-6491-X 随時必要に応じて紹介します。

営 B

履修コード	142201
科目名	財務会計論
担当者名	<small>やまだ じゅんぺい</small> 山田 純平

講義の到達目標(ねらい)	<p>本講義では、企業がどのようなルールに従って決算書を作成し、外部の利害関係者に開示しているかについて解説します。詳細な会計ルールをおぼえることよりも、会計ルールがどのような考え方に基づいているか、なぜそのような考え方をとるのかといった点について重点的に説明するつもりです。ここで解説する会計ルールの特徴を把握することを通じて、企業の取引が決算書にどのような影響をおよぼすのか、各企業の決算書をどこをみて分析したらいいのかといったことについて理解が深められることでしょう。</p>
講義の内容／授業スケジュール	<p>第1回：ガイダンス、第2回：会計の目的、第3回：会計基準と会計制度、 第4～5回：会計基準の国際的な動向、第6～7回：収支の期間配分、第8回：小テスト①、 第9～10回：利益の認識と測定、第10回：複式簿記、 第11～12回：資産・負債の認識・測定、第13～14回：金融商品の会計、リース会計、 第15回：小テスト②、第16回：前期の復習、第17～18回：資本金会計、 第18～20回：決算書の分析、第21回：小テスト③、 第22～23回：会計単位（連結会計、セグメントの会計）、第24回：会計情報の役立ち、 第25～26回：監査と粉飾、 第27～28回：費用配分のバリエーション、退職給付会計、ポイント引当金、 第29回：小テスト④、第30回：総復習</p>
履修上の留意点	<p>簿記学と会計学を履修していることが望ましいです。</p> <p>授業では教科書＋αの解説をしますので、教科書を購入しておいてください。余裕があれば事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。</p>
成績評価の方法	期末試験65%、小テスト25%、出席10%
教科書／テキスト	川本淳他『はじめて出会う会計学』有斐閣
参 考 書	桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』有斐閣
そ の 他	<p>私語がひどく授業の進行を妨げる学生は、退席させるまたは受講をやめていただきます。</p> <p>欠席した授業のプリントは、YeStudyに登録してダウンロードすること。</p>

履修コード	142401
科目名	国際経営論
担当者名	臼井 哲也

講義の到達目標(ねらい) 本講義の目的は、企業の国際化、多国籍化の動因および国際経営上の諸問題を理解するためのツールとなる諸理論、パースペクティブを学習することにある。多国籍企業における経営戦略上の課題、解決策について検討する。

講義の内容／
授業スケジュール 以下は授業スケジュールの予定である。

前期

- ①ガイダンス（必ず出席すること）
- ②国際経営の現代的課題
- ③国際経営の対象としての多国籍企業
- ④ハイマーの優位性概念とFDI
- ⑤OLIパラダイム
- ⑥内部化理論と取引コスト
- ⑦多様性の中での国際経営
- ⑧グローバル戦略経営の基礎
- ⑨グローバル戦略経営の目的
- ⑩グローバル戦略経営の実際
- ⑪グローバル経営組織1
- ⑫グローバル経営組織2
- ⑬⑭グループ演習
- ⑮前期まとめ

後期

- ①ガイダンスと前期復習
- ②グローバルR&D戦略1
- ③グローバルR&D戦略2
- ④グローバル生産戦略1
- ⑤グローバル生産戦略2
- ⑥グローバル・ソーシング戦略
- ⑦グローバルHRM
- ⑧本社―子会社間のマネジメント1―子会社のイニシアティブ―
- ⑨本社―子会社間のマネジメント2―公正手続き―
- ⑩国際提携とM&A戦略1
- ⑪国際提携とM&A戦略2
- ⑫⑬個人演習
- ⑭地域経済統合と国際経営
- ⑮後期まとめ

履修上の留意点 遅刻、私語厳禁。ルールを無視するものは直ちにFとする。

成績評価の方法 配布資料なし。自著ノート作成。グローバル・マーケティング論と併せて受講することを推奨する。学期末試験と課題（レポートなど）を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。

教科書／テキスト とくに指定しない

参 考 書 臼井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究－国際市場戦略の新視角』2006年刊（文眞堂）2,800円

営B

履修コード	142701
科目名	ドイツ経営学
担当者名	高橋 成夫

講義の到達目標(ねらい)	現代のドイツの企業システムの特徴を解明するとともに、ドイツ経営学の性格や内容を、ドイツ経営学の歴史(史的展開)の中で明らかにすることにある。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1~8) I. ドイツの企業システム ドイツの企業形態/所有構造と支配類型/トップ・マネジメント構造/共同決定法/企業統治 (9~11) II. ドイツ経営学の前史 (12~16) III. ドイツ経営学の生成, 科学的私経済学と技術的私経済学 (17~24) IV. ドイツ経営学の展開, (1) 私経済学的企業経済学と規範的・技術的経営経済学, (2) 理論科学的経営経済学と応用科学的経営経済学 (25~30) V. ドイツ経営学の現状(多様な構想), 意思決定志向的/システム志向的/行動理論的/新規範論的経営経済学/労働志向的個別経済学/新制度派経済学に基づく経営経済学 新聞・雑誌などからドイツ企業関連の記事を整理しておくと事前学習になる。 講義では主要な内容について出来る限り板書して説明するので、積極的に出席することが望ましい。
準備学習 履修上の留意点	定期試験(9割)と平常点(1割)を総合して評価する。
成績評価の方法 教科書/テキスト 参考書	特に指定しない。 北野利信編『経営学説入門』(有斐閣新書)900円+税

営B

履修コード	143001
科目名	システム論
担当者名	宇谷 明秀

講義の到達目標(ねらい)	この科目では、複雑で大規模なシステムを理解し、構築し、運用するための方法論を学ぶ。なるべく具体的な事例をとりあげ、システム思考、システム論への理解を深める。
講義の内容/ 授業スケジュール	〔前期〕 1. システム論(その歴史) 3回 2. システム論(分類と展望) 3回 3. モデル化の方法論(分類と特徴) 3回 4. 数理モデリング 3回 5. コンピュータシミュレーションモデリング 3回 〔後期〕 1. システムの評価 3回 2. システムの故障と信頼性 3回 3. 危機管理と対策 3回 4. 不確実な事象とシステム設計 3回 5. システム導入における経済性 3回
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト 参考書	特定分野の事前の知識は要求しないが、基礎的な数学の学力が必要である。 中間試験と期末試験に出席状況を加味して評価する。 授業の中で指示する。 授業の中で必要に応じて紹介する。

履修コード	143211
科目名	流通システム論
担当者名	青木 ^{あおき} 茂樹 ^{しげき}

講義の到達目標(ねらい)

私達の生活はあらゆる商品によって支えられており、これは流通システムがあるから成り立っている。講義では、身近な事例より興味を喚起し、その仕組みの理解を促す。今日、情報化、国際化によって、流通システムは新たな変化のうねりを迎えている。変化の時代に重要なことは現象面を追うだけでなく、どのような分析枠組みで理解・予測できるかである。また複眼的・多角的に捉えることにより、個々人の受講生が今後の流通のあり方についてのおおの意見をもつことを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1)～4) 流通の基礎概念と機能的アプローチ
- 5)～9) 流通の機関別アプローチ (小売業・卸売業)
- 10)～13) 流通システムとしての発展Ⅰ
 - ・第一次・第二次流通再編成の諸特徴
 - ・チェーン・オペレーションの登場と進化
- 14)～17) 流通を巡る法規制とまちづくりの諸問題
- 18)～21) 流通システムとしての発展Ⅱ
 - ・工業化社会の流通システムから情報化社会の流通システムへ
 - ・コンビニエンス・ストアのイノベーション
- 22)～25) 流通の情報化の進展
 - ・サプライ・チェーンからダイヤモンド・チェーンへの転換
 - ・インターネットによる流通の革新
- 26)～30) 流通における関係的取引の理論的認識

履修上の留意点

講義形式ではあるが、一方向とならぬよう、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促し、積極的に楽しんで参加してもらえるような方向を目指したい。

成績評価の方法

毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書/テキスト
参 考 書

渡辺達郎他(2008)『流通論をつかむ』有斐閣
日経MJ編(2009)『日経MJトレンド情報 マーケティング・ハンドブック(2010年版)』日本経済新聞社。

営B

履修コード	143301
科目名	経営戦略論
担当者名	なかむら こういち 中村 公一

講義の到達目標(ねらい) 経営戦略論は、現実の企業経営と密接に関連している実践的要素の強い科目である。受講生が企業に就職した時に、その企業が属する業界がどのように動いており、それに対応して企業が採っている戦略を理解することは、自分達の仕事の意義を考える上でも有効なことである。さらに、就職活動の時にも、希望する企業の動向を把握することは重要な選択要因の1つとなるだろう。

本講義では、さまざまな企業の置かれている環境とそれに対する経営戦略を理解し、実践的な場面でも応用できる知識と考え方を提供することを目標に進めていく。そこで、新聞やビジネス誌などをもとに、実際の経営戦略をケースとしてできるだけ取り上げるようにする。

そして、なぜこの企業はこの戦略を採るのか、その戦略によってどのような効果が期待されるのか、ということに関して、古典から最先端の理論を使って解釈することを焦点に講義を行う。

営 B

講義の内容／ 授業スケジュール

- 1, 経営戦略論の基礎概念 (1~5)
- 2, 成長戦略論：事業領域、多角化戦略など (6~9)
- 3, 競争戦略論：ポーターモデル、コア・コンピタンス、ビジネスモデルなど (10~14)
- 4, 前期のまとめ (15)
- 5, 組織間戦略論：M&A、グループ戦略、グローバル戦略 (16~21)
- 6, 経営戦略と経営組織：専門組織、ナレッジマネジメントなど (22~25)
- 7, 最新の戦略課題：研究開発戦略、ライセンス戦略、企業集積の戦略など (26~29)
- 8, 年間講義のまとめ (30)

準備学習

経営戦略論は、実際の企業活動と密接に関連しているために、日頃から新聞や雑誌などで関連する記事にはできる限り目を通すことが望まれる。

履修上の留意点

注意点としては、講義に対する妨害行為(私語、携帯電話など)には厳しく対処する。1人(数名)の愚かな行為により、他の真面目な学生に迷惑をかけ、講義自体の雰囲気が悪くなるために、教場を友人との話す場として考えている者は出席しないこと。

成績評価の方法

年度末の定期試験(70%)、後期発表のレポート課題(20%)、授業中のリアクションペーパー(10%)

教科書／テキスト

授業中にレジュメを配布して、それに基づいて講義を進める。1回の講義で1つの重要テーマに関する内容を学習する。基本図書や参考文献などは授業中にその都度指摘する。

参考書

中村公一『M&Aマネジメントと競争優位』白桃書房、2003年、3,570円

履修コード	143401
科目名	ベンチャー企業論
担当者名	もと のぶえ おさ うれん 許 伸江・崔 銀順

講義の到達目標(ねらい) 経済の停滞が長引く中、活力あるベンチャー企業への関心が高まっている。本講義は、ベンチャー企業の意義、歴史、特徴等について理解することをねらいとする。

講義の内容／ 授業スケジュール

(1~3)ベンチャー企業、企業家とは何か (4~5)起業活動のフレームワーク(6~8)ベンチャー企業のマネジメント(9~13)ベンチャー企業のビジネスモデル、マーケティング(14~15)ケース・スタディ(学生起業、女性企業、シニア企業、IT企業など)(16~17)ベンチャー企業の戦略(18~20)独立形態、会社法の改正(21~24)ベンチャー・ファイナンス、IPO、株式公開市場(25~27)ベンチャー支援策、クラスター政策(28~29)ベンチャー企業のリスクと対応(30)ケース・スタディ(失敗例、挫折と復活など)

履修上の留意点

日頃から、新聞、TV、インターネットなどでベンチャー企業関連の情報に触れておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、授業内レポート、夏休みのレポート、学期末試験等を総合的に評価する。

教科書／テキスト

教科書は使用せず、ノート講義形式とする。

履修コード	143501
科目名	環境経営論
担当者名	川村 雅彦

講義の到達目標(ねらい)	①地球環境問題の基礎知識を習得し、企業の環境問題への取組を理解する。 ②地球環境問題と企業経営の関係について、「自分の考え方」を確立する。 ③「知識」よりも「考え方」を問う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(前期：理論編) ①②環境経営の基本的な考え方、③④日本における環境経営の変遷、⑤⑥環境経営の手段と目的、⑦⑧市場のグリーン化と環境ビジネス、⑨⑩企業経営の環境リスクとリスク対応力、⑪⑫環境経営の評価指標(環境会計、環境効率)、⑬⑭環境経営のバウンダリー問題、⑮前期の総括 (後期：実践編) ①②企業の環境問題への取組(全体像)、③④⑤⑥環境問題への取組の実際(業種別)、⑦⑧環境マネジメントシステム、⑨⑩京都議定書と温室効果ガスの排出量取引、⑪⑫環境経営の評価と環境コミュニケーション、⑬⑭環境文明論、CSR(企業の社会的責任)、⑮後期の総括
準備学習	①日頃から、新聞、テレビ、インターネットなどで地球温暖化(気候変動)や生物多様性(生態系の保全)などの地球環境問題を意識的に見る。②関心のある企業の「環境報告書」(最近ではCSR報告書としての発行が多い)を見る(ホームページで閲覧可能)。
履修上の留意点	毎回レジュメを配布するが、講師の多様な経験も交えて話をするので、出席を重視し、規定回数以上の出席を原則とする(出席は毎回とするが、事情がある場合には事前相談に応ずる)。
成績評価の方法	①出席(50点) + 試験(50点) = 満点100点(合格は60点以上) ②前期・後期各2/3以上の出席を合格条件とする(公欠届などは認める)。 ③前期と後期の期末試験の受験を合格条件とする(資料持ち込み可)。
教科書／テキスト 参 考 書	教科書は特に指定しない。 参考書は授業で随時推薦する。

営B

履修コード	143701
科目名	計量経済学
担当者名	呉 逸良

講義の到達目標(ねらい)	現実の経済データを用いた例題を実際に解くことを通じて、計量経済学を学ぶ。パソコンを利用して演習を行うことにより、抽象的になりがちな計量経済学を分かりやすく理解し、実際のデータ分析の能力を身につける。
講義の内容／ 授業スケジュール	(前期) Excelを利用して例題を解きながら、以下の内容を講義する。 (1・2) 統計学の基礎知識(I) (3) 統計学の基礎知識(II) (4～8) 単純回帰モデル (9～11) 重回帰モデル (12・13) 回帰モデルの仮説検定(I) TSPを利用して前期の例題を再計算することを通じて、TSPの扱いをマスターする。その上で、以下の内容を講義し、TSPを用いて演習を行う。 (14) 回帰モデルの仮説検定(II) (15・16) TSPの基礎および練習 (17・18) Chow Testと予測 (19・20) ダミー変数 (21～23) 系列相関 (24～) 復習・授業中試験
履修上の留意点	経済理論をある程度勉強していることと、統計原理と経営数学を履修すること。
成績評価の方法	日頃の宿題、レポート、学期末試験の結果により総合的に判断する。期末試験は授業中に行い、試験での持ち込みは自由。
教科書／テキスト 参 考 書	白砂堤津耶『例題で学ぶ 初歩からの計量経済学』(日本評論社) 1999 2,800円(税別) 山本拓『計量経済学』(新世社) 蓑谷千風彦『計量経済学』(東洋経済新報社) G.S. マダラ著・和合肇訳『計量経済分析の方法』(シーエービー出版) 唯是康彦『Excelで学ぶ計量経済学入門』(東洋経済新報社) 縄田和満『Excelによる回帰分析入門』(朝倉書店) 蓑谷千風彦等『パソコンによる数量分析・ExcelとTSP入門』(多賀出版) 縄田和満『TSPによる計量経済学入門』(朝倉書店) 和合肇、伴金美『TSPによる経済データの分析』(東京大学出版会)

履修コード	143721
科目名	ゲーム理論A
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい) 本講義ではゲーム理論の基礎を解説します。ゲーム理論は、利害対立関係にある複数の人々がお互いの意思決定を考慮に入れて行動をした際に起こる結果について分析するための理論です。

経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論を学ぶことは、他者がどのように考え、それが自分にどのような影響をもたらすかについて考える訓練にもなります。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 ゲーム理論とはどのような学問か？、

第2回 ゲームの記述、

第3～7回 標準型ゲーム

第8回 中間試験、

第9～14回 展開型ゲーム、

第15回 期末試験

履修上の留意点

授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。

成績評価の方法

成績は中間試験と期末試験によって評価します。

教科書／テキスト

岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ

参 考 書

ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

営B

履修コード	143731
科目名	ゲーム理論B
担当者名	かみじょう よしお 上條 良夫

講義の到達目標(ねらい) 本講義では「ゲーム理論A」を既に受講したものとして、より発展的なトピックについての解説を行います。ゲーム理論Aよりも理論の応用方面にスポットを当てていく予定です。

経済学や経営学、心理学、生物学などの様々な分野において、ゲーム理論は有用な分析手法として用いられており、学際的な総合的理論の1つと見なされています。ゲーム理論の応用を通じて戦略的思考方法を身につける事を目標としています。

講義の内容／授業スケジュール 第1回 ゲーム理論の応用と社会的役割、

第2～4回 標準型ゲーム

(1) 再論：ナッシュ均衡、

(2) ナッシュ均衡の存在証明、

(3) 様々な応用例、

第5～6回 展開型ゲーム

(1) 再論：サブゲーム完全ナッシュ均衡、

(2) 展開型ゲームの応用：シュタッケルベルグ均衡、

第7回 中間試験、

第8～9回 展開型ゲーム

(3) 繰り返しゲーム、

(4) 繰り返しゲーム：トリガー戦略、

第10～14回 不完備情報ゲーム

(1) ベイジアン・ナッシュ均衡、

(2) オークションの理論、

(3) オークションの理論2、

(4) 完全ベイジアン均衡、

(5) シグナリングゲーム、

第15回 期末試験

履修上の留意点

授業に出席するだけでなく、教科書や参考文献を読んで自分の頭で考える事が重要になります。わからない事柄をそのままにして進まないように気をつけてください。

成績評価の方法

成績は中間試験と期末試験によって評価します。

教科書／テキスト

岡田章 著『ゲーム理論・入門』有斐閣アルマ

参 考 書

ギボンズ著『経済学のためのゲーム理論入門』創文社

履修コード	144801
科目名	特殊講義Ⅰ〔現代のビジネスモデル〕
担当者名	<small>さるやま よしひろ</small> 猿山 義広

講義の到達目標(ねらい)

本講座は、「現代のビジネスモデル」をテーマに、起業家の育成を目的として、約3分の2は実務者によって講義される。実社会の動向がわかるようになるだけでなく、自らが考えた企画がそのまま評価の対象となるので、プレゼンテーション能力や企画力を養うこともできる。

講義の内容/
授業スケジュール

以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認していくこと。

第1回 ガイダンス、第2回 事業計画書作成の方法、第3回 プレゼンテーションの方法、第4回 ビジネスモデルの事例研究(1)、第5回 ビジネスモデルの事例研究(2)、第6回 ビジネスモデルの事例研究(3)、第7回 事業計画書とビジネスモデル、第8回 ビジネスモデルの事例研究(4)、第9回 ビジネスモデルの事例研究(5)、第10回 ビジネスモデルの事例研究(6)、第11回 プレゼンテーション(1)、第12回 プレゼンテーション(2)、第13回 プレゼンテーションの講評、第14回 これからのビジネスモデル、第15回 まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

事業計画書の提出とレポート試験を課す。詳細については初回の授業で述べる。
指定されたテーマで作成してもらった事業計画案とレポート試験を評価対象とする。
毎回資料を配布する。プレゼンテーションではパワーポイントを用いる。
適宜、授業中に紹介する。
外部の特別講師による講義では、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

営B

履修コード	101203
科目名	特殊講義Ⅱ〔現代の資本主義と証券市場〕
担当者名	<small>えんじつ あかね</small> 江夏 あかね

講義の到達目標(ねらい)

本講座は、「現代の資本主義と証券市場」をテーマとして、外資系金融機関の現役アナリストによって講義が行われる。証券市場に関する基礎から出発するため、証券業務に初めて触れる者にも十分対応しうる授業である。また、講義においては、主にクレジット市場で注目されているニュース等を題材としたケース・スタディーなどを通じて、実践に即した機会を設ける。証券業界のみならず、広く金融業界への就職を検討する際に大いに参考になることが期待される。

講義の内容/
授業スケジュール

以下の進行を予定しているが、講師の都合によって変更される場合があるので、毎回の授業においてスケジュールを確認しておくこと。

第1回 ガイダンス
第2回 金融・経済関連情報の捉え方
第3回 証券投資のリスク・リターンの概念
第4回 証券市場の概要と市場参加者
第5回 債券市場の役割と債券の基礎知識
第6回 債券市場のインフラおよび格付けの基礎
第7回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(1)
第8回 社債等民間セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(2)
第9回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(地方債-1)
第10回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(地方債-2)
第11回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(財投機関債-1)
第12回 公的セクター・クレジット市場の概要とクレジット分析の基礎(財投機関債-2)
第13回 海外クレジット市場の概要および最近の動き
第14回 レポートの講評
第15回 まとめ

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

定期試験とレポートで評価する。
毎回資料を配布する。授業ではパワーポイントを用いる予定。
江夏あかね『地方債の格付けとクレジット』商事法務、¥4,725、978-4785716172。
代田純『日本の国債・地方債と公的金融』税務経理協会、¥2,100、978-4419048792。
金融機関の現役社員による講義であり、定刻に開始し、4年生の就職活動による場合を除き、原則として遅刻は認めない。授業中の私語は厳禁。受講態度に問題がある場合、退室を指導することがある。

履修コード	140851
科目名	e-ビジネス
担当者名	やすおか ひろあゆ 安岡 寛道

講義の到達目標(ねらい) 日々進化するeビジネスを概観し、経営学の一つとして体系立てて理解することを目的とする。また、社会人になる、さらにはいつの日か起業する際の基礎知識として準備することも目的としたい。下記のステップでeビジネスの講義を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

<前期>

(1) eビジネスの講義概要の紹介、(2) eビジネスの定義と状況、(3~5) BtoC ビジネス、(6~8) eマーケティング(広告等)、(9~11) BtoB ビジネス、(12~13) EC(電子商取引)のプロセス(物流・決済)

<後期>

(14~15) BtoBtoC ビジネス、(16~17) 媒体等のビジネス事例(ポータルサイト、ネット広告、オンラインゲーム等)、(18~20) 電子マネーと周辺ビジネス、(21~22) 技術、(23~24) ビジネスモデル特許、(25~26) イノベーションの視点

準備学習
履修上の留意点

eビジネス関連(電子マネー含む)の書籍を少しでも読んでおいてもらいたい。eビジネスの授業であるため、日ごろからインターネットを中心に、PC・ケータイ、および雑誌・新聞・TVのニュースなどを見て、自分なりの考えを持ち、電子マネー・おサイフケータイ、EC(電子商取引)などにも馴染んでもらいたい。

成績評価の方法

夏休み明け(授業内に回収)と年度末の2つのレポートで基本的に評価する。なお、毎回の出席状況もできるだけ考慮する。

教科書/テキスト

・幡鎌博『eビジネスの教科書』(改訂版)創成社、1900円、ISBN978-7944-2284-2 C3034

参 考 書

・梅田望夫『ウェブ進化論-本当の大変化はこれから始まる』筑摩書房、740円、ISBN4-480-06285-8 C0200

・小川浩、後藤康成『Web2.0 BOOK』インプレスジャパン、1800円、ISBN4-8443-2226-5 C3055

・野村総合研究所『2010年の企業通貨』東洋経済新報社、1600円、ISBN4-492-55562-4 C3034

・野村総合研究所『企業通貨マーケティング』東洋経済新報社、1700円、ISBN978-4-492-55603-0 C3034

・野村総合研究所『2015年のIDビジネス』東洋経済新報社、2000円、ISBN978-4-492-55642-9 C3034

そ の 他

授業の合間で、eビジネスの立上げの経験論なども交えて講義する。

関 連 リ ン ク

講師発表の電子マネー関連の資料は以下のURL
<http://www.fsa.go.jp/frtc/kenkyu/event/20090331/11-2.pdf>

営B

履修コード	141131
科目名	マーケティング・リサーチ A
担当者名	菅野 ^{かんの} 佐織 ^{さおり}

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、マーケティング・リサーチの役割とリサーチ設計、データ分析の基礎と、マーケティング・リサーチで用いられる主な分析手法について学びます。マーケティング・リサーチは、専門家を目指さない人にとっても企業戦略やブランド戦略を立案するための必要な知識や能となります。また、マーケティング・リサーチは、経験や実践から学ぶことも多いことから、授業においてチームで調査計画を策定、データを収集、分析することで、マーケティング・リサーチ・スキルの習得を目指します。
講義の内容／授業スケジュール	1. 授業計画の説明とイントロダクション 2. マーケティング・リサーチの基礎 3. SPSS の使い方 4～1 4. マーケティング・リサーチ実習 (単純集計・回帰分析) 1 5. 授業のまとめ・テスト
準備学習	この授業では、チームに分かれて、マーケティング・リサーチ課題・仮説を設定し、リサーチの計画立案から実施・分析を行っていきます。面白い課題や仮説を設定するためには、マーケティングの知識だけでなく、社会の動きに関する情報が欠かせません。日頃から、新聞などの情報に触れ、社会の動きについて関心を持つことが必要になります。
履修上の留意点	この授業ではパソコンによる実習 (エクセル・SPSS を使用) を行うため、毎回の授業に参加できることが前提となります。遅刻・欠席が多い方はご遠慮ください。また、履修希望者が一定の数を越えた場合には、人数を制限することがあります。履修希望者は必ず第1回目の授業に参加してください。やむを得ない事情により、第1回目の授業に参加できない場合には、事前に研究室まで連絡をするようにしてください (不在の場合にはメモで)。連絡がなかった場合には履修をお断りしますのでご注意ください。なお、マーケティング・リサーチ (A) 及び (B) を通期で履修する人を優先します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席点、課題への取り組み度合い、課題の出来 (理解度)、テストによって評価します。授業時に配布する資料をもとに講義を行います。授業の内容をより理解するためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。特に『データはウソをつく』を受講前に読んでおくこと。
参 考 書	谷岡一郎『データはウソをつく—科学的な社会調査の方法』2007年 (筑摩新書) 798円 ナレシュ・K・マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践～理論編～』2006年 (同友館) 9450円 D.A. アーカー& G.S. デイ『マーケティング・リサーチ』1981年 (白桃書房) 5208円

営 B

履修コード	141141
科目名	マーケティング・リサーチ B
担当者名	菅野 ^{かんの} 佐織 ^{さおり}

講義の到達目標(ねらい)	この授業では、マーケティング・リサーチ (A) で学んだ基礎を生かし、より高度なマーケティング・リサーチの分析手法について学びます。授業では、チームに分かれて、リサーチ計画を策定、データを収集、分析することで、より高度なマーケティング・リサーチ・スキルの習得を目指します。
講義の内容／授業スケジュール	1～7. 因子分析 8～1 4. コンジョイント分析またはクラスター分析 1 5. 授業のまとめ・テスト
準備学習	この授業では、チームに分かれて、マーケティング・リサーチ課題・仮説を設定し、リサーチの計画立案から実施・分析を行っていきます。面白い課題や仮説を設定するためには、マーケティングの知識だけでなく、社会の動きに関する情報が欠かせません。日頃から、新聞などの情報に触れ、社会の動きについて関心を持つことが必要になります。
履修上の留意点	この授業ではパソコンによる実習 (エクセル・SPSS を使用) を行うため、毎回の授業に参加できることが前提となります。遅刻・欠席が多い方はご遠慮ください。なお、本授業は、マーケティング・リサーチ (A) を履修した方を優先します。
成績評価の方法 教科書／テキスト	出席点、課題への取り組み度合い、課題の出来 (理解度)、テストによって評価します。授業時に配布する資料をもとに講義を行います。授業の内容をより理解するためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。
参 考 書	朝野照彦『入門 多変量解析の実際 第2版』2000年 (講談社) 2800円 ナレシュ・K・マルホトラ『マーケティング・リサーチの理論と実践～理論編～』2006年 (同友館) 9450円 D.A. アーカー& G.S. デイ『マーケティング・リサーチ』1981年 (白桃書房) 5208円

履修コード	141151
科目名	マーケティング・サイエンスA
担当者名	わかやま たいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を学ぶことにある。そのため、マーケティングサイエンスAでは、マーケティング諸理論及びそこで取り扱う様々なデータや統計解析手法について学び、市場と消費者に関する理論・モデルおよびマーケティングの戦略的側面に関する科学的アプローチについて学ぶ。
講義の内容／授業スケジュール	(1) 科学的アプローチによるマーケティング、 (2) 理論・モデルを通じた市場理解の方法、 (3) ～ (4) マーケティングデータと測定法・分析法、 (5) ～ (6) 市場の構造分析、 (7) ～ (8) 市場細分化、 (9) ～ (12) 消費者行動分析モデル、 (13) ～ (14) マーケティング戦略 (STP) に関する科学的アプローチ、 (15) まとめ
履修上の留意点	マーケティング関連科目を履修していること。また、統計学の基礎を身につけていることが望ましい。
成績評価の方法	数回の小テストと出席状況、期末レポート、期末試験により総合的に評価する。遅刻は出席にカウントしないことがある。小テストを受けたことがないものは期末レポートを受け付けられないことがある。
教科書／テキスト 参 考 書	必要に応じて配布あるいは、指示する。 必要に応じて配布あるいは、指示する。

営B

履修コード	141161
科目名	マーケティング・サイエンスB
担当者名	わかやま たいき 若山 大樹

講義の到達目標(ねらい)	本講義の目的は、マーケティング活動諸問題への科学的アプローチについて、その考え方と方法論を習得することである。そのため、マーケティング・サイエンスBでは、製品・サービスのデザインや価格、流通、プロモーションといったマーケティングの戦略的側面を議論する上で用いられるデータ分析手法を学び、マネジリアルな観点から議論するための素養を身につける。
講義の内容／授業スケジュール	(1) ～ (2) マーケティング戦略に対する科学的アプローチ、 (3) ～ (5) マーケット (市場、消費者) の異質性を論じるための科学的的方法、 (6) ～ (8) 市場の構造と購買要因間の関連性を論じるための科学的的方法、 (9) ～ (11) マーケティング活動の効果を分析し予測するための科学的的方法 (製品・サービスのデザイン、価格政策と反応、プロモーションと広告に関するモデルのまとめ)、 (12) ～ (14) マーケティングに関する実験的方法と反応・効果の測定及びマーケティング活動でよく用いられる多変量解析、 (15) まとめ
履修上の留意点	マーケティング・サイエンスAが履修済であることが望ましい。また、マーケティング関連科目 (例えば、統計学関連科目、心理学関連科目) を履修していること。PC教場で統計ソフトSPSSを使用する。
成績評価の方法	5～6回の小課題提出状況 (課題に取り組む姿勢) と出席、期末レポートにより総合的に評価する。
教科書／テキスト 参 考 書	必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。 必要に応じて配布あるいは、授業中に指示する。

履修コード	143221
科目名	製品開発論
担当者名	みやした 雄治

講義の到達目標(ねらい)

マーケティングの重要な機能である需要創造において、製品開発の果たす役割は大きく、理論的にも実践的にも製品開発はマーケティング・マネジメントの中核に位置付けられます。日本の多くの産業は、市場や技術の方向性が見えにくい成熟産業であり、本講義ではすでに成熟した市場における製品開発を中心テーマとし、マーケティングと技術経営 (Management of Technology) における諸成果をふまえて解説します。講義を通して、製品開発に関する基礎的な知識の習得と、現代の産業界の要請に対する製品開発のアプローチと課題について体系的な理解を深めることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

＜前期＞第1回：オリエンテーション、第2～4回：製品の類型と製品開発のプロセス、第5～7回：自動車産業にみる日本型製品開発、第8～9回：製品開発におけるデザイン戦略、第10～11回：欧州のブランド戦略、第12～14回：日本の製造業の強みと課題
 ＜後期＞第15～16回：21世紀の製造業の主要市場、第17～18回：将来の成長産業（事例紹介）、第19～20回：町工場が支えるモノづくり、第21～22回：イノベーションの体系、第23～25回：成熟市場の製品開発、第26～27回：成熟市場におけるマーケティング・リサーチ、第28回：これからの製品開発

成績評価の方法

成績評価は、授業内に行う課題を重視します（ほぼ毎回行う予定）。その他、定期試験と授業外のレポートを実施し総合的に評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

教科書・テキストは使わず、板書とビデオ教材を中心に授業を行います。
 ・川上智子『顧客志向の新製品開発—マーケティングと技術のインタフェイス』有斐閣、2005年。
 ・延岡健太郎『製品開発の知識』日本経済新聞社、2002年。
 ・上原征彦『マーケティング戦略論—実践パラダイムの再構築』有斐閣、1999年。

営 B

履修コード	143231
科目名	消費者行動論
担当者名	みやの さおり 佐織

講義の到達目標(ねらい)

この授業では、人の消費場面における心理的作用と、それらと企業のマーケティング活動の相互作用について考え、理解することを目的としています。今日の企業のマーケティング活動においては、消費者のインサイトを掴むことが欠かせません。この授業では、消費者の心理に関する理論を学ぶだけでなく、身近な事例や企業ケースを用いて、企業のマーケティング活動と消費者行動分析のリンクについて考えていきたいと思います。また、企業の方をお招きしての講義も予定しています。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 授業計画の説明とイントロダクション
 2～14. マーケティング戦略と消費者行動、消費者行動研究の歴史、消費者の購買意思決定過程
 15. 期末テスト
 16～29. 消費者の意思決定過程、消費者行動の影響要因
 30. 期末テスト

準備学習

新聞・書籍・雑誌などから情報を得るだけでなく、普段の生活や買い物行動における消費者の心理・行動について関心を持って観察してみましょう。

履修上の留意点

・授業環境の維持のため、授業中の私語や携帯電話の音など、受講態度が不良の学生は、即座に教場から退出させることがあります。
 ・講義中に印刷物を配布することがあるが、この印刷物は当該講義時間内にしか配布しません。やむを得ない事情により、印刷物配布時に欠席した場合には、次回講義までに知人に印刷物をコピーさせてもらうこと。
 ・この授業を履修するにあたっては、マーケティングの基礎的な知識が必要となります。そのため、マーケティング論を履修していない者の場合には、独学でマーケティングを勉強する必要があります。

成績評価の方法

出席点(数回)、レポート課題、定期試験によって評価します。

教科書／テキスト

授業時に資料を配布します。さらに理解を深めるためには、下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。

参 考 書

田中洋・清水聰編著『消費者・コミュニケーション戦略』(有斐閣アルマ) 2100円
 杉本徹雄『消費者理解のための心理学』1997年(福村出版) 2730円
 清水聰『新しい消費者行動』1999年(千倉書房) 3360円

履修コード	143241
科目名	マーケティング・コミュニケーション論
担当者名	<small>なかの かおり</small> 中野 香織

講義の到達目標(ねらい) マーケティング・コミュニケーション (MC) とは、企業が自社の製品やサービスについて、消費者に認知させ、購買を促進するために情報を発信する手段のことである。近年は、消費者のメディア接触形態の変化やマス広告の効果減少などを背景に、MCの領域が拡大してきている。そこで、日常生活で接するもの全てをコミュニケーションのためのメディアと捉える統合型マーケティング・コミュニケーション (IMC) が、今後重要となる。本講義では IMC を包括的に理解してもらうことを目的とし、理論的な説明に加えて事例紹介やゲスト (実務担当者) による講義等、実践的な説明も行う。

講義の内容／授業スケジュール 講義は3段階に分けて行う。初めにマーケティング・コミュニケーション (MC) の全体構造を説明する。次に MC を構成する具体的な戦略を説明し、最後に各 MC 戦略がどのように統合されるのかを IMC を用いて説明する。

(1~2) MC の全体構造 (3~7) 広告戦略 (8~11) 販売促進戦略 (12) ゲストスピーカー (13) 商品コミュニケーション戦略 (14) グループワーク (15) 前期のまとめ (16~17) 店舗内コミュニケーション戦略 (18~19) PR 戦略 (20~21) パーソナル・コミュニケーション戦略 (22~23) ダイレクトマーケティング戦略 (24) インタラクティブマーケティング戦略 (25) ゲストスピーカー (26~27) IMC 戦略 (28~29) グループワーク (30) まとめ
平常点30% (ワークなど)、中間試験30%、学期末試験40%で評価する。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

教科書は使わず、レジュメを配布する。
亀井昭宏・ルディー和子編『新マーケティング・コミュニケーション戦略論』(日本経済新聞出版社) 2,310円、石崎徹編『わかりやすい広告論』2008年刊(八千代出版) 2,835円、亀井昭宏・疋田聰編『新広告論』2005年刊(日本経済新聞社) 1,890円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊(電通) 2,100円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論新版』2008年刊(有斐閣) 2,205円

営 B

履修コード	143251
科目名	マーケティング・チャネル論
担当者名	<small>あおき しげき</small> 青木 茂樹

講義の到達目標(ねらい) 我が手にしている商品、とくにブランドとして認知されている商品は、ある一企業の戦略目的に基づき、他の流通パートナーをコントロールしながら成果を挙げていくために形成されたマーケティング・チャネルを経由してきている。

従来はメーカーがチャネル・リーダーとなっており、これらが形成され、卸売業、小売業がこれによりコントロールされてきた。近年は従来、被支配的な立場とされてきた卸売業や小売業が、主体的にチャネル・リーダーとなっており、自社のブランドを強めていく例も増えてきた。また新しいツールとしてのインターネットにおいて、チャネル構築を試みる中小企業や農林水産業者も出てきている。

本稿では、これまでの中心であったメーカーの国内マーケティング・チャネル戦略から、情報化・国際化の中で形成されていく新たなマーケティング・チャネルまでを考察していく。将来、マーケティングや営業を志向する学生にとっては必須の科目となろう。

講義の内容／授業スケジュール

- 1) ~4) メーカーによる垂直的マーケティング・チャネル
- 5) ~8) マーケティング・チャネル構築・管理の諸理論
- 9) ~13) プライベート・ブランドに見られるマーケティング・チャネル戦略
- 14) ~18) 国際マーケティングにおけるマーケティング・チャネル戦略
- 19) ~23) 農林水産物におけるマーケティング戦略とチャネル管理
- 24) ~27) インターネットにおけるマーケティング・チャネル管理
- 28) ~30) 生産財マーケティングにおけるマーケティング・チャネル管理

履修上の留意点

流通システム論を既習していることが望ましい。講義形式ではあるが、学生・教員相互に名札を付けるなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促す。

成績評価の方法

毎回の小テストと、個人レポート(またはテスト)の評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書／テキスト
参 考 書

小林哲・南知恵子(2004)『流通・営業戦略』有斐閣アルマ。
日経 MJ 編(2009)『日経 MJ トレンド情報 マーケティング・ハンドブック、(2010年版)』日本経済新聞社。
Erin Anderson, Louis W. Stern, Adel I. El-Ansary, Anne T. Coughlan(2001) Marketing Channels, The Prentice Hall, 978-0130127723。

履修コード	143271
科目名	グローバル・マーケティング論
担当者名	<small>うすい てつや</small> 臼井 哲也

講義の到達目標(わらい) 本講義の目的は、企業のマーケティング活動が国境を越えて展開される際の固有の問題について理解し、その解決策として期待される諸理論について学習することにある。とく多国籍企業のマーケティング活動に焦点をあてる。

講義の内容/
授業スケジュール

前期

- ① ガイダンス
- ② マーケティングの基礎
- ③ マーケティングが国境を越える意味
- ④ 海外市場参入1
- ⑤ 海外市場参入2
- ⑥ 国際マーケティング・リサーチ1
- ⑦ 国際マーケティング・リサーチ2
- ⑧ 国際市場の多様性
- ⑨ 国際市場細分化
- ⑩ 国際マーケティング標準化-適応化1
- ⑪ 国際マーケティング標準化-適応化2
- ⑫ 国際マーケティング標準化-適応化3
- ⑬ グループ演習1
- ⑭ グループ演習2
- ⑮ 前期まとめ

後期

- ① ガイダンスと前期復習
- ② 原産国効果
- ③ 広告表現の国際比較
- ④ グローバル・マーケティングの基礎
- ⑤ 標準化-適応化同時達成論1
- ⑥ 標準化-適応化同時達成論2
- ⑦ グローバル・マス・カスタマイゼーション1
- ⑧ グローバル・マス・カスタマイゼーション2
- ⑨ グローバル・マス・カスタマイゼーション3
- ⑩ 新興国市場の開発1-中国市場-
- ⑪ 新興国市場の開発2-BOP市場-
- ⑫ ボーン・グローバル企業のマーケティング
- ⑬ 個人演習1
- ⑭ 個人演習2
- ⑮ 後期まとめ

履修上の留意点

遅刻、私語厳禁。ルールを無視するものは直ちにFとする。

成績評価の方法

配布資料なし。自著ノート作成。国際経営論と併せて受講することを推奨する。

学期末試験と課題(レポートなど)を基本に総合的に評価する。詳しくは第1回のガイダンスにて説明するので必ず出席すること。

教科書/テキスト

特に指定しない

参 考 書

臼井哲也『戦略的マス・カスタマイゼーション研究-国際市場戦略の新視角』2006年刊(文眞堂)2,800円

営B

履修コード	143281
科目名	マーケティング史
担当者名	いしかわ かずお 石川 和男

講義の到達目標(ねらい)

マーケティングという学問?が誕生してからはや1世紀以上が経過した。経済学や法学など、他の社会科学分野の学問に比較すると、その歴史の長さは比べようもなく短く短いといわなければならない。しかし、マーケティングという「市場対応」に関する方法や技術が、20世紀の社会を変化させてきたこと、そして21世紀の社会を変化させる1つの基軸となることは間違いないであろう。そこで、本講義では、いかにマーケティングが市場対応をしてきたかという歴史を振り返ることで、これから将来にわたり、いかに市場対応することが必要か、またそれを実践できる元となるものを本講義では身につけてもらいたい。講義ではさまざまな分野の産業におけるマーケティングの展開について触れる。それは経営史でも商業史でもなく、メーカーや流通業者などの主体がいかに市場に対応してきたかという足跡を辿ることになる。受講生には、ただ講義を聴くという姿勢ではなく、積極的に企業などの市場対応をしてきた歴史について関心を持つことを期待したい。

営B

講義の内容/
授業スケジュール

1. 開講にあたって、2. マーケティング史と経営史、商業史、経済史との違い、3. 戦前期の先駆的マーケティング(1) - 戦前期のマーケティングの形成、4. 戦前期の先駆的マーケティング(2) - 森永製菓、5. 戦前期の先駆的マーケティング(3) - 化粧品産業の発展と市場構造、6. 戦前期の先駆的マーケティング(4) - 資生堂、7. 戦前期の先駆的マーケティング(5) - 花王、8. 戦後の経済発展とマーケティング - 大衆消費社会の形成とマーケティング、9. 問屋制度とマーケティング(1) - 伝統的問屋制度と医薬品流通、10. 問屋制度とマーケティング(2) - 大正製薬、11. マーケティング企業の普遍化(1) - 松下電器産業、12. マーケティング企業の普遍化(2) - トヨタ自動車、13. マーケティング企業の普遍化(3) - トヨタ自動車、14. 小売業のマーケティング展開(1) - 小売業態変化、15. 小売業のマーケティング展開(2) - 百貨店、16. 小売業のマーケティング展開(3) - スーパーマーケット、17. 小売業のマーケティング展開(4) - その他の業態、18. 卸売業のマーケティング展開(1)、19. 卸売業のマーケティング展開(2) - 総合商社の発展、20. 卸売業のマーケティング展開(3) - 食品専門卸売の発展、21. グローバル化の進展とマーケティング(1) - 日本企業のグローバル化、22. グローバル化の進展とマーケティング(2) - ホンダ、23. グローバル化の進展とマーケティング(3) - ソニー、24. 展開期のマーケティング - マーケティングの刷新、25. マーケティング・コミュニケーションの進展、26. サービス・マーケティングの進展(1)、27. サービス・マーケティングの進展(2) - 外食産業の発展、28. サービス・マーケティングの進展(3) - 東京ディズニーリゾート、29. 非営利組織のマーケティング展開、30. これまでの講義のまとめ

履修上の留意点

1. 携帯電話の使用厳禁(使用を発見した場合は即刻受講中止。単位不認定)
2. 遅刻・早退・中抜け厳禁
3. 私語厳禁
4. 帽子着用、食厳禁
5. 公欠の取り扱い(運動部の公式試合、教育実習などの場合は証明書を提出のこと)
その他、開講時の1時間目に細かく指示。したがって、第1回目の授業時から出席の必要あり。

成績評価の方法

1. 出席点30
2. レポート30
3. 期末試験または期末レポート40

教科書/テキスト

特に指定しない

参 考 書

小原博(1994)『日本マーケティング史』中央経済社
日本経済新聞社編(1993)『流通現代史』日本経済新聞社
尾崎・神保編(2000)『マーケティングへの歴史的視角』同文館

そ の 他

第1回目の授業時に、重要なこととお話するつもりですので、必ず第1回目から出席すること

履修コード	144301
科目名	外書講読(独書)
担当者名	やぶした こういち 数下 紘一

講義の到達目標(ねらい)

今までのドイツ語学習の上に立って、専門の、現場のドイツ語を習得する。

講義の内容/
授業スケジュール

1 講ビジネス会話、2～5 講電話での応対、アポイントを取る、秘書が取り次ぐ、一般的なトラブル、6～10 講ホテルに到着、トラブル、タクシー出迎え、紹介、商談(契約に関する問題)、取引の交渉、食事、11～15 講売付の取引をする、航空券の予約変更、16～20 講商業文の書き方、商業文の組み立て方、21～30 講いろいろな商業文の例(問い合わせ、回答、申し出、注文、注文受理、抗議文、督促状、その他)

履修上の留意点

家で辞書を引いて来る事。予習復習が大事。CDがついているので、家で何度も聞いて発音をしっかり覚えてくる。

成績評価の方法

前後期に各々40点満点の試験を実施し、平常点最高20点をくわえる。

教科書/テキスト

『ビジネスドイツ語』(三修社、¥2,800+税)

そ の 他

日常新聞や業界紙に目を通しておいください。

履修コード	144401
科目名	外書講読（仏書）
担当者名	桑田 禮彰 <small>くわたのりあき</small>

講義の到達目標(ねらい)

フランス語の基礎を習得した学生を対象に、フランス語で書かれた経済・経営に関する文献をテキストとして講読することによって、フランス語の読解力を養うとともに、経済・経営に関する知識を深めることを目標とします。テキストは、日本に関するもの、ヨーロッパに関するもの、グローバルイゼーションに関するものなど多様な選択肢がありますが、授業開始時に履修者の関心に沿った形で決定することとします。フランス語の読解力養成のために、できるかぎり平易な文法説明・内容解説を心がけるつもりです。

講義の内容／
授業スケジュール

まず発音の基本をしっかりと復習した上で、はじめは初級文法を再確認しながらテキストをゆっくり読んでいきます。受講者に読解力がついてきたら多少ペースを上げ、中級文法説明や内容解説に時間をかける予定です。

(1) 受講上の諸注意 (2) 発音の基本の復習 (3)～(15) 初級文法復習を中心としたテキスト読解 (16)～(29) 中級文法説明・内容解説を中心としたテキスト読解 (30) 復習と今後のフランス語学習について

履修上の留意点

発音練習や文法理解のために最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法

前期末授業内試験(50%)と学年末試験(50%)の結果を基本に、出席状況・授業態度等を勘案し総合的に評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

授業開始時に受講者と相談の上決定。
そのつど授業で指示します。

営B

履修コード	144501
科目名	外書講読（中国書）
担当者名	佐藤 普美子 <small>さとうふみこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

近年の中国社会の世相を反映する「流行語」や「文化キーワード」(文化キーワード)に関する解説文(主として、新聞・雑誌記事)を読み、生活に根づく伝統と急速な変化の両面から同時代中国への理解を深める。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回：導論。第2～5回：映画・ドラマに関するトピック(以下同様)。第6～9回：教育。第10～13回：文学・芸術。第14～17回：衣食住(1)。第18～21回：時事・政治。第22～25回：旅行・健康。第26～29回：衣食住(2)。第30回：学期末試験。

準備学習
成績評価の方法

予習は不可欠です。
出席・予習の有無等の平常点(6割)と学期末試験(4割)を基本にして総合的に評価します。

教科書／テキスト
参 考 書

開講時に教材プリントを配布します。
辞書は必携です。購入に際しては下記 URL を参考にしてください。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/gakujoho/zhohjisho>

履修コード	144601
科目名	外書講読（スペイン書）
担当者名	上野 勝広 <small>うえのかつひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)

専門書をひとりで読みこなすことができるよう、1年次、2年次で学んだスペイン語の基礎の上に、読解力を養う訓練をします。

講義の内容／
授業スケジュール

スペイン語圏および日本の社会と文化に関するテキストを読みます。同時に必要な文法事項を以下の予定で確認します。

履修上の留意点

前期(1)オリエンテーション(2～5)自動詞・再帰動詞・他動詞の構文、など(6～10)連結動詞の構文、など(11～15)関係節、など
後期(16～20)副詞節、など(21～25)受動構文、など(26～30)比較構文、など

スペイン語の基礎文法をしっかりと復習しておくこと。現代のスペイン語文に親しんでもらうため、できるだけ多量のテキストを読んでもらいます。予習復習は欠かせません。また個々の受講者の興味、関心、専攻と結びつけてテキストに関してのコメントを求めます。動機を明確にしておきましょう。スペイン語圏に真面目に関心のある学生の受講を期待します。

成績評価の方法

毎回の授業参加と、各回の達成度チェックによります。試験やレポートは課さず、平常点で評価します。

教科書／テキスト

プリント使用。

履修コード	144701
科目名	外書講読（ロシア書）
担当者名	<small>すぎやま けいこ</small> 杉山 秀子

講義の到達目標(ねらい)	ビデオ、DVDを見て最低限のロシア事情についての知識を得るとともに、最低限のロシア語学習をしてもらいます。それができない人は最初から履修を断わる場合があります。
講義の内容／ 授業スケジュール	4—9月 ロシアを紹介したビデオ、DVDをみる。真似てみたい表現をパソコンでうってみる。 10月—12月 インターネットでリアルタイムのニュースをみて、カッコいい殺し文句を覚えてみよう。
履修上の留意点	パソコンルームでパソコンを動かすので、できるだけ早くパソコン操作になれて貰いたい。
成績評価の方法	定期試験はおこなわないが、毎回小テストをする。また出席は重視するので単位取得のみを目的の人は最初から履修しないこと。
教科書／テキスト	教室で配布

営B

專 門 教 育 科 目

医療

3. 医 療 健 康 科 学 部

履修コード	152701
科目名	放射線物理学
担当者名	小川 雅生

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

- 診療放射線学に関連する基礎的な物理を学ぶ。
- 1 回 電子、光子、陽子、中性子、物理定数
 - 2 回 光の粒子性、粒子の波動性、プランク定数、ド・ブロイ波長
 - 3-4 回 ボーアの原子模型
 - 5-6 回 特性X線、オージェ電子、蛍光収率、モズレーの法則
 - 7-8 回 制動X線の発生とスペクトル
 - 9 回 原子核の世界、核子、同位体、結合エネルギー
 - 10 回 原子核の壊変、放射能、半減期、放射平衡
 - 11-12 回 ベータ壊変、ニュートリノ、レプトン
 - 13-14 回 β +壊変、電子捕獲
 - 15-16 回 光子と物質の相互作用、光電効果
 - 17-18 回 コンプトン散乱、対生成
 - 19 回 光子の減弱、減弱係数、作用断面積
 - 20 回 コンプトン端、陽電子消滅
 - 21 回 ガンマ壊変、ガンマ線スペクトル
 - 22 回 吸収端、原子模型との関係
 - 23 回 荷電粒子の阻止能
 - 24-25 回 飛程、ストラグリング、ブラッグピーク、LET
 - 26-27 回 電子の阻止能、減弱係数、臨界エネルギー
 - 28 回 アルファ壊変、ガイガー・ヌッタルの法則
 - 29 回 核磁気モーメント、核磁気共鳴
 - 30 回 原子核のアイソマー、内部転換電子

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

講義において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。定期試験の他に、講義中に行う演習問題および出席状況により評価する。教科書は使用しない。図表などの資料をプリントあるいは学内メールで配布する。放射線物理学(多田順一郎著、オーム社)、アイソトープ手帳(日本アイソトープ協会編、丸善)を推薦する。

医療

履修コード	152801
科目名	電気工学
担当者名	佐藤 昌憲

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

- 交流回路理論の基礎知識を得ることを目的としているこの科目は、診療放射線技師国家試験科目であるので、十分な演習と中間テストも合わせて講義をする。
- 次の内容で授業を進める。
- 1) 交流回路の基礎
 - 2) 交流の平均値・実効値
 - 3) 正弦波交流の基本回路
 - 4) 交流の直列回路
 - 5) 交流の並列回路
 - 6) 交流の電力
 - 7) 複素数とベクトル
 - 8) 交流回路の計算
 - 9) 相互インダクタンスを含む回路の計算
 - 10) 三相交流の基礎
 - 11) 三相の結線方法と電圧・電流の関係
 - 12) 三相交流の電力と力率
 - 13) 平衡三相交流回路の計算
 - 14) 電気計測(電圧・電流・電力の測定)

成績評価の方法
教科書/テキスト

中間テストと定期テストの結果より評価する。また、授業の出席数や課題レポートも加味する。『電気基礎下』(東京電機大学)

履修コード	152901
科目名	放射線機器概論
担当者名	なご やすのぶ 名古 安伸

講義の到達目標(ねらい) 診療放射線業務を行うには医療用放射線機器や器具が必要である。それらのうち診療用の各種X線機器・装置・用具の構造・動作原理や取扱い方法・精度維持や安全管理に必要な知識を習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) X線画像機器の概要
- (2) X線発生装置：X線管装置
- (3) X線発生装置：X線管容器、絞り装置
- (4) X線発生装置：X線用高電圧ケーブル、X線高電圧発生装置
- (5) X線発生装置：X線制御装置、電源設備
- (6) X線機械装置：X線透視撮影装置
- (7) X線機械装置：保持装置、X線撮影台
- (8) X線機械装置：乳房用X線装置、その他の特殊装置
- (9) 映像装置・画像関連用品：散乱X線除去用グリッド、フィルムカセット
- (10) 画像検出装置：コンピューテッドラジオグラフィ、X線平面検出器
- (11) 診断用X線システム：一般X線検査システム
- (12) 診断用X線システム：特殊X線検査システム
- (13) 診断用X線システム：頭腹部・四肢血管撮影装置と関連機器
- (14) 診断用X線システム：心臓・大血管撮影用装置と関連機器
- (15) X線機器の保守管理

履修上の留意点

診療放射線技師として必要なX線装置の基本的講義です。教科書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

定期試験の結果および出席状況により評価します。
『診療放射線技術』上巻(南江堂)6,800円

医療

履修コード	153001・153002
科目名	画像工学概論Ⅰ 放射線写真学
担当者名	ふるかわ かつはる 古川 克治

講義の到達目標(ねらい)

近年、医用画像の表示法は大きく変化、狭義の放射線写真学のウェイトは激減している。しかしながら、「より良い医用画像を診断側へ提供する」という課題は何ら変わっていない。この現実を踏まえ、画像工学、医用画像情報学と放射線写真学のバランスをとり、講義内容を重点化し、国試にも対応した洞察力の育成を図る。

1. アナログ画像（スクリーン/フィルム系を中心）とデジタル系（Dry フィルムを中心）の画像形成全般について
2. アナログ画像、デジタル画像など 2次元医用画像の画像評価（感度、コントラスト、鮮鋭度、粒状性）
3. デジタル画像の保管・伝送、と各種医用廃棄物、環境問題

講義の内容/
授業スケジュール

・講義内容

- ①、医用画像情報学概論；医用画像情報学とは、生体情報の可視化、画像（カラー画像含む）の視・知覚
- ②、X線画像形成学；AgXの感光理論、各種写真現象とスクリーン/フィルム系におけるX線画像の成り立ち、広義の現像処理、X線センサー・Dryフィルムを中心としたデジタル系画像の成り立ち
- ③、画像評価；信号の入出力特性（特性曲線）、アナログ&デジタル画像における各種画質評価法（コントラスト、鮮鋭度、粒状性）、総合画質評価等
- ④、その他；画像の保管・伝送、視覚評価、医用廃棄物と環境

・スケジュール

上記内容に沿って、H22年09月～12月迄、約13回で実施。

履修上の留意点

1. ミニテストやレポート提出を期間中、数回実施し、理解度を確認する。
2. 教科書、準教科書、配布する参考文献、PC、臨床写真等で理解を深める。
3. 各種写真（基礎実験、臨床）を供覧、理論と実際を習得する。

成績評価の方法

期末試験を重視、ミニテストや出席点も参考に最終評価する。

教科書/テキスト

『医用画像情報学』 桂川 茂彦 編 南山堂発行 ¥3,300円
 (準教科書 「放射線写真学」富士フィルムメディカル(株) 編&発行、入手可能であれば)

参 考 書

- ① 『改訂写真工学の基礎 [銀塩写真編]』 日本写真学会編 コロナ社
- ② 『写真の科学』 友田 宜忠 編 通商産業研究社
- ③ 『写真の化学』 笹井 明 写真工業出版社
- ④ 『放射線画像情報工学』 内田 勝 通商産業研究社
- ⑤ 『The Theory of the Photographic Process.』 4th Ed T.H. James, Macmillan Co.
- ⑥ 『医用画像工学ハンドブック』 日本画像工学会 監修
- ⑦ 『Christensen's Introduction to the Physics of Diagnostic Radiology』 T.S.Curry et.al., Lea & Febiger' 84

医療

履修コード	153101
科目名	解剖学
担当者名	嶋田 守男 <small>しまだ まりお</small>

講義の到達目標(ねらい) 解剖学は人体の正常な形態と構造を研究する学問である。我々の身体の正常形態および構造を理解することは、疾病患者の異常を理解する上で非常に大切なことである。これゆえに、解剖学は、現代医学とくに放射線医学を理解するうえで最も基礎となる重要な分野である。そのために要点を確実に習得する必要がある。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1-4) 骨格系
- (5-6) 筋系
- (7) 脈管系
- (8) 消化器系
- (9) 呼吸器系
- (10) 泌尿器系
- (11) 生殖器系
- (12) 内分泌系
- (13) 神経系
- (14) 感覚器系
- (15) 発生学に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書での予習、講義後の復習、テストを通して正確な知識を得るように努めること。
(必須記載項目)

教科書／テキスト

出席と期末試験によって成績を評価する。
藤田恒夫著『入門人体解剖学』(南江堂) 5,000円

医療

履修コード	153201
科目名	環境保健医学
担当者名	黒子 幸一 <small>くろこ こういち</small>

講義の到達目標(ねらい) 人間を取り巻く環境が健康に及ぼす影響と疾患との関係、疾病予防についての基礎的知識の習得を目的とする

講義の内容／
授業スケジュール

健康を阻害する疾病、社会要因、環境因子を理解するために年齢別疾病罹患(高齢化社会の疾病)、環境因子の地域差・推移を知り、予防医学的考察まで進める

履修上の留意点
成績評価の方法

小テスト、レポート提出を実施する
定期試験、小テスト、レポート、出席状況により評価する

教科書／テキスト

『シンプル衛生公衆衛生学』(南江堂) 2,400円

参 考 書
そ の 他

『国民衛生の動向』厚生指針(厚生統計協会)

授業方法は講義形式を主にビデオ学習、グループディスカッション、ロールプレイを行う
プリント配布、講義スライド資料配布予定

履修コード	153301
科目名	診療画像技術学概論
担当者名	西尾 誠示 <small>にしお せいじ</small>

講義の到達目標(ねらい)	医療の場において診療放射線技師の果たす役割とその関連事項、及び診療画像技術学を学ぶ上で基礎となる X 線画像の基礎知識について講義を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1) 医療社会の構成、医療・病院の仕組みについて (2) 放射線学の歴史、診療放射線技師の役割、将来の展望等について (3) 診療放射線学とチーム医療について (4) X 線の発生、線質、減弱、物質との相互作用、写真効果などについて (5) X 線照射によって生じる写真効果と画像の拡大、歪み、重畳効果など (6) 写真濃度とフィルムの特性曲線について (7) 被写体コントラストと写真コントラストについて (8) 鮮鋭度と粒状度(性)について (9) 管電圧、散乱線とグリッド、フィルム・増感紙などについて (10) 最適な画像を得るための理論的な考え方、課題と改善策について (11) 医療画像検査を行う上で重要な基準線、名称などについて (12) 画像検査の種類と特殊撮影の原理・応用 (13) 単純撮影について (14) 造影剤を用いた画像検査について (15) まとめ
履修上の留意点	講義用の Power Point に要点を示してあるので、ノートに取ること。
成績評価の方法	定期試験を基準にするが、勉学意欲も参考にする。
教科書／テキスト	立入弘著『診療放射線技術』(南江堂) 6,800円
参考書	講義用 CD 及びプリント
その他	授業中に質問あるいは意見を求める。

医療

履修コード	202401
科目名	保健理論
担当者名	黒子 幸一 <small>くろこ こういち</small>

講義の到達目標(ねらい)	保健一般について医療の現場で行われているプライマリーケア、緩和ケアを理解することを目的とする。
講義の内容／ 授業スケジュール	医療に従事する上で必要な事項を理解するため、医療倫理については患者の人権・自己決定権、インフォームドコンセント、安楽死・尊厳死、蘇生と D N A R、体外受精、遺伝子医療を考える、このほか 3 大疾患、生活習慣病、禁煙活動、メンタルヘルスについて理解する。
履修上の留意点	小テスト、レポート提出を実施する。
成績評価の方法	定期試験、小テスト、レポート、出席状況により評価する。
教科書／テキスト	『シンプル衛生公衆衛生学』(南江堂) 2,400円
参考書	『臨床緩和ケア』(青海社) 2,800円 『医療倫理』(勁草書房) 3,000円
その他	授業方式は講義形式を主にビデオ学習、グループディスカッション、ロールプレイを行う。 プリント配布、講義スライド資料配布予定

履修コード	153501・153601
科目名	医用物理学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲・小川 雅生・鳥山 保・羽生 毅・藤森 成一

講義の到達目標(ねらい) 多くの学生にとっては初めての実験であると思われるので、前半・後半と分けて、前半は器具・機器の扱い方の学習をする。後半はデータを処理する方法の実験をする。現象を通じて理論を理解することも同時に身に付けてもらいたい。

講義の内容／授業スケジュール 内容は手引書を製作してあるのでこれを参照すること。少人数で実験をするために班分けをする。そのためにスケジュールは個々によって異なる。入学後のガイダンスの際に班分けスケジュールを発表する。

1. ガイダンス
2. 放射線実験室の立ち入り方
3. パソコンによるレポート作成法
4. 直流回路（電界）
5. 交流回路（磁界）
6. Excel関数の使用法
7. 計測に関する統計と誤差
8. GM計数管のプラトーの測定
9. サーベイメータの使い方
10. 電離箱の平衡厚測定
11. X線の実効エネルギーの算定

成績評価の方法 1. レポート 2. 実験 3. 質疑応答 4. 調査・検索について点数化して総得点で評価する。

教科書／テキスト 実験のために用意した手引書を制作してある。

医療

履修コード	153701・153801
科目名	医用化学実験〔実験〕
担当者名	原田 和正・秋山 稔・本多 貴之・山岸 賢司・山本 裕右

講義の到達目標(ねらい) 医療分野において必要な化学に関する実験を通して、化学の基本原理や概念を理解すると共に、化学実験における基本操作、薬品取扱時の基礎知識を学ぶ。また、実験で得られたデータを客観的に評価し、分子レベルで化学的に考察してレポートにまとめる能力を育成する。

講義の内容／授業スケジュール

1. ガイダンス
2. ガラス細工、器具の洗浄
3. 容量、重量の測定、試薬の調製法
4. ハロゲン化銀の感光性と現像、定着試薬との反応
5. 中和滴定による酸の定量
6. 薄層クロマトグラフィーによるアミノ酸の分離・同定
7. 分子模型実習
8. pHメータによる緩衝能の測定
9. 硫酸銅(II)五水和物の合成
10. ヨウ素滴定による銅(II)の定量
11. o-フェナントロリン法による鉄(II)の比色分析
12. イオン交換樹脂の交換容量の測定
- 13~15. レポート指導

履修上の留意点 化学実験には危険や事故が付きまとうため、ガイダンスでの注意事項を厳守すること。

成績評価の方法 平常点、レポート、定期試験により評価する。

教科書／テキスト プリント使用

参 考 書 第7版『実験を安全に行うために―事故・災害防止編』(化学同人) 800円
第3版『(続) 実験を安全に行うために―基本操作・基本測定編』(化学同人) 800円
以上2冊は、実験時に常に持参すること。

そ の 他 関数電卓を持参すること。また、必要に応じ、グラフ用紙等を用意すること。

履修コード	153901
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	西尾 誠示・飯田 幸雄・熊坂 さつき・古川 克治

講義の到達目標(ねらい)

X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得する。
X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について実験を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) X線量と写真濃度
被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。
- (2) 撮影条件表の作成
アクリル板を用い、その厚さの変化に対する適正な線量、電圧を求め、条件表を作成する。
- (3) 照射野の線量分布と撮影距離
X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、その濃度を相対露光量に変換することによって照射野内のX線分布を把握する。
- (4) フィルムの特性曲線の作成
距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と露光量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。
- (5) 撮影電圧とコントラスト
管電圧とファントムの厚さを変化させ、線質や被写体の違いが画質に及ぼす影響を調べる。
X線吸収差の少ない被写体のコントラストを評価する。
- (6) 増感紙の感度
フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。
- (7) フィルム・増感紙の鮮鋭度/解像力
X線テストチャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。マイクロデンシトメータの取扱いを習得する。
- (8) 散乱線の評価
上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。
- (9) グリッドの性能評価
鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。
ガイダンスで配布したプリントを授業前に読んでくること。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。
定期試験、レポートについて総合的に判定する。
但し、受験資格は全レポートを提出したものに限り、
実験マニュアルを配布する。
立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂)6,800円
他人のレポートをコピーして提出するなどの不正行為は本科目の受験資格を失います。

医療

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト
参考書
その他

履修コード	154001
科目名	診療画像技術学実験〔実験〕
担当者名	にしお せいじ さいだ けいお、くまさか さつき、ふるかわ かつはる 西尾 誠示・飯田 幸雄・熊坂 さつき・古川 克治

講義の到達目標(ねらい)

X線装置及び周辺機器の構造を理解し、正しい使用法を習得する。
X線画像を左右する要因と基礎的な画質評価について実験を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) X線量と写真濃度
被検体からより多い情報を得るための適切な線量を求める。ファントムを用いて、照射を行いX線の吸収と写真濃度を理解する。
- (2) 撮影条件表の作成
アクリル板を用い、その厚さの変化に対する適正な線量、電圧を求め、条件表を作成する。
- (3) 照射野の線量分布と撮影距離
X線照射野とフィルム・X線焦点間距離を変化させ写真濃度を測定し、照射野内のX線分布を把握する。
- (4) フィルムの特性曲線の作成
距離の逆二乗則を利用した距離法にて複数の特性曲線を作成する。特性曲線と線量の関係を理解するとともに、その利用方法を学ぶ。
- (5) 撮影電圧とコントラスト
電圧とフィルター厚を変化させ、線質の違いが画質に及ぼす影響を調べる。
X線吸収差の少ない被写体のコントラスト、微小検体の描出度を評価する。
- (6) 増感紙の感度
フィルムの特性曲線を作成し、各種増感紙の相対感度を求める。増感紙とフィルムの正しい組合せ、および感度と被曝線量の関係について学習する。
- (7) フィルム・増感紙の鮮鋭度／解像力
矩形波チャートを用いて、フィルム・増感紙の鮮鋭度を求める。マイクロデンシトメータの取扱いを習得する。
- (8) 散乱線の評価
上記の特性曲線を用いて、鉛ディスク法による散乱線含有率を求める。被写体厚と照射野を変化させて散乱線の量を測定し、臨床における量を把握する。
- (9) グリッドの性能評価
鉛ディスク法にて散乱線透過率、直接線透過率、全X線透過率から露出倍数、コントラスト改善度、選択度を求め、グリッドの基本的性能を評価する。

準備学習
履修上の留意点

ガイダンスで配布したプリントを授業前に読んでおくこと。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
実験マニュアルを事前によく読んで、内容を把握しておくこと。

成績評価の方法

定期試験、レポートについて総合的に判定する。
但し、受験資格は全レポートを提出したものに限る。

教科書／テキスト

参 考 書
そ の 他

実験マニュアルを配布する。
立入弘監修「診療放射線技術上巻」(南江堂) 6,800円
レポートの不正行為は本科目の受験資格を失うので注意すること。

医療

履修コード	153401
科目名	応用数学
担当者名	野口 勝 <small>のぐち まさる</small>

講義の到達目標(わらい) 「基礎数学」で学んだ微分・積分の知識をさらに発展させ、大学理工系としての数学の基礎を学ぶ。これにより、本学部・学科の専門科目で学ぶ高度な医療画像技術を理解するために必要となる基本的な数学の力を身につけることが目標である。

講義の内容／
授業スケジュール 微分・積分の応用、発展として以下を学ぶ。
1. 偏微分 (第1～5回)
2変数関数、偏導関数とその応用等
2. 二重積分 (第6～10回)
二重積分とその応用等
3. 微分方程式 (第11～20回)
1階微分方程式、定数係数線形微分方程式等
4. フーリエ変換 (第21～30回)
フーリエ級数、フーリエ変換等

準備学習
履修上の留意点 スケジュール表により、きょう勉強する事は何か、をしっかりと意識して授業に臨んで欲しい。
数学は基礎の積み重ねが重要である。したがって毎回行う演習に真剣に取り組み、今日学んだことは今日習得する、という姿勢で臨むこと。また必要に応じて「基礎数学」で学んだ微分・積分を復習すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト 2～3回の理解度確認テスト、および学習態度の総合点による。
参 考 書 矢野・石原『科学技術者のための基礎数学』(裳華房), 2,700円+税, ISBN978-4-7853-1035-6
そ の 他 必要に応じて資料を配付する。
「解を暗記するのではなく、考え方を理解する」ということが数学力向上のポイントである。この意識をしっかりと持とう!

医療

履修コード	154901
科目名	医学概論
担当者名	吉川 宏起 <small>よしかわ こうき</small>

講義の到達目標(わらい) 現代医学で行われている実際の医療について幅広く理解し、その中での放射線医学の役割について理解する。さらに医療従事者として必要な人権を尊重した医療倫理について考察する。

講義の内容／
授業スケジュール (1、2) 医学の定義、生命とは、生活習慣病、QOL、インフォームドコンセント、IRB
(3、4) 医学の起源、近代の医学(X線の発見)、治療医学の展開、予防医学の展開、医用電子工学(ME)の展開
(5、6) 病気の内因(免疫)、病気の外因、メタボリック症候群
(7、8) 病変の分類1: 血行性病変(出血、梗塞、血栓症、塞栓症)
(9、10) 病変の分類2: 進行性病変、退行性病変、炎症性病変
(11、12) 病変の分類3: 腫瘍、奇形、染色体異常
(13) 予防医学と衛生学、生活習慣病の予防
(14) 医療システムとその役割、一次医療(プライマリケア)、二次医療、救急医療、保健診療
履修上の留意点 現代医学の発展に関する基礎的知識を修得することと、日常で起こる医学に関する問題について考える習慣をつける。

成績評価の方法
教科書／テキスト 出席率、授業時間内の小テスト、定期の筆記試験。
参 考 書 使用しない。プリントを配布する。
日野原重明著『医学概論』(医学書院)1,600円

履修コード	155001
科目名	臨床医学概論
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい)	医学概論で学んだ基礎知識を基に、更に一步進めて最近注目をあびている生活習慣病などに焦点をあててその主要疾患について放射線画像診断と放射線治療学との関連性を中心に解説する。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1—3) 生活習慣病、画像診断、放射線治療の概説 (4—6) 生活習慣病：がん (7—9) 生活習慣病：虚血性心疾患 (10—12) 生活習慣病：脳卒中 (13) メタボリック症候群 (14) 放射線診療における造影剤の有用性と副作用 (15) 救急医療における放射線診療の役割に分けて系統的に学習する
履修上の留意点	診療放射線技師として必須の種々の疾患概念を理解し、実際の臨床医学に結びつく放射線医学(放射線診断学、核医学、放射線治療学)への基礎的知識を獲得することが重要である。
成績評価の方法 教科書/テキスト	授業の出席率と定期試験にて成績を評価する。 使用しない。プリントを配布する。

医療

履修コード	155101
科目名	放射線生物学
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい)	この科目は放射線技師の国家試験に出題される内容を中心に授業を行う。放射線が生物に及ぼす影響を、分子や細胞のレベルから個体や集団のレベルに至るまで総合的に理解する。それによって、今後治療技術学や安全管理学を学んでいく上での基礎となる「被ばくの影響を正しく評価するための知識」を身につける。 20世紀後半における分子遺伝学の進歩によって、生物への放射線影響の解析は著しく進歩した。この講義では、高線量及び低線量の放射線の生物影響研究の最新の知識を伝えたい。
講義の内容/ 授業スケジュール	1 放射線生物学の基礎：細胞、遺伝 2 生物作用の初期過程：物理・化学・生化学的作用 3 放射線による細胞死、細胞の生存率曲線とその解析：標的理論、LQモデル 4 放射線影響の修飾：LET、線量率、分割照射、酸素、温度、細胞周期など 5 DNA損傷とその修復、遺伝子突然変異と染色体異常 6 細胞への影響：分裂遅延、アポトーシスとネクローシス、適応応答、バイスタンダー効果 7 組織・臓器への影響：早期障害と後期障害、確定的影響と確率的影響 8 放射線による発がん遺伝的影響、胚と胎児への影響 9 腫瘍の放射線生物学：感受性とその修飾、分割照射と4R、高LET、温熱 10 放射線被ばくのリスクと防護
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書/テキスト	月曜の1時間目なので授業開始に間に合うように気をつけて登校して下さい。 総括的評価として2回程度の筆記試験を行う。出席状況も評価する。 江島洋介、木村博編、放射線技術学シリーズ「放射線生物学」(オーム社)2002年。 プリントを必要に応じて配布する。

履修コード	155201
科目名	病理学
担当者名	吉川 宏起 <small>よしかわ こうき</small>

講義の到達目標(ねらい) 病理学は医学の根幹をなす重要な科目であり、さまざまな臓器・器官における疾患の成り立ちを追求する学問である。臨床医学を理解するための基礎的知識として特に重要な項目をとりあげて解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 病理学の歴史と細胞内小器官
- (2、3) 病理学総論：先天性疾患、退行性疾患、進行性疾患、循環障害
- (4、5) 炎症と感染症
- (6、7) 免疫機構と自己免疫機構
- (8) 腫瘍
- (9) 循環器障害
- (10) 呼吸器障害
- (11、12) 消化器障害
- (13) 泌尿器障害
- (14) 代謝性疾患
- (15) 神経系疾患

履修上の留意点 これまで学修してきた解剖学と生理生化学の知識を基礎にさまざまな病態のメカニズムを理解し、それらの異常がどのような画像所見を示すのかを知っていくことが大切である。

成績評価の方法
教科書／テキスト 授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。

医療

履修コード	155301
科目名	生理学
担当者名	樋口 雄三 <small>ひぐち ゆうぞう</small>

講義の到達目標(ねらい) 生理学は、専門的知識を構築する基礎となるものであり、十分に習得して欲しい。講義では、いろいろな生命現象が連関し、恒常性が維持されていることをわかりやすく解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 恒常性維持と生体防御機構
2. 血液・体液
3. 心臓血管系・循環系
4. 呼吸
5. 消化・吸収・代謝
6. 排泄
7. 内分泌
8. 脳・神経系
9. 筋・行動系
10. 感覚系

成績評価の方法
教科書／テキスト 定期試験、平常点、出席状況などから総合的に評価する。特に出席時数を重視する。
下 正宗『人体の構造と機能』（医学書院）3,000円

履修コード	155401
科目名	生化学
担当者名	原田 和正 <small>はらだ かずまさ</small>

講義の到達目標(ねらい) 生化学の分野から、診療放射線技師にとって最低限必要と思われる項目に重点を置いて学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 序 (2～4) 生体分子の基礎化学 (5～7) 核酸とタンパク (8～10) 代謝の化学 (11～13) 酵素の働きと反応速度 (14～15) 生体の機能と分子

成績評価の方法
教科書／テキスト 定期試験の結果と平常点で評価する。
猪飼篤著『化学入門コース8生化学』（岩波書店）2,913円
林典夫・廣野治子編『シンプル生化学』（南江堂）2,800円

参 考 書

履修コード	155501
科目名	画像数学
担当者名	志村 一男

講義の到達目標(ねらい)	画像数学は画像研究の基礎となる学問、科学である。X線写真、CT、MRといった様々な医用画像の画質評価、また画像強調、データ圧縮、画像認識といった各種の画像処理は全てその基礎となる画像数学の上に成立している。本講義を通じて画像数学を理解する事により、画質評価や画像処理の本質を把握してもらいたい。
講義の内容／授業スケジュール	画像のデジタル化における数学(1~3) 画像数学の基礎(フーリエ解析)(4~6) フィルタ処理における数学(7~9) 画質評価における数学(10~15)
成績評価の方法	中間期末試験、学習状況、出席等により評価する。
教科書／テキスト	授業内容に関するプリントを随時配布する。
参考書	ローゼンフェルド、カク『デジタル画像処理』(近代科学社)

医療

履修コード	155601
科目名	原子核物理学
担当者名	永井 喜則

講義の到達目標(ねらい)	放射線物理学で学習した内容を基礎とし、原子核と放射線に関する講義を行う。特に α ・ β 壊変と γ 線放射は、今後、放射性同位元素の応用を考える上での基礎となるものである。正確な理解すると共に、他の科目との関連を意識しながら受講すること。
講義の内容／授業スケジュール	1. 原子核の性質(構成粒子、質量、結合エネルギー、核力、核模型、磁気モーメント) 2. 放射性壊変(放射能、 α ・ β ・ γ 線、壊変関) 3. α 壊変(α 線のエネルギー、ガイガーヌッターの法則、トンネル効果) 4. β 壊変(β -壊変、 β +壊変、 β 線のエネルギー、電子捕獲、カリープロット) 5. γ 線放射(γ 線の角運動量、核異性体、内部転換、メスバウアー効果) 6. 核反応(核反応の種類、Q値、しきい値、核反応断面積、複合核、光核反応) 7. 中性子(中性子の性質、中性子発生源、エネルギーによる分類) 8. 原子炉(核分裂と放出エネルギー、中性子の減速、原子炉の構造、中性子捕捉療法)
履修上の留意点	講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするように心がけてほしい。講義の後には、短時間でも必ず復習を行うこと。
成績評価の方法	定期試験以外に中間試験を2回行い、その結果から成績を評価する。出席は重視する。
教科書／テキスト	教科書は使用しない。
参考書	上原周三著『放射線物理学』(南山堂) 田島英三著『原子核物理概論』(地人書館) 鷺見義雄著『原子核物理入門』(裳華房)
その他	授業の中では演習問題を解くこともする。電卓を用意しておくこと。

履修コード	155701
科目名	放射化学
担当者名	山本 裕右

講義の到達目標(ねらい)	診療放射線技師として必要な放射性同位元素の化学について学ぶ。 本講義では、すでに1年次に学んだ「基礎化学」および「放射線物理学」、さらに2年次で並行して学ぶ「原子核物理学」で得た、化学的、物理的知識を基に、放射性同位元素の化学について解説する。またここで学ぶ事柄は、3年次の「核医学検査技術学基礎実習」を履修するための必要不可欠な学問的基礎となるものであると同時に、「核医学」、「放射線管理学」に必要な放射化学的知識の基礎となるものである。
講義の内容／授業スケジュール	なお、診療放射線技師試験の科目として「放射化学」がある。 (1~3)放射能・放射性核種、(4~6)天然に存在する放射性同位体、(7~9)放射壊変および壊変則、(10~13)放射平衡、(14~16)放射性核種の製造、(17~21)放射性同位体の分離・精製、(22~26)放射能を利用する分析法、(27~30)放射性標識化合物の合成法
成績評価の方法	2回の中間試験(各30%)、学年末試験(30%)および平常点(含出席点)(10%)により評価する。
教科書／テキスト	使用しない。
参考書	データブックとして 日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会 1,680円)を使用する。講義には必ず持参すること。
その他	並行して演習問題を行うので、関数電卓を持参すること。

履修コード	155801
科目名	電子工学
担当者名	金子 順一 <small>かねこ じゆんいち</small>

講義の到達目標(ねらい) 電子工学は、電子の挙動の制御を通してエネルギーや情報を制御する技術である。この技術は、医療分野の測定器から日常生活まで極めて広い範囲の基礎となっている。本講義の目標は、電子工学で必要となる基礎的事項や、それをもとにした基本的な電子回路(増幅回路や論理回路等)の動作について理解することである。講義は以下の内容で行う。

講義の内容/
授業スケジュール

(1~3) 電子の基本的性質、相互作用
(4~6) 電子管技術
(7~15) 半導体、半導体素子
(16~21) 電子回路技術
(22~27) デジタル回路技術、論理回路、コンピュータ
(28~30) 測定回路・測定器、電子機器への応用

成績評価の方法
教科書/テキスト

中間試験、期末試験及び出席状況で評価を行う。
宇佐美晶・首根福保共著『テキストブック 電子工学概論』(日本理工出版会) 2,500円+税
ISBN4-89019-115-1

そ の 他

この科目は、診療放射線技師国家試験の試験科目に含まれている。

医療

履修コード	155901
科目名	放射線機器工学
担当者名	奥山 康男 <small>おくやま やすお</small>

講義の到達目標(ねらい) コンピュータ演算速度の高速化に伴い、デジタル化された医用画像診断機器技術はめざましく進歩している。これら最新画像診断機器の理解を助ける目的で診断用 X 線発生装置をはじめとする各種画像診断装置の基本原理解、電気工学的な基礎知識、構造、特性及び装置を取り扱うための基礎知識を習得する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回~15回: X 線管装置から単相 2 ビーク装置、三相全波整流式、インバータ式、コンデンサ式、自己整流型などの X 線発生装置についての理解とともに、JIS 規格で定められている管電圧や管電流などの許容誤差について。
第16回~30回: X 線 CT 装置や MRI 装置、超音波診断装置、無散瞳型眼底カメラの画像診断装置や増感紙、グリッドなどの補助的役割を持つ器具、また各種機器の安全・保守管理など等について。

準備学習

1年次で学習した電気工学や放射線機器概論の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。

履修上の留意点

教科書に沿った内容をプロジェクターに映写しながら授業を行うのでポイント点をしっかり関連づけて覚えること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

出席状況、受講態度、前期中間試験、後期定期試験による総合評価にて決める。
青柳泰司 共編:『新版-放射線機器学 (I)』 コロナ社 4,935円 IBN4-339-07080-7
特に指定しない

履修コード	156001・156002
科目名	画像工学概論 画像工学概論Ⅱ
担当者名	野口 勝 <small>のぐち まさる</small>

講義の到達目標(ねらい)

デジタル医用画像を中心とした医用画像情報技術の理論を学習する。具体的には、デジタル画像の形成、評価、処理、画像情報システム等に関する基本知識を身につける。技術を学習することはもちろん、診療放射線技師国家試験への準備という側面も意識し、演習として関連問題を経験する。

講義の内容/
授業スケジュール

デジタル系を中心とし、以下の内容を学習する。

1. フーリエ変換の基礎 (第1～3回)
フーリエ級数展開, フーリエ変換, 畳み込み積分
2. デジタルX線画像の形成 (第4～6回)
画像のデジタル化, 標本化定理とエリアシング, 画像のデータ量等
3. デジタルX線画像の評価 (第7～9回)
入出力特性, 解像特性, ノイズ特性, SN比, ROC解析等
4. デジタルX線画像の処理 (第10～12回)
階調処理, 空間フィルタ処理, 空間周波数フィルタ処理, しきい値処理, 画像間演算処理等
5. 医用画像情報システム (第13～15回)
PACS, RIS, HIS, 情報システムとセキュリティ等

スケジュール表により、きょう勉強する事は何か、をしっかりと意識して授業に臨んで欲しい。分野が多岐にわたり内容が多いので、自習を心がけること。

2～3回の理解度確認テストと学習態度の総合点による。

桂川茂彦編『医用画像情報学(改訂2版)』(南山堂), 3, 300円+税, ISBN4-525-27932-5

内田勝監修『デジタル放射線画像』(オーム社), 3, 800円+税, ISBN4-274-13152-1。その他、必要な資料はプリントを配布する。

理解を深めるため、臨機に演習を行う。

医療

準備学習

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト

参考書

その他

履修コード	156101
科目名	診療画像技術学
担当者名	<small>にしお せいし</small> 西尾 誠示

講義の到達目標(わらい)

画像技術学はX線解剖学や基礎的な画像工学を元にした幅広い分野から構成される。体表解剖、解剖・生理を裏付けとした整位、及び理論的な撮影条件を始めとして臨床画像の評価まで含めて講義を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 放射線の取扱い
- (2) X線撮影の基礎
- (3) 画像の理論
- (4) 患者接遇について
- (5) X線撮影の基準線、体位について
- (6) 頭部の撮影技術 1
- (7) 頭部の撮影技術 2
- (8) 聴器の撮影技術
- (9) 副鼻腔の撮影技術
- (10) 眼窩・顔面の撮影技術
- (11) 頚椎の撮影技術
- (12) 胸椎の撮影技術
- (13) 腰椎の撮影技術
- (14) 胸郭の撮影技術
- (15) 肩関節・周囲の撮影技術
- (16) 上肢骨の撮影技術
- (17) 骨盤の撮影技術
- (18) 股関節の撮影技術
- (19) 下肢骨の撮影技術
- (20) 胸部撮影の理論
- (21) 胸部撮影の技術
- (22) 腹部の撮影技術
- (23) 乳腺撮影・理論
- (24) 乳腺撮影・技術
- (25) 小児の撮影技術・頭部
- (26) 小児の撮影技術・胸部、腹部
- (27) 小児の撮影技術・股関節、脊椎
- (28) 画像の評価方法について
- (29) 研究方法と論文の書き方
- (30) まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

講義は教科書とPower Pointとを用いる。必ずノートをとること。
授業内で行う中間試験および年度末の定期試験の結果を基準に評価する。
『放射線画像技術学』(医歯薬出版) 4,800円
講義用CD、プリント

医療

履修コード	156201
科目名	放射線計測学
担当者名	青木 清

講義の到達目標(ねらい) 放射線にはいろいろな種類があり、物質との相互作用もそれぞれ異なっている。また、同じ種類の放射線であっても、エネルギーにより性質が異なる。このような多様な放射線を計るため、たくさんの測定器が考案されている。正確な測定を行うにはこれらの測定器を目的に応じて使い分けことが大切である。このことを念頭に、代表的な放射線測定器の動作原理、特徴、測定方法ならびに測定結果の評価法を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：放射線検出の概要、第2～3回：電離箱の基本原理と構造、第4回：電離箱出力の測定、第5回：パルス電離箱、第6～8回：ガス増幅を利用した検出器（比例計数管、GM計数管）、第9～10回：半導体検出器、第11～13回：シンチレーション検出器、パルス計測装置、第14～16回：計数値の統計処理、第17～19回：放射線のエネルギー測定、第20～21回：放射能の測定、第22～24回：照射線量と各種電離箱、第25～27回：電離箱による吸収線量測定、第28～29回：ブラッグ・グレイの空洞理論、第30回：吸収線量の標準測定法

準備学習
履修上の留意点

教科書の関連部分を読んでおく。
講義中は板書したこと以外でも、大切そうなことはノートするよう心がけてほしい。講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

定期試験、授業内試験ならびに出席状況により評価する。
長哲二著『放射線計測学』（南山堂）2,940円 ISBN4-525-27874-9
『放射線基礎計測学』（医療科学社）、『放射線計測学』（オーム社）、『放射線計測学』（コロナ社）

医療

履修コード	156301
科目名	医用画像工学
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい) 医用画像診断機器では、デジタル画像が主流となりつつある。そのため、デジタル画像処理の基礎を学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

1. ～3. 画像基礎論/X線像の形成/画像の品質と評価/信号検出理論
4. ～6. デジタル画像論/デジタル画像の生成/デジタルラジオグラフィの画質
7. ～9. 画像処理の基礎
10. ～13. 医用画像への応用
14. ～15. 医用画像解析/コンピュータ支援診断 CAD

履修上の留意点

あまり難しく考えないで、画像の実験実習でやった事、これからやる実験実習と関連づけながら学んでほしい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

試験および、レポート、出席状況により評価する
医用放射線科学講座14『医用画像工学』第2版（医歯薬出版）4900円
必要に応じてプリントを使用する。

参考書

末松著 メカトロニクス教科書シリーズ9『画像処理工学』（コロナ社）3000円

履修コード	156401・156501
科目名	電気電子工学実験〔実験〕
担当者名	青木 清・金子 順一・川副 護・吉田 正廣

講義の到達目標(ねらい) 各種医療機器の動作を理解しようとするとき、電気工学や電子工学の知識は不可欠のものである。これらの知識は、実際に素子や回路を動作させるという体験により、しっかりと定着する。本実験では、電気・電子工学分野の各種回路を自分達で組み立て、特性を測定する。これにより、素子や回路の動作の実際を体得する。

講義の内容/
授業スケジュール

少人数の班に分かれ、以下のように実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。
第1～3回：実験の目的と内容の解説、実験の実施に関する説明（班分け、実験順序、注意事項）、レポート作成上の注意、第4回：電磁誘導回路（自己誘導、相互誘導、変圧器）、第5回：コンデンサの充放電（過渡特性、時定数）、第6回：RC直列回路（交流の位相、微分回路、積分回路）、第7回：直列共振（RLC回路、Q）、第8回：並列共振（RLC回路、Q）、第9回：半導体素子（ダイオード、サイリスタ、トランジスタ）、第10回：集積回路（演算増幅器、論理回路）、第11回：整流回路（半波整流、全波整流、平滑回路）、第12回：ツェナーダイオードによる定電圧回路（ツェナー電圧、定電圧特性）、第13回：三相12ピーク整流回路（三角結線、星形結線、リップル百分率）、第14～15回：レポート指導

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておく。
電気工学、電子工学、放射線機器工学等での学修内容と関連づけながら実験を進める。
実験の実施状況、実験レポート、試験により評価する。
『電気電子工学実験』（ガイダンスのときに配布する。）

履修コード	156601・156701
科目名	放射線機器工学実験〔実験〕
担当者名	奥山 康男・瀬尾 育弉・羽生 毅

講義の到達目標(ねらい)

「放射線機器工学」の講義で学習する理論を実験にて検証・理解させることを目的に、あわせて各放射線機器や装置の取扱法を習熟させることを目標としている。実験は7～8名を1班として構成し、少人数化によるフットワークの良い実験遂行を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

本実験は、以下に記す6課題を3名の教員が全学期（前期3回，後期3回）に渡って行う。実験要項は「実験ガイダンス」を2回実施した後、各テーマに添った実験を班ごとで行い（前期1～3，後期4～6）、それぞれの課題をレポート処理することで内容を理解する。

第1回～2回：前後期分の実験スケジュール及びレポート作成手順、実験を行うにあたっての諸注意を含めた実験ガイダンスを行う。

第3回～15回：前期実験として、① X線管焦点寸法の測定、②超音波診断装置の画像特性、③ X線管電圧・X線管電流の測定を行う。

第16回～30回：後期実験として、④撮影用タイム性能試験とX線CT装置等によるファントム測定、⑤MRI装置の画像特性、⑥インバータ式X線装置の特性と無散瞳型眼底カメラの取り扱いについて実験を行う。

準備学習

2年次に講義している放射線機器工学の内容を実際に検証して学ぶ授業であるので基礎知識は常に反復して実験に取り組む。

履修上の留意点

高電圧機器を取り扱うので必ず指導教員の指示に従う。また、感電等の安全を考慮する目的で実験中の容姿・マナーは必ず守る。

成績評価の方法

出席状況、実験中の態度、課題レポート、筆記による前期中間試験と後期定期試験による総合評価にて決める。

教科書／テキスト

担当教員より、「放射線機器工学実験要項」を実験ガイダンス時に無料配布する。

参考書

放射線機器工学の授業で用いている『新版－放射線機器学（I）』 コロナ社

その他

実験科目の単位取得には所定のテーマを全て終了することが必要で、やむ負えない理由で欠席した場合は実験予備日に追実験等を受けなければならない。

医療

履修コード	156801・156901
科目名	画像検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	西尾 誠示・谷口 貴久・名古 安伸・長谷川 武・吉川 達生

講義の到達目標(わらい)

X線装置等を用い、実際に人体ファントムを撮影する。実際の検査手順と体表解剖学を踏まえた撮影手技を学び、撮影法と得られた画像の関係について考察する。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 頭部X線撮影法
頭部ファントムを用い、頭部正面・側面撮影、タウン法などの撮影法を学ぶと共に、頭部の画像解剖を理解する。
- (2) 耳鼻科領域の撮影法
頭部ファントムを用いてウォーターズ法、コルドウエル法などの副鼻腔撮影及びシュラー法、ステンパース法などの聴器の撮影法を学び、それらの画像解剖を理解する。
- (3) 椎骨、骨盤のX線撮影法
頸椎、腰椎・骨盤ファントムを用い、正面撮影、側面撮影、斜位撮影などの脊椎の撮影法を学び、画像解剖を理解する。
- (4) 四肢骨の撮影法
手関節、肘関節、膝関節、足関節のファントムを用い、撮影技術を習得する。
- (5) 胸部の撮影技術と感光材料
胸部ファントムを用い、胸部の撮影手技を学び最適な撮影条件と検出系について検討する。
- (6) 乳腺のX線撮影(Mammography)
乳房用X線装置、乳房ファントムを用いて照射条件毎の画像の変化を評価する。撮影に用いる機器類、感光材料から軟線撮影の特殊性を理解する。
- (7) 胃造影検査法
X線TV装置の操作法を習得するとともに、造影剤とファントムを用い透視・撮影法を学ぶ。特に体位と画像評価について学ぶ。
- (8) X線CTの基礎実験
X線CT装置の原理と構造を理解し、画像評価用ファントムを用いて基礎実験を行う。
- (9) X線CT検査法
人体模擬ファントムを用いて臨床と同様な方式で撮影方法を学ぶ。
診療画像技術学の教科書で予習すること。
授業は実習の基礎となるので、病院実習と同じ心構えで望むこと。
授業前にマニュアルを読み、実習内容を把握しておくこと。
定期試験、レポート・試問について総合的に判定する。
但し、定期試験の受験資格は全レポートの提出者のみである。
実験・実習プリントを配布する。
参考：稲本一大編『放射線画像技術学』(医歯薬出版)

医療

準備学習
履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト
参考書

履修コード	158101
科目名	放射線関係法規
担当者名	青木 清

講義の到達目標(わらい)

放射線を取り扱うにあたっては関連する法令を理解しておくことが必須である。診療放射線技師の業務に関する法令は診療放射線技師法、医療用の装置や放射性同位元素に関する法令は医療法、医薬品を除く放射性同位元素や加速器に関する法令は放射線障害防止法、放射線関連業務従事者の安全に関する法令は電離放射線障害防止規則である。これらの法令の内容と関連性を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1～2回：放射線関係法令理解のための基礎事項(用語、放射線防護の考え方、法体系、条文構成)、第3回：医療用放射線に関する法令、第4～5回：診療放射線技師法、第6～7回：医療法施行規則(届出、装置の防護)、第8～11回：医療法施行規則(診療室の構造設備、管理者の義務)、第12～14回：放射線障害防止法、第15回：電離放射線障害防止規則

準備学習
履修上の留意点

教科書の関連部分を読んでおく。
法令の基となる基本的な考え方を理解するよう心がけてほしい。講義の後は短時間でも必ず復習を行うこと。

成績評価の方法

定期試験ならびに出席状況により評価する。

教科書/テキスト

富樫・鈴木・西谷編、放射線技術学シリーズ『放射線安全管理学』(オーム社) 5,145円
ISBN4-274-20128-7

参考書

『アイソトープ法令集Ⅱ-医療放射線防護関係法令-』(日本アイソトープ協会)

履修コード	158301
科目名	画像解剖学
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい) 単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど各種の医用画像診断の根底にあるのは正常画像解剖の知識であり、適切な検査を行うためにはこの点に関する正確な理解が要求される。既に習得した人体解剖学の基礎の上に臨床的に特に重要な領域の画像解剖学についての講義を行う。

講義の内容／授業スケジュール 基礎となる解剖学を新たに画像診断(単純X線撮影、CT、超音波画像、MRIなど)の角度からながめて要点を再確認しつつ、スライドで供覧する画像所見との対比を行う。対象領域は下記の領域である。

(1-3) 頭部
(4-6) 胸部
(7-9) 腹部
(10-12) 骨盤腔
(13-15) 四肢に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点 必要に応じて解剖学の講義で使用したプリントをよく復習すること。

成績評価の方法 講義の出席率と定期試験の成績により評価する。

教科書／テキスト 使用しない。必要なプリントを配布する。

医療

履修コード	158401
科目名	放射線医学概論
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい) 既に学んだ人体解剖学および人体病理学の基礎の上に、放射線診断が臨床医学の中で占める役割について時代をおって現在にいたるまで理解することを目的とする。

講義の内容／授業スケジュール 放射線医学のはじまりと発展の歴史、放射線診断学の現況を解説すると共に、主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界について講義をすすめる。

(1) 放射線医学のはじまりと発展の歴史
(2-6) 放射線診断学の現況
(7-15) 主要疾患につき診断手法の適応と選択、診断能とその限界に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点 既習の科目と関連する部分は各自必要に応じて復習しておくこと。

成績評価の方法 講義の出席率と定期試験の成績により評価する。

教科書／テキスト 使用しない。必要なプリントを配布する。

履修コード	158501
科目名	画像診断機器工学
担当者名	瀬尾 育三

講義の到達目標(ねらい) MRI(磁気共鳴イメージング装置)と超音波診断装置について講義する。

講義の内容／授業スケジュール その他、X線CT装置についてもその概要を講義する。

1-3. 核磁気共鳴(MRI)の物理的原理 4. MR画像形成法とパルスシーケンス 5. MRアンギオ
6. MR装置の機器構成 7. MRIの諸特性 8. 超音波診断装置概説 9. 超音波の物理的基礎
10. 超音波診断装置 機器 11. 分解能とS/N 12. アーチファクト 13. 超音波検査の概要(循環器、腹部、体表、産科) 14. 超音波の最新動向 15. X線CTの原理

履修上の留意点 学修の内容が多いので、良く復習してください。

成績評価の方法 学期末試験、授業内での中間テスト、および、出席状況により評価する。

教科書／テキスト

- ・佐々木博 著 『医用超音波論』 国際医療福祉大 1000円(本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売)
- ・佐々木博 著 『医用磁気共鳴論』 国際医療福祉大 1000円(本屋で扱っていません、授業開始時に教場で販売)

参 考 書

- ・必要に応じて教材用プリントを使用する。
- ・日本放射線技術学会監修 放射線技術シリーズ『MR撮像技術学』(株)オーム社 5460円
- ・木村雄治著 『画像診断装置入門』 コロナ社 3000円
- ・高原太郎著 『MRI自由自在』 メジカルビュー 7000円
- ・伊藤・望月著 『超音波診断装置』 コロナ社 2800円
- ・千原著 『日本エム・イー学会編/ME教科書シリーズ 超音波』 コロナ社 2700円
- ・佐久間・桑島著 『よくわかる超音波検査入門講座』 永井書店 9240円

履修コード	158601
科目名	応用機器工学
担当者名	なご やすのぶ 名古屋 安伸

講義の到達目標(ねらい)

近年、放射線治療は侵襲性が低く臓器の形態・機能温存に優れていることから注目を集め、なかでも高エネルギーX線・電子線・粒子線及び高精度放射線治療装置などの治療機器の進歩は著しいものがあります。また、放射性同位元素で標識された薬剤を患者さんに投与して行われる核医学検査もSPECT/CT装置やPET/CT装置の開発によって、目覚ましい発展を遂げています。

これらの背景を基に、応用機器工学では加速器を中心とした放射線治療機器とSPECT・PET/CT装置を中心とした核医学診断機器について学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 核医学検査装置の概論
- (2~3) 核医学診断装置の原理と概要
- (4~5) 核医学診断装置の性能評価と保守管理
- (6) SPECT・PET/CT装置の原理と概要
- (7) 放射線治療装置の概論
- (8~9) コバルト遠隔治療装置と直線型加速器
- (10~11) 円軌道加速器と重粒子線治療装置
- (12~13) 定位放射線照射装置と治療計画に使用される装置
- (14~15) 放射線治療装置の性能評価と保守管理

医療

準備学習

放射線計測学、放射線物理学、原子核物理学などで学習して来たシンチレーション検出器、ガンマ線放出核種、放射線計測回路、加速器などに関連のある項目は予め予習しておいて下さい。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書、参考書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。
定期試験の結果および出席状況により評価します。

教科書/テキスト
参考書

『診療放射線技術』下巻 (南江堂) 6,800円
三枝健二 共編:『新版 放射線機器学(Ⅱ)』(コロナ社) 4,700円
日本放射線技術学会監修:『核医学検査技術学』(オーム社) 5,700円

履修コード	158701
科目名	応用計測学
担当者名	おがわ まさお 小川 雅生

講義の到達目標(ねらい)

2年次における放射線計測学を基礎として、中性子計測・電子線計測・個人被曝線量計測について検出器系の検出原理、応答特性、実測上の問題点などについての基本を学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

- 1 回 中性子の特殊性、ベータ崩壊
- 2 回 原子核反応、結合エネルギー、反応断面積
- 3 回 中性子による原子核反応、 $1/v$ 法則、中性子検出の原理
- 4-5 回 He3計数管、BF3計数管
- 6 回 比例計数管の仕組み、ガス増幅
- 7 回 高速中性子の検出、中性子の減速、ロングカウンター
- 8-9 回 化学線量計、フリック線量計、アニリン線量計、熱蛍光線量計
- 10 回 誤差の伝搬、波高分析、信号処理
- 11 回 荷電粒子の計測、阻止能、飛程、ブラッグピーク
- 12-13 回 光子の計測、コンプトン端、吸収端、原子物理
- 14-15 回 加速器

履修上の留意点

授業において不明な点があれば質問すること。講義が分かりにくい場合は、その旨を主張すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト

定期試験の他、講義中に行う小試験および出席状況により評価する。
図表などの資料をプリントあるいはメールに添付して配布する。

履修コード	158801
科目名	診療画像情報学 I
担当者名	西尾 誠示

講義の到達目標(ねらい) 造影剤を用いた検査と画像を主体に講義を行う。学生は実際の検査手技と臨床画像の評価方法を習得すること、更に最低限正常像について解説できることが望ましい。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 概論
- (2) 胸部単純像の評価
- (3) 乳腺検査の現状と技術
- (4) 下咽頭・食道の画像検査技術
- (5) 上部消化管造影の技術
- (6) 腹部実質臓器の検査技術
- (7) 泌尿器の画像検査技術
- (8) 下部消化管造影技術
- (9) 心・大血管の検査技術と画像評価
- (10) 冠状動脈の検査技術と画像評価
- (11) 腹部血管の検査と画像評価
- (12) 頭部血管造影検査と画像評価
- (13) CT 検査技術・基礎
- (14) CT 検査技術・応用
- (15) まとめ

履修上の留意点 Power Point を用い主に撮像技術と臨床画像について解説する。履修者は生体解剖と対比しながら画像を評価することが望まれる。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

授業内で行う中間試験および年度末の定期試験の結果を基準にする。
稲本一夫編『放射線画像技術学』(医歯薬出版) 4,800円
講義用 CD およびプリント
授業は講義形式であるが、内容により質問あるいは意見を求める。

医療

履修コード	158901
科目名	核医学
担当者名	奥山 康男

講義の到達目標(ねらい) 核医学検査の多くは放射性医薬品を利用して人体臓器の様々な機能と代謝を最新技術の核医学検査機器にて画像化及び定量数値化し、疾病診断のために付加価値情報を提供する重要な検査である。これらの検査法は、測定の対象に従って生体の測定(患者検査)及び医学試料の測定(血液・糞尿など)に大別され、使用する放射性医薬品も生体内に投与するもの(インビボ法)と、投与しないもの(インビトロ法)との2種類となる。核医学検査法に関する放射性医薬品や試薬キット類、検査機器、検査手技を習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

第1回～2回:核医学の基礎について・・核医学の歴史と安全管理
第3回～5回:放射性医薬品について・・インビボ診断用放射性医薬品、インビボ診断用放射性医薬品
第6回～9回:核医学機器について・・シンチカメラ、SPECT (SPECT/CT) 装置、PET (PET/CT) 装置
第10回～25回:核医学検査(インビボ)について・・脳神経系、内分泌系、呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、カルシウム系、血液・造血臓器系、腫瘍・炎症、PET 検査
第26回～28回:核医学試料検査(インビトロ)について・・試料検査の概要、基礎、原理、検査の流れ、測定試料評価、基準値
第29回～30回:放射性同位元素治療について・・治療の概要、甲状腺治療、骨転移緩和療法、悪性リンパ腫治療

準備学習 基礎化学、生化学、放射化学並びに放射性同位元素の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。

履修上の留意点 日常の臨床画像等をプロジェクターに映写しながら授業を行うので教科書の内容と画像が結び合うようしっかり関連づけること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席状況、受講態度、前期中間試験、後期定期試験による総合評価にて決める。
金森勇雄 他編『診療画像検査法 実践 核医学検査』医療科学社 7,000円(税別)
ISBN978-4-860003-403-0

大西英雄 他編『核医学検査技術学(改定2版)』オーム社 5,775円 ISBN4-274-13246-3

履修コード	159001
科目名	放射線腫瘍学
担当者名	高山 誠

講義の到達目標(ねらい) 癌治療における放射線治療の役割や意義を中心とした放射線治療概論について講ずる。放射線の人体に対する影響などの放射線治療の基礎となる放射線生物学や実際の臨床に用いられる放射線治療機器の特性、使用方法について解説を行う。放射線治療を行う際の放射線治療計画、線量分布や照射方法(外部照射、密封小線源治療等)の総論的項目について考える。また、医療技術の進展の中で、特に放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。新しい治療方法である定位放射線治療や強度変調照射(IMRT)の現況、応用に関する技術的問題点など、その方向と展開に注目する。

講義の内容／授業スケジュール 成績評価の方法 教科書／テキスト (1)放射線治療概要、(2～3)放射線障害、(4～5)放射線生物学、(6～7)放射線治療機器、(8～10)密封小線源治療、(11～13)3次元照射、(14)全身照射、(15)血液照射

授業出席、受講態度などと定期試験による。
増田 康治 編 「放射線治療技術」改訂第4版
立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第11版

医療

履修コード	159101
科目名	放射線管理学
担当者名	青木 清

講義の到達目標(ねらい) 放射線の利用においては、不必要な被ばくが生じないように、適切で安全な状況を作り上げ維持することが重要である。そのための基本的な理念と指針を与えているのが「国際放射線防護委員会(ICRP)の勧告」である。本講義ではこの勧告の概要について学ぶとともに、それを実践するため必要となる計測技術や、放射性物質の取り扱い方について学修する。さらに、医療の場において大切となる患者被ばく防護の考え方とそのための方策を理解する。

講義の内容／授業スケジュール 第1～2回：放射線管理の基本(放射線防護体系、放射線被ばくの現状)、第3～4回：放射線の防護(外部被ばく防護、内部被ばく防護)第5～6回：施設の管理(X線診療室、密封RI使用施設、非密封RI使用施設)、第7～9回：環境の管理(空間放射線の量、RI濃度、表面汚染密度)、第10～12回：個人の管理(外部被ばく、内部被ばく)、第13回：放射性廃棄物、第14～15回：医療被ばく(X線検査、核医学検査)

準備学習 教科書の関連部分を読んでおく。
履修上の留意点 放射線関係法規で学習した内容と関連づけて理解するよう心がけてほしい。
成績評価の方法 定期試験ならびに出席状況により評価する。
教科書／テキスト 富樫・鈴木・西谷編、放射線技術学シリーズ『放射線安全管理学』(オーム社)5,145円 ISBN4-274-20128-7

参 考 書 『ICRP Publication 103 国際放射線防護委員会の2007年勧告』(日本アイソトープ協会)

履修コード	159201
科目名	医学英語
担当者名	吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 医学領域では診療情報の伝達に英語が頻繁に用いられている。また英語圏におけるインターネットのホームページから得られる医学知識は膨大である。このように医療チームの一員として活躍する診療放射線技師にとって英語学習は必要不可欠なものとなっている。本講義では臨床の場に役立つ基本的な単語および診療録の慣用句を中心に学び、診療の場で実践に役立つ医学英語の習得を目指す。

講義の内容／授業スケジュール (1、2)医学英語の特徴、体の部位や方向に関する用語
(3、4)ヒトの体の器官1：体表(外皮)、筋骨格系、呼吸器系
(5～7)ヒトの体の器官2：循環器系(血管、リンパ管)
(8～10)ヒトの体の器官3：消火器系、泌尿器系
(11、12)ヒトの体の器官4：内分泌器系
(13、14)ヒトの体の器官5：神経系
(15)放射線診療で用いられる医学用語

履修上の留意点 基本的な医学英語を修得し、インターネット上での教育システムの活用を行う習慣をつける。
成績評価の方法 授業時間内の小テスト、定期の筆記試験。
教科書／テキスト 使用しない。プリントを配布する。

履修コード	159301
科目名	画像処理言語論
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい) 医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要があり、そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。

講義の内容／授業スケジュール この授業では「計算機言語論」で習得したC言語を利用して、実際の医用画像に対して基本的な画像処理プログラムを作成する。そして、画像処理がコンピュータの中でどのように処理されているのかを自らプログラミングすることにより理解する。

- (1) ガイダンス・プログラミングの考え方
- (2) 画像のデジタル化
- (3) 医用画像の構成・DICOM とは
- (4) 平滑化フィルタ
- (5) ラプラシアンフィルタ・メディアンフィルタ
- (6) 医療画像の表示
- (7) Big Endian と Little Endian ・白黒反転
- (8～15) 画像処理プログラムの実習

準備学習 この授業では、C言語を利用して画像処理のプログラミングを作成します。前期の計算機言語論を履修して、C言語の基礎知識を習得する必要があります。

履修上の留意点 演習形式で行うので、積極的に受講すること。
成績評価の方法 出席状況・レポート・試験により評価する。
教科書／テキスト 近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1

医療

履修コード	159401
科目名	画像診断技術学 I
担当者名	嶋田 守男

講義の到達目標(ねらい) 放射線診療で利用されている画像診断法(主としてX線コンピュータ断層撮影(CT)や磁気共鳴画像法(MRI)、超音波検査など)の原理について習熟し、各モダリティの代表的な画像情報処理法を理解する。各種画像から得られる情報を総合的に診断する方法について学ぶ。

- 講義の内容／授業スケジュール
- (1、2) 放射線科が扱う検査(X線撮影、X線CT、PET-CT、超音波検査)
 - (3、4) 画像診断に必要な解剖知識
 - (5、6) 磁気共鳴画像法(MRI)の撮像原理と画像診断法
 - (7、8) 磁気共鳴画像法(MRI)によるアーチファクト
 - (9、10) 磁気共鳴血管撮像法(MRA)の撮像原理と診断法
 - (11) 磁気共鳴画像法(MRI)に使用する造影剤と有効性と安全性
 - (12、13) 超音波検査(US)のアーチファクトと診断法
 - (14) 超音波検査(US)に使用する造影剤の有効性と安全性
 - (15) 総合画像診断の実際に分けて系統的に学習する。

履修上の留意点 画像解剖の基礎知識を復習しておく。そして各種画像診断法の画像を学修しながら実践に用いることができるようにする。

成績評価の方法 授業の出席率と定期試験により評価する。
教科書／テキスト 使用しない。プリントを配布する。

履修コード	159501
科目名	医用検査学
担当者名	名古 安伸

講義の到達目標(ねらい)

ヒトの病気を知るためには、まず生体レベルでどのような異常が起こっているのかを理解することが重要です。しかし、外から観察しているだけでは病態を理解することはできず、治療に結びつけることはできません。そこで、病気の原因を画像診断（ここではMRIと超音波検査を主とする）にて捉えるための基礎的な技術学の理解を目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1～3) MRIの原理と復習
- (4～8) MRIの基本的撮像法
- (9～11) MRIの臨床応用
- (12) 超音波診断装置の原理と復習
- (13～15) 超音波検査の基本的撮像法と臨床応用

準備学習

ここまで学習して来た画像診断装置の基本原理解、診療画像技術学及び人体解剖学の基礎知識を復習しておいて下さい。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

教科書、参考書をよく読み、講義内容を理解することに努めて下さい。
定期試験の結果および出席状況により評価します。

参 考 書

『診療放射線技術』上巻（南江堂）6,800円
必要によりプリントを配布します。
日本放射線技術学会監修：『核医学検査技術学』（オーム社） 5,700円
高原太郎：『MRI自由自在』（メジカルビュー社） 7,000円

医療

履修コード	159601
科目名	救急医療学
担当者名	奥山 康男

講義の到達目標(ねらい)

救急医療は、病院到着前救護（プレホスピタルケア）と医療機関との両者が一体となつてはじめて成立するものである。総合的かつ広範な医学知識や技術、そして十分な臨床経験が必要である救急医療において医療画像情報を提供する診療放射線技師の役割は大変重要である。本講義では実際の臨床現場で備えておかなければならない検査手技等の基礎を習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回～3回：救急医療学の概略と心構え
- 第4回～第14回：救急医療における検査方法と手技、画像の読み方について
- 第15回：患者等の救急対応として実技を兼ねた上級救命講習を世田谷消防署の協力にて開催予定

準備学習

※消防署に支払う受講料（平成20年7月現在 ¥2,600）は、別途発生する。
1・2年次で学習した解剖学や診療画像技術学の基礎知識を見直しすることで授業内容が理解しやすくなる。

履修上の留意点

臨床画像をプロジェクターに映写しながら授業を行うので配布資料と画像とが結び合うようしっかり関連づけて覚えること。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席状況、受講態度、前期定期試験による総合評価にて決める。
特に指定しない。

履修コード	159701
科目名	臨床医療人間学Ⅰ
担当者名	名古 安伸

講義の到達目標(ねらい)

医療現場で発生する倫理的諸問題すなわち生命倫理について学び、生命倫理を広く人間科学や人間工学の立場から考察します。特に、病に対して鋭敏な不安を抱く患者や家族への対応（言語、仕草、思いやり）を医療人の視点で学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 半期15回の授業スケジュール
- (2～10) 心理学の立場から患者や家族の行動を理解する
- (11～13) 疼痛、ターミナルケア、尊厳死と安楽死など
- (14～15) 生命と医療の原点を考える

準備学習

生命倫理学とは、「患者との人間関係において、私はいかに振る舞うべきか」を考える哲学の学問です。生命が脅かされた時や恐怖感から脱出したい時などに発生する「神様・仏様」。病院にいるとこの言葉がたくさん聞こえて来ます。駒澤大学で学習する「宗教学や禅の心」と「医療」との結びつきを考えておいて下さい。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

3年次後期に行う病院実習の諸手続き、注意事項を含み講義します。出席は必須です。
レポート提出、定期試験の結果および出席状況により評価します。
必要によりプリントを配布します。

履修コード	159801
科目名	画像工学 I
担当者名	瀬尾 育武

講義の到達目標(ねらい) 医用画像形成システムに使用されている画像データ処理に関する基礎理論の学習と演習をおこなう。

講義の内容／授業スケジュール

1. ～3. Fourier 級数、Fourier 変換の演習 (2年生の復習)
4. ～6. Fourier 解析による画質の解析と評価 (2年生の復習)
7. ～9. デルタ関数と Fourier 変換
10. ～12. アナログ信号の離散化と標本化定理
13. ～15. 離散化された信号の Fourier 変換

履修上の留意点 理解を深めるための補足資料を配布します。よく復習して下さい。

成績評価の方法 中間試験と学期末試験の総合点。

教科書／テキスト

参 考 書

- ・プリントを配布します。(1000円)
- ・岡部哲夫、藤田広志編集『医用画像工学 (第2版)』(医薬出版) 4,900円
- ・谷口慶治編『画像処理工学』(共立出版) 3,800円

そ の 他 演習を多くおこないます。欠席しないように。

医療

履修コード	159901
科目名	画像工学 II
担当者名	瀬尾 育武

講義の到達目標(ねらい) 「画像工学 I」で学習した基礎理論をもとに、実際に医療現場で実用されている画像圧縮、ウェーブレット変換、Z 変換、パターン認識などについて、理論的にその内容を学習する。

講義の内容／授業スケジュール

- 1.～2. 画像の直交変換
- 3.～4. 高速 Fourier 変換 (FFT)
5. 散信号のコサイン変換 (DCT)
- 6.～7. 画像圧縮
8. 符号化
9. 画像ファイル形式とカラー表示の基礎
10. Fourier 変換から Wavelet 変換へ
11. 多重解像度解析
12. Z 変換
13. パターン認識
14. 視覚について
15. CT、MRI の画像再構成

履修上の留意点 学習内容が多いので、良く復習して下さい。

成績評価の方法 中間試験及び学期末試験の総合点

教科書／テキスト

参 考 書

- ・プリントを配布します。(1000円)
- ・岡部哲夫、藤田広志編『医用画像工学 (第2版)』(医薬出版) 3,800円

履修コード	160001
科目名	技術英語
担当者名	高橋 優身

講義の到達目標(ねらい) 放射線技師のための「専門英語」を習得することがこの科目の目標であるが、開講が半期のため、「信頼される」放射線技師であるための必須条件に絞って、関連の「専門英語」を習得する。

講義の内容／授業スケジュール

- 1～2回 Want to Be an R.T. ?
- 3～5回 ASRT Code of Ethics
- 6～8回 Practice Standards
- 9～11回 Radiography Clinical Performance Standards
- 12～13回 Quality Performance Standards
- 14～15回 Professional Performance Standards

履修上の留意点 規定の出席率を越えた学生のみ試験受験資格を有する。予習が必要であろう。授業時の活発な発言を期待する。

成績評価の方法 学期末試験を基本に評価します。出席状況も考慮します。

教科書／テキスト

参 考 書

そ の 他

プリント配布。
授業時に指示。
演習形式で行うので、学生主体の授業である。

履修コード	160101・160201
科目名	放射線治療技術学実験〔実験〕
担当者名	佐藤 昌憲・飯田 幸雄・五十嵐 太郎・小川 雅生・高城 保・羽生 毅

講義の到達目標(わらい)

放射能の測定手順・放射能測定計測系の機能・放射線治療を念頭に置いた吸収線量測定のご概念と実側技術の基礎を把握する。

講義の内容/
授業スケジュール

主として行なわれる実験題目とその概要は次の通りである。

1) 吸収線量の測定。

高エネルギー放射線による治療では人体組織に対する吸収線量の付与レベル決定がきわめて重要な因子である。ここではCo60線源を用いて、指頭型電離箱と樹脂ファントムの組合わせによる吸収線量測定のご基礎の手順を学ぶ。Co60線源に対する照射線量率定数・指頭型電離箱の特性と使用法・線源-ファントム-電離箱の幾何学的位置関係の效果・吸収線量率値とファントム厚さとの関係などに注意する必要がある。

2) フィルムによる放射線場の測定。

計測器としてのフィルムは実時間(リアルタイム)応答の計測器では容易に得ることのできない特性を持っている。ここではCo60線源を使用して、照射線量分布・肺近以不均等物質での深部線量百分率補正などの実測手順を学ぶ。

3) 半導体検出器による α 線の測定。

表面障壁型半導体検出器を使用して α 線による波高分布を測定する。逆方向電圧による電荷集取率・エネルギー分解能などへ与える效果、空乏層との関係を中心として学ぶ。

4) GM計数管による線源の β 壊変率測定。

GM計数管を検出器とする比較的簡単な測定装置を用いて線源の壊変率を求める手順と、その補正の考え方を学ぶ。

実験で取上げる項目は少ないものであるが、各々の知識が実際にはどの様に係わり、結果に影響してくるかを実感して欲しい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

実験レポート、実験実施状況、随時おこなう中間テストなどにより評価する。

日本医学物理学会編『外部放射線治療における吸収線量の標準測定法』(発行通商産業研究社)

医療

履修コード	160301
科目名	画像工学実験〔実験〕
担当者名	瀬尾 育弐・飯田 幸雄・近藤 啓介・野口 勝・古川 克治・俣野 公志

講義の到達目標(ねらい)

画像診断分野は急速にデジタル化が進み、画像処理の知識や技術が大変重要になってきている。本実験では、デジタル画像処理とはどのようなものか、また画像処理が読影に如何に有効であるかにつき、CR 画像形成システムや画像解析装置、超音波画像形成システムを使用して体験学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

<前期>

テーマは大きく3つに分かれている。

1. アナログ X 線画像とデジタル X 線画像の画質解析
 - (1) 胸部ファントム画像の撮影と視覚評価
 - (2) アナログの RMS 粒状度, Wiener Spectrum, MTF 等による物理評価
 - (3) 画像処理と画質の関係の把握 (物理評価, 視覚評価)
2. CR 画像形成システムの画像データの処理と特性解析
 - (1) CR システムによる画像データの取得と画像処理操作
 - (2) デジタル特性曲線の作成
 - (3) デジタル RMS, Wiener Spectrum, MTF, NEQ 等の測定
3. フーリエ変換の基礎

<後期>

基本的な画像処理である 4 テーマの実験を行う。各テーマを 1 週の実験で終了し、レポートをまとめて提出する。

1. CR システムの EDR および画像処理
2. ボケマスクによる周波数処理
3. 医用画像のフィルタ処理
4. 超音波診断システムの画像特性

履修上の留意点

2 年次の「画像工学概論」で学習した理論を確実な知識とするための実験科目である。事前に教科書を復習しておくこと。

よりよい画質の医療画像を作り出すため、物理評価はそのための手段として、視覚評価は人間による判断として大変重要である。実験では撮影した画像と物理測定データをよく比較対照し、内容のあるレポートにまとめて欲しい。検討・考察が不十分なレポートは再提出を求める。

成績評価の方法
教科書／テキスト

レポート、定期試験、実験中の態度などを総合評価する。
プリントを配布する。

参 考 書
そ の 他

桂川茂彦編『医用画像情報学 (改訂 2 版)』(南山堂), 3,300円+税, ISBN4-525-27932-X
単位取得には、所定の実験テーマを全て実施し、レポート及び試験に合格する必要がある。

医療

履修コード	160401
科目名	画像工学実験〔実験〕
担当者名	瀬尾 育武・飯田 幸雄・近藤 啓介・野口 勝・古川 克治・俣野 公志

講義の到達目標(ねらい)

画像診断分野は急速にデジタル化が進み、画像処理の知識や技術が大変重要になってきている。本実験では、デジタル画像処理とはどのようなものか、また画像処理が読影に如何に有効であるかにつき、CR 画像形成システムや画像解析装置、超音波画像形成システムを使用して体験学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

<前期>

テーマは大きく3つに分かれている。

1. 画像診断の原点であるアナログのX線画像と、デジタルのX線画像の画質解析
 - (1) 胸部ファントム画像の撮影と視覚評価
 - (2) アナログのRMS粒状度, Wiener Spectrum, MTF等による物理評価
 - (3) 画像処理と画質の関係の把握(物理評価, 視覚評価)
2. CR画像形成システムの画像データの処理と特性解析
 - (1) CRシステムによる画像データの取得と画像処理操作
 - (2) デジタル特性曲線の作成
 - (3) デジタルRMS, Wiener Spectrum, MTF, NEQ等の測定
3. フーリエ変換の基礎

<後期>

基本的な画像処理である4テーマの実験を行う。各テーマを1週の実験で終了し、レポートをまとめて提出する。

1. CRシステムのEDRおよび画像処理
2. ボケマスクによる周波数処理
3. 医用画像のフィルタ処理
4. 超音波診断システムの画像特性

履修上の留意点

2年次の「画像工学概論」で学習した理論を確実な知識とするための実験科目である。事前に教科書を復習しておくこと。

よりよい画質の医療画像を作り出すため、物理評価はそのための手段として、視覚評価は人間による判断として大変重要である。実験では撮影した画像と物理測定データをよく比較対照し、内容のあるレポートにまとめて欲しい。検討・考察が不十分なレポートは再提出を求める。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

レポート, 定期試験, 実験中の態度などを総合評価する。
プリントを配布する。

桂川茂彦編『医用画像情報学(改訂2版)』(南山堂), 3,300円+税, ISBN4-525-27932-X
単位取得には、所定の実験テーマを全て実施し、レポート及び試験に合格する必要がある。

履修コード	160501・160601
科目名	放射線管理学実験〔実験〕
担当者名	青木 清・大西 孝明・金子 順一・高橋 忍・永井 喜則

講義の到達目標(ねらい)

エックス線撮影において患者被ばく線量を把握しておくことは大切なことである。また、撮影状況によっては術者または患者周辺の人が被ばくする場合もあり、このような場合の被ばく線量も知っておかなくてはならない。本実験では、直接X線ならびに散乱線による被ばく線量の測定方法を体得するとともに、被ばく線量低減のための方策について考える。併せて、放射線管理業務上重要であるX線の線質管理法と、コンピュータによるデータ収集及び機器制御の方法について理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

少人数の班に分かれ、以下の実験を行う。実験テーマの順序は班により異なる。

第1～3回: 実験内容の解説、実験の実施に関する説明(班分け、実験順序、注意事項)、レポート作成上の注意、第4～5回: 腹部・胸部撮影における被曝管理(入射表面線量の測定と評価)、第6～7回: CT検査における被曝管理(CTDIとMSADの測定と評価)、第8～9回: 乳房撮影における被曝管理(移動型X線撮影装置による腹部・胸部撮影時の患者と術者の被曝線量)、第10～11回: 病室撮影における被曝管理(移動型X線撮影装置による腹部・胸部撮影時の患者と術者の被曝線量)、第12～13回: 診断用X線の線質管理(半導体検出器によるスペクトル測定)、第14回: コンピュータによるデータ収集(アナログ電圧の読み込みとリアルタイムでのグラフ表示)、第15回: コンピュータによる機器制御(デジタル信号の入出力と温度制御)

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

実験の前に実験内容を予習し、必要となるグラフ用紙や電卓などを用意しておく。

放射線管理学、放射線計測学、診療画像技術学等での学修内容と関連づけながら実験を進める。実験の実施状況、実験レポート、試験により評価する。

プリントを配布する。

履修コード	160701・160801
科目名	核医学検査技術学基礎実習〔実験〕
担当者名	山本 裕久 <small>やまもと ゆうひ</small> ・奥山 康男 <small>おくやま やすお</small> ・金子 順一 <small>かねこ じゆんいち</small> ・外山 眞理 <small>とやま まり</small> ・原田 和正 <small>はらだ かずまさ</small>

講義の到達目標(ねらい) 主として核医学検査技術学、放射化学領域における実験を行う。本実験では、2年次に学んだ「放射化学」、「放射線計測学」、3年時に学ぶ「核医学」での知識を基に、ガンマカメラ、核医学領域における非密封放射性同位元素の取扱い、放射線計測の基礎についての実験をおこなう。

講義の内容／
授業スケジュール

以下のテーマについて、各自定められた日程に従い実験を行う。
 (1) ガンマカメラの性能評価：均一性、分解能、直線性などの基本性能試験、(2) ガンマカメラの各種撮像法：静止画像、全身画像、SPECT画像の撮像、(3～5) 非密封放射性同位元素取扱法の基礎(ホットランは学外実習として行う)、(6) マイクロピペットの検定：重量法、吸光度法、(7, 8) フリッケ線量計による吸収線量の測定：線量計の調製、線量測定、(9) ポジトロンの同時計数測定：PETの基本実験としてポジロン放出核種を用いた同時計数測定、(10) マルチチャンネル計測法：マルチチャンネル波高分析器を使用しての未知核種のガンマ線スペクトル測定とその同定、(11～15) レポート指導・試問

履修上の留意点

非密封放射性同位元素は医学、化学、生物などの研究においてきわめて有用な情報を我々に与えてくれるものであると同時に、放射能汚染や被曝の問題など、危険な側面ももっている。従って、実験に対する準備を十分におこない、事前に実験操作、手順を理解しておくと同時に取り扱う放射性同位元素の性質を熟知しておくことが必要である。

成績評価の方法

平常点、実験レポート、試問、試験により評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

実験プリント

日本アイソトープ協会編 『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会) 1,680円

医療

履修コード	160901
科目名	画像検査技術学実習〔病院実習〕
担当者名	嶋田 守男 <small>しまだ もりお</small> ・飯田 幸雄 <small>いひだ ゆきお</small> ・名古 安伸 <small>なご やすのぶ</small> ・西尾 誠示 <small>にしお せいじ</small>

講義の到達目標(ねらい) これまでの講義および実験で習得した莫大な放射線および一般臨床医学知識をもとに、実際の医療の現場で放射線診療の流れを学習し、診療放射線技師の役割を実地で詳細に人念に理解すると共に今後の学習に参考とすべき点を学ぶ。実習に先立って担当教員と臨床実習病院指導者等から必要事項のガイダンスを受ける。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 病院実習の目的、実習手続上必要な書類と記入方法
- (2) 実習病院の組織、機能、施設についての説明
- (3) 患者接遇など病院内で実習する上の心得
- (4) 分野別の実習
 - a. 一般撮影
 - b. 消化管撮影
 - c. 血管造影
 - d. X線CT
 - e. MRI
 - f. 救急医療での撮影

履修上の留意点

病院実習は指定規則により、診療放射線技師国家試験受験資格を取得するための必須科目となっている

成績評価の方法

実習病院からの実習成績評価報告書と学生の提出する実習報告書による。

履修コード	162001
科目名	放射線学総合演習
担当者名	金子 順一 <small>かねこ じゆんいち</small>

講義の到達目標(ねらい) これまでに講義・実験・演習及び臨床実習等を通して診療放射線技術科学の広い分野にわたって学習して来た。本演習は、それらを総合した知識および技術力をさらに深め、診療放射線技師試験の合格に必要な知識を身につけることを目標とする。

講義の内容／授業スケジュール 学生が主体となってグループを編成し、演習テーマを決めて自主的に学習を進めて行くことを基本とする。それぞれの専門科目の演習は必要に応じて担当教員が支援する。また、放射線技師試験の受験対策のための模擬試験を数回実施する。

本講義の内容は、診療放射線技師試験で出題される下記14科目のすべてを対象とする。
「放射化学」、「診療画像機器学」、「診療画像検査学」、「核医学検査技術学」、「放射線治療技術学」、「医用画像情報学」、「基礎医学大要」、「放射線生物学」、「放射線物理学」、「医用工学」、「放射線計測学」、「エックス線撮影技術学」、「画像工学」、「放射線管理学」。

医療

履修上の留意点 第1～15回 診療放射線技師国家試験出題科目演習(模擬試験を含む)
自主的に取り組む姿勢が不可欠である。
1年次～3年次に履修した科目は前期のうちに一度復習を終え、基礎的な知識を早期に充実させること。また、夏休みを終えるまでに全科目の過去問演習を行っておくよう努力して欲しい。また過去問等の演習で重要なことは、答が合った、間違ったの数を問題にするのではなく、内容を理解できているかどうかをチェックすること。内容理解の積み重ねが成功の秘訣である。

成績評価の方法 1月と2月に実施する、本番の診療放射線技師試験と同形式の定期試験の結果と、臨機に実施する模擬試験の結果によって総合評価する。

教科書／テキスト 特に定めない。必要に応じて教材用のプリントを使用する。

履修コード	162101
科目名	画像処理論
担当者名	近藤 啓介 <small>こんどう けいすけ</small>

講義の到達目標(ねらい) 医療現場においてデジタル化された画像は、画像処理をしてから医師により読影されている。画像処理には様々な方法があり、研究・開発が盛んに行われている。医師の望む画像を作成するためには画像処理の仕組みを理解する必要がある、そのためにはコンピュータの中でどのように処理されているかを理解する必要がある。

講義の内容／授業スケジュール 実際の医用画像に対して行われている基本的な画像処理の手法やデータ圧縮の方法などを解説する。そして、自らプログラミングすることにより画像処理の仕組みを理解する。

(1) 画像処理とは
(2) 画像の拡大・縮小
(3) 画像の鏡影・せん断
(4) 画像の線形変換・合成
(5) ソーベルフィルタ
(6) ハイパスフィルタ・ローパスフィルタ
(7) 画像圧縮
(8～15) 画像処理の実習

履修上の留意点 演習形式で行うので、積極的に受講すること。

成績評価の方法 出席状況・レポート・試験により評価する。

教科書／テキスト 近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1

履修コード	162201
科目名	線量計測工学
担当者名	小川 雅生

講義の到達目標(ねらい) 放射線治療には組織に吸収される線量の空間分布を正確に測定することが求められる。その測定に必要な線量計測の方法および背景にある放射線物理学を講義する。

- 講義の内容／
授業スケジュール
- 1 回 フルエンス、エネルギーフルエンス、放射エネルギー
 - 2 回 減弱係数、質量エネルギー減弱係数
 - 3 回 阻止能、線エネルギー付与
 - 4 - 5 回 カーマ、空気カーマ、照射線量、吸収線量
 - 6 - 8 回 吸収線量の標準測定法
 - 9 回 荷電粒子平衡
 - 10 回 ブラッグ・グレイの空洞理論
 - 11 回 電離箱の構造と動作原理
 - 12 回 化学線量計
 - 13 回 電子線照射の線量計測
 - 14 回 ペンシルビーム X線の線量計測
 - 15 回 実効線量、線質係数、放射線荷重係数

履修上の留意点 線量計測についての理解を深めるためには、背景にある放射線物理学との関係を把握することが大切である。

成績評価の方法 定期試験の他、講義中に行う演習問題および出席状況により評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

使用しない
外部放射線治療における吸収線量の標準測定法（日本医学物理学会編、通商産業研究者発行）

医療

履修コード	162301
科目名	医療放射線科学総合研究
担当者名	西尾 誠示・青木 清・小川 雅生・奥山 康男・金子 順一・佐藤 昌憲・嶋田 守男・名古 安伸・ 原田 和正・山本 裕右・吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) この科目は個々の学生の研究能力を高めることを目的としている。そのために各学生が、これまでに学修してきた基礎知識を生かして、医療放射線科学分野における諸問題を自分自身で解決することに挑戦する。したがって、通常の講義や実験と異なり、内容や結果が決まっているものではない。あくまで、各自が主体的に内容を深めていくことが大切である。学生には指導教員が見つかり、教員の役割は研究の方向性や実施方法を示すことであり、実際に調査を行ったり、実験を行ったりするのはあくまで学生自身である。研究で得られた成果については、各自が報告書に纏め、研究発表会にて発表する。

講義の内容／
授業スケジュール

研究は次のような手順で進める。
(1~3) 興味ある分野についての学修、(4) 研究テーマの決定、(5~7) 研究テーマに関連する文献の調査、(8~25) 問題点の検討や実験の実施、(26~29) 報告書の作成、(30) 成果の発表
授業スケジュールは目安であり、各自の学修、実験等の進捗状況により変わることがある。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

研究テーマを選ぶ前に関連学会の論文等をよく調べること。
学生自身が主体的に考え、取り組むことが大切である。
平常の実験・研究の進め方、報告書、発表内容に基づき総合的に評価する。

履修コード	162401
科目名	医療画像科学総合研究
担当者名	野口 勝・飯田 幸雄・熊坂 さつき・近藤 啓介・瀬尾 育武

講義の到達目標(わらい) 3年次までに学習してきた基礎知識をベースにし、医療画像科学分野の諸課題について、文献調査、実験、結果の考察、改善方法の検討など、未知の研究テーマに挑戦する。これまでのように筋道が示された実験ではなく、日々試行錯誤の連続となる。この過程を通して、問題を解決するために自ら工夫し、それが成功したときの楽しさ、達成感、充実感を体験して欲しい。研究で得られた成果は研究報告書としてまとめることにより、行った一連の流れを論理立てすることも学ぶ。また成果を総合研究発表会で発表する。

講義の内容/
授業スケジュール

研究テーマは1人1テーマを原則とし、指導担当の先生と話し合って選定し、推進する。また数回、画像技術科学コースの先生全員に対して進捗報告を行い、幅広い視点からのアドバイスを受ける。

- 4月 : テーマの選定と具体化
5～9月 : 文献調査、実験の推進、結果の考察
10月 : 追実験、報告書のまとめ
11月 : 発表会

履修上の留意点

自主的に、計画的にテーマに取り組むこと。先生の指示を待つのではなく、自ら課題をもって相談に行き、指導を受けること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

研究の進め方、自主性、工夫の度合い、報告書と発表のできばえ等を総合して評価する。
必要に応じて資料を配布する。
必要に応じて資料を配布する。

医療

履修コード	163401
科目名	放射線治療技術学
担当者名	高山 誠

講義の到達目標(わらい) 各領域の疾患別について放射線治療の各論的項目を講ずる。
診療放射線技師として認識していなければならない各領域の放射線治療の対象となる代表的疾患について講義を行い、放射線治療を行う際の治療計画や照射方法について実際の症例を提示して解説を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

また、各領域における最新の放射線治療の技術的な動向についても取り上げる。
(1～2) 脳腫瘍の放射線治療、(3～6) 頭頸部領域の放射線治療、(7～8) 胸部の放射線治療、(9～10) 食道、消化器領域の放射線治療、(11～13) 婦人科領域の放射線治療、(14) 泌尿器科領域の放射線治療、(15) 総括

成績評価の方法
教科書/テキスト

授業出席、受講態度などと定期試験による。
増田 康治 編 「放射線治療技術」改訂第4版
立入 弘 監修 「診療放射線技術」下巻 改訂第11版

履修コード	163501
科目名	画像構築論 I
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(わらい) 近年のX線撮影ではCT(コンピュータ断層撮影)やMRI(核磁気共鳴映像法)などが普及してきています。これらの機器は計測されたデータをコンピュータで再構築する処理が不可欠となります。本講義ではCTやMRIの画像構成手法を中心に3次元処理などの基本的な画像処理について解説します。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1～4) フーリエ変換
(5～9) CT・MRIの画像再構成処理
(10～13) 3次元処理
(14～15) コンピュータ実習

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

演習形式で行うので、積極的に受講すること。
出席状況とレポート及び試験により評価する。
プリントを配布する。
近藤啓介・田畑慶人・笠井俊文著、オーム社、『医療画像処理実践テキスト』、4,200円 ISBN4-274-19744-1
岡部哲夫・瓜谷富三編集、『医用放射線科学講座14 医用画像工学』(医歯薬出版株式会社)

履修コード	163601
科目名	画像伝送論
担当者名	廣田 <small>よりのり</small> 尊宣

講義の到達目標(ねらい)

近年では PACS (Picture Archiving & Communication System) が普及し、放射線科部門のみならず院内での検査運用が広くデジタル化されてきています。医用画像情報システムを構築し、運用を管理するとともに蓄積された診療データを利活用することで、医療の質と効率を上げることが重要な課題になってきています。本講座では画像通信の基本となるネットワーク技術、DICOM (Digital Imaging and Communications in Medicine) 及びストレージ技術について概要を学びます。

講義の内容／
授業スケジュール
成績評価の方法
教科書／テキスト

後期15回の授業を行います。前半は講義中心に進め、後半は実習を中心に進めて理解が深まるように工夫しています。
出席状況とレポートにより評価します。
プリントを配布する。

履修コード	163701
科目名	画像診断技術学Ⅱ
担当者名	吉川 <small>よしかわ</small> 宏起

講義の到達目標(ねらい)

診療放射線医学で扱う種々の画像診断モダリティにおける正常像と代表的疾患の異常像ならびに装置特有のアーチファクトについて学び、各疾患ごとの効率的な検査の進め方をマスターしていく。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1-3) 中枢神経系における代表的疾患
- (4、5) 頭頸部における代表的疾患の検査法
- (6、7) 呼吸器系における代表的疾患の検査法
- (8-10) 消化器系における代表的疾患の検査法
- (11、12) 泌尿生殖器系における代表的疾患の検査法
- (13-15) 四肢関節系における代表的疾患の検査法

履修上の留意点

画像診断モダリティの種類と特徴、それぞれの画像法の原理について復習しておく。各臓器別、疾患別の各種画像診断法の効率的かつ有効な応用法の学修を目指す。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席率と小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。
笠井俊文・小川敬壽共編『診療画像機器学』(オーム社) 5,400円

履修コード	163801
科目名	診療画像情報学Ⅱ
担当者名	西尾 <small>にしお</small> 誠示

講義の到達目標(ねらい)

ここでは実際の臨床写真を用いて生体と画像の因果関係を中心に、撮像技術および画像の品質管理も含めて講義する。診療技術科学コースの学生は最低限正常例について理解し、それを自ら解説できる能力を身につけたい。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 概論
- (2) 画像に影響を及ぼす因子と画質の評価尺度
- (3) 胸部単純像の画像評価
- (4) 胸部 CT 像の画像評価・単純象との対比
- (5) 腹部領域における画像評価
- (6) 腹部 CT 象と画像評価
- (7) 乳腺 X 線画像の評価、乳腺画像の品質管理
- (8) 頭部単純像の画像評価
- (9) 消化管造影像の評価
- (10) 椎骨 X 線像の画像評価
- (11) 四肢骨 X 線像の画像評価
- (12) 心・大血管の検査と画像評価
- (13) 頭部血管像の画像評価
- (14) 頭部 CT 像の画像評価
- (15) まとめ

履修上の留意点

医療画像の画質の評価が出来るようになること。
正常な症例について解説できるようになること。
典型的な症例について理解できるようになること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

平常点および、定期試験の結果を基に評価する。
放射線画像医学 (医歯薬出版) 3,800円
講義用 CD およびプリント

医療

履修コード	163901
科目名	臨床医療人間学Ⅱ
担当者名	奥山 康男

講義の到達目標(ねらい) 医療の特殊性を理解し病院実習及び就職後の医療人(社会人)として対応可能な人間性を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール 第1回～7回：4年次前期に行う病院実習の諸手続き、注意事項、実際に病院で業務している内容について。
第8回～12回：医療現場での診療放射線技師の立場や役割、将来構想について最新の医療情報について。
第13回～15回：三次救急の病院に勤務する現職の診療放射線技師に医療現場の実情についての講義を受ける。

準備学習 3年次の病院実習で得た知識を見直すとともに、学内で学習した核医学や放射線治療学を復習すれば授業は理解しやすくなる。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト プロジェクターに映写しながら授業を行うのでポイント点を見失わない様にする。出席状況、受講態度、課題レポートの提出による総合評価にて決める。特に指定しない。

医療

履修コード	164001
科目名	画像と放射線治療
担当者名	吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 放射線治療は、放射線診断とともに医学における電離放射線利用の柱であり、現在も大きく進歩している領域である。本講義では各臓器における悪性腫瘍の病期決定に必要な画像情報とその検査法、放射線治療法について習得する。

講義の内容／
授業スケジュール (1) 放射線治療における画像診断
(2、3) 脳腫瘍の放射線治療と画像診断
(4-6) 頭頸部腫瘍の放射線治療と画像診断
(7、8) 肺腫瘍の放射線治療と画像診断
(9、10) 消化管腫瘍の放射線治療と画像診断
(11) 肝・胆・脾腫瘍の放射線治療と画像診断
(12、13) 婦人科腫瘍の放射線治療と画像診断
(14) 泌尿器科腫瘍の放射線治療と画像診断
(15) 悪性リンパ腫の放射線治療と画像診断

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト 放射線治療計画を行う上で必要な画像情報とそれを得るための撮影技術を理解する。出席率および小テスト、定期的筆記試験による。使用しない。プリントを配布する。

履修コード	164101
科目名	医療放射線科学論文講読
担当者名	吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 診療放射線医学に関する英文に頻出する単語や熟語を習得し、英文論文の読み方を身に付ける。

講義の内容／
授業スケジュール 最初に頻出する単語や代表的な熟語についての解説を加える。次に放射線診断学における代表的な英文論文を選定し、講読を進めていく。

履修上の留意点 身に付けた単語や熟語をキーワードとして、医療関連の英語のホームページに入っていく情報収集しながら医学英語に親しむようにする。

成績評価の方法
教科書／テキスト 出席率、レポートによる。使用しない。プリントを配布する。

履修コード	164201
科目名	医療画像科学論文講読
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい) 学士論文、実験研究に必要な各自のテーマに沿った学术论文を読み、研究のテーマのターゲットを見つけ出す為の基礎知識を養う。

講義の内容／授業スケジュール テーマにあわせた学术论文を各自が読みながら発表、論説、討論する。授業は週に2回行ったり、2から3時限続けて行ったりする場合がある。場合によっては画像コースを2つに分け、2教室で同時進行する場合もある。その際は、必ず総合研究の指導教官が直接指導を行いながら論文講読の授業を行う。

履修上の留意点 画像コース担当の先生方が全員一緒に討論に加わる場合がある。

成績評価の方法 発表した学术论文の内容についての理解度、発表の仕方、提出レポートについて評価する。

教科書／テキスト 教員または学生自らが選別した学术论文。

履修コード	163001
科目名	核医学検査技術学実習〔病院実習〕
担当者名	吉川 宏起・飯田 幸雄・奥山 康男

講義の到達目標(ねらい) 本実習は、放射線治療技術学実習と同時期に指定された病院にて実施する。実習生は、学内では経験できない臨床上の業務の流れや手技について習得する。そのためには、予習・復習を行い積極的に実習に臨み、将来医療技術者として必要な基礎を身につける。

講義の内容／授業スケジュール 平成22年度は、6月中旬より7月中旬までの4週間（土日は除く）首都圏の指定された病院で放射線治療技術学実習とともに実施する。実習病院では、経験豊かな担当者によって診療業務を行いながら指導を受ける。

履修上の留意点 実習中は、医療人としての自覚を持ち、言葉使いや身だしなみには十分に注意することが大切である。守秘義務ならびに個人情報保護の観点からも、実習中に知り得た患者さんの情報を他に漏らしてはいけない。

成績評価の方法 実習病院からの“実習成績評価報告書”および実習生が提出する“病院実習報告書”などにより決定する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 核医学検査技術学（南山堂）、病院実習要項

医療

履修コード	163101
科目名	放射線治療技術学実習〔病院実習〕
担当者名	吉川 宏起・飯田 幸雄・佐藤 昌憲

講義の到達目標(ねらい) 本実習は、核医学検査技術学実習と同時期に指定された病院にて実施する。実習生は、学内では経験できない臨床上の業務の流れや手技について習得する。そのためには、予習・復習を行い積極的に実習に臨み、将来医療技術者として必要な基礎を身につける。

講義の内容／授業スケジュール 平成22年度は、6月中旬より7月中旬までの4週間（土日は除く）首都圏の指定された病院で核医学検査技術学実習とともに実施する。実習病院では、経験豊かな担当者により診療業務を行いながら指導を受ける。

履修上の留意点 実習中は、医療人としての自覚を持ち、言葉使いや身だしなみには十分に注意することが大切である。守秘義務ならびに個人情報保護の観点からも、実習中に知り得た患者さんの情報を他に漏らしてはいけない。

成績評価の方法 実習病院からの“実習成績評価報告書”および実習生が提出する“病院実習報告書”などにより決定する。

教科書／テキスト 使用しない。

参考書 病院実習要項

履修コード	164301
科目名	医療統計学
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)

医療に関する多数のデータを整理・解析しようとするとき、統計学の知識が必要不可欠となる。特に医療データは、単に平均や標準偏差を求めれば良いというものでなく、その特殊性に応じたデータの収集方法や解析方法が必要となる。授業では統計学の初歩的事項から実用的な統計手法までを解説する。統計学の理論を理解するだけでなく、実際の業務に役立つ手段として身につけることに重点を置いて講義をする。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 医療統計学とは
- (2) 統計と表
- (3～5) 統計とグラフ
- (5～7) 統計量
- (8～9) 統計的推定
- (10～11) 検定
- (12～14) 実習
- (15) ROC 解析

医療

履修上の留意点

単に計算式を覚えるのではなく、実際に使えるようになることが重要です。総合研究や将来の論文・研究で利用することを考えて、積極的に受講すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト

演習とレポート及び試験により評価する。
プリントを配布する。

履修コード	164401
科目名	計算機言語論
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)

今日、病院で取り扱われている医用画像の多くは、デジタル信号化され画像処理されている。画像処理を行うためには、画像処理ソフトを利用する方法もあるが、新しい方法で処理する場合や、開発をするためには、自らプログラミングする必要がある。

この授業では、プログラミングのための基本的な知識を習得することを目指します。ただし、半年間という短い期間ですので、画像処理でフィルタ処理をするために必要な基本的な命令文に絞って学習します。プログラミング言語はC言語を利用します。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) プログラミング
- (2) 変数とは
- (3～4) 変数による計算
- (5～6) 繰り返し文
- (7～8) 分岐文
- (9～11) 繰り返し文の実習
- (12～13) 分岐文の実習
- (14～15) ソートプログラミングの実習

履修上の留意点

画像処理言語論の受講にあたっては、この授業にてC言語の知識を習得している必要がある。画像処理言語論の受講予定者は必ず受講すること。

授業の半分は演習を行います。積極的に受講すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席状況とレポート及び試験により評価する。
プリントを配布する。

履修コード	164501
科目名	量子論
担当者名	金子 順一

講義の到達目標(ねらい)

量子論はミクロの世界を記述する理論であり、原子の振る舞いや、放射線に関連した現象の理解には欠かせないものである。本講義では、量子論が必要とされた経緯から始め、古典論では説明することのできない諸現象を、量子論の手法で解説を行う。量子力学における基本方程式である波動方程式の導出を行い、基本的な系での解法の説明を行う。本講座は、量子論の基本的な事項について理解することが目標である。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 古典論の問題点
- (2～4) 前期量子論、物質と波動
- (5～9) 波動方程式とその解
- (13～15) 波動関数と物理量

成績評価の方法
教科書／テキスト

試験及び出席状況により評価を行う。
特に指定しない。講義中に必要な資料については、プリントを配布する。

履修コード	164601
科目名	医療宗教学
担当者名	吉津 宣英

講義の到達目標(ねらい)

この科目は将来皆さんが医療の現場に出お仕事をされる時、患者さんと接する場合に役立つことを目的にしています。科目名が「医療宗教学」となっていますが、宗教学を講義するつもりはありません。それは「仏教と人間」という宗教教育科目で学んでもらいたいと思います。私はむしろ「医療人間学」というぐらいの科目名で考えてもらいたいと思います。ただ皆さんが受講する「臨床医療人間学」2科目とダブらないように注意します。医療人としての皆さんは様々な患者さんに出会うことでしょう。医療技術には自信があっても、人間的には好悪の感情は否定できないし、大いにストレスを感じることでしょう。どんなに嫌いな人であっても、誠意をもって治療に当たらなくてはなりません。そのためには皆さんの人間性においてどんな人にも柔軟に対処できる姿勢が形成されていなくてはならないと思います。この科目は様々な宗教的、また哲学的な人間観を示して、その参考に供したいと思います。ある一定の自分の人間観を持つと共に、いろいろな人々の人間観を認めることのできる医療者になったほしいのです。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回目は全体的なガイダンスです。医療、特に病院の人間関係を考え、今年はストレスにいかに対処するかを考察します。拙著『やさしさの仏教』をベースにして、いいかげんではなく、良い加減の生活のあり方を模索します。自己を考えます(2,3回目)。人間を考えます(4,5,6回目)。社会を考えます(7,8,9回目)。人生を考えます(10,11,12回目)。まとめとテストを行います(13,14,15回目)。内容の順序に替りはありませんが、回数については延長、短縮が有り得ることを了解して下さい。

準備学習
履修上の留意点

特にありません。
この科目専用のノートを用意して下さい。講義内容を筆記すると共に自分の意見や疑問を書きとめ、全体を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいと希望します。

成績評価の方法

毎回出席を取ります。4回ほど課題提出をお願いします。最後に試験を行います。その結果を総合して成績評価を出します。

教科書/テキスト
参考書
その他

特に使用しない。出来るだけプリントを配布します。
講義の中で随時紹介します。
私の講義の最中でも挙手して質問して下さい。私語は厳禁です。あまり目立つ場合は退場を要請します。授業開始時間後30分を経過してからは教場に入らないで下さい。

医療

履修コード	164701
科目名	医療経済学
担当者名	松元 和敏

講義の到達目標(ねらい)

医療経済学 (Healthcare Economics): 近年医療に求められているものとして、医療技術、医療安全、医療感染対策、そして医療経済などがある。特に医療経済学は、医療のこれからの方向に重大な影響を与えるため、経済学の知識は益々必要とされる。主に、医療費や医療の受給関係、費用対効果、医療経済評価、医療制度などが対象である。当講義では、基礎的な知識を基に現在の医療問題点を紹介しながら医療経済学を理解していただく。

講義の内容/
授業スケジュール

講義は、テキストと資料を併用して行なう。資料は医療経済に関する最新の論文、行政公布書類等を使用する

1. 医療用語説明 1～2
2. 医療経済学を理解するために 3～4
3. 医療経済学の経済学的基礎 5
4. 医療経済学とはなにか 6
5. 医療と最新の経済学 7～8
6. 医療の仕組みを経済学で分析する 9～10
7. 医療のプレーヤーとその行動 11
8. 米国の医療制度を考える 12
9. 日本の医療制度を考える 13～15

準備学習
履修上の留意点

医療に関する新聞記事を多く読んで参加して頂きたい。
実践に即した内容にするために参加型の授業を目指し、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

出席、レポート、試験

教科書/テキスト

真野俊樹著「入門 医療経済学」(中公新書)、820円

参考書

① 医療の質 用語事典 「日本規格協会」 3000円

② 図説 国民衛生の動向2008 「厚生統計協会」 1600円

③ 宇沢弘文 「社会的共通資本」 岩波新書 819円

その他

厚生労働省、日本病院会、日本医師会

履修コード	164801
科目名	医学特論
担当者名	山口 晶

講義の到達目標(わらい)

実際の症例画像を提示しながら、臨床目的に即した撮像技術を修得する。具体的には単純 X 線撮影、超音波検査 (US)、X 線 CT、血管造影、核医学検査 (RI) および種々のモダリティによる 3 次元画像を提示しながら画像の検討、読影を行う。さらにより侵襲の少ない方法で診断するための撮像モダリティの応用法について講義を行う。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

(1) 各撮像技術の特徴 (2、3) 呼吸器疾患 (4、5) 骨軟部疾患 (6、7) 中枢神経系疾患 (8、9) 消化管疾患 (10、11) 泌尿器疾患 (12、13) 婦人科系疾患 (14、15) 総合画像診断
これまで修得した画像解剖の復習と各種画像検査法の原理、特徴について復習しておくこと。
授業時間内の小テスト、定期的筆記試験。
使用しない。プリントを配布する。

履修コード	164901
科目名	放射線検出器工学
担当者名	鳥山 保

医療

講義の到達目標(わらい)

放射線と物質との相互作用に伴う検出器内での物理現象、その後の電気的パルス生成過程、波高分析システム、並びに計数の精度等の基礎的な知識を学んだ上で、各種放射線検出器の放射線への適用性、測定エネルギー範囲、エネルギー分解能、効率、時間分解能について学習する。さらに、2次元放射線検出器等についても学ぶ。上記の学習内容をもとに診療機器で使用されている放射線検出器の性能について説明できるようになることを授業目標とする。

講義の内容/
授業スケジュール

1 回/放射線検出の基礎 (1): 放射線の種類と発生源 (線源・加速器)、2 回/同 (2): 物質の構造 (量子力学/原子・分子・固体)、3 回~4 回/同 (3): 光子と物質との相互作用 (光電効果・コンプトン散乱・電子対生成)、5 回/同 (4): 荷電粒子線と物質との相互作用 (阻止能・飛程)、中性子線と物質との相互作用、6 回/放射線検出器の一般的性質と計測システム (パルス波高分析器)、7 回/計数の統計と誤差の評価、8 回/電離箱の構造と検出手法 (直流測定・パルス測定)、照射線量・吸収線量計測、9~10 回/比例計数管の構造と性能、位置敏感型比例計数管、中性子検出、GM 計数管、1 1 回/シンチレーション検出器 (無機・有機シンチレータ)、1 2 回/光電子増倍管と X 線・ γ 線の測定スペクトルの測定、1 3~1 4 回/半導体検出器の構造と Si 検出器による荷電粒子・X 線の測定、Ge 検出器による X・ γ 線の測定、1 5 回/他の半導体検出器 (CdTe、HgI₂等)、CCD 検出器を用いた 2次元検出器、イメージング・プレート (IP)

準備学習
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

3 年次までに放射線検出器について行なった実験のレポートを見返しておくこと。
定期試験の他、授業の中で出題するレポートおよび出席状況により評価する。
使用しない。プリント配布。

その他

グレン F. ノル著、放射線計測ハンドブック (第3版) 訳/木村逸郎・坂井英次 (日刊工業新聞社)、ニコラス ツルファミデス著:放射線計測の理論と演習、上・下巻、坂井英次訳 (現代工学社)
メールアドレス: ttoriyam@komazawa-u.ac.jp

履修コード	165001
科目名	放射線感光化学
担当者名	山本 裕右

講義の到達目標(わらい)

放射線の感光材料としてはフィルムが最も一般的であり広く使用されているが、本講義においては、医療分野でフィルムと組み合わせて使用される増感紙、および放射線に対する新しい感光材料として近年使用されている輝尽発光体について、放射線と物質の相互作用に注目して解説する。増感紙については、まずラジオルミネセンスについて触れ、発光機構を説明すると共に、種々の増感紙材料の化学および発光特性について解説する。また、輝尽発光体については、輝尽発光の発光機構について説明し、種々の輝尽発光体材料の化学および発光特性について解説する。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 放射線による発光現象の医療への応用、(2,3) 増感紙に用いられる発光体とその特性、(4,5) 輝尽発光とは、(6) 輝尽発光体の歴史、(7~11) BaFX:Eu 発光体の特性と発光機構、(12,13) その他の輝尽発光体の特性、(14) ISP の自然科学への応用、(15) 輝尽発光現象の線量測定への応用

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

平常点、出席点 (30%)、レポート (70%)。
使用しない。
W.M.Yen,S.Shionoya and H.Yamamoto ed., Phosphor Handbook 2nd ed., CRC Press(2006).
入門固体化学, L.Smart and E.Moore 著、河本、平尾 訳、化学同人 (1996).

履修コード	165101
科目名	放射線化学特論
担当者名	ほらだ かづまさ 原田 和正

講義の到達目標(ねらい) 本講義においては、固体の放射線化学のうち、特に、放射線と固体との相互作用を利用した放射線線量測定に関係する領域について解説する。まず、イオン結晶、共有結晶、ガラスについて放射線の固体への効果を概観し、固体に残される放射線効果と格子欠陥の関係、空孔と捕獲中心などに触れながら、放射線のエネルギーがいかんして固体中に蓄積されるか、また、蓄積されたエネルギーをいかんして解放するかを解説する。さらに、以上の事を基礎として、熱ルミネセンス、エキソ電子放出現象について言及する。

講義の内容／
授業スケジュール

(1~3) 固体の化学、結晶, (4,5) 結晶の不完全さ、格子欠陥, (6~8) 放射線と固体の相互作用, (9) 放射線による発光現象, (10) 熱ルミネセンスとは, (11,12) グロー曲線の解析, (13) 熱ルミネセンスの放射線計測への応用, (14,15) 各種 TLD の特性

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

出席点 (20%)、レポート (30%)、定期試験 (50%)。

使用しない。

Handbook of Thermoluminescence, C.Furetta, World Scientific(2003).

Phosphor Handbook 2nd ed., W.M.Yen, S.Shionoya and H.Yamamoto ed., CRC Press (2006).

入門固体化学, L.Smart and E.Moore 著、河本、平尾 訳、化学同人(1996).

希土類の科学、足立吟也 編、化学同人(1999).

医療

履修コード	165301
科目名	最新医療技術
担当者名	よしかわ こうき 吉川 宏起

講義の到達目標(ねらい) 医療における技術開発は目覚ましい。本講義では最新画像診断技術学を中心に新しい診断技術および治療技術について習得する。

講義の内容／
授業スケジュール

(1-3) 放射線診断学における最新医療技術

(4、5) 核医学診断学における最新医療技術

(6、7) 放射線治療学における最新医療技術

(8-10) MRI 技術の最新情報

(11-13) X線 CT 技術の最新情報

(14-15) IVR の最新情報

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

1年~3年次の解剖学と病理学の復習を行っておくこと。

出席率と授業中の小テスト、定期期末テストによる評価。

特になし。プリントを配布。

履修コード	165401
科目名	放射化学特論
担当者名	ほらだ かづまさ 原田 和正

講義の到達目標(ねらい) 核医学で用いられる放射性同位元素および標識化合物についての各論を学ぶ。現在、放射性医薬品として使われている放射性核種は99m-テクネチウムをはじめとして、133-キセノン、67、68-ガリウム、123、125、131-ヨウ素など多種にわたる。これらの核種を利用しての核医学検査技術学的な面については3年次の「核医学」で既に学んでいるが、本講義においては in-vivo 放射性医薬品の体内での挙動を理解するうえで基礎となる事項を中心に解説する。

講義の内容／
授業スケジュール

99m-テクネチウムを中心に以下の内容について講義する。

・テクネチウム

発見の歴史 (1)、核的性質 (2~3)、化学的性質 (4~5)、製造法 (6~7)、ジェネレータ (8~9)、標識化合物の性質と標識法 (10~11)

・その他の核種：キセノン、クリプトン、ガリウム、インジウム、タリウム、ヨウ素 (発見の歴史とその存在、化学的性質、核的性質、製造法、81-Rb—81m-Kr ジェネレータ、標識化合物の性質と標識法) (12~15)

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

定期試験と平常点により評価する。

使用しない。

日本アイソトープ協会編『アイソトープ手帳』(日本アイソトープ協会) 1,680円 講義には必ず持参すること

履修コード	165501
科目名	放射線学特論
担当者名	熊坂 さつき

講義の到達目標(ねらい)

診療放射線技師として放射線の物理学的特性、医用画像の特徴、特にデジタル化された画像の特徴や画像処理の仕組み、安全管理、核の取り扱いと知識、放射線が生物に与える影響を十分に理解しておく必要がある。

この授業では、この様な分野について放射線技師国家試験に十分合格出来るような基本知識を養う講義を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1-3) 放射線計測学、放射線安全管理学
- (4-6) 放射線物理学
- (7-11) 画像工学、医用画像情報学
- (12-14) 放射線生物学

履修上の留意点

基本的には毎週演習をおこないます。自習をしっかりとすること。

成績評価の方法

出席状況と試験により評価する。

教科書／テキスト

プリントを配布する。

参 考 書

放射線技師国家試験用の問題集や参考書

医療

履修コード	165601
科目名	診療機器システム学
担当者名	近藤 啓介

講義の到達目標(ねらい)

診療機器は病院情報システム、放射線部情報システムや PACS などのサブシステムであると同時に、それ自体システムとみなすことができる。そこで、まず、システムの信頼性をどう捉えるかが重要である。

また、医療機器以外にも診療放射線技師は医療画像を評価・解析するシステムの操作方法の習得は将来、研究をするときに必要になってくる。授業では、実際のシステムを操作を行いながら、利用方法を学ぶ。また、最新の画像解析装置や特殊な測定装置や評価装置も体験しながら、その仕組みを理解する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) システムの信頼性
- (2) システムとシステムズ・アプローチ
- (3～6) システムの操作方法の実習
- (7～12) 解析装置の実習
- (13～15) 実際の装置を使った解析・評価

履修上の留意点

画像の解析や評価の基礎知識が必要不可欠であるため、受講希望者は画像コースの勉強会に参加することが望ましい。

実際にシステムを利用しながら学ぶため、授業時間以外の演習が週 2 回程度必要になるので、積極的に出席すること。

成績評価の方法

レポートの内容と実習の取り組み状況から評価する。

教科書／テキスト

適宜プリントを配布する。

参 考 書

講義の中で随時紹介します。

履修コード	165901
科目名	放射線被曝管理論
担当者名	羽生 毅

講義の到達目標(ねらい)

放射線被曝管理体系は、原子放射線の影響に関する国連科学委員会 UNSCEAR 調査報告書を基に、国際放射線防護委員会 ICRP が正当化・最適化・線量限度を勧告、具体的基準を国際原子力機関 IAEA が作成し、各国の被曝管理法規に反映される。

診療放射線技師の職務は、医療放射線データ提供と患者に対する被曝行為である。医療を担う将来の一員として、必須な被曝管理体系と最適化患者被曝の知識を整理する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回：被曝管理の歴史、第2～8回：UNSCEAR 報告書(主文・線量評価法・自然放射線源・人工放射線源・医療被曝・職業被曝)、第9～10回：ICRP-Publ.84妊娠と医療放射線・他、第11～12回：医療被曝ガイドライン(IAEA-Publ.SS115・他)、第13回：患者被曝線量のコンピュータシミュレーション、第14回：メディカルリスクマネジメント

準 備 学 習

UNSCEAR・ICRP・IAEA の Web サイトにアクセスする。

履修上の留意点

放射線管理学・病院実習の知見を整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況・試験により評価する。

教科書／テキスト

プリントを配付する。

参 考 書

UNSCEAR・ICRP・IAEA 等の刊行物

専 門 教 育 科 目

4. グローバル・メディア・スタディーズ学部

GMS

履修コード	400101・400201・400301・400401・400501・400601・400701・400801・400901・401001・401101・401201・401211・401221・401231・401241
科目名	Oral Communication I
担当者名	オーラ、B.・スミス、G. A.・ドイル、S.・ファーロー、D.・ブーハー、U. J.・マクマスター、P. G. W.・モエ、R. A.・ローズ、S.

講義の到達目標(ねらい) To teach students how to converse spontaneously in a natural manner.
 講義の内容／ Each lesson students will be randomly paired twice to converse and thereafter may volunteer up to 8
 授業スケジュール times to converse with the teacher. Students may freely choose conversation topics.
 Lesson 01 - Explanation of course
 Lesson 02 to Lesson 30 - TPP01 to TPP29

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 1.

履修上の留意点 Students are expected to use English they have acquired prior to entering university. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achieved WL} = \text{Current Grade}$$

教科書／テキスト There are no assigned textbooks for this class.
 参考書 “TPP for Students”, (www.study-suite.com), ¥2,000 + tax
 その他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

GMS

履修コード	401301・401401・401501・401601・401701・401801・401901・402001・402101・402201・402301・402401・402411・402421・402431・402441
科目名	Oral Communication II
担当者名	オーラ、B.・スミス、G. A.・ドイル、S.・ファーロー、D.・ブーハー、U. J.・マクマスター、P. G. W.・モエ、R. A.・ローズ、S.

講義の到達目標(ねらい) To teach students how to develop the conversational skills acquired in OCI.
 講義の内容／ Students will select a conversation topic and the teacher will assist them in developing and practicing
 授業スケジュール it. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the class. They may only talk about the topic selected in the previous class.
 Lesson 01 - Explanation of course; selection of topic; practice of topic
 Lesson 02 - TPP evaluation of selected topic
 Lesson 03 - Selection and practice of topic
 Lesson 04 - TPP evaluation of selected topic
 Lesson 05 to Lesson 30 - Selection and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the selected topic

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 21.

履修上の留意点 Students are expected to use the conversation skills acquired in OCI. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21} = \text{Current Grade}$$

教科書／テキスト There are no assigned textbooks for this class.
 参考書 “TPP for Students”, (www.study-suite.com), ¥2,000 + tax
 その他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402501・402502・402601・402602・402801・402802・402901・402902・403001・403002・403101・403102・403201・403202・403301・403302・403401・403402・403501・403502・403601・403602・403611・403612・403631・403632・403641・403642・403651・403652・403661・403662・405011・405012・405021・405022
科目名	Written Communication I・Critical Reading
担当者名	アッシュェル、 T. ・ オーラ、 B. ・ ギヤリソン、 E. ・ タセロン、 M. R. ・ パイプ、 J. ・ ファーロー、 D. ・ ブーハー、 U. J. ・ ブラック、 A. ・ ボッシュー、 E. ・ マクマスター、 P. G. W. ・ レオーネ、 J. V. ・ ローズ、 S. ・ 町田 尚子・杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい)

This course replaces the Critical Reading course and provides a more explicit connection between reading and writing. Normally, when we write something formally, we do some research first so that we understand the background to the topic and so that we have something new and relevant to write. In Written Communication I, you will read in order to write one 500-word essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims are that you will learn how to write a short essay in English, you will learn how to use material you have read to strengthen your writing, and you will develop greater confidence in reading English generally.

講義の内容/
授業スケジュール

In the first four weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the essay. You will also be taught the basic structure of an English essay and how to write an introductory paragraph. By week 5, you will be required to produce the first draft of the essay. From this point on, your teacher will help you to revise and edit your essay paragraph by paragraph and will introduce you to peer response so that you begin to help each other and develop greater independence as writers. Further reading assignments will also be assessed.

GMS

In addition, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Much of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essay. Easier and unrelated topics may also be set.

準備学習
履修上の留意点

For those wishing to push themselves harder, a non-compulsory extensive reading component to the course exists where students can read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

No specific preparation is required.

Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Written Communication 2 course and that Written Communication 2 is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Written Communication 2 even though you will have registered for this course. You will have to wait until the following year before taking Written Communication 1 again.

成績評価の方法

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester means that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

The essay will be re-drafted throughout the semester and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30%. Mini tests on each of seven texts (mainly connected to the production of the essay) will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 10% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5% and a vocabulary notebook which students will maintain will also count for 5%.

1 essay 30%
7 mini tests on reading texts 35%
Vocabulary notebook 5%
Reading test gain 5%
Journal/blog 10%
Extensive reading (reading graded material) 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%
450 pages or over = 15%

教科書/テキスト	None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参 考 書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
そ の 他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関 連 リ ン ク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	403701
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン、 E.

講義の到達目標(ねらい) This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.

講義の内容/
授業スケジュール Authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.

GMS

履修上の留意点 Attendance is mandatory.
Two tardies of more than 10 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法 The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書/テキスト None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.

参 考 書 Good, English learner's dictionary in either print or electronic format is recommended.
そ の 他 Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	403801
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン、 E.

講義の到達目標(ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
講義の内容/ 授業スケジュール	Authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3 to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 10 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
GMS 成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書/テキスト	None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.
参 考 書	An up-to-date English language learner's dictionary in either print or electronic format is recommended.
そ の 他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	403901・404001・404201・404301・404401・404601・404701・404801・404821・404831・404841・404851
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン、 J. G.・スミス、 G. A.・ドイル、 S.・バーンハート、 J. L.・ブラック、 A.・レオーネ、 J. V.

講義の到達目標(わらい)

This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.

講義の内容/
授業スケジュール

Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3-to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.

履修上の留意点

Attendance is mandatory.
Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書/テキスト

None. MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.

参 考 書
そ の 他

An up-to-date English-English learner's dictionary is recommended.
Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

GMS

履修コード	404101・404501
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	スミス、G. A.・ ^{すぎもり けんたろう} 杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい)	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
講義の内容／ 授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short 3- to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening to the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書／テキスト	None. Students will be informed of website URLs necessary to find material scheduled for use in class. In addition, MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.
参 考 書	Good, up-to-date English-Japanese dictionaries as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.
そ の 他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

GMS

履修コード	404901・404902・405001・405002・405101・405102・405201・405202・405301・405302・405401・405402・405501・405502・405601・405602・405701・405702・405801・405802・405901・405902・406001・406002・406011・406012・406031・406032・406041・406042・406051・406052・406081・406082・406091・406092
科目名	Written Communication II・Introduction to Writing
担当者名	アッシュェル、 T. ・ オーラ、 B. ・ タセロン、 M. R. ・ パイプ、 J. ・ ファーロー、 D. ・ ブーハー、 U. J. ・ ブラック、 A. ・ ボシュー、 E. ・ マクマスター、 P. G. W. ・ レオーネ、 J. V. ・ ローズ、 S. ・ 町田 尚子・杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい) This course replaces the Introduction to Writing course and is a continuation from Written Communication 1. In Written Communication 2, the emphasis will switch to writing, with students producing two 500-word essays. Background reading for the first essay will be provided, but students will independently research the topic of the second essay. Both the reading and writing elements of the course will be assessed. You will also have the opportunity to read easier material extensively to help develop your general reading ability in English. The aims are that you will develop your ability to write short essays in English, you will develop your ability to use material you have read to strengthen your writing, and you will continue to develop greater confidence in reading English generally.

講義の内容／
授業スケジュール

In the first two weeks of the course, you will read and be assessed on three texts which are directly relevant to the topic of the first essay. By week 3, you will be required to produce the first draft of the first essay. The essay will then be revised and edited paragraph by paragraph through peer response and teacher feedback. The second essay will be introduced in week 5. You will select a topic from a list or will propose a title of your own. You will then have to research the topic finding at least three sources, one of which must be a book. Your teacher will introduce you to the concept of acknowledging sources and you will be expected to cite when you use ideas or words from your sources. This is intended as preparation for the Academic Writing course which you will take in your second year. The second essay will be revised and edited through peer response and teacher feedback.

GMS

In addition, as in Written Communication 1, you will be required to contribute 200 words a week to a class blog for the first ten weeks of the semester. Much of this writing will be aimed at sharing and assessing materials which may help in the production of the essays. Easier and unrelated topics may also be set.

準備学習
履修上の留意点

Similarly to Written Communication 1, a non-compulsory extensive reading component to the course exists where students can read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

Preparation for the first essay will be required over the summer vacation prior to starting the course. Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Academic Writing course. Thus, if you fail this course, you will not be allowed to take Academic Writing in the following year. First you must take Written Communication 2 again.

成績評価の方法

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester means that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

The essays will be re-drafted and each successive draft will be graded by the teacher. The higher the grade, the higher the percentage you will receive in the final mark up to a maximum of 30% for each essay. Mini tests on each of three texts related to the production of the first essay will each count for 5% of the final grade. The ten weekly journal/blog contributions equate to 5% in the final grade. Extensive reading accounts for 15% of the final grade and is dependent on the number of pages read. The gain made between an initial and final reading test will count for 5%.

2 essays 30% x 2 = 60%
3 mini tests on IR texts 15%
Reading test gain 5%
Journal/blog 5%
Extensive reading 15%
250 ~ 300 pages = 5%
350 ~ 400 pages = 10%

教科書/テキスト	450 pages or over = 15% None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.
参 考 書	A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.
そ の 他	When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.
関 連 リ ン ク	https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/

履修コード	406101
科目名	グローバルメディアスタディーズ概論
担当者名	福家 秀紀・石川 憲洋・石橋 直樹・各務 洋子・川崎 賢一・絹川 真哉・クボタ、L・高 媛・芝崎 厚士・白水 繁彦・杉森 建太郎・テヅカ ヨシハル・西岡 洋子・リンスキー、M

講義の到達目標(ねらい)

本学部の名称を体現し、学部のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義をします。新しく発足した本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築へのアプローチ、そこにおける基本概念や哲学、基本的方法論や手法について、多元的、複合的な視座と、幅広い自由な発想で、メディアやコンテンツの本質について、学術的に研究することの意義が理解できるように構成されています。

講義の内容/
授業スケジュール

本学部は、人間の内面を重視する禅や仏教、最先端の科学技術に支えられた新しい発想を生み出すメディアや情報、地球規模のコミュニケーションの実践と人間の協調を実現していくグローバリズムと、その手段としての外国語、新しい産業やビジネスをインキュベートしていく経済学や経営学、社会の安定と新たな展開を支える社会学や法学など、従来の体系を超えた新たな学問のイノベーションを指向し推進していきます。その専門は多様であり、その概要を入学当初によく理解し、また、分野間の相互関係や相互作用を体験的に習得していく事が必要です。以下の項目は、上記の内容を具体化した講義のテーマの主な例です。

1. グローバル・コミュニケーションを実現するための言語の役割
2. メディア産業、コンテンツ産業を含んだ文化産業が成立した経緯とその後のグローバルな展開
3. 多様なメディアに適應したコンテンツの創造を可能とするコミュニケーションの相互作用の論理
4. メディアの利用をより効率的、効果的に行うことを支援する知的な処理の基本的な考え方
5. コンピュータネットワークの安全性とメディアの進展における情報の保護
6. 世界共通言語としての英語の多様性、電子メディアの英語情報に見られる地域差、文体差の考察
7. 自国の文化と異文化間のコミュニケーションにおける事例研究、比較分析
8. グローバル・メディア・ビジネスとしてのメディアやコンテンツ関連企業におけるビジネスの本質
9. グローバルメディアに関する政策、ガバナンス制度比較
10. メディアやコンテンツ産業におけるコンテンツファイナンス
11. 知的資産・コンテンツの経営における人材マネジメント
12. インターネット、データベース、マルチメディアとビジネス
13. コンピュータシステム、システムソフトウェア、WEBとその将来
14. メディア・コンテンツ産業と知財管理の問題点
15. 創造都市とメディア・コンテンツの相互関係
16. ネットワーク時代のコミュニティ創りとその課題

履修上の留意点

ここでは、専任教員が交替で講義を行っていきます。その中で、前期終了時には学部の教員の主な専門領域が分かる仕組みになっており、2年次以降に開講される演習の選択に参考にすることが望ましいです。

成績評価の方法

講義ごとにレポートを課しますが、その全体の評価で成績を決めていきます。

教科書/テキスト

使用しない。

参 考 書

必要に応じて随時紹介します。

そ の 他

講義の担当者の順番については、第一回目に発表します。

履修コード	406501
科目名	グローバルメディア概論
担当者名	川崎 賢一 <small>かわさき けんいち</small>

講義の到達目標(ねらい) グローバリゼーションが進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。

講義の内容／授業スケジュール 講義の内容は、大きく分けて、グローバルなメディアが成立するまでの、起源、発展のプロセス、文化産業論の展開、第二次大戦後以降の発展の概略、マスコミ産業からグローバルメディアへ、IT産業とグローバルメディア、グローバルメディア体制：その問題点と可能性、などについて具体的事例を挙げながら、学習する。

(スケジュール)

1. イントロダクション
2. 近代社会とポスト近代社会
3. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その1)
4. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その2)
5. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その3)
6. 文化政策から見た文化システムのグローバルな発展
7. ポピュラー文化とメディアの発達
8. 文化産業と創造産業の登場と展開
9. 近代国家システムと文化交流の展開
10. 世界都市とグローバルシティに関する歴史的展開と現代的意義
11. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション (その1)
12. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション (その2)
13. インターネットと社会的トランスフォーメーション
14. 携帯電話とコミュニケーション革命
15. まとめ：地球的文化システム

準備学習
履修上の留意点

授業内で指示するので、それに従うこと。

授業の内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

授業の中で指示する。

A.Giddens, Sociology(5th Edition), Polity Press, 2006

GMS

履修コード	406701・406801
科目名	メディアリテラシー
担当者名	金山 智子 <small>かなやま ともこ</small>

講義の到達目標(ねらい) 朝起きてから寝るまでメディアに関わらずに生活することは不可能なほど、私たちの生活環境はメディアに依存しています。人々の日常の出来事から国家間の戦争といった有事まで、あらゆることにメディアが関わっています。私たちの世界観はメディアによってつくられていると言えるほど、メディアが強力、かつ不可欠なものになっているということです。

「メディアとは一体どういうものなのか」を理解することが、日常生活、社会活動、経済活動、政治活動、国内外を問わず、全ての場面で求められているのです。本講義ではメディアが個人や社会に及ぼす影響や関係について理論を用いながら考えていきます。講義全体を通じて、クリティカルにメディア・メッセージを読み、メディア機関の社会的機能を洞察する、いわゆるメディアリテラシーの力を身につけてもらうことを目指します。

講義の内容／
授業スケジュール

- ① コース概要の説明／メディア、そしてメディア・メッセージとは
- ② メディアリテラシーはなぜ必要か
- ③ 「みんな同じことを考えろ」
- ④ 「イメージは作られる」
- ⑤ 「この人の言うことなら信じられる」
- ⑥ 「ニュースは作られる」
- ⑦ 「違う意見が言えなくなるわけ」
- ⑧ 「知らぬ間に浸透しているもの」
- ⑨ 「メディアを操っているのは誰？」
- ⑩ 新しいメディアリテラシー

履修上の留意点

授業では、視聴覚教材を多く使用しますので欠席はしないように。また、日頃から時事問題やメディアの動向について興味を持ち、それらに対する自分の考えを自分の言葉で表現する習慣を身につけるよう心がけて下さい。授業中の携帯電話の使用は認めません。私語厳禁。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席、レポート、学期末試験の総合評価。

特になし

履修コード	406901・406902
科目名	グローバルマネジメント グローバル経営論Ⅰ
担当者名	<small>かみ ようこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

グローバルマネジメントは、グローバルに展開する様々な組織に必須の概念です。多様な組織体が世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業などの行動を提示し、毎回事例研究を用いて理解しやすい講義を目指します。

講義の内容/
授業スケジュール

グローバル社会における組織の役割やマネジメントの基礎知識を体系的に理解できるように、1～3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。

I. イントロダクション

1. グローバル社会における組織とメディアの役割
2. マネジメントの意義と目的
3. グローバル経営の論理

II. グローバルマネジメント

4. グローバルマネジメント
5. グローバル組織のマネジメント
6. グローバルマネジメントの戦略
7. グローバル・マーケティング

III. グローバルマネジメントの革新

8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント
9. グローバル組織の組織間関係
10. グローバルな人的資源戦略
11. グローバル組織における文化
12. グローバル組織のコーポレートガバナンス

IV. 13～15 まとめ

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、様々な企業関連のニュースを理解するように心がけて下さい。

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。
開講時に指示。
必要に応じて随時紹介。

GMS

履修コード	407101・407201・407301・407401・407501・407601・407701・407801
科目名	情報リテラシー
担当者名	齋藤 信男・石橋 直樹・石川 憲洋・鷹野 孝典・南 政樹・廣瀬 毅士・明田 守正

講義の到達目標(ねらい)

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。順序については変更される場合がある。

－ノートパソコンの利用

各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。

－メディアとコンピュータ・ネットワーク

近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。

－ファイルシステムとメディア

メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。

－メディア・データベースの基礎

多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。

－WWWとHTML

WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。

－メディアとセキュリティ

ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。

第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用

第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング

第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア

第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎

第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送

第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)

第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)

第8回：メディア・データベースの基礎

第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)

第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(1)

第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(2)

第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(3)

第13回：メディアとセキュリティ(1)

第14回：メディアとセキュリティ(2)

第15回：まとめ

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

準備学習

総合情報センターにより発行される KOMAnet の ID および各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。同時に履修すること。

各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における出席・課題、期末試験（またはレポート）により評価する。

教科書／テキスト

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

* 駒澤大学 PC 教場利用ガイド in KOMAnet

* 川合慧：「情報」、東京大学出版会、288ページ、2006。ISBN4-13-062451-2

* 情報処理学会「情報処理ハンドブック」

* 「情報学辞典」弘文堂、ISBN: 4335550812。2002。

* CG-ARTS 協会(画像情報教育振興協会)、入門マルチメディアーIT で変わるライフスタイルー、ISBN:4844370219、2006。

* CG-ARTS 協会(画像情報教育振興協会)、マルチメディアと情報化社会ーユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化ー、ISBN: 4844370200、2006。

その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

GMS

履修コード	407901・408001・408101・408201・408301・408401・408501・408601
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	齋藤 信男・石橋 直樹・石川 憲洋・鷹野 孝典・南 政樹・廣瀬 毅士・明田 守正

講義の到達目標(ねらい)

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

講義の内容／
授業スケジュール

この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。

- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
- 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
- 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
- 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
- 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
- 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
- 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
- 第8回：メディア・データベースの基礎
- 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
- 第10回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(1)
- 第11回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(2)
- 第12回：WWW(World Wide Web)とHTML(Hyper Text Markup Language)(3)
- 第13回：メディアとセキュリティ(1)
- 第14回：メディアとセキュリティ(2)
- 第15回：まとめ

GMS

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

準備学習

総合情報センターにより発行される KOMAnet の ID および各自のパソコンを準備して授業に臨むこと。

履修上の留意点

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。同時に履修すること。

各自のパソコンを毎週持参して授業に臨むこと。

成績評価の方法

毎回の講義における出席・課題、期末試験（またはレポート）により評価する。

教科書／テキスト

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	408701・408801・408901・409001・409101・409201・409301・409401・409501・409601・409701・409801・409811・409821・409831・409841
科目名	Public Speaking
担当者名	グレコ、M. A.・ゴールド、F.・スミス、G. A.・スメザム、M.・ダーリン、M.・ダイヤー、M. W. A.・バーンハート、J. L.・モハメツド、G.

講義の到達目標(ねらい) To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCII with emphasis on critical thinking.

講義の内容／授業スケジュール The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired together twice and thereafter may volunteer up to 8 more times to converse with the teacher. They may only talk about the topic selected in the previous class.

Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic

Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 03 - Assignment and practice of topic

Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic

準備学習 Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies[®] Words Level completed from Words Level 31. **GMS**

履修上の留意点 Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法 Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 31} = \text{Current Grade}$$

教科書／テキスト There are no assigned textbooks for this class.

参考書 "TPP for Students", {www.study-suite.com}, ¥2,000 + tax

その他 If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	409901・410001・410101・410201・410301・410401・410501・410601・410701・410801・410901・411001・411011・411021・411031・411041・411051・411061
科目名	Academic Writing
担当者名	アシュウェル、 T.・グレコ、 M. A.・ゴールド、 F.・ダーリン、 M.・ダイヤー、 M. W. A.・ブラック、 A.・モハメッド、 G.・クオック、 R、 Y、 F.

講義の到達目標(ねらい)

The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Written Communication' courses by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.

講義の内容／
授業スケジュール

Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.

GMS

In the first five weeks of the semester students will gather source material and will submit summaries of the materials to the teacher on a weekly basis together with evaluations of their usefulness. At the same time, teachers will be providing guidance on how to write a research paper. By week five, students will have produced the first 500 words of their research papers. The second and third 500-word sections will be submitted according to a schedule agreed to by each class. When the second section is submitted, the second draft of the first section should also be submitted. When the third section is submitted the third draft of the first section and the second draft of the second section should also be submitted. Thus, by the time the 1500-word paper is assembled, the first two-thirds will already have been re-drafted one or two times. The teacher will grade the assembled paper by week 10 and students will have an opportunity to re-draft the whole paper one or two more times before the end of the semester.

準備学習

Approximately ten days prior to the commencement of the course, a list of possible research paper topics and example titles will be sent out to all students. Students are expected to select a topic and to prepare a title of their own ready to present to the teacher in the first class. It is essential that you think carefully about the research paper before the first class otherwise you will soon get behind.

履修上の留意点

Pre-requisite for this course from 2011:

・ Successful completion of Written Communication 2

[N.B. This does not apply to anyone who has already passed Introduction to Writing.]

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester will mean that you fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that for this course, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments.

成績評価の方法

Grading is principally based on the quality of the final research paper, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the revisions made.

Final research paper grading:
Quality of final research paper = 70%

Adherence to drafting schedule:
Section 1 handed in on time = 5%
Section 2 handed in on time = 5%
Section 3 handed in on time = 5%

Participation in the feedback process:
Quality of revisions between Sections 1 and 2 = 5%
Quality of revisions between Sections 2 and 3 = 5%
Quality of feedback given to others on Sections 1 and 2 = 5%

After the assembled research paper has been submitted and has been graded, students may re-submit the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.

教科書/テキスト
参 考 書

None
上村妙子・大井恭子 (2004) 「英語論文・レポートの書き方」東京：研究社.
Kamimura, T. and Oi, K. (2004) "A Handbook for Writers of Essays and Research Papers.(Eigoronbun/repootonokakikata)". Tokyo: Kenkyuusha.



そ の 他
関 連 リ ン ク

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated.
None
<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	411101 ・ 411201 ・ 411301 ・ 411401 ・ 411501 ・ 411601 ・ 411611 ・ 411701 ・ 411801 ・ 411901 ・ 412001 ・ 412101 ・ 412201 ・ 412211 ・ 412221 ・ 412231
科目名	Strategic Presentation
担当者名	グレコ、 M. A. ・ ゴールド、 F. ・ スミス、 G. A. ・ スメザム、 M. ・ ダーリン、 M. ・ ダイヤー、 M. W. A. ・ バーンハート、 J. L. ・ モハメツド、 G.

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

To teach students how to further develop the conversational skills acquired in OCIII.
The teacher will select a conversation topic of a more advanced nature than those topics covered in OCIII and will spend one or more lessons instructing and assisting the students in how to effectively converse on that topic. In the next lesson, students will be randomly paired from the start to the end of the period. They may only talk about the topic selected in the previous class.

Lesson 01 - Explanation of course; assignment of topic; practice of topic

Lesson 02 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 03 - Assignment and practice of topic

Lesson 04 - TPP evaluation of assigned topic

Lesson 05 to Lesson 30 - Assignment and practice of topic followed in next lesson by TPP evaluation of the assigned topic

準備学習

Practice outside of class is important. Good pronunciation is a key factor in evaluations, so students are encouraged to especially practice pronunciation outside of class. One extra credit point is given for each Sound Studies® Words Level completed from Words Level 41.

GMS

履修上の留意点

Students are expected to use the conversation skills acquired in OCII. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice outside of class is important.

成績評価の方法

Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:

$$\frac{((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg}))}{3} + \text{SS Achievement from WL 41} = \text{Current Grade}$$

教科書/テキスト

There are no assigned textbooks for this class.

参考書

"TPP for Students", (www.study-suite.com), ¥2,000 + tax

その他

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	416101
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	境 真良

講義の到達目標(ねらい)

アニメ、映画、ゲーム、音楽その他のコンテンツビジネスは、日本の新たな有力産業として国内外から注目を集めています。本科目では、コンテンツビジネスと関係業界の歴史と現状、コンテンツの製作・流通の過程とその管理手法、知的財産権をはじめとするコンテンツビジネスに関わる法制度や政策、デジタル化などの技術進歩とコンテンツビジネスの変遷、コンテンツが社会や文化に与える影響など、影響力の裾野がきわめて広いこの産業の姿を概括的に理解することを目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

コンテンツビジネスの歴史と現状(総論、各論)、知的財産権の機能の理論と実際、クリエイションとコンテンツビジネス、情報技術の発達とコンテンツビジネス、他。

履修上の留意点

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。楽しい産業の話は、楽しく学びましょう。

成績評価の方法

定期試験50%、出席40%、授業への参加10%の総計で成績評価を行います。

教科書/テキスト

長谷川文雄・福富忠和編『コンテンツ学』(世界思想社) 2,625円 ISBN-13: 978-4790712817

参考書

境真良著『テレビ進化論』(講談社) ISBN-13: 978-4062879385、

その他

杉山知之著『クール・ジャパン 世界が買ったがる日本』(祥伝社) ISBN-13: 978-4396612627

講義形式、必要に応じて適宜資料配布。

履修コード	416201
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.

講義の内容／授業スケジュール This Semester 2 course will meet on Tuesdays during 1st period. In this course, students will be provided with an overview of the content creation industry, and examine case studies of various content creating companies.

成績評価の方法 Evaluation will be based on quizzes, final exam, and participation.
There are no required textbooks, only suggested readings.

教科書／テキスト Professor will provide materials from the following:
 参考書 Forfa' s report, A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland, February 2005
 Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005
 Japan' s Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, # 9, Summer 2005.
 Report on Japan' s Movie Industry
 Harold L. Vogel, Entertainment Industry Economics, New York, Cambridge University Press, GMS 2001
 Jason E. Squire, The Movie Industry Book, 3rd Edition, Simon and Schuster, 2004

履修コード	416301
科目名	メディアと企業
担当者名	こぼやし 小林 雅一

講義の到達目標(ねらい) 近年、SNS や動画投稿サイトなどソーシャル・メディアの発達により、その定義が大きく変化しつつあるメディアの構造や性質を理解すると共に、現代の企業社会における IT メディア産業の位置づけを概観する。

講義の内容／授業スケジュール 第1～8回：コミュニケーション概論、近代マス・メディアの歴史、メディアの構造変化、ソーシャル・メディア総論、SNS とソーシャル・グラフ、他
 第9～15回：ファイル共有ソフトと P2P、動画投稿サイト、情報機器の UI、クラウド化する情報社会、モバイル・コンピューティングとメディア、音楽・映像などコンテンツ産業とメディア、他
 出席状況 (50%) と定期試験 (50%)

成績評価の方法 特に指定しません。
 教科書／テキスト デイヴィッド・ハルバースタム「メディアの権力(1～4)」朝日文庫
 梅田望夫「ウェブ進化論」ちくま新書、740円
 参考書 小林雅一「神々の Web3.0」光文社ペーパーボックス、1000円
 その他 実際の講義内容は、シラバス掲載の内容と若干異なる可能性あり。

履修コード	416701
科目名	世界政治とメディア
担当者名	五野井 郁夫

講義の到達目標(ねらい)

1. 本講義では、世界政治を読み解く基礎体力を養い、自身の日常生活と世界政治を結びつける回路をつくることを目的とする。
2. 具体的には、世界政治の現在と学問としての政治学、国際関係論の基礎を学ぶことを通じて、社会で通用する読む力、理解する力、書く力のトレーニングを行う。
3. これによって、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ネット上のニュースはもちろん、文化、芸術まで、広く世界政治とメディアに関連する事象について自分で考え、解釈するための手がかりをつかみ発信することが、本講義のねらいである。

講義の内容/
授業スケジュール

1. ガイダンス：政治とは何か？ 世界の捉え方、世界政治とメディア
2. 世界政治のしくみ

世界政治の形成と変容：メディアの変遷と統治形態の変容、グローバル化

安全保障：核抑止、知識人と権力、人間の安全保障 *映像鑑賞

国際組織：国連、国際政治経済、地域統合、多国籍企業、NGO

3. 世界政治の諸相
 - ・人権と民主化、ポピュリズム、エコロジー、宇宙開発
 - ・貧困と飢餓、植民地主義、南北問題 *映像鑑賞
4. 世界政治のなかの日本：外部より講師招聘予定

5. 世界政治への参加：フェス、グローバル・ストリート・パーティ

*本講義では、他大学や国際機関よりその分野の専門家による招聘講義も予定している
本講義は双方向的な演習形式をとるため、講義内容の変更もある。資料等は毎回配布する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

1. 毎回の答案用紙の出来（出席・平常点も兼ねる）
2. 定期試験
- 1) 久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真淵勝 著
- 2) 『政治学』
- 3) 有斐閣
- 4) 3400円
- 5) ISBN4-641-05368-5

参 考 書

- 1) 佐藤幸男、前田幸男 編
- 2) 『世界政治を思想する I・II』
- 3) 国際書院
- 4) 2800円、2600円
- 5) ISBN978-4-87791-203-1、ISBN978-4-87791-204-8

ジャスティン・ローゼンバーグ（渡辺雅男、渡辺景子訳）『市民社会の帝国 — 近代世界システムの解明』桜井書店、2008年

そ の 他

森政稔『変貌する民主主義』ちくま新書、2008年

本講義は後期科目「国際関係とメディア」とあわせて通年で完結する内容である。したがって、「国際関係とメディア」を継続して受講することが望ましい。

履修コード	416801
科目名	国際関係とメディア
担当者名	^{しばさき} 厚士 芝崎

講義の到達目標(ねらい)

国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。

- (1) ニュースウォッチ (新聞記事要約)、(2) リーディング (テーマ論文要約)、
(3) メディアウォッチまたはワード・データウォッチ (音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータ、10秒クイズなど)、の3部構成で行う。

授業スケジュール：

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係の歴史その1
- 3回目 国際関係の歴史その2
- 4回目 映像分析その1
- 5回目 主権国家と国民国家
- 6回目 多国籍企業・NGO
- 7回目 戦争・テロリズム・平和
- 8回目 映像分析その2
- 9回目 外交と対外政策
- 10回目 貧困と開発
- 11回目 環境問題
- 12回目 映像分析その3
- 13回目 ナショナリズムと民族紛争
- 14回目 日米安保とは何か
- 15回目 グローバル・ガバナンス

履修上の留意点

テスト方式なので、成績は、基本的に毎回回収する答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。

成績評価の方法

・毎回回収する答案用紙の出来 (読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか) が60%、学期末試験 (答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却) が30%、授業支援システムを経由して提出する課題が10%
・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。

教科書/テキスト

開講時に指示。

参 考 書

授業中に随時指示。

そ の 他

- ・教材は毎回プリントで配布。プリントの配布、回収には協力してください。
- ・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、カリキュラム上可能であれば、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。本科目を履修したあとで「世界政治とメディア」を履修することも薦める。
- ・2年次以降の演習で国際関係研究を履修したい場合には、「世界政治とメディア」または本科目を履修していることが望ましい。

GMS

履修コード	417001
科目名	インターネットとメディア
担当者名	吉田 尚史 <small>よしだ なおし</small>

講義の到達目標(ねらい)

インターネットはデジタルコンテンツの配布、共有、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

－インターネットの原理

第1回：導入、OSI7階層モデル、静的と動的

第2回：プロトコル

第3回：Wiki

－インターネットのアーキテクチャ・通信方式

第4回：MIME: Multipurpose Internet Mail Extension

第5回：DNS: Domain Name System

第6回：インターネット上の経路、ルーティング

－インターネット上のメディアの基礎

第7回：マルチメディア検索

第8回：メタデータ、MPEG-7

－インターネット上のメディア応用サービス

第9回：ストリーミング

第10回：アクティブ情報システム

－インターネット上のメディア応用サービスの実現

第11回：WWW ブラウザ実習

第12回：WWW サーバ実習 (1)

第13回：WWW サーバ実習 (2)

－まとめ

第14回：まとめ

第15回：レポート出題・解説

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習を履修済みであること。

留学など履修計画に困難な場合を除き、なるべく2年次以降に履修すること。

毎回の講義における出席、課題、および、期末レポートにより評価する。

(期末試験は行わない。)

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。

各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点

成績評価の方法

教科書/テキスト

参 考 書

そ の 他

関 連 リ ン ク

GMS

履修コード	417201
科目名	メディアと情報
担当者名	<small>さいとう のぶお</small> 斎藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

情報はメディア(媒体)によって送付され、処理される。今日のコンピュータ時代には、あらゆる情報はすべてデジタル化され、メディアによって処理される。眼、耳、鼻、口、手、足などの人間の五感を司る要素がデジタル化されたメディアから様々な刺激を受け取るマルチメディアの世界が広がり、デジタルコンテンツという新しい領域の基盤として機能している。このメディアのデジタル化は、従来の社会で常識とされた慣習を新しいものに変革していく原動力ともなっている。放送、新聞、映画、広告、出版など、その将来の姿は、誰も正確に描くことは出来ない。また、著作権、肖像権、個人情報保護など、メディアのデジタル化によって生ずる新しい課題も存在する。デジタル化の効率性と、その利用に伴う危険性を十分理解し、適切な利用によるデジタルメディアの構築をはからねばならない事を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 講義の目標付け
- (2-3) デジタルとアナログの意味付け
- (4-5) テキスト、文字の処理
- (6-8) 画像の扱い、演習
- (9-11) コンピュータグラフィックス、演習
- (12-14) 音の処理、演習
- (15) デジタルメディアの社会的課題

履修上の留意点

コンピュータによるデジタルメディアの処理について、随時課題として出す。各自のノートPCで演習をすること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

定期試験、課題レポート、出席の総合評価により判定する。
特に指定しない。
講義の内容に応じて、その都度紹介する。
使用するソフトウェアは、フリーソフトウェアを基本とする。

GMS

履修コード	415901
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant theoretical constructs and relevant empirical evidence dealing with organizational-environmental boundary relationships, particularly as these impact creative organizations and the development of "great " or "hot groups " (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容/
授業スケジュール

This Semester 1 course will meet on Mondays during 2nd period. The course will utilize multimedia and the Internet. The selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus.

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

Evaluation will be based on quizzes, final exam, and participation.

There are no required textbooks, only suggested readings.

Professor will provide materials from the following:

Warren Bennis and Patricia Ward, *Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration*, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.

Peter Drucker, *Managing for the Future*, Truman Talley Books, 1992

David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.

Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, *Hot Groups*, New York, Oxford University Press, 1999.

Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, *Competing on the Edge*, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998

Geoffrey A. Moore, *Crossing The Chasm*, New York, HarperBusiness, 1995.

Mihaly Csikszentmihalyi, *Creativity*, New York, HarperCollines Publishers, 1996

Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, Cambridge, United Kingdom, 1998.

Peter F. Drucker, *Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals*, New York, Harper & Row Publishers, 1985.

Michael Sorkin, *Variations On A Theme Park*, New York, Hill and Wang, 1992.

Richard Saul Wurman, *Information Architects*, New York, Palace Press International, 1996

William J. Mitchell, *City of Bits*, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

GMS

履修コード	416001
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant theoretical constructs and relevant empirical evidence dealing with organizational-environmental boundary relationships, particularly as these impact creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容／
授業スケジュール

This Semester 2 course will meet on Mondays during 2nd period. The course will utilize multimedia and the Internet. The selection of case studies will be determined by the specific topical areas of focus

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

Evaluation will be based on quizzes, final exam, and participation.

There are no required textbooks, only suggested readings.

Professor will provide materials from the following:

Warren Bennis and Patricia Ward, *Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration*, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.

Peter Drucker, *Managing for the Future*, Truman Talley Books, 1992

David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.

Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, *Hot Groups*, New York, Oxford University Press, 1999.

Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, *Competing on the Edge*, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998

Geoffrey A. Moore, *Crossing The Chasm*, New York, HarperBusiness, 1995.

Mihaly Csikszentmihalyi, *Creativity*, New York, HarperCollins Publishers, 1996

Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, Cambridge, United Kingdom, 1998.

Peter F. Drucker, *Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals*, New York, Harper & Row Publishers, 1985.

Michael Sorkin, *Variations On A Theme Park*, New York, Hill and Wang, 1992.

Richard Saul Wurman, *Information Architects*, New York, Palace Press International, 1996

William J. Mitchell, *City of Bits*, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

GMS

履修コード	416501
科目名	グローバル企業行動論
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい)

This course provides students with an overview of the subject of international business and management. Students will be introduced to several themes, such as globalization, corporate strategy, and strategic alliances. The material draws on models and examples in management studies, organizational behaviour and industrial relations.

講義の内容／
授業スケジュール

The content of the course is introduced in a series of lecture materials and selected readings given by the teacher.

Where appropriate, certain themes may be explored further through the use of short case studies that are directly pertinent to the focal topic.

成績評価の方法

Students are evaluated by their class attendance, class participation and a final examination. Evaluation will be explained by the teacher at the start of the course.

参 考 書

Suggested readings will be given by the teacher in course material or in class.

履修コード	417301
科目名	知的財産権と経済
担当者名	綿川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

特許や著作権など知的財産権の経済における役割、および知的財産の生産や流通にかかわる企業の行動を理解する上で、経済学の基礎的知識は欠かせない。本講義では主にミクロ経済学の基礎を学び、知的財産権制度への理解を深める。または、現実の経済の動きを理解するために必要となるマクロ経済学の初歩的知識についても学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 知的財産の特質と知的財産権
2. 需要と供給
3. 需要曲線と消費者行動
4. 費用の構造と企業行動
5. 市場取引と資源配分
6. 市場の失敗
7. 独占と競争の理論
8. 経済をマクロからとらえる

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

数式はほとんど使わないが、中学数学の関数とグラフの知識は必要。
期末試験
伊藤元重、『入門 経済学 第3版』、日本評論社、3150円、ISBN978-4-535-55585-3

GMS

履修コード	417401
科目名	知的財産権と統計
担当者名	綿川 真哉

講義の到達目標(ねらい)

知的財産権をめぐる経済活動の実態を把握するには、その量をデータとして記述し、分析することが必要である。そのような作業の基礎として、統計学の初歩を学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

1. データの記述
2. 確率と確率分布
3. 標本
4. 推定
5. 仮説検定
6. 相関と回帰

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

高校数学 I・A の知識が必要。
期末試験
P.G. ホーエル (浅井晃・村上正康共訳)、『初等統計学』、培風館 1838円、ISBN4-563-00839-7

参 考 書

東京大学教養学部統計学教室編、『基礎統計学 I 統計学入門』、東京大学出版会、2940円、ISBN4-13-042065-8

履修コード	417501
科目名	グローバル文化論
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい)	文化的グローバリゼーションがもたらしつつある新しいグローバル文化 (Global Culture) について概説する。グローバル文化とは何か、その成立と展開、そして、問題点と可能性を分析する。
講義の内容／ 授業スケジュール	まず、文化的グローバリゼーションについて、その歴史を短期的・長期的観点から観察する。それから、西欧諸国、そして、アメリカ、そしてアジア諸国の観点から、グローバル文化について論ずる。最後に、現在のグローバル文化の持つ問題点と可能性、特に、コスモポリタン文化について議論する。 (スケジュール) 1. イントロダクション 2. グローバル化について、概念とタイプ分け。また、文化とは何かを説明する 3. 文化的グローバル化について、その歴史と展開 4. 文化的グローバル化について、3つのサブシステムについての概略 5. 都市文化、そして世界都市論について 6. グローバルシティ論について、その歴史的展開を概説する 7. クリエイティブシティ論について近年の成立過程を分析する 8. グローバル化を支える新しい社会的主体 (creative class) について (その1) 9. グローバル化を支える新しい社会的主体 (creative class) について (その2) 10. 文化政策とグローバル化について 11. 文化産業とグローバル化について 12. 文化交流とグローバル化について 13. 東京と京都を例にとってグローバル化と文化的変容について 14. メディア文化とグローバリゼーションについて 15. まとめ
履修上の留意点	授業以外に、グローバル文化について調べてもらう予定である。
成績評価の方法	学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。
教科書／テキスト	授業の中で指示する。
参 考 書	川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年 D. Crane, N. Kawashima, K. Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002

GMS

履修コード	417601
科目名	メディア文化論
担当者名	たか へん 高 媛

講義の到達目標(ねらい)	私たちが普段なにげなく暮らしている社会において、メディアはどのような「位置」を占めているのだろうか。本講義では、メディアに媒介された文化現象を手がかりに、メディアと文化が、どのような関係性を持ちながら変容してきたかについて考えていく。
講義の内容／ 授業スケジュール	政治、家族、ジェンダー、人種、民族、戦争など多様なテーマを取り上げ、多言語・多ジャンルの映像資料を活用しながら進めることにする。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視 (8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)
教科書／テキスト	特に指定しない
参 考 書	・吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』(新曜社、1994年)、2,800円、ISBN: 4788505061 ・阿部潔、難波功土編『メディア文化を読み解く技法』(世界思想社、2004年)、1,800円、ISBN: 4790710599
そ の 他	講義形式

履修コード	427501
科目名	メディア・コミュニケーション概論
担当者名	<small>にしおか ようこ</small> 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション（個人、グループ、マスのレベル）があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. イントロダクション
コミュニケーション・モデル
2. パーソナル・コミュニケーション
人と人とのコミュニケーション
電話コミュニケーション
3. グループ・コミュニケーション
集団・組織のコミュニケーション（企業の例を中心にして）
地域コミュニティのコミュニケーション
集団行動のコミュニケーション（噂とクチコミ）
4. マス・コミュニケーション
マス・メディアの変貌
マス・コミュニケーション研究
マーケティング・コミュニケーション（広告、PR）
5. グローバル・コミュニケーション
6. まとめ

履修上の留意点

社会における様々なコミュニケーション行為とメディア、その使い分けについて意識を持つように心がけて欲しい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。
船津 衛『コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ、1996年、1,785円、
ISBN 9784641120198

参 考 書

田中 洋、清水 聡『消費者・コミュニケーション戦略』2006年、2,205円、ISBN 4-641-12274-
講義中に指示する。

履修コード	428001
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	あけた もりまさ 明田 守正

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータ上で特定の問題に対する一般的な解決策を、自らの考え方で論理的に実現する手法であるプログラミングの概念を習得する。情報機器が機能する根本的な仕組みを理解し体得することで、情報社会における現場対応力を高める。具体的には、基礎的なグラフィックス生成の仕組みを使いこなす能力を身につける。

講義の内容／
授業スケジュール

グラフィックスを生成する基本的な記述能力に優れたプログラミング言語、Processingを用いてプログラミングを学習していく。プログラムとは、プログラミング言語でコンピューターの動作手順を記述したものである。授業では、プレインテキストのプログラムを記述し、実際にプログラムを動かして動作や振る舞いの変化を観察し、身につけて行く。

- 【第1回】 イントロダクション／アラン・ケイについて
- 【第2回】 ウィンドウに線を引く
- 【第3回】 変数
- 【第4回】 繰り返し
- 【第5回】 計算
- 【第6回】 複合計算
- 【第7回】 サブルーチン
- 【第8回】 条件分岐
- 【第9回】 アニメーション
- 【第10回】 文字列と配列
- 【第11回】 インタラクション
- 【第12回】 時間の表現と処理
- 【第13回】 最終課題制作
- 【第14回】 最終課題制作
- 【第15回】 最終課題発表

準備学習

キーボード・マウス操作、プレインテキスト（メモ帳）の編集操作に不自由がないことを前提とする。

履修上の留意点

本講義は「情報リテラシー」「情報リテラシー実習」の履修を前提とする。各自のPCを毎時間持参する。

成績評価の方法

ワークショップであるため、毎回の講義における出席、課題および最終課題を評価材料とする。

教科書／テキスト

ワークショップ内でハンドアウトを配布し、web上に設定する。

参考書

- 前川 峻志 & 田中 孝太郎 [2007]: "Built with Processing デザイン／アートのためのプログラミング入門", ビー・エヌ・エヌ新社
- Fry, Ben [2007]: "Visualizing Data", Oreilly & Associates Inc.
(邦訳が2008年にオライリージャパンから出ている)
- Ben, Fry & Reas, Casey [2007]: "Processing: A Programming Handbook for Visual Designers and Artists", The MIT Press
- Maeda, John [2001]: "Design By Numbers", The MIT Press
(邦訳が2001年にソフトバンククリエイティブから出ている)
- 数学を苦手とする文系の学生を考慮した授業進行とする。
- <http://www.processing.org/>

その他

関連リンク

履修コード	428101
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	<small>いしかわ のりひろ</small> 石川 憲洋

講義の到達目標(わらい) 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、Java 言語の実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容／
授業スケジュール 授業は次のスケジュール（予定）で行い、Java 言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けることを目標とする。

- 第1回 主なプログラム言語と Java の位置付け、JDK のインストール
- 第2回 Java プログラムの作成、保存、コンパイル及び実行
- 第3回 Java で扱うデータの種類、主な演算子（計算）
- 第4回 Java で扱う変数の種類と使い方
- 第5回 第1回～第4回の復習、練習問題の実習
- 第6回 Java の制御構造1/3：if 文、if else 文の概要
- 第7回 Java の制御構造2/3：for 文の概要
- 第8回 Java の制御構造3/3：While 文、do while 文の概要
- 第9回 第6回～第8回の復習、練習問題の実習
- 第10回 クラスライブラリの利用方法、Java の例外処理
- 第11回 Java のクラスの概要1/2
- 第12回 Java のクラスの概要2/2
- 第13回 第10回～第12回の復習、練習問題の実習
- 第14回 Java プログラム作成課題の作成
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点

特になし
GMS 授業支援システム及びノート PC の利用ができること。
この科目では、Java 環境を設定したノート PC を使用する。

成績評価の方法

次の2項目を総合して評価する。
1. 出席回数
2. Java プログラム作成課題の提出
(1 課題は自由課題の予定)
ただし、出席回数、課題提出数が不足すると単位が
取得できないので注意すること。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

授業の中で教科書を紹介する予定。
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。
講義と実習を併せた形式で行う。

GMS

履修コード	428101
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータは、今日の社会ではなくてはならない存在である。しかし、コンピュータは人間が予め指示した通りにしか動かない。だから、人間がどのように仕事(タスク、動作、処理)を要求するかによって、コンピュータの可能性は大きく変化し得る。

そこで本講義では、人間とコンピュータの関わり方を学ぶ一つの手法として「プログラミング」を取り上げる。プログラミングは人間がコンピュータに仕事を要求する最も一般的な方法である。履修者はプログラミングを学びソフトウェアを作成する体験を通じて、コンピュータが得意なこと、コンピュータが苦手なことなどを理解し、どのようにコンピュータを活用すればよいかを学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義では、webブラウザで実行可能なプログラミング言語 JavaScript を学ぶ。

授業はプログラミング実習形式で行い、履修者は講義と並行しながらプログラミング作業を行う。

JavaScript は world wide web (www) における「クライアントサイド」(サーバ上ではなくクライアント = web ブラウザ上で動作する) のソフトウェアで一般的に用いられているため、参考になる情報がインターネット上で数多く存在し、初学者でも自学自習による学習が十分可能である。

また、インターネット上で公開されているファイル(ライブラリ)を自身のプログラムに流用することで、web ブラウザ上の表現力を飛躍的に向上させることができる。コンピュータに対して「どのように仕事を依頼するか」という本講義の目的に合わせ、出来る限りこれらのライブラリを活用し、本質的な考え方、書き方について集中的に学ぶ。

GMS

1. プログラミングとは? ~「繰り返し」と「もし~ならば~」の表現~
2. HTML と CSS、プログラミング環境 ~復習、Firefox とテキストエディタの導入~
3. オブジェクトとメソッド(関数) ~「依頼」の単位、基本オブジェクト 1~
4. イベントドリブンモデルとメソッド ~ブラウザ上のオブジェクトとその操作~
5. 繰り返し、様々なオブジェクトとそのメソッド ~基本オブジェクト 2~
6. 変数と条件分岐 ~情報・データによる状況の表現・状況に応じた処理の変化~
7. jQuery ライブラリ ~外部ライブラリによる表現力の向上~
8. サーバ上のファイル利用 ~動的な表現のためのプログラミング~
9. タイマーを使った処理 ~loading バーやタイムアウト処理~
10. プログラミング実践: クイズゲーム
11. キーボードやマウスからの入力 ~外部からの情報・データの入力~
12. プログラミング実践: 画像とマウスを使ったゲーム
13. まとめ

準備学習

情報リテラシー実習で学んだ、HTML と CSS によるホームページ作成方法を復習しておくこと。特に、課題提出に学部サーバの個人のホームフォルダ内の public_html フォルダへのアップロードによって行うので、FFFTP による学部サーバへのファイルアップロード方法と、アップロードした HTML ファイルへアクセスするための URL の対応については必ず押さえること。

履修上の留意点
成績評価の方法

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習の二つが履修済みであることを条件とします。

本講義の成績評価は、基礎点と加点枠の合計で採点する。

基礎点は次の方法で計算する

- ・毎回出題される課題(出席替わり)の提出(1~12回、各5点、計60点)
- ・プログラミング実践におけるソフトウェアとレポート(10回、12回、最大各10点)
- ・履修者個人の自由な課題設定によって作成する最終課題(最大20点)

加点枠は、課題や履修中の様子から担当者の裁量によって総合的に与点する(最大10点)

教科書/テキスト

本講義に内容を全て網羅する教科書はない。

その代わりに、授業支援ページにて講義で用いた資料を公開する。

参考書
その他の

講義中および授業支援ページにて参考書となる書籍を指定する。

授業では、以下に挙げたアプリケーション(ソフトウェア)を使って、プログラミングの説明を行う。

- ・Mozilla Firefox (web ブラウザ)
- ・FireBug (Firefox 用プラグイン、デバッグ)
- ・FFFTP (FTP クライアント、ファイルアップロード)
- ・xyzyzy (テキストエディタ、テキストファイルを作成)

ほぼ情報リテラシー実習などでインストール済みであると思われるが、第2回目の前半に、再度、これらのインストール作業と簡単な説明を実施する。

この講義を通じてこれらのツールは使い続けるので、自身のノート PC を使うことを推奨する。貸し出しノート PC や教場の PC を利用しても構わないが、継続的に学習できること(たとえば、毎回毎回設定しなおさないとイケないなど)が望ましい。

※ ただし、普段から使っている IDE (統合開発環境) などがあり、そちらの方が使いやすけれ

ばこれら以外のツールでも構わない。

なお、テキストエディタについては、Windowsに標準搭載されるメモ帳も、同等の機能を有しているが、文字コードやファイル名、保存場所などに常に注意を払わなければならないので、利用する場合は十分注意すること。

履修コード	428301
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW 環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。

1. 導入—Perlを用いたプログラミング、2. WWWにおけるサーバ・サイド・プログラミング—CGI、3. Perlの基本構造、4. CGI入門—Hello, World、5. 変数を用いた Programming、6. HTMLとの連携—GETとPOST、7. Perlにおけるif構文—分岐、8. Perlにおけるwhile構文、for構文—繰り返し、9. Perlにおける文字列処理—正規表現、10. ファイルの読み書き、11. Perlにおけるサブルーチン—部品化、12. 応用—チャット・システムの構築、13. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法

情報リテラシー実習を履修済みであること。
毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

Webにおいて電子教材を提供する。
講義中において教材を指定する。
本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

GMS

履修コード	434811
科目名	社会調査法入門
担当者名	廣瀬 毅士

講義の到達目標(ねらい)

本授業は、社会調査の理論を概観するとともに、仮説の構築や質問紙の設計などの方法の理解に主眼をおく。特に、統計的な処理を目的とする量的な調査を中心に講義をする。

科学的な社会調査の理論と方法について理解することで、自力で適切な調査のデザインが出来るようになることを目標とする。上級学年での研究活動の基礎となるデータ収集・整理の実施技術を身に付ける、「調査リテラシー」の科目である。

講義の内容/
授業スケジュール

1. 社会調査とは何か：概説
2. 社会調査の歴史と目的
3. 社会調査の類型
4. 統計的調査の一般的手順
5. 研究と調査課題：仮説の作り方
6. 質問紙の作り方：構成とフロー
7. 質問紙の作り方：質問のワーディング
8. 質問紙の作り方：選択肢の設け方
9. 標本設計：クオータ法、無作為抽出法
10. 標本抽出法
11. 実査の方法
12. 集計と統計的分析の基礎
13. まとめ

準 備 学 習

GMS学部の「授業支援システム」などを利用することがあるので、総合情報センターにより発行される学内ネットワーク(KOMAnet)に習熟しておくこと。また、できれば各自のパソコンを持参するのが望ましい。

履修上の留意点

課題の提出などについては、GMS学部の「授業支援システム」を利用するので、「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

毎回の講義における出席・課題、期末試験(またはレポート)により評価する。

教科書/テキスト

特に指定しないが、適宜参考文献などの購読を指示する。

参 考 書

森岡清志編『ガイドブック社会調査』(日本評論社、2009年)
大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ 第2版』(ミネルヴァ書房、2005年)
安田三郎・原純輔『社会調査ハンドブック 第3版』(有斐閣、1982年)

関 連 リ ン ク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修コード	417701
科目名	演習 I a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)	In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.
講義の内容/ 授業スケジュール	This Semester 1 seminar will meet on Mondays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.
成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書	Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project. There are no required textbooks. Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

GMS

履修コード	417801
科目名	演習 I a
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい)	社会学的方法の基礎を身につけることを目的とする。社会学的発想、社会学的概念、社会学的方向、などについて報告と討論を中心におこなう。特に、階層・ジェンダー・エスニシティ・知識システムなどが中心概念である。
講義の内容/ 授業スケジュール	基本的に、最初の2週間だけ様々な社会学的知識を講じ、残りは、様々な社会学的なやり方をゼミ生諸君の発表を中心におこなう。 (スケジュール) 1. 社会学的発想法 2. 社会学的方法 3. ー14. 社会学基礎文献購読・発表 15. まとめ
履修上の留意点	これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。
成績評価の方法 教科書/テキスト 参 考 書	平常点と最後のレポートにより採点する。 授業の中で指示する。 A. Giddens, Sociology (5th edition), Polity Press, 2006 小川・川崎 (共編)、「グローバリゼーションの社会学」、恒星社厚生閣、2010年

履修コード	417901
科目名	演習 I a
担当者名	さいとう のぶお 斎藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

WEBのシステムのアプローチ (I)

現在の情報社会を支えている最大の情報システム WEBについて、それを支えるコンピュータシステムおよびネットワークシステムについて、基本的概念を探求する。これにより、システムとは何か、その機能や構造の概念を習得する。

講義の内容/
授業スケジュール

(1-5) インターネットの機能と構造—日常使っているインターネットはどんな仕組みで動いているのか、解明する。

- ①ネットワークプロトコルモデル
- ② TCP/IP
- ③ IP V4 と V6
- ④ドメイン名
- ⑤メールシステムの構造は?
- ⑥ネットワーク方式とネットワーク機器
- ⑦ネットワークセキュリティ

(6-12) コンピュータシステムおよびオペレーティングシステム (OS) の機能と構造—日常使っているノート PC の機能と構造、それを稼働させているオペレーティングシステムはどんな仕組みで動いているのか、解明していく。

- ⑧コンピュータシステムの基本構造
- ⑨コンピュータシステムの基本的機能
- ⑩ OS の役割
- ⑪ OS の種類
- ⑫タスク管理
- ⑬ファイル管理
- ⑭ユーザ管理
- ⑮ユーザインタフェース
- ⑯セキュリティ管理
- ⑰ OS とネットワーク

(13-15) コンピュータシステムを利用するためのソフトウェアとその作成、記述するシステムであるプログラミング言語についてその機能、役割を学び、まとめとする。

- ⑱プログラミングとは
- ⑲プログラミング言語とは

履修上の留意点

演習 Ib の履修も望ましい。ノート PC を対象として使いながら、上記の課題についてよく理解していく。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

グループ学習も取り入れ、与えられた項目の調査とその発表なども行う。

適宜課外演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

特に指定しない。

進行状況に応じて、適宜紹介していく。

ゼミ形式、演習課題を多く出す。

履修コード	418001
科目名	演習 I a
担当者名	しらみず しげひこ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

イノベーションの社会学：前期はとくにイノベーションの採用過程を徹底的に理解する。個人が新しいアイデアを採用するとき、どのようなプロセスで採用を決定するのか、心理学的に解明する方法を学ぶ。

講義の内容/
授業スケジュール

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②テキスト輪読グループ分け、2~4 イノベーション普及の構成要素、5~7 個人過程、8~10 集団課程、11~12 オピニオンリーダー、13~14 チェンジ・エージェント、15 まとめ

履修上の留意点

絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

参 考 書
そ の 他

未定

ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。

履修コード	418101
科目名	演習Ⅰa
担当者名	石川 <small>いしかわ のりひろ</small> 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイはすでに携帯電話を超えて、メール、Webアクセス、様々なアプリケーションサービス(音楽、動画、ゲーム、ナビゲーション、天気予報、乗換案内など)、電子マネー、TV(ワンセグ)などを提供する、日常生活に不可欠なツールへと大きく発展を遂げ、子供から大人まで、幅広く浸透している。

一方で、ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、GoogleのAndroid・ケータイなどの全く新しいケータイが登場し、大きな注目を集めている。

高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術(ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など)についても学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

【第1週～第4週】ケータイの最新動向に関する調査、研究。特に、新しいケータイの動向(マイクロソフト、アップル、Google等のスマートフォン等)、ケータイ向け新サービスの動向(拡張現実、位置情報利用サービス等)について詳しく調査する。

【第5週～第8週】ケータイ向けWebコンテンツ作成技術(XHTML等)の調査、研究と、作成環境の構築。

【第9週～第12週】ケータイ向けWebコンテンツの作成実習。各自(又はグループ)で自らテーマを設定し、レポートを作成。

【第13週～第15週】作成したケータイ向けWebコンテンツ及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

インターネット上のWebページ等を利用して、ケータイ業界の最新の動向をよく調べておくこと。情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年で履修を前提とする。

出席回数、レポート課題/実習課題の提出、グループ課題の発表などを考慮して、総合的に評価する。

教科書/テキスト
参考書

なし
演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

GMS

履修コード	418201
科目名	演習Ⅰa
担当者名	福家 <small>ふけ ひでのり</small> 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

演習における基礎的な勉強方法の習得に重点を置く。ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進めます。

講義の内容/
授業スケジュール

特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。(1) ガイダンス、(2)～(6) 文献輪読、(7)～(8) 文献学習の方法、情報・データの収集方法、(9)～(14) レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、討論の進め方(15) まとめ

準備学習

各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点

原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、情報メディア産業論Ⅰを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。

・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4

・その他適宜指示します。

参考書

講義の中で適宜紹介します。

履修コード	418301
科目名	演習 I a
担当者名	各務 ^{かぐみ} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、現実の企業研修に利用されているビジネス・シミュレーション・ゲーム(企業経営模擬実験)をチームに分かれて行う。会社の創立から株主総会の開催(ゲームの最終段階)、経営幹部反省会(コンパ)まで、企業経営の一連の流れを体感し、意思決定の難しさ、チームワークの重要性を実感してもらう。

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書/テキスト

参 考 書

そ の 他

年に数冊。

適宜指示する。

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・宿舎は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	418401
科目名	演習 I a
担当者名	金山 ^{かなやま} 智子 ^{とろこ}

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミでは、メディアの研究・実践・応用を通して、より高いレベルでのメディア・リテラシーを身につけること、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指します。身の回りのさまざまな現象を、メディアという視点から理解すると同時に、メディアを介して実践されるコミュニケーションについて考察します。マスメディアやパーソナルメディア、ソーシャルメディアだけでなく、紙芝居、ダンス、カフェ、付録、化粧といったさまざまなものをメディアとして捉えていきます。

研究テーマは基本的に自由ですが、メディアに視点を置きながら、地域活性化・コミュニティ形成・社会問題といったローカルな問題から、環境・貧困・国際支援といったグローバルな問題を調査していくこと、あるいは、現代社会におけるメディアの役割や意義について研究していくことが中心となります。

また、継続的かつ長期的なメディアの実践を通して、メディア・コミュニケーションの意味を自ら学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

主な3つの活動

【1. 研究】グループ毎にメディアに関するテーマについて1年間、調査研究します。前期は研究テーマ設定、文献調査や理論にもとに研究計画をたて、後期はアンケート、インタビュー、内容分析等の方法で調査を実施、結果を発表します。研究成果は論文集にまとめます。

【2. 実践】チーム毎に異なるメディアを使った長期プロジェクトを企画し実践していきます。

【3. 応用】より公共性の高いメディアのプロジェクトに参加します。

履修上の留意点

欠席はしないこと。I abの通年履修が原則。合宿には必ず参加すること。

成績評価の方法

特に積極的な参加や態度を重視します。

教科書/テキスト

出席、参加、および研究計画書による総合評価

授業内で資料を配布します。

履修コード	418501
科目名	演習 I a
担当者名	テツカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディースのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、頭われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／
授業スケジュール

なお、指導教育の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習1abは、演習2abの予行演習です。演習1の前期はカルチュラルスタディースの基本文献の読書と学生各自の興味分野の文献調査。各自テーマを設定し、先行研究を探して読む。期末にレポート提出。後期は、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行う。期末にレポート提出。

準備学習

カルチュラルタイフーン2010：7月2日から7月4日@駒澤大学深沢キャンパスへの参加と実行協力はゼミ生必修です。

「はじめてのDIY 何でもお金で買えると思うなよ!」(毛利2008)

「カルチュラル・スタディーズ入門(ちくま新書)」(毛利・上野2000)

ディスカッションへの積極的な参加を望みます。

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

「ストーリーの思想—転換期としての1990年代」(毛利2009)

グレアム タナー著、金子智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展(1999)、作品社

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

GMS

履修コード	418601
科目名	演習 I a
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容／
授業スケジュール

前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。

後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。

テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

平常点(出席、態度、発表内容、演習への貢献など)および期末レポートを総合して評価する。

随時指示する。

随時指示する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参考書

履修コード	418801
科目名	演習 I a
担当者名	石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)	情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。
講義の内容／ 授業スケジュール	本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。
	具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。
履修上の留意点	Ia は特に、文献調査・輪講を通じて社会情勢を読む視野を広げ、同時に、演習を通じてシステム構築の基礎を学ぶことを目標とする。
成績評価の方法	1 週～4 週：文献調査 (brainstorming)
教科書／テキスト	5 週～8 週：プログラミング実習 (skill acquisition)
参 考 書	9 週～：システム設計実習 (governance design)
	コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、Ib と併せての履修を前提とする。
	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
	Web において電子教材を提供する。
	講義中において教材を指定する。

GMS

履修コード	418901
科目名	演習 I a
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)	プレゼンテーションの基礎を講義と演習によって習得する。最初に講義でプレゼンテーションの基礎を学び、次に演習で、英文経済雑誌 Businessweek から記事を選び、内容をまとめて発表する。トピックは、コンテンツ (映画、アニメ、マンガ、音楽など)、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。各自、自分の関心のある記事を、教員と相談しながら自ら探す。
講義の内容／ 授業スケジュール	前半：講義およびプレゼンテーションの準備 後半：発表
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・発表内容 ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書／テキスト	藤沢晃治、『「分かりやすい説明」の技術』、講談社ブルーバックス、840円、ISBN4-06-257387-3

履修コード	419001
科目名	演習 I a
担当者名	高 媛

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く技法を学び、TV番組、映画、広告、音楽といった多様なメディア文化を、「歴史」と「越境」をキーワードに分析する。
講義の内容／ 授業スケジュール	本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞記事の分析 ②先行研究についての発表 ③グループワークの三つのステップに分けて進行する。
履修上の留意点	積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらったコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。出席重視 (8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)
教科書／テキスト	ゼミの中で随時に提示する。
参 考 書	ゼミの中で随時に提示する。
そ の 他	2年前期選択科目「情報社会論」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	419101
科目名	演習 I a
担当者名	しばさき ちづし 芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

・国際関係論、国際関係史の基礎を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容

前期は日本を中心とした国際関係史の文献輪読、発表を中心とし、関連する映像・メディア作品や、毎週課される課題に基づくディスカッションを行う。

授業の形式：

(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係史1 幕末から明治維新
- 3回目 国際関係史2 文明開化から日清戦争
- 4回目 国際関係史3 日露戦争から第1次世界大戦
- 5回目 映像分析1
- 6回目 国際関係史4 戦間期
- 7回目 国際関係史5 太平洋戦争期
- 8回目 国際関係史6 占領期
- 9回目 映像分析2
- 10回目 国際関係史7 55年体制形成期
- 11回目 国際関係史8 高度成長期
- 12回目 国際関係史9 1980年代
- 13回目 映像分析3
- 14回目 国際関係史10 1990年代
- 15回目 まとめ 21世紀の世界と日本、そして我々

※とりあげる内容や順番は、若干変更することがあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・多種多様なゲストを迎える「囲む会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミなどを随時開講予定。参加可能な場合には参加すること。
- ・夏季合宿(7月末から8月初旬)は原則として全員参加。

GMS

履修コード	419201
科目名	演習 I a
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい)	The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.
講義の内容／ 授業スケジュール	<p>The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Aspects of business history 2. Innovation 3. Entrepreneurship 4. Venture businesses 5. New technology-based firms 6. Industry-university-government linkages and national innovation systems 7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture. <p>Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:</p> <p>Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.</p> <p>Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.</p> <p>Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.</p>
GMS 履修上の留意点	<p>The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.</p> <p>Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.</p>
成績評価の方法	Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	419301
科目名	演習 I a
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(わらい) 本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断の問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習1aでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1週～第4週：導入と基礎となる学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation
- ディベート

第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- ディベート
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語 Academic Reading(継続)
- 日本語 Academic Writing(継続)
- 日本語 Academic Presentation(継続)

第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 発表会
- ディスカッション

第14～15週：最終発表会

- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次のWebページに掲載している。

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。
授業において指示する。

吉田尚史先生の「演習 I a」です。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

成績評価の方法
教科書/テキスト
その他の
関連リンク

GMS

履修コード	419501
科目名	演習 I b
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In This class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.

講義の内容／
授業スケジュール This Semester 2 seminar will meet on Mondays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project. There are no required textbooks. Professor will provide materials from the following:
Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004
Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005
Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997
Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005
Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

GMS

履修コード	419601
科目名	演習 I b
担当者名	<small>かわさき けんいち</small> 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい) 前半で身についた社会学的方法をもとに、東京文化について共同研究と共同発表をもとに、グローバルな東京文化について分析する。

講義の内容／
授業スケジュール 最初に東京文化について概説した後、各自が調査してきたグローバルな東京文化について、発表・議論をする予定である。
(スケジュール)
1. 社会学的発想と方法
2. 東京の社会学
3. -14. 発表(東京の文化社会学的研究)
15. まとめ

履修上の留意点 これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書 平常点と最後のレポートにより採点する。
授業の中で指示する。
川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年
D.Crane, N.Kawashima, K.Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002
小川・川崎 (共編)、「グローバリゼーションの社会学」、恒星社厚生閣、2010年

履修コード	419701
科目名	演習 I b
担当者名	<small>さいとう のぶお</small> 斎藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

WEBのシステム的アプローチ (II)

WEBシステムを柔軟に操作し、より良いWEB環境を作成するためには、ある種のプログラムを作成することが必要になる。そこで、プログラムの基本的概念、具体的な手法をプログラミング言語を習得することにより、体験していく。これらの学習により、情報システムの基本的機能や構造、その利用のためのプログラムとの相互関係を理解し、計算機システム、情報システムの本質を体験的に理解していく。

講義の内容/
授業スケジュール

(1-8) JavaScriptの基本的機能、処理の仕方、WEBの応用における位置づけを学ぶ。また、変数、型、演算子、式、制御構造(条件分岐および繰り返し)、配列、オブジェクト指向、イベント処理などのプログラミングの基本概念を学ぶ。

(9-12) JavaScriptとそれが提供するオブジェクトの構造を学び、WEBのアプリケーションとの相互関係、オブジェクト指向の基本的考え方を学ぶ。

(13-15) WEBの興味あるアプリケーションにおけるJavaScriptのプログラムとの相互関係を再確認し、その将来志向を考察する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

前期に開講される 演習 Ia を履修していることが、当科目を履修するのには望ましい。

適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

特に指定はしない。

必要に応じて紹介する。

ゼミ形式 演習課題を多く出す

GMS

履修コード	419801
科目名	演習 I b
担当者名	<small>しらみず しげひこ</small> 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

イノベーションの社会学：後期は、新しいアイデアや行動様式はどのように広まっていくか。その仕組み(メカニズム)を探る。チェンジエージェントやチェンジメーカーの研究。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

前期の続き。普及過程の理解。

自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

各自

ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。

履修コード	419901
科目名	演習 I b
担当者名	いしかわ のぶみ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイはすでに携帯電話を超えて、メール、Web アクセス、様々なアプリケーションサービス(音楽、動画、ゲーム、ナビゲーション、天気予報、乗換案内など)、電子マネー、TV (ワンセグ)などを提供する、日常生活に不可欠なツールへと大きく発展を遂げ、子供から大人まで、幅広く浸透している。

一方で、ケータイに関する技術革新は激しく、アップルのiPhone、グーグルのAndroid・ケータイなどの全く新しいケータイが登場し、大きな注目を集めている。

高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などが搭載された近未来のケータイを想定し、それらを活用した斬新なサービス創出に関して、議論、考察するとともに、その実現に向けた基盤技術(ケータイ向けコンテンツ/アプリケーション作成技術など)についても学習する。

講義の内容/
授業スケジュール

【第1週～第4週】高速モバイル通信機能(LTEなど)、各種センサー機能(位置センサー、電子コンパス、加速度センサーなど)、近距離通信機能(Bluetooth、無線LAN)などのケータイ向け新技術に関する調査、研究。それらの新技術を活用した、近未来ケータイ、近未来サービスに関する自由な議論、研究。

【第5週～第8週】ケータイ向けアプリケーション作成技術(Java、JavaScript、Flash等)の調査、研究と、作成環境の構築。

【第9週～第12週】ケータイ向けアプリケーションの作成実習。各自(又はグループ)で自らテーマを設定し、レポートを作成。

【第13週～第15週】作成したケータイ向けアプリケーション及び作成したレポートに関するプレゼンテーション。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

演習Iaで調査、研究した内容をよく復習しておくこと。

情報リテラシー及び情報リテラシー実習を履修済みであること。通年での履修を前提とする。

出席回数、レポート課題/実習課題の提出、グループ課題の発表などを考慮して、総合的に評価する。

教科書/テキスト
参考書

なし

演習の中で、適宜、参考書、インターネット上のWebページ等を紹介する。

GMS

履修コード	420001
科目名	演習 I b
担当者名	いしかわ のぶみ 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

演習における基礎的な勉強法の習得に重点を置く。ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進めます。

講義の内容/
授業スケジュール

特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進めます。したがって、発表時の司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。(1)ガイダンス、(2)～(14)文献輪読と個人研究発表、(15)まとめ

準備学習

各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点

原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、情報メディア産業論IIを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。

教科書/テキスト

演習Iaの進捗状況を見て別途指示する。

参考書

- ・湯浅正敏他、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7
- ・その他ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	420101
科目名	演習 I b
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追求の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関わり、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、後期は業界構造を研究する。チームに分れて、インターネットや図書館ばかりでなく、現実の業界を扱う団体、国会図書館、東京証券取引所、企業の運営する資料室など、各所を訪問して、できる限り質の高い情報を集める方法を学ぶ。集めたデータの分析方法、グループでの効果的なプレゼンテーションなどを通して、一冊の業界構造分析を製本する。最後に関係する企業にインタビューに伺い、企業人の生の声を伺う。情報収集力、データ分析力、プレゼンテーション力を養い、チームワークの重要性を身をもって体験してもらおう。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。
ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書/テキスト

年に数冊。

参 考 書

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。
特に重要な書籍などは適宜指示する。

そ の 他

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

GMS

履修コード	420201
科目名	演習 I b
担当者名	かねやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミでは、メディアの研究・実践・応用を通して、より高いレベルでのメディア・リテラシーを身につけること、そしてコミュニケーション能力を高めることを目指します。身の回りのさまざまな現象を、メディアという視点から理解すると同時に、メディアを介して実践されるコミュニケーションについて考察します。マスメディアやパーソナルメディア、ソーシャルメディアだけでなく、紙芝居、ダンス、カフェ、付録、化粧といったさまざまなものをメディアとして捉えていきます。

研究テーマは基本的に自由ですが、メディアに視点をおきながら、地域活性化・コミュニティ形成・社会問題といったローカルな問題から、環境・貧困・国際支援といったグローバルな問題を調査していくこと、あるいは、現代社会におけるメディアの役割や意義について研究していくことが中心となります。

また、継続的かつ長期的なメディアの実践を通して、メディア・コミュニケーションの意味を自ら学びます。

講義の内容/
授業スケジュール

主な3つの活動

【1. 研究】グループ毎にメディアに関するテーマについて1年間、調査研究します。前期は研究テーマ設定、文献調査や理論のもとに研究計画をたて、後期はアンケート、インタビュー、内容分析等の方法で調査を実施、結果を発表します。研究成果は論文集にまとめます。

【2. 実践】チーム毎に異なるメディアを使った長期プロジェクトを企画し実践していきます。

【3. 応用】より公共性の高いメディアのプロジェクトに参加します。

履修上の留意点

欠席はしないこと。I abの通年履修が原則。合宿には必ず参加すること。

成績評価の方法

特に積極的な参加や態度を重視します。
出席、参加、および研究計画書による総合評価

教科書/テキスト

授業内で資料を配布します。

履修コード	420301
科目名	演習 I b
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディースのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／
授業スケジュール

なお、指導教官の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習1abは、演習2abの予行演習です。演習1の前期はカルチュラルスタディースの基本文献の読書と学生各自の興味分野の文献調査。各自テーマを設定し、先行研究を探して読む。期末にレポート提出。後期は、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行う。期末にレポート提出。

GMS

成績評価の方法
教科書／テキスト

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。
それぞれの分野においてできるものは推薦しますが、基本的に学生が自分で図書リサーチをします。

履修コード	420401
科目名	演習 I b
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容／
授業スケジュール

前期は、メディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、経済社会およびメディアが進化を遂げてきたことを理解する。

後期は、現在の国内主要メディア産業をとりあげ、メディア産業の特質および構造、競争状況について考察を行い、その全体的仕組みを理解し、3年次以降の学習の基礎を作る。

合宿は、Iab, IIab 合同で前期終了時を目安に行う。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する
随時指示する。

随時指示する。

履修コード	420601
科目名	演習 I b
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)	情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。
講義の内容／授業スケジュール	本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。 具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。 I bでは、特に、モバイル端末を対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。
履修上の留意点	1 週～3 週：文献調査 (brainstorming) 4 週～7 週：Web Design (skill acquisition) 8 週～：システム構築実習 (service prototyping) コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、I aと併せての履修を前提とする。
成績評価の方法	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
教科書／テキスト	Webにおいて電子教材を提供する。
参考書	講義中において教材を指定する。

GMS

履修コード	420701
科目名	演習 I b
担当者名	さぬかわ しんや 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい)	レポート作成の基礎を講義と演習によって習得する。最初に講義でレポート作成の基礎を学び、次に演習で、各自で選んだテーマについてレポートを作成、その内容について発表する。テーマは、コンテンツ(映画、アニメ、マンガ、音楽など)、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。
講義の内容／授業スケジュール	前半：講義、レポートの作成、プレゼンテーションの準備 後半：発表
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・レポートおよび発表内容 ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書／テキスト	木下是雄、『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、819円、ISBN4-480-08121-6

履修コード	420801
科目名	演習 I b
担当者名	こう えん 高 媛

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く技法を学び、TV番組、映画、広告、音楽といった多様なメディア文化を、「歴史」と「越境」をキーワードに分析する。
講義の内容／授業スケジュール	本演習は、メディア分析に必要な文献の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞記事の分析 ②自由発表 ③グループワークの三つのステップに分けて進行する。
履修上の留意点	積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。出席重視(8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)
教科書／テキスト	ゼミの中で随時に提示する。
参考書	ゼミの中で随時に提示する。
その他	2年後期選択必修科目「メディア文化論」と併せて受講されることをお勧めする。

履修コード	420901
科目名	演習 I b
担当者名	芝崎 厚士 <small>しげさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい)

・国際関係の理論と実践の初歩を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

※後期は特に、レジュメの作成、文献調査の方法など、研究の進め方、発表の仕方などについてポイントを置き、ゼミ論を作成することで、3年次以降の研究の基礎体力を養成する。

講義の内容／
授業スケジュール

講義の内容

後期は国際関係論・国際政治学の基礎的な理論と世界の実情に関する基礎文献の輪読と発表を第1の柱とする。第2の柱として、グループ単位での研究を行い、ゼミ論を作成する。

授業の形式：

(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。さらに、グループ研究に関する各自の研究発表がこれに加わる。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係理論 1 (全体像と歴史的背景)・グループ研究 1
- 3回目 国際関係理論 2 (リアリズム)・グループ研究 2
- 4回目 国際関係の実践 1 (外交と対外政策)・グループ研究 3
- 5回目 メディア分析
- 6回目 国際関係理論 3 (リベラリズム)・グループ研究 4
- 7回目 国際関係理論 4 (マルクス主義・世界システム論)・グループ研究 5
- 8回目 国際関係の実践 2 (国際政治経済)・グループ研究 6
- 9回目 メディア分析
- 10回目 国際関係の理論 5 (相互依存)・グループ研究 7
- 11回目 国際関係の理論 6 (グローバリゼーション)・グループ研究 8
- 12回目 国際関係の実践 3 (国際紛争)・グループ研究 9
- 13回目 メディア分析 3
- 14回目 国際関係の実践 4 (情報革命)・グループ研究発表 1
- 15回目 国際関係の実践 5 (多国籍企業・NGO)・グループ研究発表 2

※学生と相談の上で、順番、内容は変更することがあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

出席点、課題、発表、レポートにより評価。

教科書／テキスト

・授業中に随時指示。

参 考 書

・授業中に随時指示。

そ の 他

・レポート課題図書については、授業時に指示する。

・多種多様なゲストを招いた「困む会」、ゲストの勤務先に赴くフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを別途開講予定。参加可能な場合には参加すること。

履修コード	421001
科目名	演習 I b
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール

The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:

Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点

The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

GMS

成績評価の方法

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	421101
科目名	演習 I b
担当者名	吉田 <small>よしだ</small> <small>なほふみ</small> 尚史

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習1bでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容/
授業スケジュール

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation, Q&A
- 計画発表会
- ディスカッション
- Webサイト作成
- プログラミングによるシステム試作
- ディスカッション
- ディベート
- 発表会

GMS

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。

授業において指示する。

授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	427811
科目名	メディア制度論
担当者名	<small>にしおか ようこ</small> 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい) 放送および通信事業者は、ネットワーク産業であり公益事業であるということから、様々な規制を受けながら事業を展開している。本講義では、放送および通信産業がネットワーク産業として持つ産業の特徴および政策の基本的な内容、さらに産業の概況を、全体としてひとつの制度として理解することを目的とする。また、政府資料などを参照するなど情報通信産業に関する情報収集に役立つ基礎知識を身につけられるように配慮する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. イントロダクション
2. メディア産業の概要
 - ネットワーク産業としての特徴と規制
 - 政策決定
 - メディア産業の市場での位置づけ
3. 放送
 - 日本の放送産業の概要
 - 放送における各種規制
 - 地上放送とデジタル化
 - 衛星放送、ケーブルテレビ
4. 通信
 - 情報通信産業の概要
 - 通信における各種規制
 - 日本の通信政策の流れ
 - 携帯電話
5. 通信と放送の融合
 - 通信と放送の融合
 - 日本のIT戦略
6. まとめ

履修上の留意点

メディア産業は、非常に速いテンポで変化を遂げている。日常的に、関連ニュースに注意を払うこと。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。

講義中に指示する。

毎年発行の総務省『情報通信白書』（総務省サイトより取得可能）ほか講義中に指示する。

GMS

履修コード	427911
科目名	グローバル経営論
担当者名	各務 洋子

講義の到達目標(わらい)

グローバル経営論Ⅰの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。

講義の内容/
授業スケジュール

グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1)どのような論理で組織が構築され、(2)どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。

I. グローバル経営の論理

1. 企業活動の国際展開の論理
2. グローバル経営の戦略論
3. グローバル経営の組織論
4. 海外子会社関係のマネジメント
5. グローバル統合とローカル適応の論理
6. トランスナショナル経営論

II. グローバル経営の革新

7. グローバル企業のイノベーション
8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント
9. グローバル R&D マネジメント
10. グローバル戦略提携のマネジメント

III. グローバル経営環境とマネジメント

11. グローバルな人的資源戦略
12. リージョナル・マネジメント
13. グローバル経営における文化
14. まとめ

履修上の留意点

グローバル経営論Ⅰをすでに履修した学生に限ります。Ⅰと同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。
開講時に指示。
必要に応じて随時紹介。

履修コード	430801
科目名	情報社会論
担当者名	高 媛

講義の到達目標(わらい)

社会は、さまざまな情報メディアが絡み合った場所である。19世紀以来、メディア技術の革新は、人々の日常生活から社会や国家のありかたまでさまざまな変化をもたらしてきた。本講義では、メディアの変容がどのような社会的諸条件のもとで要請されたのか、そしてそれが人間の知覚や精神にいかなる影響を与えたのかを、歴史的・文化論的な視点から掘り下げていく。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

新聞、ラジオ、映画、テレビ、写真、インターネットなどのメディアの歴史を辿りながら、それらを誕生させた時代状況と、その誕生が人間社会にもたらした変化について解説する。

成績評価の方法

講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらったコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視(8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)

教科書/テキスト
参 考 書

特に指定しない
・佐藤卓己『現代メディア史』(岩波書店、1998年)、2,300円、ISBN: 4000260154
・吉見俊哉『メディア文化論』(有斐閣、2004年)、1,800円、ISBN: 4641121907

そ の 他

講義形式

履修コード	430911
科目名	イノベーション普及論
担当者名	しろみず しのぶ 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

イノベーションとは、新しいアイデア、すなわち、新しいモノ、行為、思想などです。従って流行研究を含みます。前期は主にイノベーションの採用過程、集団過程を学びます。すなわち、わたしたちは、どのような心理的過程をへて、新しいものを採用するか、その仕組みを調べます。そして個人やメディアは新しいアイデアの、集団内や集団間の普及にどのような役割を果たすか、検討します。

講義の内容/
授業スケジュール

どうして、わたしたちは、あるイノベーションは採用するが、あるイノベーションは採用しないのか、なぜ、ブランド品などの高価なものを買ってしまうのか。購入に際して友人や店員はどのような役割を果たしているのか。テレビなどのメディアはどのような役割を果たすのか…。身近なところに事例がいくらかもある、とても心理学的で興味深い研究です。

わかりやすい例としてまず、流行を取り上げてイノベーションの普及に入っていきます。

第1回～3回 流行と普及の実態

流行とはなにか

流行と普及の関係

第4回～8回 個人過程：イノベーション採用過程

イノベーションの採用に至るまでの心的過程

人はどのような過程を経て実際に使用するようになるか

メディアはどのようなときに最も効果的に働くか

第9回～12回 集団過程：集団内での普及のメカニズム、個人やメディアの役割

第13回～15回 集団間普及：架橋的エージェントの活動、異文化間普及

準備学習

授業時間中に提示するスライドは、前もってGMSの授業支援システムのイノベーション普及論にアップしてあるので、授業の前に閲覧すること。地球環境に配慮して授業中の印刷物の配布は最少限にします。ご理解ください。

履修上の留意点

参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回程度の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイの提出が3回以下の場合には成績がつかないことがあるので、そのつもりで。

教科書/テキスト

参 考 書

なし。パワーポイントによる説明。適宜プリント等を配布する。

ロジャーズ著、三藤訳 2007『イノベーションの普及』翔泳社

青池慎一 2007『イノベーション普及過程論』慶応義塾大学出版会

白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社

そ の 他

授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。

GMS

履修コード	431011
科目名	コミュニケーション社会史
担当者名	<small>しらみず しげのこ</small> 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

社会を変える人々、文化を変える人々
チェンジエージェント（普及促進者）、チェンジメーカー（社会変革者）の理論と実際

講義の内容/
授業スケジュール

社会は日々新しいアイデアが生み出され、あるものは広く人々の間に取り入れられ（普及し）、あるものは普及せずに世の中から姿を消す。イノベーション普及論Ⅰでは、新しいアイデア（ここではイノベーションと呼ぶ）が人々の間に広まるプロセスのメカニズムを学んだ。いわばイノベーションの受け手の社会学であった。後期では、どのようなプロセスでイノベーションが創りだされ、それがどのような人々によって、どのように広められるか。イノベーションの送り手の側の手法の解明を試みたい。その方法は、送り手の仕事の現場をルポしたビデオなどを用いる、徹底的なケーススタディ（事例研究）である。

1. イノベーションの生成 イノベーションはどのようなプロセスで創りだされるか。
事例1
2. イノベーションの生成 事例2
3. チェンジエージェント、チェンジメーカーの理論 1
4. チェンジエージェント、チェンジメーカーの理論 2
5. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
社会貢献イノベーションの開発とその普及 1
6. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
社会貢献イノベーションの開発とその普及 2
7. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
社会貢献イノベーションの開発とその普及 3
8. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
商業的イノベーションの開発とその普及 1
9. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
商業的イノベーションの開発とその普及 2
10. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
商業的イノベーションの開発とその普及 3
11. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
町おこしの事例
12. チェンジエージェント、チェンジメーカーの実際
エスニック・コミュニティの事例
13. まとめ 1
14. まとめ 2

準備学習

絶えず新聞やテレビなどメディアに注目し、新しい新製品の開発やその普及（販売を含め）に努めている人や組織のことが出ていたら切り抜きをついたり、ビデオに録るなど自分でも資料を集めておくこと。

履修上の留意点

画像を用いたり、事例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、ビデオ資料を分析することが多いので毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す（5回前後の予定）。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。

教科書/テキスト
その他

なし。パワーポイントによる資料提示、およびビデオ資料を見ながら分析する。
能動的で積極的で、遅刻や欠席しない人の受講を望む。

GMS

履修コード	431111
科目名	グローバル戦略論
担当者名	各務 洋子

講義の到達目標(ねらい) モノづくりの企業に限らず、映画、新聞、テレビ、ラジオ、インターネットといったあらゆる分野で企業は絶え間ない技術革新(知識の創造とイノベーション)を求められている。様々な特質をもつ業界において求められる知識創造を継続的に生み出す経営戦略に焦点をあてる。新規性の高いプロダクトやアイデアを創出するための経営資源セット、組織構造、システム、プロセスを解明し、企業価値を創造する経営戦略の論理を学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール グローバル経営を追求するあらゆる組織のなかで、組織の成長を促進するための経営戦略を学ぶ。毎回、実際の企業の事例と、理論的フレームワークを提示し、理論と現実との両面から知識を深める。

1. 戦略の本質と意義
2. 全社戦略①企業全体を方向づける方法
3. 全社戦略②企業全体のバランスと成長を図る方法
4. 事業戦略①戦略分析のための基本ツール
5. 事業戦略②競争のメカニズム
6. 事業戦略③戦略の基本パターン
7. 戦略的経営①戦略の策定と実行のプロセス
8. 戦略的経営②戦略と組織の変革
9. 戦略的経営③戦略と財務
10. 戦略的経営④企業価値のマネジメント
11. グローバル時代の戦略①日本企業の課題
12. グローバル時代の戦略②グローバル企業の課題
13. グローバル時代の戦略③産業構造の変化とビジネスモデル
14. グローバル時代の戦略④企業の社会的貢献と地球環境問題

履修上の留意点 学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連の情報を集めるように心がけて下さい。

成績評価の方法 各期定期試験と、講義中に実施する理解度をはかるエッセーにより総合的に評価します。

教科書／テキスト 開講時に指示する。

参考書 開講時に指示する。

GMS

履修コード	431201
科目名	知識経営論
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) This course is an introduction to the subject of innovation and knowledge management from both managerial and theoretical points of view. Students will be introduced to practical issues related to the processes of managing and creating knowledge in teams and organizations, as well as to theories and research on innovation and organizational learning. Theoretical frameworks are derived from economics, philosophy, and organizational behaviour.

講義の内容／授業スケジュール This course is based on lectures and short reading assignments provided by the teacher.

成績評価の方法 Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination.

参考書 Materials will be provided by the teacher.

履修コード	431301
科目名	異文化経営論
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) This course on comparative business culture provides students with a basic understanding of issues in international business and cross-cultural management. Students will be introduced to issues related to management in an inter-cultural context, ethics and values in cross-cultural management, and the impact of cultural diversity in multinational companies. The course draws in ideas from social anthropology, cross-cultural psychology, and organizational theory.

講義の内容／授業スケジュール The content of the course is introduced in a series of lectures. Certain themes may be explored further through short readings given by the teacher in class.

成績評価の方法 Students will be evaluated based on three short essays and final exam.

参考書 Materials will be provided by the teacher.

履修コード	431401
科目名	マルチメディアビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい)

The purpose of this course is to prepare students to become “managers” of corporations that will increasingly face the challenges of a digital, multimedia world

講義の内容／
授業スケジュール

This Semester 1 course will meet on Tuesdays during 1st period. A highly important facet of the course will be lab work, in which students will explore various forms of multimedia. The course will be geared toward creating a dynamic interactive learning process in which emphasis will be placed on “real-world” managerial and program challenges. The key to acquiring useful knowledge here is active participation and involvement in the form of class discussions, lab work, and analysis of programs and case studies, as well as formulating corporate strategies for the developing field of multimedia, i.e. the digital content industry.

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

Evaluation will be based on quizzes, final exam and participation.

There are no required textbook, only suggested readings.

Professor will provide materials from the following:

Blueprint to the Digital Economy, Alex Lowy and David Tocoll, New York: McGraw- Hill, 1998.

City of Bits, William J. Mitchell, Cambridge, MA: The MIT Press, 1995.

Competing in the Age of Digital Convergence, David B. Yoffie, Boston, Harvard Business School Press, 1997.

Entertainment Industry Economics, Harold L. Vogel, New York: Cambridge University Press, 1999.

Hollywood Unstrung: The Emerging Digital Challenge--D Cinema and Beyond, Iarta, Los Angeles: Iarta Publications, 2001.

Hot Groups, Jean Lipman-Blumen & Harold J. Leavitt, New York: Oxford University Press, 1999.

Media Trends 2001, Paul kagan Associates, Carmel, CA: Paul kagan Associates, September 2000

Multimedia, Tay Vaughen and Scott Rogers Osborne, New York: McGraw-Hill, 1998.

Organizing Genius Warren Bennis and Patricia Ward Biederman, Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1997.

The Highwaymen: Warriors of the Information Superhighway, Ken Auletta, New York: Random House, 1997.

GMS

履修コード	431511
科目名	デジタルコンテンツビジネス論
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In the era of digital convergence, with its rapid and chaotic change, how can companies formulate strategy? The objective of this course is to familiarize the students with the concept of digital convergence and the strategies that companies are undertaking to cope with these challenges.

講義の内容／授業スケジュール This Semester 2 course will meet on Mondays during 3rd period. In this course, various views of digital convergence will be examined, as well as comparative studies of company strategies. Restructuring of these industries involves strategic implications suggesting that there are winners and losers. Analysis of key factors in this chaotic industrial environment and corporate responses will be studied.

成績評価の方法 Evaluation will be based 50% class participation, 45% the mid-term exam, and 50% the final.
教科書／テキスト David B. Yoffie, Competing in the Age of Digital Convergence, Harvard Business School Press, Boston, MA, 1997

参 考 書 Professor will provide materials from the following:
Digital Convergence and Market Structure
Milton L. Mueller, June 1999
Gerard, Damien & Luff, David (editors) (2004) - The WTO and Global Convergence in Telecommunications and Audio-Visual Services Cambridge U. Press
Gershon, R. A. and Kanayama, T. (2002) The SONY Corporation: A Case Study in Transnational Media Management, International Journal of Media Management 4(2).
By Stephen Baker and Heather Green With Bruce Einhorn in Hong Kong, Moon Ihlwan in Seoul, Andy Reinhardt in Paris, Jay Greene in Seattle, and Cliff Edwards in San Mateo, Calif., Big Bang, Business Week OnLine, June 21, 2004
Andy Covell, Digital Convergence Phase II, Campaign, Illinois, Stipes Publishing, L.L.C., 2004
The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science, Vol.597, No. 1, 32-47 (2005)
Pablo J. Boczkowski, Multiple Media, Convergent Processes, and Divergent Products: Organizational Innovation in Digital Media Production at a European Firm

GMS

履修コード	431601
科目名	グローバルビジネス人材マネジメント
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) These lectures introduce students to ideas and concepts in human resource management, particularly the challenges related to working abroad or in an international organization. The nature of work is changing, and this course provides an insight into some of these challenges and changes.

講義の内容／授業スケジュール This course is based on lecture material and suggested readings.

成績評価の方法 Student evaluation will be based on class attendance, class participation and a final examination.

履修コード	431701
科目名	企業会計の実務
担当者名	伊藤 かつひろ 伊藤 克容

講義の到達目標(ねらい)	社会のなかで会計(経理あるいは簿記)関係の仕事は、ひじょうに重要な役割を担っています。会計についての知識を「英語」、「パソコン」とあわせて「ビジネスパーソンの3種の神器」と呼ぶ人もいるくらい、重視されている科目です。ビジネスの世界で活躍しようとするならば、会計・経理の知識をもっていた方が圧倒的に有利でしょう。この講義では、ビジネスで必須の会計・経理のセンスを身につけることを目標にします。
講義の内容/ 授業スケジュール	企業会計の基本構造(2~3回) 財務諸表作成のための手続き(3~4回) 財務諸表分析:財務諸表から企業行動を読み取る(3~4回) マネジメントのための会計情報:管理会計へのアプローチ(3~4回) *いくつかの単元を終了後、区切りのよい時点で中間テストを実施する予定です。
履修上の留意点	授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみることを。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いてあるうちに段々分かってくるということが、頻繁にあります。毎時間かならず自分用の電卓を持ってきてください。
成績評価の方法	各受講者の個人得点を基準に成績をつけます。個人得点は、以下のように計算し、必要に応じて開示します。講義時間中の迷惑行為(理由のない遅刻、睡眠、携帯電話の使用、私語など)は、個人得点からそのつど差し引きします。 各受講者の個人得点=中間テスト(必修課題)の得点合計+小テスト(任意提出課題)の得点合計±受講態度
教科書/テキスト	特に指定しません。
参 考 書	必要に応じて、講義時間内に指示致します。
そ の 他	毎時間プリントを配付します。

GMS

履修コード	432001
科目名	情報メディア産業論 I
担当者名	福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)	インターネットをはじめとした様々なネットワークの特性を理解するとともに、ブロードバンド・インターネットの急速な普及により大きく変化している、日本の情報メディア産業の現状と課題を理解することを目的とします。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1) 情報メディア産業とは、(2) ~ (3) 情報メディア産業を理解するためのキーワード、(4) 電気通信、(5) 放送、(6) 携帯電話、(7) ~ (8) インターネット、(9) 新聞、(10) 出版、(11) 広告、(12) 映像コンテンツ、(13) 音楽、(14) ~ (15) まとめ
準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。
成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義概要、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書/テキスト	特に指定しません。
参 考 書	・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4 ・湯淺正敏他、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7 ・その他講義の中で適宜紹介します。
そ の 他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432101
科目名	情報メディア産業論Ⅱ
担当者名	福家 ^{みけ} 秀紀 ^{ひでのり}

講義の到達目標(わらい)	インターネットのブロードバンド化・モバイル化に伴う情報メディア産業の新しい展開とそれが生み出した新たなビジネス、情報交流、社会的機能の現状分析、および評価を行うことを目的とします。
講義の内容／ 授業スケジュール	(1)～(4)情報メディア環境の変化、(5)情報メディア産業の構造変化、(6)ピア・ツー・ピア通信とCGM、(7)ロングテール現象と情報メディア、(8)デジタル情報の特性、(9)～(12)情報メディア産業の課題、(13)次世代ネットワーク(NGN)の意義、(14)～(15)まとめ
準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰの履修済みを前提として授業を行います。
成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義概要、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	特に指定しません。 ・佐々木俊尚、『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、文芸春秋社、760円、4-16-660501-1 ・Anderson, Chris, 'The Long Tail, Hyperion \$24.95, 1-4013-0237-1、篠森ゆりこ訳『ロングテール』、早川書房、1,700円、4-15-208761-7 ・室田泰弘、『YouTube はなぜ成功したのか』、東洋経済新報社、1,600円、978-4-492-76168-7 ・その他、授業中に適宜紹介します。
そ の 他	レジュメを配布する他、政府の各種審議会の報告書や新聞記事なども適宜使用します。

GMS

履修コード	432201
科目名	ネットワークコミュニケーション論
担当者名	菅谷 実 ^{すがや みのる}

講義の到達目標(わらい)

社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。

前半は、「ネットワークとコミュニケーション」というテーマで、社会的コミュニケーション活動とネットワークの関係を明らかにする。具体的には、組織とネットワーク、組織コミュニケーション、ネットワーク産業の特質などを論じる。

後半は、「情報ネットワーク発展の歴史」を、各ネットワーク産業ごとに明らかにする。具体的には、郵便、交通、通信、放送、インターネットなどのネットワークの発展過程を論じる。まとめの部分においては、今後、ますます進化が期待されている「ネットワークの融合と社会的コミュニケーション」を取り上げる。具体的には、融合化が進むネットワーク環境のなかで社会的コミュニケーション活動がどのような影響を受け、変容していくかを展望する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1部 ネットワークとコミュニケーション

1. ネットワークと経営

企業経営とは

企業活動にとっての情報基盤の重要性

クローズネットワークとオープンネットワーク

2. 企業組織とネットワーク

企業組織

組織コミュニケーション

3. ネットワーク産業の特質

ネットワーク産業の構造

ネットワーク産業の変容

第2部 情報ネットワーク発展の歴史

4. 郵便制度

物流と情報流を支える流通ネットワーク

郵便サービス

郵便局

民営化

情報ネットワークとしての郵便ネットワーク

5. 交通ネットワーク

貨物輸送

国内旅客輸送

国際輸送

6. 放送ネットワーク

放送ネットワーク種別

放送規制

テレビ放送ネットワークの発展

7. 通信ネットワーク

通信事業者の種別

通信ネットワークの構造

制度の変容

8. インターネット

発展の歴史

ブロードバンドネットワーク

ネットワーク機能

第3部 ネットワークの融合

9. ネットワークの融合

10. ネットワークの高度化と経営環境の変化

講義には毎回出席してください

平常点と期末テスト

特に指定しない。

初回講義時に紹介する。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書

履修コード	432601
科目名	グローバルアート政策論
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい)

現代文化システムの特徴・機能・可能性、について、文化政策 (cultural policies) 特に芸術文化政策をキーワードとして論じる。文化的グローバリゼーションにより、国家単位の文化システムが、越境的・グローバルな展開を遂げつつある、その中核的な機能を果たしている。その成立過程、展開・普及家庭、そして将来の可能性を展望する。

講義の内容／
授業スケジュール

文化政策のオリジナルを、西欧諸国等にイギリスとアメリカに求め、その歴史と展開を概観する。その後1980年代以降のグローバルな展開を、アジア諸国への普及を例とし、比較の観点から概説する。

(スケジュール)

1. イントロダクション
2. 文化政策とは何か？その期限と展開の概略
3. ファインアートカルチャーとポピュラーカルチャー
4. 文化階層と文化政策
5. 文化政策の3タイプ：アメリカ型
6. 文化政策の3タイプ：アジア型 (シンガポールと中国 (その1))
7. 文化政策の3タイプ：アジア型 (シンガポールと中国 (その2))
8. 文化政策の3タイプ：中間型 (イギリス)
9. 文化政策の3タイプ：(中間型 (フランスとイタリア))
10. 文化政策の3タイプ：中間型 (他のヨーロッパ諸国)
11. 文化政策の3タイプ：中間型 (日本)
12. 文化政策と国際文化交流
13. 文化政策と文化産業のシナジー
14. 文化政策の限界と可能性
15. まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業以外に、文化政策について調べてもらう予定である。

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

授業の中で指示する。

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年

佐々木・川崎・河島 (共編)、「グローバル化する文化政策」、勁草書房、2009年

GMS

履修コード	432701
科目名	グローバル創造都市論
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい)

文化的グローバリゼーションを推進する中核的なトレンドは、創造都市 (Creative Cities) ないし創造産業 (Creative Industries) である。本講義では、創造都市とは何か、どのように成立し、どのように発展しつつあるかを、具体的な例 (ロンドン・ニューヨーク・東京・香港・シンガポール、など) を例にとりて、紹介・説明する。

講義の内容／
授業スケジュール

授業は講義形式で、3つの内容からなる。創造都市と創造産業の成立とその機能。文化的グローバリゼーションと関連付けて、どのように発展したかについて具体的な例を挙げて説明する。最後に、将来的な可能性と問題点について考察する。

(授業スケジュール)

1. イントロダクション：予備的考察とキー概念
2. 何のためのグローバル創造都市か？なぜ、グローバル創造都市が生まれたのか？：グローバリゼーションとグローバルシティ、創造都市
3. 誰がグローバル創造都市を造るのか？：文化階層と文化資本
4. ロンドン
5. ニューヨーク
6. 東京
7. シンガポールと東南アジアの主要都市
8. 中国都市圏
9. 東京と京都
10. 日本のグローバル創造都市：金沢・横浜・大阪
11. ローカルとネイティブ
12. トランスナショナルの重要性：EU と ASEAN
13. 新しいコスモポリタニズムと中間層
14. グローバル創造都市の限界と可能性
15. グローバル創造都市論：まとめ

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業以外に、創造都市について調べてもらう予定である。

学期末テスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平均点・出席点等を加算する。

授業の中で指示する。

川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年

佐々木雅幸、「創造都市への挑戦」、岩波書店、2001年

J. Florida, The Rise of Creative Class, Basic Books, 2002

履修コード	432801
科目名	グローバル交流論
担当者名	芝崎 ^{しばさき あつし} 厚士

講義の到達目標(ねらい)

- ・国境を越えたトランスナショナル・グローバルな交流の諸相に関する基礎文献の検討をもとに、ヒト・モノ・カネ・情報など多種多様な分野における交流がもたらす問題を考える。
- ・将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容／授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、簡単な小テスト、解説、関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス&イントロダクション
- 2回目 グローバル交流の枠組 1
- 3回目 グローバル交流の枠組 2
- 4回目 グローバルな交流の理論 1
- 5回目 グローバルな交流の理論 2
- 6回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 1
- 7回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 2
- 8回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 3
- 9回目 文化・思想の交流 1
- 10回目 文化・思想の交流 2
- 11回目 ヒト・モノ・カネの交流 1
- 12回目 ヒト・モノ・カネの交流 2
- 13回目 グローバルな交流とメディア 1
- 14回目 グローバルな交流とメディア 2
- 15回目 まとめ

履修上の留意点

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

- ・予習を前提として授業が進むので、予習（文献をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。
- ・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。
- ・ダウンロード入手した文献は、自宅でプリントアウトすること。大学の情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の迷惑になるので禁止。

成績評価の方法

(1) 出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点 (70%) とブック・レポート (30%) により評価。

※必ず、事前に文献を読んでくること。文献を読んできていない答案はすぐに区別が付きまますので、たとえ毎回出席していても文献を読んでいない学生は、不合格になります。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。
授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

- ・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。
- ・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。
- ・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。

GMS

履修コード	433001
科目名	グローバルシティズンシップ
担当者名	^{かなやま ともこ} 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

グローバル社会が現実のものとなっていく一方で、国民国家間の境界がますます意識されるようになってきました。戦争やテロ、環境や開発問題、貧困や情報格差など、グローバルな解決が求められる社会的正義の問題が増加する中で、一国民ではなく、グローバルシティズンとしても意識や関わりが求められるようになってきています。本講義では、グローバルシティズンとしてどのようなアプローチをとるべきかについて、特にメディアとの関わりを意識しながら、日常的なコミュニティレベルから、地球市民レベルに向けた情報の受発信を考察し、そこから具体的なアクションへつなげていくために何が必要かを議論していきます。

講義の内容/
授業スケジュール

授業では、グローバルシティズンシップとは何かという基礎的な考えについて理解します。また、環境、貧困などグローバルなテーマを題材として、その問題がどのような形でグローバルにディスカッションされているのかを考察します。ブログ、SNS、ネット新聞や放送、ウェブサイトなど上での、グローバルなディスカッションや対話について、その現状と問題などをみていきます。また、関心のあるテーマに関するイベントや活動への参加し、報告してもらいます。

<授業スケジュール>

- *ガイダンス
- *グローバルシティズンシップとは
- *グローバルな視点と問題
- *グローバル化された世界におけるシティズンシップ
- *人権
- *環境と開発
- *平和と安全
- *グローバルガバナンス
- *社会企業家

履修上の留意点

グローバルな問題に関心がある学生、様々なイベントや活動への参加、関連映画や写真展の鑑賞、関連誌の購読など、積極的な姿勢のある学生を望みます。英語の文献やウェブサイトも使用します。

成績評価の方法

出席、小レポート、および最終課題による総合評価
(8割出席が単位習得の最低必要条件)

その他の

人権や環境などの問題に取り組んでいる現場関係者や社会企業家を招聘する予定です。

GMS

履修コード	433101
科目名	グローバル英語概論
担当者名	町田 ^{まちだ} ^{なほこ} 尚子

講義の到達目標(ねらい)

世界の共通語としての英語を、共時的観点と通時的観点から見ていきます。母語としての英語、第二言語あるいは公用語としての英語、外国語としての英語の三層を概観し、現代の英語の多様性を考察します。英語を母語としない私たちが共通語として使用する標準的、ニュートラルな英語の周りには、さまざまな英語が通用していることにも目をむけ、英語の多様性への理解を深めます。さらに、英語を母語としない人々と英語を共通語とすることの意味も考えます。

講義の内容/
授業スケジュール

以下のタイトル / スケジュールで講義を進めます。

Week 1, 2 & 3:

I. Introduction: What is English?

1. English as a Global Language and International Varieties of English

(1) Crystal (2002) 1 English Language Today (pp 1-12)

(2) Charts: The three circles of English, International varieties of English and A family tree representation

Week 4:

I-2. Historical background: The history of the English language is the history of invasions

Week 5:

I-3. American English vs British English

I-4. Other varieties

Week 6 & 7:

II. Vocabulary

1. Borrowing

2. Synonyms

3. Word formation

Week 8 & 9:

III. Pronunciation

1. Modern English sounds: vowels and consonants

2. Old English and Middle English sounds

3. The Great Vowel Shift

4. Variations

Week 10, 11, & 12:

IV. Grammar

1. How were inflections simplified in English?

2. New grammatical features: word order, prepositions and modal auxiliaries

3. More about English Grammar

Week 13:

V. Registers

1. Style of speech

2. Standard and non-standard English

2. Spoken and written English

Week 14 & 15:

VI. English and the Internet

英語教員免許の取得を考えている学生は2~3年次で履修しておく必要があります。

半期科目なので、講義が中心ですが、課題レポート提出が2回ないしは3回あります。特に、初回授業で第1回の提出課題を指示しますので、必ず出席してください。また、講義についての理解を確認する小テストをほぼ毎回行う予定です。課題レポート30%、小テスト15%、定期試験55%の目安で評価点を出します。

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書/テキスト

・Crystal, David (2002) The English Language, 2nd edition.
Penguin Books (ISBN 0141003960)

GMS

参 考 書

- ・ Blake, N. F.(1996) A History of the English Language, London: Macmillan (ISBN 0333609840)
- ・ Bragg, Melvyn (2004) The Adventure of English: The Biography of a Language, Arcade Publishing. (ISBN 1559707100)
- ・ Crystal, David (1997) English as a Global Language, Cambridge: Cambridge University Press. (ISBN 0521530326)
- ・ Crystal, David (2001) Language and the Internet, Cambridge: Cambridge University Press.
- ・ Crystal, David (2004) Rediscover Grammar, Pearson Longman (ISBN 0582848628)
- ・ Crystal, D. (2003) The Cambridge encyclopedia of the English language (2nd ed), Cambridge University Press (ISBN 052153034)
- ・ Trask, R.L. (1999/2001) Language: The Basics, 2nd edition. Routledge (ISBN 041520089-X)
- ・ 寺澤 盾 『英語の歴史：過去から未来への物語』中公新書1971. 2008年
- ・ 本名信行 編 (1990) 『アジアの英語』くろしお出版 (ISBN 4874240488)

そ の 他

- (1) 欠席する場合はeメール等で連絡し、課題の指示を受けること。
- (2) GMS 学部授業支援サイト「グローバル英語概論」ページに毎回の講義概要、handout等を記載します。授業前に必ず確認して下さい。

関 連 リ ン ク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

GMS

履修コード	433201
科目名	英語圏文学概論
担当者名	佐藤 <small>ひょうこ</small> アヤ子

講義の到達目標(ねらい)

「世界文学」という言葉さえ使われる昨今、文学の世界の境界はますます低くなっています。英語はイギリス、アメリカのみならず、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、カリブ諸国、およびアフリカ、アジア等の一部の国々で公用語として用いられています。本授業では、「英語圏文学」という文学地図で英語圏の文学を講義します。

また、今日世界で生活する人々の四分の三以上の生活は、過去の植民地主義体験によって形作られたものであると言われています。世界の英語圏の国々も、かつてはイギリスの植民地でした。そして、このことがさまざまな民族の知覚や認識の枠組みに与えた影響は計り知れません。本授業では、こういった時代背景を学びながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、カリブ諸国およびアフリカで今日活躍する英語圏作家が提示するさまざまな問題を考えていきます。

講義の内容／
授業スケジュール

1. 英語圏文学概観
2. イギリス文学概論 1
3. イギリス文学概論 2
4. イギリス文学作品鑑賞
5. イギリス文学作品鑑賞
6. アメリカ文学概論 1
6. アメリカ文学概論 2
7. アメリカ文学作品鑑賞
8. アメリカ文学作品鑑賞
9. カナダ文学概論 1
10. カナダ文学概論 2
11. カナダ文学作品鑑賞
12. カナダ文学作品鑑賞
13. 英語圏アフリカ文学概論
14. オーストラリア文学概論
15. 英語圏文学総括

準 備 学 習
履修上の留意点
成績評価の方法

授業で指定された作品を精読しておくこと。
授業で取りあげる作品は事前に読んでおくこと。
連続して授業に出席することを受講の条件とし、授業への参加、提出レポート等を総合的に評価します。

教科書／テキスト

ミシェル・マルク・ブシャル作・佐藤アヤ子訳『孤児のミュージズたち』、彩流社、1500円
アソル・フガード作・福田逸訳『谷間の歌』、而立書房、1500円
ISBN4-88059-258-7-C0074

参 考 書

ビル・アッシュクロフト他著『ポストコロニアルの文学』(青土社)

履修コード	433301
科目名	NPO/NGOとメディア
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子

講義の到達目標(ねらい) この10年、さまざまな社会問題を自分たちで解決し、より良い市民社会を構築しようという市民のボランティアな活動が大きな流れとなってきました。こういった社会活動の中心は市民グループ、NPO、NGOが担ってきましたが、最近では営利セクターでも社会貢献（CSR）活動が重要になっています。さらに、営利・非営利にとられぬ、持続可能な社会を目指した企業、いわゆる社会企業家（ソーシャル・アントレプレナー）たちの活躍も注目されています。NPO・NGO、社会企業家などがそれぞれの実践においてメディアを活用することは特に重要です。講義では、市民、NPO・NGO、企業などの社会変革活動におけるメディア活用について、最近の事例を交えながらその現状と問題点について考えます。

講義の内容／授業スケジュール 本講義では社会運動から市民活動についての歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な知識、そして、ソーシャル・マーケティングや社会変革キャンペーンといった、より発展した内容について、具体的な事例をもとに学んでいきます。関連イベントへの参加や授業で学んだことをもとに、関心のある社会問題を解決するための社会変革キャンペーンプロジェクトを自分たちで企画・実践し、発表します。

<授業スケジュール>

- * ガイダンス
- * 市民活動の台頭
- * NPO・NGOによる情報発信～PR
- * NPO・NGOによる情報発信～アドボカシー
- * ソーシャル・マーケティング
- * 社会変革キャンペーン
- * ソーシャル・ムーブメント
- * キャンペーンプロジェクト発表

履修上の留意点 テーマに関心をもち、関連イベントやボランティアなど積極的に参加する学生を望みます。また、キャンペーンの企画・実践については、授業外でのグループワークがかなり必要となります。

成績評価の方法 原則として、グローバルシティズンシップを履修している学生を対象とします。

教科書／テキスト 出席、参加度、およびプロジェクトによる総合評価
その他 8割出席が単位習得の最低条件。

関係資料を配布
NPO・NGO関係者、社会企業家を招聘する予定です。

GMS

履修コード	433401
科目名	グローバル市民社会論
担当者名	芝崎 厚士

講義の到達目標(ねらい)

- ・いわゆる GCS (グローバル市民社会)、TCS (トランスナショナル市民社会) と言われる、NGO、グローバル企業、国際機関、国家などの多様な主体による、近年の国境を超えた諸活動に関する基礎文献をもとに、GCS/TCS とは何か、それが国際関係や世界全体においてどのような役割を果たしているか、といった点について理解を深める。
- ・グローバルな交流の中で主体的に活動する人々のさまざまな考え方や行動を知ることで、自分たち自身が世界の中でどう生きるか、どう行動するかを考え、実践していくためのヒントを得る。
- ・「グローバル交流論」と同様、将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：(1) 授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。(2) 出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。(3) 当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グローバル経済1 映像分析
- 3回目 グローバル経済2 グローバリザーたち
- 4回目 グローバル経済3 ネオ・リベラリズム批判
- 5回目 地球環境・資源1 映像分析
- 6回目 地球環境・資源2 地球環境問題の国際的取り組み
- 7回目 地球環境・資源3 水・食糧・生命
- 8回目 貧困と開発1 映像分析
- 9回目 貧困と開発2 貧困とは何か
- 10回目 貧困と開発3 開発の理論と実践
- 11回目 紛争と正義1 映像分析
- 12回目 紛争と正義2 民族紛争と難民
- 13回目 紛争と正義3 紛争の原因
- 14回目 グローバル市民社会1 映像分析
- 15回目 グローバル市民社会2 メディアと監視

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

・予習を前提として授業が進むので、予習(文献をひととおり読んでおくこと)を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。

・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。

・ダウンロード入手した文献は、自宅でプリントアウトすること。情報センターでの印刷は、センターおよびセンター利用者の多大な迷惑になるので、禁止。

成績評価の方法

(1) 出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点(70%)とブック・レポート(30%)により評価。

※事前に必ず、課された文献を読んでくること。文献を読んできているかどうかは答案用紙によってすぐに区別がつかめますので、毎回出席していても文献を読んできていない場合には、不合格になります。

教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。

・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。

・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。

履修コード	433611
科目名	映像コミュニケーション実習
担当者名	<small>かたやま ともこ</small> 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要になってきました。本講義では、映像制作実践を通して、より良いメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、そして実技能力を身に付けることを目標とします。マスメディアが伝えられないような、身近な出来事、身近な人や活動、或いは社会的な問題などを、自分達の疑問・思い・考えをもとに独自の視点でとらえ、これを映像コンテンツとして加工して、社会に還元してゆくことは意義のあることです。映像コンテンツの制作過程において、さまざまな人たちとかがわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えたいことの難しさと面白さを経験して下さい。良い作品はCATVやウェブで配信していきます。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ。
主に基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックを学びます
- (2) 映像作品を読み解く
一般市民が制作した“よい映像作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する
少人数グループで、5～10分程度の映像作品を制作します。企画・構成・取材・撮影・編集といった映像制作過程を体験し、映像によるコミュニケーションを身につけます。

GMS

<授業スケジュール>

- 1回 ---- 映像コミュニケーションとは
- 2回 ---- 映像制作とは
- 3-5回 -- 映像制作プロジェクト企画・プレゼンテーション
- 6回 ---- 映像撮影の基本・機材の使い方・企画書の書き方
- 7回 ---- 撮影実習プロジェクト
- 8-9回 -- 編集機材の使い方・編集の基本
- 10回 ---- 実習作品発表
- 11-14回 -- 映像撮影・編集
- 15回 ---- 映像作品発表

履修上の留意点

単なる映像制作の技術習得ではなく、あくまでも映像を通してのコミュニケーションのあり方を体験的に学習することに主眼を置いています。映像コンテンツ制作は基本的にチームワークで行います。また、クラス授業時間外での作業がかなり必要になります。したがって、原則として欠席しないこと、授業外での作業を厭わないことが前提条件です。

8割出席が単位取得の条件となります。

また、履修者が定員(16名)を超えた場合は選考があります。

成績評価の方法
その他

授業参加、実習作品、自由作品

映像によるコミュニケーションに興味のある学生、また作品を最後まで仕上げる学生を望みます。映像制作技術の有無は全く問いません。

履修コード	433711
科目名	コンテンツデザイン各論
担当者名	高橋 克三 <small>たかはし かつぞう</small>

講義の到達目標(ねらい)

世界は小さく、よりシンプルになったと考えるか、いや、より複雑になったと考えるかは、その個人や企業がどこまでの広がりをもって世界と関わろうとしているかによる。

最初から世界全体と関わろうとしていた人や企業にとっては、現代の情報革命は、様々な障壁を取り除き、地球を小さく、シンプルにしてくれる魔法の杖の振りであったろう。しかし、この振りは、地域の自然や営みと深く関わり、穏やかに生きていこうとしていた人々にも否応無く大量な情報を伴った世界と直接対峙させることになった。

メディアを通して地球規模のサイズに拡張された人間と、田舎町の川のせせらぎや青空をよぎる白い雲の時空に生きる人間を比較すると、メディアが人間の想像力や価値観を規定していくことが十分に理解できるだろう。

しかし、世界は変わった、人間も変わるべきと単純には言えない。コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。エッジ)なもの両方から生まれるからである。コンテンツの根本には、幸せや感動があることは言うまでも無い。

このフラット化された世界の秩序をメディアの側面から読み解くとともに、自らの感性に依拠したコンテンツを自由に発信するための基礎となる知識と考え方を整理する。

- ・メディアはメッセージである。
- ・フラット化する世界。
- ・テレビ・音楽・映画のコンテンツ制作。
- ・地域から考える。

美術館、博物館、コミケなど東京が教材。

出席 40%、質疑応答など講義への参加度 20%、レポート提出 40%

『マクルーハン理論—電子メディアの可能性—』 マーシャル マクルーハン(著)、エドモンド カーペンター(著) 平凡社ライブラリー ¥1,260

『宇宙船地球号操縦マニュアル』 バックミンスター フラー(著) ちくま学芸文庫 ¥945

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

GMS

履修コード	433811
科目名	コンテンツデザイン演習
担当者名	高橋 克三 <small>たかはし かつぞう</small>

講義の到達目標(ねらい)

誰にでも小説が書けるし、見やすいデザインを作ることができる。言葉に文法があるように、表現には法則がある。小説、映画、アニメ、視覚的広告などを創造する上で使われている法則を学ぶことは、小説や美術の制作活動をしたことのない人たちが短期間でその創造力を磨くためには一番良い方法である。

人間の想像や物語は意外と類型的である。ウラジミール・プロップは、物語の構造を31のプロトタイプで説明できるとしたし、C.G. ユングは、世界の神話や昔話が似ていることから元型という概念を提出した。この普遍性の力を的確に使えば世界の人々を楽しませているのがハリウッド映画である。

しかし、コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル(辺境。今風に言うならエッジ)なもの両方から生まれる。

ブルース、タンゴ、ジャズ、ロック、レゲエ、ヒップホップなど、町の一角、それもけして上品なところではなく、悪場所的などで生まれた音楽が、なぜか世界性を獲得している。マージナルな力である。コンテンツの核心、表現と感動の関係を学ぶ。

自己を理解し、他者を認識するコミュニケーションの原則を演劇で体験した後、表現の普遍的な法則を学ぶ。創造性とマージナルな力との関係についても検証していく。

- ・演劇によるロールプレイング。
- ・物語の構造。
- ・ビジュアル・コミュニケーションの法則。
- ・学習障害者の作品の力。

写真や物語、コラージュ作品を制作する。技術力は問わない。発想力を評価する。

出席 40%

質疑応答など演習への参加度 20%

課題作品提出 40%

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法

教科書/テキスト

『キャラクター小説の作り方』 大塚 英志(著) 角川文庫 ¥660

『知の編集工学』 松岡 正剛(著) 朝日文庫 ¥672

『漢字—生い立ちとその背景』 白川 静(著) 岩波新書 ¥777

履修コード	434101
科目名	メディアとデータベース
担当者名	石橋 <small>いしばし なおき</small> 直樹

講義の到達目標(ねらい)

データベースは、コンピュータの記憶空間に散在する膨大なデータから情報検索者が適切なデータを容易に検索する機能を提供する。近年、インターネット、Webの目覚ましい発展により、広域ネットワークに多種多様なデジタルコンテンツが提供されるようになってきた。本講義では、データベースの基礎的な概念、構成を学ぶと同時に、広域ネットワーク上に散在するデジタルコンテンツをコンテキストや感性などを用いて検索可能とする将来のデータベース像についても言及する。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW 環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入 - データベースとは何か
2. リレーショナルデータベースの構造
3. リレーショナルデータベースの応用
4. リレーショナルデータベース実習
5. オブジェクト指向データベースの構造
6. マルチメディアデータベースと感性情報処理
7. データベース設計・構築実習
8. Web Database 事例1 - 掲示板の構築
9. Web Database 事例2 - サーチエンジンの構築
10. まとめ

履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであることに加え、コンピュータワークショップを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書/テキスト

Webにおいて電子教材を提供する。

参 考 書

講義中において教材を指定する。

そ の 他

本講義は、講義と実習を合わせた形式で行う。

GMS

履修コード	434201
科目名	コンテンツデザイン概論
担当者名	岡田 <small>おかだ ともひろ</small> 智博

講義の到達目標(ねらい)

これからコンテンツに関わる諸君に向けて、社会やビジネスとコンテンツを扱う人との間の関係やそれを取り巻く環境について基本的な理解を自身で行うための材料を提供したい。本講座を通じて、諸君がこれから経験していくことになるであろうダイナミズムに富んだコンテンツを取り巻く生々しい現実の中での処し方の「デザイン」をこの講座を通じて自身の手で組み立ててもらいたい。

講義の内容/
授業スケジュール

コンテンツを取り巻く現在進行中の事象やワークモデルの構造を論じてゆく。内容は諸君の理解度に応じて柔軟に変える。

履修上の留意点

講義において出てきた事象などで分からなかったり、触れたことの無いものであったら、必要な限り自身で体験し、自身の力で理解するトレーニングをしてもらいたい。

成績評価の方法

試験において、授業において思考するために提供した材料をもとに課題を提供する。課題に対する理解と思考力を成績評価の主たる判断材料とする。授業では随時、試験に準じたロールプレイを行い、諸君の学びのベンチマークとして考慮する。

教科書/テキスト

プリント等で随時提供する。

参 考 書

参考書を求めなくとも学べるよう設計するが、授業中にでた URL やイベント、コンテンツや書籍に対し、関心を持ったらなるべく目を通したり体験するように。

そ の 他

本講座は覚えるものではなく、理解し考えることに主眼を置いている。授業中においては記録することよりも、自身の方で理解し、考えることに注意を払ってもらいたい。

履修コード	434301
科目名	情報保護と社会
担当者名	石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

社会活動の全般的な情報化が進展するのにしたがって、情報の価値が増大している。小説、映画、音楽、コンピュータプログラム、データベース、マルチメディア情報等のように経済的価値がありしかも公開された情報については、著作権法等の知的財産権法による保護に適している。企業秘密やプライバシー情報のように経済的価値がありしかも非公開の情報についてはセキュリティ上の対策が必要になる。また、危険な情報から子供を守るための対策も必要となる。この科目では、日本の知的財産戦略および情報セキュリティ政策との関連を含め、情報保護のニーズとこれに対応する種々の社会的方策について考察する。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回 情報化社会における情報の価値とその保護の必要性
- 第2回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (1. 知的財産戦略)
- 第3回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (2. 著作権制度)
- 第4回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (3. 著作権保護技術)
- 第5回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (4. 産業財産権の保護と課題)
- 第6回 知的財産権の保護に関する政策と技術 (5. 営業秘密の保護と課題)
- 第7回 情報セキュリティに関する政策と技術 (1. 個人情報保護政策)
- 第8回 情報セキュリティに関する政策と技術 (2. 情報セキュリティ政策)
- 第9回 情報セキュリティに関する政策と技術 (3. 情報セキュリティ・マネジメント)
- 第10回 情報セキュリティに関する政策と技術 (4. 暗号技術)
- 第11回 情報セキュリティに関する政策と技術 (5. 情報セキュリティ技術の高度化と応用)
- 第12回 グローバル環境における情報保護の課題 (1. 国際機関の果たす役割)
- 第13回 グローバル環境における情報保護の課題 (2. 有害情報からの児童の保護)
- 第14回 グローバル環境における情報保護の課題 (3. 情報保護の新たな展望)
- 第15回 まとめ

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

特になし
情報リテラシー及び実習を履修済みであること。
次の2項目を総合して評価する。
1. 出席回数
2. 期末試験の成績
出席回数が不足すると単位が取得できないので注意すること。
授業の中で教科書を紹介する予定。
参考書 授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	434401
科目名	Eコマース論
担当者名	今村 誠

講義の到達目標(ねらい)

Eコマースの現状やしぐみを理解することにより、Eコマースシステムの利用・構築に必要な基礎知識を身につけるとともに、新たなネットビジネスのアイデアを自分で考えるための手がかりを得ることを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

インターネットの発達により、企業間、企業・消費者間のビジネスの形態が大きく変化した。本講義では、インターネットを用いたビジネスの取引形態、仕組み、情報システムなどについて解説する。特に、ネットビジネスの事例を通してさまざまなEコマースの形態を理解するとともに、課題や今後の発展形を学べるようにする。

履修上の留意点
成績評価の方法

インターネットの利用経験があることを前提条件とする。授業中の私語は厳禁とする。
レポート等を実施する(平均で60点以上を合格最低ラインとする)。なお、毎回出席をとり、70%以上の出席率を合格最低ラインとする。

教科書/テキスト

「IT Text (一般教育シリーズ) 情報システム基礎」オーム社、神沼靖子編著。必要に応じて資料を配布する。

参考書
その他

必要に応じて資料を配布する。
講義形式。外部講師による授業を盛り込む。

履修コード	434501
科目名	複合ドキュメント概論
担当者名	吉田 ^{よしだ} 尚史 ^{なおふみ}

講義の到達目標(ねらい)

多種多様なメディアをコンピュータ上で実際に実現可能な状況となり、今後、それらを組み合わせた複合ドキュメントを制作・編集・検索することが重要な技術となる。この講義では、それらを制作・編集・検索を行う要素技術として、XMLを作成および編集を行う方法論、XML対象とした検索の方法論、全文検索技術、ベクトル空間モデルなどについて実習を伴って学習する。また、複合ドキュメントを対象とした分析および可視化を行うためのデータマイニングの技術についても学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

第1週～第4週：複合ドキュメントに関する基礎的な技術

第1回：複合ドキュメントの導入，SIML: Synchronized Multimedia Integration Language

第2回：複合ドキュメントの分類，XML: eXtensible Markup Language

第3回：SGML(Standard Generalized Markup Language)とXML

第4回：デジタル放送における複合ドキュメント，集合論，線形代数

第5週～第8週：複合ドキュメントを対象とした検索技術・ベクトル空間モデルの技術

第5回：全文検索

第6回：マルチメディアデータの検索

第7回：メタデータ，MPEG-7

第8回：Question Answering，メタ検索エンジン

第9週～第13週：複合ドキュメントを対象とした分析および可視化によるデータマイニング技術

第9回：データマイニングの基礎，相関ルール抽出

第10回：時系列分析

第11回：可視化：Visualization

第12回：クラスタリングとクラシフィケーション

第13回：データマイニングの応用

第14～15週：レポート問題の発表およびレポートの解説

第14回：まとめ，レポート問題発表

第15回：レポート問題解説

履修上の留意点

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。

「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。

留学など履修計画に困難な場合を除き、なるべく3年次以降に履修の方が効率的である。

成績評価の方法

毎回の講義における出席、および、合計3回のレポートにより評価する。

(期末試験は行わない。)

教科書／テキスト

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

参 考 書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

そ の 他

本講義は、講義と各自のノートパソコンを用いた実習を併せた形式で行う。

関 連 リ ン ク

各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

GMS

履修コード	434601
科目名	教育環境とメディア
担当者名	^{さいとう} ^{のぶ} 斎藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

情報技術の進展は、人間の本質に深く関係する教育・学習の領域にも深い影響を与えてきた。これは、コンピュータが教育を支援するCAI (Computer Aided Instruction) という分野から始まり、多くの試行錯誤が試みられた。更に、近年ではインターネットの発達とネットワークの高速化により、遠隔地で学習するという e learning がこの主流となってきている。これは、従来の教育環境を大きく変化させ、大学教育にその学習の規程や教育方法の変更まで迫るような状況となっている。また、教育産業、教育ビジネスと言われるセクターに対しても、大きな影響を与え、様々な可能性をもたらすことになった。

ここでは、教育、学習という人間の本質に関わる活動を踏まえて、情報技術がどのように関連するのが良いのか、時代や技術の進展を見ながら考察する。また、インターネットという新しいメディアの時代にふさわしい e-learning について、その現状の課題、具体的な教育環境の例示、標準化の課題、実際の応用の例示、学習・教育への影響と効果、など、種々の事項について学ぶ。また、今後の教育環境のあり方を様々な方向から考察し、新しいメディアの時代にふさわしい教育の環境と方法論についてその方向性を示す。

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) 情報処理と教育環境の概要
- (2-3) e-learning の具体例とその使用体験演習
- (4-6) e-learning の標準化とその意義を SCORM を例として学ぶ。
- (7-10) LMS(Learning Management System) の位置づけとその役割を学ぶ。LMS の具体例 moodle とその機能例、教材作成システム (Authoring System) の具体例 eXe とその機能を学び、eXe を用いた教材作成の演習を行う。
- (11-12) e-learning の開発・運用プロセスのモデル、e-learning の専門家の育成モデルについて学ぶ。

履修上の留意点

- (13-15) 質の高い教材とその開発の演習、およびその発表を行う。
- LM Sとして moodle、教材作成システム (Authroing System) として eXe を使い、具体的なテーマに関する教材作成をグループ学習として行い、その発表を通して体験をする演習を行う。適宜課演習レポート、最終課題 (グループ発表) および出席状況から総合的に判定する。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

特に指定しない
講義の中で紹介していく
講義形式

GMS

履修コード	434701
科目名	Webコンテンツ
担当者名	さいとう のぶ 齋藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

Webは、高エネルギー物理学実験のデータ共有を簡単に行えるようにするという発想から生まれてきたインターネット上のハイパーテキストであり、そのキラアアプリケーションとして急速に普及した。これは様々な使い道があり、コミュニケーションスペース、知識の共有空間、オンラインビジネスやオンラインコミュニティのインフラ、共同作業の実践空間など、様々な方向へと発展的に利用されている。ここでは、その基本的な構造と機能をよく理解し、有効なグローバルメディア空間として活用していく方法について習得し、また、Webが持つ種々の課題について認識を高める。

具体的には、Webシステムの基本アーキテクチャの理解、Web関連のコンテンツを記述するXMLベースの種々の言語の理解、具体的な表示を修飾するスタイルシートとその記述言語CSSの理解、エージェントやアプリケーションを記述する言語JavaScriptとそのインターフェースの理解を進めていく。

具体的には、以下の項目に取り組んでいく。これらは、Web標準化の国際組織W3C (World Wide Web Consortium) の仕様に基づいて講義をすることを原則とする。

- (ア) Webシステムの機能と構造、動的な機能
- (イ) 情報記述言語XMLとその機能、関連言語の現状
- (ウ) 具体的表示の修飾を担うスタイルシートとその記述言語CSSの体系
- (エ) WEBアプリケーションとJavaScript言語
- (オ) アプリケーションの設計とAJAX
- (カ) Webの課題と将来の発展方向

講義の内容/
授業スケジュール

- (1) WEBの概要とその標準化の動向
- (2-6) HTML、CSS、XMLについて、その意味付け、相互関係などを学ぶ。
- (7-11) WEBとネットワークについて、学ぶ。具体的には、URI、HTTPとその機能、HTTPの拡張による機能追加などについて学ぶ。
- (12-14) WEBのアプリケーションの拡張を支援するCGI、Ajaxなどについて、その基本的機能を学ぶ。

履修上の留意点

(15) WEBの様々な応用と今後の諸課題
各種言語の習得には、演習的体験が必要であるので、適宜課題を与えて、実践的な体験を積めるようにしていく。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

適宜課外演習レポート、総合課題、および出席状況から総合的に判定する。
特に指定しない。
講義の中で適宜紹介する。
講義形式

履修コード	434711
科目名	イスラムと文化
担当者名	おくだ あつし 奥田 敦

講義の到達目標(ねらい)

イスラムについて、その教えの基本を念頭におきながら、さまざまな角度から紹介を行い、先入観や偏見にとらわれない、イスラムに対する包括的な理解を深めると同時に、グローバル化時代に生きる人間およびその社会にとって、あるいは現代の日本人および日本にとって、人類全体に向けられた教えとしてのイスラムの意義を探究していく。アラビア語の用語の紹介なども積極的に行ないたい。

講義の内容/
授業スケジュール

講義では、次のトピックを扱う扱う予定である。
①宗教と文化 ②アラビア語のススメ ③オリエンタリズムを越えて ④神はどこにいるのか ⑤イスラムとは ⑥報われるということ ⑦見えないものから発想する ⑧人はなぜラマダーンをするのか ⑨アレppo石鹸は語る ⑩イスラムにおける人と人権 ⑪ジハードはテロリズムか?
⑫イスラム社会の理想と現実 ⑬イスラム圏との文化交流 ⑭グローバル化時代のイスラム ⑮「大きなわれわれ」について

履修上の留意点
成績評価の方法

講義には必ず出席すること。授業中の私語と飲食は厳に慎むように。
講義内容に関するレポートと、出席の状況を中心に評価を行なう予定である。(場合によっては受講態度を考慮することがある)

教科書/テキスト
参考書

毎回レジュメを配布する。
奥田敦『イスラムの人権』慶應義塾大学出版会、2005年。その他については講義中に案内する。

履修コード	434721
科目名	キリスト教文化
担当者名	とよかわ しん 豊川 慎

講義の到達目標(ねらい)

本講義では文化を形成する力のひとつとしてのキリスト教を論じる。キリスト教は2000年以上の歴史の中で政治、経済、芸術、教育など多様な文化諸領域に関連し、自由、平等、人権、寛容などの思想や制度の発展に寄与してきた。本講義ではキリスト教の歴史と思想を概観しつつ、キリスト教と文化をめぐる諸課題を論じる。

講義の内容／
授業スケジュール

<講義キーワード>

古代キリスト教文化思想（アウグスティヌスのキリスト教思想）、中世キリスト教文化（修道院制度、キリスト教芸術など）、宗教改革の文化思想、プロテスタントイズムと職業観、宗教改革と活版印刷術、日本におけるキリスト教文化、キリスト教思想から考える戦争と平和、赦しと和解、キリスト教思想と人権、キリスト教における「愛」の思想、クリスマスの起源など

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

授業参加を重視する。単位修得には三分の二以上の出席。

授業ごとに書くコメントシート（40点）、レポート試験（60点）

教科書は使用しない、授業ごとに配布するレジュメに沿ってすすめる。

『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 その他の参考書は授業で指示する。

履修コード	434731
科目名	韓国の文化と社会 I
担当者名	わたなべ きさよん 渡辺 吉銘

講義の到達目標(ねらい)

「遠くて近い国」韓国の文化と社会について基礎的な知識を習得するとともにみずから隣国間の文化の架け橋になるように、能動的な文化実践者としての視座を養うことが本講義のねらいです。

講義の内容／
授業スケジュール

講義内容は大きくつぎのようなラインアップを考えています。4部構成からなります。

①紹介の部

現代文化事情、現代社会事情、名所めぐりと歴史、地域基本データー

②基底文化の部

ライフスタイルと冠婚葬祭、宗教、家族制度

③マスメディアの歴史とネット社会

④分断国家の文化・社会政策と価値変容

⑤日韓文化交流

⑥在日コリアン、在外コリアン

についていっしょに学んでいきたいと思っています。

準備学習
履修上の留意点

広くニュースなどの韓国に関する知識を蓄えること

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

①150名を上限に受講制限を行い、履修を認めます。詳細は学部 web ページで確認して下さい。

②授業中毎回意見を求められるので積極的な履修者向きです。

③授業中への参加、②小課題 ③期末テストによる総合評価です。

特に指定しません。

担当者下記の著書を読むことをおすすめします。

『朝鮮語のすすめ』（講談社現代新書）

『韓国言語風景』（岩波新書）

そ の 他

ことばが分かれば社会や文化がぐっと近く感じられます。毎回少しずつ固有名詞などを中心に言語学習も手伝っていきたくと思っています。

履修コード	434741
科目名	韓国の文化と社会Ⅱ
担当者名	わたなべ きろよん 渡辺 吉銘

講義の到達目標(ねらい)

グローバル社会の中での韓国や朝鮮半島の諸問題とどのように向き合えばよいのでしょうか。日本からの情報の受信・発信はどのように行えばよいのでしょうか。このような問題解決の一方法は、韓国社会の成り立ちやその中で蓄積されてきた人々の考え方、価値観について学び、知識を獲得することによって自分の見解を多様化・多層化していくことだと思います。

本講義のねらいは韓国社会・文化の歴史的展開のうえに成りたっている「現在」を学びながら隣国人として多角的な視座を身につけることです。

講義の内容/
授業スケジュール

各授業では毎回最低10人の人物・5つの出来事をピックアップ、具体的に学んでいきます。時系列に時代のうねりとなるようなトピックについて講義しますが、その時代を生きたさまざまな人々の声を感じられ、今日的な意味合いについていっしょに考えることができればと願っています。一学期を貫くテーマは次の6つにまとめられます。

- ①道別基本知識と広域市の特色
- ②朴チョンヒ政権—高度経済成長と反体制運動
- ③金大中政権—グローバル社会と南北関係
- ④ノムヒョン政権—市民パワーと格差是正のうねり
- ⑤李明ニョンバク政権—多様な韓国ブランドの世界化
- ⑥日本統治の現代的解釈—東アジア共同体と日韓交渉

準備学習
履修上の留意点

韓国に関する図書に関心を持ち、知識を蓄えて下さい。

- ①本講義は「韓国の文化と社会Ⅰ」の単位を修得済みまたは同時に履修することが望ましい。
- ②150名を上限に受講制限を行い、履修をみとめます。詳細は学部 web ページで確認して下さい。
- ③授業中毎回意見を求められるので積極的な履修者向きです。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

- ①授業中への参加、②小課題 ③期末テストによる総合評価です。
- 特に指定しません。
初回に紹介します。

GMS

履修コード	434751
科目名	国際法
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄

講義の到達目標(ねらい)

国際社会は、分権的な社会であり、統一政府などは存在しない。そのため、国際社会を規律するルールが複雑になっている。本講義では、その国際社会の基本的なルールの修得を目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：ガイダンス、第2回：国際法の成立と発展の歴史について、第3回：国際法について、第4～5回：国際法の主体について、第6～8回：国家とその権利義務について、第9～11回：国家領域とそれに対する権限について、第12回：国家の権限が及ばない領域について、第13～15回：海の制度について

履修上の留意点

国際法は、理解が難しいといわれている教科のひとつです。そのため、授業に確実に出席し、理解しようとする心がけるようにすること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

学期末の筆記試験のみによる。
『国際法入門 第二版』横田洋三編 有斐閣 2000円＋税 ISBN4-641-12248-2
出版社や年度は問わないが、『条約集』があれば便利である。

履修コード	434761
科目名	国際協手法
担当者名	やまむら つねお 山村 恒雄

講義の到達目標(ねらい)

今日では、国際関係が重要となっている。我々の日常生活で関係のある他国との協力関係を規律する基本的ルールについて学習することを目的とする。

講義の内容/
授業スケジュール

第1回：ガイダンス、第2～7回：政府開発援助大綱について、第8回：国際緊急援助隊について、第9～10回：国際緊急援助隊の派遣に関する法律について、第11回：国連平和維持活動について、第12～13回：国際連合平和維持活動等に対する協力に関する法律について、第14～15回：資金援助に関わる組織について

履修上の留意点

配布するプリントの該当部分に、授業前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。授業を受けても疑問点が解消しない場合は、授業後に質問すること。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

学期末試験だけで評価します。
とくに指定はしません。
授業中、必要に応じて指示します。

履修コード	434911
科目名	表象メディア論
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ならい) カルチュラル・スタディーズの入門講座です。メディア文化の現在を理解し、使いこなすための基本的な理論を紹介します。

この講座では、メディアによっていかにある事象の「意味」が構築され社会的に承認されるのかを、ソシュールの「差異」の理論、ロラン・バルトの「記号論」、アルチュセールの「イデオロギー論」、グラムシの「ヘゲモニー論」、フーコーの「力・知識・言説論」により説明します。

「文化」とは何か、我々の「文化」は我々といったどういう関係にあるのか？メディア文化産業が生産する表象 (representation) を分析し、より多様で豊かな文化状況を創り出すために必要な批判的態度を身につけます。

講義の内容／授業スケジュール 「文化」とは何か？
「我々」と我々の「文化」の関係は？
言葉の「意味」はいかにして伝わるのか？
「意味」はいかにして共有されるのか？
「文化」は誰が創り出すのか？
「我々」は何によって出来ているのか？

GMS

履修上の留意点 メディア&カルチュラル・スタディーズ(メディア文化研究)の基本的な文献を紹介し、テキスト分析の方法を紹介しします。

成績評価の方法 現代思想や、文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度すでに学んでいることが望ましい。

教科書/テキスト 授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末のレポートによって総合的に評価する。

参 考 書 教科書として指定はしませんが、この講義は、Stuart Hall (ed) (1997) Representation: Cultural Representation and Signifying Practices, London : Sage Publications を下敷きにしています。
グレアム・ターナー著、金智子他訳、『カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展』(1999) 作品社

履修コード	435011
科目名	映像産業論
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ならい) グローバリゼーションとは何か？経済のグローバル化は、日本の映像文化にどのような帰結をもたらしたのか？

映像コンテンツ産業の象徴的中核である映画産業のグローバル化の歴史をたどり、アメリカ大衆文化の世界的拡大とそれに伴う文化の画一化ならびに多様化の問題を検証します。19世紀末の映画伝来以来、日本の映画産業と文化は、いかに近代化、欧米化、グローバル化してきたのかを解き明かし、現代日本の文化状況を批判的に検証する教養を身につけます。

講義の内容／授業スケジュール アドルノ/ホーケイマーの「文化産業」論、ウォルター・ベンヤミンの「複製技術時代の芸術」論、シラーの「文化帝国主義批判」理論、アンソニー・ギデンスの「グローバリゼーション」理論等、メディア&カルチュラル・スタディーズ(メディア文化研究)の基本文献を紹介し、戦後から現在までの日本映画産業史を情報化・グローバル化の文脈において分析します。

準備学習 前期に「表象メディア論」を履修していることが望ましい。

履修上の留意点 現代思想や文化・社会理論に興味があり、社会科学の基礎をある程度すでに学んでいることが望ましい。

成績評価の方法 授業貢献度、毎週の小課題、中間および期末レポートの結果で総合的に評価する。

参 考 書 デビッド・ヘルド編「グローバル化とは何か」法律文化社 (2004)

ジョン・トムリンソン著、「グローバリゼーション：文化帝国主義を超えて」(2000) 青土社

グレアム・ターナー著、金智子他訳、『カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展』(1999) 作品社

履修コード	435101
科目名	放送メディア論
担当者名	増淵 敏之

講義の到達目標(ねらい)

放送メディアが誕生して以来、その影響力が大きくなるものになると共に、様々な形で社会システムにも変化を与えてきました。放送メディアの現在までを経年的に追いつながら、デジタル化を含めた今後のあり方についても考察していきます。

講義の内容／授業スケジュール

ガイダンス (1)、メディアとしての放送の特性 (2～3)、放送メディアの歴史 (4～6)、産業としての放送メディア (7～8)、ラジオメディア (9)、テレビメディア (10～11)、放送と通信の融合 (12)、まとめ (13)

履修上の留意点

放送メディアと社会の関わりは密接なものになっています。日常で放送メディアを客観的に捉える習慣を身につけて下さい。

成績評価の方法

学期末テストと出席状況により評価します。

教科書／テキスト

特にありません。レジュメ配布。

参 考 書

授業内で適宜紹介します。

履修コード	435201
科目名	音楽メディア論
担当者名	増淵 敏之

講義の到達目標(ねらい)

音楽メディアとして捉えていくためには音楽の持つ消費材としての側面と文化的財としての側面を見ていく必要があります。事例分析を通じて消費者受容の背景にある社会的変化について考察していきます。

講義の内容／授業スケジュール

メディアとしての音楽 (2～3)、音楽メディアの歴史 (4～6)、産業としての音楽メディア (7～8)、ヒットの事例分析 (9～11)、デジタル化による転換 (12)、まとめ (13)

履修上の留意点

ポピュラー音楽を中心に扱っていきます。自分の過去の音楽体験を整理しておいて下さい。

成績評価の方法

学期末レポートと出席状況により評価します。

教科書／テキスト

参考書『欲望の音楽—「趣味」の産業化プロセス』増淵敏之、法政大学出版局 (4月刊行予定)

参 考 書

授業内で適宜紹介します。

GMS

履修コード	436201
科目名	知的財産法／個人情報保護法
担当者名	新保 史生

講義の到達目標(ねらい)

ネットワーク社会の発達により、個人が情報発信の主体となる機会が増えるのと同時に、様々なコンテンツを利用することもできるようになっています。また、利便性の高いサービスの利用のために自分の個人情報を提供しなければならない場面も多くなっています。このように、ネットワーク社会はダイナミックに情報のやりとりが行われる社会であるため、そこで利用される情報の保護が重要な問題となっています。本講義では、ネットワーク社会における知的財産の保護と個人情報保護の問題を通して、情報の適正な取扱いと保護に必要な知識について講義します。

講義の内容／授業スケジュール

1. 知的財産制度の概要, 2. 著作権法, 3. 特許法, 4. 商標法、意匠法、実用新案法, 5. 不正競争防止法, 6. 個人情報保護制度の概要, 7. 諸外国の個人情報保護制度, 8. 個人情報保護とプライバシー保護の違い, 9. 個人情報保護法 (総論), 10. 個人情報保護法 (個人情報取扱事業者の義務), 11. 行政機関等個人情報保護法 (総論), 12. 行政機関等個人情報保護法 (行政機関、独立行政法人等の義務), 13. 地方自治体の個人情報保護条例, 14. 個人情報保護マネジメントシステム (JIS Q 15001), 15. 個人情報保護のための情報セキュリティ対策

成績評価の方法

講義の際の小テスト及び期末試験の成績によって評価します。

そ の 他

講義用資料は、グローバル・メディア・スタディーズ学部の授業支援システムにアップします。各自、アクセスをして確認してください。

履修コード	436301
科目名	メディア法
担当者名	<small>しんぼ むみお</small> 新保 史生

講義の到達目標(ねらい)

情報メディアに関する法体系と法的諸問題を総合的に学びます。社会の情報化とネットワーク化の進行は、電子商取引の普及をはじめとして産業構造のみならず社会生活に多大な変化をもたらしています。その一方で、ネットワーク社会では新たな問題が生じており、それらに対応するために様々な法整備が行われています。本講義では、情報メディアに関する法整備の現状から個別の法律について解説し、ネットワーク社会における法的諸問題への対応を具体例を踏まえて講義します。

講義の内容／
授業スケジュール

1. ネットワーク社会における法的諸問題の種類, 2. IT 関連の法整備の状況, 3. 違法情報・権利侵害情報・有害情報の実状と法的対応の現状, 4. 権利侵害情報への対応, 5. ネットワーク社会における知的財産権の侵害, 6. ネットワーク社会における名誉毀損・プライバシー侵害, 7. 違法情報への対応, 8. サイバー犯罪の実状と対策 (ネットワーク関連型犯罪), 9. サイバー犯罪の実状と対策 (ネットワーク利用型犯罪), 10. ネットワーク社会の安全性確保のための法制度, 11. 電子商取引の推進と規制のための法制度, 12. ネットワーク社会における個人情報の保護, 13. 情報セキュリティと法, 14. 行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用の推進, 15. 講義期間中に新たに制定された IT 関連の新法解説

成績評価の方法
その他

講義の際の小テスト及び期末試験の成績によって評価します。
講義用資料は、グローバル・メディア・スタディーズ学部の授業支援システムにアップします。各自、アクセスをして確認してください。

GMS

履修コード	436611
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン各論
担当者名	<small>いしはし なおき</small> 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、原理について学ぶ。実際には、マルチメディアデータのデザイン技法として、画像処理、イラスト描画、音楽データ作成法、アニメーション作成法等を概観する。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義は、Web コンテンツのデザインにおける基礎を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。

1. 導入・マルチメディアデータの基礎
2. ラスター画像における標準化、量子化
3. Adobe Photoshop を用いた画像の加工
4. Adobe Illustrator を用いたベクター画像の作成
5. 事例紹介：ロゴ・デザインに見る記号論
6. 音声の標準化、量子化
7. Digidesign ProTools を用いた音楽データ作成と圧縮
8. Adobe Flash を用いたベクターアニメーション
9. HTML、CSS、メタデータとマルチメディア
10. まとめ - デザインという行為とコンピュータ

履修上の留意点

コンピュータワークショップが履修済みであることが望ましい。また、マルチメディアコンテンツデザイン演習と同時履修であること。

成績評価の方法

レポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書／テキスト

Web において電子教材を提供する。

参考書

講義中において教材を指定する。

履修コード	436761
科目名	Webコンテンツデザイン各論
担当者名	吉田 ^{よこだ} 尚史 ^{なおふみ}

講義の到達目標(ねらい) 最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法などについて学ぶ。実際には、XHTML によるコンテンツの記述、CSS によるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVG などを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザエージェント側での高度な処理について学ぶ。また、動画画像や、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール 下記のスケジュールに沿って、主として理論を習得する。

第1週～第4週：導入と基礎となる学習

- World Wide Web 概要, 要素技術・原理
- XHTML と CSS
- SMIL と SVG の基礎
- ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクス

第5週～第8週：Web コンテンツ処理

- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成 (1)
- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成 (2)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成 (1)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成 (2)

第9週～第13週：Web コンテンツ応用

- JavaScript による動的 Web Page(1)
- JavaScript による動的 Web Page(2)
- Flash コンテンツ作成 (1)
- Flash コンテンツ作成 (2)
- Flash コンテンツ作成 (3)

第14～15週：まとめとレポート

- Web コンテンツデザインまとめ
- レポート出題・解説

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

履修上の留意点 「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること、「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。本講義の内容は、「Web コンテンツデザイン演習」と対応しているので、「Web コンテンツデザイン演習」と同時に履修すること。

オープンソースソフトウェア / フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆる Windows 環境のみで動作するソフトウェアを用いる。

成績評価の方法 講義における出席、最終レポートにより評価する。

(期末試験は行わない。)

教科書／テキスト GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

参 考 書 講義中あるいは教材中に適宜指示する。

関 連 リ ン ク <https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

GMS

履修コード	436771
科目名	マルチメディアコンテンツデザイン演習
担当者名	石橋 ^{いしばし} 直樹 ^{なおき}

講義の到達目標(ねらい)	最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成する過程を実習する。実際には、多様なマルチメディア作成ソフトウェアを利用し、Web サイトの構築を行う。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツに関する実習を行う。
講義の内容／ 授業スケジュール	本講義は、Web コンテンツのデザインに関する技法の習得を目的として、履修者各自に対して製作を課す。なお、スケジュールは以下のものを予定している。 1. 導入 - マルチメディアデータと Web デザイン 2. 演習1 - HTML,CSS を用いたデザイン技法 3. 演習2 - ラスター画像処理と Web デザイン 4. 演習3 - ベクター画像処理と Web デザイン 5. 演習4 - 音声処理と Web デザイン 6. 演習5 - アニメーション作成と Web デザイン 7. 演習6 - サーバサイドスクリプトと Web デザイン
履修上の留意点	コンピュータワークショップが履修済みであることが望ましい。また、マルチメディアコンテンツデザイン各論と同時履修であること。
成績評価の方法	期末までに構築する作品、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。
教科書／テキスト	Web において電子教材を提供する。
参 考 書	講義中において教材を指定する。

GMS

履修コード	436781
科目名	Webコンテンツデザイン演習
担当者名	<small>よしだ なつみ</small> 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい) 最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツの制作を実践し、デザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法など各論 I で得た知識を確実なものとする。XHTML によるコンテンツの記述、CSS によるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVG などを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理を用いて、Web ページの作成実践を行う。また、動画像の制作実践、携帯電話その他の機器用の Web コンテンツの制作実践も行う。

講義の内容 / 授業スケジュール 下記のスケジュールに沿って、主として実習によりコンテンツデザインの実際を学ぶ。

第1週～第4週：導入と基礎となる学習

- World Wide Web 概要、要素技術・原理
- XHTML と CSS
- SMIL と SVG の基礎
- ビットマップ・グラフィクスとベクター・グラフィクス

第5週～第8週：Web コンテンツ処理

- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成 (1)
- Inkscape によるベクター・グラフィクス作成 (2)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成 (1)
- GIMP によるビットマップ・グラフィクス作成 (2)

第9週～第13週：Web コンテンツ応用

- JavaScript による動的 Web Page(1)
- JavaScript による動的 Web Page(2)
- Flash コンテンツ作成 (1)
- Flash コンテンツ作成 (2)
- Flash コンテンツ作成 (3)

第14～15週：まとめとレポート

- Web コンテンツデザインまとめ
- レポート出題・解説

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

「情報リテラシー」および「情報リテラシー実習」を履修済みであること。

「インターネットとメディア」を履修済みであることが望ましい。

本講義の内容は、「Web コンテンツデザイン各論」と対応しているので、

「Web コンテンツデザイン各論」と同時に履修すること。

履修上の留意点

オープンソースソフトウェア / フリーソフトウェアを活用して授業を行うので、各自のパソコンを用意の上授業に臨むこと。一部、いわゆる Windows 環境のみで動作するソフトウェアを用いる。

成績評価の方法

講義における課題、最終レポート(作品・コンテンツ)により評価する。

(期末試験は行わない。)

教科書 / テキスト

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定し、教科書とする。

参考書

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

関連リンク

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

GMS

履修コード	436801
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅲ
担当者名	斎藤 信男・石川 憲洋・石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、メディアとインターネットの新しい時代のビジネスの本質を実践的な成功例と共に習得することを目的とする。特に、メディアを活用したビジネスを支える中核の技術としてメディア技術、システムソフトウェア、インターネット、セキュリティ、データベース、知的財産権などについてビジネスの視点から学び、同時に、グローバルなビジネスの創出・起業の基礎を技術的な視点から学習する。本講義では、ビジネスにおける成功者からのゲスト講演を交えて行う。また、実践的なビジネスについてケーススタディーにより習得する。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、半期15回、各回の内容は次のとおりである。順序については変更される場合がある。

●インターネットビジネス1、2&3

サーチエンジン、ソーシャルネットワークなどのインターネット上のビジネスを起業、運営する方々をお招きし、それらの体験について議論する。

●IT・通信系ビジネス1&2

IT・メディアには通信は必要不可欠であり、通信会社・インターネットプロバイダなどの企業の方々に講演頂き、そのビジネスモデル、運営などについて議論する。

●著作権ビジネス1、2&3

社会的に重要な著作権について、それを管理する立場、それを利用してビジネスする立場、様々な方に講演して頂き、多角的な視点から議論する。

●ゲームコンテンツ・ソフトウェアビジネス1&2

ゲームコンテンツや、ソフトウェアを扱うビジネスについて、実際に携わっておられる様々な方に講演して頂き、議論する。

●環境・メディア・金融系ビジネス1、2&3

環境問題を取り上げるメディアや公的組織の方々から講演を頂き、環境問題とビジネスの現状について議論する。また、ネットワーク時代の金融ビジネスの課題を知る。

●IT・メディア系研究とビジネス1&2

IT・メディア系の研究所の方々をお招きし、ビジネスと研究の接点、あるいは企業と大学の接点などについてお話し頂く。

以上、最大15人のゲストスピーカーの講義により、実践的なビジネスについて習得する。

ゲストスピーカーに関する最新情報は、GMS 授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点

教場の座席に空きがある限り、すなわち履修者の妨げにならない限り、履修者以外の学生の聴講を可能とする場合がある。

成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書

毎回の講義における出席、期末レポートにより評価する。

GMS 授業支援システムおよび WWW 上に教材を設定する。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修コード	436901
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅳ
担当者名	福家 秀紀・西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドインターネットの普及に伴って急速に進展している通信放送の融合を踏まえて、電気通信事業者、放送事業者、ISP、およびコンテンツ事業者などがどのような事業展開を図っているのかを、各業界の専門家を招聘して講義して頂き、現状と課題について説明を図ります。具体的には以下の通り計画します。

講義の内容／
授業スケジュール

- 1 ガイダンス
- 2 固定電気通信事業の現状と課題
- 3 携帯電話事業の現状と課題
- 4 インターネット事業の現状と課題
- 5 インターネットと本人確認
- 6 法人向け情報通信事業の動向
- 7 放送事業者のインターネットへの取り組み
- 8 ケーブルテレビの現状と課題
- 9 コンテンツビジネスの現状と課題
- 10 NGN (Next Generation Network) の意義
- 11 まとめ

準備学習
履修上の留意点

授業に臨むに当たっては、事前に各業界の現状を把握しておいて下さい。

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一貫したメッセージを学び取るためには、毎回の出席を重視します。

なお、授業の最後に、質疑応答の時間を取りますので、積極的に質問を用意して下さい。

また、講師は一流企業の幹部なので、遅刻をしない、私語は慎むなどの基本的なマナーを遵守して下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト
参 考 書

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

特に指定しません。

講義の中で、適宜指示します。

履修コード	437501
科目名	海外演習実践講座Ⅰ
担当者名	杉森 建太郎・アッシュエル、T.・町田 尚子・モエ、R. A.

講義の到達目標(ねらい)

海外留学や海外滞在などが第1回目の学生は、必ずこの講座に履修届けを提出すること。さて、この講義では3つのタイプに分けて大筋を説明したい。不明な点は担当教員に確かめて欲しい。

①半年以上一年未満の長期海外留学。公費留学と認定校留学と2種類ある。なお、習得してきた単位については、そのまま認められる場合と海外演習として認められる場合がある。

②半年未満の短期留学。なお、この中には国際センター主催の短期留学セミナーも含まれる。大筋は、長期海外留学と同じである。

③海外渡航目的が、長期・短期留学以外のケース。例えば、海外インターンシップ・海外ボランティア・海外ワークショップ参加などが含まれる。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員などと相談していただきたい。

講義の内容／
授業スケジュール

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座Ⅰ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

履修上の留意点

年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証(又はコピー)が必要である。

成績評価の方法

担当教員と相談して「海外演習実践講座Ⅰ報告書」を作成し、帰国後2週間以内に担当教員に提出。海外留学の場合は、成績認定は、この報告書とともに、留学先からの成績評価資料及び事前、事後の指導における評価をもとに行う。また、留学以外の場合は、所属先ないし受け入れ団体から正式の修了証書を添える必要がある。

教科書／テキスト
参 考 書

指定しない。

適宜資料を紹介する。

履修コード	437601
科目名	海外演習実践講座Ⅱ
担当者名	杉森 建太郎・金山 智子・川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい)

海外留学や海外滞在などが第2回目の学生は、必ずこの講座に履修届けを提出すること。さて、この講義では3つのタイプに分けて大筋を説明したい。不明な点は担当教員に確かめて欲しい。

①半年以上一年未満の長期海外留学。公費留学と認定校留学と2種類ある。なお、習得してきた単位については、そのまま認められる場合と海外演習として認められる場合がある。

②半年未満の短期留学。なお、この中には国際センター主催の短期留学セミナーも含まれる。大筋は、長期海外留学と同じである。

③海外渡航目的が、長期・短期留学以外のケース。例えば、海外インターンシップ・海外ボランティア・海外ワークショップ参加などが含まれる。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員などと相談していただきたい。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座Ⅱ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証(又はコピー)が必要である。

GMS 成績評価の方法

担当教員と相談したうえで、詳細な「海外演習実践講座Ⅱ報告書」を作成し、帰国後2週間以内に担当教員に提出。海外留学の場合は、成績認定は、この報告書とともに、留学先からの成績評価資料及び事前、事後の指導における評価をもとに行う。また、留学以外の場合は、所属先ないし受け入れ団体から正式の修了証書を添える必要がある。

教科書/テキスト
参 考 書

指定しない。
適宜資料を紹介する。

履修コード	437701
科目名	海外演習実践講座Ⅲ
担当者名	杉森 建太郎・各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

海外留学や海外滞在などが第3回目の学生は、必ずこの講座に履修届けを提出すること。

さて、この講義では3つのタイプに分けて大筋を説明したい。不明な点は担当教員に確かめて欲しい。

①半年以上一年未満の長期海外留学。公費留学と認定校留学と2種類ある。なお、習得してきた単位については、そのまま認められる場合と海外演習として認められる場合がある。

②半年未満の短期留学。なお、この中には国際センター主催の短期留学セミナーも含まれる。大筋は、長期海外留学と同じである。

③海外渡航目的が、長期・短期留学以外のケース。例えば、海外インターンシップ・海外ボランティア・海外ワークショップ参加などが含まれる。

なお、平成21年度以前入学の学生については、場合によっては、これに当てはまらない場合もあるので、担当教員などと相談していただきたい。

講義の内容/
授業スケジュール
履修上の留意点

渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、「海外演習実践講座Ⅲ報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。

年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証(又はコピー)が必要である。

成績評価の方法

担当教員と相談したうえで、詳細な「海外演習実践講座Ⅲ報告書」を作成し、帰国後2週間以内に担当教員に提出。海外留学の場合は、成績認定は、この報告書とともに、留学先からの成績評価資料及び事前、事後の指導における評価をもとに行う。また、留学以外の場合は、所属先ないし受け入れ団体から正式の修了証書を添える必要がある。

教科書/テキスト
参 考 書

指定しない。
適宜資料を紹介する。

履修コード	441001・441051
科目名	Integrated English I
担当者名	ダーリン、 M.

講義の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> Develop a greater awareness and understanding of issues affecting these regions as presented by various forms of English media Learn to critically analyze issues, form opinions, and present solutions to conflicts <p>Students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> develop English language proficiency in the four basic skills learn the skills required to lead and fully participate in group discussions gain experience making effective presentations be encouraged to become autonomous learners by having input into class content and taking responsibility for their own learning
講義の内容／授業スケジュール	<p>geography/religion/human rights: (1 - 3) conflict & security (4-10) American bases in Japan Japan & South Korea - Takeshima Japan & China - textbook issue Japan & North Korea - abductees North Korea - nuclear missiles Pakistan & India - Kashmir issue</p> <p>poverty & wealth gap (11-16) child labor - Philippines sweat shops - India human trafficking</p> <p>human rights (17-23) indigenous populations - Australia & New Zealand Aung San Suu Kyi (Myanmar) Dalai Lama - Tibet media censorship (China) honor killings - Pakistan</p> <p>Presentations (24-28) Working with a partner or in a small group, students will research a conflict or problem they have studied in class. Grading will be based on the depth of research, understanding of the issues and their recommended solutions.</p>
準備学習	Students are expected to come to class with a basic knowledge of the countries and issues in these regions
履修上の留意点	<p>The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. Students committed to developing their English language skills and possessing an interest in Asia and Oceania are encouraged to join the class.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.</p>
成績評価の方法	<p>Evaluation will consist of:</p> <ul style="list-style-type: none"> Participation, effort and attitude in class (50%) Individual reports prepared for class discussions (30%) Group project & presentation (20%)
教科書／テキスト	Textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and posted on a dedicated website.
参考書	An up-to-date English-English learner's dictionary is highly recommended.
その他	Students are required to have a notebook.

GMS

履修コード	441101・441151
科目名	Integrated English II
担当者名	ゴールド、 F.

講義の到達目標(ねらい)

- Develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary North American, Central American and South American affairs.
- Grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video and print) and discussing the findings.
- Build knowledge of and interest in the Americas.

講義の内容／
授業スケジュール

- In addition, students will:
learn the skills required to fully participate in and run discussions
gain experience making effective presentations
- An Introduction to the Americas: geography/history/ politics (1-3)
- Issues in North America: (4-10)
The USA/Mexico border and Illegal Immigrants
What is western “democracy” ?
Canada’s French population
(Other topics to be decided)
- Issues in Central America and the Caribbean: (11-16)
The Panama Canal
The Cuba Embargo
(Other topics to be decided)
- Issues in South America: (17-22)
The Drug Trade
Venezuela’s relationship with America
Brazil’s Alternative Fuel Source
Deforestation in South America
(Other topics to be decided)
- Final Presentations (23-28)
Students will be assigned final pair presentations on an important issue in a North/South/Central American country assigned by the teacher. These final presentations will be graded on research, English usage and presentation skills.

GMS

Topics are subject to change as current events unfold in the Americas. Students may also have a say in regional topics focused on in class.

Students are expected to submit regular homework assignments online. These assignments will consist of answering questions that show the students understand the topics discussed in class and can offer critical analysis. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.

準備学習
履修上の留意点

Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.

Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.

More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.

成績評価の方法

Evaluations will be based on:

- Homework assignments (50%)
- Quizzes and Group projects (30%)
- Final presentation (20%)

教科書／テキスト

Textbook not required. Material provided by instructor and posted on a dedicated website.

履修コード	441201・441251
科目名	Integrated English III
担当者名	ギャリソン、 E.・オーラ、 B.

講義の到達目標(わらい)

Regional Studies III: Europe and Russia

- Build knowledge of and interest in a particular region of the world through an analysis of the way the region is represented in the media, both domestic—insofar as English-language media are available, and foreign
- Develop the ability to engage in research into the countries and media of a region using English sources and materials
- Develop communicative competence: the ability to communicate with clarity, relevance, accuracy and variety in both written and oral form. To this end an online discussion board format will be utilized weekly for students and instructor alike to post material or questions—in either written or audio format, complete, submit, comment upon and discuss assignments.

Students will:

- develop English language proficiency in the four macro skills: listening, speaking, reading and writing
- develop the ability to use language and experience acquired in the class to respond to new material and new situations
- develop critical skills: to be able to scan, filter and analyze different forms of information in English
- develop cross-cultural awareness
- gain experience making effective presentations
- learn the skills required to fully participate in and run discussions

講義の内容/
授業スケジュール

Students will watch, listen to and read English-language media related to Europe and Russia in order to analyze and discuss the content. Subjects of inquiry shall include but are not limited to: 1) Economy & Immigrant Labor, 2) Regional Politics, 3) International Relations, 4) freedom of the Press, and 5) Culture & Society with special attention to the global ramifications of events in the region. Emphasis will be given topic-specific vocabulary acquisition and its use in progressively more demanding conversational situations. Students are expected to produce brief but regular written and/or oral reports that will serve as the basis for classroom. Students will also be required to work on a special group project examining in greater depth a country or issue of interest.

GMS

Module 1: Europe. Intro: Countries of the region. Classes 1&2

Country geography and profiles: Students select country/countries they want to concentrate on for individual/group presentations.

Module 2: EU and non-EU European countries. Classes 3-10

EU and NATO

UK and EU

Spain and North African immigration

France: Cultural integration: Muslims in France

Italy: Berlusconi and the Press

Germany: Problems of Unification

New EU Members (former republics of the Soviet Union)

Module 3: Russia: Russia and the EU: Gas and Oil Dependence.

Classes 11 & 12

Module 4: Russia continued. Classes 13-20

Leaders and politics

The State vs. the Media: Murder in the Streets of Moscow

Foreign affairs: Russia and the former Soviet Republics

(Baltic States & Georgia)

Georgia: 2007 conflict and it' s impact on EU-Russia relationship

Module 5: Japan and Eurasia. Classes 21-28

Russia and Japan:

The Kuril Islands Dispute

Japanese used cars in Vladivostok

Europe and Japan:

Students supply topics and present them in short 5-10 min presentation

準備学習	Module 6: Final presentations. Classes 29 & 30 Students are expected to come to class with knowledge of basic country facts: population, territory, neighboring countries, and political leaders.
履修上の留意点	The course will be taught in English and students are expected to participate in English at all times. As this is an elective course for sophomores and above, students committed to developing their English language skills are encouraged to join the class. Attendance is essential and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than ten minutes count as one absence.
成績評価の方法	Evaluation based on: Class and discussion board participation and short reports 40% Midterm: Europe 20% Final exam: Russia 20% Final multimedia presentation: 20%
教科書/テキスト	Purchase of a textbook is not required. Materials will be provided by the instructor and by the students themselves.
参考書 その他	An up-to-date English electronic learner's dictionary is recommended. Students need a notebook to keep vocabulary and country facts.

GMS

履修コード	441301
科目名	Integrated English IV
担当者名	ギャリソン、 J. G.

講義の到達目標(ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> • Develop language proficiency in the expressive skills by inquiry, analysis and discussion of contemporary African and Middle Eastern affairs • Grow the ability to identify and analyze issues by engaging in research using English sources and materials (video, audio, & print) and discussing the findings • Build knowledge of and interest in Africa and the Middle East <p>In addition, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> • learn skills required to fully participate in and run discussions • gain experience making effective presentations
講義の内容/ 授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> • geography/ethnography/colonization/independence: (1回—4回) • business & economics: (5回—10回) The Trans-Saharan Pipeline (AFRICA) The Tunnels of Gaza (MIDDLE EAST) The Saharan Salt Trade (AFRICA) Ugandans in Iraq (AFRICA & MIDDLE EAST) • domestic politics & international issues: (11回—16回) Piracy, Somalia & Nigeria (AFRICA & MIDDLE EAST) Slavery & Human Trafficking in Malawi & Marutania (AFRICA) • media & technology: (17回—22回) Islamist TV—Al-Aqsa’ s Mickey Mouse Look Alike (MIDDLE EAST) Neda Soltan & the Iranian election of 2009 (MIDDLE EAST) Al-Alam Goes Off the Air (MIDDLE EAST) • culture & social trends: (23回—28回) Nigeria’ s Film Industry: Nollywood (AFRICA) Video: Islam on the March (REGIONAL)/The 99 Heroes of Islam The Diaspora: Bob Marley: “Africa Unite” (AFRICA)

GMS

準備学習 履修上の留意点	<p>Students are expected to produce brief written reports and presentations that will serve as the basis for discussion. Students are also required to work on a special group project examining in greater depth an issue of interest and how it affects the global community of nations.</p> <p>Students should familiarize themselves with the current affairs of the region.</p> <p>Course taught in English. Students are expected to participate in English. Those committed to developing their English skills are encouraged to join.</p> <p>Attendance is essential and punctuality is expected. Students are responsible for completing all work assigned.</p> <p>More than three unexcused absences during a semester will incur a penalty in the final grade. Two tardies of more than 10 minutes counted as one absence.</p>
成績評価の方法	<p>Evaluations will be based on:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Preparation for and participation in class (50%) • Individual reports prepared for discussion and presentation (25%) • Group project (25%)
教科書/テキスト	Textbook not required. Material provided by instructor and posted on Moodle or a dedicated website on the GMS server.
参考書	An up-to-date English-English learner’ s dictionary is highly recommended.

履修コード	441401
科目名	Integrated English V
担当者名	スメザム、 M.

講義の到達目標(わらい) Internet - Evolution.

This course centers on the development of reading strategies and skills students require to extract both literal and inferential information from short and mid-length English texts for use in organized assessed classroom speeches and / or discussion. An online discussion forum, also part of the assessment will be used for out of classroom discussions. Topics covered by the texts are Internet historical-related media issues from the Internet beginnings of Arpanet to the present day.

The reading element is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time developing class learned research skills via extraction of pertinent information for use in classroom speeches and discussions. The speech element focuses on delivering research findings in a logical manner. The discussion element focuses on defending research findings. The online discussion forum, used out of classroom will encourage the expression of written opinions.

講義の内容／
授業スケジュール

For the reading element of the course, students will be directed to web pages in advance and will be expected to prepare for the tasks which are assigned for the following class speech or discussion. Occasionally, class time will be spent performing the assigned tasks and working on the specific skills and strategies which are necessary for the completion of subsequent tasks. Time will also be spent by the teacher monitoring progress and contributions by the students to the online discussion forum.

GMS

The course is split into four sections:

- Humans start to communicate using computers.
- A history of not being able to find information.
- The Internet gets crowded - With too much information.
- Internet V2.0 - Mass media, mass produced.

準備学習
履修上の留意点

Read Internet articles about the evolution of the Internet.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence" .

成績評価の方法

Understanding of the preparatory material needed to perform the speaking and discussion assignments will be evaluated on a per assignment basis. The final grade for the course will be based on students' performance (a) during assignments and (b) contributions to the online discussion community.

Assignment are worth 50% of the final grade. The contributions to the online discussion community are worth 50% of the final grade.

教科書／テキスト

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves. The online discussion forum is restricted, and only for use by students registered on this course.

参 考 書

A note-pc with an Internet connection. An installation of the OpenOfficeOrg suite of programs, using the English Language option for spelling, grammar and thesaurus.

そ の 他

Class size limited to 28.

履修コード	441501
科目名	Integrated English VI
担当者名	モハメッド、 G.

講義の到達目標(ねらい) This course will focus on representation and meaning of global media texts and images. By looking at recent events, the students will be expected to reflect on how they are framed by news organizations, what meaning the audience takes from them and, how they are formed into the current global narrative.

講義の内容／
授業スケジュール Later in the course, media producers will come under the spotlight, and students will be able to debate the relevancy and legitimacy of these organizations in the modern age. Issues of representation and media bias will form the central themes of this course.

Students will be able to understand how objectivity (or lack thereof) defines our reality in a world dominated by the global news media empires. It is how this global narrative is shaped by these organizations that should interest the students. In addition, students will also be exposed to alternative media, mostly featured online, and they will have the opportunity to contrast and compare with mainstream texts and praxis.

The majority of class materials will be sent to students by email. The materials will be designed to develop critical thinking skills and will enhance students' ability to interpret the information allowing them a wider understanding of the issues raised.

GMS

The class schedule will be as follows:

- Week 1: Introduction and Guidance
- Week 2: Interpreting the News: Framing and Context
- Week 3: Social & Political Protest
- Week 4: Current Global Crises
- Week 5: Perpetuating Fear
- Week 6: Religious Fundamentalism
- Week 7: Election Campaigns
- Week 8: Sport as Business
- Week 9: Food Scares
- Week 10: Hollywood
- Week 11: Fashion and Advertising
- Week 12: Financial Meltdown
- Week 13: Project Work
- Week 14: PRESENTATIONS

履修上の留意点 Students should learn to independently record new vocabulary and expressions. Attendance is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence" . Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.

成績評価の方法 Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade.

- Attendance 20%
- Research & Preparation 10%
- Quizzes % Discussions 30%
- Final Project 40%

教科書／テキスト None. . All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be exposed to mainstream media texts as well as alternative materials mostly featured online. In addition to classroom exercises, discussions and group work students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher.

参 考 書 A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.

そ の 他 Students may contact the teacher by e-mail: gamalamohamed@hotmail.com

履修コード	441601
科目名	Integrated English VII
担当者名	スメザム、 M.

講義の到達目標(ねらい) Internet - Business.

This course acts as an introduction to an English language business environment, conducted using Western Business practices. No inference is made regarding whether Western Business Practices are better than Japanese Business Practices. Small group projects will use business practices introduced in class to start-up and develop a small English Language media based website (Audio, Video, Hobby Blog, Community).

講義の内容/
授業スケジュール

The project element of the course will give experience of Western Business Practices, help develop confidence giving presentations and contribute to business English vocabulary acquisition.

For the project component of the course, students are expected to demonstrate their contribution to the progress of the project during both class time and assigned presentations. Student groups will develop small English Language media based websites while learning Western Business practices.

準備学習

While programming is not a major feature of this course, previous programming skills are an advantage, but not essential.

履修上の留意点

As with business, attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法

For the small project component of the course, performance of the tasks and completion of the preparatory work needed to perform the tasks will be evaluated on an as required basis:

- Initial Project Presentation.
- Final Project Presentation.
- Marketing Project Presentation, as if to an external English Speaking client.
- Group Communications during the project.

The final grade for this course will be based principally on students' performance in the three presentations and contributions to the project via English communications between project members. Each of the four criteria above are worth 25%.

教科書/テキスト

None, although the student may use their own media production software. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参考書

A USB Stick - Minimum 4Gig, to be used only for this course. An internet accessible note-pc. Students may use their own media production software (audio, video), but they must be familiar with its operation. Due to the plethora of available media production software titles, only techniques that are common to the majority of video and audio production software will be taught.

その他

Class size limited to 28.

GMS

履修コード	441701
科目名	Integrated English VIII
担当者名	モハメッド、 G.

講義の到達目標(ねらい) This course will look at the impact advertising has on our lives. Students will be expected to analyze images and texts in order to understand how messages are conveyed through advertising and for what purpose. The students will analyze advertisements in a variety of media settings including: magazines, the Internet, television and newspapers.

講義の内容／
授業スケジュール During the second part of the course, we will look at how some real campaigns allowed companies to define (or in a few cases redefine) themselves in the global or local markets. Students will be able to develop their language ability and broaden their vocabulary repertoire through their exposure to English language advertising. Furthermore, it is expected that students develop their critical thinking ability through the analysis of the advertising business.

Students should learn to be culturally aware when viewing materials and be willing to conduct independent research in order to maximize their understanding.

The class schedule will be as follows:

- Week 1: Introduction and guidance
- Week 2: What is advertising? (Background and examples)
- Week 3: Advertising is everywhere (Relationships between the Media and advertising)
- Week 4: Images and slogans (Meaning and purpose)
- Week 5: Coca-Cola (Americana goes global)
- Week 6: Benetton (Social awareness campaigns)
- Week 7: Nike (Celebrity sponsorship and impact)
- Week 8: MacDonal’ s (Strategies for surviving a backlash)
- Week 9: Commercial appeal (structure and style in commercials)
- Week 10: Controversy and shock value (breaking taboos)
- Week 11 Spoof campaigns
- Week 12: Audience and demographics
- Week 13: Project Work
- Week 14 PRESENTATIONS

GMS

履修上の留意点 Students will be expected to create their own advertising project to be presented to their peers at the end of the course. The topic for this will be decided between the teacher and students during the second half of the course.

Attendance is essential and punctuality is expected. Should the student be late or absent, the student should notify the instructor as soon as possible. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade. If you are late, this counts as “half an absence” . Any student missing more than 6 classes will lose the chance to take the final project.

成績評価の方法 Students will be evaluated on: Attendance, Research and Preparation, Final Project. In addition to the above, there will be regular quizzes and discussion activities, which will also contribute to your final grade.

教科書／テキスト Attendance 20%
Research & Preparation 10%
Quizzes % Discussions 30%
Final Project 40%

None. . All materials for this course will be provided by the teacher and will be made available online. Materials will include: texts, images and video clips. Students will be expected to carry out independent research in addition to some pre-class reading assignments. Finally, students will be expected to prepare a presentation at the end of the course on any topic agreed on with the teacher.

参 考 書 A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. In addition, should the computer lab be unavailable, a laptop may be necessary. Students should also have a notebook handy for new vocabulary and expressions and make sure they add new items regularly.

そ の 他 Students may contact the teacher by e-mail: gamalamohamed@hotmail.com

履修コード	442201
科目名	Honors English Seminar I
担当者名	アッシュウェル、 T.

講義の到達目標(わらい)

'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language. Participation in Honors English begins at level 1 and is restricted to sophomores and above who satisfy the following criteria:

- Successful completion of the Freshman English Cycle and
- Cumulative GPA in all English courses of 3.5 or
- TOEFL (or TOEFL ITP) score of 450 or
- Permission of the GMS English Group, upon petition

In a class of peers with similarly high English language proficiency levels, the aim of the course is to encourage students to develop as effective users of English faster and further than they might otherwise do in regular classes. Students will be expected to take on the responsibility needed if they are to develop into life-long learners and users of the language. The expectation is that students who enter Honors English Seminar 1 will continue to take Honors English for the entire three-year cycle.

講義の内容/
授業スケジュール

There are two main content components to the course and two subsidiary components. The first main content component will be a theme around which students can research, discuss and present issues of interest through English. As an example, the theme could be 'The UK through its films' which would be an opportunity for students to gain an understanding of present day UK society by studying UK films since 1945 while developing the English language skills needed to engage with this content. The actual theme will be decided through negotiation during the first two weeks of the semester.

GMS

The second main content component will be your own individual study projects which you are working on in your seminar (演習) classes leading towards the eventual production of your graduation thesis. In this course, you will research, present, discuss and write about your project, but all in English. The ultimate aim is that some of you may, in consultation with your seminar teacher, write your graduation thesis in English with the support of your HES teacher. However, even if you do not write your graduation thesis in English, working on this project in English in parallel to the work you do in your seminar class should strengthen it by opening up new avenues for exploration through presentation and discussion. Of course, this component is also intended to help you develop your all-round skills in English.

The first subsidiary component of the course will be making your own independent English study plan which you will pursue largely outside class. For those lacking a focus, this plan could be aimed at improving your TOEFL/TOEIC score, for example. The second subsidiary component will be preparing to study abroad during your time in GMS or soon after by making a concrete study abroad plan.

準備学習

The suggestions made on the class blog ('HES' on 'Blogger', see link below) and introduced to students four months prior to the course commencing were intended as preparation.

履修上の留意点

Pre-requisites for this course (as mentioned above):

- Successful completion of the Freshman English Cycle and
- Cumulative GPA in all English courses of 3.5 or
- TOEFL (or TOEFL ITP) score of 450 or
- Permission of the GMS English Group, upon petition

Only students who were interviewed in November 2009 and who were specifically invited to join Honors English Seminar 1 from April 2010 should register for this course. These students should register for Honors English Seminar 2 at the same time as registering for Honors English Seminar 1. Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Honors English Seminar 2 course. Honors English Seminar 1 is not an 'enshu' (演習) class so you can take Honors English Seminar 1 at the same time as taking a seminar class.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester means that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence".

成績評価の方法

Evaluation of students will be based mainly on the effort they make to participate in and run the class. Students will make regular presentations related to the content components and these will be evaluated by the teacher and by fellow students. Participation in discussions following these presentations and written work submitted in support of presentations and discussions will also be teacher and/or peer-evaluated. Students will take turns in being discussion leaders and their ability to facilitate group discussions will also be assessed. Students will gain credit for being active in class, for offering opinions, for showing initiative, for encouraging others to speak and for creating an environment conducive to study through English. Students will also be expected to make regular weekly contributions to the class blog.

教科書/テキスト

None

参 考 書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

そ の 他

None

関 連 リ ン ク

<https://www.blogger.com/start>

履修コード	442301
科目名	Honors English Seminar II
担当者名	アシュウェル、 T.

講義の到達目標(わらい)

'Honors English' is a 6-course, 3-year cycle of English instruction for advanced, motivated students of the language. Participation in Honors English begins at level 1 and registration for Honors English Seminar 2 is restricted to sophomores and above who have successfully completed Honors English Seminar 1.

GMS

講義の内容/
授業スケジュール

The aims of Honors English Seminar 2 are the same as those for Honors English Seminar 1. The content of Honors English Seminar 2 will be organized as for Honors English Seminar 1. The actual research theme for the first main content component will be decided through negotiation during the first two weeks of the semester. The second main content component will continue be the parallel pursuit of the individual study projects you are working on in your seminar (演習) classes.

準 備 学 習

Students will continue to work on their own independent English study plans outside class and will finalize a study abroad plan.

履修上の留意点

The suggestions made on the class blog ('HES' on 'Blogger' , see link below) and introduced to students before the summer vacation prior to the course commencing are intended as preparation.

Pre-requisites for this course:

- Successful completion of Honors English Seminar 1 and the recommendation of the instructor

Students who were interviewed in November 2009 and who were specifically invited to join Honors English Seminar 1 from April 2010 should also register for this course. Students should be aware that this course is a pre-requisite for taking the Honors English Seminar 3 course. Honors English Seminar 2 is not an 'enshu' (演習) class so you can take Honors English Seminar 2 at the same time as taking a seminar class.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a semester means that you will fail the course. If you are late, this counts as "half an absence" .

成績評価の方法

The evaluation procedures will be the same as for Honors English Seminar 1.

教科書/テキスト

None

参 考 書

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

そ の 他

None

関 連 リ ン ク

<https://www.blogger.com/start>

履修コード	442801
科目名	TOEFL(R) prep
担当者名	すずもり けんたろう 杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい) この授業は、TOEFL iBT (internet-based Test) の受験を希望している履修者を対象としており、以下の3点を主な目標としています。

- 1、TOEFL iBTテストの4セッション（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の出題形式を知ること。
- 2、リスニング及びスピーキングセッションに的を絞り、様々な問題に慣れていくこと（*注1）。
- 3、語彙を増やすこと（*注2）。

*注1：

TOEFL iBTでは、リスニングは「リスニングセッション」においてのみならず、「スピーキングセッション」や「ライティングセッション」の多くの問題においても必要となっている、重要なスキルです。また「スピーキングセッション」は、日本人受験者が特に苦手としているセッションであると言われています（2005-2006年集計では、日本人受験者の「スピーキングセッション」の平均スコアは、世界147カ国中最下位）。

*注2：

TOEFLでは、高い語彙力を必要とします。例えば、日本の大学生の平均語彙サイズが3700語程度であるのに対し、TOEFLでは12,000語程度の語彙力が必要という説もあります（内宮慶一著「TOEFL テスト一発で合格スコアをとる勉強法」（中経出版）より）。このことは、私（杉森）がかつて留学に備えてTOEFLを受験していた時の経験からも、納得できます。ある程度の語彙力がないと、歯が立たない試験であるというのが正直な感想です。

授業回数

内容

- | | |
|-------|--|
| 1 | 導入、TOEFL iBTの解説、勉強方法 |
| 2 | リーディングセッションの問題形式 |
| 3 | ライティングセッションの問題形式 |
| 4 | リスニングセッションの問題形式 |
| 5-8 | リスニングセッションのPart A（短い会話）問題練習 |
| 9-12 | リスニングセッションのPart B（長い会話）問題練習 |
| 13-16 | リスニングセッションのPart C（講義・アナウンスメント）問題練習 |
| 17 | スピーキングセッションの問題形式 |
| 18-20 | スピーキングセッションのタイプ I（自分の経験から答える問題）練習 |
| 21-23 | スピーキングセッションのタイプ II（パッセージを読んで、会話かレクチャーを聞いた後、質問に答える問題）練習 |
| 24-26 | スピーキングセッションのタイプ III（長い会話やレクチャーを聞いた後、質問に答える問題）練習 |
| 27-30 | レビュー及び学期末試験 |

*ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

履修上の留意点

(1) 人数調整と初回授業

仮に履修希望者が多すぎる場合には、初回の授業で受講の可否（人数調整等）を簡単な作文（テーマ：「なぜTOEFLの授業をとりたいか」）の作成・提出によって決めるので、1回目の授業には必ず出席してください。

(2) 座席の指定

なお、私が皆さんの名前を覚えるために座席は指定制とさせていただきます。ただし、どこに座るかは自分で決めてください。それをもとに、座席表を作成します。

(3) PC使用

TOEFL試験の性質上、パソコンを使用できる環境にある必要があります。また授業の際にも、練習のためラップトップを持参してもらうこともあるかもしれませんが（ただし、教室環境などにより後日あらためて検討します）。

成績評価の方法

(1) 成績評価

出席、授業への取り組み（小テストも含む）、期末テストなどを総合的に評価します。

(2) 欠席について

授業の最初に出欠をとります。5回以上の欠席で、単位は認められなくなります（特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は（要証明書）、例外とします。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します）。

(3) 遅刻について

もし授業に遅刻してきたら、教員の話のきりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出てください。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますの注意してください。2回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。

教科書/テキスト

神部孝著『改訂版 TOEFLテスト学習法と解法テクニック』 アルク 2,500円＋税
ISBN4-7574-1022-0

そ の 他

(1) ポキャブラリー本

テキストに加えて、TOEFLポキャブラリー本1冊（授業の際、候補を紹介します）を個人個人で購入し、毎回覚えていってもらいます。

(2) ハンドアウト

ハンドアウトをメール、Moodle等で準備しますので（授業の際にお知らせします）、それらをプリントアウトして授業に持ってきてください。

GMS

履修コード	442901
科目名	TOEIC(R) prep
担当者名	杉森 建太郎

講義の到達目標(ねらい) この授業は、TOEICのスコアを伸ばすことを希望している履修者を対象としており、以下の3点を主な目標としています。

- 1、TOEICテストの2セクション(リスニング及びリーディング)の出題形式を知ること。
- 2、TOEICの様々な問題に慣れていくこと。
- 3、語彙を増やすこと。

講義の内容/
授業スケジュール

授業回数 内容

- 1、 導入、TOEIC TESTの解説、勉強方法
- 2-5 Part 1(写真描写問題)の解き方
- 6-9 Part 2(応答問題)の解き方
- 10-13 Part 3(会話問題)の解き方
- 14-17 Part 4(説明文問題)の解き方
- 18-21 Part 5(短文穴埋め問題)の解き方
- 22-23 Part,6(長文穴埋め問題)の解き方
- 24-27 Part 7(読解問題)の解き方
- 28-30 レビューおよび学期末テスト

*ただし上記は予定であり、履修者の理解度、希望等により臨機応変に対応します。

履修上の留意点

(1) 人数調整・初回の授業

仮に履修希望者が多すぎる場合には、初回の授業で受講の可否(人数調整等)を簡単な作文(テーマ:「なぜTOEICの授業をとりたか」)の作成・提出によって決めるので、1回目の授業には必ず出席してください。

(2) 座席について

なお、私が皆さんの名前を覚えるために座席は指定制とさせていただきます。ただし、どこに座るかは自分で決めてください。それをもとに、座席表を作成します。

成績評価の方法

(1) 成績評価

出席、授業への取り組み(小テストも含む)、TOEICテスト、期末テストなどを総合的に評価します。

なお、すでにTOEICテスト(IPテストを含む)を受験している履修者は、もし学期中に自身でTOEIC試験を受験して大幅なスコアアップを達成したならば、その証明書を提出することにより(スコアシートコピー)、それを成績に反映させることができます。

(2) 欠席について

授業の最初に出欠をとります。5回以上の欠席で、単位は認められなくなります(特定感染症への感染、入院等、やむを得ない事情であったと私が判断する場合は(要証明書)、例外とします。しかしその場合は、欠席日数に応じ、埋め合わせのための課題を授業復帰後に課します)。

(3) 遅刻について

もし授業に遅刻してきたら、教員の話のきりのいいところで、すみやかに教員に遅刻を申し出て下さい。授業開始10分以内なら「遅刻」扱いとなります。教員が気付かないままだと、そのまま「欠席」扱いになってしまいますので注意してください。2回の遅刻で1回の欠席としてカウントします。

教科書/テキスト

教科書は指定しません。

その他の

*ただし、「その他」の欄参照のこと

(1) ポキャブラリー本

TOEICポキャブラリー本1冊(授業の際、候補を紹介します)を個人個人で購入し、毎回覚えていってまいります。

(2) ハンドアウト

ハンドアウトをメール、Moodle等で準備しますので(授業の際にお知らせします)、それらをプリントアウトして授業に持ってきてください。

履修コード	443001
科目名	Journalism I
担当者名	スローン、 D.

講義の到達目標(ねらい)
講義の内容/
授業スケジュール

To introduce students to the key issues and methodology of modern journalism.
Each lesson students will receive assignments based on current events and media coverage, progressing over the term towards their own reporting content and style.

準備学習

Lesson 01 – Explanation of course
Lesson 02 to course conclusion. (See Tentative Schedule Below)
Self-study of current events and daily review of Japanese and foreign media essential for class participation, which will be key to grading. School will vet students prior to enrollment to ensure level appropriate for class, which taught in English.

履修上の留意点

Students are expected to use English and be prepared to participate. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades.

成績評価の方法

Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula:
(((100 - (Late * 5) - (Absent * 10) - (Dismissed * 5) - (Excused Late * 2.5)) + (2 * Score Avg)) / 3) + SS Achieved WL = Current Grade

教科書/テキスト

There are no assigned textbooks for this class, but English-language periodicals and web-based English media should be reviewed daily.

参考書
その他

Key ready will be posted on Komazawa class Internet page weekly.
If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

GMS

TENTATIVE SCHEDULE:

Week1

Introduction to Journalism -- Class Overview, Key Terms, Assignments

Week2

Focus on Japanese Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services, Radio, Internet
Look at Japanese Media Audience and Industry Revenues

Week3

Focus on Japan-based International Media -- Newspapers, Magazines, TV, Wire Services

Week4

Golden Week Holiday

Week5

Journalism Techniques -- Interviewing and Reporting for Text, TV and Radio; Photo-Journalism, Blogging; Developing a Style

Week6

What Makes News? Journalism Beat Reporting -- General News, Business, Sports/Leisure, Column Writing

Week7

Classes to be rescheduled due to Professor's Absence

Week8

Technology and Journalism: the Future of Media

Week9

Local Reporting Assignment -- Komazawa University, Setagaya Ward, Tokyo News Coverage

Week10

Reporting on Japanese Politics -- Upper House Election

Week11

Candidate Profiles and Key Election Issues

Week12

Reporting on Business and the Economy; Corporate Profile

Week13

Reporting on Sports/Arts & Leisure -- Movie, Music, Art Reviews

Week14

Course Summary; Make Up Classes

履修コード	443101
科目名	Journalism II
担当者名	スローン、 D.

講義の到達目標(ねらい)	Expanding on skillsets acquired in Journalism I, practical considerations for careers in journalism.
講義の内容／ 授業スケジュール	Students will have completed Journalism I, with a steeper learning curve and expectations in Journalism II. Lesson 01 Explanation of course; selection of topic; practice of topic Lesson 02 - Course Conclusions (See Tentative Schedule Below)
準備学習	As with Journalism I, students will be expected to have read, watched and heard the top news of the day at class start, with participation and interaction key to grading.
履修上の留意点	Students are expected to use the skills acquired in Journalism I, elevating levels and working towards newsroom level competencies. Prompt and regular attendance is a key factor; absences and tardiness will adversely affect grades. Practice and study outside of class is important and field reporting will be part of the semester assignments.
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance, ability, and effort using the following formula: $((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{Excused Late} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3) + \text{SS Achievement from WL 21} = \text{Current Grade}$
教科書／テキスト	There are no assigned textbooks for this class, but handouts and reading assignments will be part of weekly workloads.
GMS 参考書 その他の	Weekly assignments and reading will also be posted on the Komazawa Internet class page. If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason. In the case of tardiness caused by delayed trains, students must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

TENTATIVE SCHEDULE:

Week1
Course Outline: Overview of Key Issues of Journalism; Making News

Week2
Multi-Media Production -- Text, Video, Audio, Pictures; Citizen Journalism

Week3
Writing Profiles/Interviewing Techniques

Week4
Reporting on Japanese Current Events, Local News

Week5
Reporting on Politics -- Impact of Upper House Election on Japanese Policies

Week6
International Reporting - Focus on U.S. President Visit and Bilateral Ties

Week7
Field Reporting - APEC 2010 in Yokohama

Week8
Focus on International Trade and Business; Corporate Profile

Week9
Reporting on Technology -- New Products and Gadgets

Week10
Reporting on Sports/Arts & Leisure

Week11
Visits to Foreign Correspondents' Club of Japan Press Conference

Week12
Semester Projects Due

Week13
Make Up Classes

履修コード	421201
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.

講義の内容／授業スケジュール This Semester 1 seminar will meet on Wednesdays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

履修上の留意点 Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

成績評価の方法 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.

教科書／テキスト There are no required textbooks.

参考書 Professor will provide materials from the following:

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

GMS

履修コード	421301
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい) 社会的な発想と方法を、2年次に身につけた上で、この学期では、共通のテーマをきめ、それについて共同で研究をする(場合によっては、単独の研究も可能)。

講義の内容／授業スケジュール この学期では、今まで養ってきた基礎力を用い、そして、共同での作業を試みる。共通のテーマは、ゼミ構成員の協議により決定する。基本的には、現代文化に関するもので、実際に調査可能なものとする。

(スケジュール)

1. 共通のテーマ設定
2. 共通のテーマについての講義
3. -14. 発表
15. まとめ

履修上の留意点 これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法 平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書／テキスト 授業内で指示する。

参考書 川崎賢一、「トランスフォーマティブカルチャー」、勁草書房、2006

履修コード	421401
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	さいとう のぶお 斎藤 信男

講義の到達目標(わらい)

WEBのアプリケーション的アプローチ (I)

現在の情報社会を支えている最大の情報システム WEB について、それを如何に利用していくかが、重要な課題となる。Iab で習得してきた WEB システムの機能や構造、それを柔軟に利用していくためのプログラムを使い、特定の目的を持ったアプリケーションの設計、プログラムの開発などを目指す。そのために必要な高度な WEB の機能の学習、それらの体験的实施などを通じて、情報システムのアプリケーションとしての特性、開発方法などを習得していく。

応用システムを記述する際に必須となる JavaScript 言語について、その概要を理解しているが、その復習、更に詳細な機能について理解する。

また、音声、動画などのマルチメディアを WEB 上で扱うための機能について理解し、具体的な処理の演習を実施していく。これらにより、かなり複雑なマルチメディアの応用システムが構築できるまでその基本技能を修得していく。

(1-5)

JavaScript の復習と、高度な機能の習得を目指す。

(6-10)

WEB 上で、音声、画像、動画などを効率よく処理する機能を学び、JavaScript でその処理プログラムを記述する方法を習得する。

(13-15)

WEB 上でのマルチメディアを利用した応用システムのデザインについて考える。

演習Ⅱ b の履修が望ましい。ノート PC を対象として使いながら、上記の課題についてよく理解していく。

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

特に指定しない。

進行状況に応じて、適宜紹介していく。

ゼミ形式、演習課題を多く出す。

GMS

履修コード	421501
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	しらみず しげひこ 白水 繁彦

講義の到達目標(わらい)

イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究

チェンジエージェント、チェンジメーカーの事例研究

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②研究グループ分け、2回目以降各グループによる発表

絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意を払うこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意を払うこと。

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

未定

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

能動的で積極的で欠席しない人の履修を望む。

履修コード	421601
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	<small>いしかわ のりひろ</small> 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、文献、インターネット等を利用して、調査、研究活動を進め、研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、基礎能力の向上を図る。

講義の内容／
授業スケジュール

【第1週～第4週】ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマに関して、文献、インターネット等を利用して、各自（又はグループ）で自らテーマを設定する。

【第5週～第8週】設定したテーマについて、調査、研究活動を行い、解決すべき研究課題の明確化を図る。

【第9週～第12週】メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。

【第13週～第15週】調査、研究した内容に基づいてレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行う。

履修上の留意点
成績評価の方法

通年での履修を前提とする

出席回数、レポート課題／実習課題の提出、レポート課題のプレゼンテーションなどを考慮して、総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

なし

演習の中で、適宜、参考書、インターネット上の Web ページ等を紹介する。

GMS

履修コード	421701
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	<small>ふけ ひでのり</small> 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅰに引き続き、ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の課題についての理解をさらに深めることに重点を置きます。同時に、演習Ⅰを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。

講義の内容／
授業スケジュール

発表については、演習Ⅰと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。

(1) ガイダンス、(2)～(14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ

準 備 学 習

各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点

原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、ネットワーク経済論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。

成績評価の方法
教科書／テキスト

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。
・新宅純二郎、柳川範之（編）『フリーコピーの経済学』、日本経済新聞出版社、2,800円、978-4-532-13356-6

参 考 書

・その他ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。
講義の中で適宜紹介します。

履修コード	421801
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	各務 洋子 <small>かみ ようこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習Ⅱ&演習Ⅲのツールとして利用している。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は嚴重注意。欠席は事前に連絡すること。

教科書/テキスト

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

参 考 書

年に数冊。

適宜指示する。

そ の 他

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	421901
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	金山 智子 <small>かなやま ともこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

IIabでは卒論の土台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニティメディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分が関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。

講義の内容/
授業スケジュール

IIabでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。I ab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。

出席、参加度、研究発表&報告

特になし。

履修コード	422001
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創造性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール なお、指導教官の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習2abでは、演習1abで培った問題意識と方法論を深めます。演習2の前期で学生は、各自が選んだ分野の先行文献調査をおこない、その分野でどのような議論がなされているのかを理解し、各自のテーマ設問を決定します。後期では、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行い、卒業論文執筆に備えます。演習3abは、主に論文指導です。

GMS

履修上の留意点 カルチュラルタイフーン2010：7月2日から7月4日@駒澤大学深沢キャンパスへの参加と実行協力はゼミ生必修です。

「表象メディア論」と「映像産業論」はゼミ生必修です。

成績評価の方法 映像・映画に興味のある学生は「ドキュメンタリーの視線と実践」(前期)および「ドキュメンタリー制作演習」(後期)も履修してください。

教科書／テキスト 授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。
グレアム ターナー著、金 智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展(1999)、作品社

履修コード	422101
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	にしおか ようこ 西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい) メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容／授業スケジュール 主にグループ研究を行う。前期は、研究計画を完成させ、11月までを目処に研究を実施する。12月には、卒業研究計画を作成する。また、後期は、それと平行して就活のアドバイスも行う。

合宿は、前期終了時を目安に2、3年生合同で行う。
原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia(前期)の聴講および課題を課す。

履修上の留意点 平常点(出席、態度、発表内容、演習への貢献など)、期末レポートなどを総合して評価する
成績評価の方法 適宜指定する。
教科書／テキスト 適宜指定する。
参考書

履修コード	422201
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	かがみ ようこ 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・債報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきた。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

- 1 共通プログラム
 - ①企業経営とファイナンスについての学習
 - ②ゼミ企業の設立、経営、運営
 - ③ゼミプログラムの運営
- 2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

GMS

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じて実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて実施する。

履修上の留意点

通年履修が前提。

望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわかまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白がる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書／テキスト

必要に応じ指定。

参 考 書

必要に応じ指定。

履修コード	422301
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱ aにおいては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。

- 1 週～4 週：文献調査 (brainstorming)
- 5 週～8 週：プログラミング実習 (skill acquisition)
- 9 週～：システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書／テキスト

Webにおいて電子教材を提供する。

参 考 書

講義中において教材を指定する。

履修コード	422401
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	絹川 真哉 <small>きよかわ しんや</small>

講義の到達目標(ねらい)	知的財産と経済との関係について、企業活動という視点から学ぶ。知的財産の生産または流通を担う企業、企業の生産・営業活動における知的財産の利用、などについて、国内外のビジネス大学院で作成された「ケース教材」を用いて学習する。企業のブランド戦略や商標法、財務諸表の見方など、ケース教材を読むために必要な知識は講義で学ぶ。
講義の内容／ 授業スケジュール	履修者は、教員が選択したケース教材の中から自分の関心のあるものを選択し、内容をまとめてプレゼンテーションで報告する。その際、情報のアップデートや関連事項の説明など、独自の調査研究も織り交ぜることを要求する。
履修上の留意点	前半：講義およびプレゼンテーションの準備 後半：発表 発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・発表内容 ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書／テキスト 参 考 書	なし 石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契、『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3360円、ISBN978-4532132729

GMS

履修コード	422501
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	高 媛 <small>たか えん</small>

講義の到達目標(ねらい)	本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッション選びから健康や幸福をめぐる私たちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのか、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。
講義の内容／ 授業スケジュール	本演習は、メディア分析に必要な文献の討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞記事の分析 ②自由発表 ③グループワークの三つのステップに分けて進行する。
履修上の留意点	積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらったコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）
教科書／テキスト 参 考 書 そ の 他	ゼミの中で随時に提示する。 ゼミの中で随時に提示する。 3年前期選択科目「メディア史」と合わせて受講されることをお勧めする。

履修コード	422601
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	芝崎 厚士 <small>しほさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい)

これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容

(1) 英語文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 文献購読1・グループ研究1
- 3回目 文献購読2・グループ研究2
- 4回目 文献購読3・グループ研究3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 文献購読4・グループ研究4
- 7回目 文献購読5・グループ研究5
- 8回目 文献購読6・グループ研究6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 文献購読7・グループ研究7
- 11回目 文献購読8・グループ研究8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 文献購読9・グループ研究9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

教科書/テキスト

参 考 書

そ の 他

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・ゲストを招いた「囲む会」、ゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。
- ・7月末から8月初旬に行われる夏季合宿は原則として全員参加。

履修コード	422701
科目名	演習Ⅱ a
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:

Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

GMS

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	422801
科目名	演習Ⅱa
担当者名	<small>いしはし なつみ</small> 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2aでは、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容/
授業スケジュール

第1週～第4週：導入と基礎となる学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation

第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語 Academic Reading(継続)
- 日本語 Academic Writing(継続)
- 日本語 Academic Presentation(継続)

第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 卒業研究計画
- 発表会
- ディスカッション

第14～15週：最終発表会

- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

成績評価の方法
教科書/テキスト
その他の
関連リンク

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。
授業において指示する。

吉田尚史先生の「演習Ⅱa」です。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	422901
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.

講義の内容／授業スケジュール This Semester 2 seminar will meet on Wednesdays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

履修上の留意点 Students should have previously taken either a Seminar I class or had media project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

成績評価の方法 Students will be graded on participation, portfolio and the results of their final project.

教科書／テキスト There are no required textbooks.

参 考 書 Professor will provide materials from the following:

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production:From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan (Editor) , John Rice (Editor, Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	423001
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文のテーマを発見し、卒論論文をどう書くのかに関する基礎力を要請することをねらいとする。

講義の内容／授業スケジュール 前期までの研究蓄積を活かし、各個人の卒業論文テーマを模索し、どのような内容にするのかの概要を決めるところまで持っていく。発表と討論が中心となる。

〈スケジュール〉

1. 卒論のテーマをどう決めるか
2. 卒論の書き方
3. -14. 発表
15. まとめ

履修上の留意点 これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

成績評価の方法 平常点と最後のレポートにより採点する。

教科書／テキスト 授業の中で指示する。

参 考 書 授業の中で指示する。

履修コード	423101
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>さいとう のぶみ</small> 斎藤 信男

講義の到達目標(ねらい)

WEB のアプリケーション的アプローチ (II)

現在の情報社会を支えている最大の情報システム WEB について、それを如何に利用していくかが、重要な課題となる。Iab で習得してきた WEB システムの機能や構造、それを柔軟に利用していくためのプログラムを使い、特定の目的を持ったアプリケーションの設計、プログラムの開発などを理解する。そのために必要な高度な WEB の機能の学習、それらの体験的实施などを通じて、情報システムのアプリケーションとしての特性、開発方法などを習得していく。

一方、具体的なアプリケーションの適用分野、其処におけるビジネスプロセス、開発プロセスの在り方などについて、グループに分かれ、具体的なテーマを見出し、其処における課題などを探求する。

(1-4) JavaScript の高度な機能について学ぶ。

イベント、フォームなど。

(5-8)

WEB とネットワークの関係について考察し、より優れた WEB アプリケーションのあり方を考える。

(9-15)

WEB 上で応用システムの課題、そのデザイン、総合的なアプローチなどについてその将来の動向などをグループに分かれて考察、探求し、その発表を通してまとめていく。

演習Ⅱa の履修が必須条件である。ノート PC を対象として使いながら、上記の課題についてよく理解し、体験していく。

適宜課す演習レポート、グループ学習とその発表、および出席状況から総合的に判定する。

特に指定しない。

進行状況に応じて、適宜紹介していく。

ゼミ形式、演習課題を多く出す。

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

GMS

履修コード	423201
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>しらみず しのぶ</small> 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究：各班が独自のテーマで研究

1 回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②発表グループ分け、2～3 G 班発表、4～5 H 班発表、6～7 I 班発表、8～9 J 班発表、10～11 K 班発表、12～13 L 班発表、14～15まとめ

履修上の留意点

自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

各自

白水繁彦編著『移動する人びと、変容する文化』御茶ノ水書房、2008年、2500円、

能動的で積極的で欠席しない人の履修を望みます。

成績評価の方法
教科書/テキスト

参 考 書
そ の 他

履修コード	423301
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(わらい)	ケータイ向け新サービス創出とその実現技術、インターネット上のコンテンツに関する知的財産権の扱い、コンテンツの知的財産権を守るための情報セキュリティ技術などの幅広いテーマから、自らテーマを設定し、インターネット等を利用して、調査、研究活動を進め、研究成果に基づくレポート作成とそのプレゼンテーション等を通じて、卒業研究に向けた、テーマの具体化を図る。
講義の内容／授業スケジュール	【第1週～第4週】演習Ⅱ a で設定したテーマについて、継続して調査、研究活動を行い、研究活動を行うために必要なスキルの向上を図る。 【第5週～第8週】メンバー間でのディスカッション、研究内容のプレゼンテーション等を通じて、研究課題の解決に向けた活動を行う。その中で必要に応じて、テーマ、研究課題、研究の進め方等の見直しを行い、卒業研究のテーマの具体化を図る。 【第9週～第12週】可能であれば、卒業論文テーマの具体化を図り、卒業論文の作成に向けた研究活動を開始する。 【第13週～第15週】演習Ⅱa、演習Ⅱ b を通して調査、研究した内容に基づいてレポートを作成し、その内容に関するプレゼンテーションを行い、卒業研究に向けた準備を進める。
準備学習	演習Ⅱ a で調査、研究した内容をよく復習しておくこと。
履修上の留意点	通年での履修を前提とする
成績評価の方法	出席回数、レポート課題／実習課題の提出、レポート課題のプレゼンテーションなどを考慮して、総合的に評価する。
教科書／テキスト	なし
参考書	演習の中で、適宜、参考書、インターネット上の Web ページ等を紹介する。

GMS

履修コード	423401
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	ふけ ひでのり 福家 秀紀

講義の到達目標(わらい)	演習Ⅰに引き続き、ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の課題についての理解をさらに深めることに重点を置きます。同時に、演習Ⅰを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めます。
講義の内容／授業スケジュール	発表については、演習Ⅰと同様に司会・討論は学生が主体となって進めます。なお、個人研究については、適宜、授業時間とは別に時間を設定して、個人指導を行います。具体的なスケジュールは次の通りとします。 (1) ガイダンス、(2) ～ (14) 文献輪読と卒論の下書き作成、(15) まとめ
準備学習	各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。
履修上の留意点	原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することと、グローバルネットワーク論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参して下さい。
成績評価の方法	出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価します。
教科書／テキスト	・福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、3,600円、NTT 出版、978-4-7571-0203-3
参考書	・ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示します。 講義の中で適宜紹介します。

履修コード	423501
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>かがみ ようこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習Ⅱ&演習Ⅲのツールとして利用している。

履修上の留意点
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書/テキスト

年に数冊。

参 考 書

適宜指示する。

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

そ の 他

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	423601
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>かなやま ともこ</small> 金山 智子

講義の到達目標(ねらい)

IIabでは卒論の上台となる調査を実施します。マス・メディア、コミュニティメディア、市民メディア、空間メディアといったメディアに関するもの、或いはローカルやグローバルな問題など自分が関心のある事柄とメディアとの関係などがテーマの対象となります。また、メディア・プロジェクトを通して、理論や調査で学んだことを社会の中で実践します。

講義の内容/
授業スケジュール

IIabでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成し、後期に調査を行い、発表します。研究成果は論文集にまとめます。I ab同様、メディアプロジェクトを実践していきます。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

欠席はしないこと。原則として合宿には必ず参加すること。

出席、参加度、研究発表&報告

特になし。

履修コード	423701
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、頭われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

講義の内容／授業スケジュール

なお、指導教官の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

演習2abでは、演習1abで培った問題意識と方法論を深めます。演習2の前期で学生は、各自が選んだ分野の先行文献調査をおこない、その分野でどのような議論がなされているのかを理解し、各自のテーマ設問を決定します。後期では、各自のテーマ設問に従いインタビュー、参与観察等の実証調査を行い、卒業論文執筆に備えます。演習3abは、主に論文指導です。

履修上の留意点

「表象メディア論」と「映像産業論」はゼミ生必修です。

成績評価の方法

映像・映画に興味のある学生は「ドキュメンタリーの視線と実践」(前期)および「ドキュメンタリー制作演習」(後期)も履修してください。

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

GMS

履修コード	423801
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

メディア産業が、インターネットを含めた情報技術の発達、経済社会の変化のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、グローバルな動きも視野に入れながら今後のメディア進化の方向性を考える。

メディアには放送、通信、インターネット、映像、携帯、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

また、文献調査、理論的文献の読解、レジメ・資料の作成、個人発表、グループ発表などを通して、学問およびビジネスの世界に共通に必要な問題発見、解決能力、論理的思考の習得を目指す。敬語などのマナーなどの修得も求める。

講義の内容／授業スケジュール

主にグループ研究を行う。前期は、研究計画を完成させ、11月までを目処に研究を実施する。12月は、卒業研究計画を作成する。また、後期は、それと平行して就活のアドバイスも行う。

合宿は、前期終了時を目安に2、3年生合同で行う。

履修上の留意点

原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia(前期)の聴講および課題を課す。

成績評価の方法

平常点(出席、態度、発表内容、演習への貢献など)、期末レポートなどを総合して評価する。

教科書／テキスト

適宜指定する。

参考書

適宜指定する。

履修コード	423901
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>かがみ ようこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・債権の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきた。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容／
授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

- 1 共通プログラム
 - ①企業経営とファイナンスについての学習
 - ②ゼミ企業の設立、経営、運営
 - ③ゼミプログラムの運営
- 2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

履修上の留意点

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じて実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて実施する。

通年履修が前提。

望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわかまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白いがる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた日標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

必要に応じ指定。
必要に応じ指定。

履修コード	424001
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>いしはし なおき</small> 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

演習Ⅱ bにおいては、特に、World Wide Webを対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

- 1週～3週：文献調査 (brainstorming)
- 4週～7週：プログラミング実習 (skill acquisition)
- 8週～：システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

Webにおいて電子教材を提供する。
講義中において教材を指定する。

履修コード	424101
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>きのかわ しんや</small> 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい) 知的財産と経済との関係について、産業・業界という視点から学ぶ。扱うべきテーマは、知的財産の生産または流通を担う産業、一般の産業・業界内の競争構造における知的財産の役割などである。産業・業界分析を行うための視点やツールなどは講義によって学ぶ。

履修者は自分の興味のある産業・業界についての調査研究を自ら行い、レポートにまとめて発表を行う。

前半：講義、レポート作成、プレゼンテーションの準備

後半：発表

履修上の留意点 発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。

成績評価の方法 ・発表およびレポートの内容

・出席

・ディスカッションへの参加度合い

教科書／テキスト なし

参 考 書

石井淳蔵、嶋口充輝、余田拓郎、栗木契、『ゼミナール マーケティング入門』、日本経済新聞社、3360円、ISBN978-4532132729

GMS

履修コード	424201
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	<small>こう えん</small> 高 媛

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッション選びから健康や幸福をめぐる私たちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのか、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。

講義の内容／授業スケジュール

本演習は、メディア分析に必要な文献の討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会的な発想を身につけることを目標とする。さらに、プレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。具体的には、①新聞記事の分析 ②卒論を視野に入れた個人発表 ③グループワークを中心に行う予定。

履修上の留意点

積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、グループワークの成果によって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書／テキスト

ゼミの中で随時に提示する。

参 考 書

ゼミの中で随時に提示する。

そ の 他

3年後期選択科目「メディア・イベント論」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	424301
科目名	演習Ⅱ b
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい)

これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表 (2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導 (3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。

※後期は特に、卒業論文作成へ向けた各自の研究テーマの発見と調査の方向性、議論の仕方などに重点を置いて指導を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

講義の内容

(1) 英語文献の輪読・発表 (2) 各自の研究テーマの発表と指導 (3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出 (2) 文献発表 (3) 研究発表 (4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グループ研究1・文献購読 1
- 3回目 グループ研究2・文献購読 2
- 4回目 グループ研究3・文献購読 3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 グループ研究4・文献購読 4
- 7回目 グループ研究5・文献購読 5
- 8回目 グループ研究6・文献購読 6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 グループ研究7・文献購読 7
- 11回目 グループ研究8・文献購読 8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 グループ研究9・文献購読 9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会 1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会 2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

履修上の留意点

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・ゲストを招いた「囲む会」やゲストの勤務先を訪問するフィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなど別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	424401
科目名	演習Ⅱb
担当者名	リンスキー、M

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:

Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点

The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

GMS

成績評価の方法

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	424501
科目名	演習 II b
担当者名	吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において实际的に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習2bでは、演習2aに引き続き、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容/
授業スケジュール

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation, Q&A
- 計画発表会
- ディスカッション
- Webサイト作成
- プログラミングによるシステム試作
- ディスカッション
- ディベート
- 卒業研究計画
- 発表会

成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
関 連 リ ン ク

これらの内容を、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。
出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。
授業において指示する。
授業において指示する。
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

履修コード	432301
科目名	グローバルメディアガバナンス論
担当者名	西岡 洋子

講義の到達目標(ねらい)

本講義では、インターネットを含む電気通信およびコンテンツ流通に関するグローバルなガバナンスの問題を扱う。中心的な役割を果たす国際組織の役割を把握したうえで、ガバナンス体制の変化の歴史をたどり、過去および現在の主要な論点および変化の要因を理解する。

講義の内容/
授業スケジュール

1. イントロダクションおよび概念の整理
2. 電気通信（インターネットを含む）をめぐる議論
ITU、ICANN、IETF、WTOなどの関連主要国際機関の歴史と機能
3. コンテンツ流通をめぐる議論
WIPO、UNESCOなどの関連主要国際機関の歴史と機能

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト

メディア政策論または、同様の科目を履修していることが望ましい。
テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。
西岡洋子『国際電気通信市場における制度形成と変化』慶應義塾大学出版会、2007年、4725円、ISBN：978-4-7664-1425-7

参 考 書

講義中に指示する。

履修コード	432401
科目名	比較メディア制度論
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい)	放送の世界的な競争の歴史を理解するとともに、日本、米国、EU 主要国、韓国などの放送制度とその変化の方向性について、特徴および制度形成の背景を理解する。また、適宜、日本との比較を行うことで、各国の制度が互いに影響し合っていることを理解する。
講義の内容/ 授業スケジュール	(1) 本講義のアプローチ (2) 世界の放送の歴史と国際競争 (3) 日本の放送制度 (4) 米国の放送制度 (5) EU 主要国の放送制度 (6) 韓国の放送制度 (7) 中国の放送制度 (8) まとめ
準備学習	「メディア政策論」または、同様の科目の履修によって日本の放送制度について整理しておくことが望ましい。
履修上の留意点	メディア政策論または同様の講義を受講していることが望ましい。
成績評価の方法	テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。
教科書/テキスト	講義中に指示する。
参考書	講義中に指示する。

GMS

履修コード	432501
科目名	都市とメディア
担当者名	高 ^{こう} 媛 ^{えん}

講義の到達目標(ねらい)	都市は、種々のメディアが実践する場であると同時に、メディアによって紡ぎ出されたイメージ群から構成される空間でもある。本講義は、都市とメディアに関する基本的な理論を提示した上で、映画、CM、ドラマ、流行歌などに登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、都市とメディアとの関係性を読み解いていく。
講義の内容/ 授業スケジュール	さまざまな事例を手がかりに、都市とメディアの関係を国家、権力、ジェンダーなどの視点から読み解いていく。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）
教科書/テキスト	特に指定しない
参考書	・吉見俊哉『都市のドラマツルギー——東京・盛り場の社会史』（弘文堂、1987年）、2,300円、ISBN：4335550294 ・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣、2000年）、2,300円、ISBN：4641121036
その他	講義形式

履修コード	432901
科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者名	高 ^{こう} 媛 ^{えん}

講義の到達目標(ねらい)	本講義では、「異文化現象」を多角的に取り上げ、異なる文化間の「境界線」がいかに社会的に作り出されてきたかを批判的に問い、「異文化」に向ける私たち自身のまなざしを再考する。
講義の内容/ 授業スケジュール	言語、非言語、国家、地域、宗教、身体といった諸テーマに沿って、多言語・多ジャンルの映像資料を交えながら、グローバル時代における異文化間コミュニケーションの技法を解説する。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）
教科書/テキスト	特に指定しない
参考書	・岩渕功一『トランスナショナル・ジャパン——アジアをつなぐポピュラー文化』（岩波書店、2001年）2,800円、ISBN: 4000241184 ・ロバート・G. リー著、貴堂嘉之訳『オリエンタルズ——大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』（岩波書店、1999=2007年）、4,400円、ISBN: 4000223909
その他	講義形式

履修コード	435311
科目名	広告文化論
担当者名	高 <small>こう</small> 媛 <small>えん</small>

講義の到達目標(わらい) 本講義(2009年までの科目名「メディア史」)は、広告の歴史と現状をふまえた上で、ジェンダー、人種、階級といった様々な角度から、広告文化の持つ意味を読み解く。

講義の内容／授業スケジュール 広告の誕生、広告業界と広告人、屋外広告、交通広告、ラジオCM、テレビCM、CMソング、ネット広告といった諸テーマに沿って進める。

履修上の留意点 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
なお、昨年までに「メディア史」を受講し単位を取得した学生は、内容が同じなので、この授業の履修を認めません。

成績評価の方法 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視(7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)

教科書／テキスト 特に指定しない

参 考 書
・ジャン・ボードリヤール著、今村仁司、塚原史訳『消費社会の神話と構造』(紀伊国屋書店、1995年)、2,039円、ISBN: 4314007001
・山田奨治『文化としてのテレビ・コマーシャル』(世界思想社、2007年)、3,150円、ISBN:4790712540

そ の 他 講義形式

GMS

履修コード	435401
科目名	メディアイベント論
担当者名	高 <small>こう</small> 媛 <small>えん</small>

講義の到達目標(わらい) 芸能人の結婚会見からスポーツの祭典まで、現代社会には、メディアによって報道あるいは創出されるイベントが数多く存在する。本講義では、メディア・イベントの歴史、類型とメカニズムを、国家の権力と消費社会の構造の中で解析していく。

講義の内容／授業スケジュール 基本的な理論について解説したうえで、政治・スポーツ・芸能などの分野におけるメディア・イベントの具体例を挙げながら進める。

履修上の留意点 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視(8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする)

教科書／テキスト 特に指定しない

参 考 書
・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント——歴史をつくるメディア・セレモニー』(青弓社、1996年)、4,200円、ISBN: 4787231154
・有山輝雄『甲子園野球と日本人——メディアのつくれたイベント』(吉川弘文館、1997年)、1,785円、ISBN: 4642054146

そ の 他 講義形式

履修コード	435511
科目名	国際移動とメディア
担当者名	しらみず 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい)

メディアのイメージ形成
 ～歴史を作ったメディア～
 近代、現代の歴史とメディアはどうかかわってきたか。われわれのイメージする歴史がいかかにメディアによって形作られているかを明らかにする。
 貴重な映像を多用して説明します。

講義の内容/
 授業スケジュール

- 第1回 イントロダクション この授業の全体像
 2 大衆新聞の誕生 メディア王 ピュリッツァーとハースト
 3, 4 イメージ形成の理論
 擬似環境
 メディアが作り出す「リアリティ」
 5 有名人、メディアセレブの誕生
 20世紀型の有名人の誕生
 マスメディア登場以前・以後の有名人の違い
 6 1927年から1933年 サイレント映画からトーキーへ
 コンテンツの多様化
 7 メディアが作り出したヒーロー 1933-1940
 ファシズムの時代
 8 プロパガンダの天才
 ゲッベルスの戦略
 9 テレビ受像機が大衆のものに
 テレビ的なヒーローの誕生
 10 1960年代 米ソの冷戦に代表される「政治の季節」
 アメリカ ベトナム戦争を始め、泥沼化
 11 メディアと政治 メディアがつくる政治家
 スピン・ドクター アメリカ編
 12 メディアと政治
 スピンドクター ヨーロッパ編
 13 まとめ1
 14 まとめ2

準備学習

GMSの授業支援システムに前もってパワーポイントの内容を掲示しますので、授業の前に読んでおき、現代史などの本でその時代を調べておくと理解が深まります。そうすれば、大学生としての「常識」も得られて一挙両得。

履修上の留意点

画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなります。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す(5回前後の予定)。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイが3回以上提出されないと成績がつかないことがあるのでそのつもりで。

教科書/テキスト

なし。パワーポイント

参考書
 その他

白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社
 能動的で積極的で、遅刻や欠席しない人の受講を望む。

GMS

履修コード	435611
科目名	エスニシティの文化心理学
担当者名	白水 ^{しらみず} 繁彦 ^{しげのこ}

講義の到達目標(ねらい)	異文化の人びととのスムーズなコミュニケーションのありかたを心理学的、メディア社会的な観点から考察します。
講義の内容／授業スケジュール	第1回から第2回：異文化間コミュニケーションとは？ 第3回から第4回：在日外国人の実態とコミュニケーション 第5回から第6回：アメリカにおける文化摩擦 第7回から第9回：主流メディアとエスニック・メディアの関係 第10回から第11回：在日エスニック・メディアの実態 第12回から第13回：まとめ
準備学習	GMSの授業支援システムの当該授業のページにパワーポイントのスライドをアップしておくので、前もって読んでおくように。
履修上の留意点	参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。
成績評価の方法	授業時間中にしばしばエッセイを課す（5回程度の予定）。エッセイの提出回数と、その内容の出来によって評価する。エッセイの提出が3回以下の場合には成績がつかないことがあるので、そのつもりで。
教科書／テキスト 参 考 書	とくになし。パワーポイントのスライドやビデオを用いる。 白水繁彦『エスニック・メディア研究』明石書店、2004年 白水繁彦編『エスニック・メディア』明石書店、1998年
そ の 他	授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生はついていけないので、そのつもりで。

GMS

履修コード	435801
科目名	ネットワーク経済論
担当者名	福家 ^{ふけ} 秀紀 ^{ひでのり}

講義の到達目標(ねらい)	情報通信を含むネットワーク産業は、公益事業として政府によって規制されてきたが、1980年以降規制緩和・自由化の中で、新しい発展を遂げてきている。この講義では、ネットワークを理解するための基礎的な概念を取り上げて解説し、こうした発展の要因を理解することを目的とします。
講義の内容／授業スケジュール	わが国の情報通信産業の発展動向に即して、具体的に解説し、身近な変化を解明するツールとしての理論の重要性を示します。具体的なスケジュールは次の通りとします。 (1) ネットワークとは、(2) ネットワークの特性、(3) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(4) 民営化と競争導入、(5) 料金規制、(6) 相互接続規制、(7) ユニバーサル・サービス、(8) IBM化の進展とネットワーク産業、(9) インターネットとコモングの悲劇、(10) コンテンツビジネスとプラットフォーム、(11) ～ (13) インターネットとコンテンツビジネスの未来、(14) ～ (15) まとめ
準備学習	レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。
履修上の留意点	ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱの履修済みを前提として授業を行います。
成績評価の方法	各授業時間終了時に作成する講義概要、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書／テキスト 参 考 書	福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、NTT 出版、3,600円、978-4-7571-0203-3 ・新宅純二郎・柳川範之（編）『フリーコピーの経済学』、日本経済新聞出版社、2,800円、978-4-532-13356-6 ・その他講義の中で適宜紹介します。
そ の 他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	435901
科目名	グローバルネットワーク論
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドや携帯電話、地上デジタルテレビなどが国のネットワーク産業は高度に発展してきました。このわが国のネットワーク産業をグローバルな視点から国際比較を含めて分析することにより、その特徴と限界を明らかにすることを目的とします。

講義の内容／
授業スケジュール

まず、世界の主要国のネットワークの発展状況と特徴を明らかにした後に、わが国のネットワーク産業の特徴と限界を学習する。具体的には、次のスケジュールに従って進めます。(1) 国際通信の仕組み、(2) グローバルネットワークとしてのインターネット、(3) ITU から WTO へ、(4) ～ (5) 米国の情報通信ネットワークの特徴、(6) EU の情報通信ネットワークの特徴、(7) 韓国の情報通信ネットワークの特徴、(8) 中国の情報通信ネットワークの特徴、(9) ～ (11) グローバリゼーションとネットワーク、(12) 国際標準化と競争力、(13) 国際的なデジタルディバイド、(14) ～ (15) まとめ

準備学習

レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講して下さい。なお、授業時にはレジュメのコピーを配布しません。各自でダウンロードして、授業時間に持参して下さい。

履修上の留意点

ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。なお、情報メディア産業論Ⅰ、Ⅱ、およびネットワーク経済論の履修済みを前提として授業を行います。

成績評価の方法

各授業時間終了時に作成する講義概要、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価し

GMS

教科書／テキスト

特に指定しません。

参考書

- ・国際通信経済研究所編、『海外通信白書2008』、NTT 出版、5,500円、978-4-7571-0210-1
- ・海部美知、『パラダイス鎖国』、アスキー、724円、978-4-7561-5133-9
- ・その他講義の中で適宜紹介します。

その他

レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	436001
科目名	著作権の経済分析
担当者名	絹川 真哉 <small>きぬがわ まこと</small>

講義の到達目標(ねらい)

日本政府の「知的財産立国」を目指した政策推進に見られるように、音楽・映画・アニメ等コンテンツは、今後の日本にとって極めて重要な産業である。それら産業のビジネスを支えているのが著作権制度である。本講義では著作権制度の理論的背景と現状、およびコンテンツ産業との関係について学習する。

講義の内容／
授業スケジュール

- (1) 著作権法の概説
- (2) 著作権の経済学
 - ①保護範囲と自由利用
 - ②保護期間
- (3) インターネットと著作権ビジネス

履修上の留意点

『知的財産権と経済』の履修を要件とする。

成績評価の方法

期末試験

教科書／テキスト

角田政芳・辰巳直彦、『知的財産法 第4版 (有斐閣アルマ)』、有斐閣、2730円、ISBN4-641-12294-6

参考書

適宜指示する。

履修コード	436101
科目名	特許権の経済分析
担当者名	綿川 真哉

講義の到達目標(ねらい) インターネットビジネスの発展により、コンテンツの制作および流通におけるコンピューターや情報通信技術 (ICT) の役割は大きくなっている。それら技術や知識を財産として取引可能にするのが特許権制度である。本講義では特許権制度の理論的背景、ソフトウェアやビジネス・メソッド特許などの特質、特許のライセンスング、そしてオープン・ソースなど特許権に依存しない技術開発の動向などについても学ぶ。

講義の内容／授業スケジュール (1) 特許法の概説
(2) 特許権の経済学
(3) 特許ビジネスの理論と実際
(4) インターネットと企業の特許戦略

履修上の留意点 『知的財産権と経済』の履修を要件とする。

成績評価の方法 期末試験

教科書／テキスト 角田政芳・辰巳直彦、『知的財産法 第4版 (有斐閣アルマ)』、有斐閣、2730円、ISBN4-641-12294-6

参 考 書 適宜指示する。

GMS

履修コード	436411
科目名	ドキュメンタリーの視線と実践
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい) 映像発展の歴史を振り返り、ドキュメンタリー映画における Cinema Verite(映画的真実) とは何か検証します。フランスとアメリカの異なる文脈で発展してきたドキュメンタリー映画の客観性と主観性に関する議論、見るものと見られるもの間に成立する力学関係、カメラを他者に向けることの倫理的問題、撮影するものの自己再帰性等について考察し、ディスカッションを行います。

講義の内容／授業スケジュール ドキュメンタリー映画における「真実」とは何か？
ドキュメンタリーとフィクションの違いとは？
ドキュメンタリーに客観性はどの程度必要か？

さまざまなドキュメンタリー映画を鑑賞して、ディスカッションを行います。

上映作品例：
Don't Look Back- ボブ・ディラン (1967) ペネバガー
カート&コートニー：カート・コバーン (1998) ブルームフィールド
ゆきゆきて神軍 (1985) 原一男
新しい神様 (1999) 土屋豊

履修上の留意点 この講座は、後期の『ドキュメンタリー制作演習』のための準備講座ですので、継続しての履修を推奨します。

成績評価の方法 単独での履修も可能です。
授業への貢献度とレポートにより総合的に評価します。

教科書／テキスト 『フィルムスタディーズ入門 映画を学ぶ楽しみ』 ウォーレン・バックランド／著 前田茂／訳 要真理子／訳 晃洋書房

履修コード	436511
科目名	ドキュメンタリー制作演習
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)

ドキュメンタリー映画制作の演習です。多くの学生にとって、ビデオ・カメラはすでに身近なものだと思いますが、初めての人も歓迎します。学生各自の生活圏において、身近なテーマと撮影対象を見つけ、映像作品を制作します。

講義の内容／
授業スケジュール

カメラを持つこと、撮影対象に関わることによって、「私」がいかに他者、そして社会との接点を見つけていくのか？「私」そして「他者」を記録し映像作品をつくるとはどういうことなのかを各自考察し、社会的実践としての私的映像制作を目指します。

初歩的な映像の文法を学んだあと、学生は各自のプロジェクトを考案し、3-10分程度のドキュメンタリー作品を制作します。

授業は経過報告と教員からアドバイスを受けるための時間で、主な制作作業は授業時間外に各自学生が行うことになります。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

前期の「ドキュメンタリーの視線と実践」を必ず履修してください。

履修人数に制限がありますので、希望者は担当教員テヅカヨシハルまで連絡をお願いします。

制作への取り組みと、作品によって総合的に評価します。

履修コード	437001
科目名	テクノロジーマネジメント
担当者名	石橋 ^{いしばし} 直樹 ^{なおき}

講義の到達目標(ねらい)

国際的な産業技術の発展史を示すことで、新しい社会の創出を目指すプロジェクト推進の過程を学ぶ。ビジネス、政治など分野にかかわらず、我々の生活／社会は多様な技術を前提として成り立っている。本講義では、社会と技術の接点、具体的には、多様なケーススタディを通じ、問題の設定、問題の解決を含む社会のニーズに基づいた技術開発プロジェクトの推進過程や、技術が社会に与える影響を明らかにする。

講義の内容／
授業スケジュール

本講義のスケジュールは以下のケーススタディを予定している。なお、講義の進捗に応じて、関連するゲストを外部から招聘する予定である。

1. 導入—テクノロジーと国家の隆盛
2. 重工業—高度経済成長と日本の自動車産業
3. コンピュータ産業—IT革命の萌芽期
4. ITビジネス—Webビジネスの今日
5. エンターテインメントビジネス—ソフトウェア産業の動向
6. インフラ事業における技術—エネルギー安全保障
7. エコ産業に見る技術開発—持続可能な社会に向けて
8. まとめ—技術と社会の行く末

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期のレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書／テキスト
参 考 書

Webにおいて電子教材を提供する。

講義中において教材を指定する。

GMS

履修コード	437101
科目名	メディアと知識論
担当者名	斎藤 <small>さいとう</small> のぶ <small>のぶ</small> 信男

講義の到達目標(ねらい)

メディアは人間の知識の表現と言えるが、その作成、操作、管理などをより効率的、効果的に行う事を支援する知的な処理の基本的な考え方をまず理解する。知識処理の具体例としてセマンティックWEBを取り上げ、メタデータを利用したインテリジェントなWEBの操作を体験する。更に、メタデータの作成、その操作、基本的な辞書構築(オントロジ)、自然言語処理機能の利用など知識表現やその処理に関連する課題について理解し考えていく。メタデータが、高度なコミュニケーション環境や社会システムの実現に寄与し、今後のWEB利用における種々のイノベーションに発展していく可能性を探る。

講義の内容/
授業スケジュール

以下の具体的な項目を学んでいく。

- (1) この講義の目的
 - (2-4) 知識表現、知識獲得、知識管理など従来の手法の概括とその課題を考える。
 - (5-7) 論理と推論 命題論理、述語論理の基礎、推論の意味
 - (8-10) セマンティックWEBについて、その基本的機能、構造を学ぶ。メタデータ記述言語 RDF(Resource Description Framework)について、その概要を学び、具体例を作成して見る。
 - (11-12) オントロジーとその記述言語 OWLについて、その概要を学び、具体例を考察する。
 - (13-14) RDF に対する検索言語 SPARQLについて、その概要を学び、具体的な演習を行う。また、セマンティックWEBの応用例をいくつか取り上げ、その効果、メタデータによる種々のWEBの統合化、RSSへの適用などを学ぶ。
 - (15) まとめ、将来に実現すると思われる知識社会への展望などを学び、講義全体のまとめとする。実際のシステムをなるべく体験できるような演習を行う。いくつかの課題レポート、総合課題、および出席の総合評価により判定する。特に指定しない。
- 講義の内容に応じて、その都度紹介する。
WEBシステムについて、その基礎的理解をしておくことが望ましい。

GMS

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参 考 書
そ の 他

履修コード	437201
科目名	ネットワーク進化論
担当者名	みなみ まさき 南 政樹

講義の到達目標(ねらい)

インターネットは、地球上のあらゆる場所を瞬時に繋ぐデジタル情報の流通基盤として発展してきた。メールをはじめ、web、インスタントメッセージ、twitterなど、様々なコミュニケーションがインターネットによって実現できている。その一方で、私たちがその存在を意識することはほとんどない。

本講義では、インターネットに対する「なぜ私たちが存在を意識することが少ないのか?」「たった一つの基盤なのにテレビや電話と違って複数のサービスを並行して利用できるのか?」といった素朴な疑問を各回のテーマとして、今日に至る歴史や経緯を振り返りつつ、インターネットを構成している技術・運用方法などを深く理解することを目的とする。

講義の内容 / 授業スケジュール

本講義では、学んだことを自身の言葉・考え・表現手法を駆使して、理解していない人に理解させることが自身の理解を深める手法であると位置づけている。

そこで課題として「中学・高校生向けインターネットの仕組みを理解する教材」の作成を実施する。

課題に先立って、各単元ではインターネットを構成する技術・運用方法などを取り上げる。抽象的な概念だけではなく、WindowsやMacOSで利用可能なツールを利用した実験・解析・考察なども積極的に取り組み、課題の素材となることを目指す。

講義スケジュールは以下の通りだが、履修者数や理解度に応じて変更することがある。その際は、GMS GMS 授業支援ページなどを通じて履修者に対して案内する。

1. デジタルとアナログの違い ～デジタルコミュニケーションとは?～
2. 通信モデル、階層モデル、プロトコル ～コンピュータネットワークとは何か?～
3. TCP/IP 概論 ～インターネットとはどのようなシステムなのか?～ ※
4. DNS (ドメイン名システム) ～URL からコミュニケーションが始まるまで～
5. TCP/IP アプリケーション層、サーバ・クライアントモデル ～なぜブラウザでホームページが表示できるのか?～
6. TCP/IP ネットワーク層 ～なぜコンピュータ同士で通信できるのか?～
7. TCP/IP トランスポート層 ～なぜコンピュータ上のアプリケーションへ正確にデータが届くのか?～ ※
8. 自律分散協調モデル、経路制御 ～インターネット全体が安定して動作できるのは?～
9. TCP/IP 通信を観察する ～パケット解析ツール Wireshark を使った通信の観察と解析～
10. TCP/IP 物理層・データリンク層 ～なぜ電線や光ファイバー、電波を組み合わせると通信できるのか?～
11. インターネットアプリケーション ～DNSを利用したアプリケーション:電子メールの仕組み～
12. インターネットアプリケーション ～P2P技術:Skype、ファイル共有ソフトの仕組み～
13. インターネットの未来 ※

注) ※が付いた回には課題を課す

履修上の留意点

授業中に数回ノートPCを利用した実習を行うため、ノートPCを持参するように指示することがある。

貸し出しノートPCでも対応可能だが、分量によっては自宅で継続する必要があるかも知れない。情報リテラシーや情報リテラシー実習で学んだことを前提とした課題を課すことがある。

そのことを講義内で改めて復習することはしないので、各自、自学自習でキャッチアップすること。

GMS 授業支援ページ内に開設される(予定)「ネットワーク進化論」のページを公式の情報源とする。

履修者にはこちらに掲示される内容を頻繁に確認することを求める。

成績評価の方法

本講義の目的は「正しい理解」に基づく「適切な説明」ができるようになることである。したがって、成績は出席ではなく、履修者の理解と表現を総合的に判断して評価する。

理解度を高めるために講義内容に関するミニテスト(クイズ)を原則として各回実施する。ミニテストはきちんと実施したか否かによる基礎点と、実施者全員の平均点を超えた場合の加点によって計算する(点数が悪くても減点しない)。

適切に説明する力を高めるために講義で学んだ「インターネットの仕組み」を、「中学・高校生向け」に解説するための教材作成を課題とする。この課題は、学期中および学期末に最大3回実施する。「何を」「どのように」解説する教材を作るかは、各回に担当者から示されるものとする。

教科書/テキスト
参 考 書

教科書は指定しない。代わりに講義資料を授業支援ページで提供する。

講義中および授業支援ページにおいて参考書を指定する。

履修コード	437301
科目名	メディアとセキュリティ
担当者名	石川 憲洋 <small>いしかわ のりひろ</small>

講義の到達目標(ねらい)

コンピュータネットワークは、電子政府、電子商取引、遠隔教育等を含む社会全般を支える重要な社会基盤となった。その適用分野と機能範囲が拡大する一方で、その安全性は確保されているとは言いがたい。犯罪行為、意図的攻撃等によるメディア情報の漏洩・改ざん、システム停止等の被害を最小化するため、情報セキュリティの技術、法律、規格、倫理、組織、教育等の多面的な対策が必要となる。この科目では、情報システムの安全性を確保するための基本的な対策に重点を置いて学習し、その現状と課題について検討する。

講義の内容/
授業スケジュール

- 第1回 リスクと対策
- 第2回 情報セキュリティのガイドラインと法制度
- 第3回 暗号の技術と制度
- 第4回 共通鍵暗号技術 (1/2)
- 第5回 共通鍵暗号技術 (2/2)
- 第6回 公開鍵暗号技術 (1/2)
- 第7回 公開鍵暗号技術 (2/2)
- 第8回 認証の技術 (1/2)
- 第9回 認証の技術 (2/2)
- 第10回 認証に関わる法制度
- 第11回 不正アクセス対策の技術と法制度
- 第12回 情報セキュリティの応用 (1/2)
- 第13回 情報セキュリティの応用 (2/2)
- 第14回 情報セキュリティを巡る新たな展開
- 第15回 まとめ

GMS

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

特になし

情報リテラシー及び実習を履修済みであること。情報保護と社会を履修済みであることが望ましい。次の2項目を総合して評価する。

1. 出席回数
2. 期末試験の成績

出席回数が不足すると単位を取得できないので注意すること。

教科書/テキスト
参 考 書

授業の中で教科書を紹介する予定。

授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	437401
科目名	国際標準化論
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい)

メディア情報の有効利用を促進するためには、情報の符号化、物理媒体への格納、ネットワーク上の通信と相互運用等に関する技術を相互に共通化する必要がある。また、情報の品質と安全性を確保するためには、関連組織における情報の取り扱いに関する管理手続き等の標準化を行うことが望ましい。グローバル・メディア環境では、これらの標準の開発と適用の推進を国際レベルで推進することが必要である。先進国の中で日本はこの面で立ち後れていたが、近年には顕著な進展を見せている。その意義と課題を明確化し、今後の方策について議論する。

講義の内容／
授業スケジュール

- 第1回 標準・規格の意義とその変化
- 第2回 情報通信分野における標準化の意義とその変化
- 第3回 国内および国際標準化組織の役割とその変遷
- 第4回 デファクト標準、フォーラム標準の増加の背景と動向
- 第5回 政府調達と国際標準化との関連
- 第6回 知的財産戦略における標準化の意義
- 第7回 標準に関わる知的財産権を巡る課題
- 第8回 マネジメントシステムに関する国際標準化
- 第9回 情報セキュリティに関する国際標準とガイドライン
- 第10回 情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際標準化
- 第11回 情報セキュリティ評価基準に関する国際標準化
- 第12回 暗号アルゴリズムとデジタル署名の標準化
- 第13回 電子的権利管理 (DRM) 技術の現状と展望
- 第14回 プライバシー分野の国際標準とガイドライン
- 第15回 まとめ

準備学習
成績評価の方法

- 特になし
次の2項目を総合して評価する。
1. 出席回数
 2. 期末試験またはレポート課題の提出
- ただし、出席回数が不足すると単位が取得できないので、注意すること。
授業の中で教科書を紹介する予定。
授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

教科書／テキスト
参 考 書

GMS

履修コード	412301
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>かかみ ようこ</small> 各務 洋子

講義の到達目標(ねらい) 大学は学問探究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1) 高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2) 多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3) 生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容/
授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

GMS 履修上の留意点
成績評価の方法

本講義では、演習Iab、IIabで学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させるための準備を整えます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えて下さい。

教科書/テキスト

出席重視。無断欠席は嚴重注意。欠席は事前に連絡すること。
ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

参 考 書

年に数冊。

適宜指示する。

そ の 他

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日を実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	412401
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>かわさき けんいち</small> 川崎 賢一

講義の内容/
授業スケジュール

演習では、卒業研究を作成するための基礎と大体の方向づけを行う。具体的には、最初に卒業研究のマニュアルを基に、どのように作成するかについて、テーマ・構成・書式・文献などについて細かく、そのモデルを説明する。その後、個人別に卒業計画を発表してもらい、その後それぞれに応じて、指導をしていく。最終的に、執筆までのめどをつけることを演習の目的とする。

成績評価の方法

平常点と最後のレポートにより採点する。

履修コード	412501
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	齋藤 信男

講義の到達目標(ねらい) WEBのビジネス的アプローチ (I)

現在の情報社会を支えているWEBシステムは、様々な可能生を持っている。この演習では、その本質と基本機能を理解した上で、それを利用して新しいビジネスや応用について、具体的な提案を行っていく。ビジネスのプランニング、提案の作成は、一つのプロセスモデルに基づいて行われる。すなわち、市場調査などのニーズの把握、企画による対象の設計、実動システムの具現化計画、それらに基づくビジネスプランニングと運用計画というプロセスである。

グループに分かれてビジネスプランニングの対象となるテーマの探索、論文としてまとめるための個々のテーマへの絞り込みを行う。それらについての相互評価も行う。

(1-4) WEB上のビジネスプロジェクトの構築方法論

(5-12) グループ分けによる具体的な例を構築する。

(13-15) グループ発表による相互評価とその適用

卒業論文を作成することを目指して、演習などを行っていく。

出席、グループワークの課題などを総合的に評価する。

特に指定せず

特に指定せず

グループ分けをスムーズに行うことが肝要である。そこにおける各自の役割り分担を明確にすること。

講義の内容/
授業スケジュール

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書/テキスト
参考書
その他

GMS

履修コード	412601
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい) 知的財産権と情報セキュリティなどをテーマとして、卒業論文の作成に向けた調査、研究活動を行う。

講義の内容/
授業スケジュール 演習 IIab (苗村担当) および選択科目「情報保護と社会」で学習した内容を踏まえて、自ら卒業論文のテーマを設定し、そのテーマについて、文献、インターネット等を利用した調査、研究活動を行うとともに、論文の書き方を学習し、その結果を卒業論文の概要としてまとめる。

準備学習
履修上の留意点
成績評価の方法

演習 IIab (苗村担当) で学習した内容をよく復習しておくこと。

演習 IIab (苗村担当) または選択科目「情報保護と社会」を履修していることが望ましい。

次の3項目を総合して評価する。

1. 卒業論文の中間レポートの内容(連名の場合は、グループ内での役割も含む)

2. 卒業論文の中間レポートのプレゼンテーション

3. 演習等の出席状況

教科書/テキスト
参考書

なし

授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	412701
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい) 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Webを前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容/
授業スケジュール

演習 IIIaにおいては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。

1 週～3 週: 文献調査 (brainstorming)

4 週～7 週: プログラミング実習 (skill acquisition)

8 週～: システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

成績評価の方法
教科書/テキスト

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

演習の進捗に応じて適宜指示する。

履修コード	412801
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	高 媛 <small>こう へん</small>

講義の到達目標(ねらい) 演習 IIab で学んだことを踏まえ、各自が自ら設定した卒論テーマに取り組む。本演習は卒論の完成に向けた論文指導を中心に行う。

講義の内容／
授業スケジュール ①新聞記事の分析・発表と②卒論の研究発表を中心に進める。

履修上の留意点 積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、発表・討論への参加度、卒論の完成度によって総合的に評価します。

教科書／テキスト なし

参 考 書 各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	412901
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	リンスキー、 M

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

履修上の留意点 Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:
Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.
Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.
Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

成績評価の方法 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

履修コード	413001
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	クボタ、 L.

講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール	Creating a Virtual World Students will work in teams as producers in creating a virtual world program on Shibuya. This effort will be a joint project with other select members of GMS and with Harvard University's Graduate School of Design. Seminar meets once a week but students will put in many hours in separate meetings from the class and in field work.
履修上の留意点	Knowledge of and skills in digital media and business; Seminar IIIa requires either Seminar II and/or a course in one of the following: digital production, creative business, multimedia business, or content business. An understanding of and ability to converse in English would be very helpful. Presentations and reports must be written in English.
成績評価の方法	Students will be graded based on participation, portfolio of their work and the results of their final project.
教科書/テキスト	Readings will be provided by the professor.

履修コード	413101
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}

GMS

講義の到達目標(ねらい) 講義の内容/ 授業スケジュール	卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決まで一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。 4～5月：テーマ絞込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9、10月：ドラフト執筆、11、12月：完成
履修上の留意点	事前に教員の許可が必要
成績評価の方法	平常点および論文
教科書/テキスト	なし
参考書	講義中に指示

履修コード	413201
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	テツカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい)	本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。
講義の内容/ 授業スケジュール	なお、指導教官の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化/産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。 3abは主に論文指導です。
成績評価の方法	カルチュラルタイフーン2010：7月2日から7月4日@駒澤大学深沢キャンパスへの参加と実行協力はゼミ生必修です。 卒業論文・制作の進行具合、ゼミ共同作業への貢献度で総合的に評価します。

履修コード	413301
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	各務 洋子 <small>かづみ ようこ</small>

講義の到達目標(ねらい)

「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとし、グループないし個人による卒業研究へ向けた活動を行う。

講義の内容／
授業スケジュール

グループプロジェクトは金融・リスク関連の教育コンテンツの制作を行う。複数の担当に分け分業形式で作業を行うが、グループ内での情報共有に留意すること。定期的に進捗状況を報告すること。

履修上の留意点
成績評価の方法
教科書／テキスト

個人で卒業研究を行う場合は、教員と相談のうえテーマを設定し、調査等の作業を行う。定期的に進捗状況を報告すること。

報告・連絡・相談を密にすること。

活動状況を総合的に評価する。

必要に応じ別途指示する。

履修コード	413401
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>いしはし なおき</small> 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい)

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3aでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究成果を集約させる。

講義の内容/
授業スケジュール

具体的には、次のような項目を卒業論文を完成させることを目的として、適宜順序を変更しながら実施する。

第1週～第4週：基礎学習

- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 教科書に沿った学習
- 研究プロジェクト紹介
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第5週～第8週：各研究テーマに関するディスカッション

- 計画発表会
- ディスカッション
- PowerPoint作成実習(継続)
- 日本語 Academic Reading(継続)
- 日本語 Academic Writing(継続)
- 日本語 Academic Presentation(継続)
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第9週～第13週：各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備

- プログラミングによるシステム試作
- 卒業研究計画
- 発表会
- ディスカッション
- 卒業研究計画
- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

第14～15週：まとめ

- 卒業研究標題指導
- 論文執筆指導

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

成績評価の方法
教科書/テキスト
その他の
関連リンク

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。

授業において指示する。

吉田尚史先生の「演習Ⅲ a」です。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>



履修コード	413501
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	しげふみ かつし 厚士

講義の到達目標(ねらい)

演習Ⅲaは、(1)卒業論文指導と、(2)グローバル社会の現状分析と課題発見・解決の2つの柱を中心とするゼミである。卒業論文指導は、毎月ごとに進捗状況を報告し討論するとともに、調査方法などについても浮動を行う。グローバル社会研究は、冷戦崩壊後から現在に至る20年ほどの世界の出来事を、市民の視点から振り返り、事実を調査し、問題点を発見し課題を見出すトレーニングを行う。具体的には、(1)英語を中心とした国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2)各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3)文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。

講義の内容/
授業スケジュール

(1)文献の輪読・発表(2)各自の研究テーマの発表と指導(3)さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1)課題の提出(2)文献発表(3)研究発表(4)ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1
- 3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2
- 4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4
- 7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5
- 8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7
- 11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・前期終了時点で、卒論の中間報告レポートを必ず提出すること。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

教科書/テキスト

参 考 書

そ の 他

前期は、卒論の中間報告レポートを必ず提出すること。

・授業中に随時指示。

・授業中に随時指示。

・レポート課題図書については、授業時に指示する。

・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	413601
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	ふけ ひでゆり 福家 秀紀

講義の到達目標(ねらい)

ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、卒業論文を書き上げることを目的とします。

講義の内容/
授業スケジュール

演習Ⅲaは、各自の研究の発表とディスカッションを中心とします。

準備学習

各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず用意すること。

履修上の留意点

原則として演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して履修することが望ましい。また、卒業論文の提出を単位認定の条件とします。

成績評価の方法

出席、発表、議論への参加状況を総合的に評価します。

教科書/テキスト

ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

参 考 書

ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	413701
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>きのかわ しんや</small> 絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい) 「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習 IIab」で扱った内容を始め、知的財産と経済に関連した幅広いテーマの中から、自ら研究テーマを選挙、独自の調査研究を行い卒業研究論文としてまとめる。

講義の内容／授業スケジュール

- ・年間を通し、個人ごとに指導を行う。
- ・演習の時間に、適宜、作業の経過報告会を行う。
- ・前期後半に中間報告会、後期後半に研究発表会を行う。

履修上の留意点 「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習 IIab」のいずれかを履修済みであること。

成績評価の方法 卒業研究論文の内容。

教科書／テキスト なし。

参考書 適宜指示する。

履修コード	413801
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>しろみず しげひこ</small> 白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい) 演習 II までに学んできたことを基礎に卒業論文の作成を本格的に開始する。

講義の内容／授業スケジュール

1回～3回 卒論テーマの確認と情報(調査)収集方法の確認

4回～6回 研究および調査の進捗状況の発表

7回～15回 調査の進捗状況の発表

履修上の留意点 毎回出席は当然として、演習中には必ず発言をすること。発表の順番のときは十分な準備をすること。

成績評価の方法 出席ならびに発言など、演習への貢献度と研究報告の出来で評価する。

教科書／テキスト とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。

参考書 とくになし。各自のテーマにかんする文献等。

GMS

履修コード	413901
科目名	演習Ⅲ a
担当者名	<small>かなやま ともこ</small> 金山 智子

講義の到達目標(ねらい) メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。

IIIab では卒論または卒業制作に取り組みます。

講義の内容／授業スケジュール 前期では卒論テーマの決定、文献調査(理論を含む)、仮説・課題の設定を行い、卒論計画書を作成します。

映像など卒業制作を選択する人は、必要な調査を行ったうえで、卒業作品企画書を作成します。

履修上の留意点 個人の自己管理をしっかり行うこと。

成績評価の方法 総合評価

履修コード	414001
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	各務 洋子

講義の到達目標(わらい) 大学は学問探究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産(能力)を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1) 高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2) 多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3) 生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関わり、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

講義の内容/
授業スケジュール

本講義では、演習 Iab, IIab, IIIa で学んだ理論研究、実証研究を踏まえて、卒業研究を完成させます。卒業研究は理論研究と実証研究の両方を含みます。個別に興味のある領域で、仮説を設定し、理論研究を基礎とした実証研究によって、仮説を検証するというプロセスを学びます。

履修上の留意点
成績評価の方法

経営環境、経営戦略、経営者の役割など、これまで学んだ経営学の応用編と考えて下さい。出席重視。無断欠席は厳重注意。欠席は事前に連絡すること。ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

GMS

教科書/テキスト

年に数冊。

参 考 書

適宜指示する。

そ の 他

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	414101
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	川崎 賢一

講義の内容/
授業スケジュール

演習では、先において作成した卒業研究計画に基づき、具体的に、執筆の仕方、途中でのチェック、最終的な仕上げなどを、それぞれに応じて、個人別に指導をしていく。特に、10月11月においては、きわめて重要な時期であるので、きめの細かい指導をしていく予定である。最終的に、一定のレベル以上の卒業研究作成を目指す。

成績評価の方法

平常点。

履修コード	414201
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	斎藤 信男

講義の到達目標(わらい)

WEBのビジネス的アプローチ (II)

前期に引き続き、WEB上のビジネスの設計、開発、運用などをグループワークに基づき、実施していく。期間内に、各自の卒業論文の作成を行っていく。また、研究の共通技法、すなわち、アンケート調査とその解析、ビジネスプラン、論文の構成、記述の仕方などの習得も行う。

講義の内容/
授業スケジュール

(1) 演習と卒業論文の相互関係

(2-5) 共通技法の習得

(6-10) グループ作業と個人の分担の確定(目次案の作成)

(11-15) 卒業論文の完成へ向けて

履修上の留意点
成績評価の方法

IIIaで行ったグループ分けを基本とする。

出席、グループ発表、卒業論文を総合的に判断する。

教科書/テキスト

特に指定せず

参 考 書

特に指定せず

そ の 他

就職活動で欠席する場合は、必ず連絡すること。

履修コード	414301
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	いしかわ のりひろ 石川 憲洋

講義の到達目標(ねらい) 知的財産権と情報セキュリティなどをテーマとして、調査、研究活動を行い、自ら設定したテーマの研究成果に基づいて卒業論文を完成させる。

講義の内容／授業スケジュール 演習 IIIa (石川担当) で自ら設定した卒業論文のテーマについて研究活動を継続し、その成果に基づいて卒業論文を作成し、卒業論文の報告会で発表する。

準備学習 演習 IIIa (石川担当) で行った研究テーマに関する調査、研究活動について、復習しておくこと。

履修上の留意点 演習 IIIa (石川担当) から継続して履修すること。

成績評価の方法 次の3項目を総合して評価する。

1. 卒業論文の内容 (連名の場合は、グループ内での役割も含む)
2. 卒業論文の報告会のプレゼンテーション
3. 演習等の出席状況

教科書／テキスト なし

参考書 授業の中で参考書、ホームページ等を紹介する。

履修コード	414401
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	いしばし なおき 石橋 直樹

講義の到達目標(ねらい) 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容／授業スケジュール 演習 IIIb においては、これまでの成果を基に、卒業論文の作成を行う。

- 1 週～3 週：文献調査 (brainstorming)
- 4 週～7 週：卒業制作
- 8 週～：論文作成

履修上の留意点 コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

成績評価の方法 課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書／テキスト 演習の進捗に応じて適宜指示する。

GMS

履修コード	414501
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	こう えん 高 媛

講義の到達目標(ねらい) 各自が研究テーマに取り組み、最終的に卒論を書き上げる。本演習は卒論の完成に向けた論文指導を中心に行う。

講義の内容／授業スケジュール 卒論の研究発表を中心に進める。各自の進捗状況に応じて、個人指導も行う。

履修上の留意点 積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、発表・討論への参加度、卒論の完成度によって総合的に評価します。卒論の提出が単位取得の必須条件となる。

教科書／テキスト なし。

参考書 各自のテーマに沿って、適宜参考文献を指示します。

履修コード	414601
科目名	演習Ⅲb
担当者名	リンスキー、M

講義の到達目標(ねらい) The broad aim of these seminars is to give the students some exposure to ideas about innovation, entrepreneurship and other aspects of management in the modern business environment.

講義の内容／
授業スケジュール The subject matter is likely to include discussions about some/all of the following:

1. Aspects of business history
2. Innovation
3. Entrepreneurship
4. Venture businesses
5. New technology-based firms
6. Industry-university-government linkages and national innovation systems
7. Other aspects of management, such as funding, corporate strategy and business culture.

Depending on the number of students and the composition of the class, a tentative schedule is:

Initial sessions: lecture-like introduction to the themes of the seminar, but at a slower pace and with more discussion than in regular lectures, interspersed with readings to be selected according to the ability of the students.

Intermediate sessions: focus on one of two themes for further study, ideally to undertake some group work of interest to the teacher.

Final sessions: allocated to the students' individual presentations and reports.

履修上の留意点 The students are expected to have a good understanding of English, so as to participate in discussions, read relevant literature and write reports in English.

Those students who do not have such sufficient English-language ability and/or who are unwilling to actively participate in discussions will be encouraged to withdraw or select from other teachers' seminars.

成績評価の方法 Assessment and grading will be based on regular attendance, participation in seminar discussions, and a presentation and report to be written by each student at the end of the term. Students will be evaluated continually throughout the course, based on assignments (such as reading relevant material and completing tasks assigned by the teacher). The presentation and report will be based on a topic of mutual interest to the student and the teacher.

GMS

履修コード	414701
科目名	演習Ⅲb
担当者名	クボタ、L

講義の到達目標(ねらい) Creating a Virtual World

講義の内容／
授業スケジュール Students will work in teams as producers in creating a virtual world program on Shibuya. This effort will be a joint project with other select members of GMS and with Harvard University's Graduate School of Design.

Seminar meets once a week but students will put in many hours in separate meetings from the class and in field work.

履修上の留意点 Knowledge of and skills in digital media and business; Seminar IIIb requires either Seminar II and/or a course in one of the following: digital production, creative business, multimedia business, or content business.

An understanding of and ability to converse in English would be very helpful. Presentations and reports must be written in English.

成績評価の方法 Students will be graded based on participation, portfolio of their work and the results of their final project.

教科書／テキスト Readings will be provided by the professor.

履修コード	414801
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	西岡 ^{にしおか} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文執筆を通して課題発見から課題解決までに一連のプロセスを自ら構築できる能力を養う。
 講義の内容／授業スケジュール 4～5月：テーマ絞込み、6月：詳細研究計画の作成、7月：データ収集および分析、9、10月：ドラフト執筆、11、12月：完成
 履修上の留意点 事前に教員の許可が必要
 成績評価の方法 平常点および論文
 教科書／テキスト なし
 参考書 講義中に指示

履修コード	414901
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	テヅカ ヨシハル

講義の到達目標(ねらい) 本ゼミにおいて学生は、映画、テレビ、音楽、ファッション等、各自興味のある分野を選びメディア文化の調査研究をします。哲学、社会、文化理論の文献を読み、カルチュラルスタディーズのアプローチを学びます。学生は、コスモポリタン化しつつある現代社会において必要不可欠な能力、自らの「文化」を相対化客観視する能力と習慣を身につけ、批判精神を養うことを目標とします。民族ナショナリズム、経済格差、ジェンダー等の視点から、現代日本のメディア文化を問題意識を持って検証します。メディアテキスト分析、聴視者のインタビューや消費の場における参与観察といった実証調査を行い、卒業論文の執筆に備えます。経済のグローバル化が破断した今、顕われつつある不安定で流動性の高い社会状況を生き延びる創発性と批判精神を養うことを目標とします。

GMS

なお、指導教育の研究専門分野はグローバリゼーションと映画文化／産業に関するものです。ドキュメンタリー映画制作や、デジタルメディアを使った社会的実践に、とくに強い関心をもっています。

講義の内容／授業スケジュール 3abは主に卒業論文指導です。
 成績評価の方法 卒業論文・制作の進行具合、ゼミ共同作業への貢献度などで総合的に評価します。

履修コード	415001
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	各務 ^{かづみ} 洋子 ^{ようこ}

講義の到達目標(ねらい) 「金融・契約・情報の技術の新たな融合」をテーマとし、グループないし個人による卒業研究を完成させる。
 講義の内容／授業スケジュール グループプロジェクト、個人プロジェクトとも、卒業研究を完成させる。グループプロジェクトについては、分担部分に関するレポート等のドキュメンテーションも含む。
 履修上の留意点 報告・連絡・相談を密にすること。
 成績評価の方法 活動状況を総合的に評価する。
 教科書／テキスト 必要に応じ別途指示する。

履修コード	415101
科目名	演習Ⅲb
担当者名	よしだ なおふみ 吉田 尚史

講義の到達目標(ねらい) 本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習3bでは、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って研究を完成させる。

講義の内容/
授業スケジュール

- 論文執筆指導
- IT系の学会の資料についての学習
- プログラミング実習
- 研究プロジェクト紹介
- 計画発表会
- PowerPoint作成実習
- 日本語 Academic Reading
- 日本語 Academic Writing
- 日本語 Academic Presentation
- 研究内容に関するディスカッション
- 最新技術に関するディスカッション
- ITの社会的影響に関するディスカッション
- プログラミングによるシステム試作
- 進捗報告会
- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

成績評価の方法
教科書/テキスト
関連リンク

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。
授業において指示する。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

GMS

履修コード	415201
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	芝崎 厚士 <small>しばさき あつし</small>

講義の到達目標(ねらい) 基本的に演習 IIIa と同様に、卒業論文指導とグローバル市民社会分析を中心とし、ゲスト講師のセッションをも行い、4年間の大学生活の集大成とする。(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかる。

講義の内容／授業スケジュール (1) 文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 卒業研究1・グローバル市民社会分析1
- 3回目 卒業研究2・グローバル市民社会分析2
- 4回目 卒業研究3・グローバル市民社会分析3
- 5回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 卒業研究4・グローバル市民社会分析4
- 7回目 卒業研究5・グローバル市民社会分析5
- 8回目 卒業研究6・グローバル市民社会分析6
- 9回目 ゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 卒業研究7・グローバル市民社会分析7
- 11回目 卒業研究8・グローバル市民社会分析8
- 12回目 ゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 卒業研究9・グローバル市民社会分析9
- 14回目 卒業論文発表・討論会1
- 15回目 卒業論文発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

履修上の留意点

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・卒業論文を期限内に必ず提出すること。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。
卒業論文を期限内に必ず提出すること。

教科書／テキスト
参 考 書
そ の 他

- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他学年のゼミ生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	415301
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義の到達目標(ねらい) ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業に関して、各自が設定したテーマに基づいて研究を進め、卒業論文を書き上げることを目的とします。

講義の内容／授業スケジュール 各自の研究の進捗に応じて、個人指導を中心に進めます。

準備学習 各自の積極的な参画によって学習効果が上がるので、事前に割り当てられた発表資料は、必ず留意すること。

履修上の留意点 原則として演習 I、II、III を通して履修することが望ましい。また、卒業論文の提出を単位認定の条件とします。

成績評価の方法 出席、発表、議論への参加状況、卒業論文を総合的に評価します。

教科書／テキスト ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

参 考 書 ゼミ生の研究の進捗状況に応じて適宜指示します。

履修コード	415401
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	絹川 真哉

講義の到達目標(ねらい) 「著作権の経済分析」、「特許権の経済分析」、「演習 IIab」で扱った内容を始め、知的財産と経済に関連した幅広いテーマの中から、自ら研究テーマを選択、独自の調査研究を行い卒業研究論文としてまとめる。

講義の内容／授業スケジュール

- ・年間を通し、個人ごとに指導を行う。
- ・演習の時間に、適宜、作業の経過報告会を行う。
- ・前期後半に中間報告会、後期後半に研究発表会を行う。

履修上の留意点 演習 IIIa からの続き。

成績評価の方法 卒業研究論文の内容。

教科書／テキスト なし。

参考書 適宜指示する。

履修コード	415501
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	白水 繁彦

講義の到達目標(ねらい) 卒業論文の作成

講義の内容／授業スケジュール

1回～5回 調査の進捗状況発表、データ処理

6回～10回 卒論内容草稿の発表

11回～15回 卒論原稿完成

履修上の留意点 調査や執筆の慎重な計画作成。その計画通りに進捗するよう努める。

成績評価の方法 演習への貢献度と卒業論文の出来の両方で評価する。その割合は50対50である。

教科書／テキスト とくになし。各自のテーマにかんする先行研究文献等。

参考書 各自のテーマにかんする文献等。

履修コード	415601
科目名	演習Ⅲ b
担当者名	金山 智子

講義の到達目標(ねらい) メディアによるコミュニケーションを学び、実践することを目指す「メディア・コミュニケーション論」のゼミです。メディアと社会との関わり、そして、メディアのメッセージについて研究していきます。

IIlab では卒論または卒業制作に取り組みます。

講義の内容／授業スケジュール 後期は卒論計画書に基づき、調査の実施・分析そして卒論の執筆、または映像などの卒業制作を行います。

履修上の留意点 個人の自己管理をしっかりと行うこと。

成績評価の方法 総合評価